

# 国分境遺跡

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第34集一

1990

群馬県教育委員会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団





01-320  
53  
(5)

群  
埋  
文

国分境遺跡正誤表

群馬県埋蔵文化財調査事業団

本文

頁		内 容
98	第92図	平面図土層注記「掘り方」削除
176	第182図	平面図土層 L=132.00
257	第273図	
259	第276図	
407	第428図	縮尺 1/1,000
410	第431図	縮尺 1/1,000
419	第441図	縮尺 1/1,000
427	第448図	縮尺 1/1,000
428	第449図	縮尺 1/1,000
429	第450図	縮尺 1/1,000
430	第451図	縮尺 1/1,000
434	第453図	縮尺 1/1,000
597	422-17 137	長さ57.6、幅9.0、厚さ1.6、樹種不明

写真図版

図版番号	誤	正
第15図版2	B区 10号住 B区 カマド	B区 10号住 カマド
第37図版1	B区 81号区 カマド掘り方	B区 81号住 掘り方全景
第41図版7	B区 地下式土坑 掘り方全景	B区 地下式土坑 埋没状態
第41図版8	B区 2号掘立 全景	B区 2号掘立柱建物跡 全景
第47図版7	C区 15号住 カマド掘り方	C区 15号住 カマド掘り方
第94図版	C区 36B住居跡 1	C区 36号B住居跡 3
第138図版2段目	無番号	35

群馬県埋蔵文化財調査事業団保管  
No. 2-124 平成2年7月13日 53  
(5)



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第104集

こく ぶ ざかい  
**国分境遺跡**

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第34集—

1 9 9 0

群馬県教育委員会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





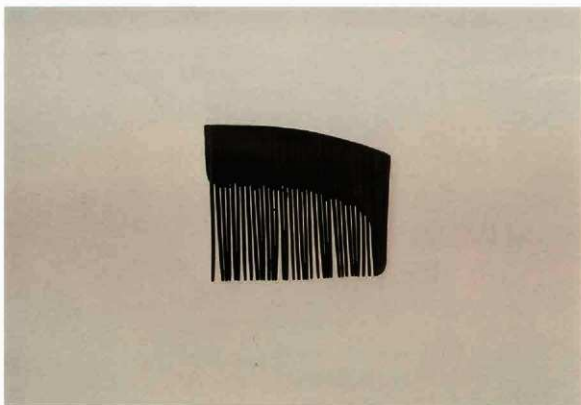
緑釉陶器水注（黒笹90号窯様式、B区7号住居跡）



A区地下式土坑（北東から）



左 丸駒 (C区46号住居跡)・右 逆方 (B区45号住居跡)



櫛 (イヌガヤ、A区旧河道)



## 序

関越自動車道新潟線は、太平洋側の首都東京と日本海側の新潟市を結ぶ高速自動車道として、昭和60年10月1日に全線開通いたしました。本道路の開通に際しては、数多くの埋蔵文化財が、事前の道路建設工事に先立って発掘調査されました。本県でも58箇所の埋蔵文化財包蔵地が発掘調査され、記録保存されています。

本報告による国分境遺跡は、群馬郡群馬町大字北原に所在する埋蔵文化財包蔵地であり、昭和56年12月から昭和59年3月にかけて、当事業団が調査しました。古墳時代後期終末から平安時代にかけて継続的に営まれた集落跡等が調査され、史跡上野国分寺跡、古代寺院跡として著名な山王廃寺跡に隣接する遺跡として、同時代の歴史を知る上での数々の貴重な資料が得られました。これら資料は、本年度に報告書作成のための整理作業が行われ、以下に報告するところの報告書を作成することができました。

発掘調査から報告書の作成に至るまで、日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会、群馬町教育委員会、地元関係者等から種々のご援助、ご指導、ご協力を賜りました。ここに深甚なる感謝の意を表し、併せて本報告書が広く県民各位、研究者、教育機関等に活用され、本県の歴史を解明するための資料として、役立てられることを願い、序とします。

平成2年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水 一郎



## 例 言

1. 本書は関越自動車道（新潟線）建設事業に伴い、事前に発掘調査がなされた国分境遺跡（こくぶざかい、KOKUBUZAKAI SITE）の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は群馬県群馬郡群馬町大字北原字国分境（GUNMAKEN、GUNMAGUNGUNMAMACHI、KITAHA RA、KOKUBUZAKAI）に所在する。
3. 委託者 日本道路公団東京第二建設局・群馬県教育委員会
4. 発掘調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 本遺跡の発掘調査期間は下記の通りである。

試掘調査 昭和56（1981）年11月9日～11月20日

第1次（昭和56年度） 昭和56（1981）年12月1日～昭和57（1982）年2月10日

第2次（昭和57年度） 昭和58（1983）年1月20日～3月30日

第3次（昭和58年度） 昭和58（1983）年12月1日～昭和59（1984）年3月24日
6. 発掘調査に伴う事業組織は次の通りである。

試掘 佐藤明人、友廣哲也

第1年次 佐藤明人、木津博明、麻生敏隆

第2年次 石守 晃、関根慎二、新倉明彦

第3年次 真下高幸、小野和之、谷藤保彦、山口逸弘

さらに発掘作業にあたっては、立正大学学生、地元群馬町をはじめ、前橋市・高崎市・箕郷町・榛東村・吉岡村・赤城村・北橋村から多くの人々が作業に従事していただいた。

遺構図の作成にあたっては、その一部を株式会社測研に委託した。
7. 整理作業は昭和63（1988）年4月1日から平成2（1990）年3月31日の期間で実施した。
8. 本報告書の作成事業に携わった職員・臨時職員は次の通りである。

事務担当 白石保三郎（昭和63年度）・邊見長雄（平成元年度）常務理事、松本浩一事務局長、神保佑史調査研究部長、田口紀雄管理部長、住谷 進庶務課長、笠原秀樹主任、小林昌嗣主任、須田朋子主任、吉田有光主事、柳岡良宏主事、今井もと子、角田みづほ、並木綾子、野島のぶ江、松井美智子（五十音順）

整理事業は、平野進一（昭和63年度）・真下高幸（平成元年度）調査研究部調査研究第1課長が管轄し、整理担当者である麻生敏隆主任調査研究員が総括した。
9. 整理作業に従事した臨時職員は次の通りである。

嘱託員 鈴木幹子

補助員 泉（真下）悦子、大友幸江、小菅優子、木出かおる、高梨房江、柳岡（永井）真由美、松岡陽子、茂木範子（五十音順）

さらに第3章の図版作成にあたっては、上野国分僧寺・尼寺中間地域Ⅱ整理作業班・機械実測班・普及資料課木器班の協力を得た。
10. 本遺跡出土の遺物である鉄器・木器類の保存処理には、当事業団の普及資料課保存処理室の関邦一技師、北爪健二嘱託員、小村浩一補助員が従事した。

11. 遺構写真の撮影は各年度の調査担当者が、遺物写真には当事業団の普及資料課写真室の佐藤元彦技師が従事した。

12. 本遺跡での発掘調査、及び整理作業にあたって実施した科学分析、及び調査所見は次の方々からいただいた。

胎土分析 群馬県工業試験場 花岡純一主幹、小沢達樹独立調査研究員

樹種同定 金沢大学教養部 鈴木三男助教授、農林水産省森林総合研究所 能城修一氏

獣骨同定 前 財団法人 群馬県家畜登録協会 常任理事 大江正直氏

井戸掘削 原沢ボーリング株式会社 有賀正明氏

13. 本遺跡出土の木簡に関しては、国立歴史民俗博物館の平川 南教授に鑑定をお願いした。

14. 本遺跡出土の灰輪陶器の産地同定にあたっては、名古屋大学文学部考古学研究室の斎藤孝正助手に鑑定をお願いした。

15. 石片鑑定にあたっては、飯島静男氏（群馬地質研究会）に鑑定をお願いした。

16. 本報告書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の各縮尺の地図を利用し、また遺跡周辺の地形図作成にあたっては前橋市都市計画図、及び群馬町都市計画図を利用した。

17. 本報告書の本文・観察表の執筆は、主として調査担当者である麻生敏隆がであったが、一部は下記の当事業団職員、及び専門家に依頼し、文責は別記した。

第4章第2節第2項 瓦 大江正行専門員・木津博明主任調査研究員

第5章第2節 獣骨同定 大江正直氏

第5章第3節 樹種同定 鈴木三男氏・能城修一氏

縄文土器観察表 関根慎二主任調査研究員

中近世陶磁器観察表 大西雅広調査研究員

18. 本遺跡の発掘調査、及び整理事業にあたっては、下記の方々のご協力をいただいた。

日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会、群馬町教育委員会、群馬県家畜試験場、群馬県工業試験場

上原真人（奈良国立文化財研究所）、木村有作（愛知県名古屋見晴台資料館）、後藤建一（静岡県湖西市教育委員会）、斎藤孝正（名古屋大学文学部考古学研究室）、柴垣勇夫（愛知県陶磁資料館）、堤 隆（長野県御代田町教育委員会）、矢部良明（国立東京博物館）、前原 豊（前橋市教育委員会）、山田昌久（筑波大学）、若狭 徹（群馬町教育委員会）、渡辺博人（岐阜県各務原市教育委員会）

18. 出土遺物・資料類は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

19. 本遺跡に関して本報告以前にその概要が収録されたのは下記の書籍である。

「国分境遺跡」 『年報1』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982

「国分境遺跡」 『年報2』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983

「国分境遺跡」 『年報3』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984

## 凡 例

1. 本報告書中に掲載・使用した地形図は、建設省国土地理院発行の1:200,000「長野」・「宇都宮」、1:50,000「榛名山」・「前橋」、1:25,000「前橋」・「渋川」を、前橋市都市計画図(1:2,000)、群馬県都市計画図(1:2,500)を、複写・縮小して利用した。

2. 本報告書中の方位記号の方向は真北を指す。

3. 遺構実測図の縮尺は下記の通りである。

主要遺構 竪穴住居跡 1/60 カマド 1/30 溝 1/80 土坑 1/60 井戸 1/60  
 掘立柱建物跡 1/60

主要な遺構の縮尺率は、上記の通りであるが、その他の遺構、及び詳細図・全体図についてはそれぞれの実測図に縮尺(スケール)を記載した。

4. 等高線・断面基準線は海拔で表示し、断面基準線標高値はL = mで示した。

5. 遺構挿入図中では、遺物は原則として実物の形で実測したが、一部の遺構については、発掘調査時の調査方針の違いにより、点標記されているものもあるために、整理時に記号●を使用している。

6. 遺構挿入図中の遺物番号は出土遺物実測図の番号と一致し、さらに観察表の番号とも一致している。

7. 遺構面積は、デジタルプランメーターによる3回の計測の平均値である。

8. 遺構の埋没土層の観察・記載は基本土層を基準とし、土層番号は1~n(nは正数)とした。

9. 本報告書中に記載されている火山灰については下記の通りに略した。

本文 浅間A軽石 As-A 浅間B軽石 As-B 浅間C軽石 As-C

榛名・二ツ岳軽石 Hr-FP 榛名・二ツ岳火山灰 Hr-FA

土層注記 浅間B軽石 BP 浅間C軽石 CP 榛名・二ツ岳火山灰 FA

10. 遺物実測にあたっては、当事業団歴史部会で作成・編集した「仕様書-遺物編」に準拠したが、すべてがこの限りではなく、細部では異なる点もある。


11. 遺物実測図の縮尺は下記の通りである。


(土器) 土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・縄文土器・弥生土器・中世陶磁器・土製品 1/3  
 鉄器 1/2 (石製品) 砥石・こも編み石類・打製石斧類 1/3 紡錘車・玉類 1/2  
 石鏃 1/1 瓦 1/5 木器 1/4

12. 遺物実測図の番号の次に記載した( )には属性を略して明記したが、その意味は下記の通りである。

(土) 土師器 (須) 須恵器 (灰) 灰釉陶器 (緑) 緑釉陶器 (土製品) 土製品 (石) 砥石・紡錘車・玉類 (鉄) 鉄器 (鍍) 鍍瓦 (字) 字瓦 (玉) 男玉緑瓦 (男) 男瓦 (女) 女瓦


13. 遺構・遺物実測図中に使用したスクリーントーンは下記の通りである。


 浅間Bテフラ  
(As-B)


 榛名・二ツ岳火山灰  
(Hr-FA)

 浅間C軽石  
(As-C)

 羽口のスラグ部分

 羽口の還元部分

 羽口の酸化部分

 鉄器の木質部分

 黒色処理

14. 遺物観察表の「度目」は、土器では器高・口径・底径などを、それ以外の遺物に関しても、長さ・幅・厚さ・重さなどのそれぞれの項目を記載しているが、その単位についても記載通りである。また、完形以外の遺物に関しては、( )を用いて推定値・復元値を、計測不可能な資料については「-」を用いて表示した。さらに、重さなどに関しては( )を用いて、その残存値を表示した。
15. 遺物観察表の「色調」は、新版「標準土色帖」 農林省農林水産技術会議事務局監修、財団法人 日本色彩研究所色票監修、5版 1976年9月発行を使用し記載したが、細部では観察者の個人差がみられる部分もある。
16. 遺物計測位置は、上野国分僧寺・尼寺中間地域の発掘調査報告書に準拠した。
17. 土器の種別については、原則として轆轤使用・還元焰焼成の資料を須恵器、非轆轤使用・酸化焰焼成の資料を土師器として扱ったが、「土師質須恵器」などの問題もあり、中間的な調整・焼成については判断を避けた資料もある。
18. 土器の器種については、原則として高台を付ける資料を挽、付けない資料を坏、口径に比較して器高が著しく低い資料を皿とし、その他に甕、壺などを使用した。特に概念規定を明らかにした上で使用した訳ではなく、あくまでも整理上便宜的に使用した。
19. 遺物観察表中の登録番号は、整理作業時の遺物基本台帳の登録時に使用された番号であり、遺物それぞれに記載されており、本報告書中の遺物実測図との照合が容易に可能になるようにした。
20. 遺物写真の縮尺率は遺物実測図と異なり、およそ下記の通りである。  
 (土器) 土師器・須恵器・灰輪陶器・緑輪陶器・縄文土器・弥生土器・中近世陶磁器・土製品 1/4  
 墨画土器・暗文土器・刻書土器・文字瓦 1/2 鉄器 1/4 (石製品) こも編み石類・打製石斧類 1/4 砥石・紡錘車・丸轆・巡方・玉・石鏡 1/2 瓦 1/6 木器 1/6・1/12 種子 1/2
21. 本遺跡出土遺物の注記にあたっては、「関越高速自動車道 (Kanetu Kousokujidoushadou)」の頭文字であるKとKをとり、次に群馬県内の関越自動車道 (新潟線) 建設に伴う発掘調査で、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団が南から17番目の遺跡と18番目の下東西遺跡との間で新たに周知された遺跡であることから、「KK 17.5」を冠したのである。
22. 遺構実測図の一点破線は、焼土及び灰の分布範囲を示す。

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
第1章 調 査 経 過	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 試掘調査の経過	3
第3節 調査の経過	8
第4節 グリッド設定と調査の方法	9
第5節 基本土層	10
第2章 遺跡の位置	12
第1節 遺跡の地形的・歴史的環境	12
第2節 遺跡の歴史的環境	14
第3章 検出された遺構・遺物	26
第1節 古墳時代後期～平安時代	26
第4章 ま と め	424
第1節 土器・その他	424
第2節 瓦	437
第5章 出土遺物の科学的分析	462
第1節 胎土分析	462
第2節 国分境遺跡出土の馬歯・牛歯について	466
第3節 国分境遺跡出土木製品類の樹種同定	467
遺物観察表	485
写真図版	

# 図 版 目 次

第 1 図	国分境遺跡位置図 (20万分の 1)	2	第 62 図	B 区 11号住居跡図 (1)	74
第 2 図	北京地区工事用道路工事図	4	第 63 図	B 区 11号住居跡図 (2)	75
第 3 図	試掘調査トレンチ配置図	5	第 64 図	B 区 12号住居跡図 (1)	76
第 4 図	試掘調査トレンチ土層図	7	第 65 図	B 区 12号住居跡図 (2)	77
第 5 図	調査経路概観図	8	第 66 図	B 区 13号住居跡図 (1)	77
第 6 図	グリッド設定図	9	第 67 図	B 区 13号住居跡図 (2)	78
第 7 図	基本層序	10	第 68 図	B 区 14号住居跡図 (1)	78
第 8 図	大山丘範囲図	11	第 69 図	B 区 14号住居跡図 (2)	79
第 9 図	国分境遺跡周辺地質図	13	第 70 図	B 区 15号住居跡図 (1)	80
第 10 図	模式的地質断面図	13	第 71 図	B 区 15号住居跡図 (2)	81
第 11 図	律名山地質図	15	第 72 図	B 区 15号住居跡出土遺物図 (3)	82
第 12 図	国分境遺跡周辺地形図	17	第 73 図	B 区 16・26・27・28号住居跡図・出土遺物図	83
第 13 図	縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代遺跡分布図	19	第 74 図	B 区 18号住居跡図・出土遺物図	84
第 14 図	周辺遺跡分布図	21	第 75 図	B 区 19号住居跡図 (1)	85
第 15 図	山王塚寺周辺図	25	第 76 図	B 区 19号住居跡出土遺物図 (2)	86
第 16 図	調査区全体図	28	第 77 図	B 区 20号住居跡図 (1)	86
第 17 図	A 区 1号住居跡図・出土遺物図	29	第 78 図	B 区 20号住居跡図・出土遺物図 (2)	87
第 18 図	A 区 2号住居跡図 (1)	30	第 79 図	B 区 21号住居跡図 (1)	88
第 19 図	A 区 2号住居跡図 (2)	31	第 80 図	B 区 21号住居跡出土遺物図 (2)	89
第 20 図	A 区 2号住居跡図・出土遺物図 (3)	32	第 81 図	B 区 22号住居跡図・出土遺物図	89
第 21 図	A 区 3号住居跡図・出土遺物図	33	第 82 図	B 区 23号住居跡図・出土遺物図 (1)	90
第 22 図	A 区 4号住居跡図・出土遺物図	33	第 83 図	B 区 23号住居跡出土遺物図 (2)	91
第 23 図	A 区旧河道 1号洗い場図 (1)・(2)	35	第 84 図	B 区 25号住居跡図 (1)	91
第 24 図	A 区旧河道 2・3号洗い場図	36	第 85 図	B 区 25号住居跡図・出土遺物図 (2)	92
第 25 図	A 区旧河道 1号集石図 (1)	37	第 86 図	B 区 30号住居跡図・出土遺物図 (1)	93
第 26 図	A 区旧河道 1号集石図 (2)・(3)	38	第 87 図	B 区 30号住居跡図 (2)	94
第 27 図	A 区旧河道 1号集石図 (4)・(5)	39	第 88 図	B 区 31号住居跡図・出土遺物図	94
第 28 図	A 区旧河道 1号集石図 (6)	40	第 89 図	B 区 32号住居跡図 (1)	95
第 29 図	A 区旧河道 2・3号集石図	41	第 90 図	B 区 32号住居跡図・出土遺物図 (2)	96
第 30 図	A 区旧河道出土遺物図 (1)	42	第 91 図	B 区 33号住居跡図・出土遺物図 (1)	97
第 31 図	A 区旧河道出土遺物図 (2)	43	第 92 図	B 区 34号住居跡図・出土遺物図	98
第 32 図	A 区旧河道出土遺物図 (3)	44	第 93 図	B 区 35号住居跡図 (1)	99
第 33 図	A 区旧河道出土遺物図 (4)	45	第 94 図	B 区 36号住居跡図 (1)	99
第 34 図	A 区旧河道出土遺物図 (5)	46	第 95 図	B 区 36号住居跡図・出土遺物図 (2)	100
第 35 図	A 区旧河道出土遺物図 (6)	47	第 96 図	B 区 36号住居跡図・出土遺物図 (3)	101
第 36 図	A 区旧河道出土遺物図 (7)	48	第 97 図	B 区 38号住居跡図・出土遺物図 (1)	102
第 37 図	A 区旧河道出土遺物図 (8)	49	第 98 図	B 区 38号住居跡図・出土遺物図 (2)	103
第 38 図	A 区旧河道出土遺物図 (9)	50	第 99 図	B 区 39号住居跡図・出土遺物図	104
第 39 図	A 区旧河道出土遺物図 (0)	51	第 100 図	B 区 40号住居跡図 (1)	105
第 40 図	A 区旧河道出土遺物図 (1)	52	第 101 図	B 区 40号住居跡図・出土遺物図 (2)	106
第 41 図	A 区旧河道出土遺物図 (2)	53	第 102 図	B 区 40号住居跡出土遺物図 (3)	107
第 42 図	A 区旧河道出土遺物図 (3)	54	第 103 図	B 区 41号住居跡図 (1)	107
第 43 図	A 区旧河道出土遺物図 (4)	55	第 104 図	B 区 41号住居跡図・出土遺物図 (2)	108
第 44 図	A 区旧河道出土遺物図 (5)	56	第 105 図	B 区 42号住居跡図・出土遺物図	109
第 45 図	A 区旧河道出土遺物図 (6)	57	第 106 図	B 区 43・44号住居跡図 (1)	110
第 46 図	A 区旧河道出土遺物図 (7)	58	第 107 図	B 区 43・44号住居跡出土遺物図 (2)	111
第 47 図	A 区旧河道出土遺物図 (8)	59	第 108 図	B 区 45号住居跡図 (1)	112
第 48 図	B 区 1号住居跡図・出土遺物図	60	第 109 図	B 区 45号住居跡出土遺物図 (2)	113
第 49 図	B 区 2号住居跡図	61	第 110 図	B 区 46号住居跡図 (1)	114
第 50 図	B 区 5号住居跡図 (1)	62	第 111 図	B 区 46号住居跡図・出土遺物図 (2)	115
第 51 図	B 区 5号住居跡図・出土遺物図 (2)	63	第 112 図	B 区 47号住居跡図・出土遺物図 (1)	116
第 52 図	B 区 5号住居跡出土遺物図 (3)	64	第 113 図	B 区 47号住居跡図 (2)	117
第 53 図	B 区 6号住居跡図・出土遺物図 (1)	65	第 114 図	B 区 48号住居跡図・出土遺物図	117
第 54 図	B 区 6号住居跡図・出土遺物図 (2)	66	第 115 図	B 区 48号住居跡図・出土遺物図 (2)	118
第 55 図	B 区 7号住居跡図・出土遺物図 (1)	67	第 116 図	B 区 49号住居跡図・出土遺物図	119
第 56 図	B 区 7号住居跡図・出土遺物図 (2)	68	第 117 図	B 区 50号住居跡図・出土遺物図	120
第 57 図	B 区 8号住居跡図 (1)	69	第 118 図	B 区 51号住居跡図・出土遺物図	121
第 58 図	B 区 8号住居跡図・出土遺物図 (2)	70	第 119 図	B 区 52号住居跡図・出土遺物図	122
第 59 図	B 区 9号住居跡図 (1)	71	第 120 図	B 区 53A・B号住居跡図 (1)	123
第 60 図	B 区 9号住居跡図・出土遺物図 (2)	72	第 121 図	B 区 53A・B号住居跡図・出土遺物図 (2)	124
第 61 図	B 区 10号住居跡図・出土遺物図	73	第 122 図	B 区 54号住居跡図・出土遺物図	125



第123区	B区55号住居跡園、出土遺物園	(1)	126
第124区	B区55号住居跡園出土遺物園	(2)	127
第125区	B区56号住居跡園、出土遺物園	(1)	127
第126区	B区56号住居跡園、出土遺物園	(2)	128
第127区	B区57号住居跡園、出土遺物園	(1)	129
第128区	B区58号住居跡園、出土遺物園	(1)	130
第129区	B区58号住居跡園、出土遺物園	(2)	131
第130区	B区59号住居跡園	(1)	131
第131区	B区59号住居跡園、出土遺物園	(1)	132
第132区	B区60号住居跡園、出土遺物園	(1)	132
第133区	B区60号住居跡園、出土遺物園	(2)	133
第134区	B区61号住居跡園、出土遺物園	(1)	134
第135区	B区61号住居跡園、出土遺物園	(2)	135
第136区	B区62号住居跡園、出土遺物園	(1)	136
第137区	B区62号住居跡園、出土遺物園	(2)	137
第138区	B区64号住居跡園、出土遺物園	138	
第139区	B区65号住居跡園出土遺物園	(1)	138
第140区	B区65号住居跡園、出土遺物園	(2)	139
第141区	B区66号住居跡園、出土遺物園	139	
第142区	B区67、69号住居跡園	(1)	140
第143区	B区67、69号住居跡園、出土遺物園	(2)	141
第144区	B区69、70号住居跡園出土遺物園	(3)	142
第145区	B区68号住居跡園、出土遺物園	142	
第146区	B区71号住居跡園、出土遺物園	(1)	143
第147区	B区71号住居跡園、出土遺物園	(2)	144
第148区	B区72号住居跡園、出土遺物園	144	
第149区	B区73号住居跡園、出土遺物園	146	
第150区	B区74号住居跡園、出土遺物園	147	
第151区	B区75号住居跡園、出土遺物園	(1)	147
第152区	B区75号住居跡園、出土遺物園	(2)	148
第153区	B区76号住居跡園	(1)	149
第154区	B区76号住居跡園出土遺物園	(2)	150
第155区	B区77、78号住居跡園	(1)	150
第156区	B区77号住居跡園、出土遺物園	(2)	151
第157区	B区78号住居跡園、出土遺物園	(1)	151
第158区	B区80号住居跡園、出土遺物園	152	
第159区	B区81号住居跡園、出土遺物園	(1)	153
第160区	B区81号住居跡園、出土遺物園	(2)	154
第161区	B区82号住居跡園、出土遺物園	155	
第162区	B区83号住居跡園、出土遺物園	(1)	156
第163区	B区83号住居跡園出土遺物園	(2)	157
第164区	B区84号住居跡園	(1)	157
第165区	B区84号住居跡園、出土遺物園	(2)	158
第166区	B区84号住居跡園出土遺物園	(3)	159
第167区	B区85号住居跡園、出土遺物園	160	
第168区	B区86、87号住居跡園	(1)	161
第169区	B区86、87号住居跡園、出土遺物園	(2)	162
第170区	B区88号住居跡園、出土遺物園	163	
第171区	B区89号住居跡園、出土遺物園	164	
第172区	B区90、91号住居跡園、出土遺物園	(1)	165
第173区	B区90号住居跡園、出土遺物園	(2)	166
第174区	B区92号住居跡園、出土遺物園	(1)	167
第175区	B区92号住居跡園出土遺物園	(2)	168
第176区	B区93号住居跡園、出土遺物園	168	
第177区	B区1号溝田、出土遺物園	169	
第178区	B区4、5、7、8、14号溝田	171	
第179区	B区6、10、11、12、13号溝田出土遺物園	172	
第180区	B区2、3、6、10、11、12、13号、C区6、7号溝田	173	
第181区	B区9号溝田、出土遺物園	175	
第182区	B区地下式土坑園、出土遺物園	176	
第183区	B区火葬墓、1・2・3・4、5号土坑園、出土遺物園	177	
第184区	B区1号獨立柱建物跡園	178	
第185区	B区2号獨立柱建物跡園	179	
第186区	B区1号井戸園、出土遺物園	180	

第187区	B・C区竈穴遺構(竈)園	181
第188区	B区H r - F A土倉園	183
第189区	B区一活土遺物園	184
第190区	C区1号住居跡園、出土遺物園	(1) 185
第191区	C区1号住居跡園、出土遺物園	(2) 186
第192区	C区1号住居跡園出土遺物園	(3) 187
第193区	C区2号住居跡園	(1) 187
第194区	C区2号住居跡園、出土遺物園	(2) 188
第195区	C区3号住居跡園、出土遺物園	(1) 189
第196区	C区3号住居跡園、出土遺物園	(2) 190
第197区	C区6号住居跡園、出土遺物園	191
第198区	C区7号住居跡園、出土遺物園	(1) 192
第199区	C区7号住居跡園、出土遺物園	(2) 193
第200区	C区9号住居跡園、出土遺物園	194
第201区	C区10号住居跡園	(1) 194
第202区	C区10号住居跡園、出土遺物園	(2) 195
第203区	C区10号住居跡園出土遺物園	(3) 196
第204区	C区11号住居跡園	(1) 197
第205区	C区11号住居跡園	(2) 198
第206区	C区11号住居跡園、出土遺物園	(3) 199
第207区	C区11号住居跡園出土遺物園	(4) 200
第208区	C区11号住居跡園出土遺物園	(5) 201
第209区	C区12号住居跡園、出土遺物園	(1) 202
第210区	C区12号住居跡園、出土遺物園	(2) 203
第211区	C区12号住居跡園出土遺物園	(3) 204
第212区	C区13号住居跡園、出土遺物園	(1) 205
第213区	C区13号住居跡園、出土遺物園	(2) 206
第214区	C区14号住居跡園、出土遺物園	207
第215区	C区15、20号住居跡園、出土遺物園	(1) 208
第216区	C区15号住居跡園出土遺物園	(2) 209
第217区	C区20号住居跡園、出土遺物園	(2) 209
第218区	C区16号住居跡園、出土遺物園	(1) 210
第219区	C区16号住居跡園、出土遺物園	(2) 211
第220区	C区17号住居跡園、出土遺物園	212
第221区	C区18号住居跡園	(1) 213
第222区	C区18号住居跡園出土遺物園	(2) 214
第223区	C区19号住居跡園	(1) 214
第224区	C区19号住居跡園、出土遺物園	(2) 215
第225区	C区21号住居跡園、出土遺物園	(1) 216
第226区	C区21号住居跡園出土遺物園	(2) 217
第227区	C区22号住居跡園	(1) 218
第228区	C区22号住居跡園、出土遺物園	(2) 219
第229区	C区22号住居跡園、出土遺物園	(3) 220
第230区	C区23号住居跡園、出土遺物園	(1) 221
第231区	C区23号住居跡園、出土遺物園	(2) 222
第232区	C区24号住居跡園	(1) 223
第233区	C区24号住居跡園、出土遺物園	(2) 224
第234区	C区25号住居跡園、出土遺物園	(1) 225
第235区	C区25号住居跡園、出土遺物園	(2) 226
第236区	C区25号住居跡園出土遺物園	(3) 227
第237区	C区25号住居跡園出土遺物園	(4) 228
第238区	C区26号住居跡園	(1) 229
第239区	C区26号住居跡園、出土遺物園	(2) 229
第240区	C区27号住居跡園、出土遺物園	230
第241区	C区28、30号住居跡園	(1) 231
第242区	C区32号住居跡園	(1) 231
第243区	C区28、30、32号住居跡園、出土遺物園	(2) 232
第244区	C区30号住居跡園	(2) 233
第245区	C区32号住居跡園	(3) 234
第246区	C区32号住居跡園出土遺物園	(4) 233
第247区	C区29号住居跡園	(1) 235
第248区	C区29号住居跡園	(2) 236
第249区	C区29号住居跡園、出土遺物園	(3) 237
第250区	C区29号住居跡園出土遺物園	(4) 238
第251区	C区31号住居跡園	239

第252区	C区33号住居跡區・出土遺物區	239
第253区	C区34号住居跡區 (1)	240
第254区	C区34号住居跡出土遺物區 (2)	241
第255区	C区34号住居跡出土遺物區 (3)	242
第256区	C区35号住居跡區 (1)	243
第257区	C区35号住居跡區・出土遺物區 (2)	244
第258区	C区36A号住居跡區・出土遺物區	245
第259区	C区36B号住居跡區・出土遺物區 (1)	245
第260区	C区36B号住居跡區・出土遺物區 (2)	246
第261区	C区37号住居跡區・出土遺物區 (1)	247
第262区	C区37号住居跡出土遺物區 (2)	248
第263区	C区37号住居跡出土遺物區 (3)	249
第264区	C区38号住居跡區・出土遺物區 (1)	249
第265区	C区38号住居跡區・出土遺物區 (2)	250
第266区	C区39号住居跡區 (1)	250
第267区	C区39号住居跡區・出土遺物區 (2)	251
第268区	C区40号住居跡區 (1)	252
第269区	C区40号住居跡出土遺物區 (2)	253
第270区	C区41号住居跡區・出土遺物區	254
第271区	C区42号住居跡區・出土遺物區 (1)	255
第272区	C区42号住居跡區・出土遺物區 (2)	256
第273区	C区43号住居跡區・出土遺物區 (1)	257
第274区	C区43号住居跡區・出土遺物區 (2)	258
第275区	C区43号住居跡出土遺物區 (3)	259
第276区	C区44号住居跡區 (1)	259
第277区	C区44号住居跡區・出土遺物區 (2)	260
第278区	C区45号住居跡區	261
第279区	C区46号住居跡區・出土遺物區 (1)	261
第280区	C区46号住居跡區・出土遺物區 (2)	262
第281区	C区46号住居跡區・出土遺物區 (3)	263
第282区	C区47号住居跡區 (1)	264
第283区	C区47号住居跡出土遺物區 (2)	265
第284区	C区48号住居跡區	266
第285区	C区49号住居跡區 (1)	267
第286区	C区49号住居跡出土遺物區 (2)	268
第287区	C区49号住居跡出土遺物區 (3)	269
第288区	C区50号住居跡區・出土遺物區	270
第289区	C区51・52号住居跡區 (1)	270
第290区	C区51号住居跡區・出土遺物區 (2)	271
第291区	C区51・52号住居跡出土遺物區 (3)・(2)	272
第292区	C区53号住居跡區 (1)	272
第293区	C区53号住居跡區・出土遺物區 (2)	273
第294区	C区54号住居跡區・出土遺物區 (1)	274
第295区	C区54号住居跡出土遺物區 (2)	275
第296区	C区55号住居跡區・出土遺物區 (1)	276
第297区	C区55号住居跡區・出土遺物區 (2)	277
第298区	C区55号住居跡出土遺物區 (3)	278
第299区	C区55号住居跡出土遺物區 (4)	279
第300区	C区55号住居跡出土遺物區 (5)	281
第301区	C区56号住居跡區・出土遺物區	282
第302区	C区57号住居跡區	283
第303区	C区58号住居跡區・出土遺物區 (1)	283
第304区	C区58号住居跡區・出土遺物區 (2)	284
第305区	C区59号住居跡區・出土遺物區	285
第306区	C区60号住居跡區・出土遺物區 (1)	286
第307区	C区60号住居跡區・出土遺物區 (2)	287
第308区	C区61号住居跡區・出土遺物區 (1)	288
第309区	C区61号住居跡區・出土遺物區 (2)	289
第310区	C区62号住居跡區・出土遺物區 (1)	290
第311区	C区62号住居跡區・出土遺物區 (2)	291
第312区	C区63号住居跡區・出土遺物區 (1)	292
第313区	C区63号住居跡出土遺物區 (2)	293
第314区	C区63号住居跡出土遺物區 (3)	294
第315区	C区63号住居跡區 (4)	295
第316区	C区64号住居跡區 (1)	296

第317区	C区64号住居跡出土遺物區 (2)	297
第318区	C区65号住居跡區・出土遺物區 (1)	298
第319区	C区65号住居跡出土遺物區 (2)	299
第320区	C区66号住居跡區 (1)	299
第321区	C区66号住居跡區・出土遺物區 (2)	300
第322区	C区68号住居跡區・出土遺物區	301
第323区	C区69号住居跡區 (1)	301
第324区	C区69号住居跡區・出土遺物區 (2)	302
第325区	C区69号住居跡出土遺物區 (3)	303
第326区	C区70号住居跡區 (1)	304
第327区	C区70号住居跡區・出土遺物區 (2)	305
第328区	C区70号住居跡出土遺物區 (3)	306
第329区	C区71号住居跡區・出土遺物區 (1)	307
第330区	C区71号住居跡出土遺物區 (2)	308
第331区	C区72号住居跡區 (1)	309
第332区	C区72号住居跡區・出土遺物區 (2)	310
第333区	C区73号住居跡區 (1)	311
第334区	C区73号住居跡區 (2)	312
第335区	C区73号住居跡出土遺物區 (3)	313
第336区	C区74号住居跡區 (1)	313
第337区	C区74号住居跡區 (2)	314
第338区	C区74号住居跡出土遺物區 (3)	315
第339区	C区75号住居跡區・出土遺物區 (1)	316
第340区	C区75号住居跡區・出土遺物區 (2)	317
第341区	C区75号住居跡出土遺物區 (3)	318
第342区	C区75号住居跡出土遺物區 (4)	319
第343区	C区76号住居跡區・出土遺物區 (1)	320
第344区	C区76号住居跡區・出土遺物區 (2)	321
第345区	C区77号住居跡區・出土遺物區	322
第346区	C区1・2・3号溝渠・出土遺物區	323
第347区	C区4・5号溝渠・出土遺物區	324
第348区	C区6・7・10・11・12・13号溝渠 (1)	325
第349区	C区6号溝渠出土遺物區 (2)	327
第350区	C区7・11・14号溝渠出土遺物區 (2)	328
第351区	C区8・9・15号溝渠・出土遺物區	329
第352区	C区1・2号土坑區・出土遺物區 (1)	330
第353区	C区1・2号土坑・1号非井出土遺物區 (2)	331
第354区	C区3・4・5号土坑區・出土遺物區 (1)	331
第355区	C区3号土坑出土遺物區 (2)	332
第356区	C区3号土坑出土遺物區 (3)	333
第357区	C区3号土坑出土遺物區 (4)	334
第358区	C区7・9・10・11・12・14号土坑區・出土遺物區	335
第359区	C区13号土坑出土遺物區	336
第360区	C区1号觀立柱建物跡區	337
第361区	C区2号觀立柱建物跡區	338
第362区	C区3号觀立柱建物跡區	339
第363区	C区1号非井區・出土遺物區 (1)	341
第364区	C区1号非井區 (2)	342
第365区	C区1号非井出土遺物區 (3)	343
第366区	C区1号非井出土遺物區 (4)	344
第367区	C区1号非井出土遺物區 (5)	345
第368区	C区1号非井出土遺物區 (6)	346
第369区	C区1号非井出土遺物區 (7)	347
第370区	C区1号非井出土遺物區 (8)	348
第371区	C区1号非井出土遺物區 (9)	349
第372区	C区1号非井出土遺物區 (30)	350
第373区	C区1号非井出土遺物區 00	351
第374区	C区1号非井出土遺物區 01	352
第375区	C区1号非井出土遺物區 02	353
第376区	C区1号非井出土遺物區 03	354
第377区	C区1号非井出土遺物區 04	355
第378区	C区1号非井出土遺物區 05	356
第379区	C区1号非井出土遺物區 06	357
第380区	C区1号非井出土遺物區 07	358
第381区	C区1号非井出土遺物區 08	359

第382回	C区1号井戸出土遺物図	09	360
第383回	C区1号井戸出土遺物図	01	361
第384回	C区1号井戸出土遺物図	02	362
第385回	C区1号井戸出土遺物図	03	363
第386回	C区1号井戸出土遺物図	04	364
第387回	C区1号井戸出土遺物図	05	365
第388回	C区1号井戸出土遺物図	06	366
第389回	C区1号井戸出土遺物図	07	367
第390回	C区1号井戸出土遺物図	08	368
第391回	C区1号井戸出土遺物図	09	369
第392回	C区1号井戸出土遺物図	00	370
第393回	C区1号井戸出土遺物図	01	371
第394回	C区1号井戸出土遺物図	02	372
第395回	C区1号井戸出土遺物図	03	373
第396回	C区1号井戸出土遺物図	04	374
第397回	C区1号井戸出土遺物図	05	375
第398回	C区1号井戸出土遺物図	06	376
第399回	C区1号井戸出土遺物図	07	377
第400回	C区1号井戸出土遺物図	08	378
第401回	C区1号井戸出土遺物図	09	379
第402回	C区一括出土遺物図 (1)	380	380
第403回	C区一括出土遺物図 (2)	381	381
第404回	試掘トレンチ出土、表採遺物図	382	382
第405回	遺跡一括出土遺物図 (1)	383	383
第406回	遺跡一括出土遺物図 (2)	384	384
第407回	こも編み石図 (1)	385	385
第408回	こも編み石図 (2)	386	386
第409回	こも編み石図 (3)	387	387
第410回	こも編み石図 (4)	388	388
第411回	こも編み石図 (5)	389	389
第412回	こも編み石図 (6)	390	390
第413回	こも編み石図 (7)	391	391
第414回	こも編み石図 (8)	392	392
第415回	こも編み石図 (9)	393	393
第416回	こも編み石図 (9)	394	394
第417回	こも編み石図 (0)	395	395
第418回	こも編み石図 (0)	396	396
第419回	水器・木製品図 (1)	396	396
第420回	水器・木製品図 (2)	399	399
第421回	水器・木製品図 (3)	400	400
第422回	水器・木製品図 (4)	401	401
第423回	水器・木製品図 (5)	402	402
第424回	水器・木製品図 (6)	403	403
第425回	水器・木製品図 (7)	404	404
第426回	水器・木製品図 (8)	405	405
第427回	水器・木製品図 (9)	406	406
第428回	縄文土器分布図	407	407
第429回	縄文土器図 (1)	408	408
第430回	縄文土器図 (2)	409	409
第431回	縄文時代石器分布図	410	410
第432回	縄文時代出土石器図 (1)	411	411
第433回	縄文時代出土石器図 (2)	412	412
第434回	縄文時代出土石器図 (3)	413	413
第435回	縄文時代出土石器図 (4)	414	414
第436回	縄文時代出土石器図 (5)	415	415
第437回	縄文時代出土石器図 (6)	416	416
第438回	縄文時代出土石器図 (7)	417	417
第439回	弥生時代出土石器図	418	418
第440回	古墳時代前期出土土器図	419	419
第441回	中近世陶磁器分布図	419	419
第442回	中近世陶磁器図 (1)	420	420
第443回	中近世陶磁器図 (2)	421	421
第444回	中近世陶磁器異紀別出土量図	422	422
第445回	現代地割り図	423	423
第446回	縄文時代打製石斧長輪相関図	424	424

第447回	土師器坏量比較図	426	426
第448回	縄跡分布図	427	427
第449回	鉄器分布図	428	428
第450回	砥石分布図	429	429
第451回	こも編み石分布図	430	430
第452回	こも編み石長輪・重量相関、石材図	431	431
第453回	瓦分布図	432	432
第454回	瓦観察統計図 (1)	433	433
第455回	瓦観察統計図 (2)	434	434
第456回	瓦観察統計図 (3)	435	435
第457回	瓦観察統計図 (4)	436	436
附図1 (第458回)	文字瓦拓影図 1 : 2	440	440
附図2 (第459回)	格子印拓影図 (1) 1 : 4	441	441
附図3 (第460回)	格子印拓影図 (2) 1 : 4	442	442
附図4 (第461回)	上野国分寺式鏡瓦分布図	450	450
附図5 (第462回)	軒瓦同范関係図 (1) 1 : 4	451	451
附図6 (第463回)	軒瓦同范関係図 (2) 1 : 4	452	452
附図7 (第464回)	軒瓦同范関係図 (3) 1 : 4	453	453
附図8 (第465回)	軒瓦同范関係図 (4) 1 : 4	454	454
附図9 (第466回)	各票群別集計図	455	455
附図10 (第467回)	各票群別百分率割合図	455	455
附図11 (第468回)	中間地域出土瓦類群別図	457	457
附図12 (第469回)	窯跡群別技法分類図	458	458
附図13 (第470回)	胎土分析試料図	463	463
附図14 (第471回)	Se <sup>+</sup> /Rb <sup>+</sup> -Ca <sup>+</sup> /K <sup>+</sup> 相関図	465	465
附図15 (第472回)	本道群出土馬歯・牛歯 1 : 2	466	466
附図16 (第473回)	本道群出土馬歯・牛歯写真 約 1 : 2	466	466

附図1	国分境遺跡検出遺構全体図(縮尺 1/400)
附図2	国分境遺跡A区田河道全体図(縮尺 1/200)・土層断面図
附図3	国分境遺跡A区田河道土器出土状態図(縮尺 1/160)
附図4	国分境遺跡A区田河道木器出土状態図(縮尺 1/160)

## 表 目 次

第1表	県内検出の火山堆積物	11
第2表	周辺遺跡概要	22
第3表	縄文土器群別石材表	424
附表1 (第4表)	各遺跡出土の編み比率	443
附表2 (第5表)	各遺跡出土の男・女瓦の厚さの比較	444
附表3 (第6表)	窯跡群別五分群表	445-448
附表4 (第7表)	胎土分析試料の内観観察表	464
附表5 (第8表)	胎土分析第一覧表	464
附表6 (第9表)	国分境遺跡出土木材の樹種(標本番号順)	474
附表7 (第10表)	国分境遺跡出土木材の樹種(樹種名別)	475
附表8 (第11表)	国分境遺跡出土木材の樹種の比較	475
第12表	土器観察表	483
第13表	石製品観察表	556
第14表	土製品観察表	557
第15表	金属製品観察表	558
第16表	瓦類観察表	560
第17表	こも編み石類観察表	584
第18表	木製品観察表	586
第19表	木簡状木製品観察表	598
第20表	縄文土器・弥生土器観察表	599
第21表	縄文土器観察表	600
第22表	中近世陶磁器観察表	601
第23表	住居構造観察表	604

## 写真図版目次

図版 1	遺跡全景 (南東から) .....	1
図版 2	遺跡近景 (北から) .....	2
図版 3	遺跡全体 (航空写真合成) .....	3
図版 4-1	A区 全景 .....	4
図版 4-2	C区 全景 .....	4
図版 5-1	A区 1号住 全景 .....	5
図版 5-2	A区 1号住 カマド .....	5
図版 5-3	A区 2号住 全景 .....	5
図版 5-4	A区 2号住 掘り方 .....	5
図版 5-5	A区 2号住 カマド .....	5
図版 5-6	A区 1号 洗い場 .....	5
図版 5-7	A区 1号 洗い場 .....	5
図版 5-8	A区 1号 兼石 .....	5
図版 6-1	A区 1号 兼石 .....	6
図版 6-2	A区 1号 兼石 .....	6
図版 6-3	A区 1号 兼石 .....	6
図版 6-4	A区 1号 兼石 .....	6
図版 6-5	A区 2号 兼石 .....	6
図版 6-6	A区 2号・3号 兼石 .....	6
図版 6-7	A区 2号・3号 兼石 .....	6
図版 6-8	A区 H r-F A上島 全景 .....	6
図版 7-1	A区 群河道部分遺物出土状態 .....	7
図版 7-2	A区 群河道部分遺物出土状態 .....	7
図版 7-3	A区 群河道部分遺物出土状態 .....	7
図版 7-4	A区 群河道部分遺物出土状態 .....	7
図版 7-5	A区 群河道部分遺物出土状態 .....	7
図版 7-6	A区 群河道部分遺物出土状態 .....	7
図版 7-7	A区 群河道部分瓦器出土状態 .....	7
図版 7-8	A区 群河道部分木器出土状態 .....	7
図版 8-1	A区 群河道部分木器出土状態 .....	8
図版 8-2	A区 群河道部分柳土炭壘 .....	8
図版 8-3	A区 群河道部分夕顔出土状態 .....	8
図版 8-4	A区 群河道部分夕顔出土状態 .....	8
図版 8-5	A区 群河道部分夕顔出土状態 .....	8
図版 8-6	A区 群河道部分程度出土状態 .....	8
図版 8-7	A区 群河道部分曲物出土状態 .....	8
図版 8-8	A区 群河道部分曲物出土状態 .....	8
図版 9-1	A区 群河道部分木器出土状態 .....	9
図版 9-2	A区 群河道部分木器出土状態 .....	9
図版 9-3	A区 群河道部分木器出土状態 .....	9
図版 9-4	A区 群河道部分木器出土状態 .....	9
図版 9-5	A区 群河道部分木器出土状態 .....	9
図版 9-6	A区 群河道部分木器出土状態 .....	9
図版 9-7	A区 群河道部分木器出土状態 .....	9
図版 9-8	A区 群河道部分木器出土状態 .....	9
図版 10-1	A区 群河道部分木器出土状態 .....	10
図版 10-2	A区 群河道部分木器出土状態 .....	10
図版 10-3	A区 群河道部分木器出土状態 .....	10
図版 10-4	A区 群河道部分木器出土状態 .....	10
図版 10-5	A区 群河道部分木器出土状態 .....	10
図版 10-6	A区 群河道部分木器出土状態 .....	10
図版 10-7	A区 群河道部分木器出土状態 .....	10
図版 10-8	A区 群河道部分木器出土状態 .....	10
図版 11-1	A区 群河道部分木器出土状態 .....	11
図版 11-2	A区 群河道部分木器出土状態 .....	11
図版 11-3	A区 群河道部分木器出土状態 .....	11
図版 11-4	A区 群河道部分木器出土状態 .....	11
図版 11-5	A区 群河道部分木器出土状態 .....	11
図版 11-6	A区 群河道部分木器出土状態 .....	11
図版 11-7	A区 群河道部分木器出土状態 .....	11
図版 11-8	A区 群河道部分木器出土状態 .....	11
図版 12-1	B区 1号住 全景 .....	12
図版 12-2	B区 1号住 カマド .....	12
図版 12-3	B区 2号住 全景 .....	12
図版 12-4	B区 2号住 掘り方全景 .....	12
図版 12-5	B区 5号住 全景 .....	12
図版 12-6	B区 5号住 掘り方全景 .....	12
図版 12-7	B区 5号住 カマド掘り方 .....	12
図版 12-8	B区 6号住 全景 .....	12
図版 13-1	B区 6号住 掘り方全景 .....	13
図版 13-2	B区 6号住 カマド .....	13
図版 13-3	B区 6号住 カマド掘り方 .....	13
図版 13-4	B区 7号住 全景 .....	13
図版 13-5	B区 7号住 掘り方全景 .....	13
図版 13-6	B区 7号住 カマド .....	13
図版 13-7	B区 7号住 カマド掘り方 .....	13
図版 13-8	B区 7号住 貯蔵穴 .....	13
図版 14-1	B区 8号住 全景 .....	14
図版 14-2	B区 8号住 カマド .....	14
図版 14-3	B区 8号住 カマド掘り方 .....	14
図版 14-4	B区 9号住 全景 .....	14
図版 14-5	B区 9号住 掘り方全景 .....	14
図版 14-6	B区 9号住 カマド .....	14
図版 14-7	B区 9号住 カマド掘り方 .....	14
図版 14-8	B区 10号住 全景 .....	14
図版 15-1	B区 10号住 掘り方全景 .....	15
図版 15-2	B区 10号住 カマド .....	15
図版 15-3	B区 10号住 カマド掘り方 .....	15
図版 15-4	B区 11号住 全景 .....	15
図版 15-5	B区 11号住 掘り方全景 .....	15
図版 15-6	B区 11号住 カマド .....	15
図版 15-7	B区 11号住 カマド掘り方 .....	15
図版 15-8	B区 12号住 掘り方全景 .....	15
図版 16-1	B区 12号住 カマド .....	16
図版 16-2	B区 12号住 カマド掘り方 .....	16
図版 16-3	B区 13号住 全景 .....	16
図版 16-4	B区 13号住 掘り方全景 .....	16
図版 16-5	B区 13号住 カマド .....	16
図版 16-6	B区 13号住 カマド掘り方 .....	16
図版 16-7	B区 14号住 全景 .....	16
図版 16-8	B区 14号住 掘り方全景 .....	16
図版 17-1	B区 14号住 カマド .....	17
図版 17-2	B区 14号住 カマド掘り方 .....	17
図版 17-3	B区 15号住 全景 .....	17
図版 17-4	B区 15号住 掘り方全景 .....	17
図版 17-5	B区 15号住 カマド .....	17
図版 17-6	B区 15号住 カマド掘り方 .....	17
図版 17-7	B区 16号住 全景 .....	17
図版 17-8	B区 16号住 掘り方全景 .....	17
図版 18-1	B区 18号住 全景 .....	18
図版 18-2	B区 18号住 掘り方全景 .....	18
図版 18-3	B区 19号住 全景 .....	18
図版 18-4	B区 19号住 掘り方全景 .....	18
図版 18-5	B区 19号住 カマド .....	18
図版 18-6	B区 19号住 カマド掘り方 .....	18
図版 18-7	B区 20号住 全景 .....	18
図版 18-8	B区 20号住 掘り方全景 .....	18
図版 19-1	B区 20号住 カマド .....	19
図版 19-2	B区 20号住 カマド掘り方 .....	19
図版 19-3	B区 21号住 全景 .....	19

国版19-4	B区	21号住	掘り方全景	19
国版19-5	B区	21号住	遺物出土状態	19
国版19-6	B区	22号住	掘り方全景	19
国版19-7	B区	22号住	カマド	19
国版19-8	B区	22号住	カマド掘り方	19
国版20-1	B区	23号住	全景	20
国版20-2	B区	23号住	掘り方全景	20
国版20-3	B区	24号住	全景	20
国版20-4	B区	25号住	全景	20
国版20-5	B区	25号住	掘り方全景	20
国版20-6	B区	25号住	カマド	20
国版20-7	B区	25号住	カマド掘り方	20
国版20-8	B区	27号住	全景	20
国版21-1	B区	26号住・27号住	全景	21
国版21-2	B区	26号住・27号住	掘り方全景	21
国版21-3	B区	28号住	全景	21
国版21-4	B区	28号住	掘り方全景	21
国版21-5	B区	30号住	全景	21
国版21-6	B区	30号住	掘り方全景	21
国版21-7	B区	30号住	カマド	21
国版21-8	B区	30号住	カマド掘り方	21
国版22-1	B区	31号住	全景	22
国版22-2	B区	31号住	カマド	22
国版22-3	B区	31号住	カマド掘り方	22
国版22-4	B区	32号住	全景	22
国版22-5	B区	32号住	掘り方全景	22
国版22-6	B区	32号住	カマド	22
国版22-7	B区	32号住	カマド掘り方	22
国版22-8	B区	33号住	全景	22
国版23-1	B区	33号住	掘り方全景	23
国版23-2	B区	33号住	カマド	23
国版23-3	B区	34号住	全景	23
国版23-4	B区	34号住	掘り方全景	23
国版23-5	B区	34号住	カマド	23
国版23-6	B区	34号住	カマド掘り方	23
国版23-7	B区	36号住	全景	23
国版23-8	B区	36号住	掘り方全景	23
国版24-1	B区	36号住	カマド	24
国版24-2	B区	38号住	全景	24
国版24-3	B区	38号住	掘り方全景	24
国版24-4	B区	38号住	カマド	24
国版24-5	B区	38号住	カマド掘り方	24
国版24-6	B区	39号住	全景	24
国版24-7	B区	39号住	掘り方全景	24
国版24-8	B区	40号住・42号住	全景	24
国版25-1	B区	40号住	掘り方全景	25
国版25-2	B区	40号住	カマド	25
国版25-3	B区	40号住	カマド掘り方	25
国版25-4	B区	42号住	掘り方全景	25
国版25-5	B区	41号住	全景	25
国版25-6	B区	41号住	掘り方全景	25
国版25-7	B区	41号住	カマド	25
国版25-8	B区	41号住	カマド掘り方	25
国版26-1	B区	43号住	44号住 全景	26
国版26-2	B区	43号住・44号住	掘り方全景	26
国版26-3	B区	45号住・56号住・57号住	全景	26
国版26-4	B区	45号住	全景	26
国版26-5	B区	45号住	掘り方全景	26
国版26-6	B区	46号住	全景	26
国版26-7	B区	46号住	掘り方全景	26
国版26-8	B区	46号住	カマド	26
国版27-1	B区	46号住	カマド	27
国版27-2	B区	47号住	全景	27
国版27-3	B区	47号住	カマド	27
国版27-4	B区	47号住	カマド掘り方	27

国版27-5	B区	48号住	全景	27
国版27-6	B区	48号住	掘り方全景	27
国版27-7	B区	48号住	カマド	27
国版27-8	B区	48号住	カマド掘り方	27
国版28-1	B区	48号住	カマド遺物出土状態	28
国版28-2	B区	48号住	貯蔵穴	28
国版28-3	B区	49号住	全景	28
国版28-4	B区	49号住	カマド	28
国版28-5	B区	50号住	全景	28
国版28-6	B区	51号住	全景	28
国版28-7	B区	51号住	カマド	28
国版28-8	B区	51号住	カマド掘り方	28
国版29-1	B区	52号住	全景	29
国版29-2	B区	52号住	カマド	29
国版29-3	B区	52号住	遺物出土状態	29
国版29-4	B区	53号住	全景	29
国版29-5	B区	53号住	掘り方全景	29
国版29-6	B区	53号住	カマド	29
国版29-7	B区	53号住	カマド掘り方	29
国版29-8	B区	53号住	遺物出土状態	29
国版30-1	B区	53号住	遺物出土状態	30
国版30-2	B区	54号住	全景	30
国版30-3	B区	54号住	掘り方全景	30
国版30-4	B区	54号住	カマド	30
国版30-5	B区	54号住	遺物出土状態	30
国版30-6	B区	55号住	全景	30
国版30-7	B区	55号住	カマド	30
国版30-8	B区	55号住	遺物出土状態	30
国版31-1	B区	55号住	遺物出土状態	31
国版31-2	B区	45号住・56号住・57号住	全景	31
国版31-3	B区	56号住	全景	31
国版31-4	B区	56号住	カマド	31
国版31-5	B区	57号住	全景	31
国版31-6	B区	58号住	全景	31
国版31-7	B区	58号住	掘り方全景	31
国版31-8	B区	58号住	カマド	31
国版32-1	B区	58号住	カマド掘り方	32
国版32-2	B区	58号住	掘り方掘り出し部	32
国版32-3	B区	59号住	全景	32
国版32-4	B区	59号住	カマド	32
国版32-5	B区	59号住	カマド	32
国版32-6	B区	60号住	全景	32
国版32-7	B区	60号住	全景	32
国版32-8	B区	60号住	カマド	32
国版33-1	B区	60号住	遺物出土状態	33
国版33-2	B区	60号住	遺物出土状態	33
国版33-3	B区	61号住	全景	33
国版33-4	B区	61号住	掘り方全景	33
国版33-5	B区	61号住	カマド	33
国版33-6	B区	61号住	カマド掘り方	33
国版33-7	B区	61号住	遺物出土状態	33
国版33-8	B区	61号住	遺物出土状態	33
国版34-1	B区	62号住	全景	34
国版34-2	B区	62号住	掘り方全景	34
国版34-3	B区	62号住	カマド	34
国版34-4	B区	62号住	カマド掘り方	34
国版34-5	B区	64号住	全景	34
国版34-6	B区	64号住	カマド	34
国版34-7	B区	66号住	全景	34
国版34-8	B区	67号住	全景	34
国版35-1	B区	67号住	カマド	35
国版35-2	B区	68号住	全景	35
国版35-3	B区	68号住	遺物出土状態	35
国版35-4	B区	69号住	全景	35
国版35-5	B区	69号住	カマド	35

国版35-6	B区	71号住	全景	35	国版43-8	C区	2号住	カマド廻り方	43
国版35-7	B区	72号住	全景	35	国版44-1	C区	3号住	全景	44
国版35-8	B区	73号住	全景	35	国版44-2	C区	3号住	廻り方全景	44
国版36-1	B区	75号住	全景	36	国版44-3	C区	3号住	カマド	44
国版36-2	B区	75号住	カマド	36	国版44-4	C区	3号住	カマド廻り方	44
国版36-3	B区	75号住	遺物出土状態	36	国版44-5	C区	6号住	全景	44
国版36-4	B区	76号住	全景	36	国版44-6	C区	7号住	全景	44
国版36-5	B区	77号住	全景	36	国版44-7	C区	7号住	廻り方全景	44
国版36-6	B区	78号住	全景	36	国版44-8	C区	7号住	カマド	44
国版36-7	B区	80号住	全景	36	国版45-1	C区	7号住	カマド廻り方	45
国版36-8	B区	81号住	全景	36	国版45-2	C区	9号住	全景	45
国版37-1	B区	81号住	カマド廻り方	37	国版45-3	C区	9号住・11号住	廻り方全景	45
国版37-2	B区	81号住	遺物出土状態	37	国版45-4	C区	10号住	全景	45
国版37-3	B区	81号住	遺物出土状態	37	国版45-5	C区	10号住	廻り方全景	45
国版37-4	B区	81号住	遺物出土状態	37	国版45-6	C区	11号住	全景	45
国版37-5	B区	82号住	全景	37	国版45-7	C区	11号住	カマド	45
国版37-6	B区	83号住	全景	37	国版45-8	C区	11号住	カマド廻り方	45
国版37-7	B区	84号住	全景	37	国版46-1	C区	11号住	遺物出土状態	46
国版37-8	B区	84号住	廻り方全景	37	国版46-2	C区	11号住	遺物出土状態	46
国版38-1	B区	84号住	カマド	38	国版46-3	C区	12号住	全景	46
国版38-2	B区	84号住	遺物出土状態	38	国版46-4	C区	12号住	廻り方全景	46
国版38-3	B区	84号住	遺物出土状態	38	国版46-5	C区	12号住	カマド	46
国版38-4	B区	84号住	遺物出土状態	38	国版46-6	C区	12号住	カマド廻り方	46
国版38-5	B区	85号住	全景	38	国版46-7	C区	13号住	全景	46
国版38-6	B区	86号住	全景	38	国版46-8	C区	13号住	廻り方全景	46
国版38-7	B区	87号住	全景	38	国版47-1	C区	13号住	カマド	47
国版38-8	B区	88号住	全景	38	国版47-2	C区	13号住	カマド廻り方	47
国版39-1	B区	89号住	全景	39	国版47-3	C区	14号住	廻り方全景	47
国版39-2	B区	90号住	全景	39	国版47-4	C区	15号住	全景	47
国版39-3	B区	91号住	全景	39	国版47-5	C区	15号住	廻り方全景	47
国版39-4	B区	92号住	全景	39	国版47-6	C区	15号住	カマド	47
国版39-5	B区	92号住	カマド	39	国版47-7	C区	15号住	カマド廻り方	47
国版39-6	B区	92号住	遺物出土状態	39	国版47-8	C区	15号住	遺物出土状態	47
国版39-7	B区	93号住	全景	39	国版48-1	C区	16号住	全景	48
国版39-8	B区	93号住	遺物出土状態	39	国版48-2	C区	16号住	廻り方全景	48
国版40-1	B区	1号講		40	国版48-3	C区	16号住	カマド	48
国版40-2	B区	3号講		40	国版48-4	C区	16号住	カマド廻り方	48
国版40-3	B区	6号講		40	国版48-5	C区	17号住	全景	48
国版40-4	B区	7号講		40	国版48-6	C区	17号住	廻り方全景	48
国版40-5	B区	9号講		40	国版48-7	C区	17号住	カマド	48
国版40-6	B区	9号講		40	国版48-8	C区	17号住	カマド廻り方	48
国版40-7	B区	9号講		40	国版49-1	C区	18号住	全景	49
国版40-8	B区	9号講		40	国版49-2	C区	18号住	廻り方全景	49
国版41-1	B区	9号講	セクション	41	国版49-3	C区	18号住	カマド	49
国版41-2	B区	9号講	セクション	41	国版49-4	C区	18号住	カマド廻り方	49
国版41-3	B区	10号講・11号講		41	国版49-5	C区	19号住	全景	49
国版41-4	B区	11号講	遺物出土状態	41	国版49-6	C区	19号住	廻り方全景	49
国版41-5	B区	13号講		41	国版49-7	C区	19号住	カマド	49
国版41-6	B区	地下式土坑	全景	41	国版49-8	C区	19号住	カマド廻り方	49
国版41-7	B区	地下式土坑	廻り方全景	41	国版50-1	C区	20号住	全景	50
国版41-8	B区	2号竪立	全景	41	国版50-2	C区	20号住	廻り方全景	50
国版42-1	B区	1号井戸	全景	42	国版50-3	C区	20号住	カマド	50
国版42-2	B区	ピット群		42	国版50-4	C区	20号住	カマド廻り方	50
国版42-3	B区	中世高		42	国版50-5	C区	21号住	全景	50
国版42-4	B区	中世高		42	国版50-6	C区	21号住	カマド	50
国版42-5	B区	中世高		42	国版50-7	C区	21号住	カマド廻り方	50
国版42-6	B区	中世高		42	国版50-8	C区	22号住	全景	50
国版42-7	B区	1号竪立		42	国版51-1	C区	22号住	廻り方全景	51
国版43-1	C区	1号住	全景	43	国版51-2	C区	22号住	第1カマド	51
国版43-2	C区	1号住	廻り方全景	43	国版51-3	C区	22号住	第1カマド廻り方	51
国版43-3	C区	1号住	カマド	43	国版51-4	C区	22号住	第2カマド廻り方	51
国版43-4	C区	1号住	カマド廻り方	43	国版51-5	C区	23号住	全景	51
国版43-5	C区	2号住	全景	43	国版51-6	C区	23号住	廻り方全景	51
国版43-6	C区	2・3号住	廻り方	43	国版51-7	C区	23号住	カマド	51
国版43-7	C区	2号住	カマド	43	国版51-8	C区	23号住	カマド廻り方	51

図版52-1	C区	24号住	全景	52	図版60-2	C区	53号住	全景	60
図版52-2	C区	24号住	廻り方全景	52	図版60-3	C区	54号住	全景	60
図版52-3	C区	24号住	カマド	52	図版60-4	C区	54号住	カマド	60
図版52-4	C区	24号住	カマド廻り方	52	図版60-5	C区	55号住	全景	60
図版52-5	C区	25号住	全景	52	図版60-6	C区	55号住	廻り方全景	60
図版52-6	C区	25号住	カマド	52	図版60-7	C区	55号住	カマド	60
図版52-7	C区	25号住	カマド廻り方	52	図版60-8	C区	55号住	カマド廻り方	60
図版52-8	C区	25号住	遺物出土状態	52	図版61-1	C区	55号住	遺物出土状態	61
図版53-1	C区	26号住	全景	53	図版61-2	C区	55号住	鉄器遺物出土状態	61
図版53-2	C区	26号住	小竈治跡	53	図版61-3	C区	56号住	全景	61
図版53-3	C区	26号住	小竈治跡	53	図版61-4	C区	56号住	カマド	61
図版53-4	C区	27号住	全景	53	図版61-5	C区	57号住	全景	61
図版53-5	C区	27号住	カマド	53	図版61-6	C区	58号住	全景	61
図版53-6	C区	28号住	全景	53	図版61-7	C区	59号住	全景	61
図版53-7	C区	28号住	廻り方全景	53	図版61-8	C区	59号住	カマド	61
図版53-8	C区	28号住	カマド	53	図版62-1	C区	60号住	全景	62
図版54-1	C区	29号住	全景	54	図版62-2	C区	60号住	カマド	62
図版54-2	C区	29号住	廻り方全景	54	図版62-3	C区	61号住	全景	62
図版54-3	C区	30号住	全景	54	図版62-4	C区	61号住	カマド	62
図版54-4	C区	31号住	全景	54	図版62-5	C区	62号住	全景	62
図版54-5	C区	32号住	全景	54	図版62-6	C区	63号住	全景	62
図版54-6	C区	32号住	廻り方全景	54	図版62-7	C区	63号住	カマド	62
図版54-7	C区	32号住	カマド	54	図版62-8	C区	64号住	全景	62
図版54-8	C区	34号住	全景	54	図版63-1	C区	64号住	カマド	63
図版55-1	C区	34号住	廻り方全景	55	図版63-2	C区	64号住	遺物出土状態	63
図版55-2	C区	34号住	カマド廻り方	55	図版63-3	C区	65号住	全景	63
図版55-3	C区	35号住	全景	55	図版63-4	C区	65号住	カマド	63
図版55-4	C区	35号住	廻り方全景	55	図版63-5	C区	66号住	全景	63
図版55-5	C区	35号住	カマド	55	図版63-6	C区	66号住	カマド	63
図版55-6	C区	35号住	カマド廻り方	55	図版63-7	C区	68号住	全景	63
図版55-7	C区	36号住	全景	55	図版63-8	C区	69号住	全景	63
図版55-8	C区	36号住	カマド	55	図版64-1	C区	69号住	カマド	64
図版56-1	C区	36号住	カマド廻り方	56	図版64-2	C区	69号住	カマド	64
図版56-2	C区	36号住	貯蔵穴	56	図版64-3	C区	69号住	貯蔵穴	64
図版56-3	C区	37号住	全景	56	図版64-4	C区	70号住	全景	64
図版56-4	C区	38号住	全景	56	図版64-5	C区	70号住	廻り方全景	64
図版56-5	C区	39号住	全景	56	図版64-6	C区	70号住	第1カマド	64
図版56-6	C区	40号住	全景	56	図版64-7	C区	70号住	第2カマド	64
図版56-7	C区	40号住	遺物出土状態	56	図版64-8	C区	70号住	貯蔵穴	64
図版56-8	C区	40号住	遺物出土状態	56	図版65-1	C区	70号住	貯蔵穴	65
図版57-1	C区	40号住	遺物出土状態	57	図版65-2	C区	71号住	全景	65
図版57-2	C区	41号住	全景	57	図版65-3	C区	72号住	全景	65
図版57-3	C区	41号住	カマド	57	図版65-4	C区	72号住	廻り方全景	65
図版57-4	C区	42号住	全景	57	図版65-5	C区	72号住	カマド及び貯蔵穴	65
図版57-5	C区	42号住	廻り方全景	57	図版65-6	C区	72号住	カマド廻り方	65
図版57-6	C区	43号住	カマド	57	図版65-7	C区	73号住	全景	65
図版57-7	C区	43号住	全景	57	図版65-8	C区	73号住	カマド	65
図版57-8	C区	43号住	廻り方全景	57	図版66-1	C区	74号住	全景	66
図版58-1	C区	44号住	全景	58	図版66-2	C区	74号住	カマド	66
図版58-2	C区	44号住	廻り方全景	58	図版66-3	C区	74号住	カマド廻り方	66
図版58-3	C区	44号住	カマド	58	図版66-4	C区	74号住	遺物出土状態	66
図版58-4	C区	44号住	カマド	58	図版66-5	C区	75号住	遺物出土状態	66
図版58-5	C区	44号住	カマド廻り方	58	図版66-6	C区	75号住	全景	66
図版58-6	C区	46号住	廻り方全景	58	図版66-7	C区	75号住	廻り方全景	66
図版58-7	C区	46号住	カマド	58	図版66-8	C区	75号住	カマド	66
図版58-8	C区	47号住	全景	58	図版67-1	C区	75号住	カマド	67
図版59-1	C区	47号住	廻り方全景	59	図版67-2	C区	76号住	全景	67
図版59-2	C区	47号住	カマド	59	図版67-3	C区	77号住	カマド	67
図版59-3	C区	49号住	全景	59	図版67-4	C区	1号溝	全景	67
図版59-4	C区	50号住	全景	59	図版67-5	C区	2号溝	全景	67
図版59-5	C区	50号住	廻り方全景	59	図版67-6	C区	4号溝	全景	67
図版59-6	C区	51号住	全景	59	図版67-7	C区	6号溝・7号溝	全景	67
図版59-7	C区	51号住	廻り方全景	59	図版67-8	C区	1号土坑・2号土坑	全景	67
図版59-8	C区	51号住	カマド	59	図版68-1	C区	3号土坑	遺物出土状態	68
図版60-1	C区	52号住	全景	60	図版68-2	C区	4号土坑・5号土坑	全景	68

図版68-3	C区 1号土坑 全景	68
図版68-4	C区 1号竪立 全景	68
図版68-5	C区 2号竪立 全景	68
図版68-6	C区 1号井戸 全景	68
図版68-7	C区 1号井戸 遺物出土状態	68
図版68-8	C区 1号井戸 遺物出土状態	68
図版69-1	C区 1号井戸 遺物出土状態	69
図版69-2	C区 1号井戸 遺物出土状態	69
図版69-3	C区 1号井戸 遺物出土状態	69
図版69-4	C区 1号井戸 遺物出土状態	69
図版69-5	C区 1号井戸 遺物出土状態	69
図版69-6	C区 1号井戸 遺物出土状態	69
図版69-7	C区 1号井戸 遺物出土状態	69
図版69-8	C区 1号井戸 遺物出土状態	69
図版70	A区 旧河道 出土遺物	70
図版71	A区 旧河道 出土遺物	71
図版72	A区 旧河道 出土遺物	72
図版73	A区 旧河道 出土・一括出土・表探遺物	73
図版74	A区 1・2・3号住・B区 5・6号住 出土遺物	74
図版75	B区 7・8・9・10・11号住 出土遺物	75
図版76	B区 12・14・15・16・18・19号住 出土遺物	76
図版77	B区 20・21・22・23・25・27号住 出土遺物	77
図版78	B区 31・32・34・36・38号住 出土遺物	78
図版79	B区 39・40・41・42・43・44・45号住 出土遺物	79
図版80	B区 45・46・47・48・51・52・53号住 出土遺物	80
図版81	B区 54・55・58・58・59・60・61・62号住 出土遺物	81
図版82	B区 62・64・65・66・67・68号住 出土遺物	82
図版83	B区 69・70・71・72・73・75・76・77号住 出土遺物	83
図版84	B区 78・81・82・83・84号住 出土遺物	84
図版85	B区 84・85・86・87・88・89・90号住 出土遺物	85
図版86	B区 92・93号住・1・6号溝 出土遺物	86
図版87	B区 9・11・12号溝、B区・地下式土坑・B区2号土坑、B区1号井戸、B区グリット 出土遺物	87
図版88	C区 1・2・3・6・7号住 出土遺物	88
図版89	C区 10・11号住 出土遺物	89
図版90	C区 12・13・14・15号住 出土遺物	90
図版91	C区 16・17・18・19・20号住 出土遺物	91
図版92	C区 21・22・23・24号住 出土遺物	92
図版93	C区 25・26号住 出土遺物	93
図版94	C区 27・28・29・32・34・35・36A・36B号住 出土遺物	94
図版95	C区 37・38・39・40・41・43・44・45号住 出土遺物	95
図版96	C区 46・47・49・50号住 出土遺物	96
図版97	C区 51・52・54・55・56号住 出土遺物	97
図版98	C区 58・60・61・62・63・64号住 出土遺物	98
図版99	C区 66・68・69・70号住 出土遺物	99
図版100	C区 71・72・73・74・75号住 出土遺物	100
図版101	C区 75・77号住 出土遺物	101
図版102	C区 3・4・6・7・11・14号溝・1号土坑・1号井戸出土遺物	102
図版103	C区 3号土坑 出土遺物	103
図版104	C区 3号土坑 出土遺物	104
図版105	C区 12・13土坑、1号井戸 出土遺物	105
図版106	C区 1号井戸 出土遺物	106
図版107	C区 1号井戸 出土遺物	107
図版108	C区 1号井戸 出土遺物	108
図版109	C区 1号井戸 出土遺物	109
図版110	C区 1号井戸 出土遺物	110
図版111	C区 1号井戸 出土遺物	111
図版112	C区 1号井戸 出土遺物	112
図版113	C区 1号井戸 出土遺物	113
図版114	C区 1号井戸 出土遺物	114
図版115	C区 1号井戸 出土遺物	115
図版116	C区 1号井戸 出土遺物	116

図版117	C区 1号井戸 出土遺物	117
図版118	C区 1号井戸 出土遺物	118
図版119	C区 1号井戸 出土遺物	119
図版120	C区 1号井戸 出土遺物	120
図版121	C区 1号井戸 出土遺物	121
図版122	C区 1号井戸 出土遺物	122
図版123	C区 1号井戸 出土遺物	123
図版124	特殊土器	124
図版125	文字瓦	125
図版126	文字瓦・中世瓦	126
図版127	縄文土器	127
図版128	縄文土器	128
図版129	縄文土器	129
図版130	縄文土器	130
図版131	縄文土器・弥生土器・古式土師・こも編み石	131
図版132	こも編み石	132
図版133	こも編み石	133
図版134	こも編み石	134
図版135	こも編み石	135
図版136	こも編み石・縄文土器(石皿)	136
図版137	木器	137
図版138	木器	138
図版139	木器	139
図版140	木器	140
図版141	木器	141
図版142	木器	142
図版143	種子	143
図版144	種子	144
図版145	種子・その他	145
図版146	中近世陶磁器	146
図版147	中近世陶磁器	147



## 第1章 調査経過

### 第1節 発掘調査に至る経緯

本遺跡の発掘調査は関越自動車道新湯線建設工事に伴い消滅される埋蔵文化財について事前に調査し、記録保存の処置を講じたものです。

群馬県内を走る関越自動車道は藤岡市から利根郡水上町まで5市5町4村にわたる延長76.4kmで、これに係わる建設工事については藤岡～渋川間（昭和46年8月）、渋川～月夜野間（昭和49年1月）、月夜野以北（昭和50年10月）の三期に分けて路線の発表が行われた。

埋蔵文化財発掘調査も同様に工事工程との調整を図りながら昭和48年度から群馬県教育委員会が直営で発掘調査を開始した。

その後、県内各地に於ける公共事業に関連した開発事業の急増に伴い、県内一円に埋もれた数多くの遺跡の保護対策や調査の必要性が望まれた。これらに対処すべく遺跡の保護、調査、出土遺物の整理、研究等を行うと共に文化財保護の普及、活用を図る組織として昭和53年7月15日に法人として認可され、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が設立した。これにより県教育委員会が直営で実施してきた発掘調査は全面的に事業団に移行することになった。

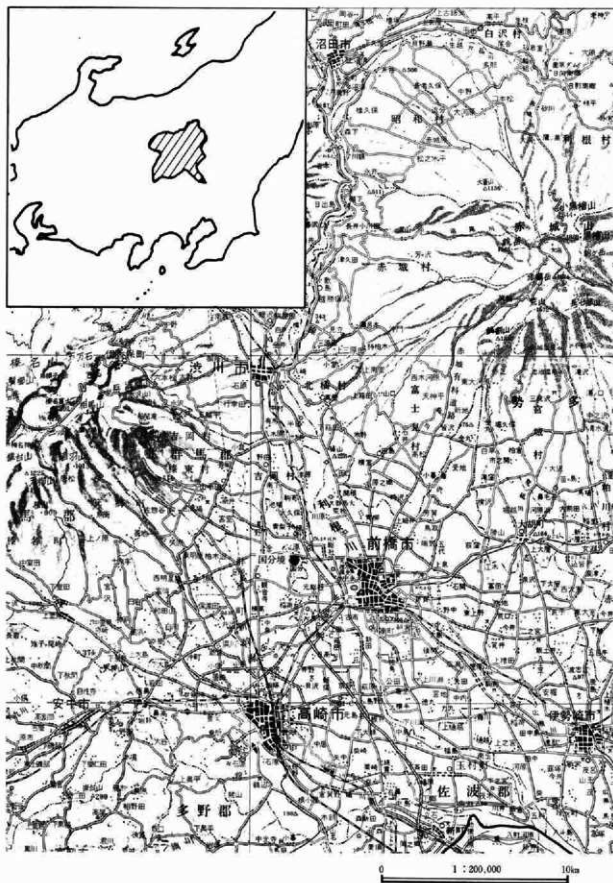
関越自動車道は全線開通を昭和60年10月に目標を置き、工事は構造物と工事用道路（側道）を優先的に着工していた。

本遺跡の南側を走る中群馬用水の整備を兼ねたカルバートボックスを建設中に平安時代の住居跡が検出された。これを受けて昭和56年9月30日に日本道路公団高崎工事事務所と現地にて協議が行われた。主な協議内容は、工事はすでに発注され工期は昭和57年2月13日までに竣工しなければならず、工期の延長は難しい。また、本線内の耕作や維持管理上の問題点が上げられた。とりあえず、遺跡の範囲・規模・性格等を知るための試掘調査の必要性が話し合われた。翌11月2日県教育委員会を中心として今後の対策について県庁内で協議が行われ、昭和56年11月9日から同年同月20日まで国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群と鳥羽遺跡から担当者各1名をさいて試掘調査を実施することになった。この結果、奈良・平安時代を中心とする集落跡でその範囲は南北約200m、東西の路線幅60m、面積約15,000㎡を測る南北に長い遺跡であった。

関越自動車道地域全線に対する発掘調査計画はすでに体制が確立し、この調査のために人員や期間等をさらに強化することは困難であった。昭和56年11月27日に日本道路公団、群馬県教育委員会、埋蔵文化財調査事業団とで工事計画と埋蔵文化財の調査について現地で調整を図った。これにより調査は以下の工程で実施することになった。

第一次発掘調査の掘道部（昭和56年度）についてはすでに工事が発注されていることから急遽国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群班が対応する。第二次発掘調査は牛池川の橋脚部予定地周辺（昭和57年度）、第三次発掘調査を本線部（昭和58年度）の3年次に分けて発掘調査を実施する。発掘調査は他の遺跡との関連から冬季があたりであった。

なお、遺跡の名称、及び関越道関係遺跡の通称については、関越道全線に遺跡番号がすでに付けられていることから、国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群の「17」に対して、変則的ではあるが、「17.5」の番号を付けた。なお、遺跡の名称については小字名を採用し、国分境遺跡とした。



第1図 国分塊遺跡位置図 (20万分の1)

## 第2節 試掘調査の経過

国分境遺跡の試掘調査にあたっては、この遺跡自体が関越自動車道（新潟線）の路線決定のために実施された分布調査の際に、周知の遺跡としての認知から漏れていたために、埋蔵文化財発掘調査側の当初計画に入っていなかった。だが、南に隣接する国分寺中間地域遺跡の発掘担当者が、中群馬用水部分のボックス工事の際に住居跡を確認し、日本道路公団や群馬県教育委員会文化財保護課、それに調査主体者である財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団などの関係機関との調整を経て、周辺の上野国分僧寺・尼寺中間地域や鳥羽遺跡の発掘調査班からの応援体制で対応することとなった。

その目的は、台地上の高速道路用地のどこまでの範囲に遺跡が広がっているかを知ることにある。また、同一台地の北側を群馬町教育委員会が「北原遺跡」として発掘調査しているために、その関連から同一遺跡なのかの判断と、本遺跡自体の北限を知ることも目的とした。

試掘に要した期間は、昭和56（1981）年11月9日～11月20日の僅か数日間ではあったが、試掘トレンチをA～Kまでの列で計63箇所も牛池川左岸から北に約300mまでの区間に設定した。

そして、確認された遺構の実測や試掘トレンチの土層実測と観察、写真撮影を実施し終了した。

この試掘調査から得られた成果は、下記の通りである。

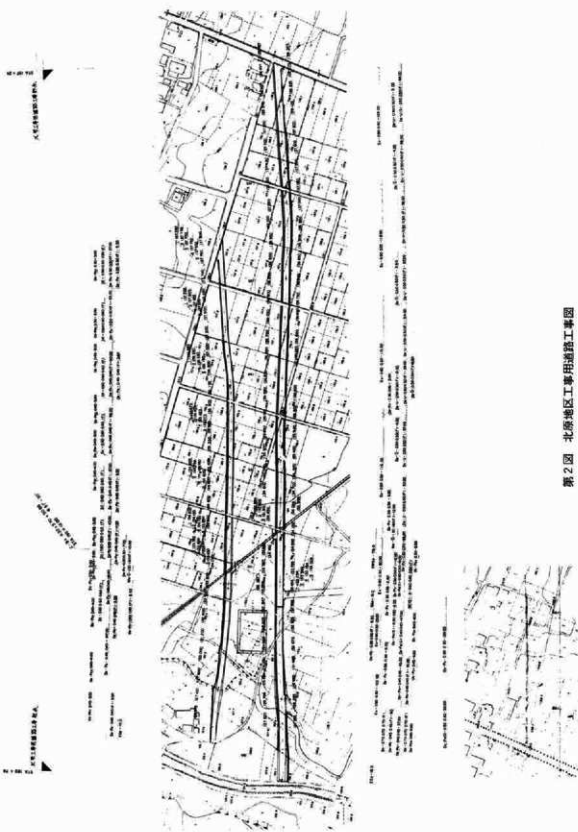
図示した土層は、AからKまでの63箇所もの試掘トレンチのうち、台地の南側から試掘調査範囲のほぼ北側までに相当する、B列11箇所、J列8箇所、K列5箇所だけであるが、それら以外の試掘トレンチでのデータも合わせてみてみよう。

台地の低位段丘面部分のA列、及びF列では底部までがかなり深く、試掘段階では届かなかったが、埋没土層の観察では全体的に砂質が強く、薄い堆積ながらもA s - Bがほぼ純層で検出された。この純層は台地の上位面、つまり集落の検出された部分ではまったく認められず、ここだけで検出されたという特徴もっている。このことからかなり大きな溝の存在が推定された。実際にはこれが牛池川の旧河道に相当する部分なのであるが、それが判明するのは第3次調査まで待たなければならなかった。

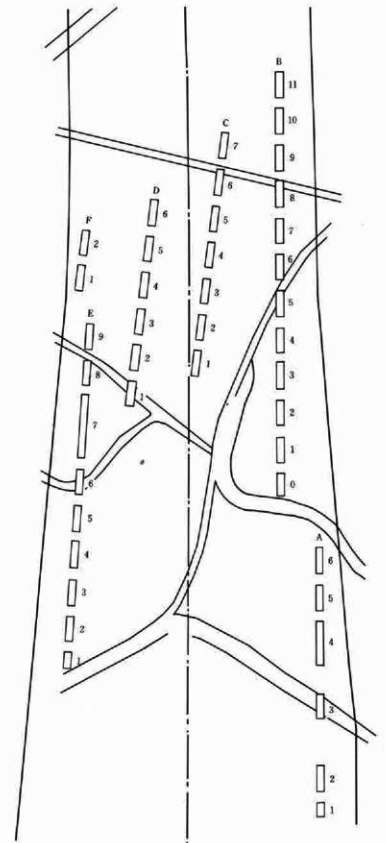
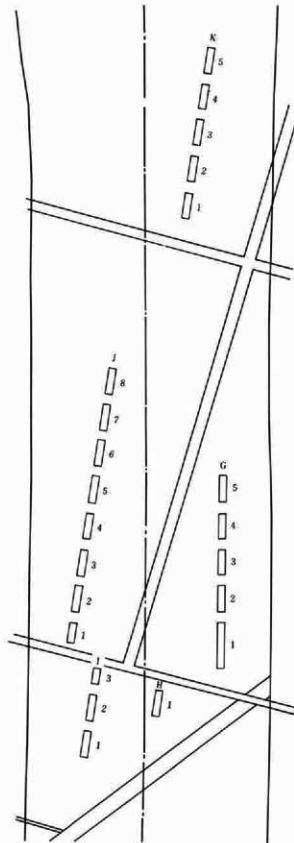
また、B列の8番と9番のトレンチでA s - Cが純層で検出されているが、これもこの部分だけの特徴であり、本遺跡の他の部分ではほとんど検出されていない。

さらに、黄褐色のロームが検出されるのは中群馬用水の北側部分を中心としており、逆に用水の南側に位置するB区では大型の礫を含む黒褐色土が堅穴住居跡の検出面である。このことから、現在ではほぼ平らな台地面も多少の起伏がかっては存在したと考えられる。

一方、遺跡の北限はほぼ把握され、台地上の南から約200mまでの範囲に集落が広がっていることが判明した。これは北原遺跡の南限との間に約100mもの空間が存在することを意味するもので、二つの遺跡がまったく別の集落であることを示したものとと言える。



第2図 北海地区工専用道路工事図



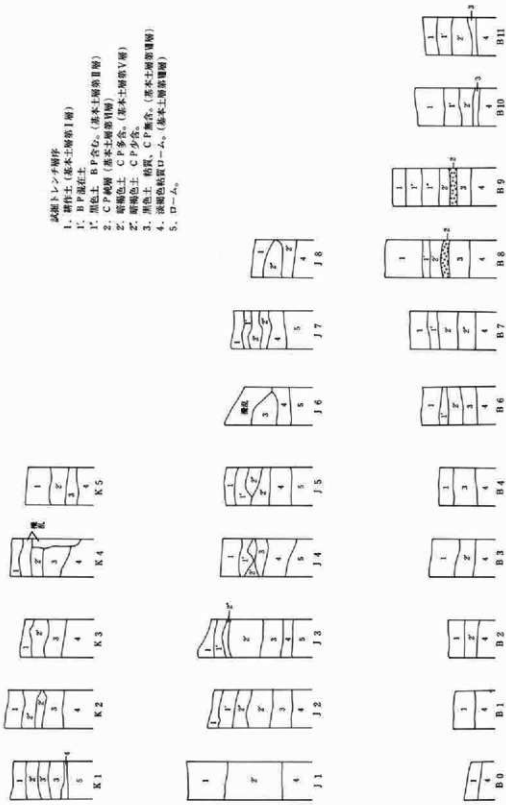
第3図 試験調査トレンチ配置図

0 50m



試掘トレンチ順序

1. 構内土 (基本土層第1層)
- 1'. B F 混在土
2. 黒色土 (基本土層第2層)
- 2'. C P 粘層 (基本土層第3層)
3. 暗褐色土 C P 多含 (基本土層第4層)
- 3'. 暗褐色土 C P 少含
4. 灰色土 粘質, C P 多含 (基本土層第5層)
- 4'. 淡褐色粘質ローム, (基本土層第6層)
5. D—A.



第4図 試掘調査トレンチ土層図

### 第3節 調査の経過

発掘調査は、発掘調査班の数の問題、つまり現状で手一杯の状態であることと、側道工事が先に施工されるなどの工事側の事情から、遺跡を細切れに対応せざるをえないために、昭和56（1981）年度から昭和58（1983）年度にかけて3時期に分割して実施された。

第1次（昭和56年度） 昭和56（1981）年12月1日～昭和57（1982）年2月10日

第2次（昭和57年度） 昭和58（1983）年1月20日～3月30日

第3次（昭和58年度） 昭和58（1983）年12月1日～昭和59（1984）年3月24日

ここで、当時の発掘調査日誌をめくりながら、調査の過程をたどってみよう。

#### 第1年次

昭和56（1981）年11月9日 試験調査に着手する。

12月1日 西側道部（中群馬用水路南部分）の表土掘削、及び遺構確認を開始する。

12月2日 東側道部（ + ）の表土掘削、及び遺構確認を開始する。

12月3日 西側道部（ + ）のB区部分の杭打ち測量を行う。

12月4日 東・西側道部（中群馬用水路北部分）の表土掘削、及び遺構確認を開始する。

12月15日 東側道部（中群馬用水路南部分）の住居跡調査を開始する。B区の全体概念図の作成が終了する。C区の杭打ち測量を行う。

12月23日 遺跡の航空写真を撮影する。年内の調査を終了する。

昭和57（1982）年1月6日 調査を再開する。

1月8日 東側道部（中群馬用水路北部分）の調査を開始する。

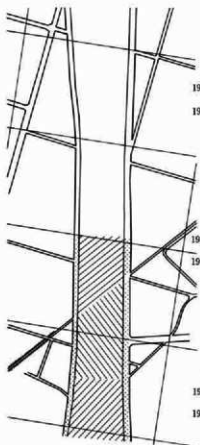
1月18日 西側道部（ + ）の調査を開始する。

1月21日 東側道部（ + ）の調査が終了する。

1月23日 東側道部（中群馬用水路南部分）の埋め戻しを行う。

2月3日 井上調査研究部長が小沼治跡の調査指導を行う。

2月9日 全調査が終了。器材を撤収する。



第5図 調査経過概念図

#### 第2年次

昭和58（1983）年1月20日 調査作業員説明会を行う。（群馬町東部コミュニティーセンター）

1月22日 調査事務所を設置するとともに、安全対策を施す。

1月24日 本報部（中群馬用水路南部分）の表土掘削、及び遺構確認を開始する。国家座標を用いた杭打ち測量を行う。

2月3日 住居跡の調査を開始する。

2月16日 B区の全体概念図の作成を行う。

3月12日 C区の全体概念図の作成を行う。

3月24日 国家座標グリッドの設定ミスが判明する。

3月29日 遺跡の航空写真を撮影する。

3月31日 全調査が終了。器材を撤収する。

#### 第3年次

昭和58（1983）年12月1日 調査事務所を設置する。表土掘削、及び遺構確認を開始する。

12月5日 国家座標を用いた杭打ち測量を行う。

12月6日 全体概念図の作成を行う。

12月22日 B区低地部分の表土掘削を開始する。

#### 昭和59（1984）年

1月5日 調査を再開する。

1月11日 A区の大溝（旧河道）を開始、木製品を中心に多量の遺物が出土する。

1月24日 遺跡の航空写真を撮影する。

1月30日 群馬大学新井房夫教授に地質の所見をいただく。

2月2日 A区の旧河川を調査、桶底を検出する。

2月3日 焼・夕顔などを検出する。

2月6日 棚などを検出する。

2月7日 礎などを検出する。

2月9日 C区の埋め戻しを行う。



- 2月10日 C区の土層剥ぎ取りを行う。
- 2月13日 A区の河川から木林を抽出する。
- 2月22日 遺跡の航空写真を撮影する。
- 2月27日 調査と並行して基礎整理を開始する。
- 3月22日 全調査を終了する。
- 3月30日 器材を撤収する。

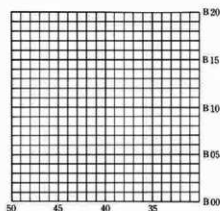
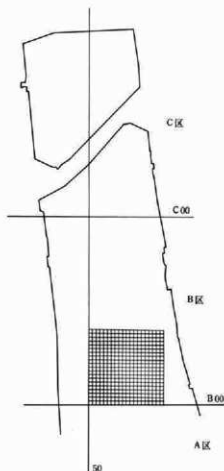
#### 第4節 グリッド設定と調査の方法

本遺跡の発掘調査区域は南北約300m、東西60mであり、八幡川と牛池川に南北を区切られた南北の長さ約1kmの台地の南側部分の約30%にあたる。同様に台地の北側部分を占める北原遺跡は約50%にあたる。

開地自動車道関係の発掘調査では、国家座標を用いることを基本とする。さらに100m単位の大グリッドと2m単位の小グリッドを併用し、南東の1地点を基準とした座標を遺跡全体に設定する訳である。さらに、北方向に0～50のグリッド枠、西方向には0～100までのグリッド枠を配置することとし、北方向については50の数字が次の大グリッドの0とすることで、新たなグリッド名称を用いることとなる。実際に、本遺跡では牛池川に面する遺跡の南側からA～C区の3区を設定した。(第6図)

発掘調査上での問題点としては、前述した座標設定の基本を崩し、第1次調査では道路予定地のセンター杭からグリッドを設定したために、第2次調査からの国家座標を用いたグリッド設定との座標枠の大きさがずれ、また、第2次調査と第3次調査での国家座標の設定ミスによる軸の僅かなずれも生じてしまい、このことが問題をさらに複雑にしてしまった。これらのことは、一貫した調査体制の確保が発掘調査自体の分割によりできなかったことと合わせて、全体図作成作業のうえで重大な支障を引き起こした。特に、全体図作成のために個別の遺構の位置を確認・設定するうえで、多くの時間をロスしてしまう結果ともなった。

この他に、埋蔵文化財保護の立場での大きな問題として、第1次調査(東西両側道部分)の際に側道工事開始などの時間的な問題から迂回道路が設定できなかったために、現農道部分が未調査にならざるをえなかったこと、調査期間及び安全対策面で河川敷区域



第6図 グリッド設定図

のすべてを調査できなかったこと、さらに同じ台地の北部分に位置する北原遺跡との関係を把握するうえで重要な台地の中央部分が、工事日程との関係で調査できず、路線内に未調査区域が生じたことがあげられる。このことは、この遺跡の発見の過程と合わせて、調査に従事した者の努力にもかかわらず、遺跡における発掘調査を残念ながら不十分なものにしたと言える。

## 第5節 基本土層

本遺跡の所在する群馬町は榛名山東南麓で、浅間山東方に位置するために、その基本土層にはこの二つの火山から噴出した火山灰や軽石などが強く影響している。

本遺跡で確認された火山灰や軽石については、後述する地理的環境の項でも触れるが、基盤となる前橋台地の形成過程や榛名山に近接する位置関係から考えて、浅間山や榛名山の影響を強く受けていると言える。

第Ⅰ層 耕作土

第Ⅱ層 やや黒味をもち、A s - B Pを含む暗褐色土

第Ⅲ層 A s - B P純層

第Ⅳ層 暗褐色土（一部の地域ではH r - F Aの純層に置き換わる）

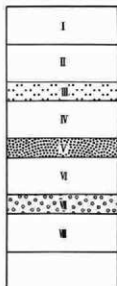
第Ⅴ層 やや黒味をもち、A s - Cを含む暗褐色土

第Ⅵ層 A s - C純層

第Ⅶ層 さらさらし、若干の軽石類を含む黒褐色土（縄文・弥生時代の形成土）

第Ⅷ層 ローム

周辺の遺跡での土層観察の結果と比較してみると、同一台地上の北に位置する北原遺跡では、現地地形とはほぼ同一方向への傾斜を有するいくつかの微高地の存在が確認されている。その台地の基盤は同一であるものの、その上に堆積する土層は種々の要因により変わってきている。たとえば、北原遺跡の南側から国分境遺跡の北側にかけてローム層の堆積が確認されているが、これは洪積台地である前橋台地と相馬ヶ原扇状地形との移行地域での状況を示すものと考えられる。



第7図 基本層序

一方、国分境遺跡の南側では角礫凝灰岩を含む泥流堆積物が牛池川までの区間を厚く覆っており、この土層を切り込む形で堅穴住居跡が掘り込まれているが、大型の礫を避けるように構築されており、当時においてもこれらの多量の礫の存在が、土地利用のうえでも大きな障害となっていたようである。そのため少なくとも集落が形成される以前の段階では、畠などの生産耕作地としての役割をも果たす事が出来ないような土地であったと考えられる。

本遺跡では、周辺の他の遺跡と同様に、軽石層や火山灰が後世の耕作などによりかなり攪拌されており、これらが純層として検出されるのは、住居跡などの遺構の埋没土に含まれる形で、A s - B、H r - F A、A s - Cが確認されている。



第8図 火山灰範囲図

軽石・火山灰名	略称	噴出源	噴出年代	備 考
浅間A軽石	As-A	浅間火山(前掛山)	A. D. 1783年(天明三年)	
浅間B軽石(テフツ)	As-B	浅間火山(前掛山)	A. D. 1108年(天仁元年)	A区旧河道(B区9号溝)より純層で検出
榛名・二ツ岳軽石	Hr-F	榛名火山(二ツ岳)	6世紀後半	
榛名・二ツ岳火山灰	Hr-F A	榛名火山(二ツ岳)	6世紀前半	A区高の下位層序より純層で検出
浅間C軽石	As-C	浅間火山(前掛山)	4世紀前半	B区試掘トレンチより純層で検出

第1表 県内検出の火山噴出堆積物(新井房夫 1979より)

## 参考文献

- 新井房夫 「自然」『前橋市史 第1巻』前橋市教育委員会 1971年  
 新井房夫 「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフツ層」『考古学ジャーナル』157 1979年  
 町田 洋・新井房夫他 「テフツと日本考古学 —考古学研究と関係するテフツのカタログ—」『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』古文化財編集委員会 1984年  
 依田治雄 「自然環境の特色」『群馬町の道誌』群馬町教育委員会 1986年

## 第2章 遺跡の位置

### 第1節 遺跡の地形的・歴史的環境

本遺跡の所在する群馬県群馬郡馬場町は県中央部に位置する。標高は110～240mの間にあり、榛名山東南麓斜面に広がる相馬ヶ原扇状地から第四系に形成された洪積層である前橋台地までの移行地帯に位置し、東に緩やかに傾斜している地形面を形成する。そのために河川も北西から南東に向かって自然地形に沿う形で流れる。また、河川による開析は上流部では山麓を深く刻み込んだ放射谷を形成し、原地形面をかなり侵食しているが、当遺跡の位置するような傾斜が緩やかになる移行地帯では放射谷は幅が広くなるとともに、河床との比高差も次第に浅くなり、原地形面がほとんど侵食されずに広がっている。

地質上の構成では、利根川の堆積物である前橋砂礫層が前橋台地の成因として広く分布し、その上に前橋泥流と呼ばれる火山泥流堆積物と榛名山起源の安山岩などを含む火砕岩礫層が交互に、さらにその上にシルト層・砂層・粘土層で構成された水成上部ロームが整合で堆積している。このローム中には前橋泥炭層と呼ばれる湿地の堆積物である黒色の泥炭質粘土シルト層が認められる。

本遺跡は群馬県群馬郡馬場町大字北原字園分境に所在する。北を八幡川、南を牛池川による開析により区切られた、北西から南東に延びる台地上に立地している。八幡川は榛東村に源を発し、本遺跡と同一台地上の北側に所在する北原遺跡の北を南東方向に流れ、かなり距離が離れた利根川と鳥川の合流点付近で利根川に合流する。一方の牛池川は群馬町の東牛池沼に源を発し、前橋市元総社野で桑谷川と合流している。牛池川との比高差は遺跡の南側で約7mで、侵食崖下には3段目の段丘が認められる。谷部分の幅は約80mで、南側対岸には上野園分僧寺・尼寺中間地域遺跡群が立地する。

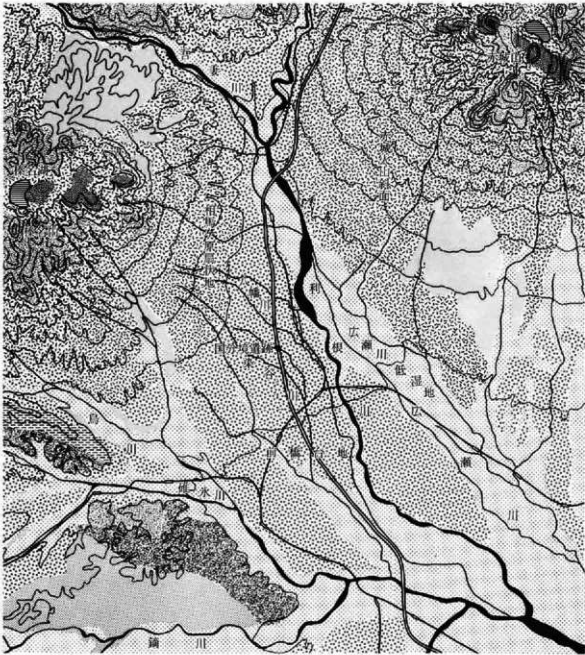
同じ台地上面の北部分に立地する北原遺跡と同様に、遺跡立地地面は南東に向かって若干の傾斜を有している。また、水成上部ローム層が認められる部分とそうでない部分が存在する。南側に位置する上野園分僧寺・尼寺中間地域遺跡群が所在する台地でも同様の地形が認められる。

土地利用の面では、本遺跡周辺の大部分が桑畑や野菜畑になっているが、一部は中群馬用水による灌漑により水田に利用されている部分もある。

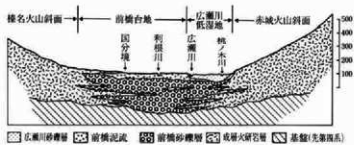
本遺跡の北西に位置する榛名山は第四紀に形成された成層火山であり、最高峰は頂部の東西3km、南北2kmの小型カルデラの西端に位置する掃部ヶ岳で、海拔は1,449mを数える。東南麓に広がる平野部との比高差約1,300m、基底の直径約22kmのほぼ円形の二重式を呈する。東は利根川をはさんで赤城山、北では小野子山・子持山の諸火山、それに西には浅間山を中心とする山々が存在している。

榛名山の火山としての発達史に関しては、詳細な分析をおこなっているが、それを基礎に考古学上の分析をも加味して考えたい。

第11図は大島 治氏により作成された榛名山の地質図で、火山活動を示したものであるが、まず、榛山形成段階をみてみると、カルデラの内外に分布する小規模火山の溶岩円頂丘、それに活動痕跡の溶岩分布が顕著に読み取れる。それによれば、北麓及び西麓に比べて南麓及び東麓での軽石流・火砕流・岩屑流・泥流の痕跡が多く認められる。一方、鳥川の流域を見てみると、東には榛名山が侵しているのに対して、西には第三紀の堆積物が広く分布している。また上室田から上流部分では南東方向の流路で兩岸には段丘が認められないのに対して、上室田で流路が東方向に変わるとともに、その下流では秋間丘陵寄りの西側に段丘が形成



第9図 国分墳遺跡周辺地質図(群馬県地質図より)



第10図 模式的地質断面図(前橋市史より)

## 第2章 遺跡の位置

され、その地質は榛名山系の室田軽石流の一部に相当する。つまり、上室田から上流域では川幅の狭さや榛名の影響から河川の流路の変更も少なく、東側に広がる秋間丘陵部への侵食が認められるのに対して、下流域では第一軽石流→宮沢火砕流→後料泥流→室田軽石流の順序で南麓から広がっている第四紀の火山堆積物（これからなる台地上にローム層が堆積していることから第四紀に属する）の影響などから、上流と同様に丘陵を侵食していた川がある時期に段丘を形成しながらその流路をやや東寄りに変えたとともに、火山堆積物の台地の先端部をも侵食していった過程が現在認められる地形の姿であると考えてもよいのではないだろうか。

次に、榛東村から吉岡村にかけて広がる相馬ヶ原原状地形は陣場岩屑流により形成されており、その形成時期が約14,000年前と考えられている。この岩屑流は各地に独立丘を形成しており、古墳として誤認されている例も多い。また、箕郷から浜川にかけて広がる白川扇状地形は主として榛名山二ツ岳の軽石流に因るものであり、時期は6世紀後半の榛名山二ツ岳の爆発に伴い形成されたものである。最近発掘調査された谷津古墳の事例をみても分かるように、この範囲の地域には少なくとも数mもの堆積が認められることから、大規模な地形の変化をもたらしたものと考えられる。この段階で白川自体の流路も大きく変化している可能性も考えられている。

ただこの地域での深掘りの事例は少なく、扇状地形全域での詳細な旧地形の様子はまだまだ不明部分が多い。さらに、地形の先端がどこまで及ぶのかも把握されていないのが現状である。

### 参考文献

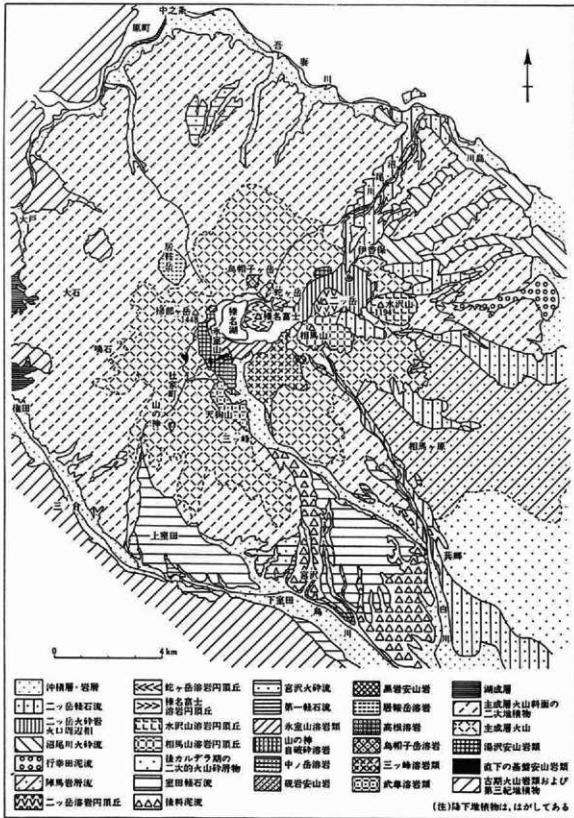
- 飯島尊雄 「群馬県の地質」『群馬県地質誌（改訂版）』 1987。  
大島 治 「第4章 地質・火山・温泉 2 火山（12）榛名山」『日本の地質3 関東』 共立出版 1986。

## 第2節 遺跡の歴史的環境

本遺跡周辺では、関越自動車道関係や圃場整備事業に伴う発掘調査が数多く実施されている。また、群馬町全域の遺跡の分布調査が鬼形・依田により実施、報告されている。ここでは、それらの成果を踏まえて各時代別に記述する。

**旧石器時代** 群馬町内では両壺遺跡が唯一の事例であり、時代の住居跡の覆土内から尖頭器が出土しているが、残念ながら原位置をとどめていない。それ以外ではやや距離があるものの、群馬郡箕郷町生原地区でA s-Y P層からの出土が報告されているが、石器群の内容は不明である。

**縄文時代（第13回）** 「群馬町の遺跡」によれば、この時代の集落の展開は、前期から中期にかけての発展期と、後・晩期の衰退期に大別できるとされている。本遺跡はその前者に相当するものと考えられるが、周辺で発掘調査が実施された遺跡は少なく、さらに集落規模が判明するような調査が実施されたのは、今のところ国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群だけであるという、寂しい限りである。その他の遺跡では土坑などの僅かな遺構や遺物の分布だけである場合が多い。ここでは住居跡や土坑などの遺構が検出された遺跡を下記にあげることとする。



第11図 標名山地質図 (日本の地質3 関東より)

## 第2章 遺跡の位置

	黒浜	諸磯	阿玉台	勝坂	加曾利E	称名寺	堀之内	加曾利B	安行
国分寺中間地域									住
北原									
下東西		坑							
産業道路西									住
清里南部									
清里長久保		破片							
清里陣場						坑			
雨臺			住		住			住	

**弥生時代（第13図）** この時代の集落は、中期に出現し、後期になって急増するという傾向を示すとのことである。本遺跡では、耕作地としての後背湿地が牛池川の僅かな河川敷にしか求められない点で、大規模な集落の形成が不可能であったのだろう。ただ、南側の国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群の北側部分に12軒の弥生時代の住居跡が検出されており、僅かながらも人々の生活は営まれていたと言える。それ以外では、当遺跡周辺での遺跡分布は少なく、むしろ著名な日高遺跡のように標高100m前後で水田址などを検出している遺跡が多い。

**古墳時代（第13図）** この時代の集落も、弥生時代の集落と同様に台地の縁辺部や河川の周辺部に位置することが多いが、その分布はさらに拡大している。さらに、古墳の築造とともに古墳群の形成が各地域におこなわれるようになってくる。特に、豪族の居館として著名な三ツ寺Ⅰ遺跡や保渡田三古墳などが、群馬町内では特筆すべき遺跡である。

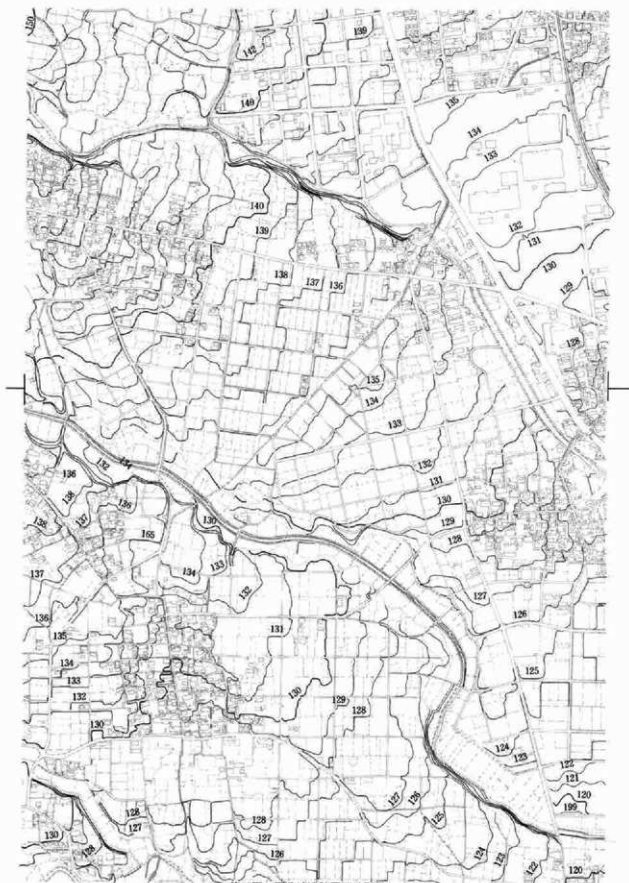
本遺跡でも、後期の住居跡が多数検出されており、集落の形成もこの段階と考えられるが、同一台地の北側に位置する北原遺跡では、集落の形成はもっと遅く奈良時代になってからであり、この段階では水田などに利用されているなど、台地の土地利用にも違いが認められる。一方、牛池川の南側の国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群では、前期の住居跡が25軒も台地の南側で検出されており、既に集落の形成がなされていたことがわかり、次の段階には住居跡数も急増してくる。

だが、集落の増加に比較してみるとこの周辺には古墳が少なく、それがどのような理由によるものなのかがはっきりとしていない。あるいは、既に他の地点に拠点を確立した豪族勢力の領域、つまり、その基盤を支える生産領域とそれに伴う労働力としての人々の生活の場としての機能を有するだけだったのかも知れない。

**奈良・平安時代（第13図）** この時代になると、集落は飛躍的に増大するとともに、台地の縁辺部から内部にかけてまで集落の場となってくる。それだけでなく、水田などの生産遺構も増加し、大規模な河川の管理や土木工事なども施されるようになってくる。集落の拡大はそのまま、国家事業としての上野国府や上野国分僧寺・尼寺などの形成をもたらす要因となるとともに、その運営などを可能にした勢力の存在を拡大していったと考えられよう。この背景には豪族勢力による大規模な造営活動の向上があげられる。その一つに氏寺としての山王庵寺の存在があげられる。

山王庵寺は前橋市総社町、現在の日枝神社を中心とした周辺に所在し、本遺跡から東に約600mの地点に位





第12図 国分横道跡周辺地形図

置する。この寺は昭和49年から7次にわたる発掘調査が実施されているが、残念ながら寺域の規模は明確でなく、寺院の伽藍配置も法起寺式と考えられるものの、講堂の位置などの問題もある。これまでに遺構としては塔、基壇建物、礎石建物、掘立柱建物などが、遺物としては瓦、三彩、緑釉陶器、灰釉陶器、金属製品、石製品などが出土している。それらの資料から白鳳期を始源とし、少なくとも11世紀の平安時代中期頃までで存在していたと考えられる。

また、出土した「放光寺」・「方光」などの文字瓦から文献史上の放光寺と推定されている。

放光寺については、これまでに尾崎喜左雄氏などにより研究がなされている。まず文献上で最も重要な上野國文替實録帳には、「定額寺 放光寺 件寺、依氏人申請不為定額寺、仍除放己了者。」と記載されている。このことから、尾崎喜左雄氏が既に述べられている点もふまえて、次のような問題事項が指摘できる。

1. かつて定額寺に所属していた。
2. 定額寺の筆頭に挙げられていることから、当時としてその地位に相当する寺であったと考えられる。
3. 寺の構造と所有物については記載されていない。
4. 定額寺からの除外に関しては氏人側からの申請であり、それに対して要望通りに処理されている。
5. 定額寺であるうえでの問題があったと考えられる。
6. 定額寺から除外されても維持していくことが可能である。あるいは逆であったのかも知れない。

放光寺については、高崎市山名町に所在する山ノ上碑に、「辛己歲集月三日記 佐野三家定賜健守孫黒売刀自、此 新川臣兒斯多々弥足尼孫大兒臣娶生兒 長利僧母為記定文也 放光寺僧」と記されている。このことから佐野屯倉家の出身である長利僧が、放光寺の僧であることがわかる。また、放光寺自体も佐野屯倉家の氏寺と推定されている。

この碑に記されている辛年とは、天武10(681)年であり、この時期は天武・持統天皇による飛鳥浄御原令の編纂開始、八色の姓の制定など律令国家の建設過程としての数々の事業が施されている。その結果として朝廷の勢力は拡大し、安定した国家としての体裁が整ってきた時期でもある。上野国の成立と確立もこれらを経て、次第に整って行ったものと考えられる。

**中・近世** この時期は上野国が周辺諸国の動向を強く受けるのであるが、そのなかでこの地域は長野氏の支配下にあったことにより、比較的安定していたと言える。だが、それも短い期間でしかなく、再び全国的な戦乱の中に明け暮れるようになっていき、本当の安定は江戸時代の始まりまで待たなければならなかった。

本遺跡周辺のこの段階はほとんど不明であり、はっきりと文献などに記述されてくるのは、北原村の設立段階からである。この村の歴史については、慶長13(1608)年1月20日付けの文書がその初現である。それは総社藩主秋元越中守長朝が元総社松田彦兵衛の子松田半兵衛に命じて、高井・青梨子・東国分の三村から18町9反13歩を割いて新村を作らせたとの内容であり、この新しい村が北原村である。

また、この地域の土地利用を考えるうえで、天狗岩用水は欠かせない。この歴史は、総社藩主秋元長朝が慶長6(1601)年から慶長9(1604)にかけて開削した用水路であり、吉岡村大字漆原から利根川の水を取り入れ、総社地区の灌漑用水として利用されるのである。



縄文



弥生



古墳



奈良・平安

第13図 縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代遺跡分布図

**現代** 北原村はその後も群馬郡群馬町の一つの集落としてあまり変化せずに最近まできたのである。その中で大きな変化は中群馬土地改良区による土地改良事業であり、北原工区については昭和33年度に竣工し、地積は13町6反で、内訳は熊野谷工区北原の一で地積が4町、熊野谷工区北原の二で地積が2町などである。それに並行して、農業用水の確保を目的に中群馬用水の建設が開始された。その内容の水源は天狗岩用水であり、電気モーターを用いて高所に揚水して灌漑地域は駒寄、総社、元総社、清里、堤ヶ岡、金古、中川、新高尾などである。面積は圃田254町、補給93町6、畑地灌漑1097町6、合計1445町2である。

また、本遺跡周辺では、群馬県養蚕試験場が開設されたが、その歴史は大正10年4月1日に桑園7町8反を有す養蚕試験場総社分場として発足、総社町史によれば、その内訳は山王6割、国分3割、その他が1割の割合である。大正12年3月1日からは養蚕試験場総社支場に発展、現在に至っている。この試験場のかつての試験畑の一部が、国分境遺跡の調査部分にかかっていたのである。

以上、各時代の概要について記述してきたが、その中で本遺跡に特に関連する遺跡としては、山王廃寺と上野国分僧寺と上野国分尼寺とがあげられる。

山王廃寺について現時点で最もまとめられた遺跡の内容は、『群馬県史 資料編2 原始古代2』（群馬県史編さん委員会編、1986）に収録されている、飯塚 誠・石川克博・田口正美・富沢敏弘・松田 猛の各氏によりまとめられており、ここに再録することとする。

「結 1 塔、金堂が東西に並列する伽藍配置をもち、伽藍の主軸方位を真北ととっている。

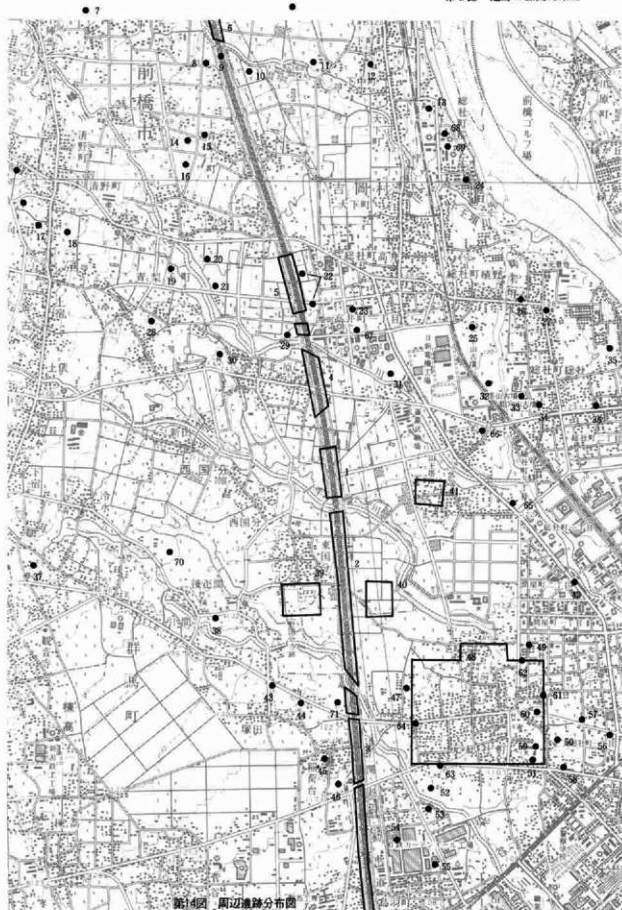
2 塔、金堂の基壇の造作の方法に違いが見られ、塔は掘り込み地形がなされ、瓦積み化粧を施していると考えられる。一方、金堂は旧地表面上に直接築き、切石を用いた基壇化粧のなされていたことが考えられる。

3 礎石建物Bは、基壇をもたず旧地表面上に直接礎石を据え付けたものだが、その規模、位置、方位などから判断して塔、金堂と同一時期のものとして考えられる。講堂的な性格を有する建物と考えられないだろうか。既出の石製鳥尾2個体はいずれもこの建物の北側に近い位置より出土しており、関連するものかもしれない。

4 遺構、建物の状態から遺跡の存続期間を探ると、掘立柱建物1は8世紀後半以前に廃絶したが、寺院中央部は平安時代中頃までは存続していたとみられ、特に塔の周辺では9世紀前半以降に再整備がなされている。A s-B降下以降の礎石建物Aも存在するが、塔、金堂、礎石建物B掘立柱建物1などがすべてA s-B降下以前に失われているものとみられる。したがって、A s-B降下以降の遺構はそれ以前のものとは性格が異なるものとおもわれる。ちなみに、遺跡内に寺院は現存しないが「昌楽寺廻り」を冠する地名が残っており、昌楽寺（現在前橋市元総社町3640所在）が存在していたとされている。したがって本廃寺は、7世紀後半の白鳳期から11世紀の平安時代中期頃まで存続していたものとみられる。

5 寺域については縁辺部が検出されていないので定かでないが、現在までに検出された遺構、遺物は東西270～280m（約二町半）の範囲内にある。南北については定かでない。堅穴住居のあり方からして、長期間のうちには寺域が狭まったことも考えられる。

6 「放光寺」「方光」などの文字瓦の出土から、放光寺なる寺名の寺であった可能性がでてきた。ただし、この文字瓦は奈良時代後半から平安時代前半のものともみられるものである。放光寺については六八一年建立とされる山上碑、1030年頃のものとする『上野国交替実録帳』中にもみられる。5で示した存続期間から



第14図 周辺遺跡分布図

## 第2章 遺跡の位置

遺跡番号	遺跡名(所在地)	遺跡の概要	文献
1	国分城遺跡 (群馬郡群馬町北原)	古墳時代後期から平安時代にかけての集落遺跡。聖穴住居跡150軒、溝、井、戸、地下式土坑。土坑などが検出された。さらに、墓内2個目の木棺などが出土した。	『年報1-3』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982-1984
2	上野国分寺・尼寺中間地域遺跡群 (前橋市元能社町・群馬郡群馬町東国分)	縄文時代中期、弥生時代から古墳時代前期、古墳時代後期から中世にかけての集落遺跡。聖穴住居130軒、土坑200基、溝多数が検出された。	『上野国分寺・尼寺中間地域遺跡』群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986-1988
3	鳥羽遺跡 (前橋市鳥羽町・群馬郡群馬町稲荷台)	縄文時代から江戸時代までの集落跡、奈良時代から平安時代の墓、諏訪・神社跡と推定される大型竪立柱建物跡・墓などが検出された。	『鳥羽遺跡』群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986・1988
4	北原遺跡 (群馬郡群馬町北原)	古墳時代のターフに伴う河川の記載で埋没した水田跡、奈良・平安時代の聖穴住居跡、竪立柱建物跡、溝、土坑。中世の溝などが検出された。	『北原遺跡』群馬県教育委員会・群馬町教育委員会 1986
5	下東西遺跡 (前橋市青梨子町・群馬郡群馬町馬町北原)	弥生時代から中世にかけての集落遺跡。なかでも8世紀初頭の竪立柱建物跡群とそれを取りまき溝と2軒の聖穴住居跡を隔てて連結した遺跡群が、官衙との関連で考えられている。	『下東西遺跡』群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987
6	大久保A遺跡 (北群馬郡吉岡村大久保)	奈良・平安時代の聖穴住居跡6軒、竪立柱建物跡。さらにA・Bに覆われた竪立遺構。中・近世の井戸跡、溝等が検出された。	『大久保A遺跡-七日市遺跡・滝沢古墳・女塚遺跡』群馬県教育委員会・吉岡村教育委員会 1986
7	清里・陣馬遺跡 (前橋市池端町・北群馬郡吉岡村陣馬)	縄文時代から平安時代までの集落遺跡。聖穴住居跡64軒、溝、土坑などが検出された。特に、多量の緑釉陶器が出土している。	『清里・陣馬遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981
8	清里・長久保遺跡 (前橋市池端町・北群馬郡吉岡村大久保)	縄文中期1軒、後期1軒の聖穴住居跡、古墳12基、平安時代の聖穴住居跡1軒、墓塚2基が検出された。	『清里・長久保遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
9	青梨子古墳 (前橋市池端町)	墳径40m、高さ3m、自然地形を利用した山古墳。長久保遺跡13号墳と同一である。	『年報1』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
10	大久保山古墳 (北群馬郡吉岡村大久保吉岡町)	直径12m、高さ2mの墳丘のみ残存する。	『群馬県遺跡台帳1』(東毛編)群馬県教育委員会 1971
11	古墳 (北群馬郡吉岡村大久保大松)	直径18m、高さ2mの墳丘が残る。	『群馬県遺跡台帳1』(東毛編)群馬県教育委員会 1971
12	古墳 (北群馬郡吉岡村大久保下町)	墳丘のみが残存する乱石積の円墳。文室巾1.6m、高さ1.0m、奥行2.7m。	『群馬県遺跡台帳1』(東毛編)群馬県教育委員会 1971
13	藤原古墳 (前橋市総社町野野)	墳丘は東平分と市の一部が閉り取られ、残存部分は南北17m、東西10mの円墳である。横穴式石室は浮石資材形状角瓦山出岩使用。	尾崎吉左衛門『第二編 古代上 第二章 豪族の支配と古墳の築造』前橋市史 前橋市教育委員会 1971
14	庚申塚古墳1号・2号 (前橋市上青梨子町)	1号墳は南北径12.7m、東西径12.5mの円墳、副塚は墳丘北西で幅1m、東で1.2m、両輪型の横穴式石室で自然石を用いた乱石積。2号墳は径15.9mの円墳・墳丘は幅3.4m、深さ0.5m、西は幅3.8m、深さ0.2m程の「床状副塚」、両輪型の横穴式石室は自然石の乱石積。	『清里・長久保遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
15	池端古墳 (前橋市池端町池端)	小石段の高所に石室の用材らしきものがあり、埋葬の施設を示すものと思われる。	『群馬県遺跡台帳1』(東毛編)群馬県教育委員会 1971
16	清里・庚申塚遺跡 (前橋市上青梨子町)	弥生時代中期後半の聖穴住居跡21軒の環状集落を中心とした遺跡で、平安時代の聖穴住居跡1軒、井戸、溝、土坑などが検出された。	『清里・庚申塚遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981
17	長久保古墳群 (北群馬郡藤原町新井梨子木長久保)	7世紀前後の前方後円墳2基と円墳20基。いずれも横穴式石室を有する。	『長久保古墳群発掘調査報告』日本商業史研究所 1978
18	諏訪古墳 (前橋市青梨子町諏訪町)	諏訪神社が祀られている丘陵頂上土殿には、石室の石材らしきものが散在する。埴輪破片もみられる。	『群馬県遺跡台帳1』(東毛編)群馬県教育委員会 1971
19	松ノ水遺跡(清里南部遺跡群) (前橋市青梨子町松ノ水)	平安時代の聖穴住居跡、溝、近世以降の土坑などが検出された。	『清里南部遺跡群』前橋市教育委員会 1980
20	藤原遺跡(清里南部遺跡群) (前橋市青梨子町藤原)	縄文時代から江戸時代までの遺構。ピット、地下式土坑、溝等が検出された。なお江戸時代の住居跡から鉛釉陶器、硯、墨書土器、瓦片などが出土した。	『富田遺跡群-西大塚遺跡-清里南部遺跡群』前橋市教育委員会 1980
21	中島遺跡 (前橋市青梨子町中島・中原)	奈良・平安時代から中世以降にわたる住居跡及びその他の遺構を検出。二彩陶器、風字硯、円面鏡が出土した。	『中島遺跡発掘調査概報』前橋市教育委員会 1980
22	下東西遺跡(清里南部遺跡群) (前橋市青梨子町下東西)	奈良・平安時代の住居跡、溝等検出。なお関連下東西遺跡の東側に位置する。	『清里南部群』前橋市教育委員会 1980

## 第2節 遺跡の歴史的環境

遺跡番号	遺跡名 (所在地)	遺跡の概要	文献
23	柿水遺跡 (前橋市高井町)	縄文・弥生時代の土器片、奈良・平安時代の住居跡、及び中近世の土坑などが検出された。	「柿水遺跡」前橋市教育委員会 1984
24	大神宮様古墳 (前橋市総社町榎野)	墳丘は殆ど破壊され、盛土は北東部から西南部にかけて残っている。その中腹には、石室の石材らしきものがみられる。	「群馬県遺跡台帳1」(東毛編)群馬県教育委員会 1971
25	総社二子山古墳 (前橋市総社町榎野)	前方部、後門部の2ヶ所に周溝の横穴式石室をもち全長約90m。馬廄は原型で幅30m前後。前方部石室は自然石乱石積、後門部石室の天井石以外は角閃石安山岩の割石を使用。	「群馬県史」資料3 群馬県 1981
27	大小路山古墳 (前橋市総社町総社東島)	径20m、高さ2m程の円墳で頂上は平坦化されている。石塔や頂上部に敷く石、及び石片が石室に使用されたものと思われる。	「群馬県遺跡台帳1」(東毛編)群馬県教育委員会 1971
28	柳原遺跡(清原南部遺跡群) (前橋市青梨子町柳原)	堅穴住居跡と溝が検出された。	「清原南部遺跡群」前橋市教育委員会 1980
29	北原遺跡 (群馬郡群馬町北原)	平安時代の堅穴住居跡などが検出された。	「昭和55年度現況文化財調査略報」群馬県教育委員会 1981
30	熊野谷遺跡 (前橋市青梨子町)	縄文時代堅穴住居跡4軒、堅穴状遺構1基、土坑9基、集石1基、平安時代堅穴住居跡25軒、掘立建物跡1棟、土坑50基、溝16条が検出された。	「熊野谷遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1989
31	八幡川遺跡 (前橋市総社町高井観音御治)	多量の土師、須恵器片にまじって施釉陶器の破片がみられる。	「群馬県遺跡台帳1」(東毛編)群馬県教育委員会 1971
32	愛宕山古墳 (前橋市総社町総社)	巨石を使用した横穴式両袖型石室をもつ円墳。石室内に凝灰岩製の家型石棺が安置、壁石は巨石の輝石安山岩を乱石積にしている。一部角閃石安山岩も認められる。	「群馬県史」資料3 群馬県 1981
33	宝塔山古墳 (前橋市総社町総社)	東西49m、南北54m、高さ12mの方墳である。南面に開口する横室の横穴式両袖型石室には、輝石安山岩と角閃石安山岩が使用され、津波が堆積されている。玄室には胸部が格状開型の家型石棺が安置されている。終末部古墳の典型的なものである。	「群馬県史」資料編3 群馬県 1981 「群馬県史古墳群」観光資源課調査団 1977
34	蛇穴山古墳 (群馬郡群馬町榎野)	墳丘東西43.4m、南北39.1mの古墳。石室は角閃石安山岩使用の平軸石切積構造の横穴式両袖型石室。奥壁、左右壁、天井ともに一石づつで巨石で積成されている。羨道がなく直接前室に至る。	「群馬県史」資料編3 群馬県 1981
35	遠見山古墳 (前橋市総社町総社東島)	主軸の長さは約70mの前方後円墳。後円部の東南部分には封土が流れ石室の位置を示す。墳丘北北には遺溝の一部や墓石が認められる。	「群馬県の遺跡」群馬県教育委員会 1963
36	蕃師様古墳 (前橋市総社町総社東島)		「全国遺跡地図」群馬県 文化庁 1977
37	北原保護古墳群 (群馬郡群馬町榎野北原保護)	円墳が9基ある。内8基は径10～20m、高さ2～3mの小円墳。1基は径40m、高さ7mである。しかしそのほとんどは平夷されており、1基のみ石室が認められる。	「群馬県の遺跡」群馬県教育委員会 1963
38	散布地・古墳 (群馬郡群馬町引間古墳敷)	古墳・奈良時代の石製蔵器身器、板破片、土師・須恵器等がある。	「群馬県遺跡台帳目録」(西毛編)群馬県教育委員会 1972
39	上野国分僧寺跡 (群馬郡群馬町東国分村前・引間石室)	東西・南北、約220mの方形の中に金堂、講堂、塔、南大門・中大門跡などが想定されている。礎石、瓦など多数散布している。	「上野国分寺周辺地域発掘調査報告」群馬県教育委員会 1971
40	上野国分尼寺跡 (前橋市光総社町小見、群馬郡群馬町国分)	金堂・講堂などの存在を確認。古瓦、土師・須恵器の破片が散布している。	「上野国分寺跡発掘調査報告」群馬県教育委員会 1970・1971
41	山王庵寺跡「放光寺」 (前橋市総社町総社昌楽寺)	伽藍の形態は不明だが、瓦の散布状況が北は安奈試験場の周辺から西は旧国府村北原の付近、南は塔跡の南300～400mまでの範囲である。第7次発掘調査まで実施されており、金堂跡(基壇建物跡)と塔基壇が確認されている。	「山王庵寺跡発掘調査報告書」前橋市教育委員会 1975～1982
42	福向山古墳 (前橋市総社町福向塚)	墳丘はほとんど平坦化され、その中央部のみが径10数m、高さ2m程残っている。	「上毛古墳総覧」No.1 群馬県 1938 「群馬県遺跡台帳1」(東毛編)群馬県教育委員会 1971
43	墓 (群馬郡群馬町福向台北側尾)	土師・須恵器等が出土している。	「群馬県遺跡台帳目録」(西毛編)群馬県教育委員会 1972
46	元総社明神遺跡 (前橋市元総社町)	古墳時代から平安時代の住居跡、溝、土坑、井戸、中世の溝等検出。又旧石器・縄文・弥生時代の遺物が出土している。	「元総社明神遺跡1～Ⅱ」前橋市教育委員会 1982～1984

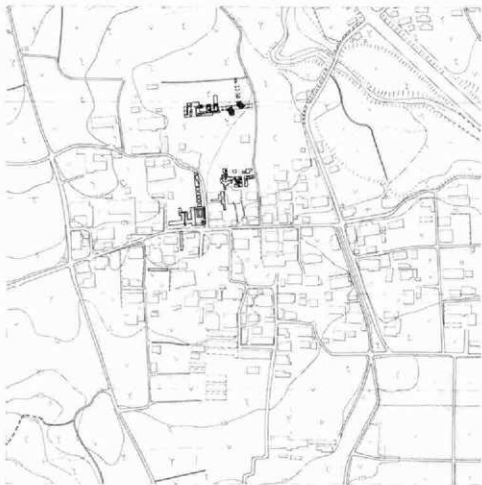
## 第2章 遺跡の位置

遺跡番号	遺跡名 (所在地)	遺跡の概要	文献
47	草作遺跡 (前橋市元総社町)	古墳時代後期4軒、平安時代7軒、井戸3基、溝、土坑を検出した。	『草作遺跡』 前橋市埋蔵文化財調査団 1985
48	上野国府跡 (前橋市元総社町他)	国府城の範囲については、いくつもの説が出されているが、いまだに決定的な遺構がみられない。	尾崎喜左衛門「第三編 古代下 第一章 国司政治」『前橋市史』第1巻 前橋市教育委員会 1971
49	閑泉橋遺跡 (前橋市元総社町)	古墳時代の竪穴住居跡、奈良・平安時代及び中世の溝が検出された。	『年報2』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
51	元総社小学校校庭遺跡 (前橋市元総社町)	古墳時代の住居跡と竪柱建遺構が検出されている。	尾崎喜左衛門「第三編 古代下 第一章 国司政治」『前橋市史』第1巻 前橋市教育委員会 1971
52	染谷川遺跡 (前橋市元総社町)	古墳時代の土師器片が散布。	『群馬県遺跡台帳1』(東毛編)群馬県教育委員会 1971
53	弥勒山古墳 (前橋市元総社町弥勒)	1924年発掘時は高さ8尺、径66尺の円墳で金環、刀等の出土が認められた。1964年時は墳丘はほとんど削り取られ、角閃石安山岩の覆石による石室も、すでに破壊されている。	『群馬県史』資料編3 群馬県 1961
54	弥勒遺跡(墳墓) (前橋市島町弥勒山)	中世墳墓と思われる。地下約30cmの地点で自然石の覆石が埋められてあり、その中に陶器片と板碑片が発見された。	『群馬県遺跡台帳1』(東毛編)群馬県教育委員会 1971
55	早道遺跡A・B (前橋市島町)	土師器片が散布。中でも2個体分の蓋形土器の口縁部が出土した。	『群馬県遺跡台帳1』(東毛編)群馬県教育委員会 1971
56	橋越遺跡 (前橋市元総社町)	溝1条、土坑13基が検出された。	『橋越遺跡』 前橋市埋蔵文化財調査団 1986
57	塚越遺跡 (前橋市大支町)	竪穴住居跡18軒、井戸跡4基、溝16条、土坑53基が検出された。	『塚越遺跡』 山武考古学研究所 1988
58	神明東遺跡 (前橋市元総社町)	竪穴住居跡6軒、土坑6基、溝5条、竪穴状遺構1基が検出された。	『神明東遺跡』 前橋市教育委員会 1987
59	寺田遺跡 (前橋市元総社町)	トーフA降下以後に掘削された大溝と水口遺構、多量の木製品が検出された。	『寺田遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986
60	大友屋敷遺跡 (前橋市元総社町)	古墳時代中期1軒、後期2軒、奈良・平安時代2軒の竪穴住居跡、溝3条、土坑1基が検出された。	『大友屋敷遺跡』 前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1987
61	塚越目遺跡 (前橋市大支町)	平安時代竪穴住居跡6軒、土坑2基が検出された。	『塚越目遺跡』 前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988
62	閑泉橋南遺跡 (前橋市元総社町)	竪穴住居跡4軒、土坑5基、溝2条、竪穴状遺構1基が検出された。	『閑泉橋南遺跡』 前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986
63	天神遺跡 (前橋市元総社町早道)	竪穴住居跡32軒、土坑14基、井戸跡3基が検出された。	『天神遺跡』 前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1987
64	屋敷遺跡 (前橋市元総社町)	竪穴住居跡5軒、井戸2基、溝1条が検出された。	『屋敷遺跡』 前橋市教育委員会 1987
65	昌楽寺廻向目遺跡 (前橋市元総社町総社字昌楽寺廻り村敷)	竪穴住居跡4軒、土坑6基、ピット4基、井戸跡1基が検出された。	『昌楽寺廻向目遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988
66	村東遺跡 (前橋市元総社町総社)	竪穴住居跡21軒、溝1条、集石遺構1基、中世の堀1条が検出された。	『村東遺跡』 前橋市教育委員会 1988
67	青葉遺跡 (前橋市高井町)	竪穴住居跡1軒が検出された。	『青葉遺跡』 前橋市教育委員会 1988
68	総社塚ヶ丘目遺跡 (前橋市元総社町塚ヶ丘)	竪穴住居跡1軒が検出された。	『総社塚ヶ丘目遺跡』 前橋市教育委員会 1988
69	総社塚ヶ丘遺跡 (前橋市元総社町塚ヶ丘)	平安時代の竪穴住居跡14軒、土坑3基、中世以降の溝2条、竪穴遺構1基が検出された。	『総社塚ヶ丘遺跡』 山武考古学研究所 1985
70	後定間遺跡 (群馬郡群馬町後定)	古墳時代後期から平安時代にかけての竪穴住居跡が多数検出された。	『後定間遺跡』I・II・III 群馬町教育委員会 1986、1987、1988
71	塚田村東遺跡 (群馬郡群馬町塚田)	平安時代の集落。竪穴住居跡15軒、井戸1基、溝3条、土坑9基が検出された。	『塚田村東遺跡調査概報』 群馬町教育委員会 1986

すれば、三者を同一としても年代的には矛盾はない。もし、三者を同一とみれば、7世紀後半から11世紀中葉に至る放光寺を遺跡と文献資料の両面から据えられることになるが、考古学、文献史学各々の立場からなお検討が必要である。

7 上野国における古代寺院の中でも最も古い時期に造営されたグループに属するものである。根巻石、塔





第15図 山王廃寺周辺図

心礎、石製駒尾などは白鳳期における石造文化の水準の高さを示すばかりでなく、古墳文化から仏教文化への過渡期の遺産としても注目される。

8 出土軒丸瓦が各種あるが、大別して国分寺造営以前の時期のもの、国分寺造営以後のものがあり、様相を異にしているが、前者、後者とも県内他遺跡と同范関係を有するものがあり、本遺跡と他遺跡とのつながりなどを究明する手がかりを与えている。また、各種の瓦に製法上の相違がみられることも合わせて注目される。」

上野国分僧寺については前沢和之氏がまとめており、その概要は下記の通りである。（「上野国分寺と「上野国交梓実録板」」 亀田隆之先生還暦記念会編 『律令制社会の成立と展開』 吉川弘文館 1989）

1. 寺域は金堂を中心に東西北の三辺が一町、南辺が最短部で一町になるように設定されている。
2. 創建時期は、8世紀前期の竪穴住居を埋め立てて整地し、そこに建物を造っていることから8世紀前期または中期と考えられる。
3. 南辺築垣が崩壊した跡に11世紀初頭の竪穴住居が造られていることから、この時期にはかなり荒廃していたと考えられる。

山王廃寺は本遺跡の存続時期とほぼ同じであり、国分寺はそれよりやや新しく、廃絶時期は不明であるが、共存していた期間が3百年ほどあり、本遺跡とこれらの寺院との関係がかなり密接であった可能性を考える根拠といえる。

## 第3章 検出された遺構・遺物

### 第1節 古墳時代後期～平安時代

#### 第1項 概要

本遺跡からは、遺構としては堅穴住居跡168軒、溝29条、地下式土坑1基、土坑17基、掘立柱建物跡5棟、井戸2基、畠などが検出されており、所属する時期も7世紀後半から11世紀前半までを主体としており、すなわち古墳時代後期の終末から平安時代までの約四百年もの期間にわたり途切れることなく、集落が営まれていたことがわかる。

また、出土した遺物も土師器（坏・甕）、須恵器（坏・高台付碗・高台付皿・高坏・甕・壺・長頸壺・横瓶・提瓶・壺・蓋・盤）、灰釉陶器（高台付碗・高台付皿・耳皿・長頸壺・小瓶）、緑釉陶器（高台付段皿・水注）、瓦（鏡・宇・王線付・男・女）、鉄製品（鎌・刀子・鉄鏃・紡錘車・釘）、石製品（紡錘車・砥石・こも編み石）、木製品（櫛・曲物・容器・蓋・鏝・鋸・建築材）、種子、馬歯など、多種類に及ぶ。

次に、本遺跡の特徴を、遺構、遺物別に項目毎に以下に記述してみることにする。

#### 遺構

1. 住居跡の時期は7世紀後半から11世紀前半まで認められる。
2. 地下式土坑が1基検出されており、出土した土器から墓としての機能を有していたと考えられる。
3. C区1号井戸から出土した多量の瓦がすべて国分寺系統であり、山王庵寺との関係が目ざされる。
4. 集落と洗い場などの使い分けなど、いくつもの段丘面の利用について興味深い点が認められる。
5. 旧河道縁辺の洗い場の存在と周辺の遺物出土状況が、集落との関係を知る上で重要である。
6. 平安時代初頭に崩壊した土手により洗い場の機能が停止した点が興味深い。
7. 住居跡の分布傾向から集落の形成についてなんらかの規制が認められる。

#### 遺物

8. 7世紀後半の土器群の様相をよく示す集落遺跡である。
9. 猿投産と考えられる緑釉陶器の水注が破片ながら出土している。
10. 灰釉陶器も黒笹14号窯段階や90号窯段階、光ヶ丘段階が他の集落遺跡よりも多い傾向を示す。
11. 全体では光ヶ丘段階が主体を占め、大原、丸石段階は少ない傾向が認められる。
12. 牛や鹿などと考えられる黒土土器が破片だが1点出土しており、8世紀前半のものと考えられる。
13. 平城Ⅰ段階の坏Cに対比される畿内産土師器が出土している。
14. 7世紀から8世紀にかけての櫛や曲物、鏝や鋸などの木製品が出土している。
15. 木筒1点と木筒状の破片50点が出土している。
16. 木筒からの転用としての定木が出土している。
17. 欠損しているもの櫛が出土している。
18. A区旧河道から桃などの種子が多数出土している。
19. A区旧河道から馬歯や牛歯が出土している。

20. 暗土器がA区旧河道を中心に出土している。  
 21. 銅の佐波理輪の口縁部の破片が出土している。

定木とは何かというと、目盛りとしての定規と異なるものの、戸籍などの公文書や写経などの文書の作成に用いられる行枠の繰り引き用具の事である。さらにこれらの公文書はその種類によって枠の長さや形、それに幅などの形態が異なるが、それに応じて定木もそのきざみ位置や数、それに行間の幅が変わってくるという事である。つまり、たとえば写経用のものはその長さが十寸（約30cm）で、上下両端から一寸一分（約33mm）の距離の位置に一つずつの計二つのきざみがあるという事であり、このように公文書などの文書類それぞれに応じた定木が存在したという事である。逆にいえば現在まで残っていたり、あるいは遺跡から出土した定木から文書類の推定が可能であるとも言える訳である。また、断面の若干の湾曲は紙などの物の上にのせた時のズレを防ぐとともに、墨で線を引く際に定木に墨が付着し紙面などを汚す事を防ぐ役割を果たすためのものという事である。

上記のうちのいくつかについて、記述することとする。

緑釉陶器に関しては、東京国立博物館学芸部工芸課陶磁室長の矢部良明氏に鑑定をお願いした。

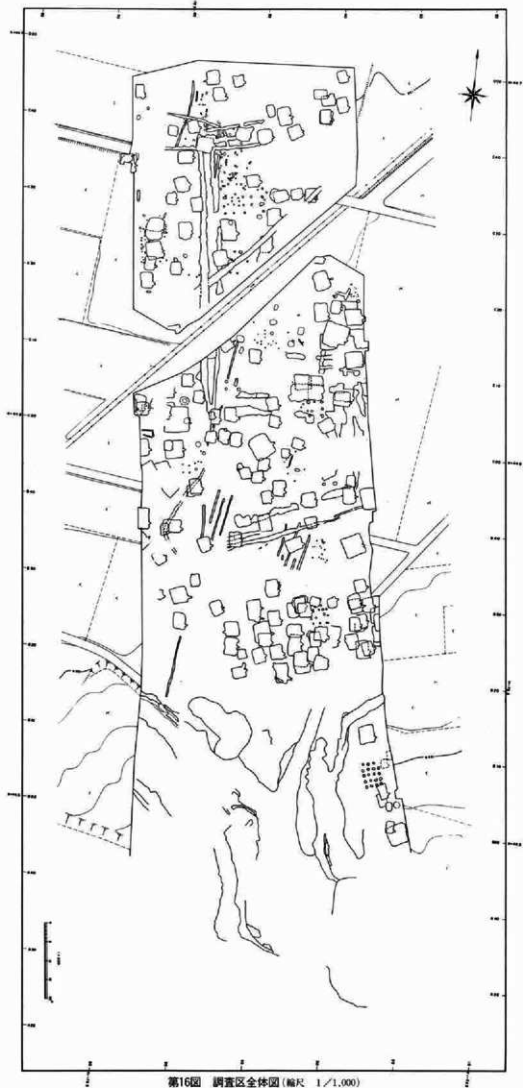
この遺物は手付水注であるが、頸部から身の肩にかけての部分の破片であり、扁平な把手の接合部分が残存している。口縁部や底部の破片は無く、形状は不明である。注口部分の存在も不明確である。出土状態もB区7号住居跡埋没土中やC区5号溝から破片として出土しており、確実にどの遺構に伴うものなのかははっきりしていない。ただ、B区7号住居跡の貯蔵穴から出土している耳皿は、黒笹90号窯様式から折戸53号窯様式にかけての時期、つまり10世紀前半から後半に位置し、この年代も参考資料となる。

まず、胎土自体はかなり赤みを帯びており、今までの資料に無いものであるが、器形は典型的な日本の緑釉陶器であるとのことである。特に把手部分の断面がホームベースの形状になる点や調整方法は日本的であり、埼玉県大里郡岡部町の西浦北遺跡から出土している緑釉陶器の水注に類似しているが、資料としてはむしろ本遺跡の方が良く、この種の資料を見るのは初めてとのことである。ただ轆轤ろくろの使用や硬くて重い作りである点は日本的でないとのことでもある。時代は10世紀前半から中頃（第2四半期）と考えられるが、矢部氏は最近の灰釉陶器や須恵器の福年自体はやや古く遡らせ過ぎていると考えているとのことであり、共存遺物についても同様に考えていく必要がある。なお、この資料には中国の越州系磁器が共存してもおかしくないと言うことでもある。

本遺跡からは量は多くないものの、他に2点の緑釉陶器が出土している。従来、緑釉陶器は国衝などの役所や寺院、あるいはそこに付属する集落遺跡を中心に出土することが多いと言われている。

本遺跡に近接する山王麿寺の寺域からは、緑釉陶器の手付水注1点と碗3点、それに皿4点が一括で出土しており、11世紀の所産と考えられている。本遺跡もこの寺院の寺域に含まれると考えられることから、特殊な器種である水注の存在も当然のことと言える。

また、周辺の遺跡では、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群や清里・陣馬遺跡などから多量に出土しており、これらの遺跡を含めた地域が古代の上野国の中心地域と考えられていることから、猿投窯などの灰釉陶器生産地からの流通経路そのものからの流入が容易な地域であると言える。



第16図 調査区全体図(縮尺 1/1,000)

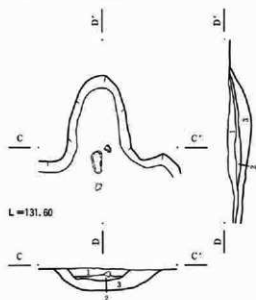
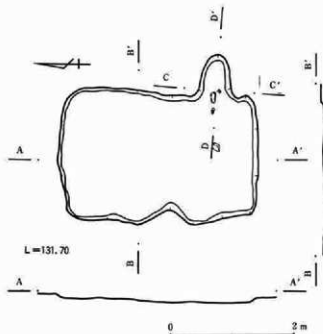
## 第2項 A区

A区は牛池川に接する本遺跡で最も南側部分である。また、台地上の部分は東側のほんの一部分だけであり、大部分は牛池川により形成された段丘面と河川敷である。ここからは、4軒（本当は5軒であるが、調査時のミスでそのうちの1軒がB区の遺構として登録されてしまった）の竪穴住居跡が検出されている。さらに、第1次調査ではB区9号溝と呼称された大溝が、第3次調査段階で牛池川の旧河道と確認され、埋没土層の観察からその形成がHr-FPの堆積以後で、As-Bが堆積する段階前にはすでに埋没が終了していたと考えられる。

## A区1号住居跡（図版第17図、写真図版5-1・2、74）

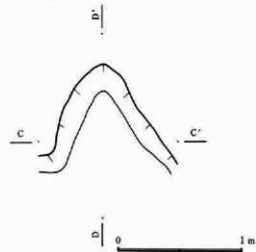
23-B-00グリッドに位置し、重複関係はA区2号住居跡に後行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.2m、東西約2.1mで、面積は約6.5m<sup>2</sup>を測る。地山を掘り込んだだけの床面は全く平坦である。壁高は僅かに5cm程と浅く緩やかに立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されず、遺物もほとんど認められない。

カマドは南東隅に位置し、確認面から浅いために遺存状態は良好でない。規模は燃焼部が幅36cm、奥行き74cmと浅く、煙道部は緩やかに住居外に約66cm延びるが、両袖は明確でない。燃焼部内にある石は支脚の可能性がある。カマド掘り方は深さ約8cm掘り込んだ後、土で埋め戻している



## カマド

1. 黒褐色土 C F 層含、ローム層多含。
2. 黒色土 灰少含、焼土含む。
3. 暗褐色土 ローム塊主体。



第17図 A区1号住居跡跡面・出土遺物図

### 第3章 検出された遺構・遺物

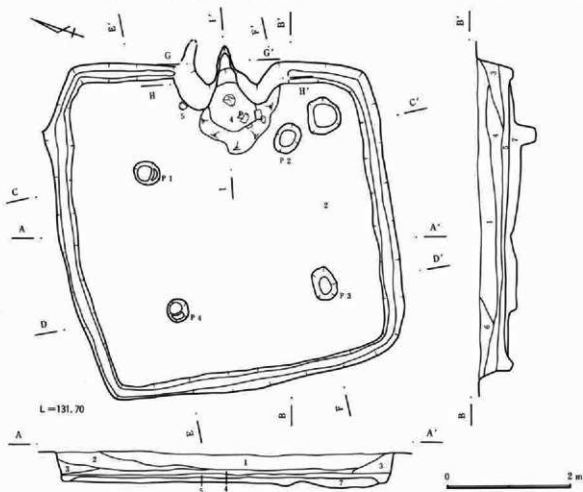
る。遺物は燃焼部から文字瓦が出土している。

住居の廃絶時期は遺物が少ないためにはっきりしないが、住居跡の形態から10世紀の可能性が高い。

#### A区2号住居跡 (図版第18・19・20図、写真図版5-3-5)

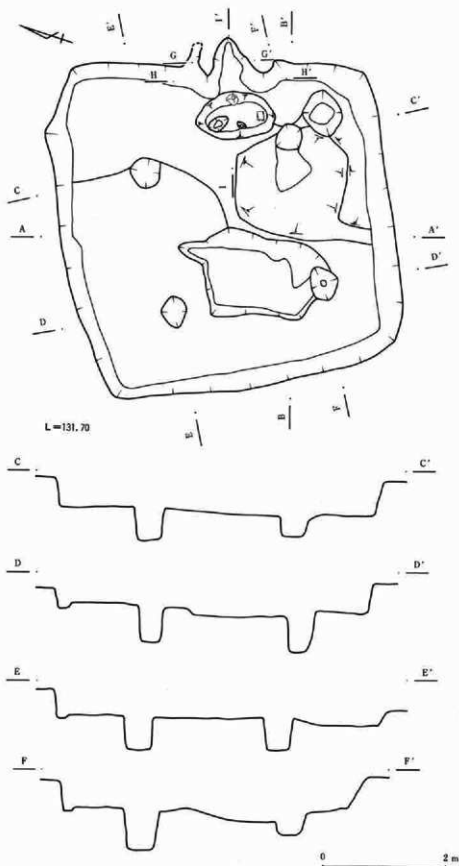
20-A-49グリッドに位置し、重複関係はA区1号住居跡、B区24号住居跡に先行する。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北約5.3m、東西約5.3mで、面積は約25.2㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約40cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝はカマド部分を除くすべての壁際に幅5-7cm、深さ5cm前後で検出され、その遺存状態も良好である。柱穴は掘り方調査時に4基を検出した。P1は直径約35cm、深さ約55cm、P2は直径約38cm、深さ約36cm、P3は直径約35cm、深さ約58cm、P4は直径約37cm、深さ約67cmを測る。柱穴の間はP1-P2間230cm、P2-P3間240cm、P3-P4間240cm、P4-P1間225cmである。貯蔵穴は南東隅に位置し、直径約60cmのほぼ円形を呈し、深さ約36cmを測る。掘り方は床面より約20cm程掘り込み、ロームを主体とする暗褐色土の貼り床を施している。遺物は床面中央に完形に近い坏、カマド周辺に長甕の破片と完形の坏が出土している。

カマドは東壁のほぼ中央部に位置し、遺存状態は比較的良好である。規模は燃焼部幅84cm、奥行き約172cm



- |                       |                       |                 |
|-----------------------|-----------------------|-----------------|
| 1. 黒褐色土 C P多含、ローム塊含む。 | 4. 暗褐色土 C P・ローム塊含む。   | 掘り方             |
| 2. 黒褐色土 C P・ローム塊多含。   | 5. 暗褐色土 C P少含、ローム塊含む。 | 7. 暗褐色土 ローム塊主体。 |
| 3. 暗褐色土 C P・ローム塊多含。   | 6. 暗褐色土 ローム塊含む。       |                 |

第18図 A区2号住居跡図(1)

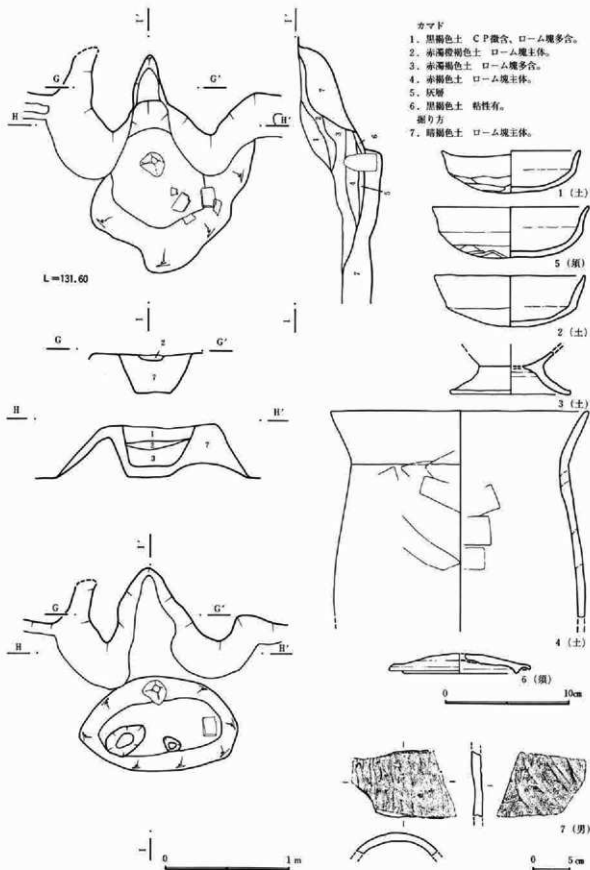


第19図 A区2号住居跡図(2)

で、煙道部は緩やかに住居外に60cm延びる。両袖は東壁から60～70cm程住居内に張り出す形で残存する。また燃焼部中央に角錐状に切り出した石を用いた支脚が存在する。カマド掘り方は前方部を楕円形に深さ12～22cm程掘り込んだ後、土で埋め戻しているが、支脚を固定させるための掘り込みもしっかりしている。袖は右袖の先端部分で石を構築材としており、左袖の先端と考えられる部分にも掘り込みが認められることから、かなりしっかりと両袖が構築されていたと考えられる。遺物は燃焼部から右袖付近にかけて甕の破片がいくつか、左袖の周辺に須恵器の坏が出土している。

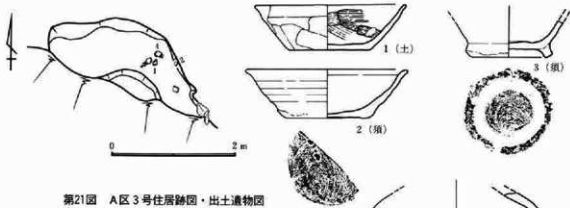
住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

第3章 検出された遺構・遺物



第20図 A区2号住居跡図・出土遺物図(3)





第21図 A区3号住居跡図・出土遺物図

**A区3号住居跡 (図版第21図)**

37-A-33グリッドに位置し、重複関係は無い。他の竪穴住居跡よりもかなり離れた位置に存在している。北東隅部分が残存するだけで、平面形態は不明である。地山を掘り込んだだけの床面は堅く平坦である。残存する壁高は約25~30cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されていない。遺物は土師器や須恵器の坏、壺などが北東隅部分に集中して出土している。

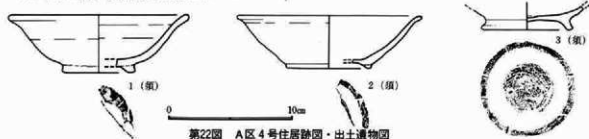
カマドはおそらく東壁の中央部付近に位置したために、削平されてしまっていると考えられるが、あるいは、調査時の確認段階の見落としによる掘り過ぎの可能性もある。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

**A区4号住居跡 (図版第22図)**

40-A-35グリッド、旧河道の縁辺の傾斜変換部分に位置し、この住居跡も他の竪穴住居跡よりもかなり離れた位置に存在している。A区3号住居跡と近接しているものの重複関係は無いと考えられる。A区3号住居跡と同様に東側半分が残存するのみで平面形態は不明である。地山を掘り込んだだけの床面は堅く平坦である。壁高は北部分が約20cmを測るのに対して、南側部分は壁が不明確であり、緩やかに立ち上がるか、ほとんど壁すら確認できない状態の部分も存在する。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。遺物は南東隅付近にやや集中して出土している。

カマドはA区3号住居跡と同様にお



第22図 A区4号住居跡図・出土遺物図

### 第3章 検出された遺構・遺物

そらく削平されていると考えられる。

住居の廃絶時期は遺物から9～10世紀と考えられる。

**旧河道** (図版第23～47、419～427図、写真図版5-6～11、70～73、137～145)

牛池川に接した中位段丘面でも第1次調査時の西側部分から、南東方向に走行する幅6m程の大溝が検出され、埋没土層中に約10cmのA～Bの純層がほぼ水平な堆積状態で確認された。一方、東側部分の調査では試掘調査時のトレンチ部分に再度重機による約3mの掘削を実施してみたが、遺構の立ち上がりだけでなく低部をも検出することができず、調査の最中に多量の水が湧き出てきたことと、埋没土層そのものが砂状であったためにトレンチ周辺が急速に崩れ始めたことなどの安全面の問題と、それに側道工事開始の日程が迫っているという事情による調査期間の延長がほぼ不可能な状況であったという問題から、調査は断念せざるをえなくなり、その正確な把握は本線部分の調査にまかせることとなった。これを受けて第3次調査では中位段丘面だけでなく、12月から3月までという冬間の厳しい寒さの中、下位段丘面や河川敷部分をもすべて掘削して詳細な調査が実施された。その結果、当初考えられていた大溝という人為的な遺構ではなく、遺跡のすぐ南側を南西方向に流れている牛池川の旧河道であることが判明した。これ自体は遺構とは呼称できないが、その縁辺部に台地面から下ってくるための階段状の遺構や、石組をもった洗い場と考えられるテラス面の広場のような遺構が検出されており、集落での生活行動に関連する部分と認識できる。

また、旧河道内からは、このいくつかの洗い場を中心とした付近からやや下流域にかけて多量の土器(特に土師器の坏を中心としている)と木製品(櫛や曲物などの生活用具、それに鋤・鍬などの生産用具を中心としている)、それに種子(桃・夕顔・トチノミなど)が出土している。

そして、台地の最も南側部分の土手がなんらかの理由で崩れた際に、その土砂によって河道が埋まってしまったものと考えられる。

このような遺構に類似する資料としては、すぐ南側の台地上に位置する上野園分僧寺・尼寺中間地域遺跡群の南端、染谷川に接した河川敷部分に存在する遺構があげられるが、主として井戸を中心としていることから、土器や木製品が多量に出土した本遺跡の旧河道とは性格が異なると考えられる。

旧河道の縁辺部分からは前述したように、いくつかの洗い場や石が集まった部分が検出されているが、その中で代表的な遺構について、個別にみていくこととする。

#### 第1号洗い場 (図版第23図、写真図版5・6)

46-A-48グリッドに位置する。ほぼ直線的に並べた大きめの石を主体に、大小の石が「コ」の字状を呈するように並べられている。特に、小さな石は内側に敷き詰められるような形で存在する。

#### 第2号洗い場 (図版第24図、写真図版5・6)

46-A-47グリッドに位置する。第2号洗い場と同様に、ほぼ直線的に並べた大きめの石を主体に、大小の石が「コ」の字状を呈するように並べられており、小さな石が内側に敷き詰められている。

#### 第3号洗い場 (図版第24図、写真図版5・6)

44-A-49グリッドに位置する。他の洗い場と同様に、ほぼ直線的に並べた大きめの石を主体に、大小の石が「コ」の字状を呈するように並べられているが、その間隔はややまばらであり、内側に小さな石はまばらにあるものの、敷き詰められたような形ではない。

#### 第1号集石 (図版第25～28図、写真図版6)

42-A-48グリッドに位置する。前述した洗い場と異なり、大部分が大きめの石からなっている。それらの石を幾重にも積み重ねたような状態で構築しており、すべての石を取り除いてみると、長軸360cm、短軸



- A-A'
1. 明褐色泥土 粘土層の層状現。
  2. 暗茶褐色泥砂 粘土のある砂質土、粒子は細かい。
  3. 茶褐色泥砂 粒子は細かいが粘性は少ない。
  4. 灰褐色砂 粗砂の層状現。
  5. 明茶褐色砂土 極めて砂質に富み、水の影響によって赤変している部分が多い。
  6. 暗茶褐色泥砂 粘性に富む茶く黒く硬まった肥質土層、赤変した砂層を多含。
- L=123.60
- E-E'
1. 厚砂 0.5-1mの層を多く含む。
  2. 灰褐色泥砂 締まりよく粘性ややある。明黄褐色土塊を多含。
  3. 暗黄褐色泥砂 やや締まりよく粘性ややあり、明黄褐色土粒を含む。
  4. 明黄褐色泥砂 締まりよく粘性あり、明黄褐色土粒を含む。
  5. 暗黄褐色土 締まりよく粘性無い。
- 2号穴い場
- D'-E'
1. 暗灰褐色泥砂 締まりよく粘土に粘性あり、明黄褐色土粒を多含。
  2. 暗灰褐色泥砂 よく締まり粘性なし、明黄褐色土塊を含む。
  3. 暗褐色砂 よく締まり粘性なし、塊状堆積である。
  4. 灰褐色泥砂 締まりなく粘性に富む、明黄褐色土塊を多含。

第23図 A区旧河溝1号穴い場(1・2)

### 第3章 検出された遺構・遺物

148cmの楕円形の掘り込みの中に、さらに直径82cm、深さ86cmと、直径113cm、深さ86cmの二つの円形の掘り込みが認められる。だが、遺構の性格は不明である。

#### 第2・3号集石 (図版第29図、写真図版6)

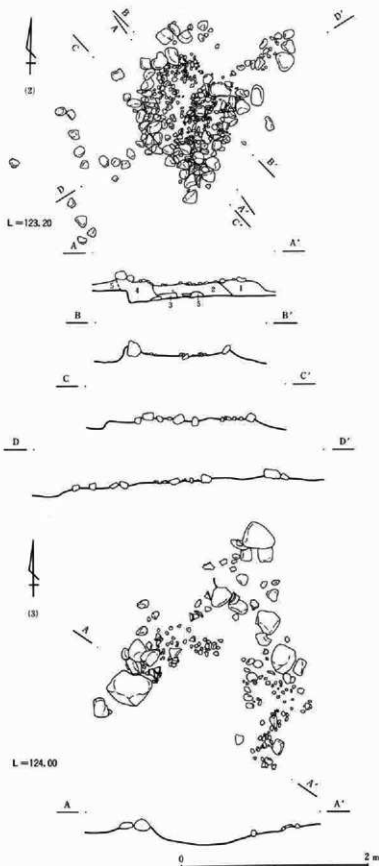
44-A-49グリッドに位置する。大きめの石がほぼ二列に集まったような形であるが、第1号集石と異なり、下部に遺構は認められない。

#### 木製品 (図版第419-427図、写真図版137-145)

櫛や曲物、容器などの生活用具、二又鉞や鋤などの農具、それに建築材や不明加工品が出土している。一緒に出土している土師器の坏や須恵器などの形態から、7世紀後半から8世紀前半の時期にかけての遺物を中心していると考えられる。最も新しい時期では10世紀代位の資料もあり、ほぼ集落の存続期間に相応している。このことから、集落で使用されていたものが破損などの理由で洗い場などから川に廃棄されるなどしたものと考えられる。

また、木簡及び類似資料50余点も出土していることから、赤外線テレビ観察を実施したが、残念ながら文字が存在したのは1点のみで、二行の記載であるものの判読不能であった。表面に認められた紐状の痕跡に関しても、一端の加工面と平行でない事からあまり注目するものではない。

だが、木簡以外の可能性として、定木ではないかということが注目される。これは自然乾燥による反りや



第24図 A区旧河道2・3号洗い場遺構

変色が認められる点を考慮しても、特徴的な事項として下記の項目があげられるという事からである。

その第一点は表面に加工がほとんど施されていないのに対して、表面側の加工は非常に丁寧に削り出しており、さらには磨いているような感じが認められる事、第二点にはその仕上がりが一定である事、第三点には面取りされた両側面から得られる幅がほぼ一定である事、第四点には断面が厚さ約4mmの偏平なカマゴコ状を呈する事、第五点には木簡としての下端が定形であるのに対してもう一端が欠損して原状を失っているものの、それが切断によるほぼ直線的な折り取り部分の様子を呈している事、第六点には一側面に二つの割れが認められ、一つは自然乾燥から生じた割れと思われるものの、もう一つは観察結果から人為的なきざみである可能性が非常に高いとみられる点、などから定木と考えられるという事である。

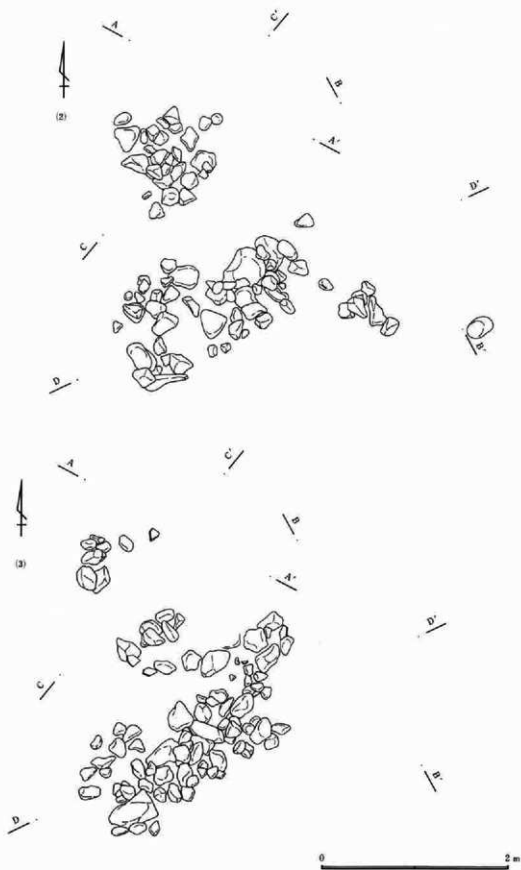
この他にも、同様の形態を呈している破片が数点認められるものの、積極的に同種の資料と認める根拠がやや乏しい。

だが、実際にはこうした定木などは役所や寺院などでは消耗品としての扱いであったのだろうか、これまでほとんど知られていない。これまでに定木が検出された事例としては、京都府長岡京市の長岡京跡からの公文書用、岩手県胆沢市の胆沢城跡からの公文書用、宮城県仙台市の郡山遺跡からの写経用、石川県金沢市の山岳寺院跡である三小半ハク遺跡からの写経用の四例だけであり、このうちの金沢の出土例は廃棄後に木簡として再利用している。国分境遺跡の資料も同じように木簡として再利用されたものと考えられるという訳である。また、それぞれの資料の年代も8世紀前半前後という事であり、この点でも国分境遺跡の資料とはほぼ同様である。

このように官衙跡や寺院跡などの公文書類が必要とされる場所から出土しているという事であり、その意味から国分境遺跡もそれに準じる遺跡の性格、あるいは周辺での関連した遺構の存在などを想定しなければ



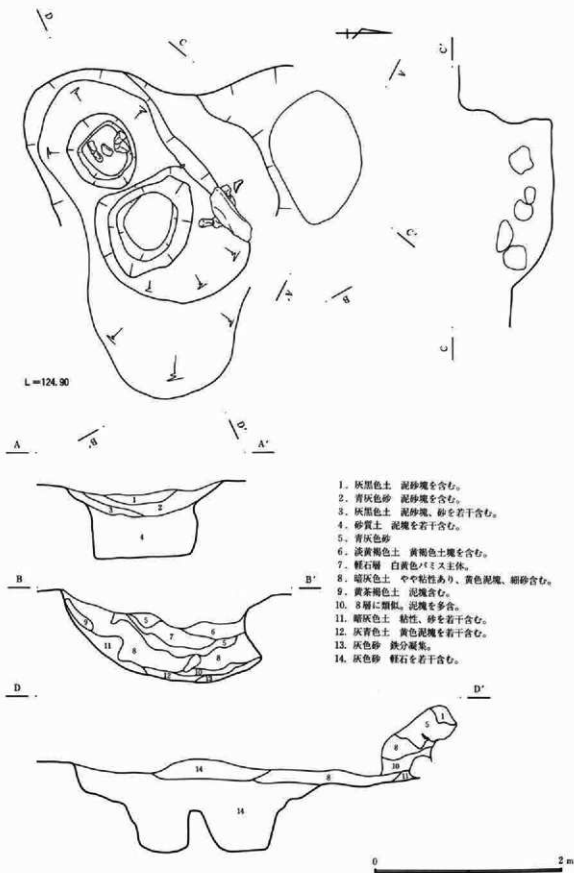
第25図 A区旧河浦1号集石団(1)



第26図 A区旧河道1号集石図(2・3)



第27图 A区旧河道1号集石园(4・5)



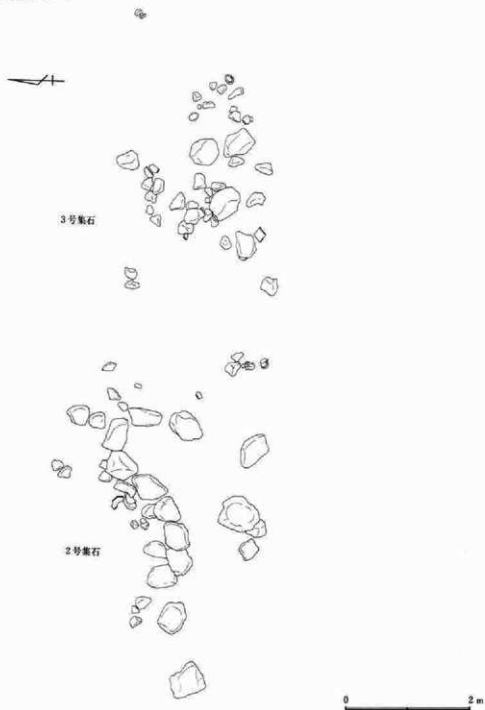
第28図 A区旧河道1号集石図(6)



ならない事になる。この点からも隣接する山王廃寺や上野国分僧寺・尼寺との関係が重要視されてくる事になろう。

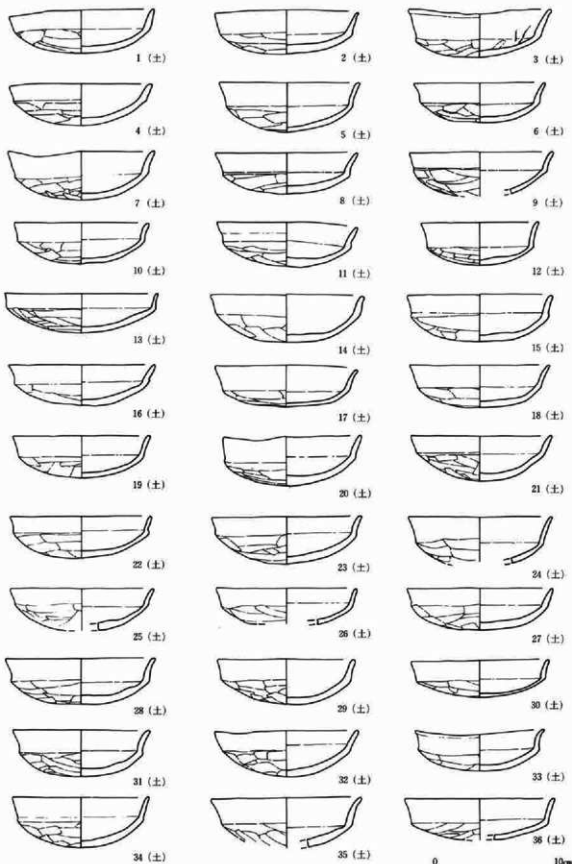
また、写経用の定木の場合、その廃棄段階で長さのほぼ真ん中、つまり五寸（約15cm）程で切断している傾向がみられ、この点でも国分境遺跡の資料の長さ五寸五分（約16.5cm）という数字がそれに近い例に相当する事がいえる。

さらに、桃や夕顔、トチノミなどの何種類もの種子が出土しており、当時の植生や食生活の一部がうかがえる資料と言えるかも知れない。

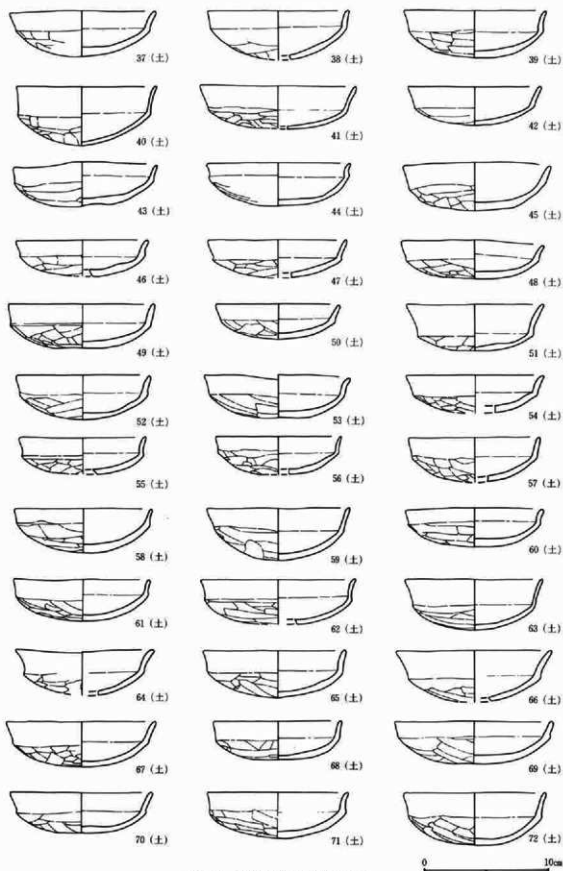


第29図 A区旧河道2・3号集石図

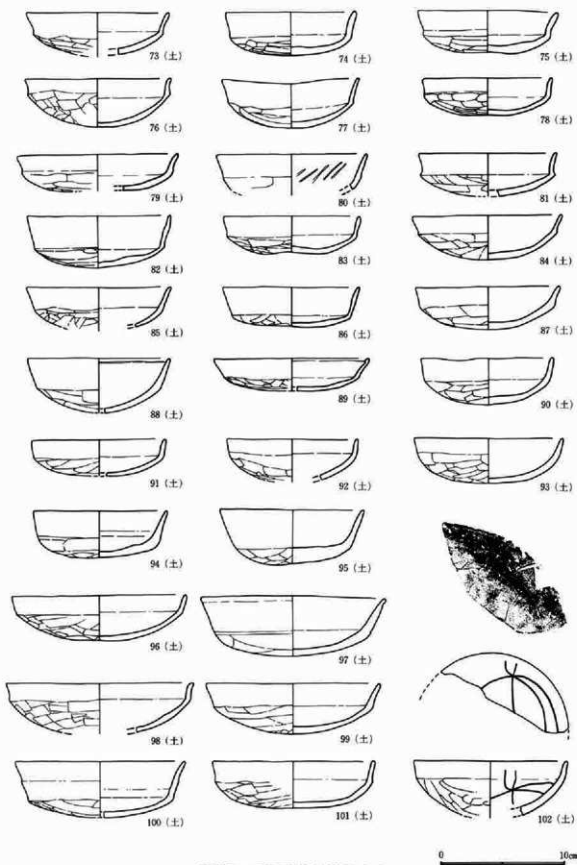
第3章 検出された遺構・遺物



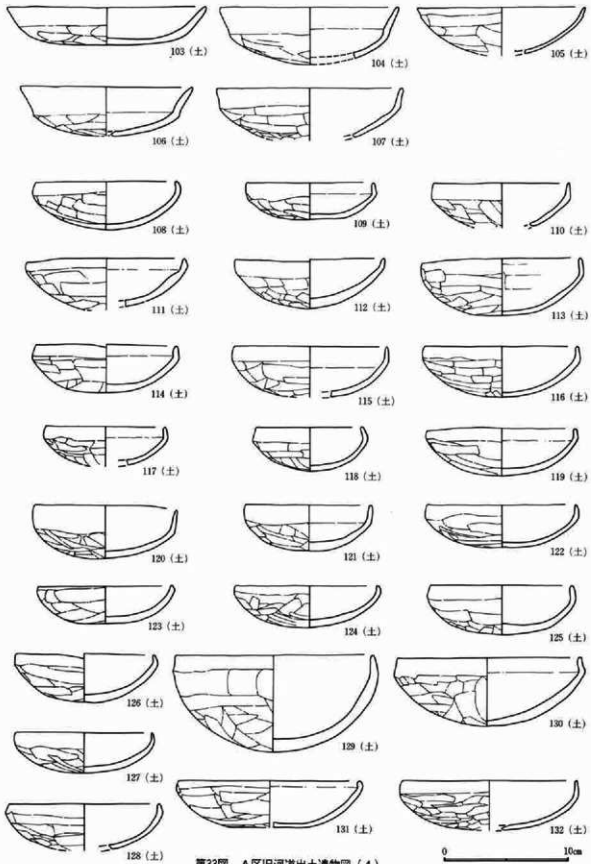
第30図 A区旧河道出土遺物図(1)



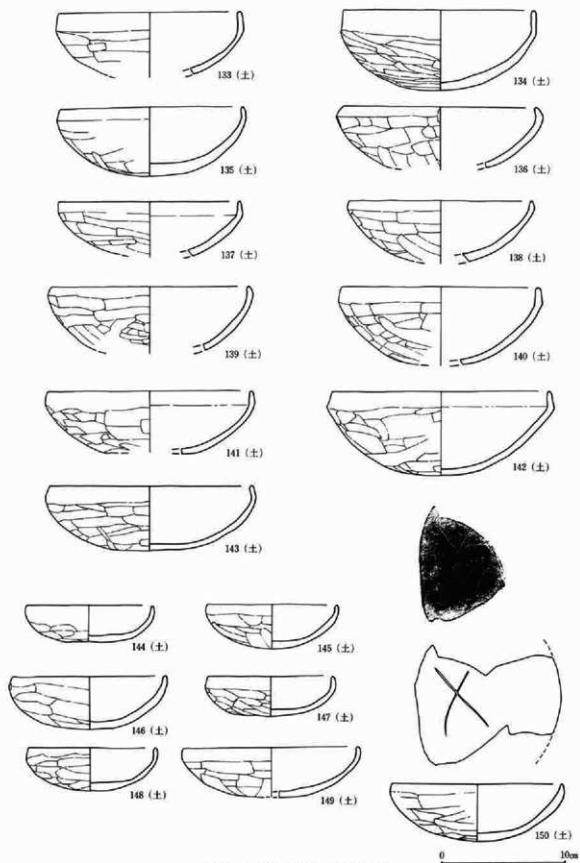
第31圖 A区旧河道出土遺物圖(2)



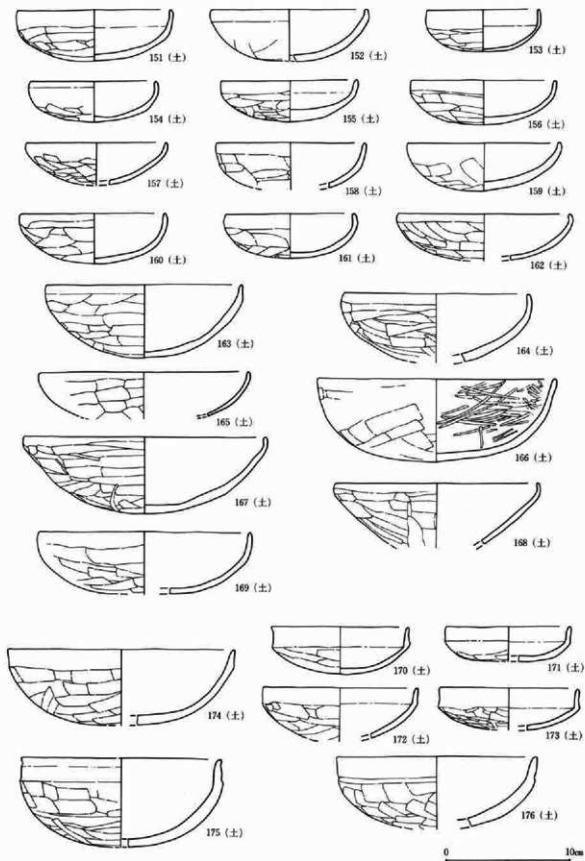
第32図 A区旧河道出土遺物図(3)



第33図 A区旧河道出土遺物図(4)

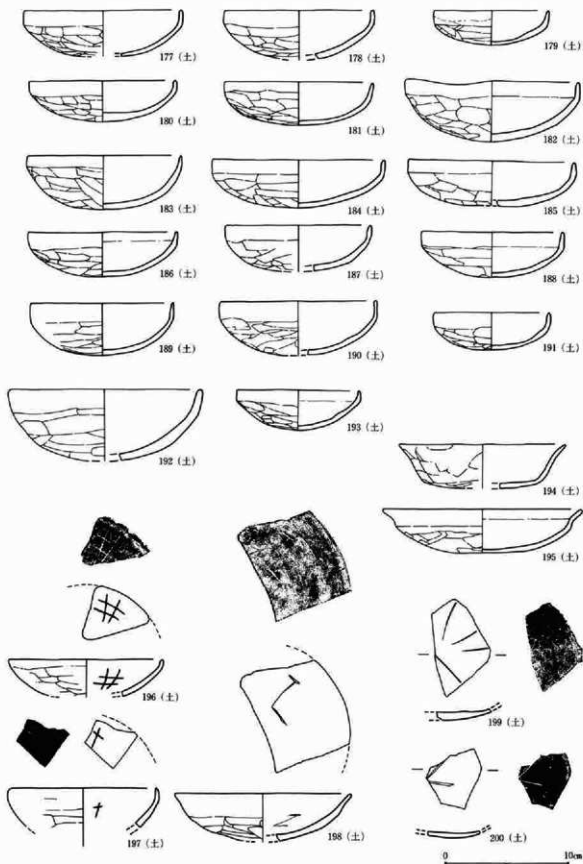


第34図 A区旧河道出土遺物図(5)



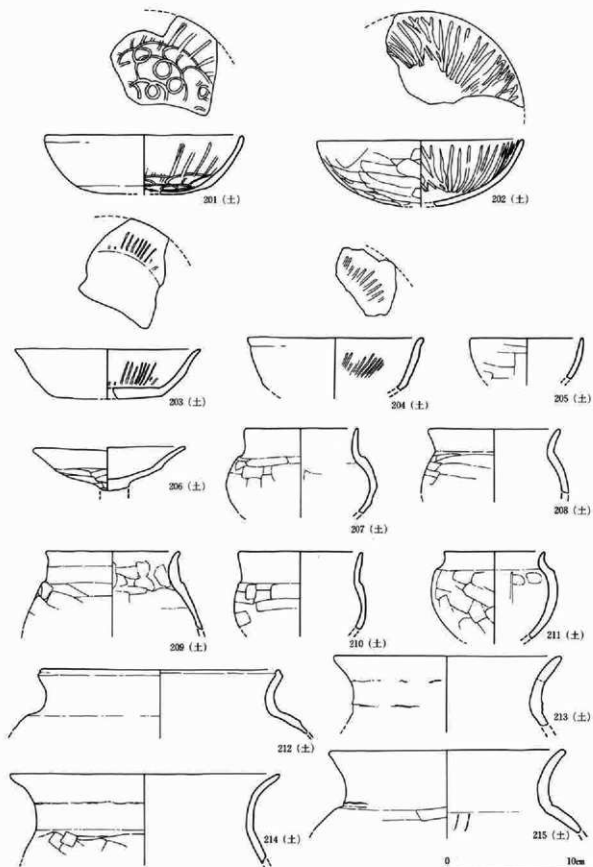
第35圖 A区旧河瀬出土遺物図(6)

第3章 検出された遺構・遺物

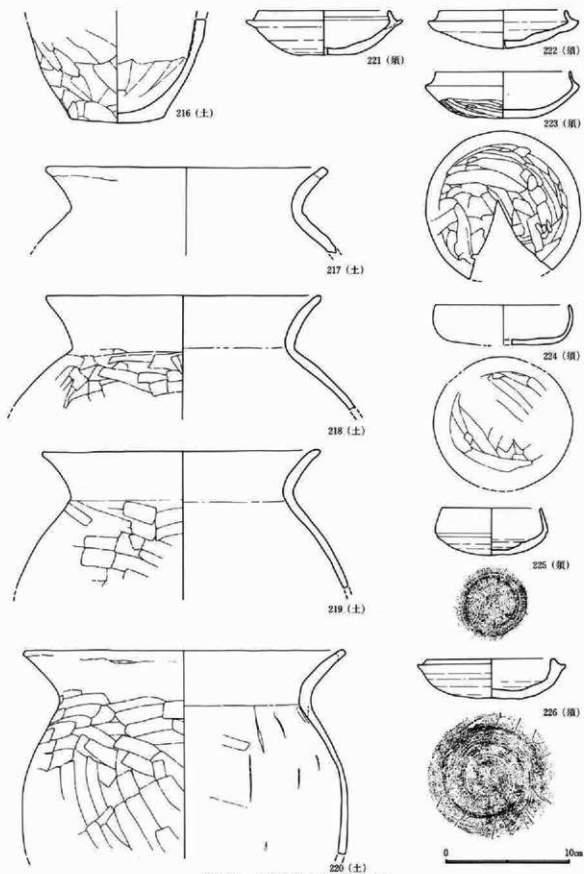


第36図 A区旧河道出土遺物図(7)

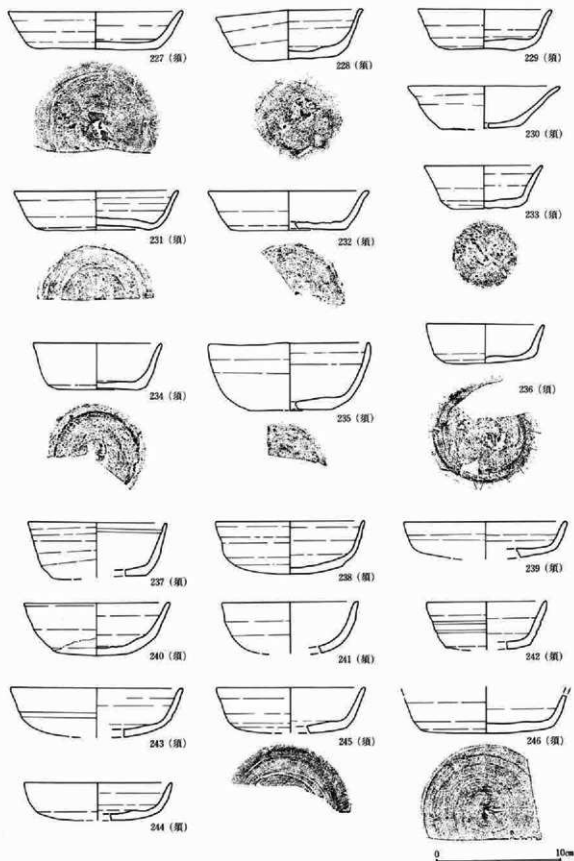




第37図 A区旧河道出土遺物図(8)

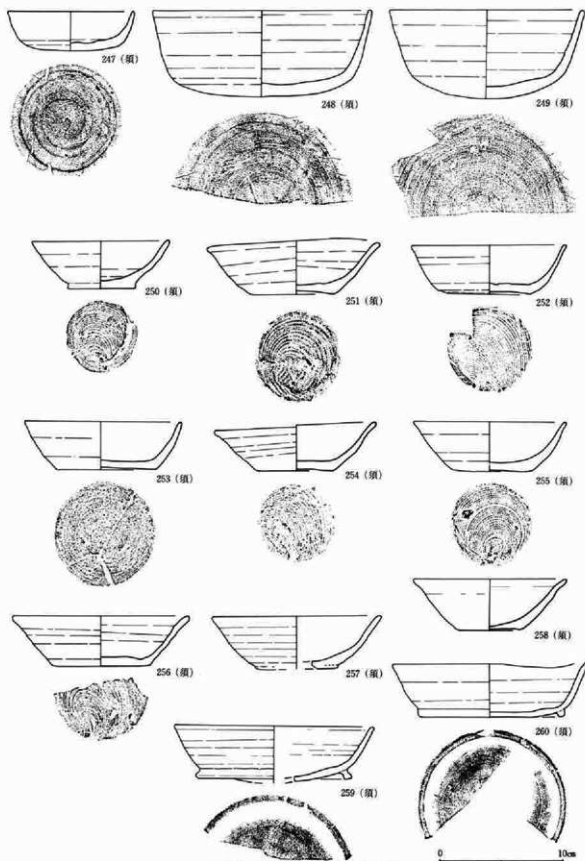


第38図 A区旧河道出土遺物図(9)

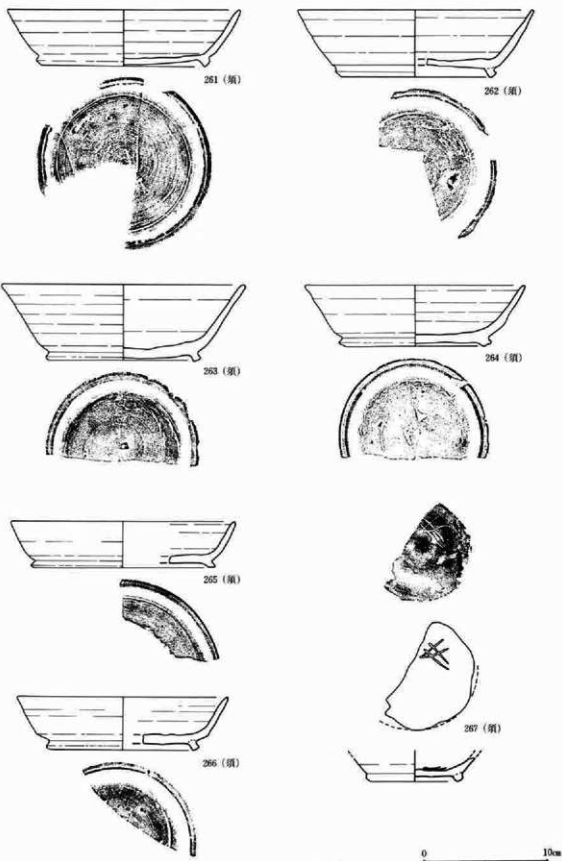


第39図 A区旧河道出土遺物図(10)

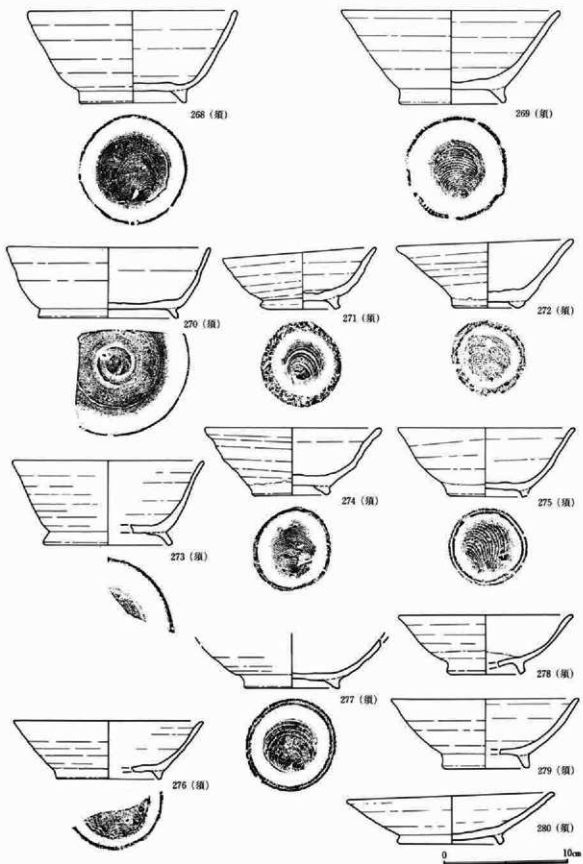
第3章 検出された遺構・遺物



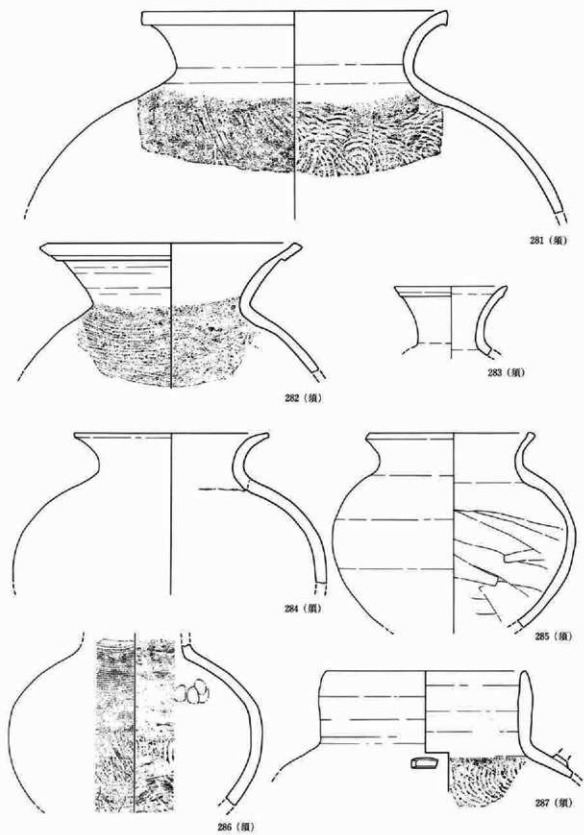
第40図 A区旧河道出土遺物図(11)



第41図 A区旧河通出土遺物図(12)

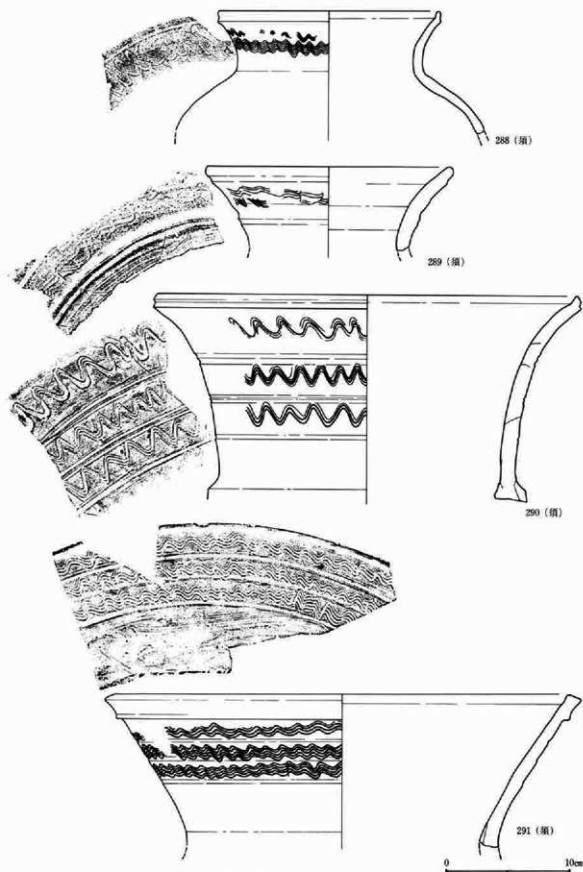


第42図 A区旧河道出土遺物(13)



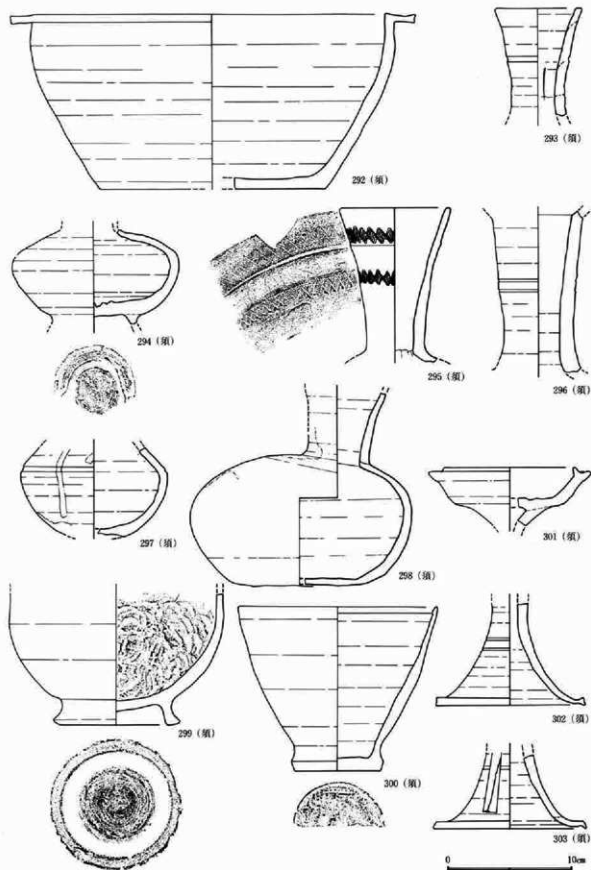
0 10cm

第43圖 A区旧河道出土遺物図(14)

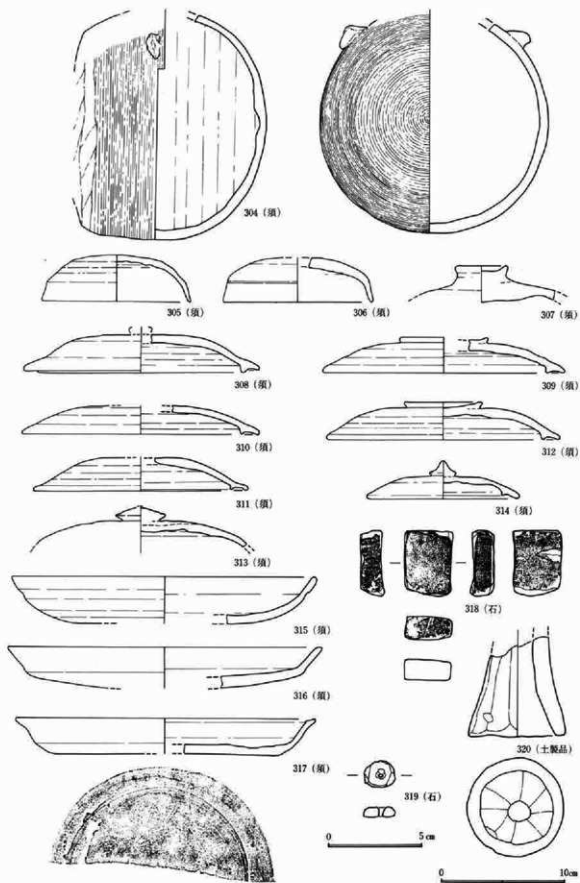


第44図 A区旧河道出土遺物図(15)

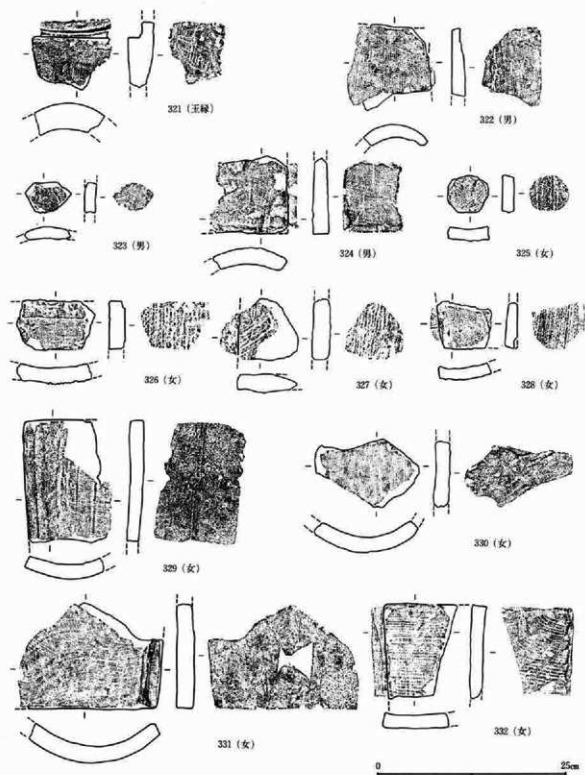




第45圖 A区旧河邊出土遺物圖(16)

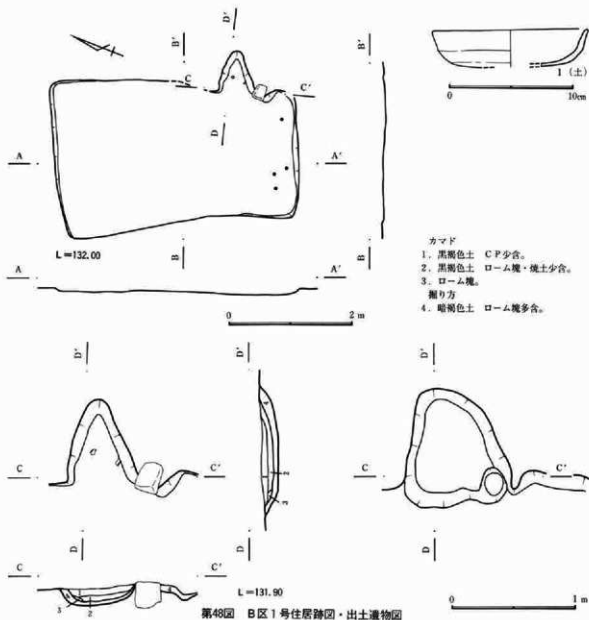


第46図 A区旧河道出土遺物図(17)



第47図 A区旧河道出土遺物図(18)

### 第3章 検出された遺構・遺物



第48図 B区1号住居跡団・出土遺物図

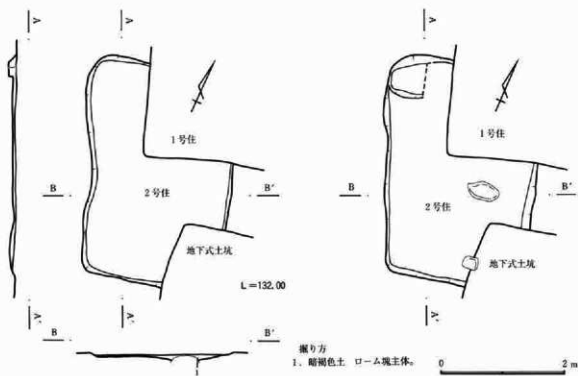
#### 第3項 B区

B区からは87軒もの堅穴住居跡と溝14条、地下式土坑1基、火葬墓1基、土坑5基、掘立柱建物跡2棟、井戸1基が検出されている。

遺構の分布状況としては、東側半分が調査区域外のためにはっきりとしないが、「L」字状にするB区1号溝とそれに区画・規制されるような形で位置するB区1号掘立柱建物跡とB区5号住居跡の関係が、環濠などなんらかの遺構として考えられるのではないだろうか。

また、B区の南西部分には住居跡がほとんど存在しない部分が存在するが、それにはなんらかの規制、あるいは土手が崩れたことと関係があるのかもしれない。つまり、地盤が軟弱などの理由で住居跡の立地条件に向かないなどが考えられる。

さらに、C区でも同様であるが、南北方向に走行する溝と東西方向に走行する溝が、まるでお互いに機能し合うような形で存在している。これらの溝はすべてが堅穴住居跡よりも後行することが土層の観察から確



第49回 B区2号住居跡図

認されており、また、2本、あるいは3本の溝が同一方向に走行しており、その同時性が確かであるならば、その幅もほぼ一定の間隔であることから、あるいはこの台地上が集落としての機能を終了する段階以後に、道路のような機能をもっていたのかもしれない。

#### B区1号住居跡（図版第48回、写真図版12-1・2）

24-B-05グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.9m、東西約2.3mで、面積は約8.7㎡を測る。地山を掘り込んだだけの床面は堅く平坦であるものの、確認面が低いために既に住居跡床面が検出されており、壁は立ち上がりは僅かに認められる程度である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されず、遺物もほとんど認められない。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、確認面から燃焼部底部までが浅いために遺存状態は極めて悪い。規模は燃焼部幅約50cm、奥行き74cmで、煙道部は緩やかに住居外に66cm程延びる。両袖は残存し、右袖に構築材として用いられている石が残存する。カマド掘り方は深さ約3cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

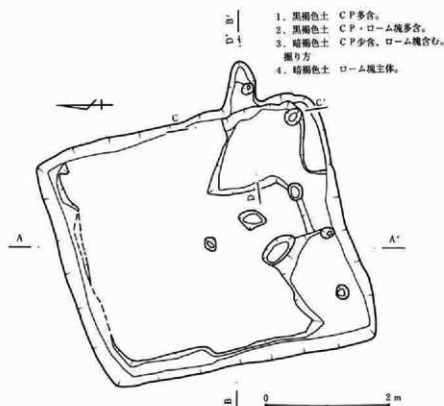
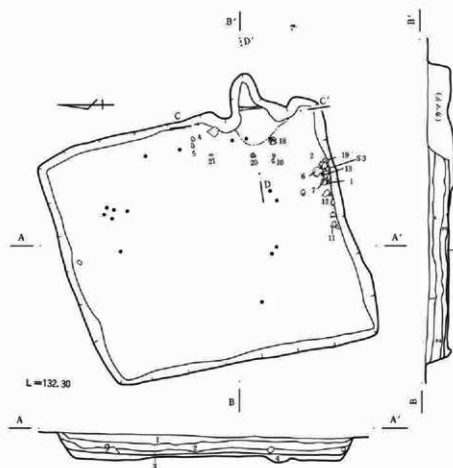
住居の廃絶時期は遺物から8～9世紀と考えられる。

#### B区2号住居跡（図版第49回、写真図版12-3・4）

24-B-04グリッドに位置し、重複関係はB区地下式土坑、B区1号住居跡に先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.5m、東西約2.5mで、面積は約5.3㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁確認面が5cmと低いために壁がほとんど確認できない。壁溝、柱穴は検出されず、貯蔵穴は推定位置が調査区域外のためにその存在が不明である。掘り方は床面より約5cm程掘り込み、ロームを含む暗褐色土を主体に貼り床を施している。出土遺物はすり石が1点だけである。

カマドはおそらくその推定位置から、地下式土坑により壊されていると考えられる。

住居の廃絶時期は遺物が無いものの、住居形態から10世紀頃と考えられる。

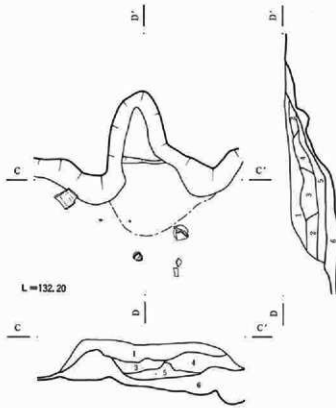


**B区5号住居跡** (図版第50～52図、写真図版12-5-7、74)

27-B-12グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は正方形を呈し、規模は南北約4.5m、東西約4.0mで、面積は約18.1㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は掘り方調査時に検出され、北壁及び西壁に顕著であり、幅20cm、深さ5～7cmを測る。楕円形状のピットを2基検出した。明確な貯蔵穴は認められない。掘り方は床面より僅かに約10cm程掘り込み、さらに北東隅やカマド付近に浅い掘り込みが認められ、ロームを僅かに含む暗褐色土を主体に貼り床を施している。出土遺物は南壁際の中央部から南東隅にかけて坏類が集中して認められる。

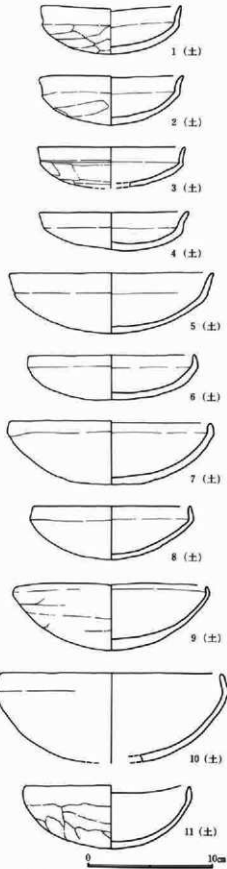
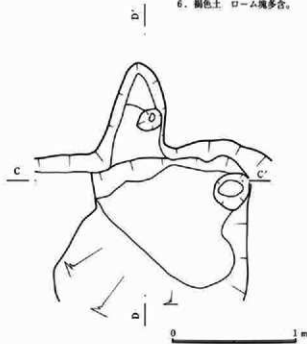
カマドは東壁の中央から南東隅寄りに位置し、焼土層及び灰層を含めた遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅46cm、奥行き約

第50図 B区5号住居跡図(1)



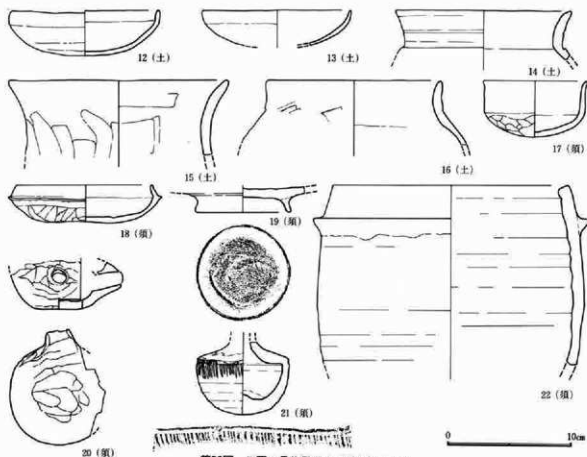
カマド

1. 黒褐色土 焼土少含、C P 含む。
2. 暗褐色土 焼土少含。
3. 褐色土 灰主体。
4. 褐色土 焼土・灰多含。
5. 赤褐色土 焼土多含。
6. 褐色土 ローム塊多含。



第51図 B区5号住居跡図・出土遺物図(2)

### 第3章 検出された遺構・遺物



第52図 B区5号住居跡出土遺物図(3)

110cmで、煙道部は緩やかに住居外に約50cm程延びて、両袖は残存する。カマド掘り方は深さ約5cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は後世の遺物の混込が認められるものの、7世紀後半と考えられる。

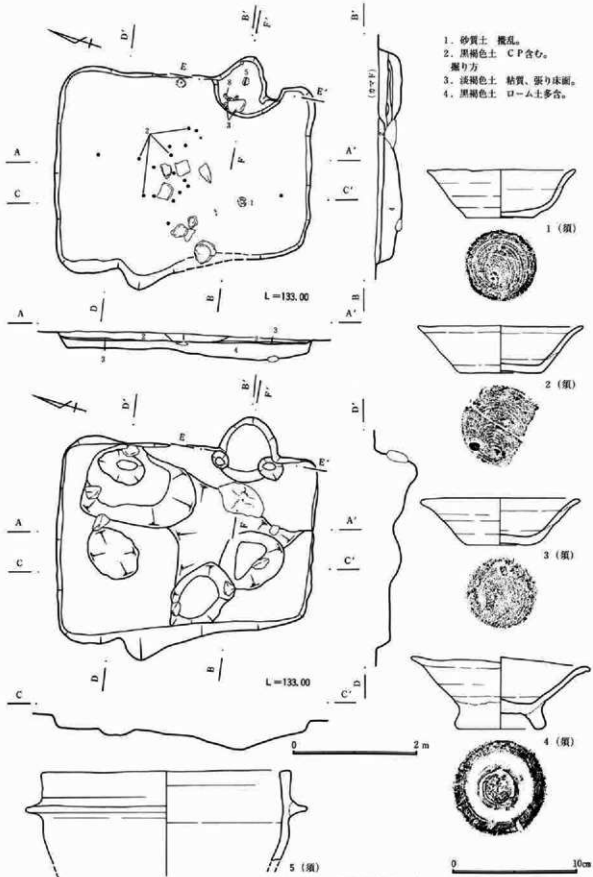
#### B区6号住居跡(図版第53・54図、写真図版12-8、13-1-3、74)

30-B-24グリッドに位置し、重複関係はB区7号住居跡に後行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.1m、東西約3.3mで、面積は約12.0㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約10cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より約25cm程掘り込み、さらに大きな掘り込みが3基不規則に認められ、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は床面の中央部分付近に石と共に集中して出土している。地山に含まれている転轍が壁や床面から突出している。

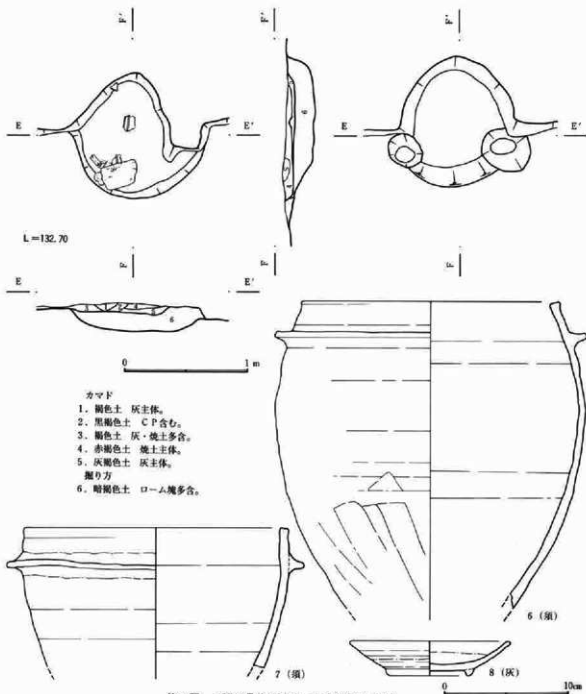
カマドは東壁の中央に位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約70cm、奥行き98cmで、煙道部は緩やかに住居外に53cm程延びる。両袖は残存し、燃焼部入り口部分に両袖にかかるような形で石が残存し、おそらく天井部の構築材として利用されたと考えられる。カマド掘り方は円形状に深さ約14cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。また、両袖部分に円形の掘り込みが検出されており、袖石の存在も考えられる。遺物は燃焼部入り口部分に羽釜の口縁部の破片や腕が出土している。

住居の廃絶時期は遺物から10～11世紀と考えられる。



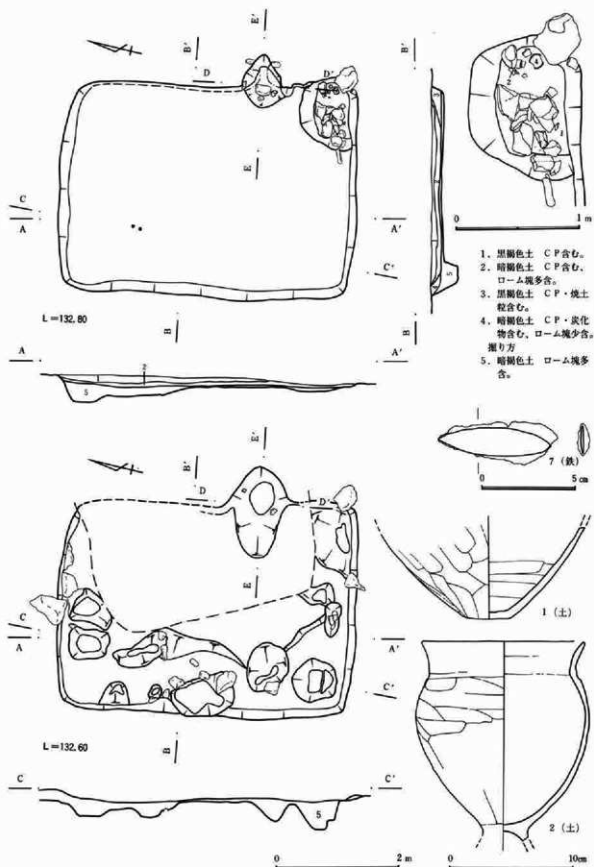


第53図 B区6号住居跡図・出土遺物図(1)



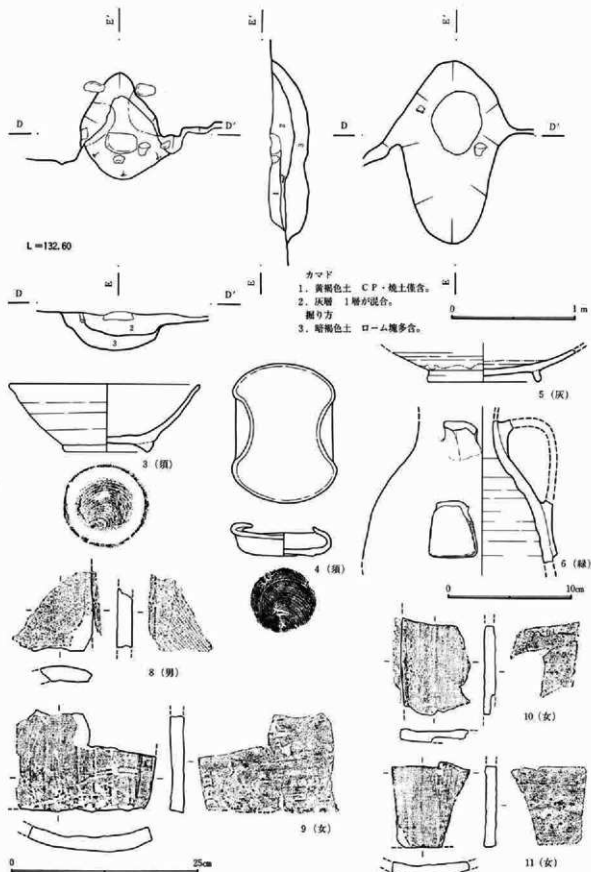
B区7号住居跡 (図版第55・56図、写真図版13-4-8、75)

28-B-23グリッドに位置し、重複関係はB区8号住居跡に後行し、B区6号住居跡に先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.8m、東西約3.3mで、面積は約15.6㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約15cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されず、その他に楕円形状のピットをいくつか検出した。貯蔵穴は南西隅に位置し、楕円形を呈す。規模は長軸115cm、短軸77cm、深さ25cmを測り、完形の耳皿などが出土している。掘り方は床面より約5~15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施しており、北壁と東壁に沿って円形状の掘り込みがいくつも認められる。遺物は緑釉木注の破片が出土している。壁の一部から地山に含まれている転轍が突出している。

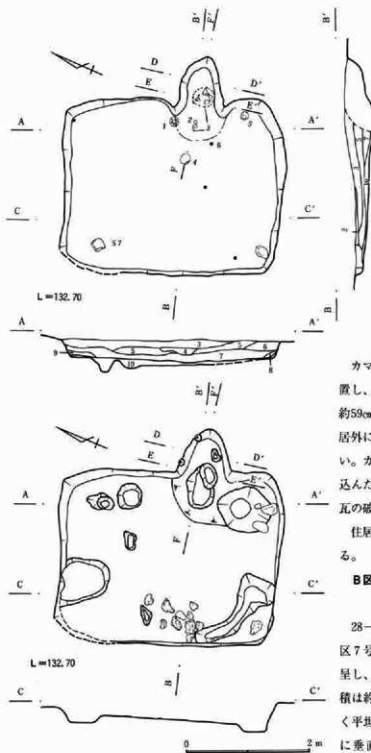


第55図 B区7号住居跡・出土遺物図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第56図 B区7号住居跡面・出土遺物図(2)



第57図 B区8号住居跡図(1)

調査時に1基を検出し、その規模は長さ約40cm、深さ13cmを測る。その他に楕円形状のピットを4基検出した。掘り方調査時に検出した貯蔵穴は南西隅に位置し、ほぼ円形を呈す。規模は約70cm、深さ16cmを測る。掘り方は床面より5cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド周辺や南西隅に僅かに出土している。

カマドは東壁の中央から僅かに南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約46cm、奥行き

1. 黒色土 C P多含。
2. 暗茶褐色土 ローム塊多含。
3. 黒褐色土 C P多含。
4. 暗褐色土 焼土含む。
5. 暗褐色土 C P少含、ローム塊多含。
6. 暗褐色土 C P多含、ローム塊少含。
7. 暗褐色土 焼土・灰化物・灰多含。
8. 暗褐色土 ローム質。
9. 暗茶褐色土 ローム土主体。
- 掘り方
10. 暗褐色土 ローム塊多含。

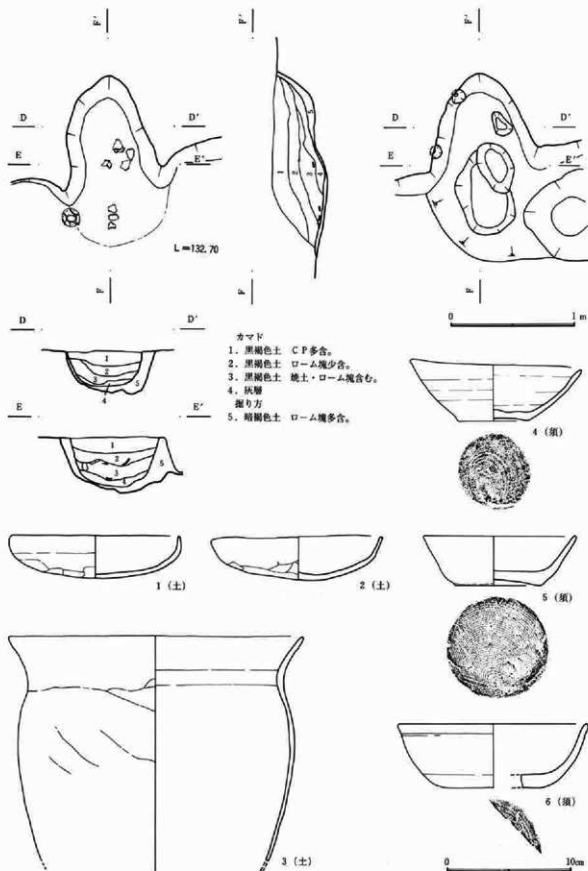
カマドは東壁の中央からやや南西隅寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約59cm、奥行き約83cmで、煙道部は緩やかに住居外に約51cm程延びるが、両袖ははっきりしない。カマド掘り方は楕円形に深さ約10cm程掘り込んだ後、土で埋戻している。燃焼部付近に瓦の破片が出土している。

住居の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

#### B区8号住居跡 (図版第57・58図、写真図版14-1~3、75)

28-B-24グリッドに位置し、重複関係はB区7号住居跡に先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.5m、東西約2.8mで、面積は約10.2㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は15cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は南西壁に幅約65cm、深さ約25cmで検出した。柱穴は掘り方調

第3章 検出された遺構・遺物



第58図 B区8号住居跡園・出土遺物園(2)

約132cmで、煙道部は緩やかに住居外に約79cm程延びる。粘土を主体とした両袖が残存する。カマド掘り方は僅かに深さ約5cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。燃焼部のほぼ中央部分に支脚が立てられたと考えられる掘り込みが認められる。遺物は燃焼部から袖付近を中心に坏や甕の破片が出土している。

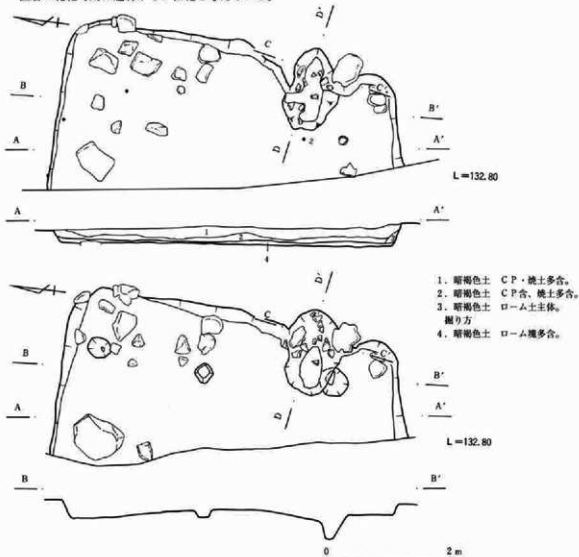
住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

#### B区9号住居跡 (図版第59・60図、写真図版14-4-7、75)

33-B-24グリッドに位置し、重複関係は無いが、東側半分は調査区域外に存在するために、平面形態や規模が不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約15cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されていないが、掘り方調査時に楕円形状のピットを1基、カマドの燃焼部手前で検出した。掘り方は床面より僅かに5cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド以外に認められない。地山に含まれている転礫が壁や床から突出している。

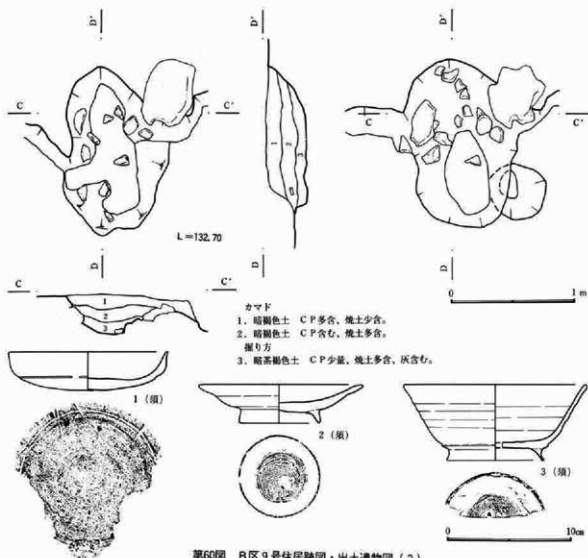
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約32cm、奥行き約129cmで、煙道部は緩やかに住居外に約60cm程延びる。両袖は残存し、右袖は地山の石を構築材とする。カマド掘り方は楕円形に深さ約10cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。



1. 暗褐色土 CP・焼土多含。
2. 暗褐色土 CP含、焼土多含。
3. 暗褐色土 ローム土主体。
- 掘り方
4. 暗褐色土 ローム塊多含。

第59図 B区9号住居跡図(1)



第60図 B区9号住居跡図・出土遺物図(2)

**B区10号住居跡** (図版第61図、写真図版14-8、15-1-3、75)

30-B-27グリッドに位置し、重複関係はB区11号住居跡、B区18号住居跡に先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.2m、東西約3.0mで、面積は約10.7m<sup>2</sup>を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がるが、南壁は不明確である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されない。ルームを主体に貼り床を施しており、B区18号住居跡の床面とほぼ同一である。遺物はカマドの右袖付近から南東隅にかけて妻の破片が僅かに認められる。

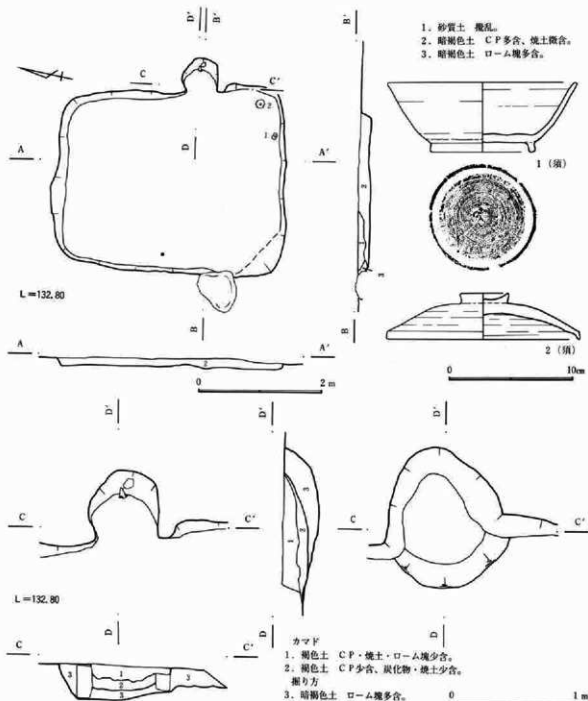
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約50cm、奥行き約90cmで、煙道部は緩やかに住居外に約50cm程延びる。両袖は残存し、角柱状の石を構築材とする。カマド掘り方は長方形に深さ約8cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

**B区11号住居跡** (図版第62・63図、写真図版15-4-7、75)

29-B-27グリッドに位置し、重複関係はB区10号住居跡に先行し、B区18号住居跡に後行する。平面形態はほぼ正方形を呈するが、西壁と南西隅部分が不明確である。規模は南北約3.8m、東西約3.7mで、面積は約10.0m<sup>2</sup>を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は20-25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立





第61図 B区10号住居跡図・出土遺物図

ち上がるが、南壁は不明確である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されない。掘り方は床面より15～20cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施しており、B区18号住居跡の床面とほぼ同一である。遺物はカマドの右袖付近から南東隅にかけて甕の破片が僅かに認められる。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃烧部幅約86cm、奥行き約104cmで、煙道部は緩やかに住居外に約74cm程延びる。両袖は残存し、角柱状の石を構築材とする。カマド掘り方は長方形に深さ約9cm程掘り込んだ後、土で埋戻している。遺物はほとんど認められない。

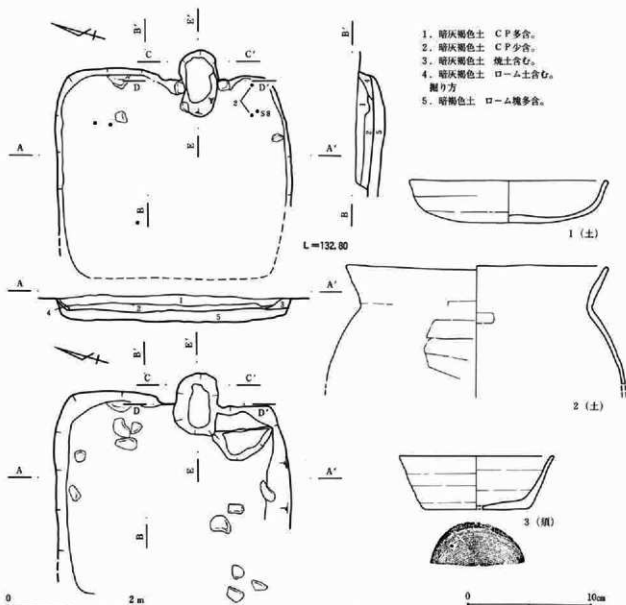
住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

B区12号住居跡 (図版第64図、写真図版15-8、16-1・2、76)

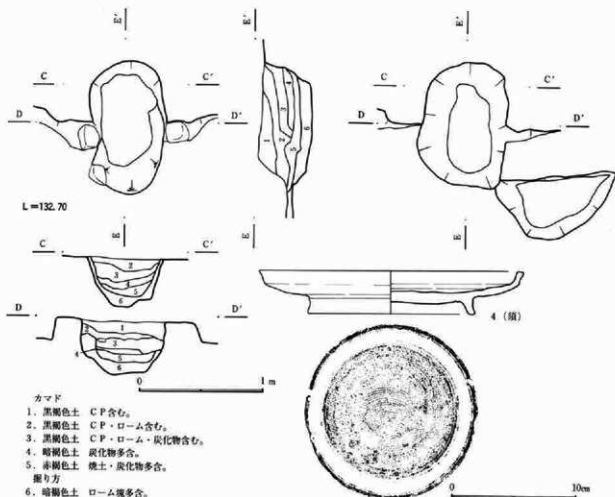
31-B-29グリッドに位置し、重複関係はB区22号住居跡に後行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.8m、東西約3.3mで、面積は約12.4㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されない。貯蔵穴は南東隅に位置し、楕円形を呈す。規模は長軸80cm、短軸70cm、深さ12cmを測る。掘り方は約5cmの貼り床を施している。遺物では須恵器の骨甕器蓋が出土しているが、この住居跡に伴うものか不明である。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅63cm、奥行き112cmで、煙道部は緩やかに住居外に68cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材の一部として利用する。カマド掘り方は深さ約20cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部手前に坏類が出土している。

住居の廃絶時期は遺物から8-9世紀と考えられる。



第62図 B区11号住居跡図・出土遺物図(1)



第63図 B区11号住居跡団・出土遺物図(2)

## B区13号住居跡(図版第66・67図、写真図版16-3-6)

30-B-32グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は正方形に近い長方形を呈し、規模は南北3.5m、東西3.0mで、面積は約10.2㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は東壁付近が僅かに窪み程度で、ロームを主体に最大で厚さ5cmと薄い貼り床を施している。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅53cm、奥行き72cmで、煙道部は緩やかに住居外に68cm程延びる。両袖は不明確であるが、支脚は石を構築材とする。また燃焼部の入り口部分には長さ約70cm、幅約20cm程の角柱状の石がカマドの主軸に直交する形で存在しており、天井部構築材と考えられる。カマド掘り方は長方形に深さ7cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物が無いために不明である。

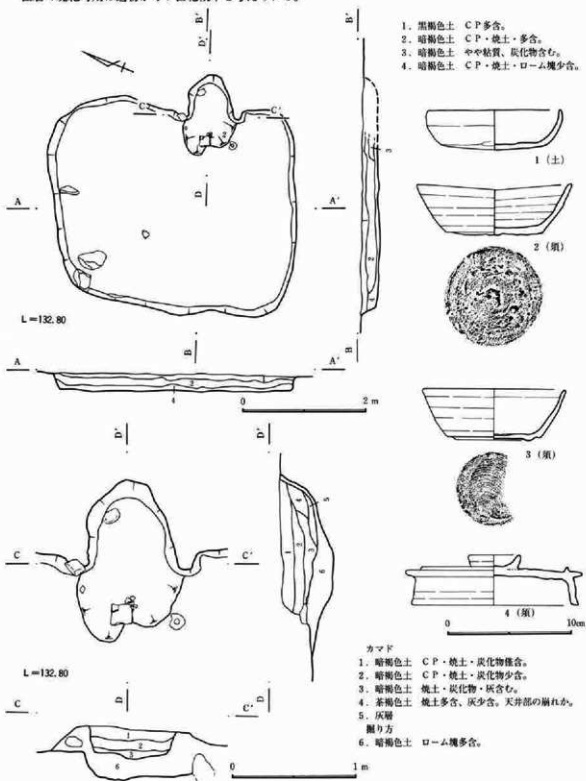
## B区14号住居跡(図版第68・69図、写真図版16-7・8、17-1・2、76)

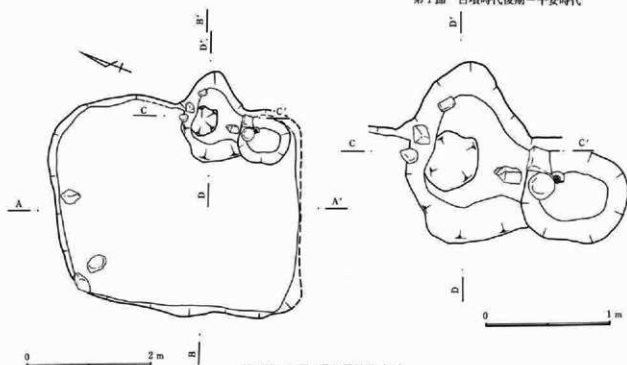
34-B-29グリッドに位置し、重複関係はB区22号住居跡に先行する。平面形態は西壁に比べて東壁がやや長い長方形を呈し、規模は南北2.7m、東西2.4mで、面積は約6.6㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より5-10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマドの右袖付近

に甕の破片が集中して認められる。地山に含まれる転礫が床面や壁から突出している。

カマドは北東隅に位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約20cm、奥行き131cmで、煙道部は緩やかに住居外に82cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は深さ6cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。



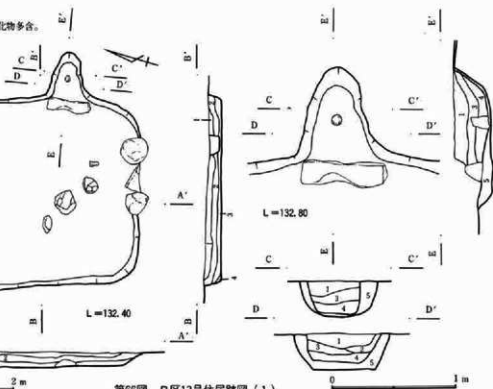


第65図 B区12号住居跡図(2)

**B区15号住居跡** (図版第70～72図、写真図版17-3-6、76)

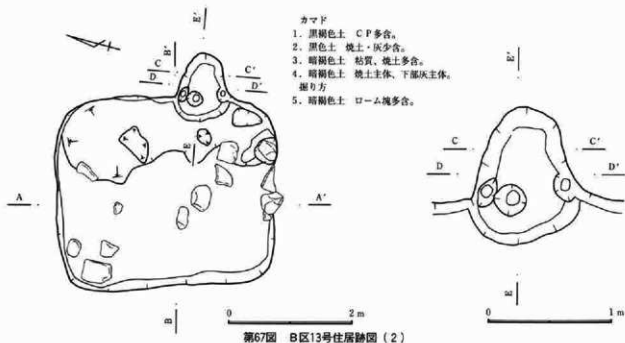
32-B-37グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北5.2m、東西5.3mで、面積は約27.1㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は掘り方調査時に検出し、南壁及び西壁に幅約40cm、深さ約15cmを測る。柱穴は掘り方調査時に4基を検出した。P 1は直径約30cm、深さ42cm、P 2は直径約40cm、深さ48cm、P 3は直径約50cm、深さ約60cm、P 4は直径約55cm、深さ56cmを測る。柱穴の間がP 1-P 2間は250cm、P 2-P 3

1. 黒褐色土 C P多含。
2. 暗褐色土 C P・焼土・炭化物多含。
3. 暗褐色土 ローム質。
4. 茶褐色土 ローム塊含む。



第66図 B区13号住居跡図(1)

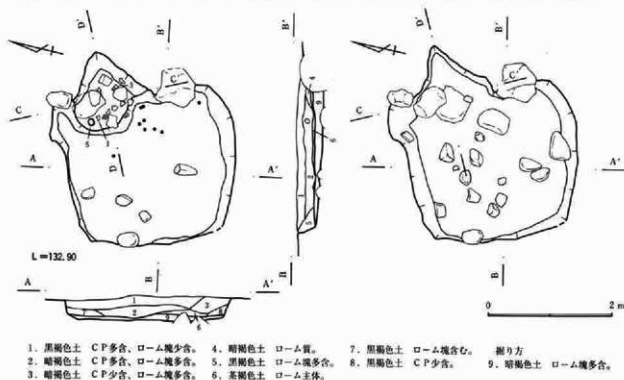
第3章 検出された遺構・遺物



第67図 B区13号住居跡図(2)

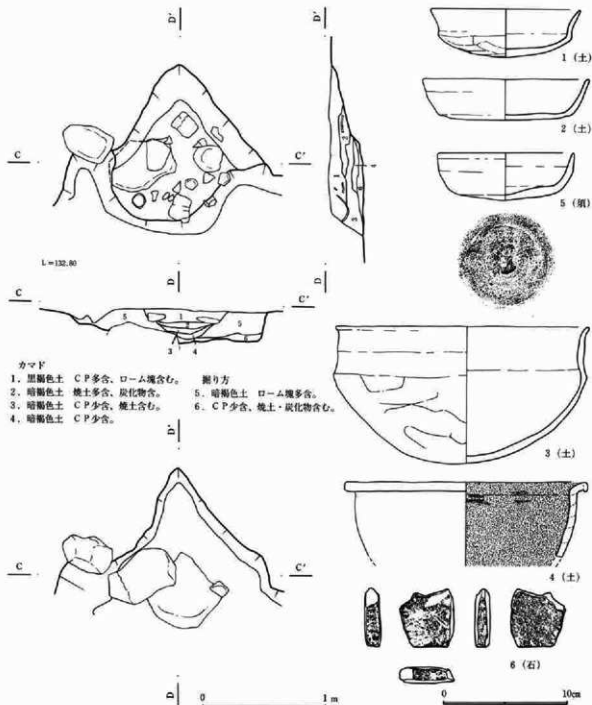
間は295cm、P 3-P 4間は約240cm、P 4-P 1間は約280cmを測る。その他に楕円形状のピットを1基検出した。貯蔵穴は南東隅に位置し、直径80cmの円形を呈す。掘り方は床面より5cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド付近から南壁際の中央付近にかけて壺の破片が認められる。さらに鉄器が1点出土している。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅56cm、奥行き124cmで、煙道部は緩やかに住居外に59cm程延びる。粘土を主体とする両軸は残存する。カマド掘り方は長方形に



第68図 B区14号住居跡図(1)

第1節 古墳時代後期～平安時代



第69図 B区14号住居跡図・出土遺物図(2)

深さ約5cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

**B区16号住居跡** (図版第73図、写真図版17-7・8、76)

27-B-24グリッドに位置し、重複関係はB区28号住居跡に先行するために北側を壊されている。さらに東側半分が調査区域外に存在するために、平面形態や規模が不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は15~20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は調査区域外のためにその存在は不明である。掘り方は床面より15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はほ

とんと認められない。

カマドは調査区域外に存在すると考えられる。

住居の廃絶時期は遺物が少ないものの9世紀頃と考えられる。

**B区26号住居跡** (図版第73図、写真図版21-1・2)

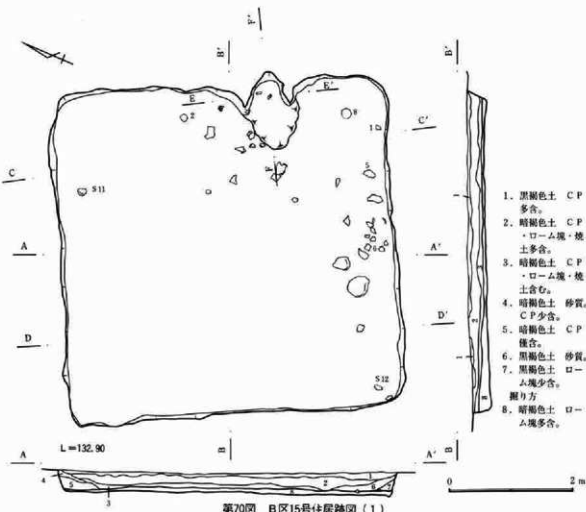
28-B-28グリッドに位置し、重複関係はB区25号住居跡、B区27号住居跡に先行する。また東側半分は調査区域外に存在するために、平面形態や規模は不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がるが、南壁は不明確である。壁溝、貯蔵穴、柱穴はその存在が不明である。ただ2基のピットが検出されており、あるいは柱穴の痕跡かもしれない。掘り方は床面より約10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はほとんど認められない。

カマドは調査区域外に存在すると考えられる。

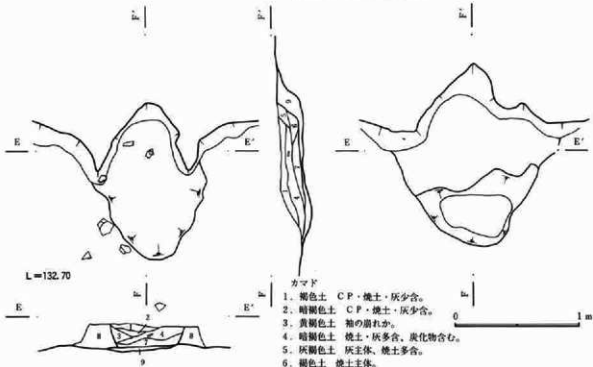
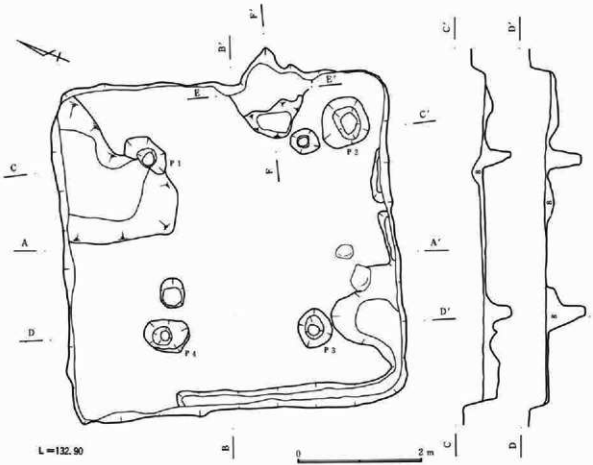
住居の廃絶時期は、B区25号住居跡、B区27号住居跡に先行することから10世紀以前と考えられる。

**B区27号住居跡** (図版第73図、写真図版20-8、21-1・2、77)

27-B-27グリッドに位置し、重複関係はB区26号住居跡、B区28号住居跡に後行する。また東側半分は調査区域外に存在するために、平面形態や規模は不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約15cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴はその存在が不明であるが、円形及び楕円形のピットがいくつか検出されており、その存在も推定される。遺物はほとんど認められない。





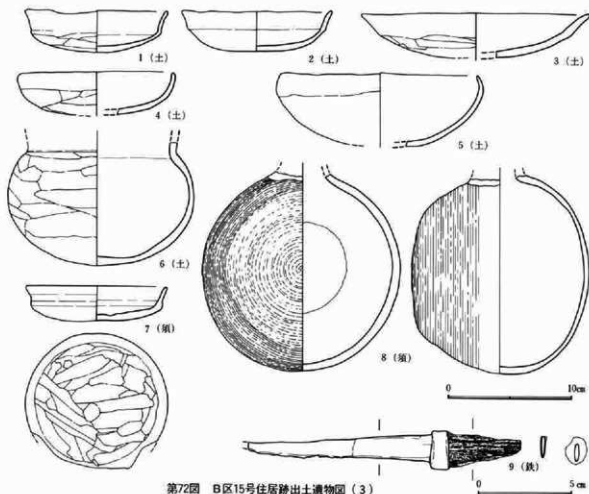


第71図 B区15号住居跡図(2)

カマド

1. 褐色土 CP・焼土・灰少含。
  2. 暗褐色土 CP・焼土・灰少含。
  3. 黄褐色土 袖の崩れか。
  4. 暗褐色土 焼土・灰多含、炭化物含む。
  5. 灰褐色土 灰主体、焼土多含。
  6. 褐色土 焼土主体。
  7. 暗褐色土 焼土・灰多含。
- 掘り方
8. 黄褐色土 ローム土主体、袖。
  9. 暗褐色土 ローム塊多含。

第3章 検出された遺構・遺物



第72図 B区15号住居跡出土遺物図(3)

カマドは調査区域外に存在すると考えられる。

住居の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

**B区28号住居跡** (図版第73図、写真図版21-3・4)

29-B-26グリッドに位置し、重複関係はB区16号住居跡、B区27号住居跡に先行する。東側半分は調査区域外に存在するために、平面形態や規模は不明である。遺物はほとんど認められない。

カマドは調査区域外に存在すると考えられる。

住居の廃絶時期は遺物が無いものの、他の住居跡との重複の前後関係から10世紀以前と考えられる。

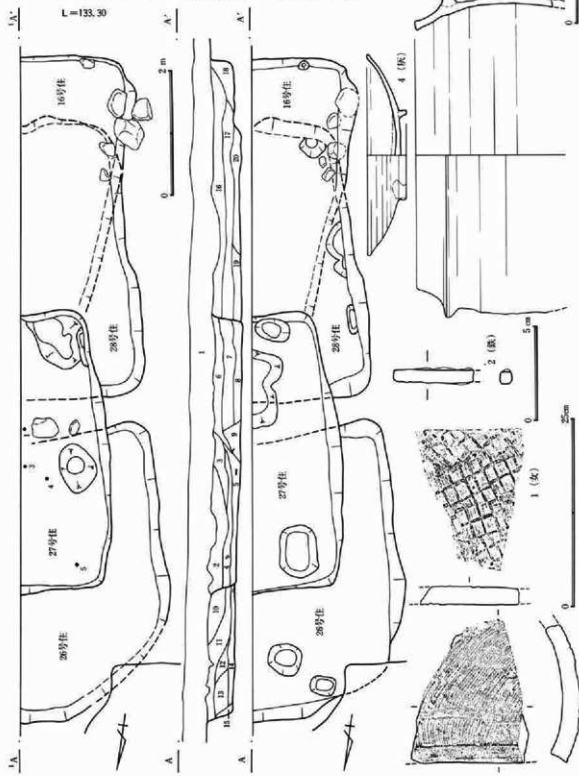
**B区18号住居跡** (図版第74図、写真図版18-1・2、76)

29-B-26グリッドに位置し、重複関係はB区11号住居跡に先行するが、北側半分以上を壊されているために、平面形態や規模は不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は20cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は不明であるが、南東隅に長軸47cm、短軸35cm、深さ20cmのピットが検出されている。掘り方は床面より約10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマドの右袖付近から南東隅にかけて甕の破片が僅かに認められる。

カマドは南東隅寄りに位置するが、B区11号住居跡に左袖を含めたほぼ半分を壊されている。残存する部分から推定される規模は奥行き約130cmで、煙道部は緩やかに住居外に76cm程延びる。カマド掘り方は深さ4cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部内に認められる。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

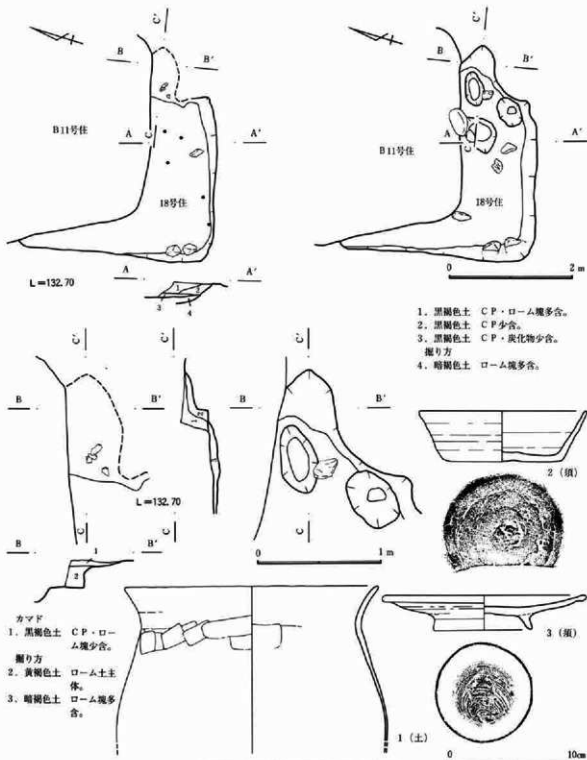
1. 耕作土
- B区27号住居跡
2. 灰褐色土 C P・ローム含む。
3. 灰褐色土 粘土多量、C P・ローム含む。
4. 灰褐色土 ローム多量、C P多量。
5. 灰褐色土 3層に類似。
6. 灰褐色土 2層に類似。
7. 灰褐色土 炭化物含む。
8. 灰褐色土 炭化物多量。
9. 黒褐色土 C P・炭化物含む、ローム濃度低。
- B区28号住居跡
10. 灰褐色土 2層に類似。
11. 灰褐色土 4層に類似。
12. 灰褐色土 C P多量。
13. 灰褐色土 ローム含む。
14. 灰褐色土 ローム多量。
15. 灰褐色土 ローム濃高。
- B区16号住居跡
16. 灰褐色土 2層に類似。
17. 黒褐色土 小礫含む。
18. 黒褐色土 平や粗質。
- B区28号住居跡
19. 灰褐色土 3層に類似。
20. 黒褐色土 ローム多量。



第3図 B区16・26・27・28号住居跡・出土遺物

B区19号住居跡 (図版第75・76図、写真図版18-3~6、76)

33-B-45グリッドに位置し、重複関係では東壁部分に検出されている土坑におそらく先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.0m、東西約2.3mで、面積は約6.7㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より5cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は僅かに認められる。



1. 黒褐色土 C P・ローム塊多含。
  2. 黒褐色土 C P少含。
  3. 黒褐色土 C P・炭化物少含。
- 掘り方
4. 暗褐色土 ローム塊多含。

カマド

1. 黒褐色土 C P・ローム塊少含。

掘り方

2. 黄褐色土 ローム土主体。
3. 暗褐色土 ローム塊多含。

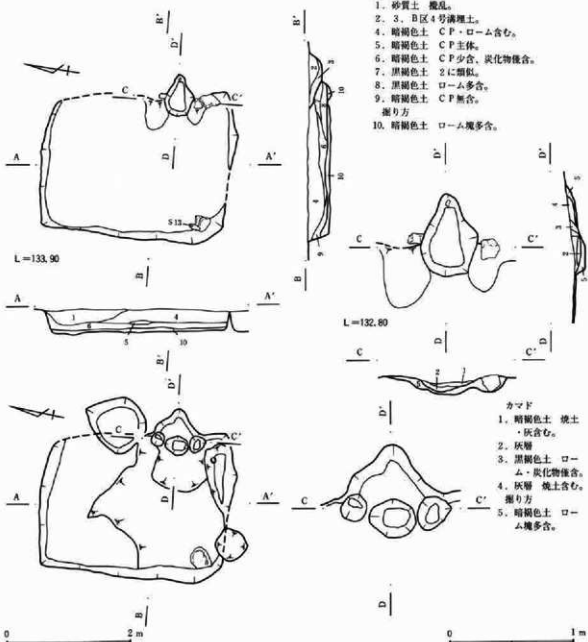
第74図 B区18号住居跡図・出土遺物図

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置するが、試掘トレンチにより上部がかなり壊されている。規模は燃焼部幅約30cm、奥行き約64cmで、煙道部は緩やかに住居外に約40cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は深さ約2～4cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。燃焼部分に円形の掘り込みが検出されており、支脚の痕跡とも考えられる。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

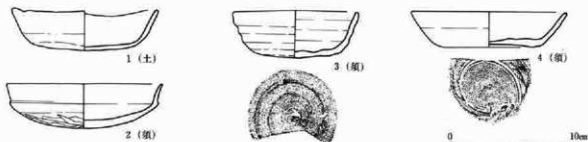
**B区20号住居跡** (図版第77・78図、写真図版18-7・8、19-1・2、77)

43-B-43グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.6m、東西約3.2mで、面積は約14.7㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は20cmを測り、緩やかに立ち上がるが、西壁及び北壁の一部が不明瞭である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は東壁際及び南東隅、北西隅に浅い掘り込みが検出されている。ロームブロックを含む黒色粘質土を主体に貼り床を



第75図 B区19号住居跡図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第76図 B区19号住居跡出土遺物図(2)

施している。遺物はほとんど認められない。

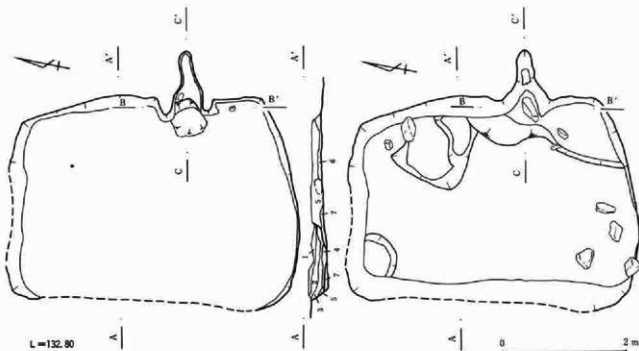
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、灰層を含めて遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約42cm、奥行き約134cmで、煙道部は緩やかに住居外に96cm程延び、両袖は残存する。カマド掘り方は長方形に深さ約15cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀と考えられる。

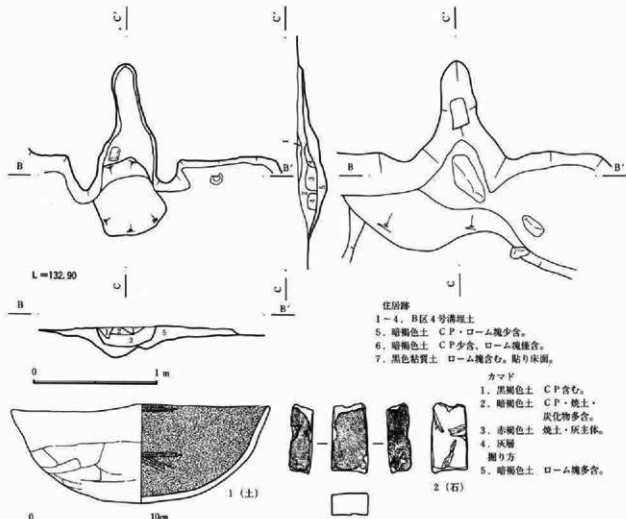
B区21号住居跡(図版第79・80図、写真図版19-3~5、77)

30-B-43グリッドに位置し、東側半分は調査区域外に存在するために、平面形態や規模が不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約35cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は掘り方調査時に検出、西壁及び南壁に幅約20cm、深さ約2~4cmで検出した。柱穴は掘り方調査時に4基を検出した。P1は直径約60cm、深さ約23cm、P2は直径約30cm、深さ約12cm、P3は直径約20cm、深さ約30cm、P4は直径約30cm、深さ約40cm、P1-P2間は300cm、P2-P3間は190cm、P3-P4間は275cm、P4-P1間は225cmを測る。その他に楕円形状のピットを3基検出した。これらのピットは柱穴に隣接して存在しており、あるいは柱の立て替えがあったのかも知れない。掘り方は床面より10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。出土遺物は南壁際に坏類が集中して出土している。

カマドは調査区域外に存在すると考えられる。



第77図 B区20号住居跡図(1)



第78図 B区20号住居跡図・出土遺物図(2)

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

#### B区22号住居跡 (図版第81図、写真図版19-6-8、77)

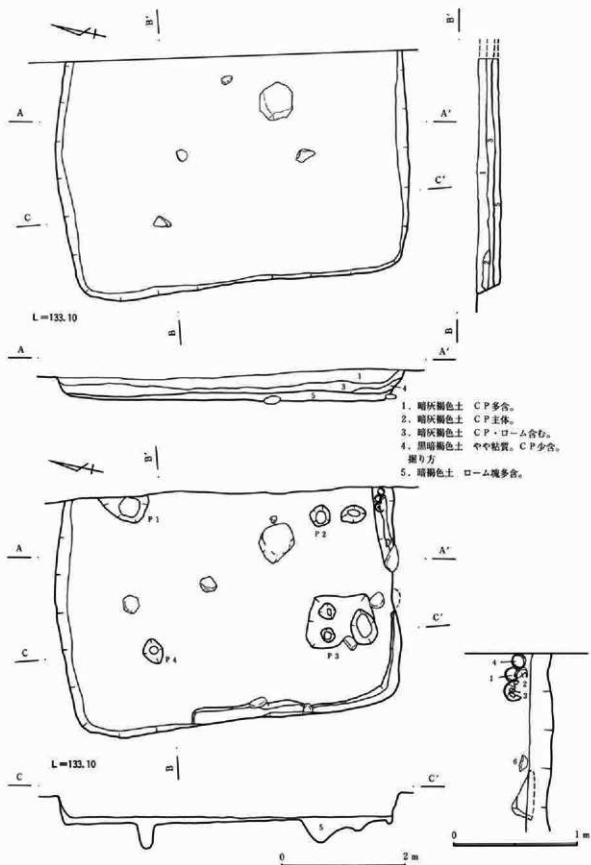
30-B-29グリッドに位置し、重複関係はB区12号住居跡に先行し、B区25号住居跡に後行する。平面形態は長方形を呈すると考えられるが、B区12号住居跡に北側半分を壊されているために、規模ははっきりしない。地山を掘り込んだ床面は堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がるが、北壁及び東壁の一部は不明確である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されず、遺物もほとんど認められない。

カマドは東壁の中央から南寄り位置し、灰層を含めて遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約50cm、奥行き約170cmで、煙道部は緩やかに住居外に約110cm程延びる。両軸は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は深さ約8-12cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。

住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

#### B区23号住居跡 (図版第82・83図、写真図版20-1・2、77)

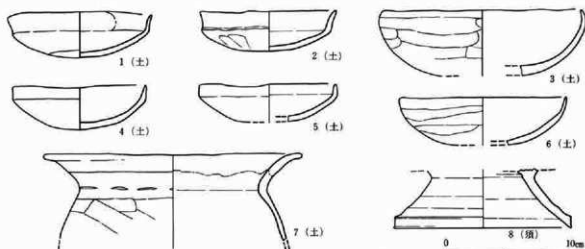
36-B-46グリッドに位置し、北側及び西側部分は調査不可能区域に存在するために、平面形態や規模が不明である。そのために重複関係も不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴の存在は不明である。遺物は南壁から床面中央にかけての部分やカマド周辺に認められ、土師器や須恵器が多数出土している。



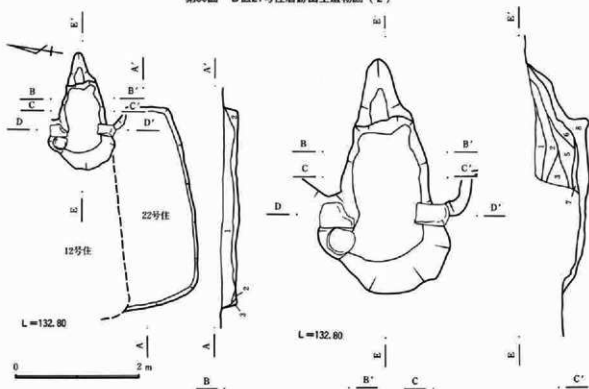
第79図 B区21号住居跡(1)



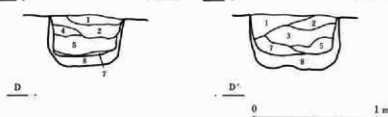
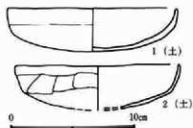
第1節 古墳時代後期～平安時代



第80図 B区21号住居跡出土遺物図(2)



1. 灰褐色土 C P 多含。
2. 灰褐色土 C P 少含。
3. 暗褐色土 ローム土主体、椀の崩れ。  
カマド
1. 黒褐色土 C P 多含・ローム含。
2. 黒褐色土 C P 少含、焼土多含。



3. 黒褐色土 C P 少含、ローム多含。
4. 2層に類似。
5. 焼土塊。
6. 灰褐色土 灰主体。
7. 灰層  
掘り方
8. 暗褐色土 ローム塊多含。

第81図 B区22号住居跡図・出土遺物図

### 第3章 検出された遺構・遺物

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置するが、北側半分以上が調査不可能区域に位置するために、平面形態や規模、主軸方向が不明である。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

#### B区25号住居跡 (図版第84・85図、写真図版20-4~7、77)

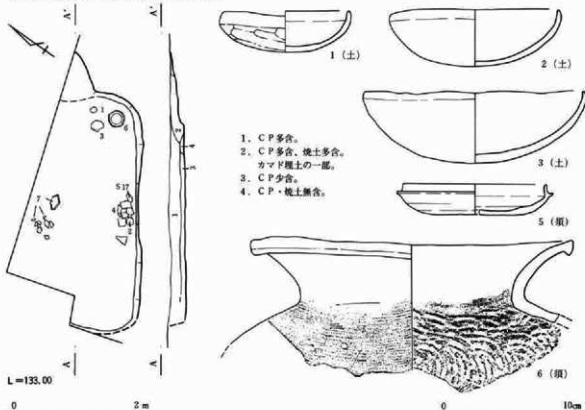
28-B-29グリッドに位置し、重複関係はB区12号住居跡、B区22号住居跡に先行し、B区26号住居跡に後行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.0m、東西約3.1mで、面積は約11.3㎡を測る。調査時に既に床面の一部が検出されており、北壁はほとんど不明確である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より約20~30cm程掘り込んでおり、ほぼ中央部と北西隅付近に長軸1.4~1.6m、短軸約1.0m、深さ約0.2mの楕円形の掘り込みが検出されている。ロームを主体に貼床を施している。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約62cm、奥行き約66cmで、煙道部は緩やかに住居外に約57cm程延びる。両袖は残存し、燃焼部手前に円形の掘り込みが検出されており、支脚の痕跡かもしれない。カマド掘り方は深さ約10cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部から煙出し部分にかけて出土している。

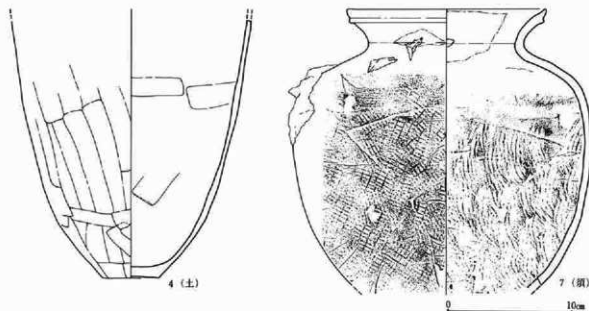
住居の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

#### B区30号住居跡 (図版第86・87図、写真図版21-5~8)

59-B-37グリッドに位置し、重複関係は無いが、西壁部分が調査区域外に存在するために、平面形態や規模が不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より5~15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物が認められる。



第82図 B区23号住居跡図・出土遺物図(1)



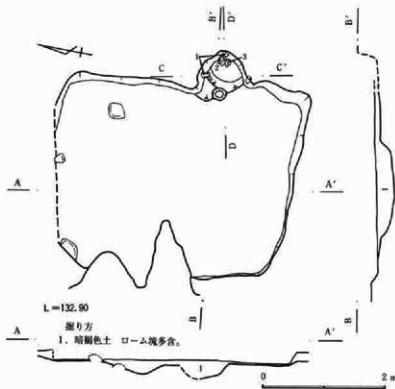
第83図 B区23号住居跡出土遺物図(2)

カマドは東壁の中央からかなり南東隅寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約60cm、奥行き約108cmで、煙道部は緩やかに住居外に約53cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は長方形に深さ4cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

**B区31号住居跡** (図版第88図、写真図版22-1-3、78)

56-B-36グリッドに位置し、重複関係はB区6号溝に先行し、B区32号住居跡に後行する。平面形態は

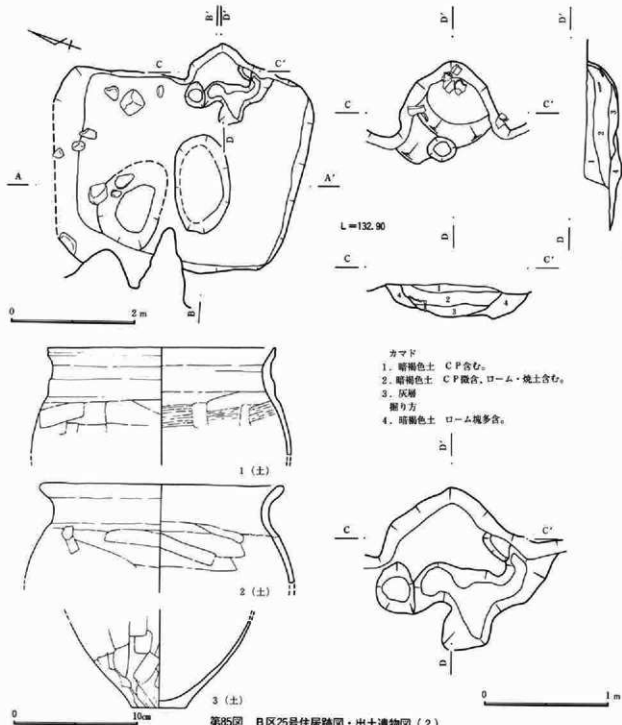


第84図 B区25号住居跡図(1)

長方形を呈し、規模は南北約3.2m、東西約2.3mで、面積は約6.5㎡である。床面は堅く平坦である。壁高は僅かに約5cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されない。掘り方は認められない。出土遺物はカマドの右袖際に僅かに出土している。

カマドは東壁の南東隅寄りに位置し、確認面が低いために既に焼土や灰層が検出されているほど遺存状態が良くない。規模は燃焼部幅約40cm、奥行き約72cmで、煙道部は緩やかに住居外に約66cm程延びる。両袖は残りが悪い。カマド掘り方は深さ約4cm程掘り込んだ後、土で埋め戻しており、両袖部

第3章 検出された遺構・遺物



第85図 B区25号住居跡面・出土遺物図(2)

分にビッドが検出されていることから、袖の構築材に石などが用いられたものと考えられる。

住居の廃絶時期は遺物から9～10世紀と考えられる。

**B区32号住居跡** (図版第89・90図、写真図版22-4～7、78)

55-B-37グリッドに位置し、重複関係はB区31号住居跡、B区6号溝に先行する。平面形態は主軸方向に長い長方形を呈する。規模は南北約3.3m、東西約4.6mで、面積は約15.2㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されないが、南東隅に楕円形の貯蔵穴が検出され、長軸40cm、短軸35cm、深さは僅かに7cmを測る。遺物はカマドの

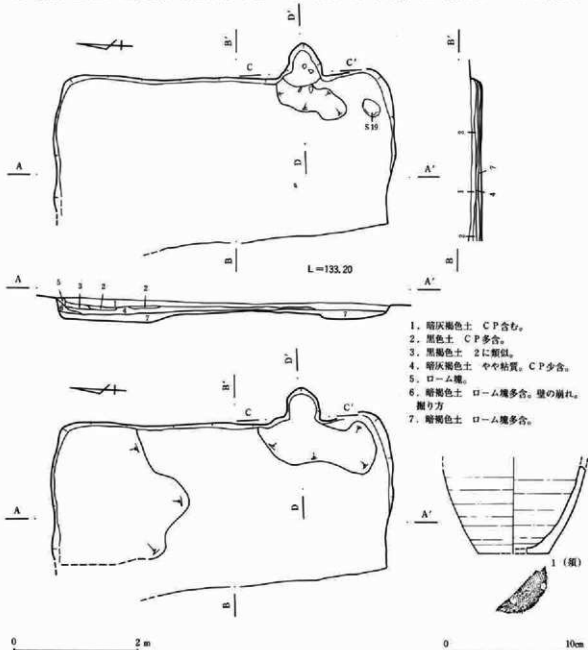
燃焼部手前部分と北東隅部分に認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約52cm、奥行き約79cmで、煙道部は緩やかに住居外に約73cm程延びる。袖は右袖が不明確であるが残存する。カマド掘り方は深さ約13cm程掘り込んだ後、土で埋め戻しているが、両袖部分にピットが検出されていることから、袖の構築材に石などが用いられたものと考えられる。

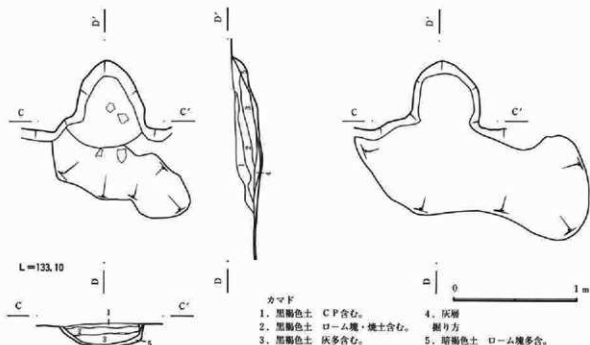
住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

**B区33号住居跡** (図版第91図、写真図版22-8-23-2)

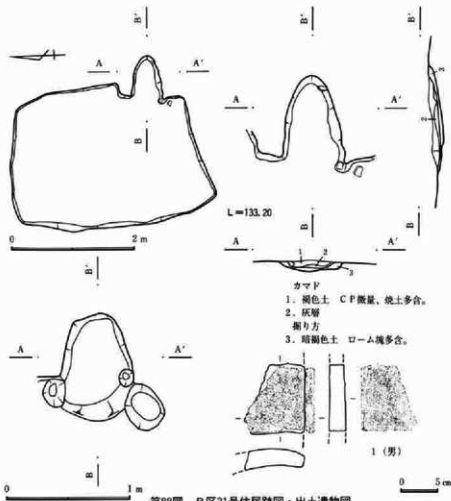
59-B-35グリッドに位置し、重複関係は無いが、北側及び西側部分は調査不可能区域に存在するために、平面形態や規模が不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約10cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は南壁、及び東壁の一部に幅約25cm、深さ約15cmで検出されているが、柱穴の



第86図 B区33号住居跡図・出土遺物図(1)



第87図 B区30号住居跡図(2)



第88図 B区31号住居跡図・出土遺物図

存在は不明である。貯蔵穴は掘り方調査時に検出され、不定形の掘り込みの中にさらに長方形を呈する二つのピットが認められ、一つは長軸35cm、短軸22cm、深さ44cm、もう一つは長軸36cm、短軸23cm、深さ40cmを測る。掘り方は床面より5cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約48cm、奥行き約148cmで、煙道部は緩やかに住居外に約74cm程延び

### 第1節 古墳時代後期～平安時代

る。両袖は残存し、燃焼部手前に天井材に用いたと考えられる石がほぼ真ん中から二つに折れた状態で検出されている。カマド掘り方は深さ約15～20cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。

住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

#### B区34号住居跡 (図版第92図、写真図版23-3-6、78)

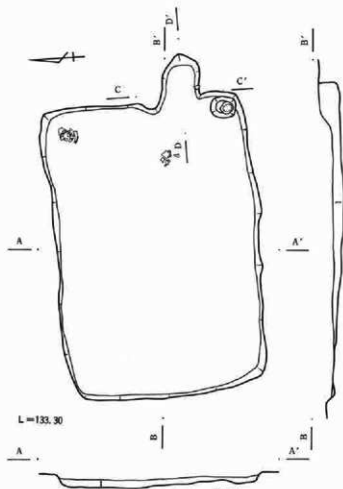
57-B-33グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.5m、東西約3.0mで、面積は約10.1㎡を測る。調査時に既に床面の一部が検出されており、壁はほとんど確認できないような状態である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。遺物は僅かに認められる程度である。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置するが、住居床面と同様に確認面が低いため既に使用面が検出されており、遺存状態は良くない。規模は燃焼部幅約73cm、奥行き約94cmで、煙道部は緩やかに住居外に約54cm程延びる。両袖は明確でない。カマド掘り方は深さ約2～10cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は認められない。

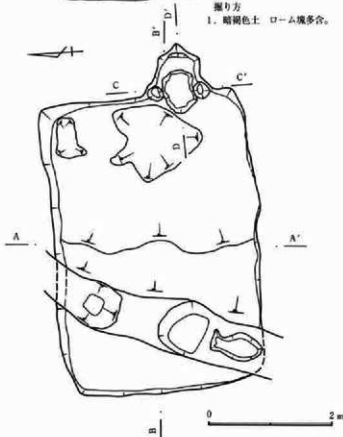
住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

#### B区35号住居跡 (図版第93図、写真図版23-3-6)

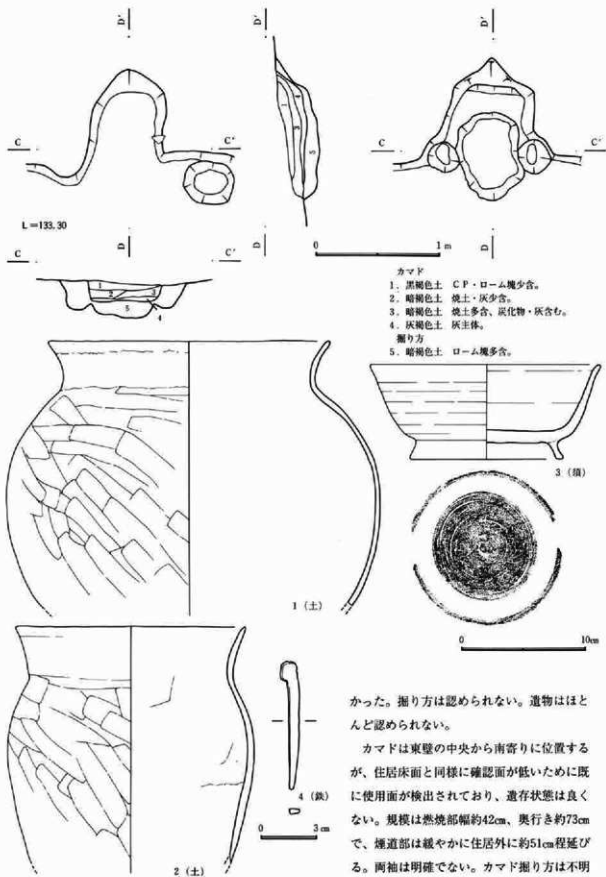
56-B-28グリッドに位置し、重複関係は無い。調査時に既に床面の一部が検出されており、北壁、及び西壁はほとんど不明確である。平面形態は長方形を呈すと考えられ、規模は南北約2.6mだが、東西方向と面積は計測できない。床面は堅く平坦である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されな



掘り方  
1. 暗褐色土 ローム塊多含。



第92図 B区32号住居跡図(1)



第90図 B区32号住居跡面・出土遺物図(2)

かった。掘り方は認められない。遺物はほとんど認められない。

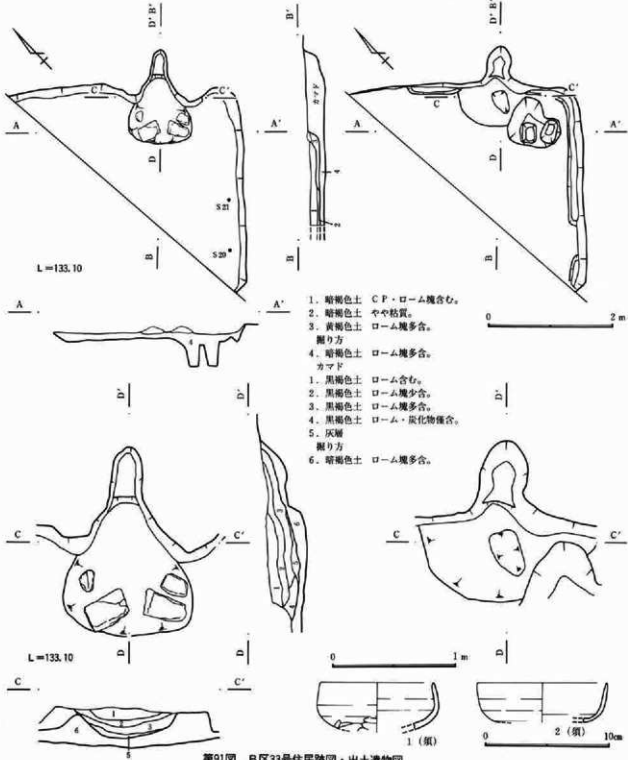
カマドは東壁の中央から南寄りに位置するが、住居床面と同様に確認面が低いために既に使用面が検出されており、遺存状態は良くない。規模は熱焼部幅約42cm、奥行約73cmで、煙道部は緩やかに住居外に約51cm程延びる。両袖は明確でない。カマド掘り方は不明確である。



住居の廃絶時期は遺物も無いことから不明である。

**B区36号住居跡** (図版第94～96図、写真図版23-7-24-1、78)

54-B-28グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北4.3m、東西4.2mで、面積は約18.0㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約10cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は掘り方調査時に検出し、南壁と西壁の中央部、及び北西隅から北壁中央部までの僅かな間に幅15～20cm、深さ50cmで検出した。P1は直径35cm、



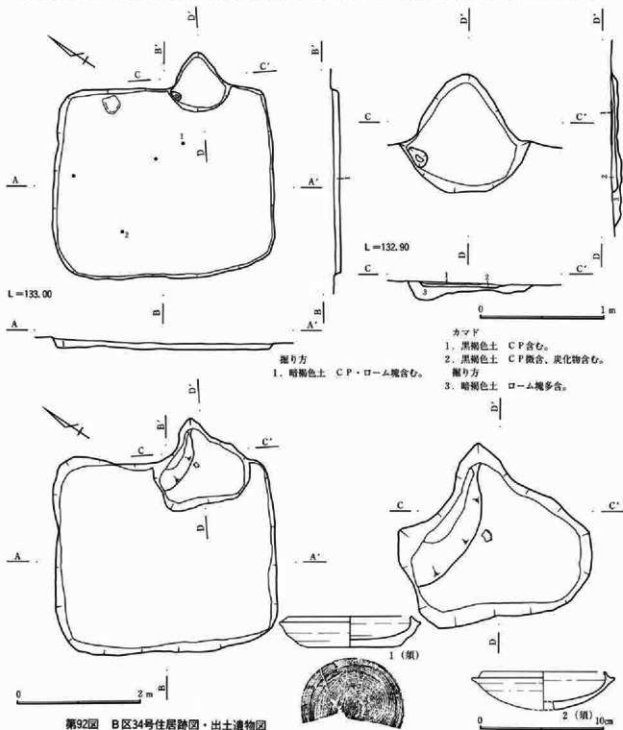
- 1. 暗褐色土 C F・ローム塊含む。
- 2. 暗褐色土 やや粘質。
- 3. 黄褐色土 ローム塊多含。
- 掘り方 カマド
- 4. 暗褐色土 ローム塊多含。
- 掘り方 カマド
- 1. 黒褐色土 ローム含む。
- 2. 黒褐色土 ローム塊少含。
- 3. 黒褐色土 ローム塊多含。
- 4. 黒褐色土 ローム・炭化物塊含。
- 5. 灰層
- 掘り方
- 6. 暗褐色土 ローム塊多含。

第91図 B区33号住居跡図・出土遺物図

第3章 検出された遺構・遺物

深さ34cm、P 2は直径36cm、深さ29cm、P 3は直径45cm、深さ39cm、P 4は直径46cm、深さ30cmを測る。P 1-P 2間は210cm、P 2-P 3間は220cm、P 3-P 4間は210cm、P 4-P 1間は215cmを測る。貯蔵穴も掘り方調査時に検出、カマド右袖際の住居南東隅に位置し、長方形を呈す。規模は長軸60cm、短軸40cm、深さ26cmを測る。掘り方は床面より10-20cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は南壁のほぼ中央部、カマドの左袖付近にこも編み石がいくつか認められる。

カマドは東壁の南東隅寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約85cm、奥行き約213cmで、煙道部は緩やかに住居外に約130cmも延びる。両袖は明確でない。カマド掘り方は長方形に深さ6cm程掘り込

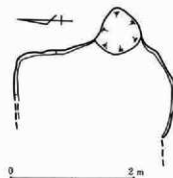


んだ後、埋め戻しているものの、改築の痕跡も認められる。遺物は右袖付近に甕の破片、焼焼部入り口部分から左袖部分にかけて認められる。

住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

#### B区38号住居跡 (図版第97・98図、写真図版24-2-5、78)

53-B-24グリッドに位置し、重複関係は無い。規模は不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。調査時に既に床面の大部分が検出されており、壁はほとんど不明確である。平面形態は長方形を呈し、規模は南北4.2m、東西2.2mで、面積は約13.6㎡を測る。壁溝、柱穴はその存在が不明であるが、貯蔵穴は



第93図 B区35号住居跡図

南東隅に位置し、楕円形を呈す。規模は長軸70cm、短軸55cm、深さ10cmを測る。掘り方は南壁際に楕円形、及び円形状の掘り込みが認められ、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁の南東隅寄りに位置し、遺存状態は両袖部分を除いてあまり良好でない。規模は焼焼部幅約32cm、奥行き約162cmで、煙道部は緩やかに住居外に約76cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は焼焼部手前から深さ8-14cm程の円形状の掘り込みをした後、埋め戻している。遺物は焼焼部手前から土師器の甕が出土して

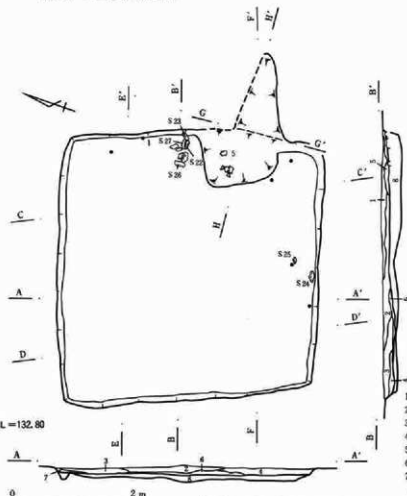
る。

住居の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

#### B区39号住居跡 (図版第99

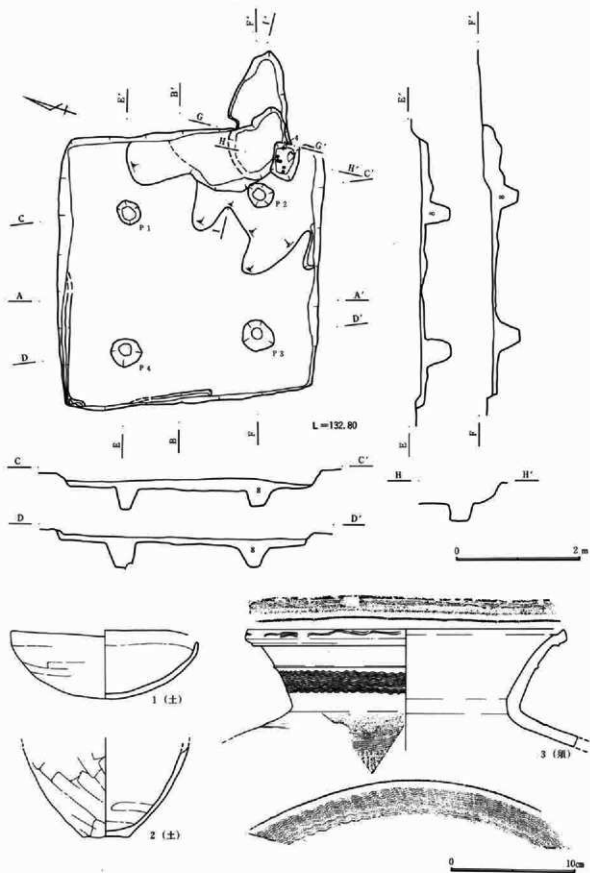
図、写真  
図版24-  
6-7、  
79)

56-B-41グリッドに位置し、重複関係は無いが、北西壁と東壁を含む北側半分が現農道下に位置するために、調査が不可能であり、そのために平面形態や規模が不明である。床面は堅く平坦である。壁高は約12cmを測り、ほぼ直

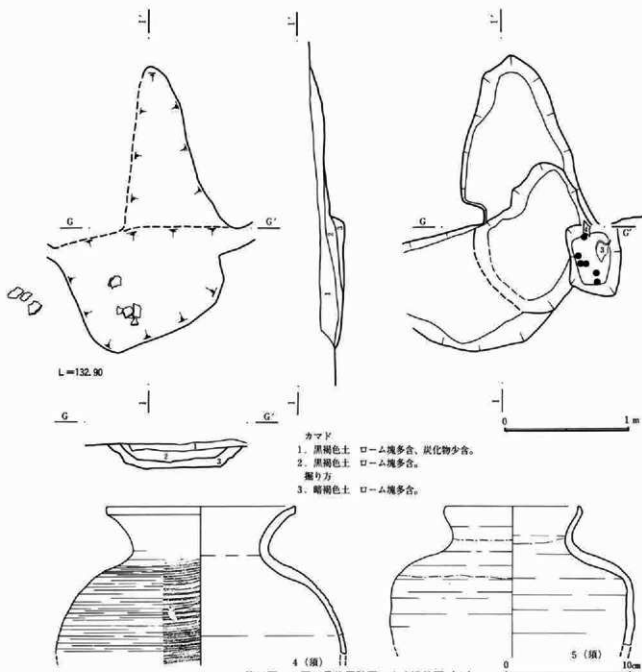


第94図 B区36号住居跡図(1)

1. 暗褐色土 C P 含む。
2. 暗褐色土 C P・ローム塊多含。
3. 暗褐色土 C P・ローム塊多含。
4. 暗褐色土 C P 少量、ローム塊多含。
5. 暗褐色土 炭化物・灰少含。
6. 黒褐色土 C P 含む。
7. 暗褐色土 C P 含む。
- 掘り方
8. 暗褐色土 ローム塊多含。



第95図 B区36号住居跡図・出土遺物図(2)



第96図 B区36号住居跡図・出土遺物図(3)

線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は認められない。遺物は床面の中央部付近に完形の坏などが認められる。

カマドは東壁に位置すると考えられることから、現農道下の調査不可能区域に存在すると考えられる。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀と考えられる。

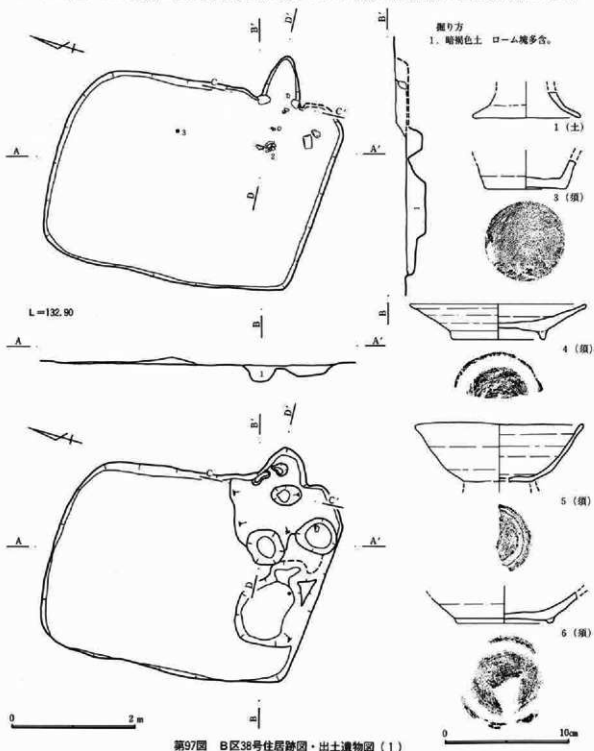
#### B区40号住居跡 (図版第100・101・102図、写真図版24-8~25-3、79)

56-B-47グリッドに位置し、重複関係はB区42号住居跡に先行する。平面形態は僅かに主軸方向が長い長方形を呈し、規模は南北4.7m、東西4.9mで、面積は約23.5㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝はカマド部分とB区42号住居跡に壊されている北西隅から西壁中央部以外のすべての部分で幅25cm、深さ7cmで検出した。柱穴も4基を検出した。

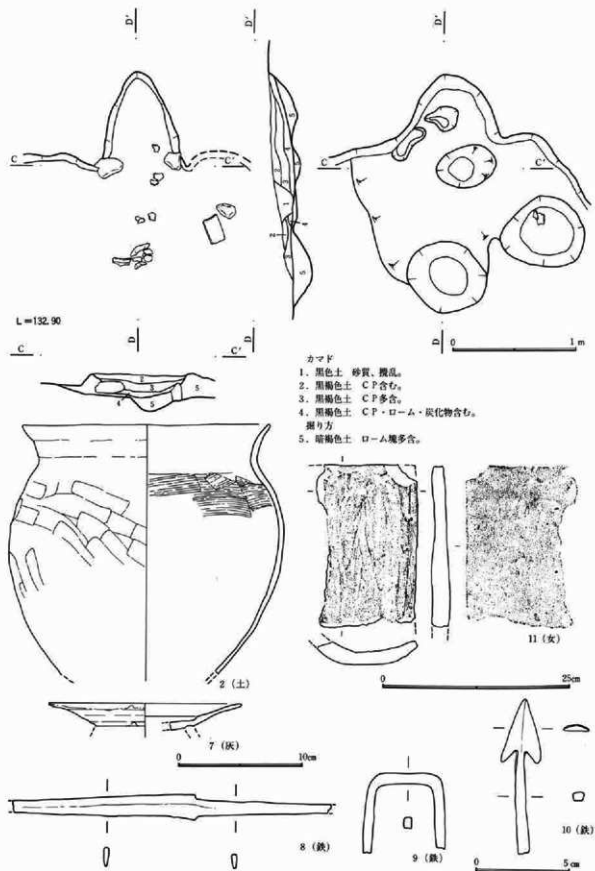
第3章 検出された遺構・遺物

P 1 は直径38cm、深さ39cm、P 2 は直径43cm、深さ27cm、P 3 は直径32cm、深さ37cm、P 4 は直径35cm、深さ22cmを測る。P 1-P 2 間は225cm、P 2-P 3 間は215cm、P 3-P 4 間は200cm、P 4-P 1 間は220cmを測る。貯蔵穴も掘り方調査時に検出され、カマド右袖際の住居南東隅に位置し、楕円形を呈す。規模は長軸138cm、短軸100cm、深さ22cmを測る。掘り方は床面より5cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド付近にいくつか認められる。

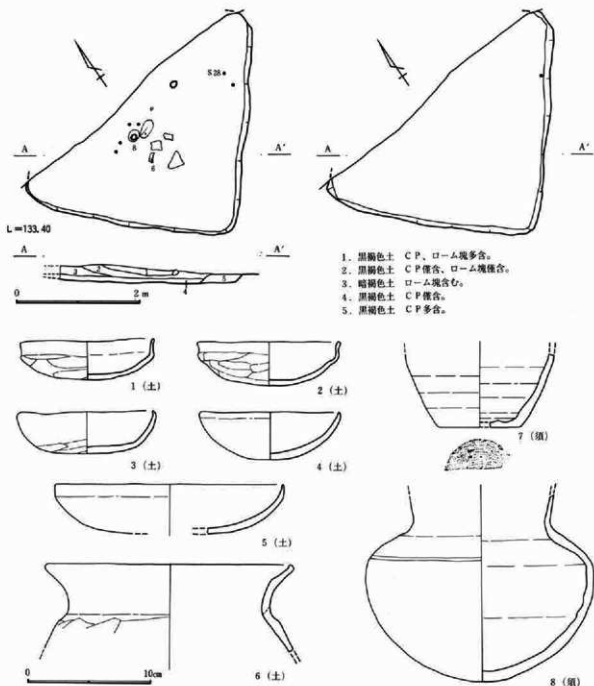
カマドは東壁のほぼ中央部に位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約58cm、奥行き約136cmで、



第97図 B区38号住居跡図・出土遺物図(1)



第98図 B区38号住居跡園・出土遺物図(2)



第99図 B区39号住居跡図・出土遺物図

煙道は緩やかに住居外に約91cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材としている。カマド掘り方は深さ25cm程掘り込んだ後、埋め戻している。遺物は右袖付近に認められる。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

**B区41号住居跡** (図版第103・104図、写真図版25-5-8、79)

60-B-47グリッドに位置し、重複関係は無いが、西側半分は調査区域外に存在するために、平面形態や規模が不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がるが、南壁は不明確である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より5cmほど掘り込んだ後、平らに埋め戻して整くしている。

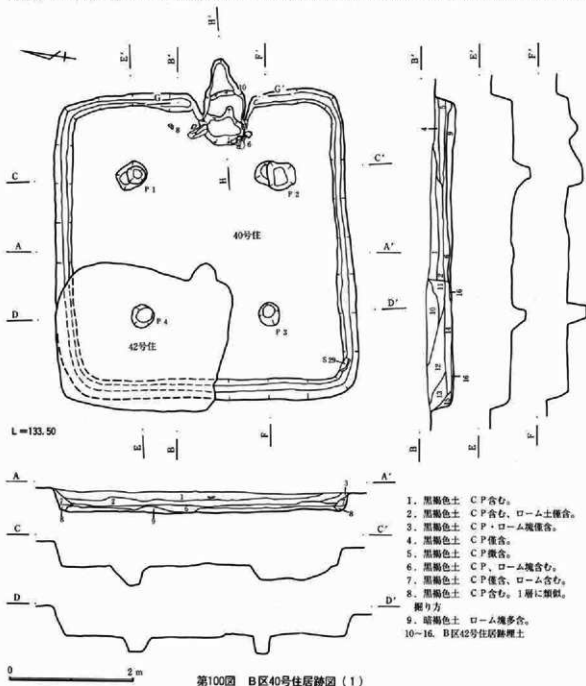


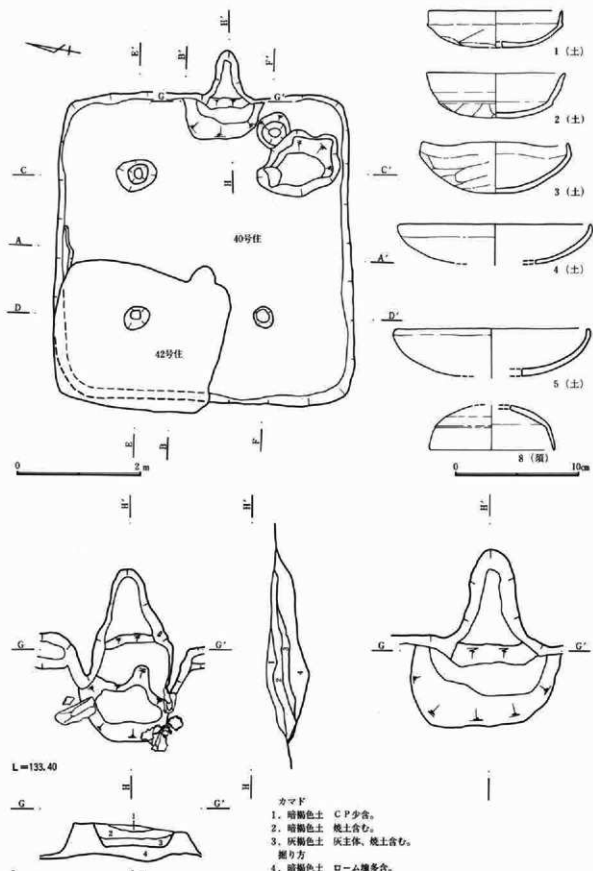
カマドは東壁の中央から南東隅寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約50cm、奥行き約102cmで、煙道部は緩やかに住居外に66cm程延びる。両袖が残存し、右袖には石を構築材とし、左袖部分には浅い掘り込みが認められる。また天井部の構築材として用いられたと考えられる石がほぼ真真中で二つに折れた状態で、燃焼部手前から検出された。掘り方は長方形に深さ10cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**B区42号住居跡** (図版第105図、写真図版24-8-25-4、79)

57-B-48グリッドに位置し、重複関係はB区40号住居跡に後行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約2.6m、東西約2.1mで、面積は約5.7㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約10cm

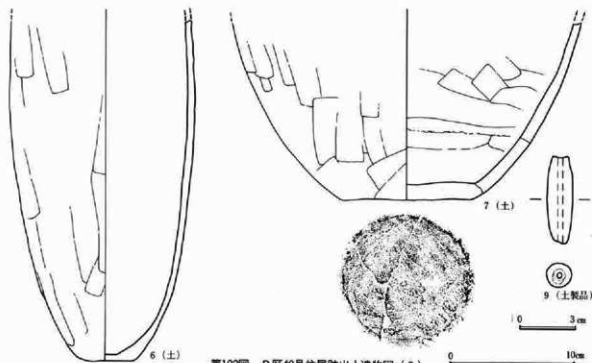




L = 133.40

- カマド
1. 暗褐色土 C P 少含。
  2. 暗褐色土 焼土含む。
  3. 灰褐色土 灰主体、焼土含む。
- 掘り方
4. 暗褐色土 ローム塊多含。

第101図 B区40号住居跡面・出土遺物図(2)



第102図 B区40号住居跡出土遺物図(3)

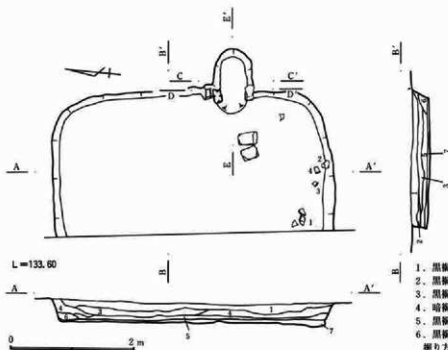
を測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より2cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、灰層は残存するものの遺存状態は極めて良好でない。規模は燃焼部幅約38cm、奥行き約62cmで、煙道部は緩やかに住居外に約26cm程延びる。両袖ははっきりしない。掘り方は深さ3cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。また両袖部分に僅かに浅くほみが存在し、あるいは袖石の痕跡を示すものかも知れない。遺物はほとんど認められない。住居の廃絶時期は遺物から9～10

世紀と考えられる。

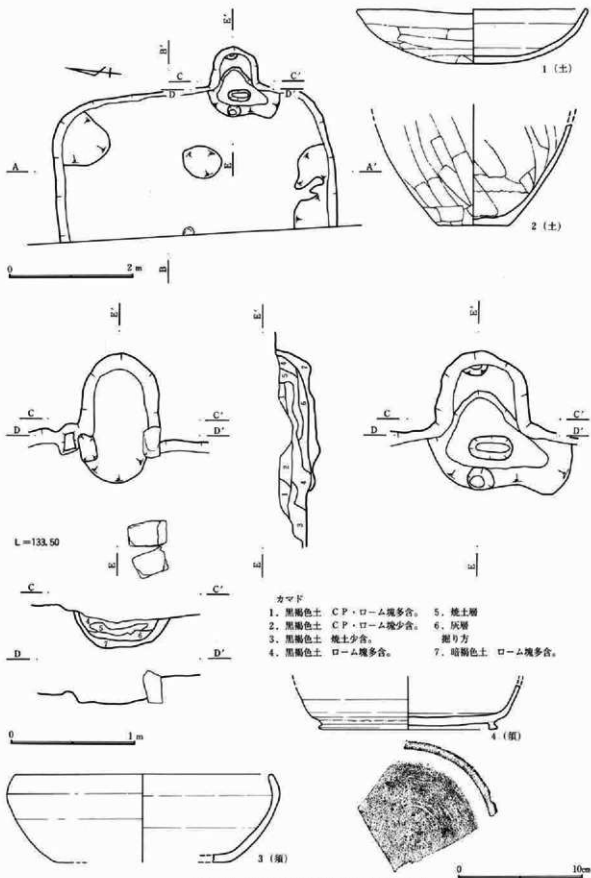
**B区43号住居跡** (図版第106・107図、写真図版26-1・2、79)

59-B-45グリッドに位置し、重複関係は



第103図 B区41号住居跡図(1)

1. 黒褐色土 C P多含。
2. 黒褐色土 C P含む、粘質土塊多含。
3. 黒褐色土 C P含む。
4. 暗褐色土 C P含む。
5. 黒褐色土 C P微含。
6. 黒褐色土 C P微含、粘質土塊含む。
7. 暗褐色土 ローム塊多含。



第104図 B区41号住居跡図・出土遺物図(2)

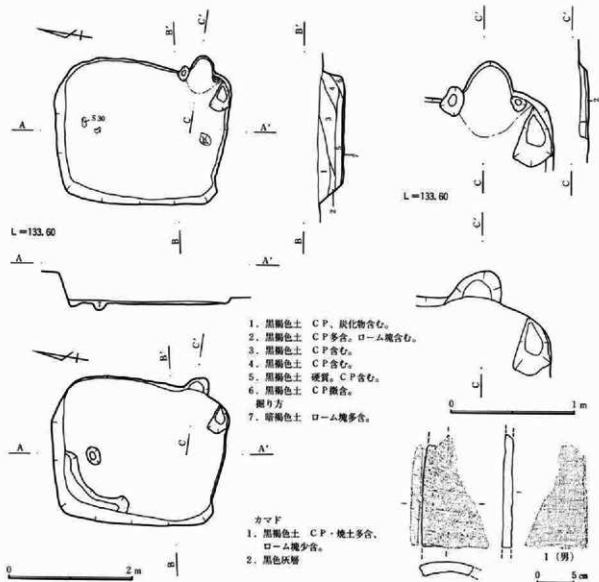
B区44号住居跡に後行する。西壁、及び南壁を含む南側半分が現農道下に位置するために、調査が不可能であり、平面形態や規模は不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は掘り方調査時に壁に幅20cm、深さ6cmで検出した。柱穴は掘り方調査時に1基を検出した。その他に楕円形状のピットを1基検出した。貯蔵穴の存在は不明である。掘り方では床面中央部に深さ5cm程の掘り込みを検出し、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は床面の中央部に認められる。

カマドはおそらく調査不可能な部分に存在すると考えられる。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

**B区44号住居跡** (図版第106・107図、写真図版26-1・2、79)

57-B-45グリッドに位置し、重複関係はB区43号住居跡に先行する。西壁、及び南壁を含む南側半分が現農道下に位置するために、調査が不可能であり、平面形態や規模は不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴は検出されなかった。



第105図 B区42号住居跡図・出土遺物図

第3章 検出された遺構・遺物

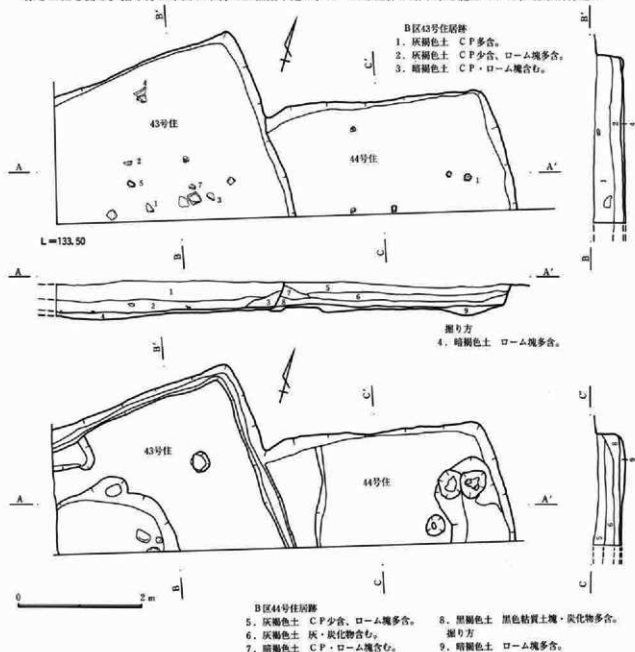
柱穴は掘り方調査時に1基を検出した。その他に円形状のピットを2基検出した。掘り方では東壁際に楕円形状の深さ2～8cm程の掘り込みを検出し、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は東壁から床面中央にかけて散漫な分布が認められる。

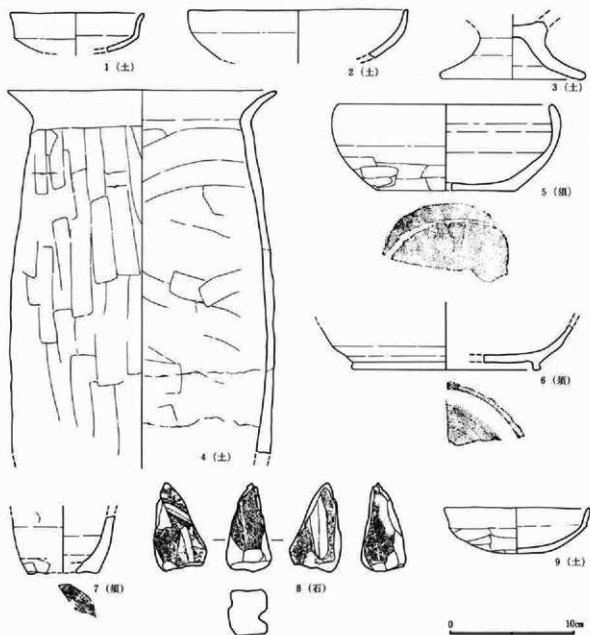
カマドはおそらく調査不可能な部分に存在すると考えられる。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半から8世紀にかけてと考えられる。

**B区45号住居跡** (図版第108・109図、写真図版26-3-5、79・80)

52-B-49グリッドに位置し、重複関係はB区6号溝に先行する。平面形態は僅かに長方形を呈し、規模は南北3.8m、東西3.4mで、面積は約7.7㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は15～20cmを測り、ほぼ直線的に立ち上がる。貯蔵穴は南東隅に位置し、楕円形を呈す。規模は長軸94cm、短軸84cm、深さ12cmを測る。掘り方は床面より約25cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。北東隅付近に





第107図 B区43・44号住居跡出土遺物図(2)

楕円形の掘り込みが1基検出され、柱穴と考えられる。また、北東隅に円形の掘り込みが認められる。さらに、掘り方の様子から住居の改築が考えられる。特に、東壁は東側に張り出した痕跡が認められる。遺物はカマド付近、及び東壁際を中心に僅かに認められる。

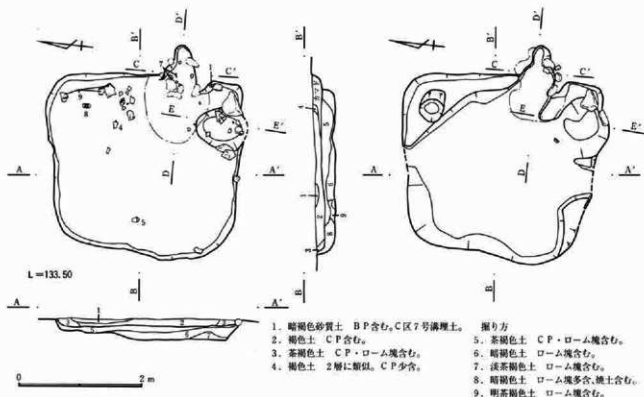
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約49cm、奥行き約154cmで、煙道部は緩やかに住居外に約60cm程延びる。袖は左袖が不明だが、右袖は残存し石を構築材とする。カマド掘り方は長方形に深さ約10cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。改築の痕跡が認められる。遺物は燃焼部付近に認められる。

住居の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

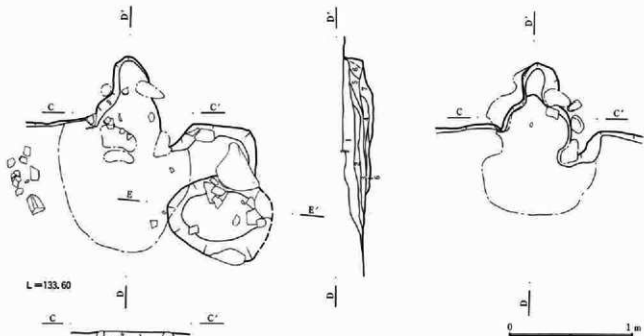
**B区46号住居跡** (図版第110・111図、写真図版26-6-8、27-1、80)

44-B-48グリッドに位置し、重複関係はB区49号住居跡に先行する。平面形態はほぼ正方形を呈し、規

第3章 検出された遺構・遺物



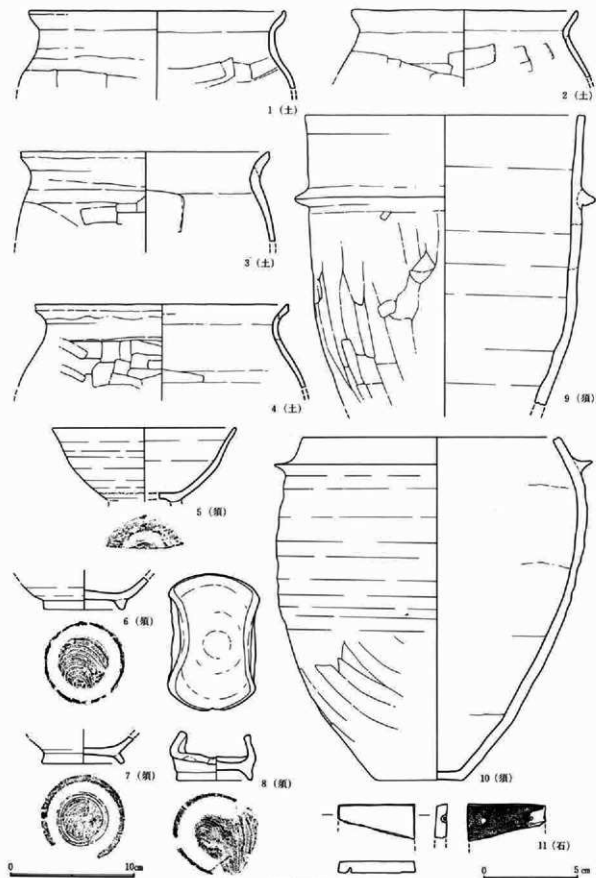
1. 暗褐色砂質土 B P含む。C区7号溝埋土。  
 2. 褐色土 C P含む。  
 3. 茶褐色土 C P・ローム塊含む。  
 4. 褐色土 2層に類似。C P少含。  
 5. 茶褐色土 C P・ローム塊含む。  
 6. 暗褐色土 ローム塊含む。  
 7. 淡茶褐色土 ローム塊含む。  
 8. 暗褐色土 ローム塊多含。焼土含む。  
 9. 明茶褐色土 ローム塊含む。
- 掘り方



- カマド
1. 暗茶褐色土 C P多含。焼土僅含。  
 2. 暗茶褐色土 C P・焼土・炭化物僅含。  
 3. 黒褐色土 ローム塊・焼土・炭化物僅含。  
 4. 黒色灰層 焼土含む。  
 5. 黒褐色土 ローム・焼土・黒色灰含む。  
 6. 茶褐色土 ローム塊含む。
- 掘り方
- 貯蔵穴
1. 暗茶褐色土 C P・焼土塊・炭化物含む。  
 2. 暗茶褐色土 1層に類似。ローム塊多含。

第108図 B区45号住居跡図(1)



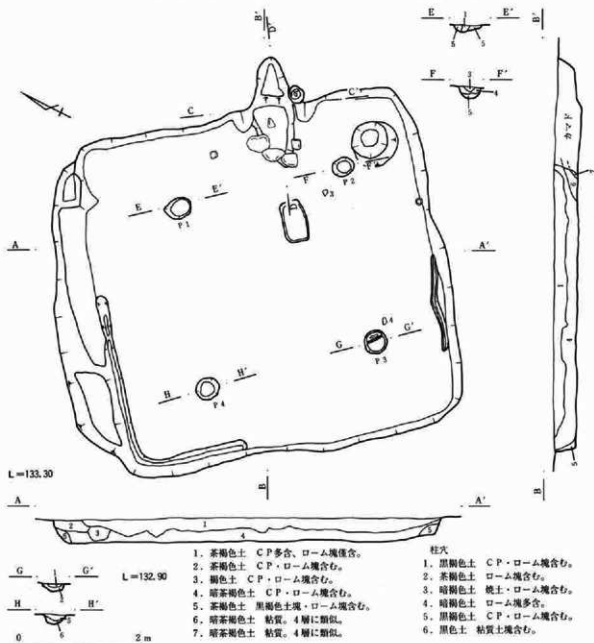


第109図 B区45号住居跡出土遺物図(2)

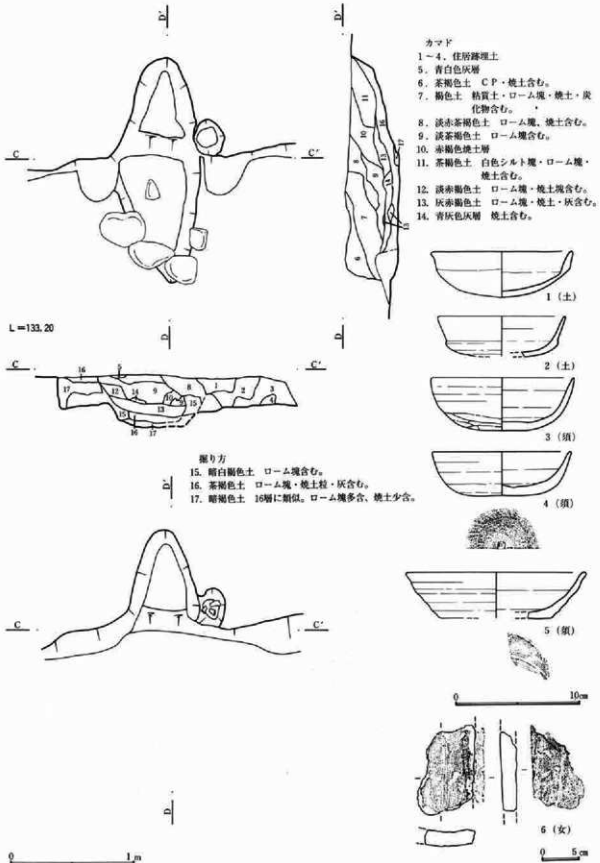
第3章 検出された遺構・遺物

楕は南北約6.2m、東西約5.4mで、面積は約32.7㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は約40cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は北西隅付近及び南壁の一部に幅約10～30cm、深さ約4cmで検出した。貯蔵穴は南東隅に位置し、円形を呈す。規模は約75cm、深さ約42cmを測る。その他に長方形のピットを1基検出した。柱穴は4基検出した。P1は直径34cm、深さ約13cm、P2は直径30cm、深さ17cm、P3は直径35cm、深さ12cm、P4は直径35cm、深さ約25cmを測る。柱穴の間はP1-P2間265cm、P2-P3間280cm、P3-P4間280cm、P4-P1間285cmである。また、床面の中央からカマド寄りに長方形のピットが認められる。規模は長軸67cm、短軸40cm、深さ45cmを測る。遺物はカマド付近から南壁際にかけて僅かに認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約53cm、奥行き約175cmで、煙道部は緩やかに住居内に約78cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。燃焼部手前に崩れ



第110図 B区46号住居跡図(1)



第111図 B区46号住居跡図・出土遺物図(2)

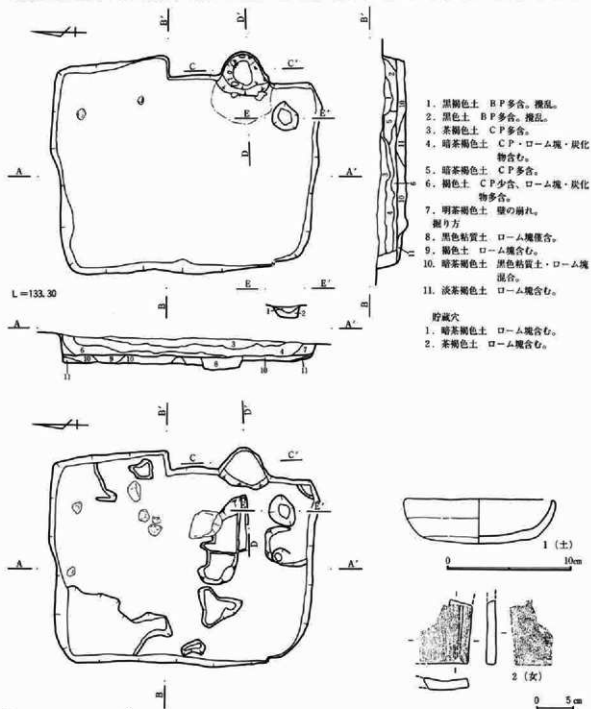
第3章 検出された遺構・遺物

た痕跡が認められるが、あるいは天井部の構造材の残存かも知れない。カマド掘り方は深さ約6cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

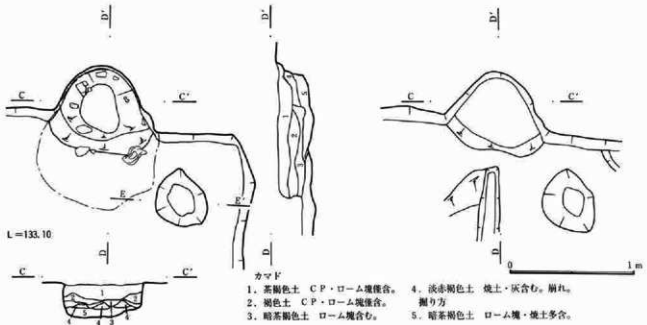
住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

**B区47号住居跡** (図版第112・113図、写真図版27-2-4、80)

42-B-43グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は東壁の北側半分がやや張り出す長方形を呈し、規模は南北約4.3m、東西約3.9mで、面積は約16.8㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に位置し、



第112図 B区47号住居跡図・出土遺物図(1)

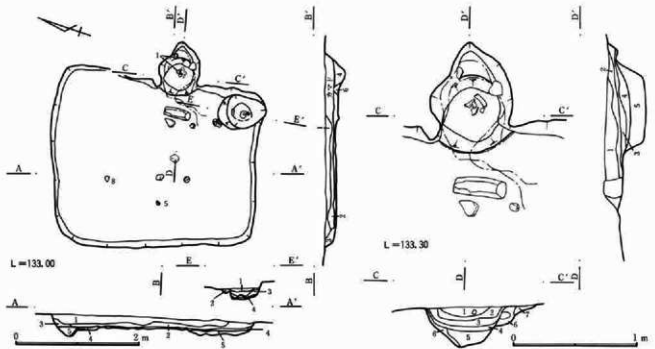


第113図 B区47号住居跡図(2)

円形を呈し、規模は直径40cm、深さ約22cmを測る。掘り方は床面より約15～20cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。大小多数の掘り込みが検出されており、その一部は柱穴と考えられる。遺物はカマド付近を除いてほとんど認められない。

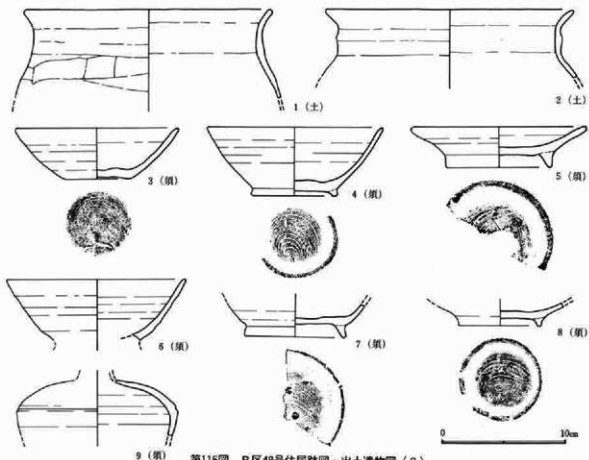
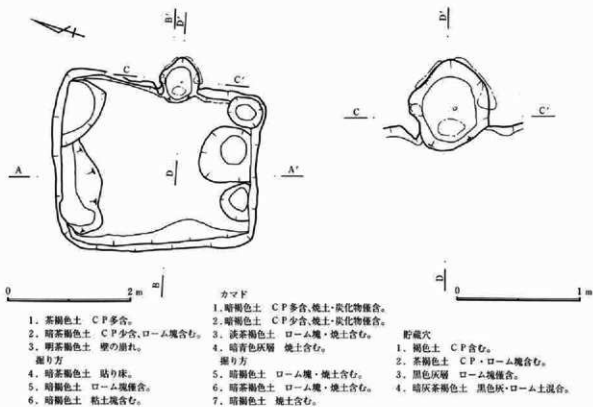
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約72cm、奥行き約68cmで、煙道部は緩やかに住居外に約40cm程延びる。両袖は無い。カマド掘り方は長方形に深さ約8cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部から多数出土している。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。



第114図 B区48号住居跡図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第115図 B区48号住居跡面・出土遺物図(2)

**B区48号住居跡** (図版第114・115図、写真図版27-5-8、28-1・2、80)

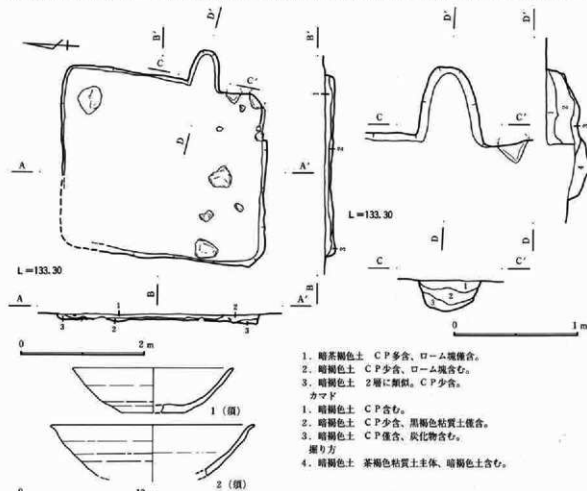
43-B-42グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.3m、東西約2.8mで、面積は約8.7㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は15-20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に位置し、楕円形を呈す。規模は長軸77cm、短軸53cm、深さ18cmを測る。掘り方は床面より約10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。南壁際に二つの円形の掘り込みが認められる。遺物は床面の中央部、及び貯蔵穴内に認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約45cm、奥行き約86cmで、燃焼部自体が住居外に約70cm程突出している。両袖は残存する。天井部の構架材と考えられる石が燃焼部手前に検出されている。カマド掘り方は深さ約12cm程とかなり円形状に深く掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部内、及び貯蔵穴内に出土している。

住居の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

**B区49号住居跡** (図版第116図、写真図版28-3・4)

44-B-46グリッドに位置し、重複関係はB区46号住居跡、B区59号住居跡に後行する。確認面が低いために既に住居跡床面が検出されている。北西隅がほとんど不明確である。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.3m、東西約2.9mで、面積は約8.8㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約15cm



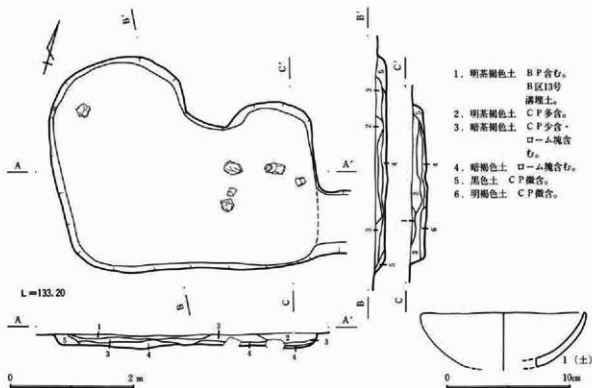
第116図 B区49号住居跡図・出土遺物図

### 第3章 検出された遺構・遺物

を測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がるが、南壁は不明確である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。遺物はカマドの右袖付近から南東隅にかけて堯の破片が僅かに認められる。大小の礫が床面上に点在している。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良くない。規模は燃焼部幅約48cm、奥行き約61cmで、煙道部は緩やかに住居外に約58cm程延びる。両袖の痕跡が無く、火を受けた痕跡が無い点や炭化物、焼土が認められない点から、カマドでない可能性もある。カマド掘り方は深さ約12cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から9～10世紀と考えられる。



第117図 B区50号住居跡面・出土遺物図

#### B区50号住居跡 (図版第117図、写真図版28-5)

46-B-39グリッドに位置し、重複関係は無い。確認面が低いために既に住居跡床面が検出されている。北西隅がほとんど不明確である。平面形態は不定形を呈し、規模は南北約4.2m、東西約3.4mで、面積は約11.3m<sup>2</sup>を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約15cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。遺物はほとんど認められない。大小の礫が南壁から中央部付近にかけて点在している。

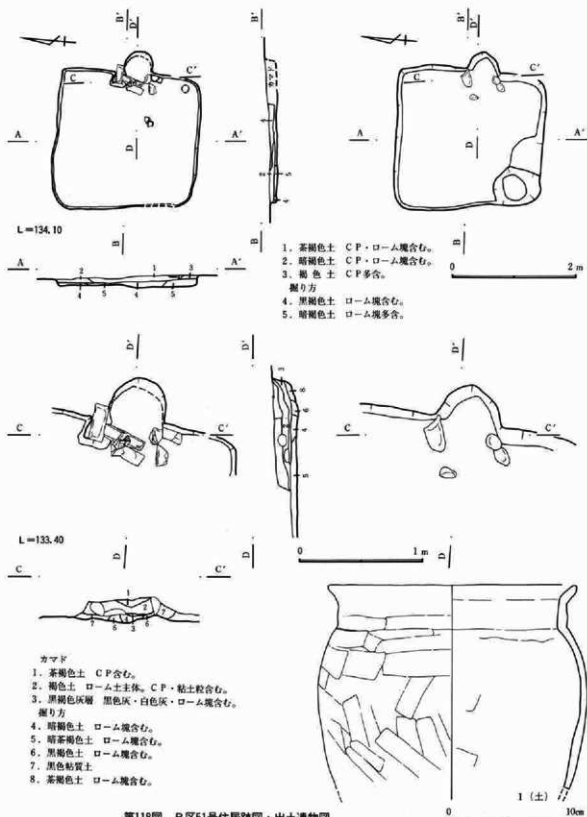
カマドは存在した痕跡すら見当たらず、住居跡と言えない可能性もある。

住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

#### B区51号住居跡 (図版第118図、写真図版28-6～8、80)

42-B-48グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は正方形を呈し、規模は南北約2.3m、東西約2.2mで、面積は約5.4m<sup>2</sup>を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は僅かに約10cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。南西隅に直径70cmの円形のピットが

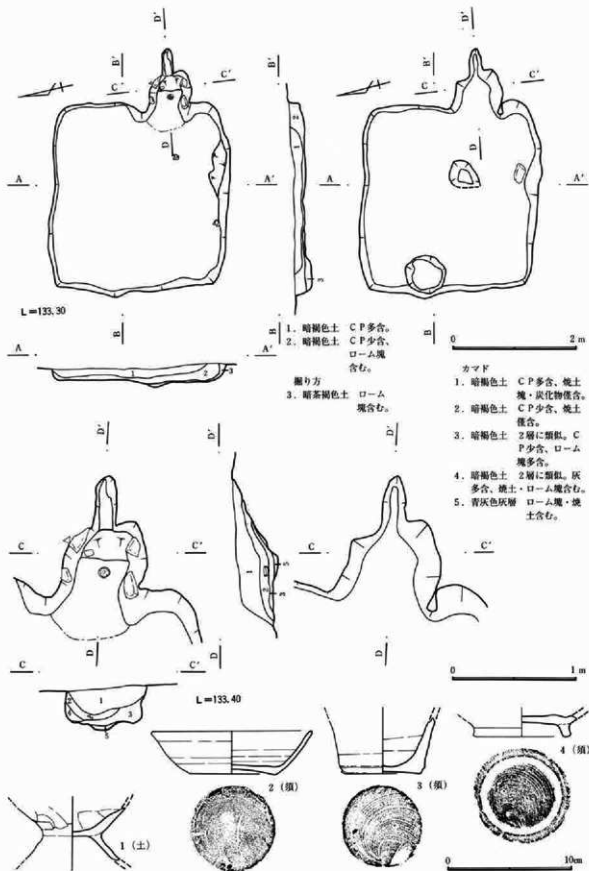




第118図 B区51号住居跡図・出土遺物図

認めらる。掘り方は床面より約10cm程掘り込んで、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は南東隅に1点認められる。

カマドは東壁のはば中央に位置し、遺存状態は良好である。規模は燃烧部幅約36cm、奥行き約62cmで、煙



第119図 B区52号住居跡面・出土遺物図

道部は緩やかに住居外に約44cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。また天井部に架けたと考えられる石も折れた状態で検出されている。カマド掘り方は深さ約4～8cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部から袖付近を中心に出土している。

住居の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

#### B区52号住居跡 (図版第119図、写真図版29-1-3、80)

40-B-49グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は主軸方向に長い長方形を呈し、規模は南北約2.6m、東西約3.1mで、面積は約8.5m<sup>2</sup>を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかったが、楕円形状のピットを2基検出した。床面より約5～10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は南壁際のほぼ中央部に僅かに認められる。

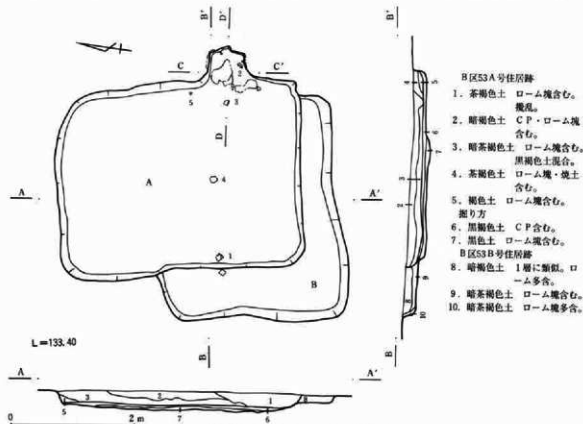
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約37cm、奥行き約130cmで、煙道部は緩やかに住居外に約91cm程延びる。両袖は残存し、燃焼部の壁の構築材として石を用いている。掘り方はほとんどとめられない。遺物は燃焼部から袖付近を中心に出土している。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

#### B区53A号住居跡 (図版第120・121図、写真図版29-4-30-1、80)

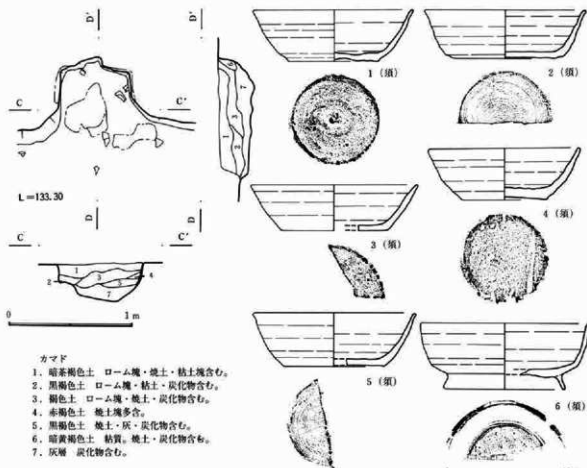
53-B-42グリッドに位置し、重複関係はB区53B号住居跡に後行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.9m、東西約3.0mで、面積は約11.5m<sup>2</sup>を測る。床面は堅く平坦であり、壁は立ち上がり方が僅かに認められる程度である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は悪い。規模は燃焼部幅約59cm、奥行き約61cm



第120図 B区53A・B号住居跡図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第121図 B区53A・B号住居跡団・出土遺物図(2)

で、煙道部は緩やかに住居外に約52cm程延びる。明確な両袖は認められない。掘り方は深さ約10cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

**B区53B号住居跡** (図版第120・121図、写真図版29-4~30-1、80)

重複関係はB区53A号住居跡に先行する。平面形態は長方形を呈すものとかんがえられるが、規模や面積は大部分がB区53A号住居跡に壊されているために不明である。床面は堅く平坦である。壁跡面が低いために壁がほとんど確認できない。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。遺物はほとんど認められない。

カマドはその推定位置からおそらく壊されていると考えられる。

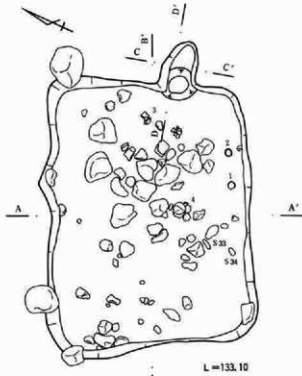
住居の廃絶時期は遺物から9世紀以前と考えられる。

**B区54号住居跡** (図版第122図、写真図版30-2~5、81)

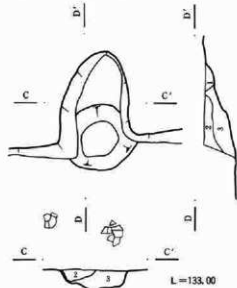
39-B-36グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は主軸方向が長い長方形を呈し、規模は南北約3.4m、東西約4.3mで、面積は約13.9m<sup>2</sup>を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は大小のピットがいくつか検出されており、あるいはそのうちのどれかが柱穴に相当するかも知れない。床面より約20cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド付近から南壁にかけて出土している。

カマドは東壁の中央からやや南寄り位置し、焼土や灰層の残りも悪く、遺存状態は極めて良好でない。

第1節 古墳時代後期～平安時代

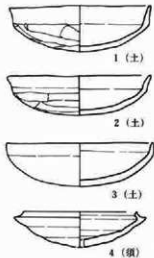
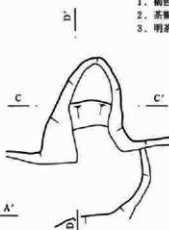
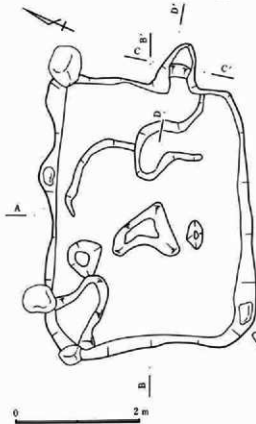


1. 淡灰褐色砂質土 B P 多含、島の埋土か?
  2. 茶褐色土 C P 含む。
  3. 黒褐色土 C P 含む。
  4. 暗褐色土 C P 含む。
  5. 暗茶褐色土 ローム塊含む。
- 掘り方
6. 黒褐色土 C P・ローム塊含む。
  7. 茶褐色土 ローム塊含む。



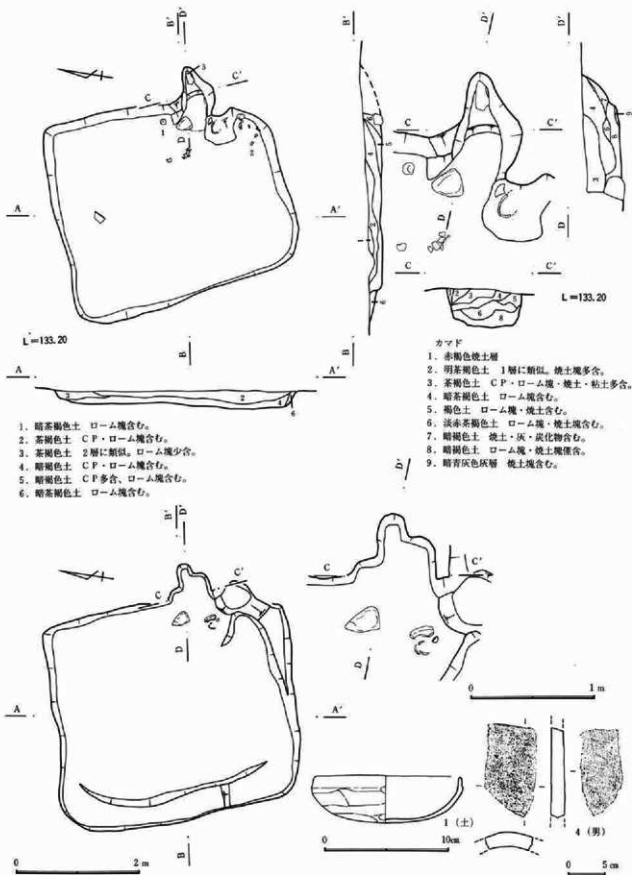
カマド

1. 褐色土 ローム塊含む、島の埋土か?
2. 茶褐色土 C P・ローム塊含む。
3. 明茶褐色土 ローム塊含む。

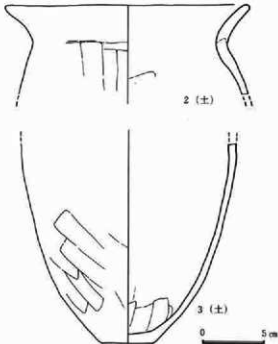


第122図 B区54号住居跡図・出土遺物図

第3章 検出された遺構・遺物



第123図 B区55号住居跡図・出土遺物図(1)



第124図 B区55号住居跡出土遺物図(2)

規模は燃焼部幅約39cm、奥行き約94cmで、煙道部は緩やかに住居外に約68cm程延びる。両袖は残存する。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

**B区55号住居跡** (図版第123・124図、写真図版30-6-8、31-1、81)

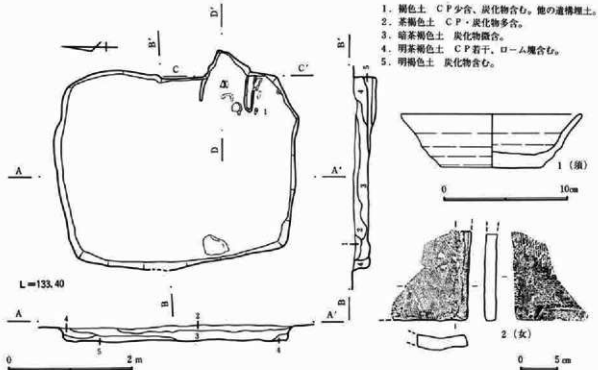
51-B-35グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.7m、東西約3.2mで、面積は約10.9㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約18cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。出土遺物はカマド燃焼部手前付近から南東隅にかけて出土している。

カマドは東壁の中央から南東隅寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約45cm、奥行き約

105cmで、煙道部は緩やかに住居外に約55cm程延びる。両袖は残存し、石を左袖の構築材として利用している。遺物は煙出し部分に1点出土している。

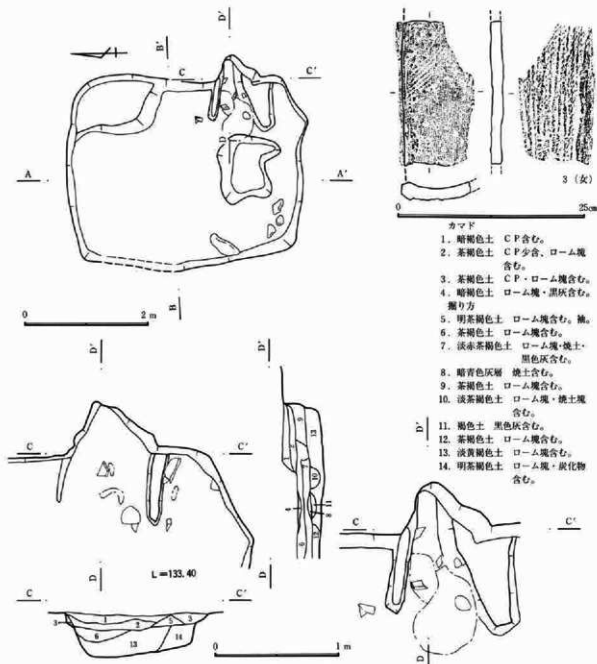
**B区56号住居跡** (図版第125・126図、写真図版31-2-4、81)

48-B-49グリッドに位置し、重複関係はB区57号住居跡と僅かに切り合っているものの、前後関係は不



第125図 B区56号住居跡図・出土遺物図(1)

1. 褐色土 C P少含、炭化物含む。他の遺物埋土。
2. 茶褐色土 C P・炭化物多含。
3. 暗茶褐色土 炭化物多含。
4. 明茶褐色土 C P若干、ローム塊含む。
5. 明褐色土 炭化物多含む。



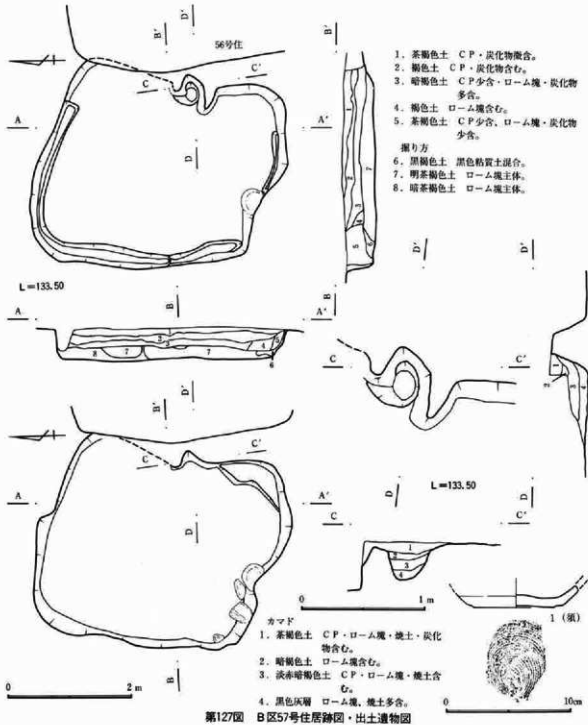
第126図 B区56号住居跡団・出土遺物図(2)

明である。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.8m、東西約3.1mで、面積は約11.0㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。カマドの周辺に円形状の落ち込みが認められる。

カマドは東壁の中央からやや南西隅寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約65cm、奥行約89cmで、煙道部は緩やかに住居外に約36cm程延びる。両軸は残存する。掘り方は深さ約20cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は数点出土している。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀頃と考えられる。





第127図 B区57号住居跡図・出土遺物図

B区57号住居跡 (図版第127図、写真図版31-2・5)

50-B-49グリッドに位置し、重複関係はB区56号住居跡と僅かに切り合っているものの、前後関係は不明である。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.7m、東西約2.7mで、面積は約10.7㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約45cmをも測る。壁溝は北壁、西壁、及び南壁に幅約30cm、深さ約12cmで検出した。柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。掘り方は床面より約20cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。出土遺物は壁から床面中央にかけてヤカマド周辺に僅かに認められる。転蹠が壁や床面から突出している。

### 第3章 検出された遺構・遺物

カマドは東壁の中央から僅かに南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約22cm、奥行き約44cmで、煙道部は緩やかに住居外に約34cm程延びる。両袖は残存し、特に右袖の残りが良好である。粘土を構築材とする。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から9～10世紀と考えられる。

#### B区58号住居跡 (図版第128・129図、写真図版31-6～8、32-1・2、81)

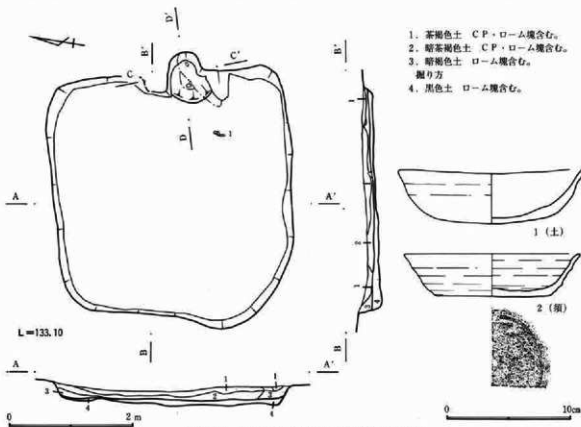
38-B-42グリッドに位置し、重複関係はない。平面形態はほぼ正方形を呈すが、南西隅がやや丸みをもって張り出す。規模は南北約4.0m、東西約3.8mで、面積は約14.1㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方調査時に北壁の東側半分と東壁北側半分の張り出し、それに不定形状のピットを1基検出した。掘り方は床面より約10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。出土遺物は壁から床面中央にかけてややカマド周辺に僅かに認められる。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約60cm、奥行き約82cmで、煙道部は緩やかに住居外に約43cm程延びる。両袖は残存するが、残りは良好ではない。カマド掘り方は深さ約10cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部内出土している。

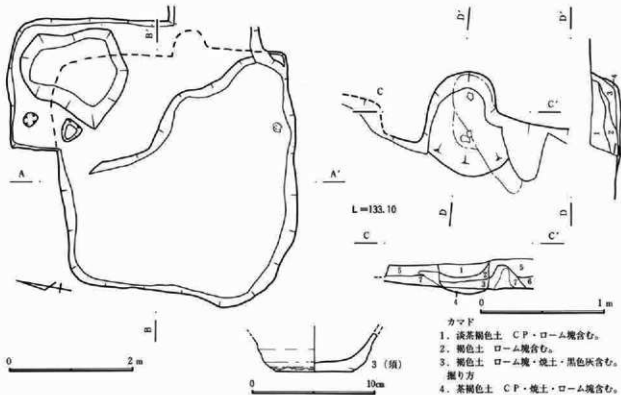
住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

#### B区59号住居跡 (図版第130・131図、写真図版32-3～5、81)

45-B-45グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北約3.0m、東西約2.9mで、面積は約9.1㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は僅かに約5cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。出土遺物は壁から床面中央にかけ



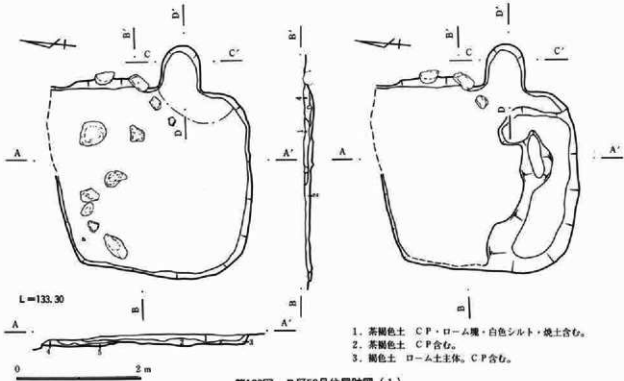
第128図 B区58号住居跡図・出土遺物図(1)



第129図 B区58号住居跡図・出土遺物図(2)

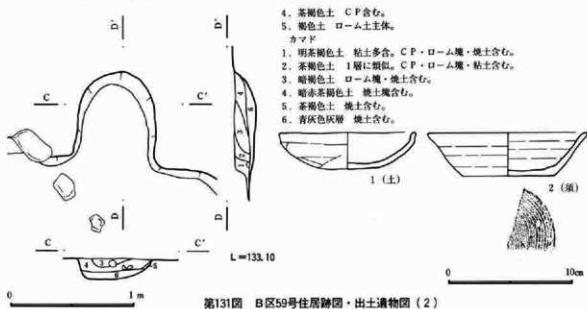
てやカマド周辺に僅かに認められる。転礫が壁や床面から突出している。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃烧部幅約58cm、奥行き約112cmで、煙道部は緩やかに住居外に約70cm程延びる。明確な両袖は認められない。遺物はほとんど認められ



第130図 B区59号住居跡図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



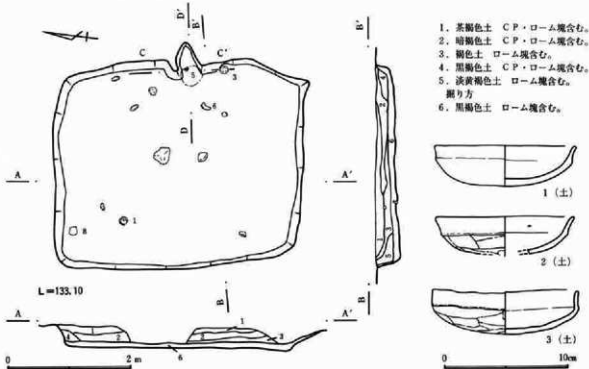
第131図 B区59号住居跡・出土遺物図(2)

ない。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

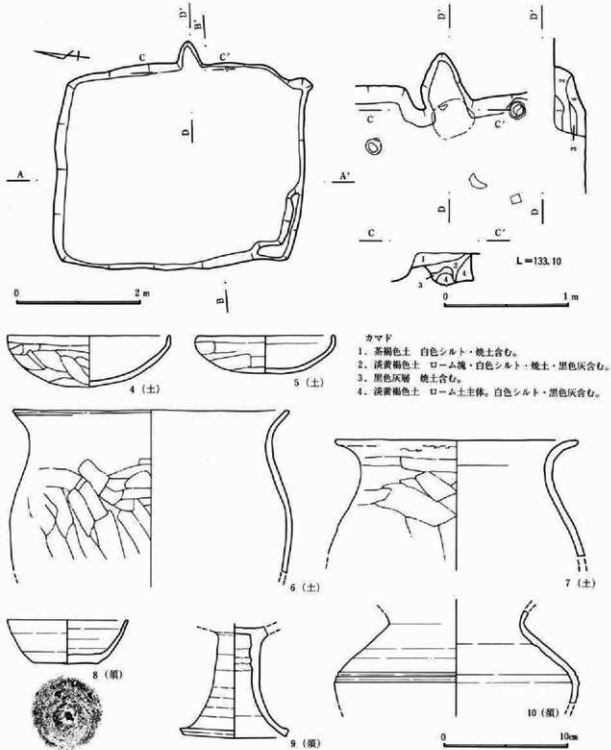
**B区60号住居跡** (図版第132・133図、写真図版32-6-8、33-1・2、81)

47-B-36グリッドに位置し、重複関係はB区11号溝、B区12号溝に先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.1m、東西約3.3mで、面積は約12.4m<sup>2</sup>を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がるが、南壁は不明瞭である。壁溝は掘り方調査時に南西隅部分に幅30cm程で僅かに検出された。貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より約5-15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。出土遺物はカマドの右袖付近から南東隅にかけて裏の破片



第132図 B区60号住居跡・出土遺物図(1)

第1節 古墳時代後期～平安時代



第133図 B区60号住居跡図・出土遺物図(2)

が僅かに認められる。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約27cm、奥行き約68cmで、煙道部は緩やかに住居外に約40cm程延びる。両袖は僅かに残存し、粘土を構架材とする。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

**B区61号住居跡** (図版第134・135図、写真図版33-3-8、81)

43-B-38グリッドに位置し、重複関係はB区12号溝、B区13号溝に先行する。平面形態は長方形を呈すが、東壁のカマド北側部分がやや東側に張り出しており、規模は南北約4.2m、東西約3.3mで、面積は約13.8㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は深い部分では20cmを測るが、大部分は浅く立ち上がる。壁溝、貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は掘り方調査時に4基検出された。P1は長軸約40cm、深さ約10cm、P2は長軸約30cm、深さ約10cm、P3は長軸約65cm、深さ約6cm、P4は長軸約50cm、深さ約8cm、P1-P2間は160cm、P2-P3間は175cm、P3-P4間は150cm、P4-P1間は170cmを測る。遺物は床面からは出土しなかった。

カマドは東壁のはほぼ中央に位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約68cm、奥行き約102cmで、煙道部は緩やかに住居外に50cm程延びる。両袖は僅かに残存し、粘土を主体とする。掘り方は深さ約4-14cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物の出土はない。

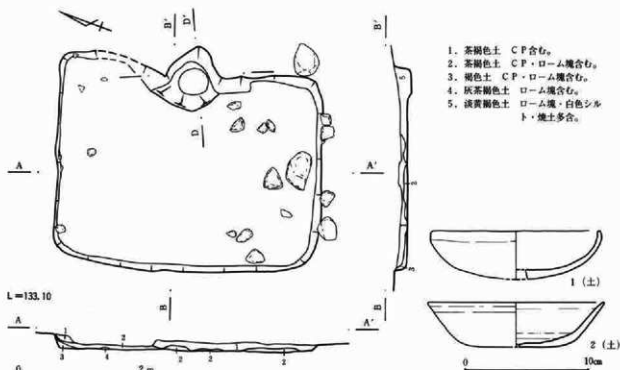
住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**B区62号住居跡** (図版第136・137図、写真図版34-1-4、81、82)

47-B-45グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北約3.3m、東西約3.0mで、面積は約10.9㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は約5cmの貼り床を施している。遺物はカマド周辺に集中しているが、北西隅や南西隅でも出土している。

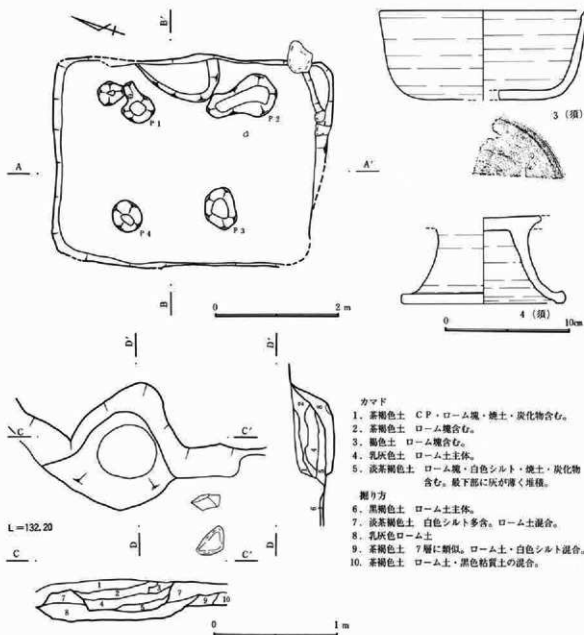
カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約42cm、奥行き約64cmで、煙道部は緩やかに住居外に56cm程延びる。両袖は土師器の甕と石を構築材とする。カマド掘り方は深さ約6-11cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部手前に環類が出土している。

住居の廃絶時期は遺物から7-8世紀と考えられる。



第134図 B区61号住居跡図・出土遺物図(1)

第1節 古墳時代後期～平安時代



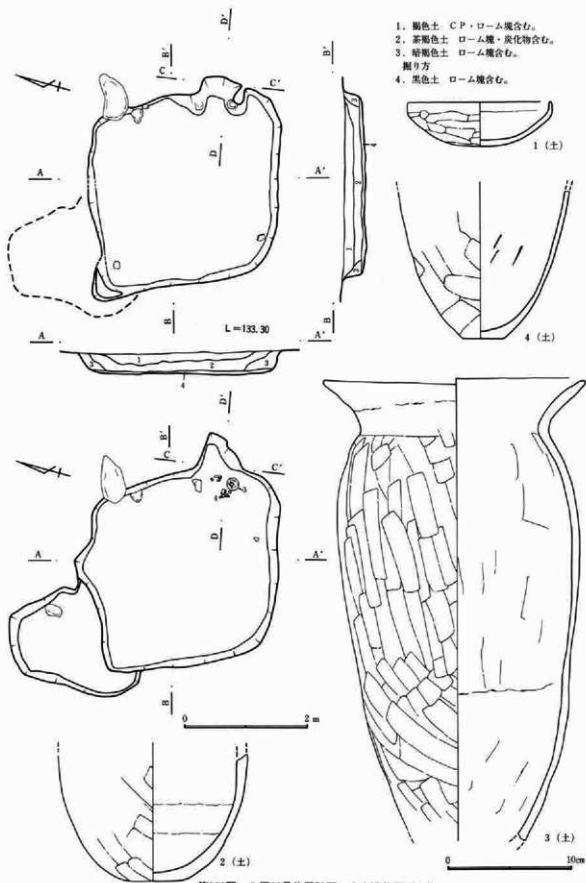
第135図 B区61号住居跡・出土遺物(2)

B区64号住居跡 (図版第138図、写真図版34-5・6、82)

37-B-39グリッドに位置し、重複関係はB区11号溝に先行する。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北約3.0m、東西約3.3mで、面積は約8.5㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。出土遺物はカマドの右袖付近に甕の破片が認められる。

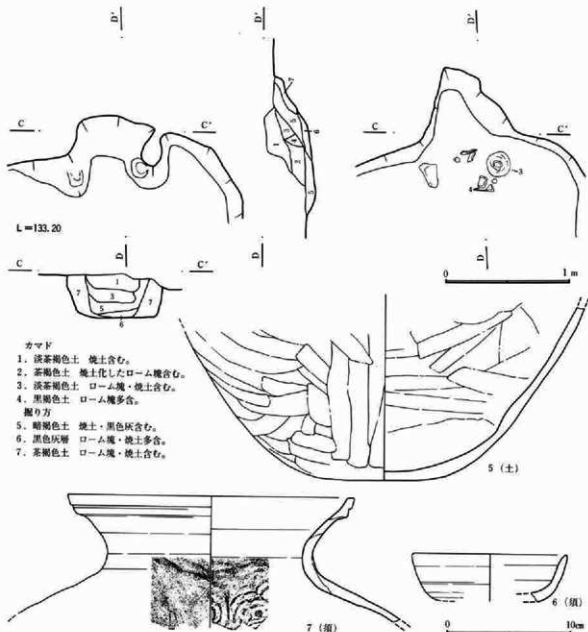
カマドは東壁の南東隅寄りに位置し、遺存状態はB区11号溝に上半部が覆われているために良好でない。規模は燃焼部幅約18cm、奥行き約69cmで、煙道部は緩やかに住居外に34cm程延びる。両袖は明瞭でなく、カマド掘り方も不明瞭である。

住居の廃絶時期は遺物からは7世紀後半と考えられる。



第136図 B区62号住居跡図・出土遺物図(1)





第137図 B区62号住居跡・出土遺物図(2)

**B区65号住居跡** (図版第139・140図、写真図版82)

A区の31-A-47グリッドに位置するが、調査時点でB区の住居跡と処理されているために、遺物などの混乱を防ぐためにそのまま扱うこととする。平面形態は不明で、規模も不明である。床面の状態も良好でない。残存する部分での壁高は約10cmを測る。柱穴と考えられるピットを2基ほど検出した。その他に楕円形状のピットを1基検出した。あるいは貯蔵穴であるかも知れない。

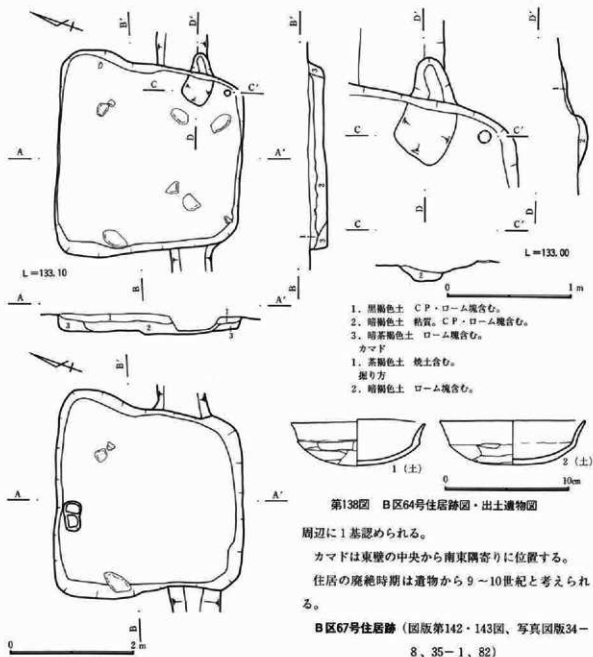
カマドの存在は不明である。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半である。

**B区66号住居跡** (図版第141図、写真図版34-7、82)

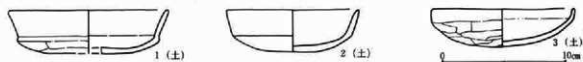
41-B-10グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈すと考えられるが、西壁、及び南壁が不明確なために、規模や面積は不明である。壁高は僅かに5cmを測る。壁溝、貯蔵穴、ピットが北東隅

第3章 検出された遺構・遺物

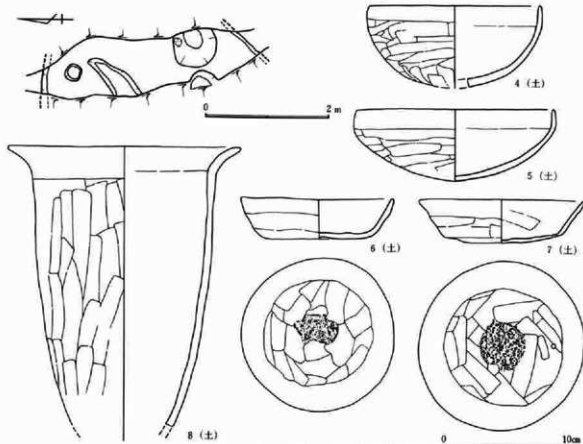


37-B-28グリッドに位置し、重複関係はB区68号住居跡に後行し、B区69号住居跡、B区70号住居跡に先行する。平面形態は僅かに長方形を呈し、規模は南北約3.8～4.0m、東西約3.8mで、面積は約13.0㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がるが、南壁は不明確である。壁溝、柱穴は不明であるが、南東隅に長軸約100cm、短軸70cm、深さ約20cmの楕円形の貯蔵穴が検出されている。遺物はカマドの右袖付近から貯蔵穴内にかけての破片が僅かに認められる。

カマドは東壁の南東隅寄りに位置し、規模は燃焼部幅約42cm、奥行き約113cmで、煙道部は緩やかに住居外



第139図 B区65号住居跡出土遺物図 (1)



第140図 B区65号住居跡図・出土遺物図(2)

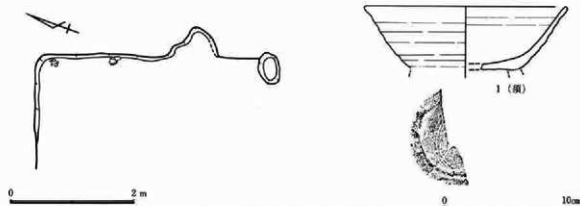
に約66cm程延びる。遺物は燃焼部内に認められる。

住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**B区68号住居跡** (図版第145図、写真図版35-2・3、82)

36-B-29グリッドに位置し、重複関係はB区67号住居跡に先行する。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北約2.8m、東西約2.7mで、面積は約6.0㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より5cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は僅かに認められる。

カマドは認められず、住居跡の形態からも最初から存在しなかったと考えられる。



第141図 B区66号住居跡図・出土遺物図

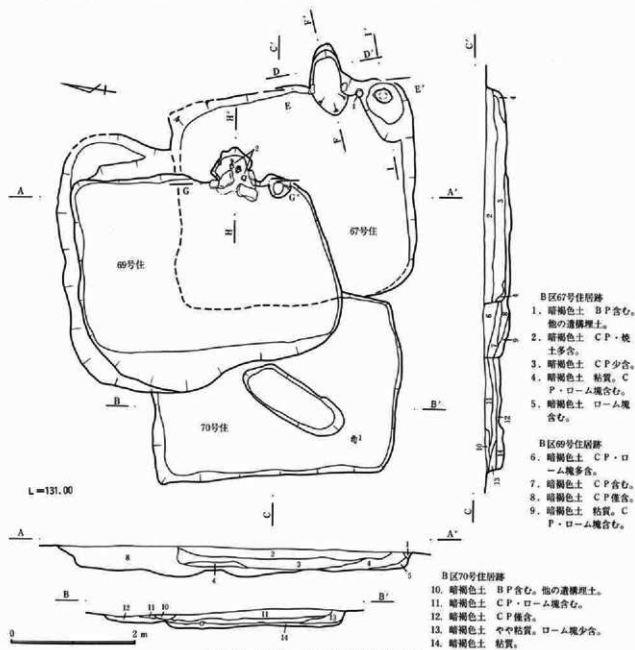
### 第3章 検出された遺構・遺物

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

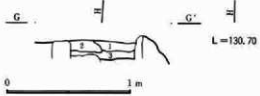
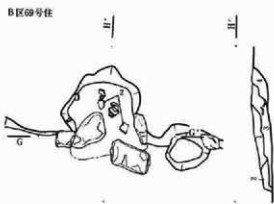
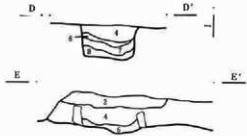
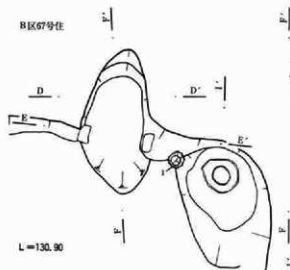
#### B区69号住居跡 (図版第142~144図, 写真図版35-4・5, 83)

38-B-28グリッドに位置し、重複関係はB区70号住居跡に先行し、B区67号住居跡より後行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.3m、東西約3.5mで、面積は約10.0m<sup>2</sup>を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は40cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は東壁際及び南東隅、北西隅に浅いくぼみが検出されている。ロームブロックを含む黒色粘質土を主体に貼り床を施している。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約50cm、奥行き約70cmで、煙道部は緩やかに住居外に55cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。天井部は僅かだが残存し、折れた状態で天井石が検出されている。遺物は破片が燃焼部内いくつか認められる。



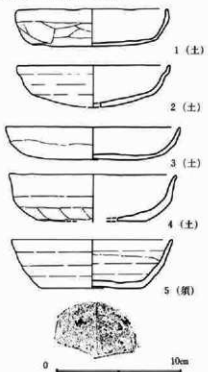
第142図 B区67・69・70号住居跡図(1)



- B区69号住居跡 カマド
1. 黒褐色土 C P・焼土僅含。
  2. 灰褐色土 シルト質・焼土含む。
  3. 暗黒褐色土 C P・焼土・炭化物含む。
  4. 暗黒褐色土 C P・焼土・炭化物含む。

B区67号住居跡 カマド

1. 住居跡埋土2層に同じ。
2. 住居跡埋土3層に同じ。
3. 暗褐色土 粘質。C P・ローム塊含む。
4. 暗褐色土 C P・焼土含む。
5. 暗褐色土 やや粘質。C P・焼土少含。
6. 暗褐色土 C P僅含。
7. 暗赤褐色土 C P含む。焼土塊多含。
8. 暗褐色土 やや粘質。C P僅含。



住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

B区70号住居跡 (図版第142・144図、写真図版83)

39-B-28グリッドに位置し、重複関係はB区67号住居跡、B区69号住居跡に先行する。東側半分が壊されている。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.9m、東西約2.9mであるが、面積は不明である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約15cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。柱穴は認められない。その他に楕円形状のピットを1基検出した。規模は長軸175cm、短軸約60cm、深さ15cmを測る。掘り方は床面より10cm掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。出土遺物は南壁際に坏類が集中して出土している。

カマドは東壁の南寄りに位置していたために、壊されたと考えられる。

第143図 B区67・69号住居跡図・出土遺物図(2)

第3章 検出された遺構・遺物



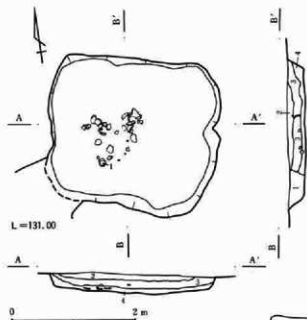
第144図 B区69・70号住居跡出土遺物(3)

住居の廃絶時期は遺物が無いものの、重複の前後関係から7世紀後半と考えられる。

**B区71号住居跡** (図版第146・147図、写真図版35-6、83)

35-B-25グリッドに位置し、重複関係は無い。西壁、及び南壁が不明確であるが、平面形態は長方形を呈すると考えられる。規模は南北約5.8m、東西約3.2mで、面積は約12.5㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅部分に長軸90cm、短軸70cm、深さ約5cmの楕円形で検出されている。遺物はほとんど認められない。

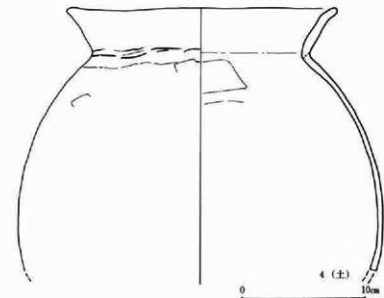
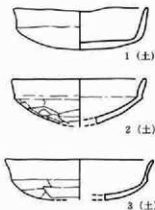
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約60cm、奥行き約98cm



で、煙道部は緩やかに住居外に約54cm程延びる。明確な同軸は認められず、燃焼部の壁部分に石を組み込んでいる。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

1. 暗褐色土 B F 含む。他の遺構埋土。
2. 暗褐色土 C F 含む。
3. 暗褐色土 C F 多含、ローム塊僅含。
4. 暗褐色土 混入物無。



第145図 B区68号住居跡図・出土遺物図

**B区72号住居跡** (図版第148回、写真図版35-7、83)

34-B-21グリッドに位置し、重複関係はB区74号住居跡より先行する。平面形態は西壁が長く、東壁が短い台形状を呈し、規模は南北約4.0m、東西約3.6mで、面積は約12.8㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴の存在は不明である。出土遺物はカマド周辺に僅かに認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅約70cm、奥行き約40cmで、煙道部は緩やかに住居外に約28cm程延びる。明確な両袖は認められない。遺物は燃焼部内に僅かに出土している。

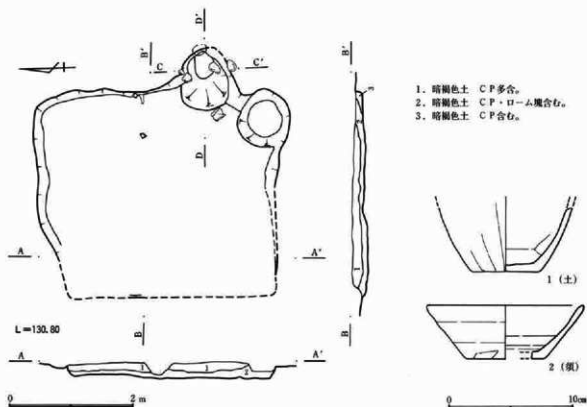
住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**B区73号住居跡** (図版第149回、写真図版35-8、83)

35-B-24グリッドに位置し、重複関係はB区71号住居跡より先行する。平面形態は長方形を呈すが、北西隅部分が方形状にやや張り出している。規模は南北約4.0m、東西約3.7mで、面積は約11.4㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。遺物はほとんど認められない。

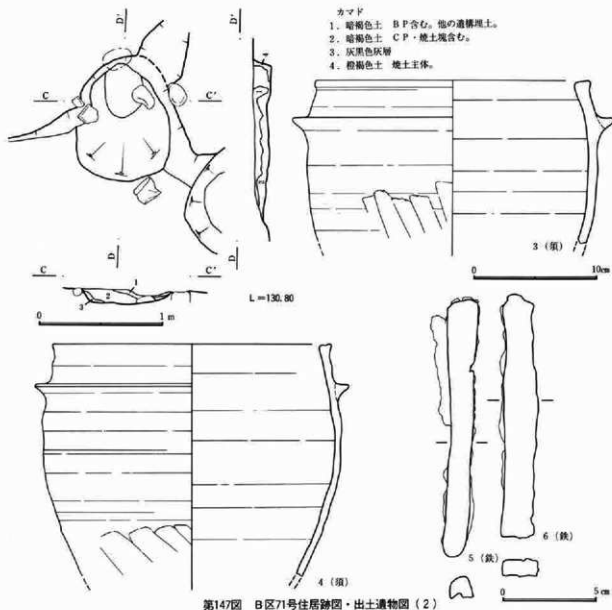
カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好でない。平面形態は楕円形を呈し、規模は燃焼部幅約54cm、奥行き約40cmで、煙道部は緩やかに住居外に約26cm程延びる。明確な両袖は認められない。遺物は認められない。

住居の廃絶時期は遺物が無いために不明である。



第146回 B区71号住居跡図・出土遺物図(1)

### 第3章 検出された遺構・遺物



#### B区74号住居跡 (図版第150図)

35-B-22グリッドに位置し、重複関係はB区72号住居跡、B区77号住居跡より先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.0m、東西約3.7mで、面積は約10.6㎡を測る。西壁と南壁が不明確である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁に位置していたと考えられ、B区72号住居跡に壊されたものと考えられる。

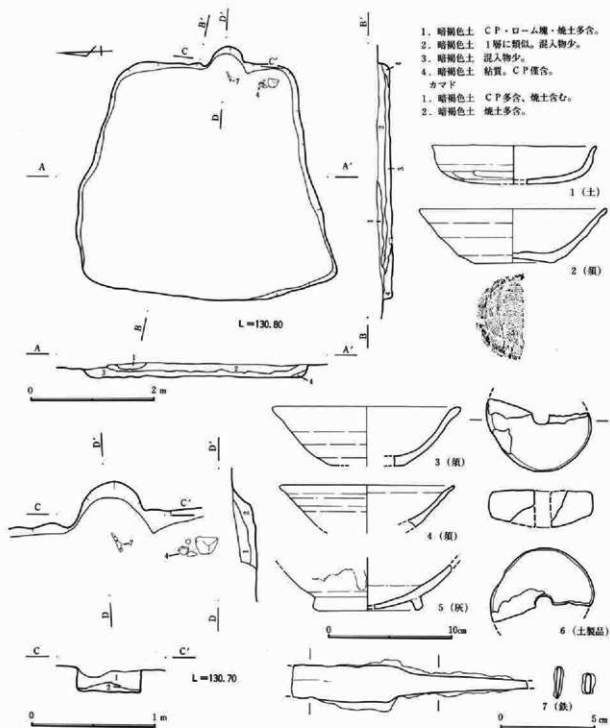
住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

#### B区75号住居跡 (図版第151・152図、写真図版36-1～3、83)

38-B-25グリッドに位置し、重複関係はB区76号住居跡より先行する。平面形態は主軸方向が長い長方形を呈し、規模は南北約3.0m、東西約3.9mで、面積は約13.5㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がるが、南壁は不明確である。壁溝、柱穴はその存在が不明である。貯蔵穴は南東隅部分に位置し、長軸115cm、短軸65cm、深さ約10cm以下とやや長い楕円形を



第1節 古墳時代後期～平安時代



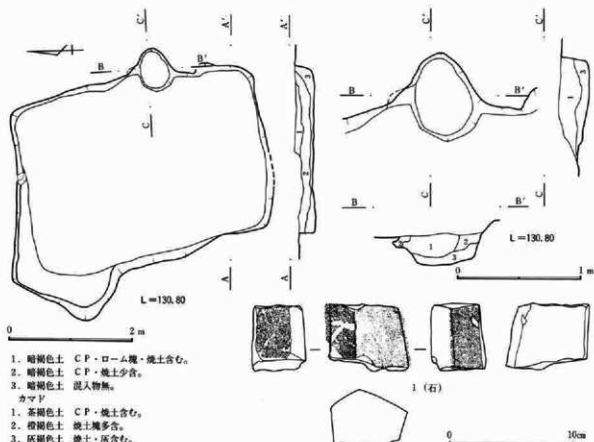
第148図 B区72号住居跡図・出土遺物図

呈し、中から遺物が出土している。掘り方は床面より約10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド周辺に認められる。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約74cm、奥行き約108cmで、煙道部は緩やかに住居外に約71cm程延びる。明確な両袖は認められない。遺物は燃焼部内に須恵器の坏が出土している。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

第3章 検出された遺構・遺物



1. 暗褐色土 C P・ローム塊・焼土含む。
  2. 暗褐色土 C P・焼土少含む。
  3. 暗褐色土 混入物無。
- カマド
1. 茶褐色土 C P・焼土含む。
  2. 橙褐色土 焼土塊多含む。
  3. 灰褐色土 焼土・灰含む。

第149図 B区73号住居跡団・出土遺物図

**B区76号住居跡** (図版第153・154図、写真図版36-4、83)

38-B-23グリッドに位置し、重複関係はB区75号住居跡、B区77号住居跡より先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約5.5m、東西約3.5mで、面積は約16.8㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。出土遺物は壁から床面中央にかけてヤカマド周辺に僅かに認められる。

カマドは二つ検出されており、改竄によるものか、あるいは調査時に2軒の住居跡を誤って1軒として調査してしまったのかも知れない。

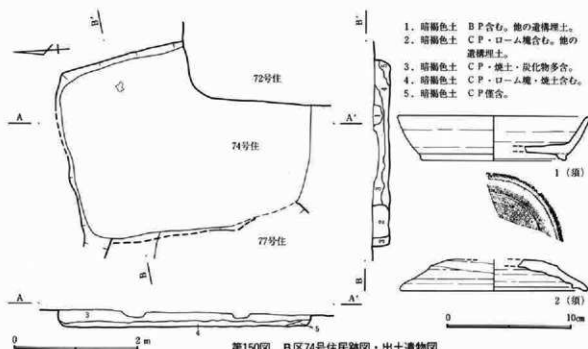
第1カマドは東壁の中央からやや北寄りに位置し、溝に壊されているために遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅約78cm、奥行き約75cmで、煙道部は緩やかに住居外に約66cm程延びる。明確な両袖は認められない。カマド掘り方は不明確である。遺物は燃焼部内に破片が僅かに出土している。

第2カマドは右側半分をB区77号住居跡に壊されており、残存する部分も左袖周辺部分だけで不明確である。

住居跡の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

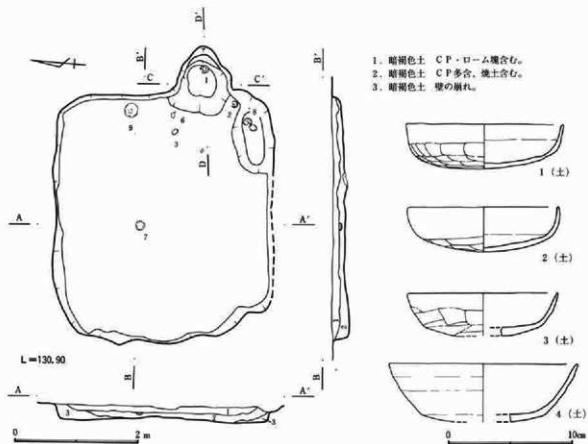
**B区77号住居跡** (図版第155・156図、写真図版36-5、83)

37-B-21グリッドに位置し、重複関係はB区74号住居跡、B区76号住居跡、B区78号住居跡より後行する。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北約4.1m、東西約3.6mで、面積は約13.0㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がるが、壁は不明確である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。出土遺物はカマドの燃焼部内に認められる。

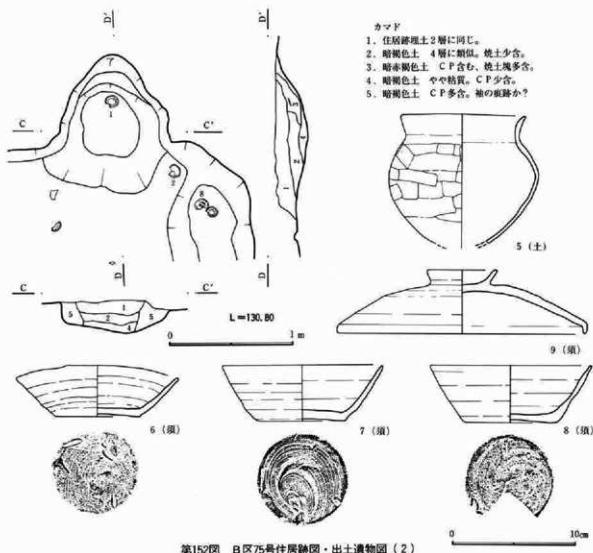


第150図 B区74号住居跡図・出土遺物図

カマドは東壁の中央から南寄りに位置するが、遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅約44cm、奥行き約60cmで、煙道部は緩やかに住居外に約50cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。天井部に架けられていた石が折れた状態で残存する。カマド掘り方は円形に深さ約5cm程掘り込んだ後、土で埋め戻してい



第151図 B区75号住居跡図・出土遺物図(1)



第152図 B区75号住居跡図・出土遺物図(2)

る。遺物は燃焼部にいくつか認められる。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

**B区78号住居跡** (図版第155・157図、写真図版36-6、84)

36-B-20グリッドに位置し、重複関係はB区77号住居跡に先行する。平面形態は北壁部分が壊されているために不明であるが、おそらくは長方形を呈していたと考えられる。床面は粘床が施され、堅く平坦である。壁高は20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より約10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。出土遺物はカマドの燃焼部内に僅かに認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約39cm、奥行き約97cmで、煙道は緩やかに住居外に約88cm程延びる。明確な陶軸は認められない。遺物は燃焼部から袖付近を中心に出土している。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

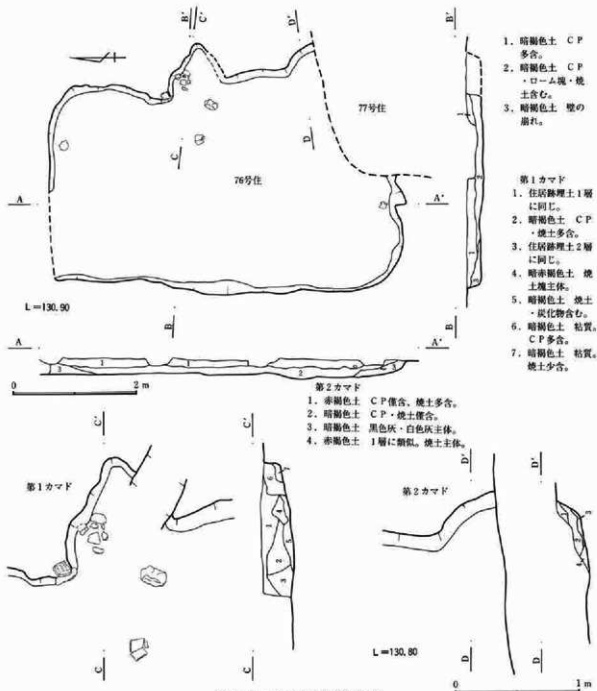
**B区80号住居跡** (図版第158図、写真図版36-7)

39-B-19グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈すが、北西隅部分が不定形に僅か

に張り出している。規模は南北約5.0m、東西約3.1mで、面積は約28.1㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約15～20cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に円形で検出された。掘り方は認められない。出土遺物はカマドの左袖付近に破片が僅かに認められる。

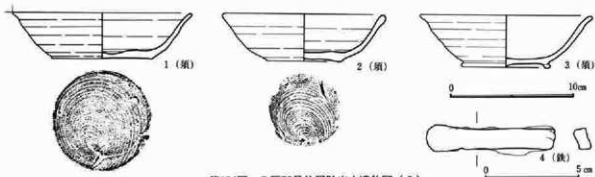
カマドは東壁の中央から南寄りに位置するが、溝に壊されており遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅約78cm、奥行きは不確定ながら約138cmで、煙道部は緩やかに住居外に約88cm程延びる。明確な両袖は認められない。遺物はほとんど認められない。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。



第153図 B区76号住居跡面(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第154図 B区76号住居跡出土遺物図(2)

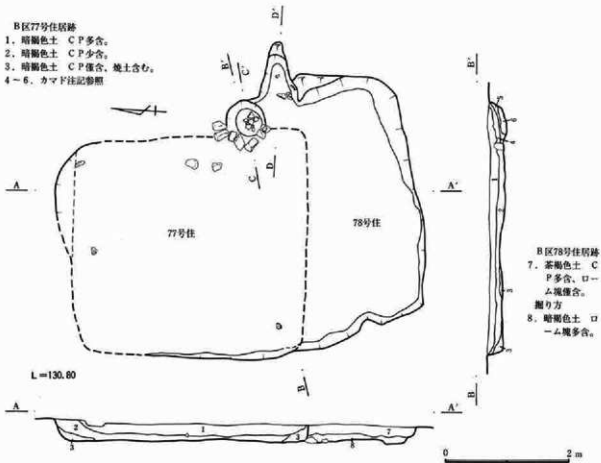
B区81号住居跡 (図版第159・160図、写真図版36-8、37-1-4、84)

40-B-22グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北約4.0m、東西約3.3mで、面積は約12.4㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に長軸約105cm、短軸約75cm、深さ5cmの楕円形を呈し、中から遺物が出土している。出土遺物はカマドの右袖付近から南東隅にかけて認められる。

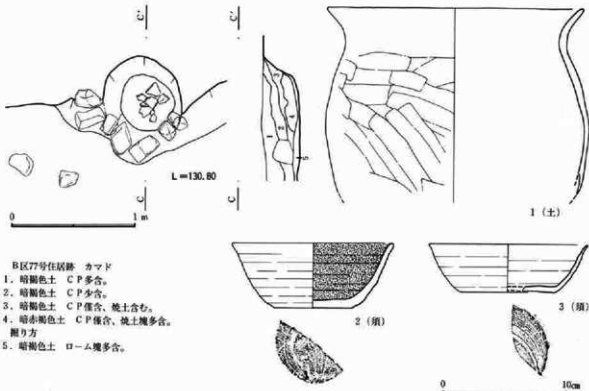
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約58cm、奥行き約101cmで、煙道部は緩やかに住居外に約57cm程延びる。両袖は残存し、左袖には石が構築材として用いられている。遺物はほとんど認められない。

B区77号住居跡

1. 暗褐色土 C P 多含。
2. 暗褐色土 C P 少含。
3. 暗褐色土 C P 僅含、焼土含む。
- 4-6. カマド注記参照



第155図 B区77・78号住居跡図(1)



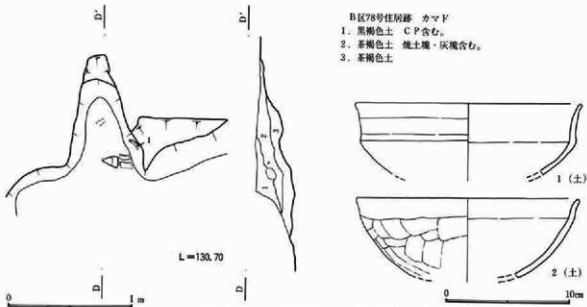
- B区77号住居跡 カマド
1. 暗褐色土 C P 多含。
  2. 暗褐色土 C P 少含。
  3. 暗褐色土 C P 僅含、焼土含む。
  4. 暗赤褐色土 C P 僅含、焼土塊多含。
- 掘り方
5. 暗褐色土 ローム塊多含。

第156図 B区77号住居跡図・出土遺物図(2)

住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**B区82号住居跡** (図版第161図、写真図版37-5、84)

41-B-26グリッドに位置し、重複関係はB区87号住居跡より後行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.0m、東西約3.1mで、面積は約12.2㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は認められない。出土遺物はカマド周辺から南壁にかけて認められる。



- B区78号住居跡 カマド
1. 黒褐色土 C P 含む。
  2. 茶褐色土 焼土塊・灰塊含む。
  3. 茶褐色土

第157図 B区78号住居跡図・出土遺物図(2)

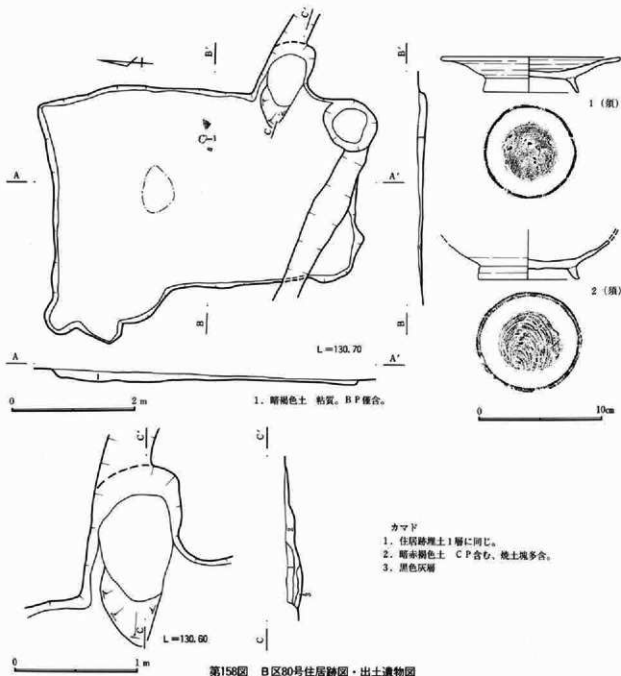
第3章 検出された遺構・遺物

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃烧部幅約48cm、奥行き約85cmで、煙道部は緩やかに住居外に約52cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は明確でない。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

B区83号住居跡 (図版第162・163図、写真図版37-6、84)

42-B-30グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.6m、東西約3.6mで、面積は約15.3㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅付近に位置し、長軸100cm、短軸75cm、深さ23cmの楕円形を呈する。掘り方は認められない。出土遺物はカマド付近や南東隅にかけて認められる。



第158図 B区80号住居跡図・出土遺物図



カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約74cm、奥行き約78cmで、煙道部は緩やかに住居外に約48cm程延びる。両袖は残存し、粘土を構築材とする。カマド掘り方は認められない。遺物は左袖部分に僅かに出土している。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

**B区84号住居跡** (図版第164～166図、写真図版37・7・8、38-1-4、84、85)

46-B-27グリッドに位置し、調査時点では重複関係は無いとされていたが、カマドの存在や住居跡の形態から2軒と考えられる。平面形態は不定形な長方形を呈し、規模は両方を合わせて南北約6.0m、東西約3.7mで、面積は約19.5㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は20～25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は西壁、及び東壁の位置に幅25cmで認められる。貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は認められない。遺物はカマドから中央にかけて多数認められる。

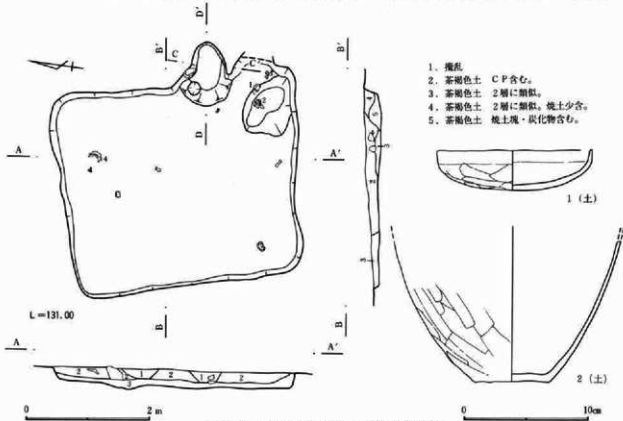
第1カマドは東壁の中央からやや北寄りに位置するが、遺存状態は良好でない。規模は奥行き約76cm、煙道部は緩やかに住居外に約65cm程延びる。燃焼部がほとんど認められず、両袖も明確でない。カマド掘り方も認められない。

第2カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約32cm、奥行き約170cmとかなり長く、煙道部は緩やかに住居外に約124cmも長く延びる。両袖は残存し、石と粘土を構築材とする。カマド掘り方は深さ約3～10cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部から多数出土している。

住居の廃絶時期は遺物から11世紀前半と考えられる。

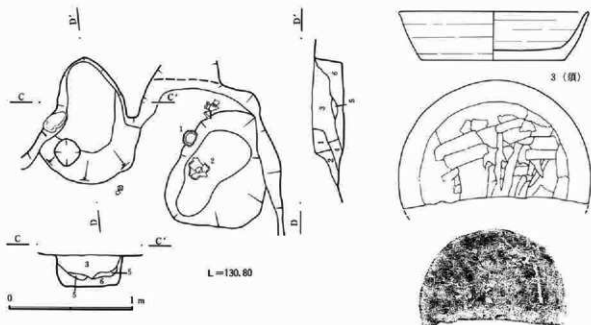
**B区85号住居跡** (図版第167図、写真図版38-5、85)

49-B-27グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態はほぼ長方形を呈し、規模は南北3.7m、東西



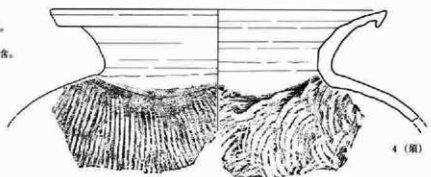
第159図 B区81号住居跡図・出土遺物図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



カマド

1. 黒褐色土 C F・焼土混含む。
2. 黒褐色土 C F少含。
3. 茶褐色土 C F・焼土・灰混含む。
4. 暗褐色土 焼土・灰含む。
5. 灰黒色灰層
6. 黒褐色土 焼土含む。



第160図 B区81号住居跡図・出土遺物図(2)

3.3mで、面積は約11.2m<sup>2</sup>を測る。床面は堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がるが、北壁は攪乱により不明確である。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は認められない。出土遺物はカマドの左袖付近などに認められる。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約38cm、奥行き約90cmで、煙道部は緩やかに住居外に約70cm程延びる。両袖は残存し、粘土を構築材とする。カマド掘り方は明確でない。

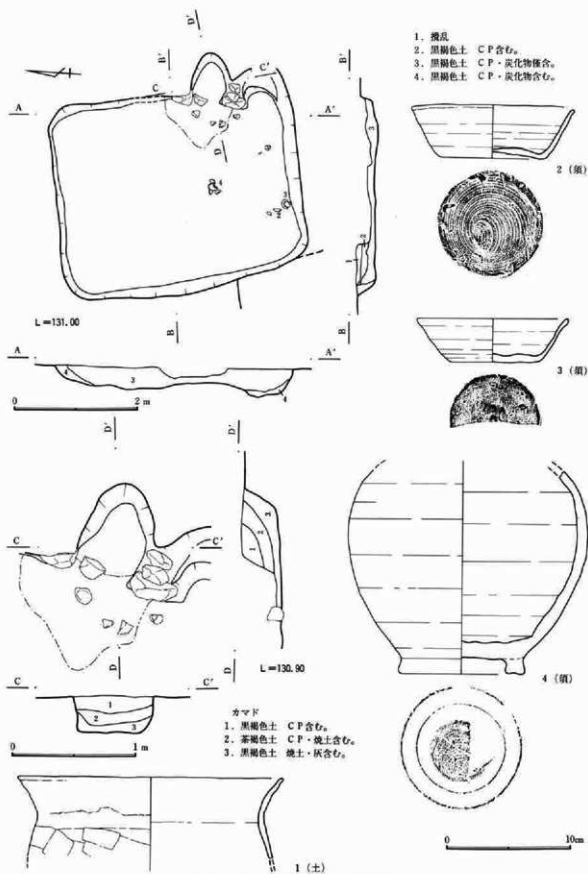
住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

**B区86号住居跡** (図版第168・169図、写真図版38-6、85)

42-B-23グリッドに位置し、重複関係はB区87号住居跡に先行する。平面形態は正方形を呈し、規模は南北約3.5m、東西約3.4mで、面積は約12.0m<sup>2</sup>を測る。床面は堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は認められない。出土遺物はカマド周辺から南東隅にかけて認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約68cm、奥行き約72cmで、煙道部は緩やかに住居外に約54cm程延びる。明確な両袖は認められない。カマド掘り方も不明確である。

第1節 古墳時代後期～平安時代



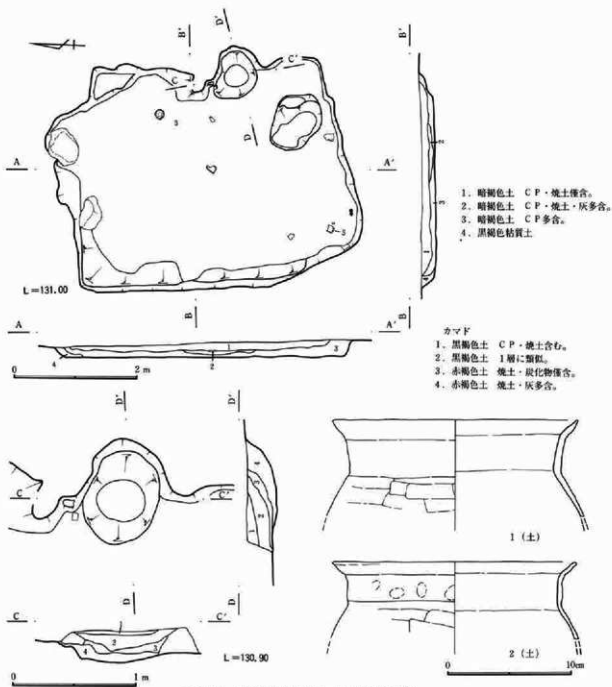
第161図 B区82号住居跡面・出土遺物図

第3章 検出された遺構・遺物

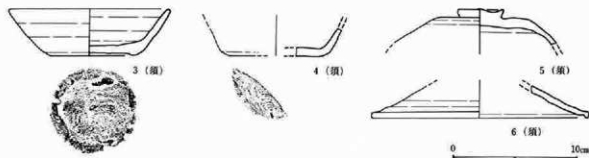
住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**B区87号住居跡** (図版第168・169図、写真図版38-7、85)

42-B-24グリッドに位置し、重複関係はB区86号住居跡より後行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約5.0m、東西約4.4mであるが、南側半分をB区86号住居跡に壊されているために、面積は計測できない。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がるが、南壁は重複により壊されている。壁溝はカマド部分、及びB区86号住居跡に壊されている部分以外では検出されており、幅20~40cm、深さ5cmを測る。貯蔵穴は推定される部分が壊されているために、その存在は不明である。柱穴は検出されなかった。掘り方はロームを主体に貼り床を施している。出土遺物は北側半分にま



第162図 B区83号住居跡図・出土遺物図(1)



第163図 B区83号住居跡出土遺物図(2)

ばらに認められる。

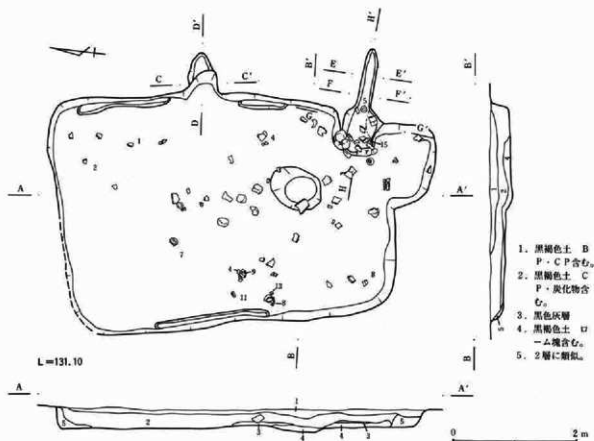
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約66cm、奥行き約90cmで、煙道部は緩やかに住居外に約86cm程延びる。明確な両袖は認められないうえに、右袖はB区86号住居跡により一部が壊されている。カマド掘り方は不明確である。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

**B区88号住居跡** (図版第170図、写真図版38-8、85)

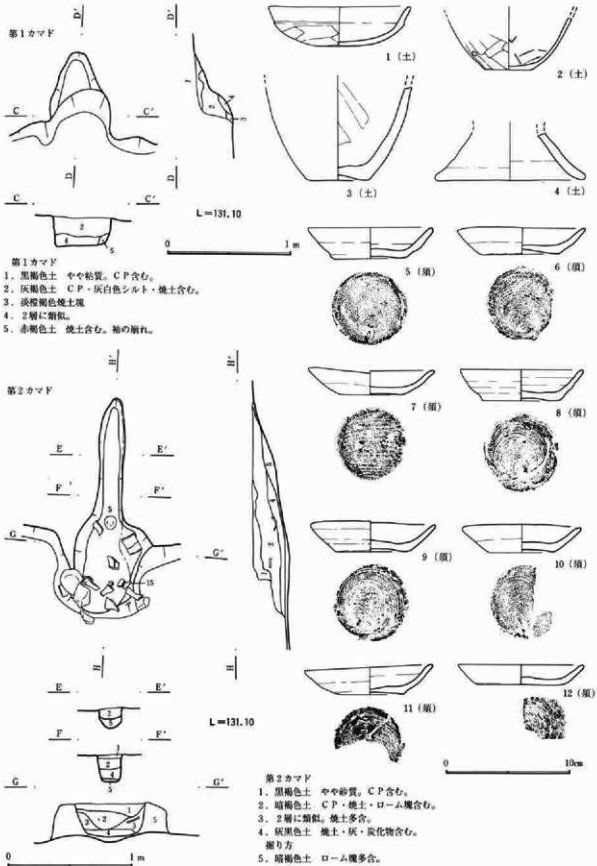
42-B-21グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.0m、東西約3.2mで、面積は約12.5㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。カマドの右袖付近に小さなピットが検出されており、直径約30cm、深さ6cmを測る。掘り方は認められない。出土遺物は南壁から床面中央にかけて認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約47cm、奥行き約

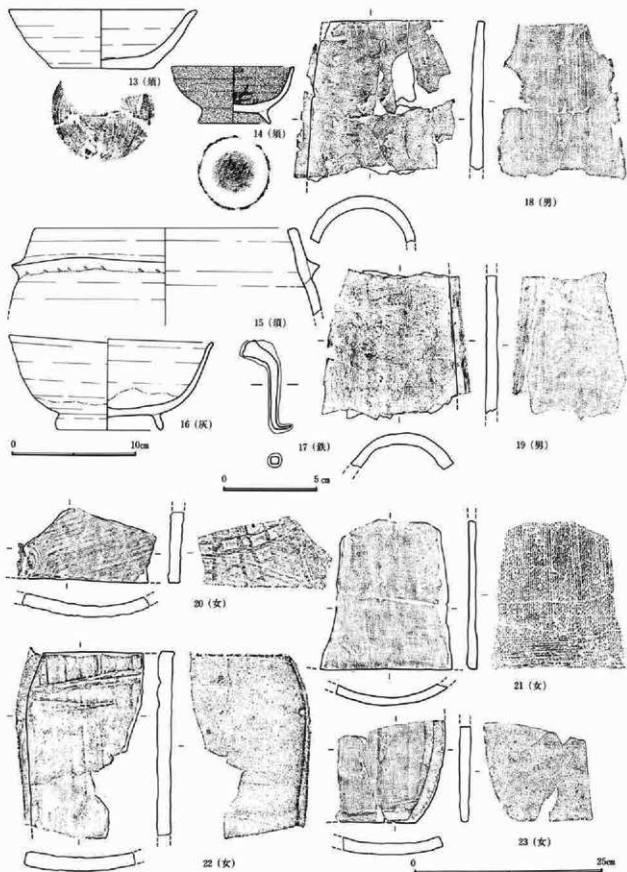


第164図 B区84号住居跡図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第165図 B区84号住居跡・出土遺物図(2)



第166図 B区84号住居跡出土遺物図(3)

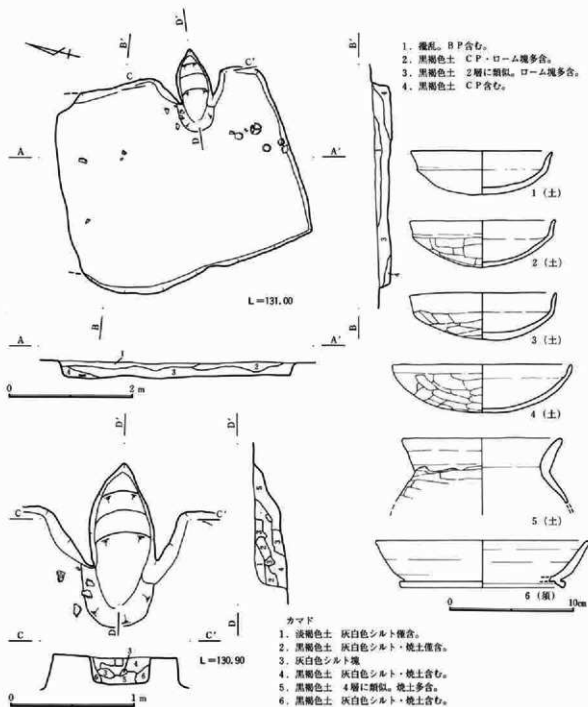
第3章 検出された遺構・遺物

64cmで、煙道部は緩やかに住居外に約47cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は不明瞭である。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

**B区89号住居跡** (図版第171図、写真図版39-1、85)

45-B-19グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は主軸方向に長い長方形を呈し、規模は南北約2.9m、東西約3.6mで、面積は約10.8㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は約10cmを測り、ほぼ直線的



第167図 B区85号住居跡図・出土遺物図



に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は認められない。出土遺物は南東隅に認められる。

カマドは東壁の中央からやや北寄りに位置するが、遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅約40cm、奥行き約82cmで、煙道部は緩やかに住居外に約58cm程延びる。明確な両袖は認められない。カマド掘り方は不明確である。

住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

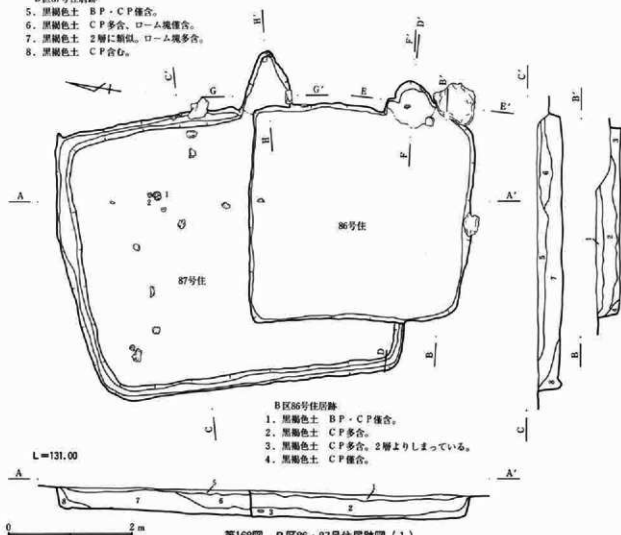
#### B区90号住居跡 (図版第172・173図、写真図版39-2、85)

46-B-22グリッドに位置し、重複関係はB区91号住居跡より後行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.7m、東西約3.7mで、面積は約15.8m<sup>2</sup>を測る。床面は堅く平坦である。壁高は15cmを測り、ほぼ直線的に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に長軸約95cm、短軸約65cm、深さ約15cmの楕円形を測る。掘り方は認められない。出土遺物はカマドの燃焼部内に認められる。

カマドは東壁のほぼ中央に位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約73cm、奥行き約139cmと長く、煙道部は緩やかに住居外に約88cm程延びる。両袖は残存し、粘土を構築材とする。カマド掘り方は不明

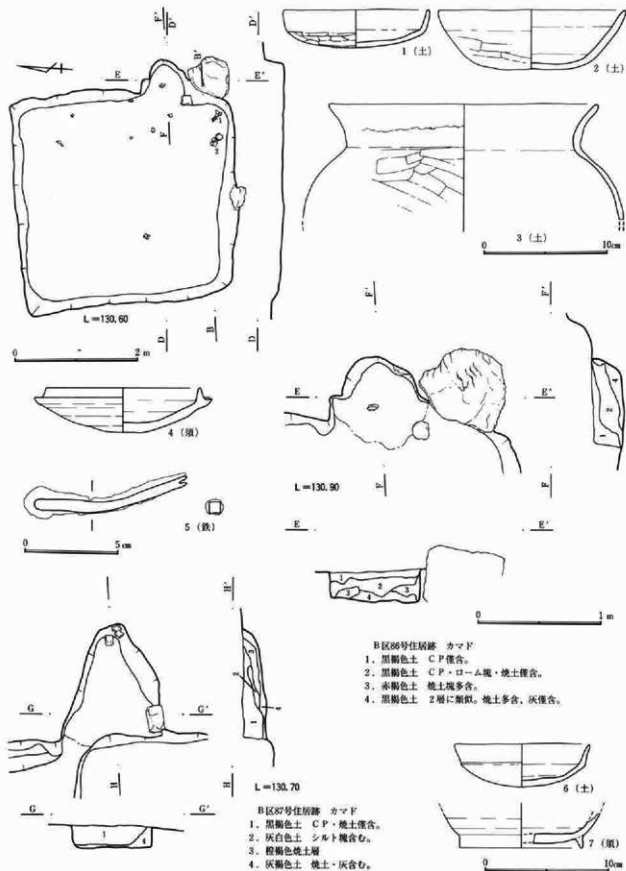
#### B区87号住居跡

5. 黒褐色土 B P・C P 僅含。
6. 黒褐色土 C P 多含、ローム塊僅含。
7. 黒褐色土 2層に類似、ローム塊多含。
8. 黒褐色土 C P 含む。



第168図 B区86・87号住居跡図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第169図 B区86・87号住居跡団・出土遺物団(2)

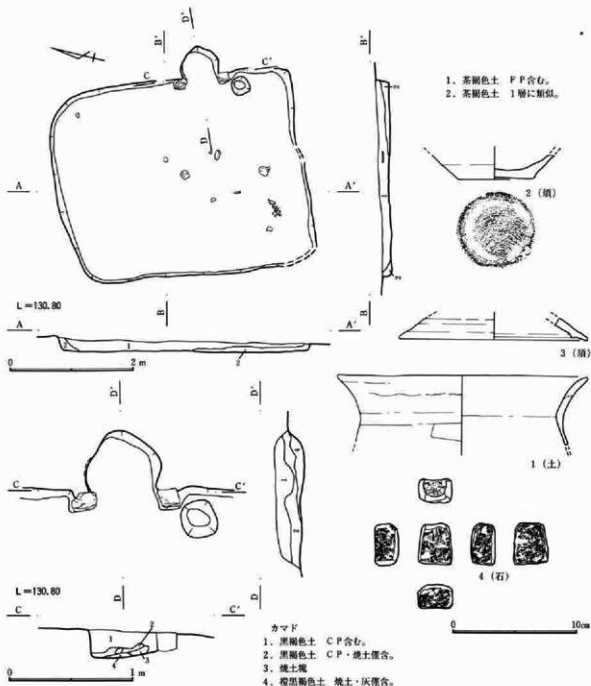
確である。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

**B区91号住居跡** (図版第172図、写真図版39-3)

45-B-21グリッドに位置し、重複関係はB区90号住居跡に先行する。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北約2.5m、東西約2.4mで、面積は約5.6㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約10cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されず、掘り方も認められない。遺物も出土していないし、カマドは存在しない。

住居の廃絶時期は遺物も無いことから不明である。



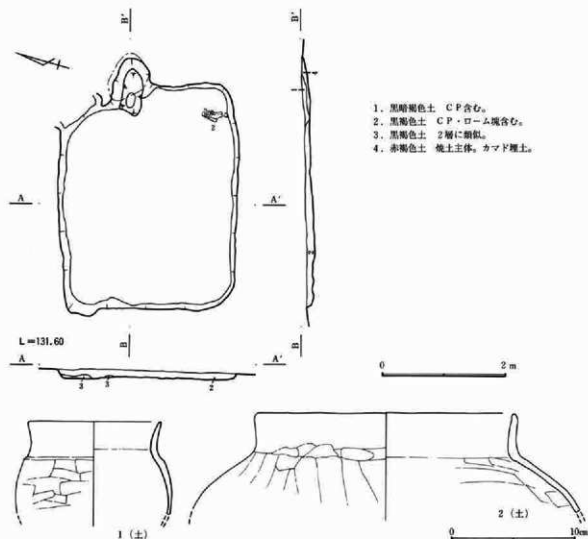
第170図 B区88号住居跡図・出土遺物図

B区92号住居跡 (図版第174・175図、写真図版39-4~6、86)

46-B-24グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は正方形を呈し、規模は南北約3.9m、東西約3.7mで、面積は約13.7㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方も認められない。出土遺物は北壁から床面中央にかけてヤカマド周辺に認められる。土師器が多数出土している。

カマドは本遺跡では珍しい西カマドで、西壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃烧部幅約42cm、奥行き約98cmで、煙道部は緩やかに住居外に約62cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。天井部は土師器の甕を架けていたようである。遺物は燃烧部から袖付近を中心に多量に出土している。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。



第171図 B区89号住居跡図・出土遺物図

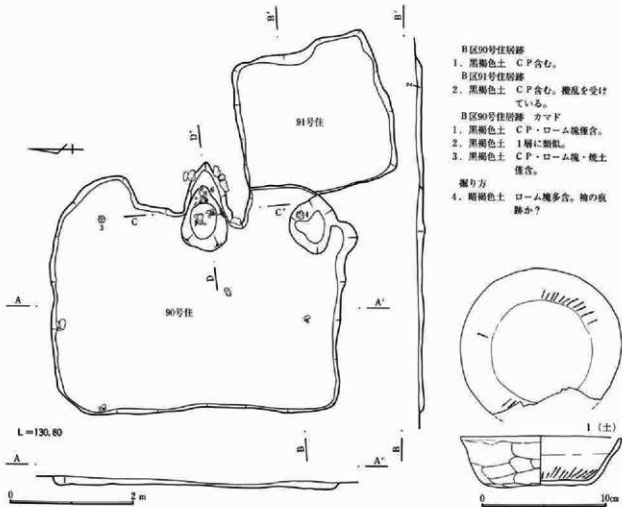
**B区93号住居跡** (図版第176図、写真図版39-7・8、86)

52-B-30グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.3m、東西約2.3mで、面積は約7.2m<sup>2</sup>を測る。床面は堅く平坦である。壁高は約10cm以下を割り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は認められない。出土遺物は東壁際に土師器の坏が認められる。

カマドは当初から存在しない住居構造と考えられる。住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

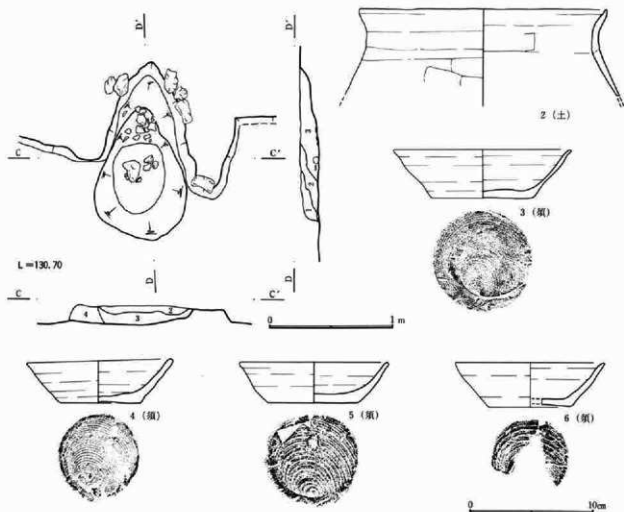
**B区1号溝** (図版第177図、写真図版40-1、86)

本遺構は、26-B-17-18-31-32-B-07グリッドに位置し、重複関係は認められない。北側では東西



第172図 B区90-91号住居跡図・出土遺物図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第173図 B区90号住居跡図・出土遺物図(2)

方向の走行が、南側では南北方向に変換する。断面形状はU字状を呈し、幅2.6m、深さ49cmを測る。

**B区2号溝** (図版第180図)

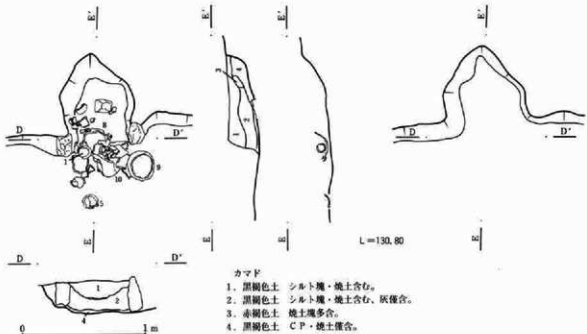
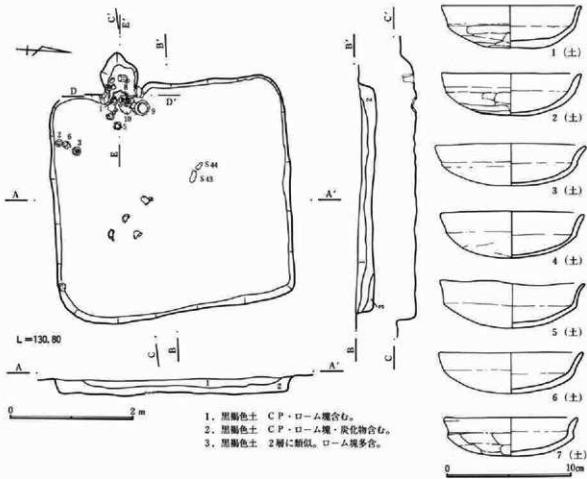
本遺構は、31-B-42~34-B-40グリッドに位置し、重複関係はB区21号住居跡に後行する。東西方向に走行し、東に延長した部分にB区12号溝が位置することから、あるいは同一遺構かも知れない。

**B区3号溝** (図版第180図、写真図版40-2)

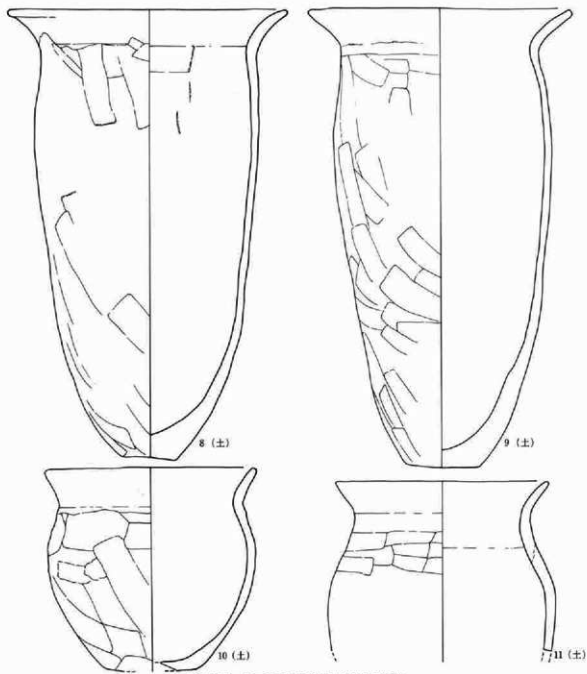
本遺構は、34-B-43~36-B-42グリッドに位置し、重複関係は不明である。東西方向に走行する。東に延長した部分にB区13号溝が位置することから、あるいは同一遺構かも知れない。

**B区4号溝** (図版第178図)

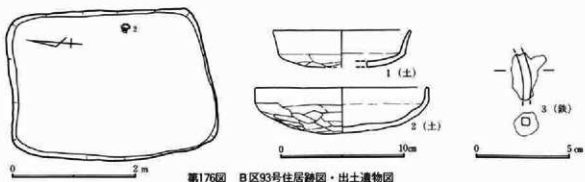
本遺構は、32-B-46~32-B-44グリッドに位置し、重複関係はB区19号住居跡、B区20号住居跡に後行する。南北方向に走行する。北に延長した部分にC区7号溝が位置することから、あるいは同一遺構かも知れない。



第174図 B区92号住居跡面・出土遺物図(1)



第175図 B区92号住居跡出土遺物図(2)



第176図 B区93号住居跡図・出土遺物図



**B区5号溝** (図版第178図)

本遺構は、59-B-49-61-B-49グリッドに位置し、重複関係は無い。東西方向に走行する。

**B区6号溝** (図版第179・180図、写真図版40-3)

本遺構は、52-B-46-55-B-33グリッドに位置し、重複関係はB区31号住居跡、B区32号住居跡、B区53号住居跡に後行する。西側に湾曲しながら南北方向に走行する。北に延長した部分にC区6号溝、C区7号溝が位置することから、あるいは同一遺構かも知れない。

**B区7号溝** (図版第178図、写真図版40-4)

本遺構は、53-B-23-54-B-15グリッドに位置し、重複関係は無い。南北方向に走行する。

**B区8号溝** (図版第178図)

本遺構は、59-B-49グリッドに位置し、重複関係は不明である。南北方向に走行する。

**B区10号溝** (図版第179・180図、写真図版41-3)

本遺構は、47-B-35-49-B-34グリッドに位置し、重複関係はB区11号溝との関係が不明である。南北方向に走行する。

**B区11号溝** (図版第179・180図、写真図版41-3・4、87)

本遺構は、34-B-40-46-B-35グリッドに位置し、重複関係ではB区10号溝との関係が不明である。東西方向に走行する。

**B区12号溝** (図版第179・180図、写真図版41-3、87)

本遺構は、44-B-37-50-B-35グリッドに位置し、重複関係は無い。東西方向に走行する。西に延長した部分にB区2号溝が位置することから、あるいは同一遺構かも知れない。

**B区13号溝** (図版第179・180図、写真図版41-5)

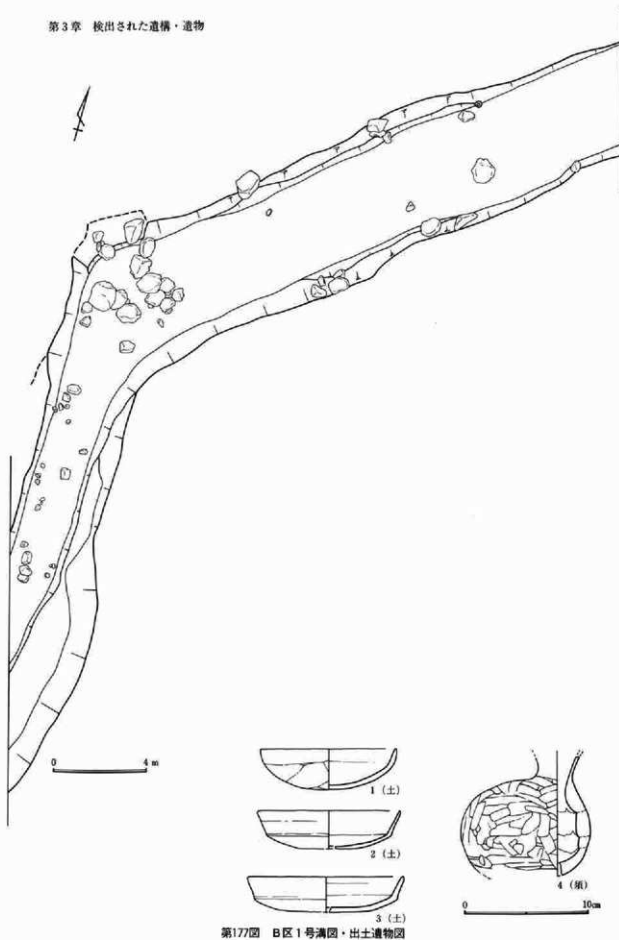
本遺構は、39-B-41-45-B-38グリッドに位置し、重複関係は無い。東に延長した部分にB区3号溝が位置することから、あるいは同一遺構かも知れない。B区11号溝、B区12号溝とはほぼ平行しており、前述したようなんらかの遺構に伴うものかも知れない。

**B区14号溝** (図版第178図)

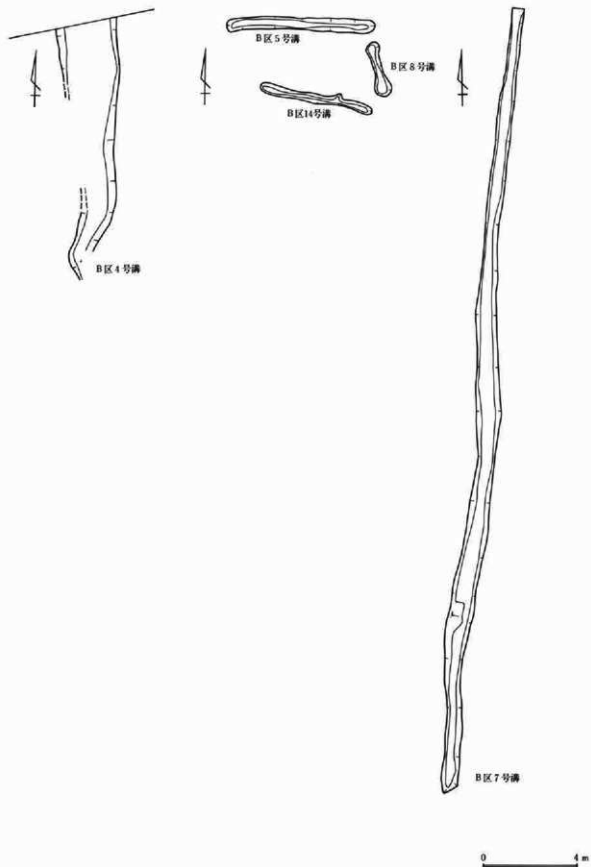
本遺構は、59-B-48-60-B-49グリッドに位置し、重複関係は無い。東西方向に走行する。

**B区9号溝** (図版第181図、写真図版40-5～8、41-1・2、87)

本遺構は、グリッドに位置し、重複関係は不明である。北西から南東方向の走行であるが、実際には牛池川の旧河道であり、この図の作成段階では深さも確認できずに調査を終了している。



第177図 B区1号溝図・出土遺物図

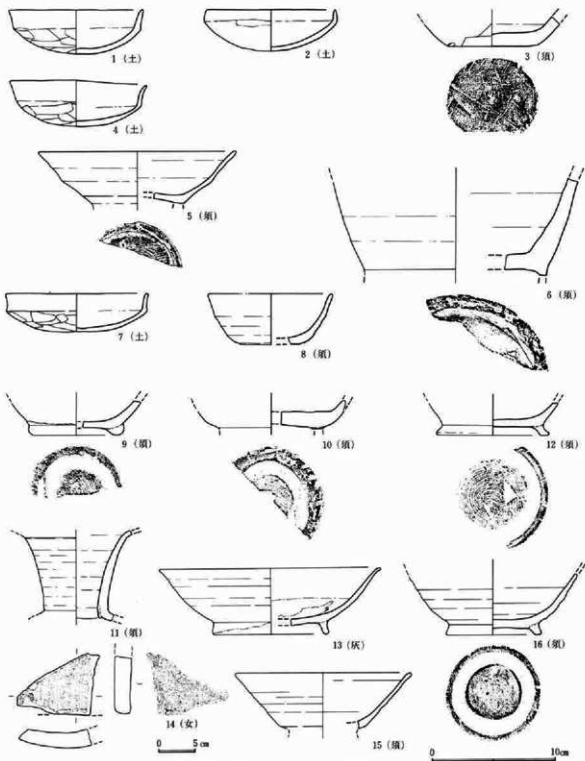


第178図 B区4・5・7・8・14号溝図

第3章 検出された遺構・遺物

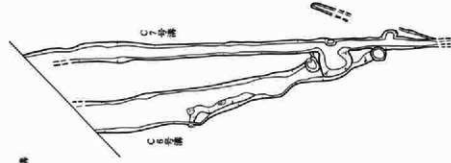
B区地下式土坑（図版第182図、写真図版41-6・7、87）

本遺構は、24-B-03グリッドに位置し、重複関係はB区2号住居跡に後行し、住居跡の東南隅を壊して

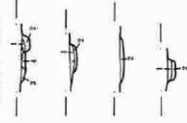


第179図 B区6・10・11・12・13号溝出土遺物図

B区、C区溝



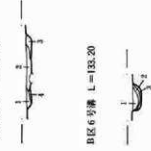
B区11号溝 L=133.00



B区13号溝 L=133.20



B区3号溝 L=133.00

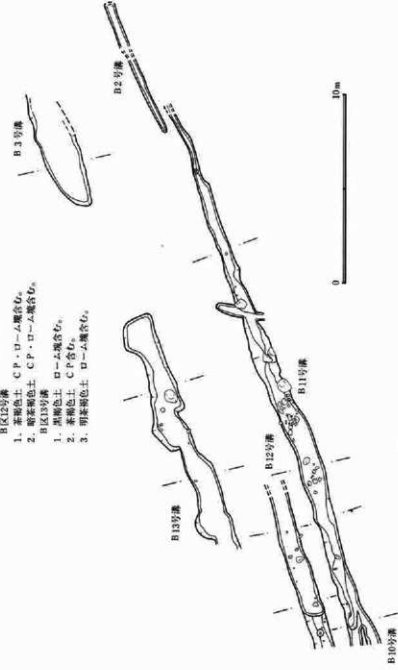
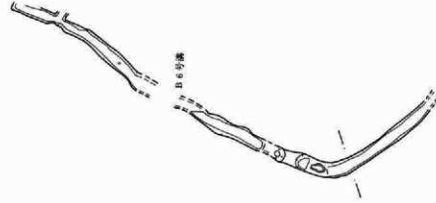


B区6号溝 L=133.20



0 5 m

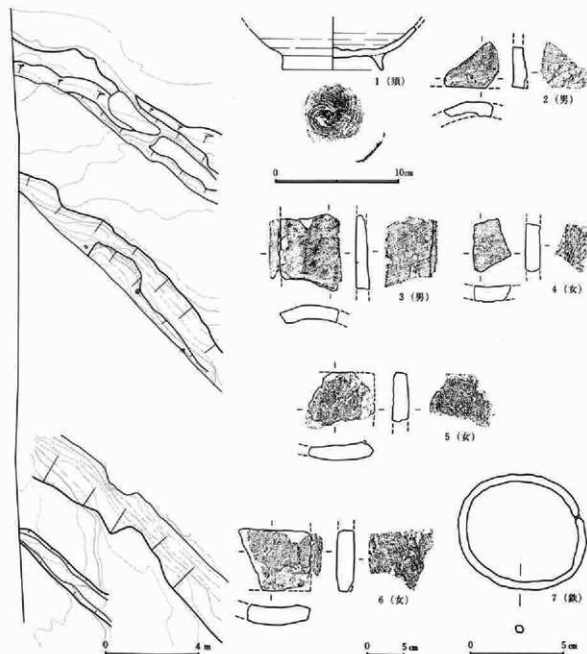
- B区2号溝  
 1. 赤褐色土 C F含む、土層含む。  
 2. 褐色土 C F含む。  
 3. 褐色土 C F含む。  
 4. 褐色土 ローム層含む。
- B区5号溝  
 1. 暗褐色土 C F含む、土層含む。  
 2. 暗褐色土 C F含む。  
 3. 暗褐色土 ローム層含む。  
 4. 暗褐色土 ローム層含む。
- B区11号溝  
 1. 赤褐色砂質土 B F含む、10号溝埋土上。  
 2. 暗褐色土 C F含む。  
 3. 褐色土 ローム層含む。  
 4. 暗褐色土 ローム層含む。
- B区12号溝  
 1. 赤褐色土 C F・ローム層含む。  
 2. 暗茶褐色土 C F・ローム層含む。
- B区13号溝  
 1. 暗褐色土 C F含む。  
 2. 暗茶褐色土 C F・ローム層含む。  
 3. 暗褐色土 C F含む、土層含む。  
 4. 暗茶褐色土 C F・ローム層含む。



0 10 m



いる。規模は横穴部の底面で奥行き約2.6m、幅約1mの隅円長方形を呈し、長さ約0.7m、幅約2.5mの長方形の竪穴部を有している。特徴として、横穴部と竪穴部の両底面は非常に硬化しており、踏み固められたような状態である。覆土の堆積状況は第182図から床面に僅かに土砂が流れ込んで堆積した後に、何度か掘り直し、さらに掘り残していた天井部の一部が崩れ落ちて厚く堆積し、その後徐々に埋没していった過程が読み取れる。その間、入り口が開いていたと考えられる。内部構造に関連する痕跡は認められず、その点か



第181図 B区9号溝園・出土遺物図

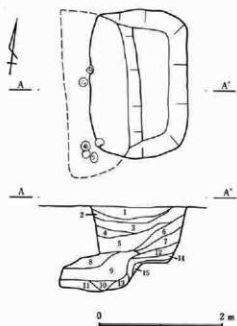
第3章 検出された遺構・遺物

らの遺構の性格の判断は無理である。

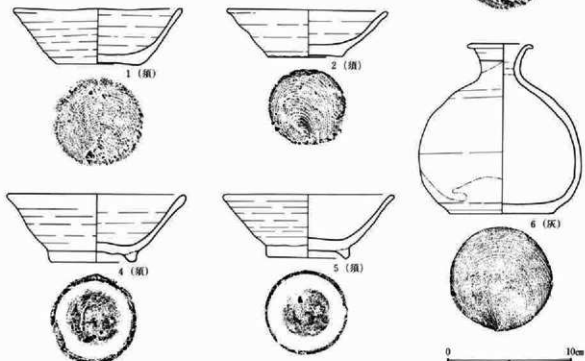
出土遺物はほぼ完形に近い6点の土器で、須恵器坏2点（第182図-1、2）はほぼ床面直上に、須恵器の椀と坏、灰軸瓶子の4点（第182図-3～6）については、床面から僅かに浮いた状態で出土した。

調査当時の所見では、初めにこの遺構の性格を墓と認定し、埋没土の状態から追葬の可能性をも想定したが、人骨は検出されていない。

地下式土坑が中世の墓墳であるとの考えは、中田 英、半田堅三、池上 悟、江崎 武の各氏が提唱しているが、県内においても本遺跡の周辺に位置する下東西遺跡で、地下式土坑の一部に板碑が伴うという調査成果から、神谷佳明氏が同様の考えを示している。だが一方では、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群での調査成果から木津博明氏は墓としての考えを否定しており、その理由としては、人骨が未検出である点、当地域での墓制が土坑墓を主体としている点、入り口部での覆土の各分層の上面部分が硬化している事から常に出入



- 1～6. 黒褐色土 CP含む、ローム塊多含。
- 7. 暗褐色土 ローム土質、ローム塊多含。
- 8. -11. 暗褐色土 ローム塊多含。
- 12. 暗褐色土 ローム塊少含。
- 13-15. 暗褐色土 砂質。



第182図 B区地下式土坑図・出土遺物図



りが可能であつた(つまり開口していた)点を指摘している。

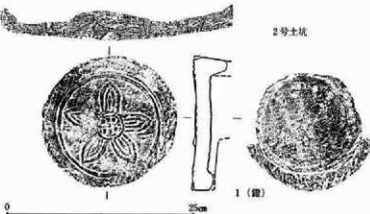
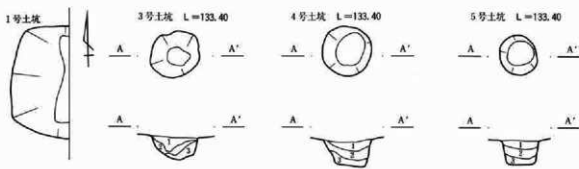
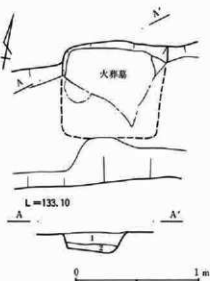
本遺構の場合、出土遺物の年代から9世紀代、平安時代に所属するというので、直接に他遺跡の中世の遺構と同様の性格を想定する訳にはいかないが、遺物の出土状況や入り口部分が開口していた点、さらに何度も掘り直しがされている状況から、当初の所見である墓としての機能を有していたとは考えにくく、一括資料として灰軸陶器を同伴させる点などからなんらかの祭祀に関連する遺構と考えるのが妥当である。

県内で地下式土坑が検出されている遺跡は、国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群(前橋市・群馬郡群馬町)、下東西遺跡(前橋市)、清里南部遺跡群(前橋市)、井出村東遺跡(群馬郡群馬町)、中村遺跡(渋川市)、荒砥下深訪遺跡(前橋市)、上植木宅町田遺跡(伊勢崎市)、上洞名遺跡(佐波郡境町)、庚塚遺跡(太田市)、浜町屋敷内遺跡(太田市)の計10遺跡である。

#### B区火葬墓(図版第183図)

35-B-45付近グリッドに位置し、長軸80cm、短軸75cm、深さ18cmの長方形を呈する。

重複関係はB区11号溝と認められ、前後関係は埋没土の観察が不十分ではあるが後行する。形状はほぼ方形を呈し、規模は約80cm、深さ約20cmであるが、溝の底部との差が約5cmしかないために底面の残存があまり良好でないが、焼土や灰がほぼ一面に広がっていたと考えられる。時期は中世以降と考えられる。

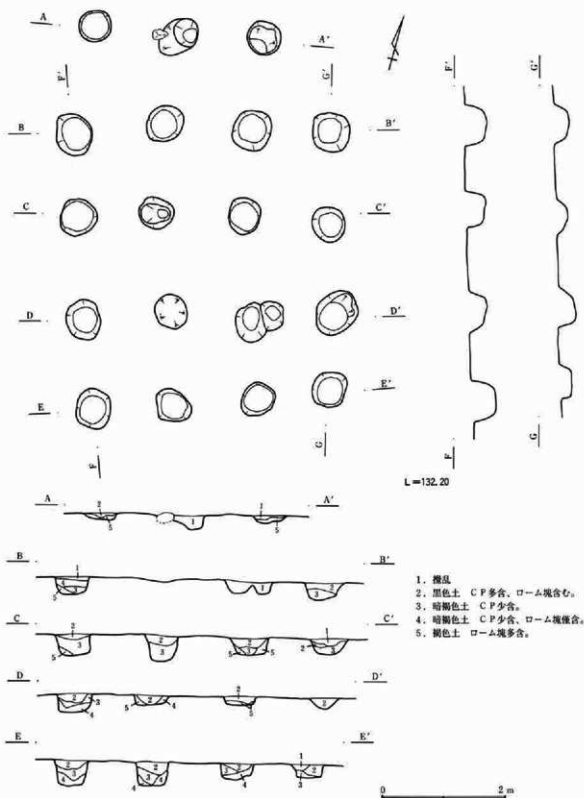


- B区火葬墓
1. 茶褐色土 C P含む、ローム塊含む。
  2. 暗茶褐色土 C P・ローム塊含む。
- B区3号土坑
1. 黒褐色土 B P含む。
  2. 暗褐色土 B P・ローム塊含む。
  3. 暗褐色土 ローム塊主体。
- B区4号土坑
1. 灰褐色砂質土 B P含む。
  2. 黒褐色砂質土 B P含む。
  3. 褐色土 B P僅含む、ローム塊含む。
- B区5号土坑
1. 灰褐色砂質土 B P含む。
  2. 黒褐色砂質土 B P含む。
  3. 褐色土 B P僅含む、ローム塊含む。

第183図 B区火葬墓、1・2・3・4・5号土坑図・出土遺物図

B区1号土坑（図版第183図）

23-B-03グリッドに位置し、直径89cm、深さ89cmの円形を呈する。



第184図 B区1号獨立柱建物跡図

**B区2号土坑** (図版第183図) 位置は不明である。

**B区3号土坑** (図版第183図)

50-C-00グリッドに位置し、直径75cm、深さ38cmの円形を呈する。

**B区4号土坑** (図版第183図)

52-B-47グリッドに位置し、直径80cm、深さ45cmの円形を呈する。

**B区5号土坑** (図版第183図)

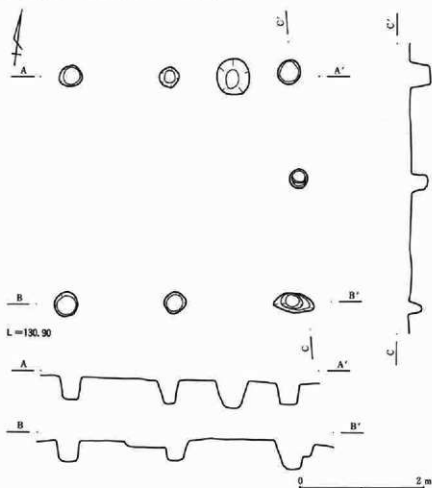
53-B-45グリッドに位置し、直径60cm、深さ43cmの円形を呈する。

**B区1号掘立柱建物跡** (図版第184図、写真図版42-7)

26-B-07グリッドに位置し、重複関係は無い。規模は、桁行4間(約6.4m)、梁行3間(約4.7m)で、床面積は推定で約30㎡を測る。柱間寸法は、桁行で約5尺、梁行で約4尺5寸を測る。柱穴の形態は円形から楕円形を呈し、規模は一边約50-60cm、深度約10-40cmを測る。柱の抜き取りがみられる。北側の一列がややずれているうえに、柱跡が3基しか検出されていないことから3間の桁行かも知れない。

**B区2号掘立柱建物跡** (図版第185図、写真図版41-8)

25-B-27グリッドに位置し、重複関係は無い。規模は、桁行2間(約4.1m)、梁行2間(約4.0m)で、床面積は推定で約16.4㎡を測る。柱間寸法は、桁行で約5尺、梁行で約5-6尺を測る。柱穴の形態はほぼ円形を呈し、規模は一边約30-40cm、深度約30-40cmを測る。



第185図 B区2号掘立柱建物跡図

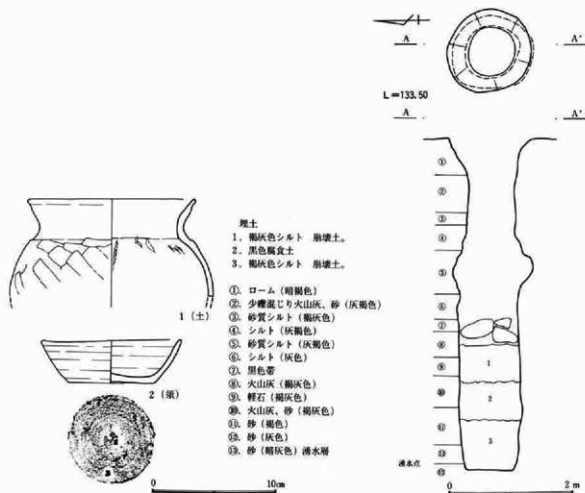
**B区1号井戸** (図版第186図、写真図版42-1)

53-B-48グリッドに位置し、重複関係は無い。形状は楕円形で、規模は長軸約1.4m、短軸約1.3m、幅約0.7~1.3mを測る。深度は約5.3mを測る。調査時には井戸枠などの構造や存在を示す痕跡は検出できなかった。断面では、真中部分にアグリが認められる。覆土は一括埋没と考えられる。遺物は土師器や須恵器が僅かに出土している。

**B区H r - F A上層** (図版第188図)

38-41-B-33-39付近に位置し、H r - F Aの層の上に北東から南西方向に走行する。確認されているのは畝間だけである。時期的には6世紀中頃から10世紀頃までであり、集落の存続時期とはほぼ同じか、若干前にさかのぼると考えられる。

また、木津氏により国分境遺跡と北原遺跡との中間地帯で、側道の側溝取り付け工事の際に掘削された断面で、表土層直下にA s - Cが充填する幅20cm前後の箱掘り状を呈する落ち込みが、幅0.8~1.0mの間隔を有し、北西から北北西の方向に走行する状態で確認されたとのことである。残念ながら発掘調査時に確認作業できなかったが、これを畝と考えるならば集落の形成以前の段階には、この台地が生産地帯としての役目を果たしていたと言える。



第186図 B区1号井戸・出土遺物図

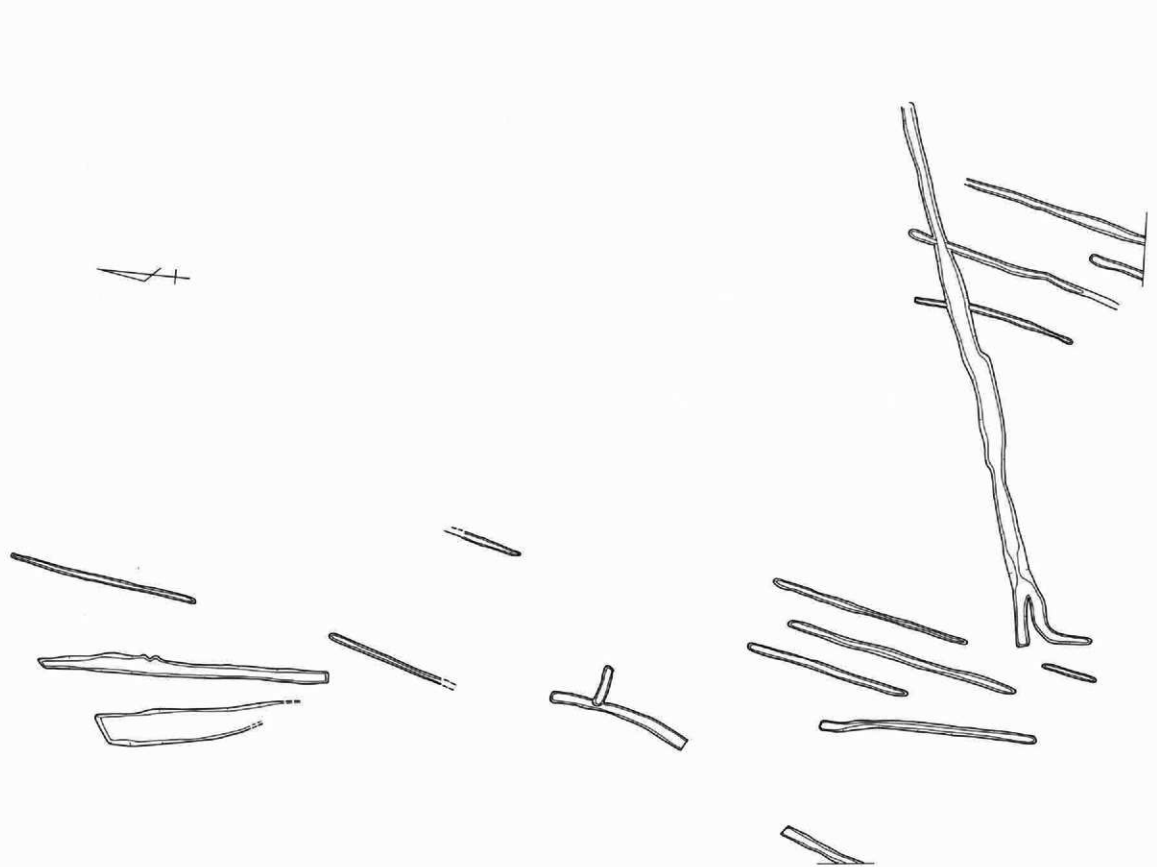


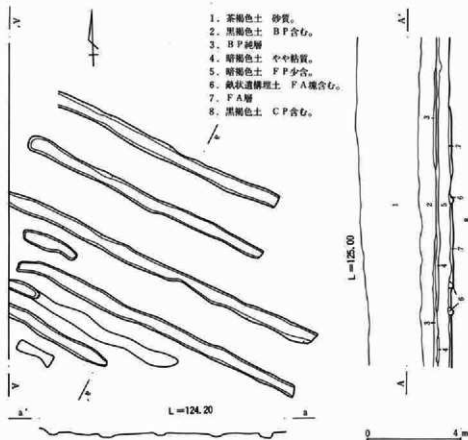
圖187型 B·C區紋樣骨柄（原）四



**B区畠**（図版第187図、写真図版42-3～6） B区を中心にかなり広い範囲から検出されている。第187図は調査区域内での畠状遺構の分布を示しており、走行方向が南北方向のものと、東西方向のものに大きく分けられる。その走行方向などから2群以上に区分でき、これが畠としての単位と考えられる。土層の観察や住居跡などの他の遺構を壊していることから、中近世以降の時期に所属すると考えられる。これを第445図の現代の地籍図と比較してみると、その規模が同一地点に位置する地割りの畠とほぼ等しい事がわかる。また、昭和51年に撮影された関越自動車道路線予定地域の航空写真を参考にした畠のサクの走行方向からも、同様の見解が得られる。このことから、中世以降の所産とみられる畠がかなり最近まで同様の地割りを用いていたとも考えられる。

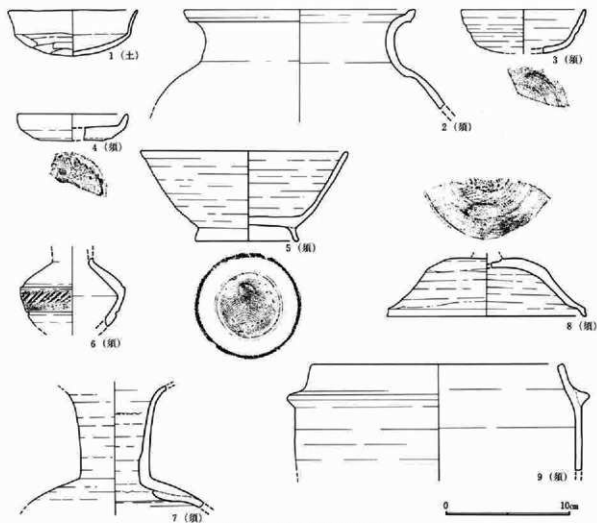
この区分が位置する北原地区は17世紀前半に「北原村」として新設された村の地域にあたり、木津氏によれば、この段階に周辺の村を対象とした村の再編成が行われたと考えられている。それ以降からこの地域が畠などの生産遺構として最近まで利用されていたとも考えられよう。

これ以外の中近世の遺構として、地割り図のうえで群馬養蚕試験場用地となっている地域から古道が途切れているが、これを復元してみると遺跡調査区域内に相当し、C区を横切る形となり、C区の10号溝と11号溝と12号溝がこの道に伴うものであるかもしれない可能性も考えられる。



第188図 B区H r-F A上畠田

第3章 検出された遺構・遺物



第189図 B区一括出土遺物図



## 第4項 C区

C区からは竪穴住居跡77軒、溝15条、土坑12基、掘立柱建物跡3棟、井戸1基が検出されている。

遺構の分布状況としては、B区と同様に住居跡がほとんど存在しない部分が認められるが、土地利用のうえでなんらかの規制が存在したのと考えられる。

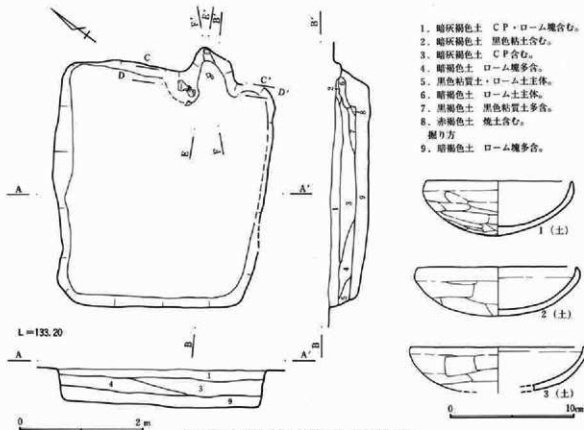
さらに、B区でも指摘したように、南北方向に走行する溝と、東西方向に走行する溝とが、道路的な機能を有する遺構に伴うもの、つまり両側の側溝などと推定できるかも知れない。

次に、個別の遺構について記述していくこととする。

## C区1号住居跡 (図版第190～192図、写真図版43-1～4、88)

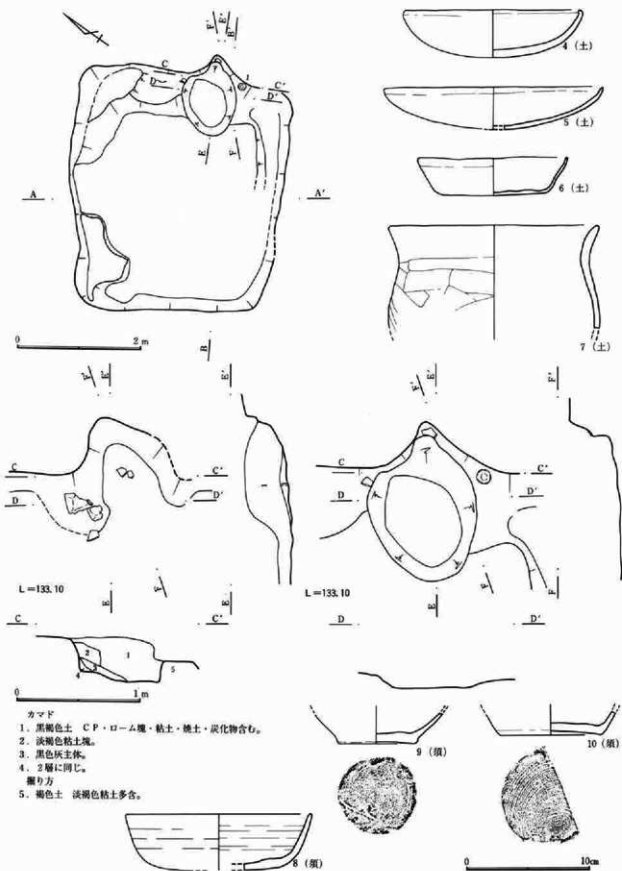
36-C-02グリッドに位置し、重複関係はC区4号溝、C区5号溝より後行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.9m、東西約3.5mで、面積は約13.7㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より20cm程掘り込んで、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド付近に坏が出土している。カマドは東壁のほぼ中央に位置し、後世の溝に上部構造の大部分を壊されているうえに、調査時にカマド主軸方向の設定に失敗したために遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅44cm、奥行き86cmで、煙道部は緩やかに住居外に約50cm程延びる。両袖は残存し、カマド掘り方は掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は両袖付近に、また掘り方調査時に右袖内から完形の坏が1点出土している。

住居の廃絶時期は遺物から7～8世紀と考えられる。

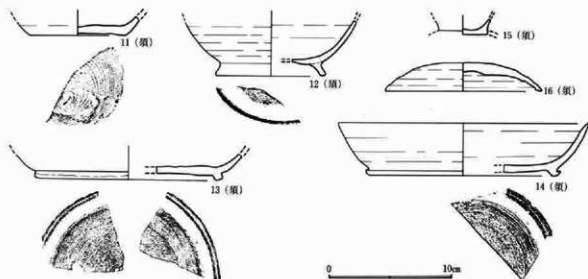


第190図 C区1号住居跡面・出土遺物面(1)

第3章 検出された遺構・遺物



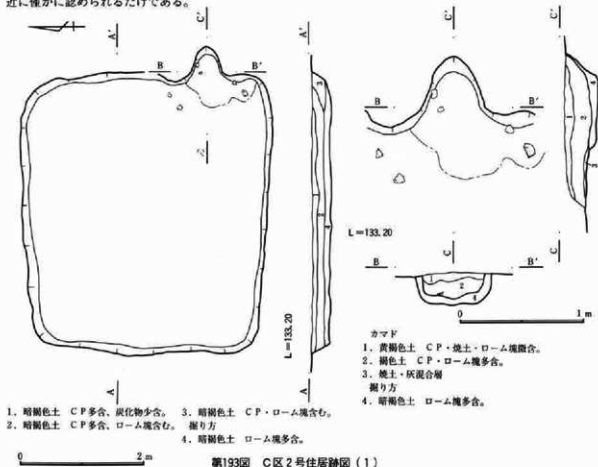
第191図 C区1号住居跡図・出土遺物図(2)



第192図 C区1号住居跡出土遺物図(3)

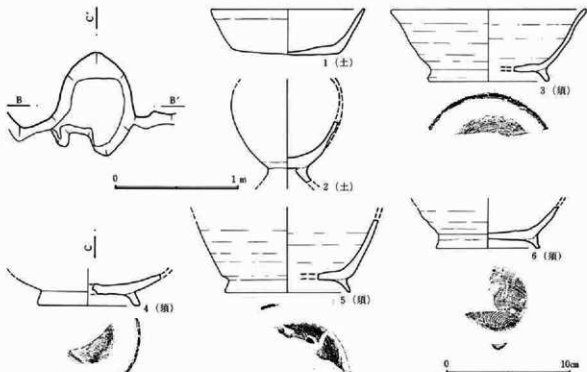
C区2号住居跡 (図版第193・194図、写真図版43-5-8、88)

34-C-02グリッドに位置し、重複関係はC区3号住居跡に先行する。平面形態は主軸方向が長い長方形を呈し、規模は南北約4.0m、東西約4.5mで、面積は約16.8㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約15-20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より10cm程ほぼ均等な深さに掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド付近に僅かに認められるだけである。



第193図 C区2号住居跡図(1)

### 第3章 検出された遺構・遺物



第194図 C区2号住居跡図・出土遺物図(2)

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅48cm、奥行き97cmで、煙道部は緩やかに住居外に49cm程延びる。両袖は残存し、燃焼部の壁の構築材として石を用いている。カマド掘り方は深さ約8cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部から両袖付近及び燃焼部内に環を中心に出土している。

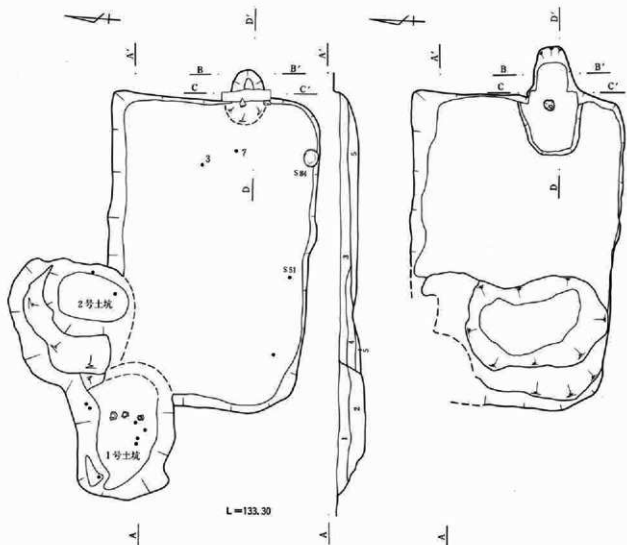
住居の廃絶時期は遺物から8～7世紀と考えられる。

#### C区3号住居跡 (図版第195・196図、写真図版43-6、44-1-4、88)

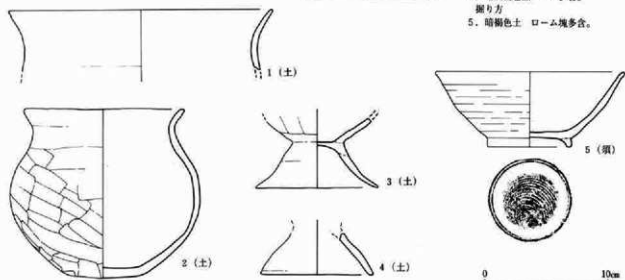
34-C-06グリッドに位置し、重複関係はC区2号住居跡に後行し、C区1号土坑とC区2号土坑に先行する。平面形態は主軸方向に長い長方形を呈し、規模は南北4.9m、東西3.3mであるが、北西隅付近をC区1号土坑とC区2号土坑に壊されているために、面積の計測が不可能である。床面は堅く平坦であり、壁高は約15～20cmである。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。遺物はカマド周辺や南西隅付近に認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、上部構造を含めて遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約50cm、奥行き約55cmで、煙道部は緩やかに住居外に約44cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材として用いている。長さ86cm、幅18cmの切石がほぼ真真中で二つに折れているものの、両袖から天井部に架かる形で検出されている。カマド掘り方は袖石の位置などを考えたかなり企画性の高いもので、深さ約10cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。燃焼部のほぼ中央に支脚を埋め込むための小さなピットも検出された。遺物はほとんど認められない。

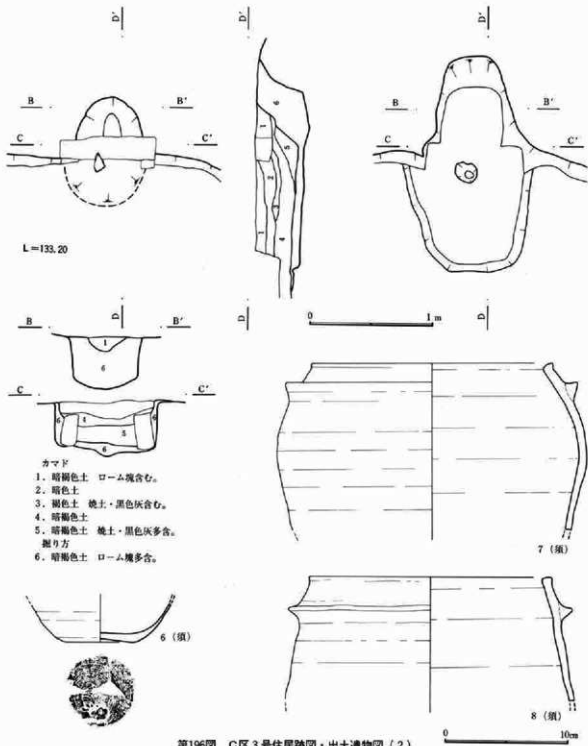
住居の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。



1. 2. C区1号土坑埋土。
3. 暗灰褐色土 CP含む。
4. 暗灰褐色土 CP少含む。
- 掘り方
5. 暗褐色土 ローム塊多含む。



第195図 C区3号住居跡・出土遺物図(1)

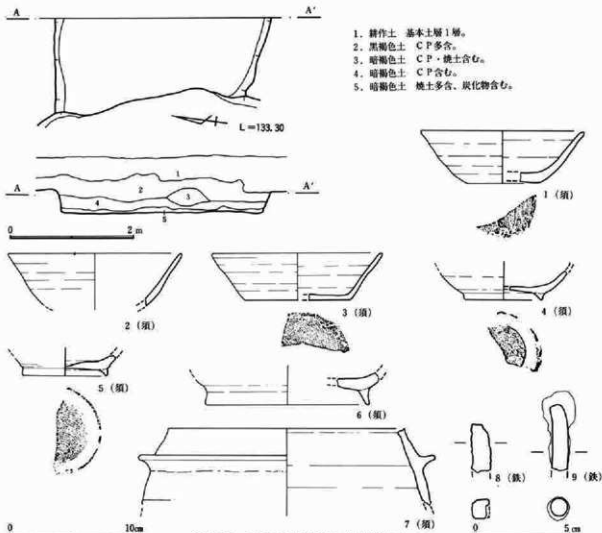


第196図 C区3号住居跡図・出土遺物図(2)

C区6号住居跡 (図版第197図、写真図版44-5、88)

32-C-07グリッドに位置し、重機関係は西壁部分でC区2号溝に先行する。また東側半分は調査区域外に存在するために、平面形態や規模が不明である。床面は堅く平坦である。壁高は現在の地表面から90cm、確認面からも約50cmとかなり深い。壁溝、貯蔵穴、柱穴は床面の東側半分が調査区域外のために、その存在は不明である。遺物はほとんど認められない。

カマドは調査区域外に存在すると考えられる。



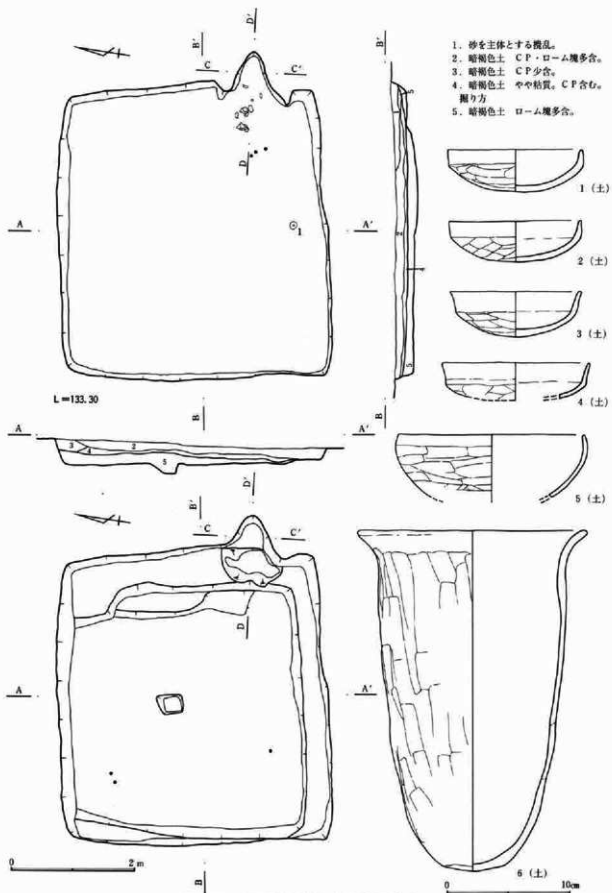
住居の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

**C区7号住居跡** (図版第198・199図、写真図版44-6-8、45-1、88)

34-C-11グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は主軸方向に長い長方形を呈し、規模は南北4.3m、東西4.7mで、面積は約19.9㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は15-20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。ピットが検出、長軸40cm、短軸30cm、深さ15cmを測る。掘り方は床面より約15-20cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施しているが、住居の拡張の痕跡も認められる。以前の住居の規模は南北3.8m、東西4.0mで、面積は15.2㎡を測り、ほぼ一回り大きく拡張したと考えられる。

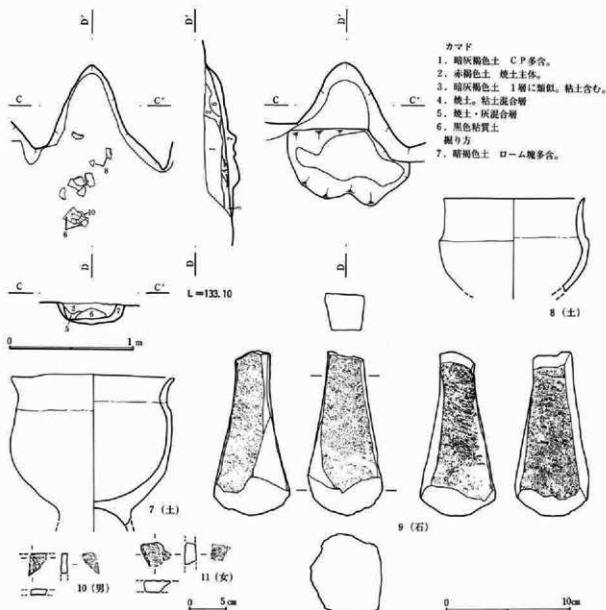
カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好でない。規模は燃烧部幅約60cm、奥行き約80cmで、煙道部は緩やかに住居外に約70cm程延びる。両袖は残存し、カマド掘り方は深さ約4-8cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。カマドも以前の位置から南東方向に約60cm程移動したと考えられる。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。



第198図 C区7号住居跡面・出土遺物図(1)





第199図 C区7号住居跡図・出土遺物図(2)

**C区9号住居跡** (図版第200図、写真図版45-2・3)

38-C-13グリッドに位置し、重複関係はC区11号住居跡に先行する。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北4.2m、東西4.1mであるが、北壁と東壁を含む北側半分をC区11号住居跡に壊されているために、面積の計測が不可能である。床面は貼り床を施し、堅く平坦である。壁高は約25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は僅か約5cm程掘り込み、ロームブロックが混じる暗褐色土を主体に貼り床を施している。出土遺物は南壁中央部に出土している。

カマドは東壁に位置していたと推定されるために、C区11号住居跡に壊されていると考えられる。

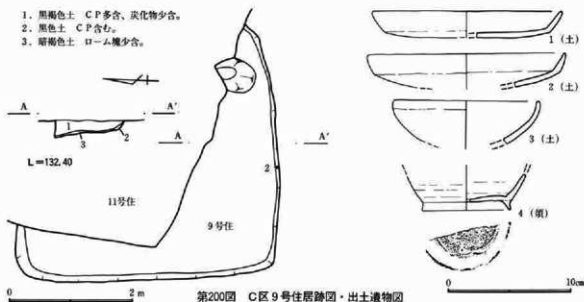
住居の廃絶時期は遺物から7～8世紀と考えられる。

**C区10号住居跡** (図版第201～203図、写真図版45-4・5、89)

33-C-14グリッドに位置し、重複関係は無いが、東側半分は調査区域外に存在するために、平面形態や

### 第3章 検出された遺構・遺物

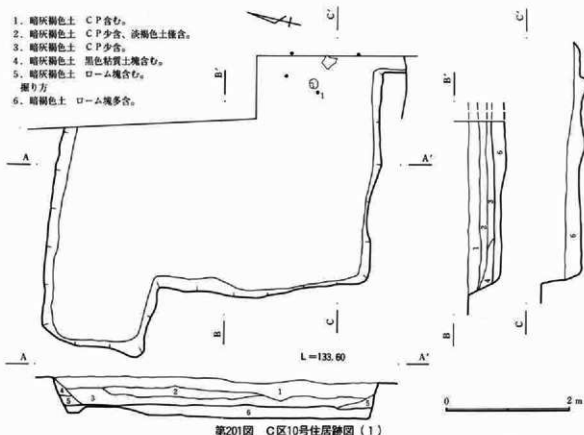
1. 黒褐色土 C P 多含、炭化物少含。
2. 黒色土 C P 含む。
3. 暗褐色土 ローム塊少含。

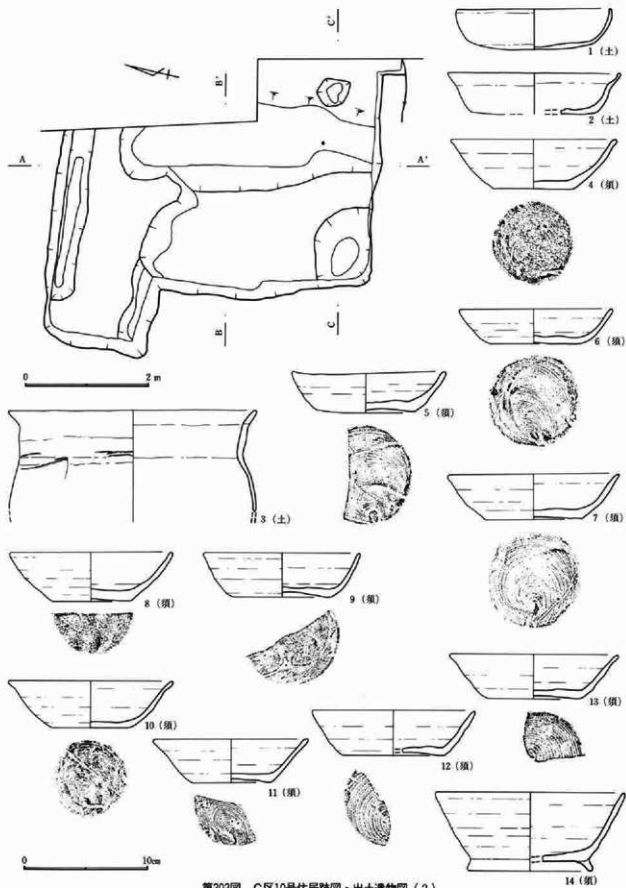


規模が不明である。西側部分では北西隅部分から西壁の一部が約95cmほどの方形に張り出している。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は40cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に位置し、楕円形を呈す。規模は約55cm、深さ約5～13cmを測る。掘り方は床面より約15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は住居の南東部分の調査区域際から出土しており、おそらくはこの東側にカマドが存在するものと考えられる。

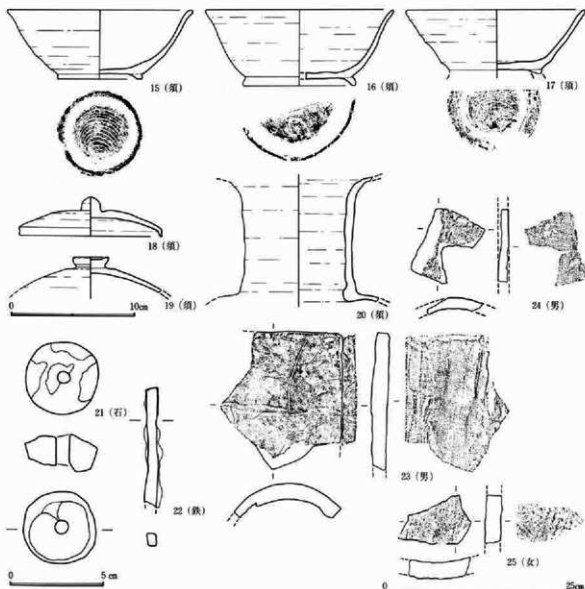
住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

1. 暗灰褐色土 C P 含む。
2. 暗灰褐色土 C P 少含、洗褐色土僅含。
3. 暗灰褐色土 C P 少含。
4. 暗灰褐色土 黒色粘質土塊含む。
5. 暗灰褐色土 ローム塊含む。
6. 暗褐色土 ローム塊多含。





第202図 C区10号住居跡団・出土遺物図(2)

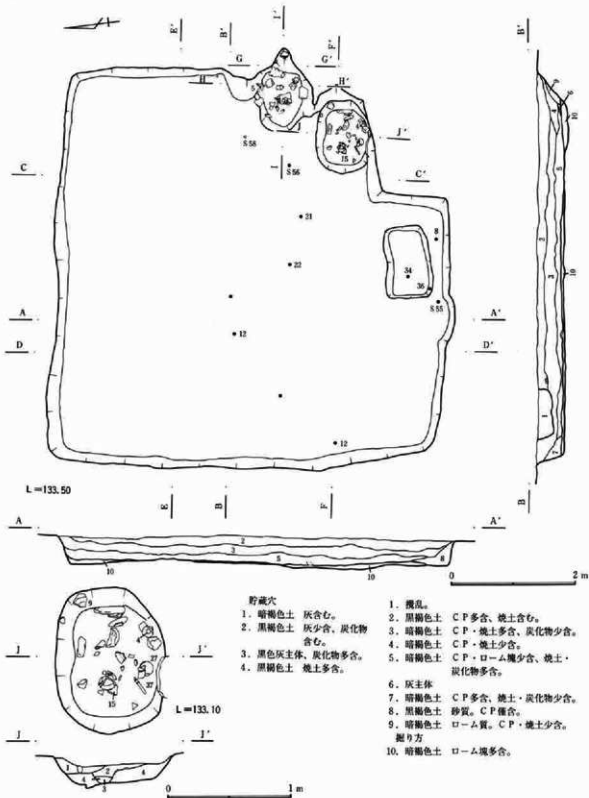


第203図 C区10号住居跡出土遺物図(3)

C区11号住居跡 (図版第204～208図、写真図版45・7・8、46・1・2、89)

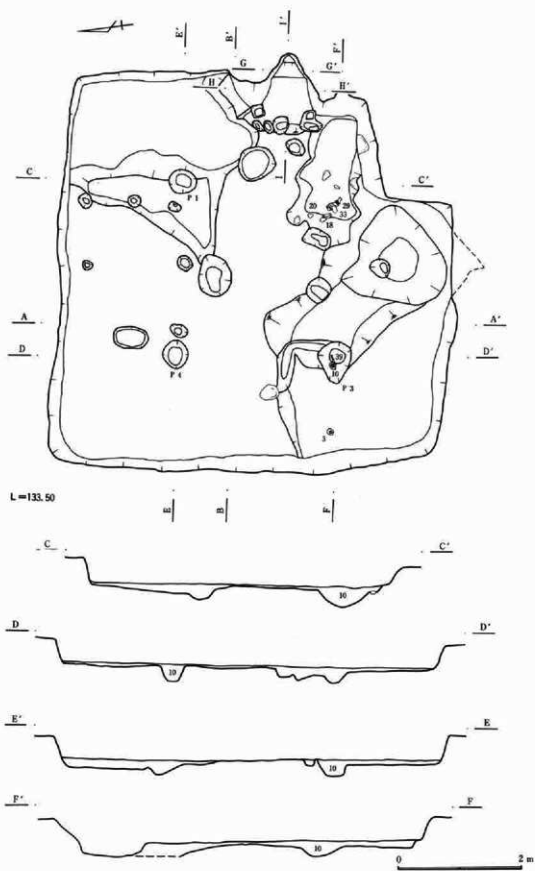
36-C-14グリッドに位置し、重複関係はC区9号住居跡に後行する。平面形態は東壁が張り出すことにより正方形に近い形を呈し、規模は南北4.3m、東西4.3mで、面積は約12.4㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約40cmの深さを測る。壁溝は検出されなかった。柱穴は掘り方調査時に4基検出され、規模はP1が直径40cm、深さ約10cm、P2は大きな掘り込みの部分にその位置が確定されるために不明確であるが、P3は直径約50cm、深さ15cm、P4が直径40cm、深さ20cmを測り、計測が可能なP3-P4の間が約255cm、P4-P1の間が約280cmを測る。貯蔵穴は南東隅部分と張り出した南東隅部分の二箇所に位置し、一つは楕円形、もう一つは長方形呈す。規模は長軸約110cm、短軸約90cm、深さ約20cmと、長軸約115cm、短軸約70cm、深さ約10cmを測る。掘り方は床面より約5～10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。小さなピットが多数検出されているなど、掘り方の様子から住居の改築、それも東側部分の拡張の可能性も考えられる。もしそれが本当ならば、楕円形の貯蔵穴の部分が以前のカマドの位置と考えられる。遺物は貯蔵穴内やカマド内などに多数認められる。

カマドは東壁の中央から僅かに南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約73cm、奥行き約132cmで、煙道部は緩やかに住居外に約70cm程延びる。両袖は残存し、粘土と石を構築材とする。カマド掘り方は深さ約10～16cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。両袖部分、及びその間に一列に小



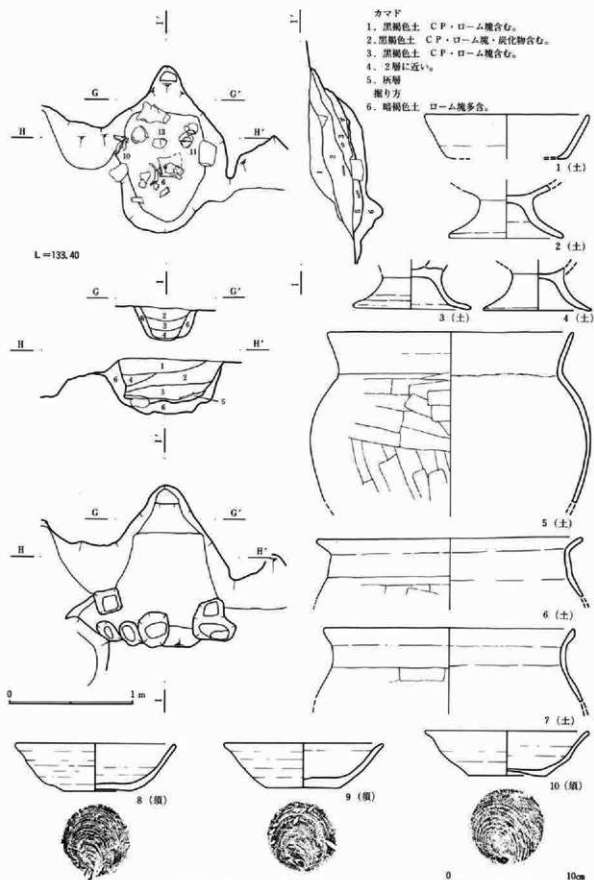
第204図 C区11号住居跡面(1)

第3章 検出された遺構・遺物

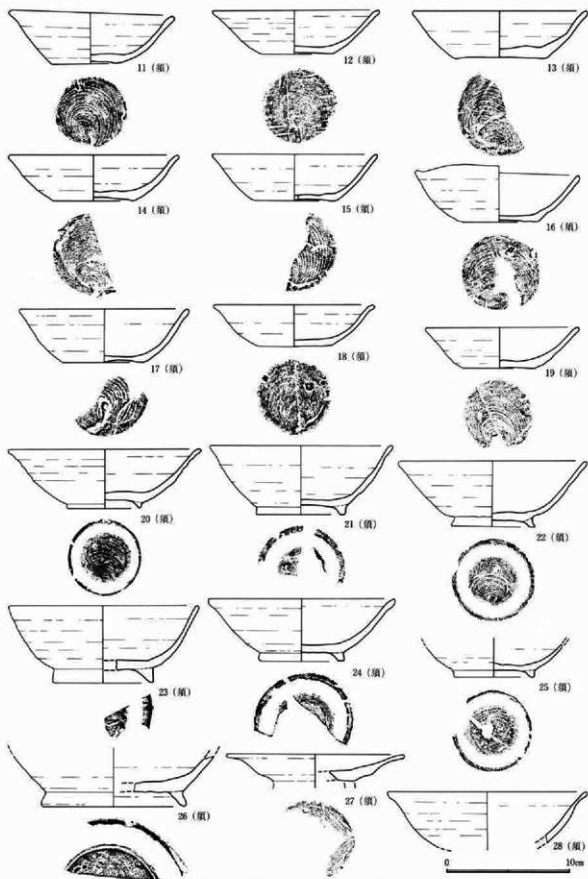


第205図 C区11号住居跡図(2)

第1節 古墳時代後期～平安時代

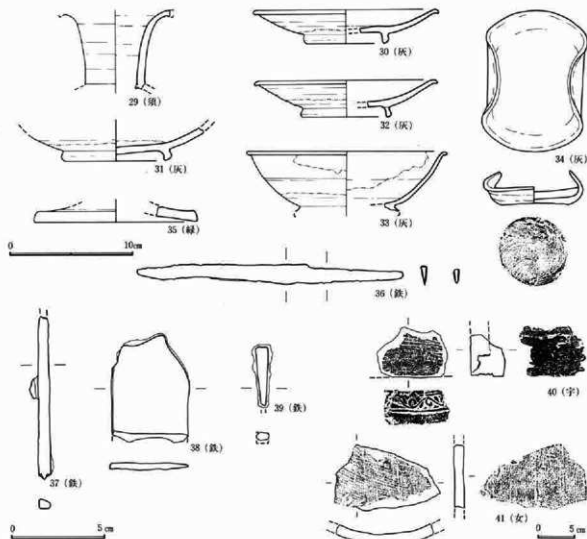


第206図 C区11号住居跡図・出土遺物図(3)



第207図 C区11号住居跡出土遺物図(4)





第208図 C区11号住居跡出土遺物図(5)

さなビットが検出されており、なんらかの構造物が存在したものと考えられる。遺物は多数出土している。

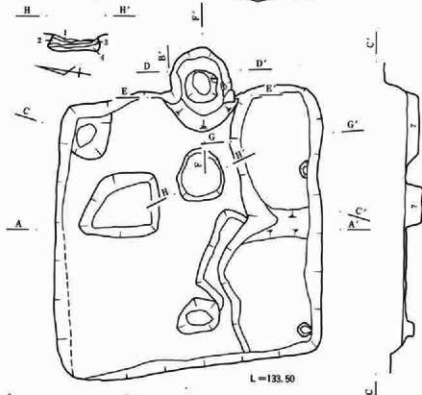
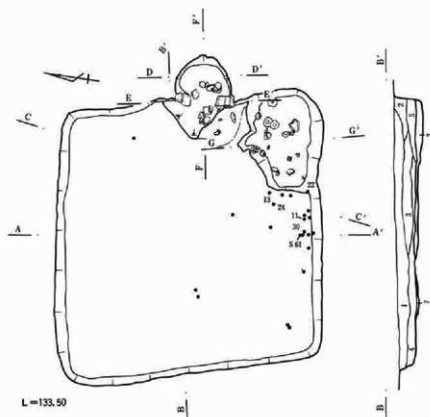
住居の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

#### C区12号住居跡 (図版第209～211頁、写真図版46-3～6、90)

34-C-17グリッドに位置し、重複関係はC区14号住居跡に後行する。平面形態は主軸方向が僅かに長い長方形を呈し、規模は南北4.3m、東西4.9mで、面積は約18.1㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測る。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に位置し、楕円形を呈す。規模は長軸約165cm、短軸約110cm、深さ約15cmを測る。掘り方は床面より約6～10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。南壁際、北東隅などにいくつもの掘り込みが検出されており、どれかが柱穴などに相当するかも知れない。遺物はカマド周辺から貯蔵穴、及び南壁中央部にかけて多数出土している。

カマドは東壁の中央から僅かに南寄り位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約70cm、奥行き約114cmで、煙道部は緩やかに住居外に約73cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。右袖部分に折れた石が残存することから、天井部に石を架けていたと考えられる。カマド掘り方は深さ約10～16cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。

住居の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

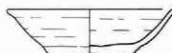


第209図 C区12号住居跡図・出土遺物図(1)

1. 暗灰褐色土
2. 暗灰褐色土 黒色粘質土混含。
3. 暗灰褐色土 黒色粘質土塊含む。
4. 黒灰褐色土 粘質。
5. 暗灰褐色土 C P・粘土塊多含。
6. 暗灰褐色土 C P少含。
- 掘り方
7. 暗褐色土 ローム塊多含。
- 床下土坑
1. 灰層
2. 灰・焼土混在層
3. 黒色土 焼土塊多含、ローム塊含む。
4. 黒色土 ローム塊含む。



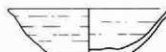
7 (横)



8 (横)

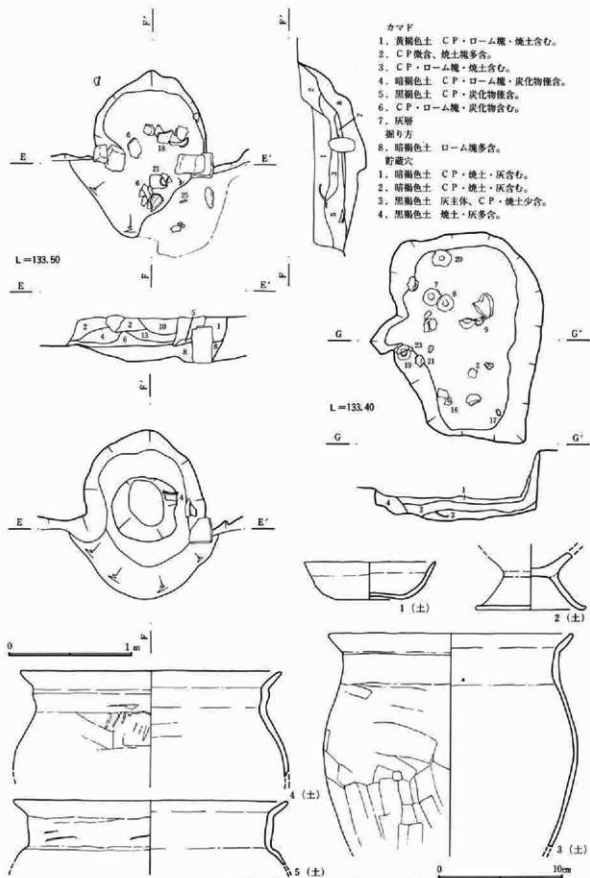


9 (横)

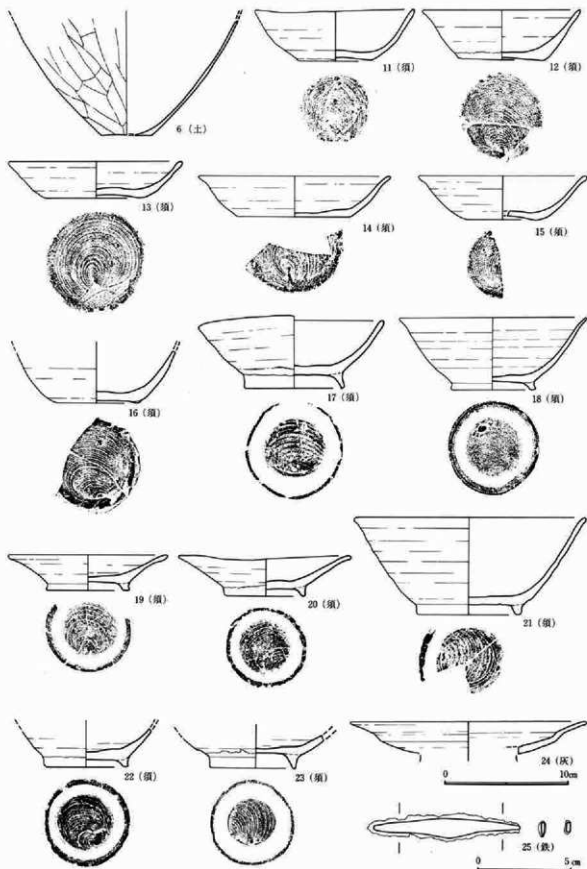


10 (横)





第210図 C区12号住居跡図・出土遺物図(2)

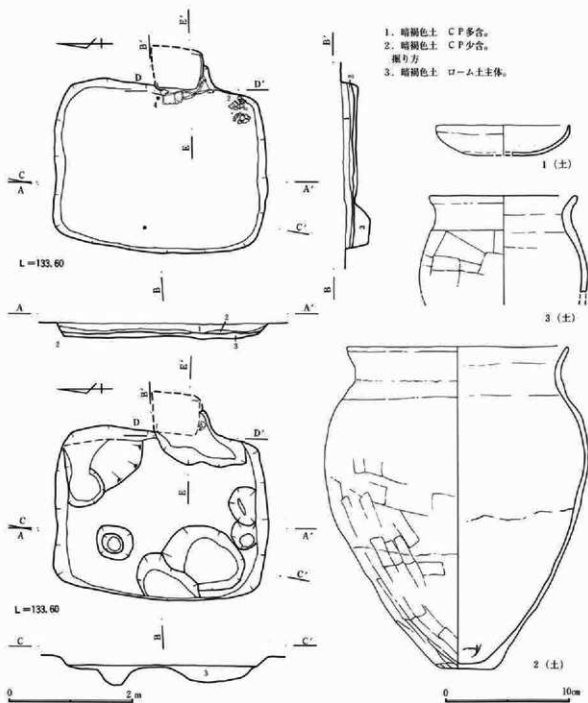


第211图 C区12号住居跡出土遺物图(3)

## C区13号住居跡 (図版第212・213図、写真図版46-7・8、47-1・2、90)

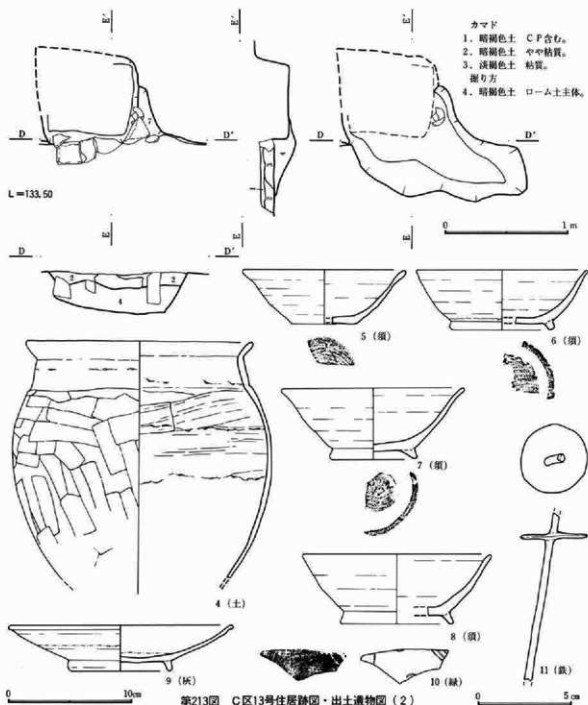
37-C-18グリッドに位置し、重複関係はC区14号住居跡より先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北3.4m、東西2.6mで、面積は約8.8㎡を測る。床面は粘土が施され、堅く平坦である。壁高は約15cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より約10～25cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は僅かに認められる。緑釉の内花文皿の破片が覆土中から出土している。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置するが、方形の後世の擾乱に壊されているために、遺存状態は良好



第212図 C区13号住居跡図・出土遺物図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



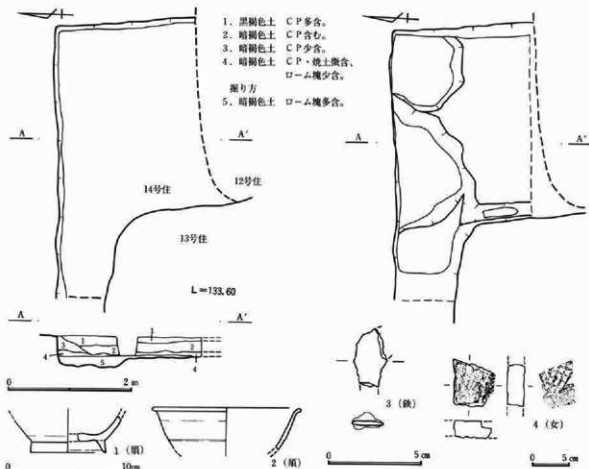
第213図 C区13号住居跡・出土遺物図(2)

でない。右袖は残存し、石を構築材としているが、左袖は攪乱により壊されている。だが、カマド手前部分に石が残存しており、その状況から天井部に石を架けていたと考えられる。カマド掘り方は深さ約20cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。燃焼部から袖付近を中心に出土している。遺物は燃焼部、および掘り方内に認められる。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

C区14号住居跡 (図版第214回、写真図版47-3、90)

35-C-18グリッドに位置し、重複関係はC区12号住居跡、C区13号住居跡に先行する。平面形態は長方形を呈するが、規模や面積は不明である。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は30cmの深さを測



第214図 C区14号住居跡図・出土遺物図

り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より約5～15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はほとんど認められない。

カマドはC区12号住居跡に壊されていると考えられる。

住居の廃絶時期は遺物から9世紀頃と考えられる。

#### C区15号住居跡 (図版第215・216図、写真図版47-4-8、90)

41-C-43グリッドに位置し、重複関係はC区20号住居跡に先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北3.7m、東西3.0mで、面積は約9.2㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は約25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。遺物はカマドの右袖付近から南東隅にかけて甕の破片が、さらに床面全体に散漫に認められる。

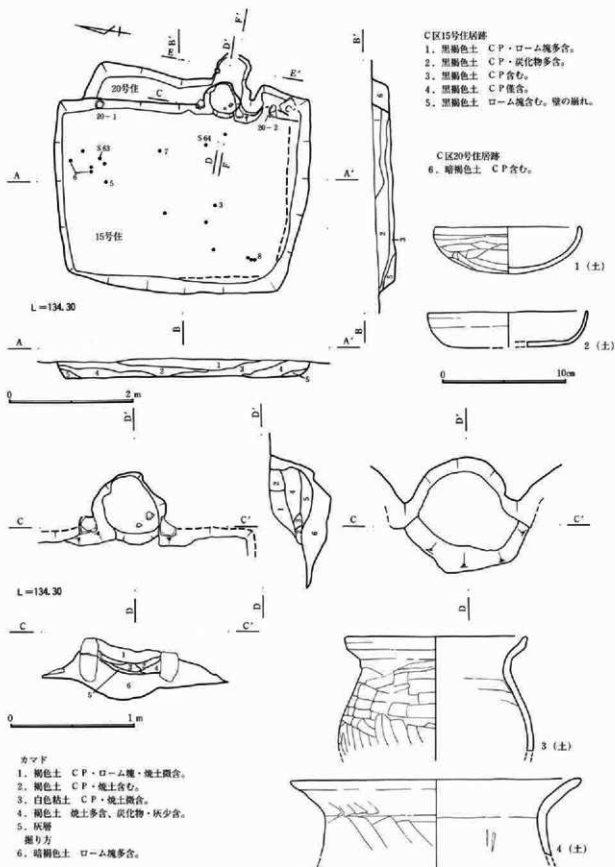
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約57cm、奥行き約55cmで、煙道部は緩やかに住居外に約42cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は楕円形に深さ約20cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物は燃焼部内に僅かに認められる。

住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

#### C区20号住居跡 (図版第215・217図、写真図版50-1-4・91)

40-C-43グリッドに位置し、重複関係はC区15号住居跡より先行する。平面形態は長方形を呈し、規模や面積は不明である。床面は堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴はC区15号住居跡に壊されているために、その存在が不明である。掘り方は認められない。遺

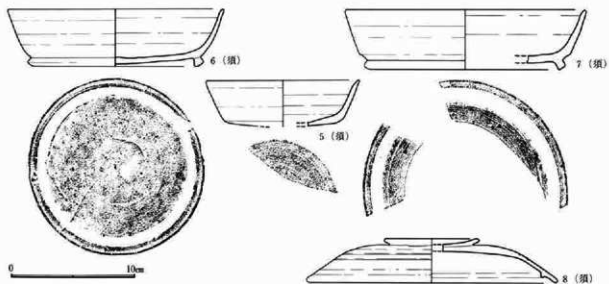
第3章 検出された遺構・遺物



第215図 C区15・20号住居跡図・出土遺物図(1)



第1節 古墳時代後期—平安時代

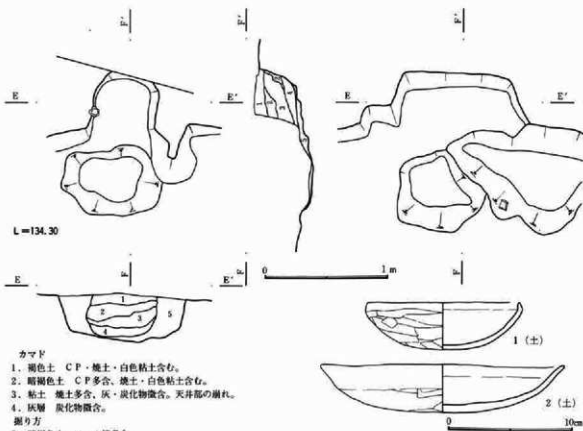


第216図 C区15号住居跡出土遺物図(2)

物はカマドの燃焼部内に僅かに認められる。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅約47cm、奥行き約69cmで、煙道部は緩やかに住居外に約54cm程延びる。右袖は残存し、粘土を構築材とする。カマド掘り方は長方形に深さ約6cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀後半から8世紀にかけてと考えられる。



カマド

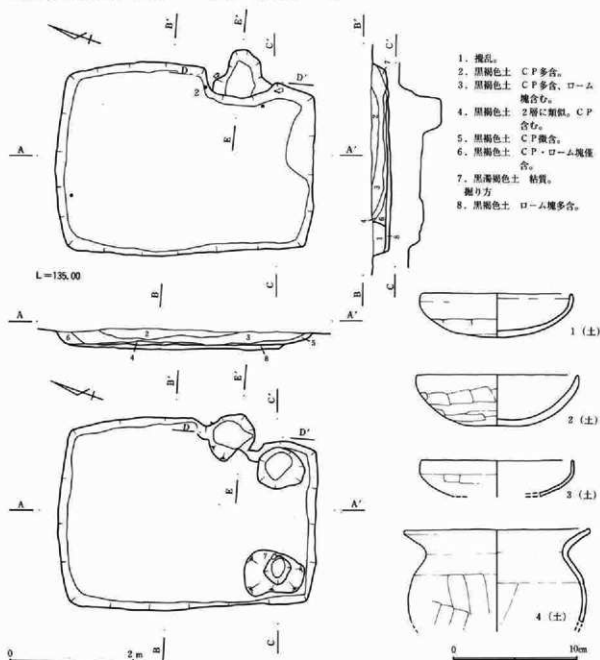
1. 褐色土 C P・焼土・白色粘土含む。
2. 暗褐色土 C P多含、焼土・白色粘土含む。
3. 粘土 焼土多含、灰・炭化物混含。天井部の崩れ。
4. 灰層 炭化物混含。
- 掘り方
5. 暗褐色土 ローム多含。

第217図 C区20号住居跡図・出土遺物図(2)

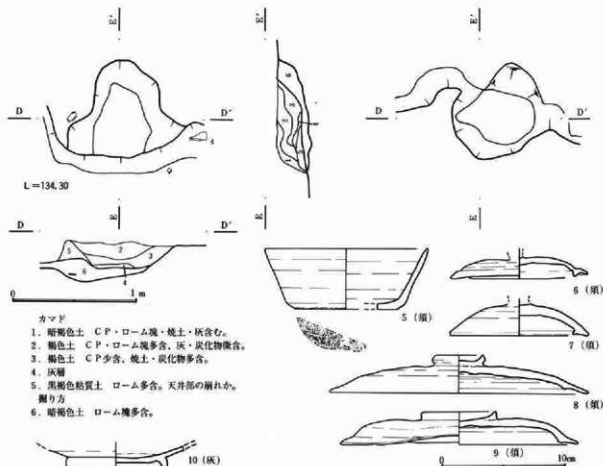
C区16号住居跡 (図版第218・219図、写真図版48-1-4、91)

39-C-45グリッドに位置し、重複関係はC区19号住居跡より後行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北4.1m、東西3.0mで、面積は約10.0㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に位置し、楕円形を呈す。規模は長軸約85cm、短軸約65cm、深さ約15cmを測る。掘り方は約5cmの貼り床を施している。遺物はカマド周辺に僅かに認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄り位置し、遺存状態は良好である。規模は燃烧部幅約47cm、奥行き約77cmで、煙道部は緩やかに住居外に約61cm程延びる。両袖は残存し、粘質土を構築材とする。カマド掘り方は深さ約7cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。



第218図 C区16号住居跡図・出土遺物図(1)



第219図 C区16号住居跡図・出土遺物図(2)

住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

#### C区17号住居跡 (図版第220図、写真図版48-5-8、91)

42-C-46グリッドに位置し、重複関係はC区19号住居跡に後行する。平面形態は主軸方向に長い長方形を呈し、規模は南北約2.5m、東西3.5mで、面積は約8.5㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は約15～20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は北東隅、北西隅、それに南西隅付近が僅かに窪む程度で、ロームを主体に最大で厚さ約5cmと薄い貼り床を施している。遺物はほとんど認められない。

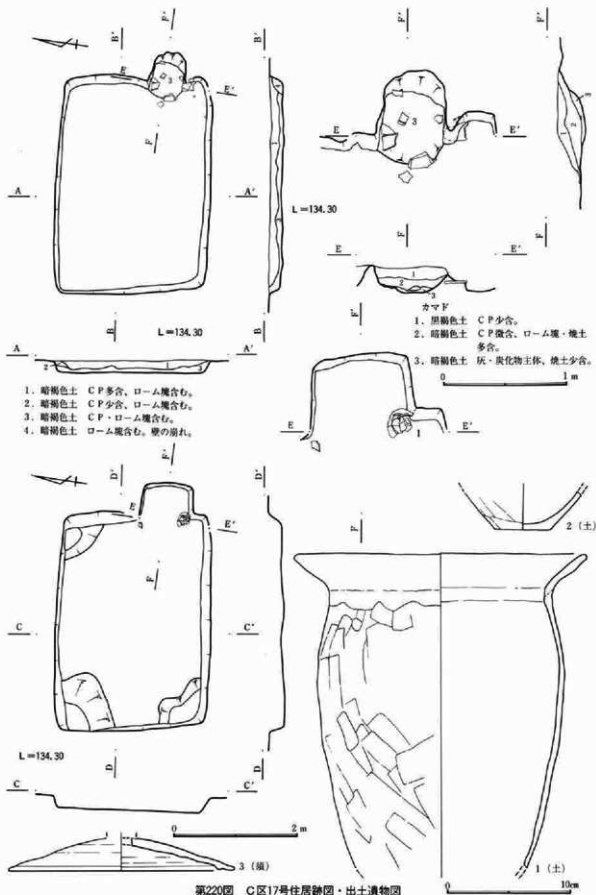
カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約50cm、奥行き約72cmで、煙道部は緩やかに住居外に47cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。遺物は燃焼部内に多数認められる。

住居の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

#### C区18号住居跡 (図版第221～222図、写真図版49-1・4、91)

39-C-48グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.3m、東西約2.6mで、面積は約8.2㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は僅かに約5～10cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より5～10cm程掘り込み、

第3章 検出された遺構・遺物



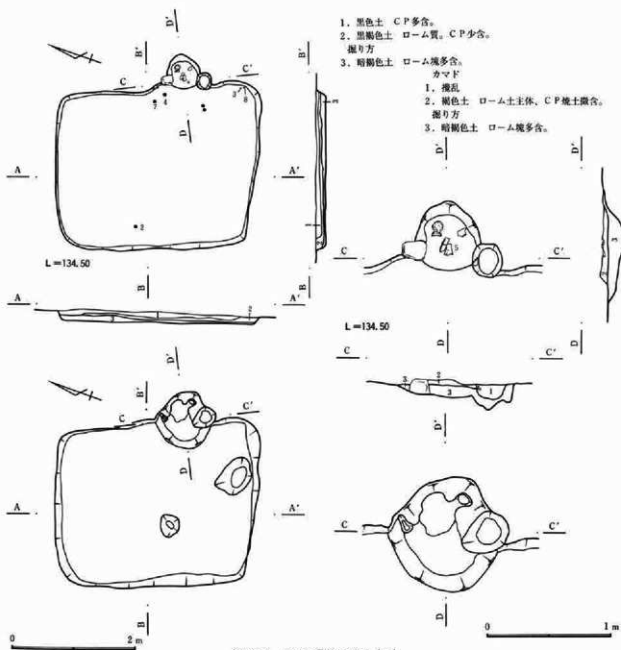
ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド付近に僅かに認められる。

カマドは北東隅に位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約38cm、奥行き約54cmで、煙道部は緩やかに住居外に約46cm程延びる。両袖は残存し、左袖は石を構築材とする。右袖部分に円形の掘り込みが認められることから、袖石が存在していた可能性も考えられる。カマド掘り方は深さ約8～12cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。燃焼部内から遺物が出土している。

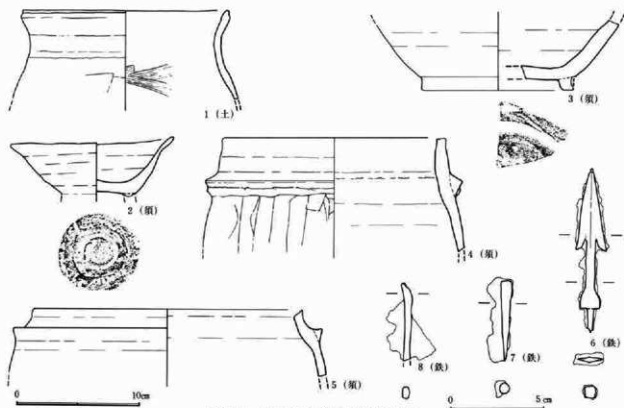
住居の廃絶時期は遺物から10世紀前半と考えられる。

#### C区19号住居跡 (図版第223・224図、写真図版49-5-8、91)

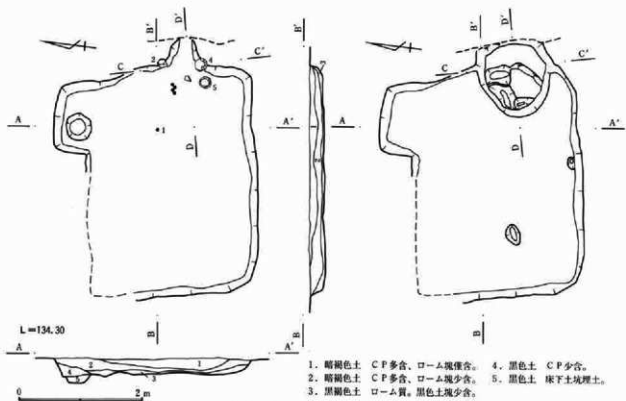
41-C-45グリッドに位置し、重複関係はC区17号住居跡、C区19号住居跡より先行する。平面形態は主軸方向に長い長方形を呈し、北東隅から北壁部分に張り出しをもつ。規模は南北約3.2m、東西約3.6mで、面積は約9.4㎡を測る。床面は貼床が施され、整く平坦である。壁高は約15～20cmを測り、ほぼ直線的に垂直



第221図 C区18号住居跡図(1)



第222図 C区18号住居跡出土遺物図(2)



1. 暗褐色土 C P多含、ローム塊僅含。
2. 暗褐色土 C P多含、ローム塊少含。
3. 黒褐色土 ローム質、黒色土塊少含。
4. 黒色土 C P少含。
5. 黒色土 床下土塊埋土。

第223図 C区19号住居跡図(1)

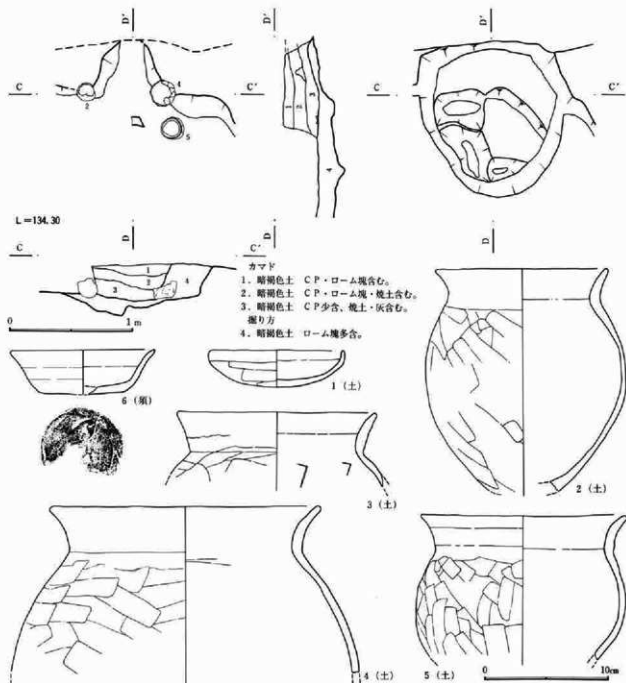
に立ち上がる。壁溝や貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。その他に円形状のピットを約2基検出した。遺物はカマド付近に認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、煙出し部分がC区16号住居跡に壊されているために、遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅の約40cmだけが計画できる。両袖は残存し、土師器の甕を構築材とする。カマド掘り方は不定形に深さ約12～20cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。

住居の廃絶時期は遺物から7世紀から8世紀にかけてと考えられる。

**C区21号住居跡** (図版第225・226図、写真図版50-5-7、92)

66-C-44グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.4m、東西約

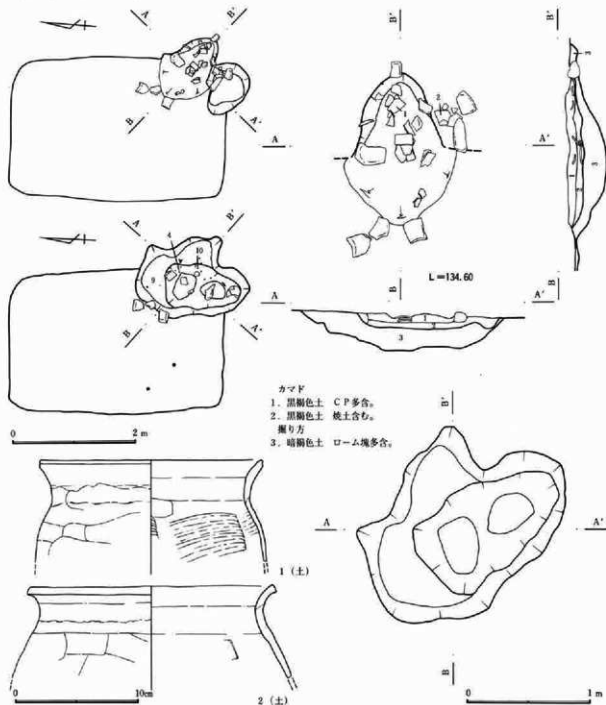


第224図 C区19号住居跡図・出土遺物図(2)

### 第3章 検出された遺構・遺物

2.3mで、面積は約7.8㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。確認時に既に床面が検出されていたために、壁高は不明確である。壁溝、柱穴は検出されなかったが、貯蔵穴は南東隅に長軸85cm、短軸50cm、深さ15cmの規模で検出された。掘り方は認められない。遺物はカマドの右袖付近から南東隅にかけて甕の破片が僅かに認められる。

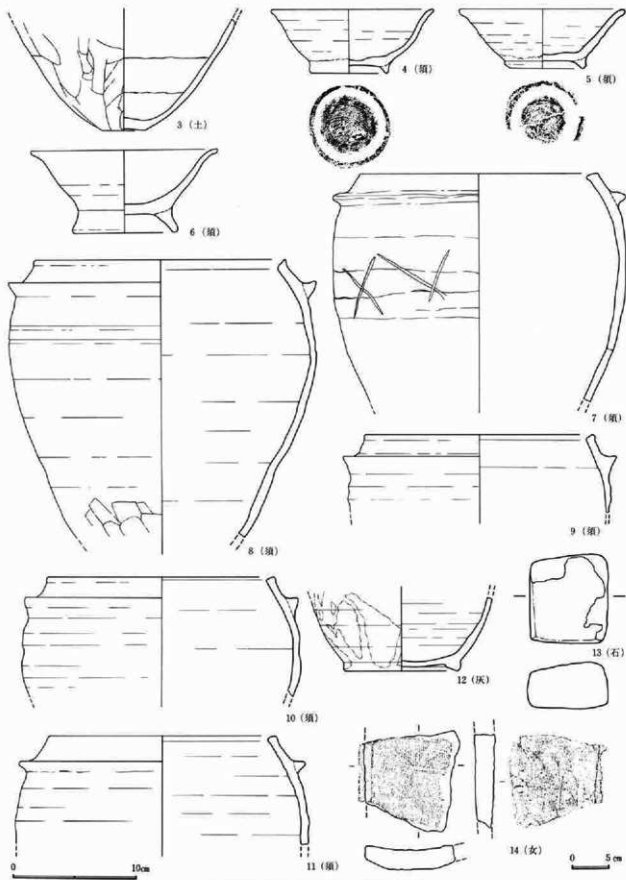
カマドは南東隅に位置し、規模は燃焼部幅約60cm、奥行き約120cmで、煙道部は緩やかに住居外に約36cm程延びる。カマド掘り方は楕円形に深さ約18cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物は燃焼部内に多数認められる。



第225図 C区21号住居跡園・出土遺物園(1)



第1節 古墳時代後期～平安時代



第226团 C区21号住居跡出土遺物(2)

### 第3章 検出された遺構・遺物

住居跡の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

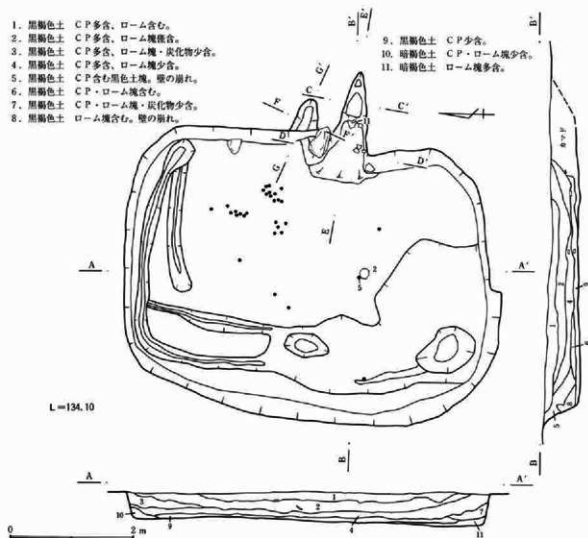
#### C区22号住居跡 (図版第227-229図、写真図版50-8、51-1-4、92)

62-C-25グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約6.0m、東西約4.5mで、面積は約24.0㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は50cmもの深さを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。壁溝は北壁、及び西壁際に幅20cm、深さ4cmの規模で検出された。壁溝の様子から住居の拡張が想定される。カマドは2基検出されているが、第1カマドが第2カマドよりも新しい。掘り方は認められない。遺物は左袖付近に多数認められる。

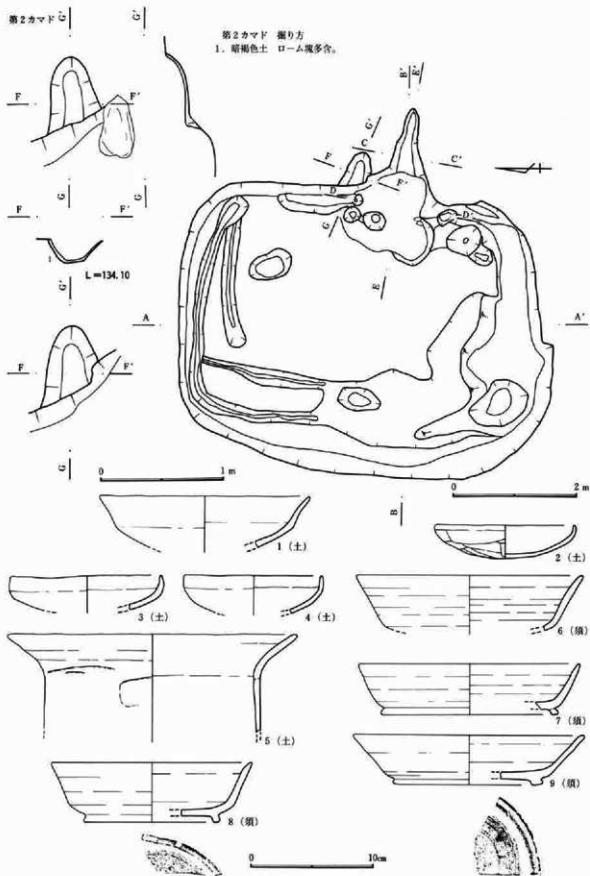
第1カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、規模は燃焼部幅約69cm、奥行き約157cmで、煙道部は緩やかに住居外に約130cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は深さ約10cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部から右袖付近を中心に出土している。

第2カマドは東壁の中央部分に位置し、袖や燃焼部分が住居の拡張に伴って壊されたと考えられ、煙道部だけが残存している。

住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

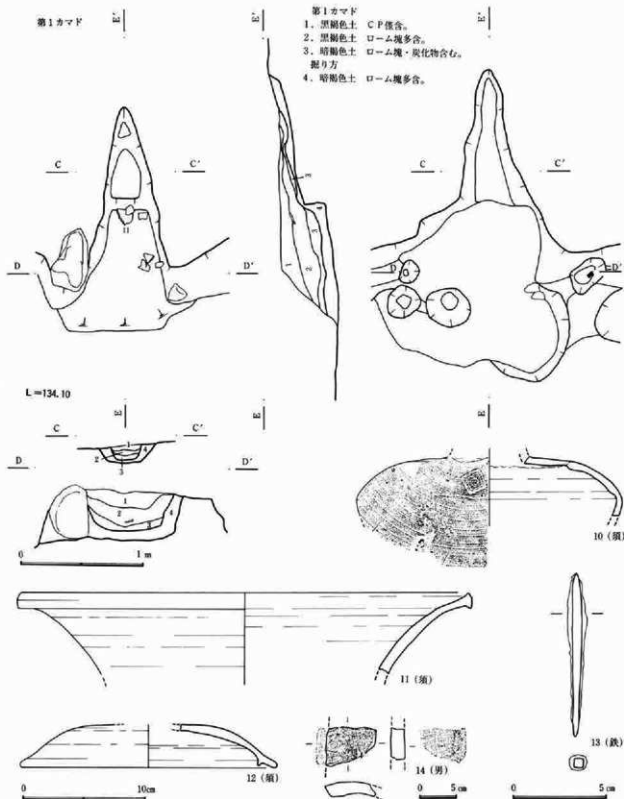


第227図 C区22号住居跡図(1)



第226図 C区22号住居跡図・出土遺物図(2)

第3章 検出された遺構・遺物



第229図 C区22号住居跡図・出土遺物図(3)

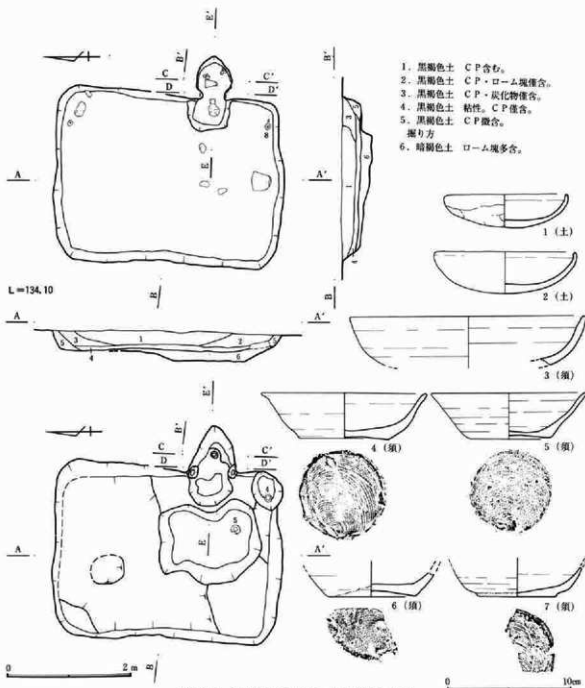
C区23号住居跡 (図版第230・231図、写真図版51-5~8、92)

62-C-21グリッドに位置し、重複関係はC区25号住居跡に先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.7m、東西約2.8mで、面積は約10.0㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は30cm

を測り、やや垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は掘り方調査時に南東隅に検出され、規模は長軸約70cm、短軸約50cm、深さ約15cmを測る。掘り方は住居の南側半分に落ち込みが検出され、ロームブロックを主体に貼り床を施している。遺物は北東隅と南東隅、及び貯蔵穴内に僅かに認められる。

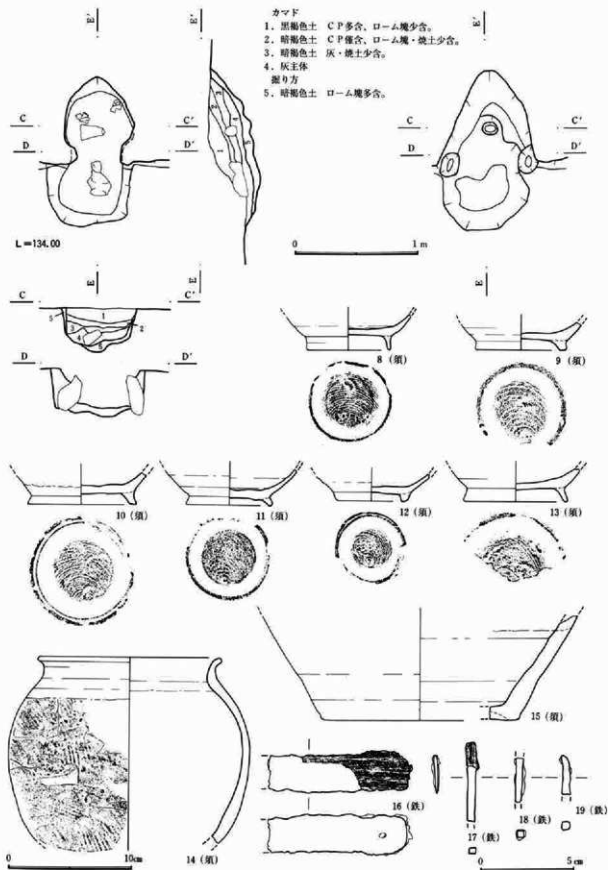
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約54cm、奥行き約116cmで、煙道部は緩やかに住居外に68cm程延びる。両軸は残存し、石を構築材とする。支脚と考えられる石が燃焼部のほぼ真ん中に横倒しで存在する。カマド掘り方は精円形に深さ約8cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部内に僅かに認められる。

住居跡の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。



第230図 C区23号住居跡・出土遺物図(1)

第3章 検出された遺構・遺物

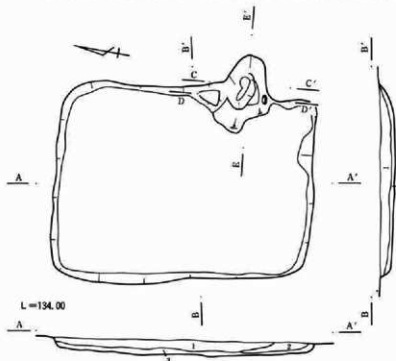


第231図 C区23号住居跡・出土遺物図(2)

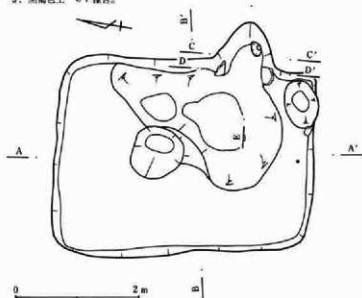
## C区24号住居跡 (図版第232・233図、写真図版52-1-4、92)

62-C-19グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.1m、東西約3.2mで、面積は約12.8㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約15cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝と柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は掘り方調査時に南東隅に検出され、長軸約100cm、短軸約95cm、深さ約10cmで検出した。その他に楕円形状のピットを3基ほど検出した。掘り方はコマド付近だけに認められる。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁の中央から南寄り位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約62cm、奥行き約124cm



1. 黒褐色土 C P含む。
2. 黒褐色土 C P・ローム含む。
3. 黒褐色土 C P僅含む。



第232図 C区24号住居跡(1)

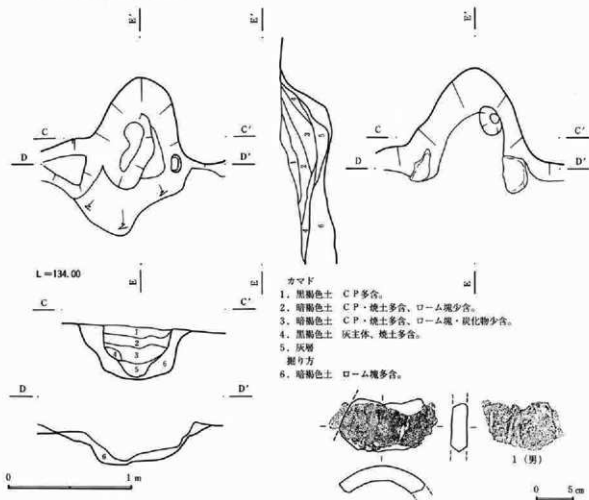
で、煙道部は緩やかに住居外に56cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は不定形に深さ約2~14cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居跡の廃絶時期は遺物から9世紀頃と考えられる。

## C区25号住居跡 (図版第234-237図、写真図版52-5-8、93)

61-C-23グリッドに位置し、重複関係はC区23号住居跡より先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.6m、東西約4.3mで、面積は約16.4㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は約55cmもの深さを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は掘り方調査時にカマドの北側部分の東壁際だけに、幅20cm、深さ2cmの規模で検出されている。貯蔵穴、柱穴は検出されなかったが、掘り方調査時に南東隅部分から極めて浅い掘り込みが検出されており、あるいは貯蔵穴の痕跡かも知れない。掘り方は不規則な形で床面より約4cm程掘り込み、ロームを主体に貼り

第3章 検出された遺構・遺物



床を施している。床面のはほぼ中央に直径65cm、深さ8cmのビットが検出されている。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約53cm、奥行き約135cmで、煙道部は緩やかに住居外に約48cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とし、天井部に土師器の甕を架けている。カマド掘り方は深さ約7～40cm程掘り込んだ後、土で埋め戻しており、袖部分に袖石を立てるための掘り込みが認められる。

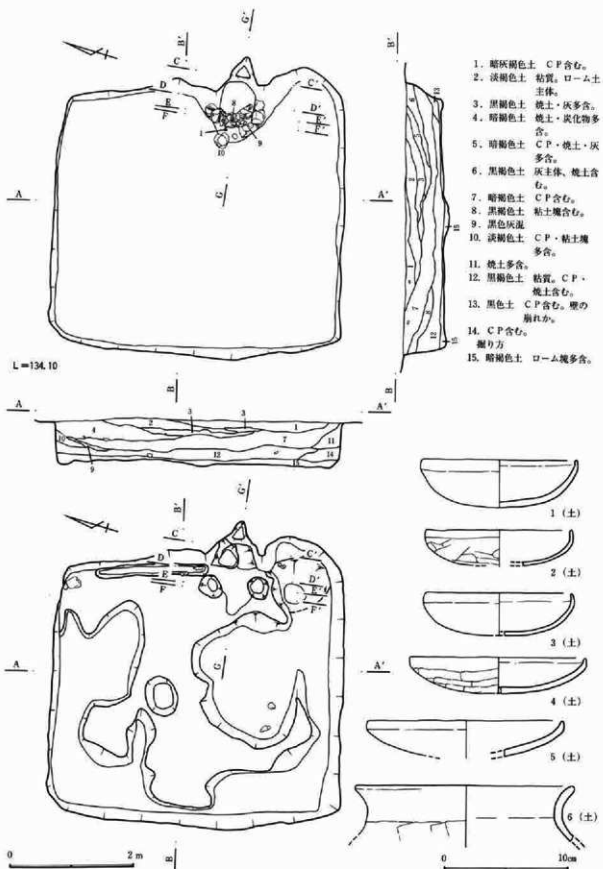
住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**C区26号住居跡** (図版第238・239図、写真図版53-1～3、93)

66-C-35グリッドに位置し、重複関係はC区35号住居跡より先行する。北側半分が調査区域外と現農道部分の調査不可能部分に延びるために、住居跡すべての調査ができず、そのために平面形態や規模が計測できない。床面は堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴の存在は不明であるが、カマド付近の床面に小鍛治跡が検出されている。掘り方は認められない。遺物は小鍛治跡周辺と南東隅部分に僅かに認められる。

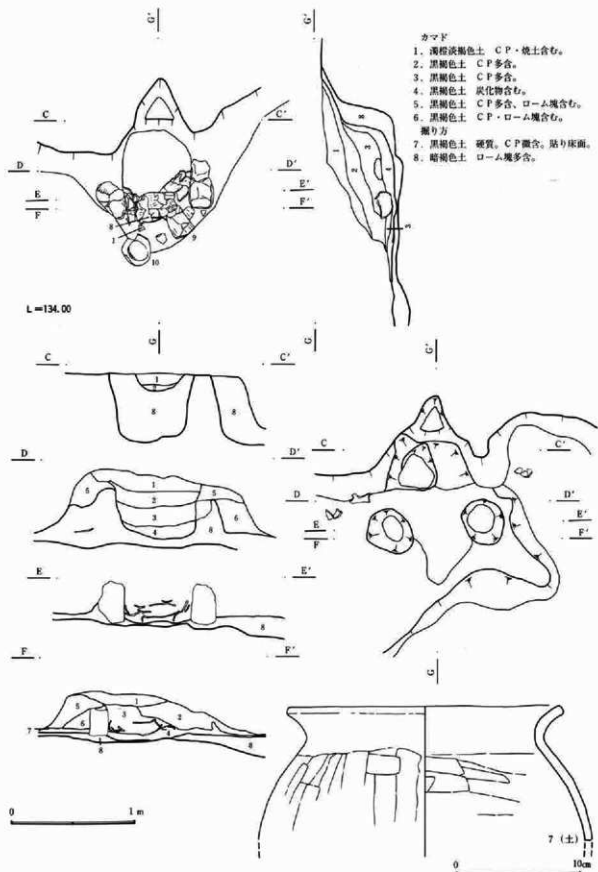
カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約40cm、奥行き約112cmで、煙道部は緩やかに住居外に約88cm程延びる。両袖は残存し、粘質土を構築材とする。天井部がしっかりとして残存しており、正方形の煙り出し部分が認められる。カマド掘り方は深さ約4～14cm程掘り込んだ



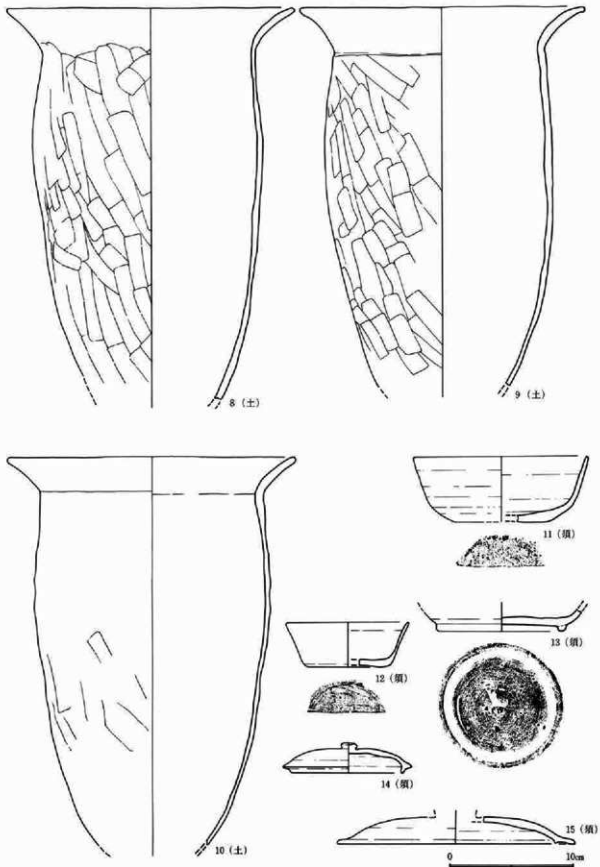


第234図 C区25号住居跡・出土遺物(1)

第3章 検出された遺構・遺物

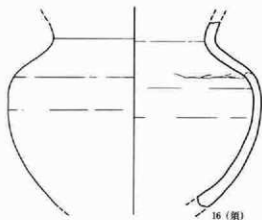


第235図 C区25号住居跡図・出土遺物図(2)



第236図 C区25号住居跡出土遺物図(3)

第3章 検出された遺構・遺物



第237図 C区25号住居跡出土遺物図(4)

後、ロームを主体に埋め戻している。遺物は燃焼部から左袖付近にかけて僅かに出土している。

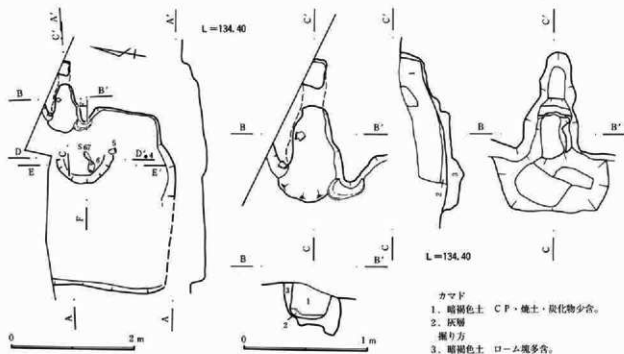
住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**C区27号住居跡** (図版第240図、写真図版53-4・5、94)

58-C-02グリッドに位置し、重複関係はC区29号住居跡より後行し、C区36号住居跡より先行する。西側半分が調査区域外に延びるために、平面形態や規模は不明である。床面は堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、やや垂直に立ち上がる。掘り方は認められない。遺物は北壁際などに僅かに認められる。

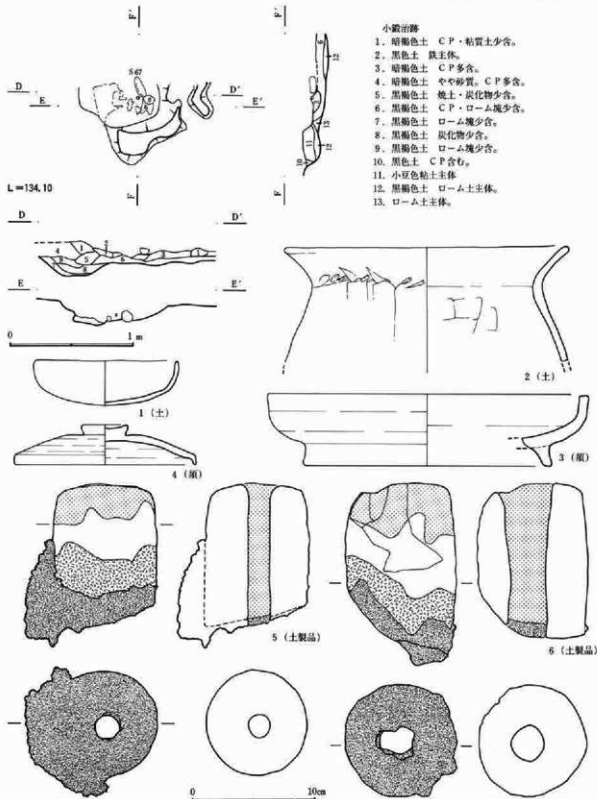
カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約53cm、奥行き約94cmで、煙道部は緩やかに住居外に約50cm程延びる。両袖は残存し、燃焼部に残る石の様子から、石を構築材とし、天井部に石を架けていたと考えられる。カマド掘り方は楕円形に深さ約8cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物は燃焼部に認められる。

住居跡の廃絶時期は遺物から8～9世紀と考えられる。



第238図 C区26号住居跡図(1)

- カマド
1. 暗褐色土 C F・焼土・炭化物少含。
  2. 灰層 掘り方
  3. 暗褐色土 ローム塊多含。



第239図 C区26号住居跡図・出土遺物図(2)

C区28号住居跡 (図版第241・243図、写真図版53-6-8、94)

60-C-02グリッドに位置し、重複関係はC区30号住居跡に先行し、C区32号住居跡より後行する。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北約3.4m、東西約3.2mで、面積は約5.7㎡を測る。壁高は10cmを測り、

床面は堅く平坦である。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は掘り方調査時に南東隅に検出され、長軸60cm、短軸35cm、深さ10cmを測る。掘り方は認められない。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約53cm、奥行き約60cmで、煙道部は緩やかに住居外に約55cm程延びる。両袖は残存し、粘質土を構築材とする。カマド掘り方は深さ約5～10cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻しており、両袖部分に掘り込みが認められる。遺物は燃焼部内から煙出し部分にかけて出土している。

住居跡の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

**C区30号住居跡** (図版第243・244図、写真図版54-3)

61-C-02グリッドに位置し、重複関係はC区28号住居跡に後行するが、C区31号住居跡、C区32号住居跡との関係は

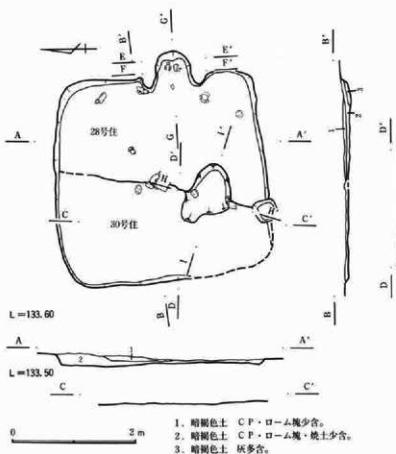


第240図 C区27号住居跡図・出土遺物図

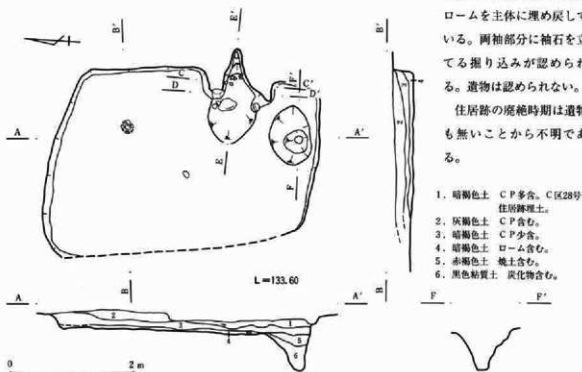
不明である。平面形態は掘り方の様子から長方形を呈し、床面は堅く平坦である。確認時に既に床面が検出されていたために、壁高はほとんど計測できない。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は平面では僅かながら認められるものの、埋没土層の観察ではほとんど不明である。遺物は認められない。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅約45cm、奥行き約82cmで、煙道部は緩やかに住居外に約51cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は深さ約6cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。両袖部分に袖石を立てる掘り込みが認められる。遺物は認められない。

住居跡の廃絶時期は遺物も無いことから不明である。



第241図 C区28・30号住居跡図(1)



第242図 C区32号住居跡図(1)

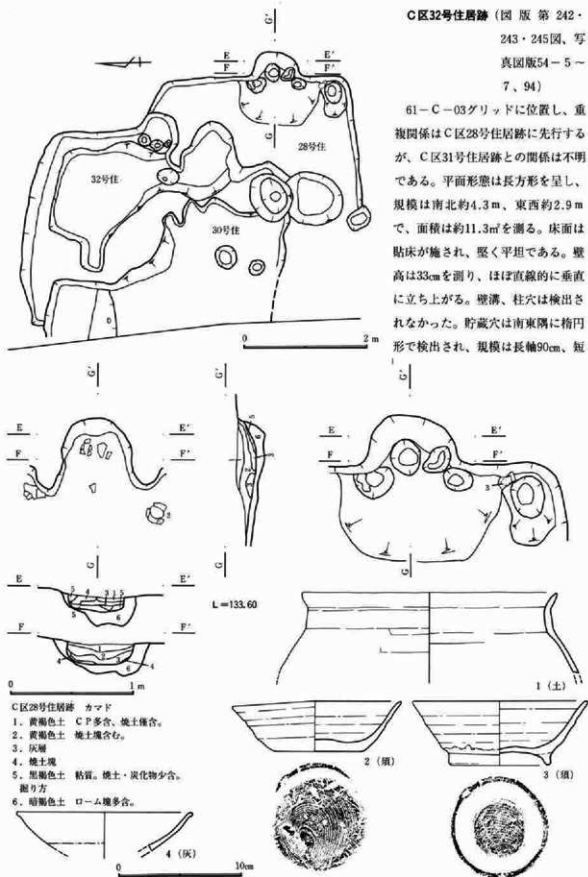
C区32号住居跡 (図版第242・

243・245図、写

真図版54-5-

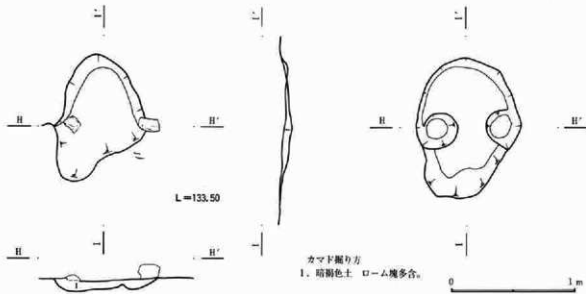
7、94)

61-C-03グリッドに位置し、重複関係はC区28号住居跡に先行するが、C区31号住居跡との関係は不明である。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.3m、東西約2.9mで、面積は約11.3m<sup>2</sup>を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は33cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に楕円形で検出され、規模は長軸90cm、短



第243図 C区28・30・32号住居跡面・出土遺物図(2)

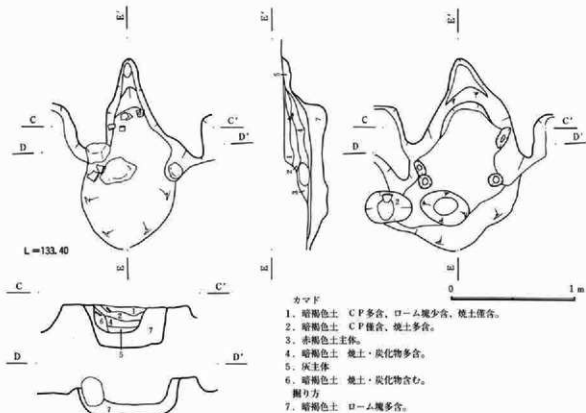




第244図 C区30号住居跡図(2)

軸65cm、深さ70cmを測る。遺物は床面の中央部分やカマド周辺に僅かに認められる。

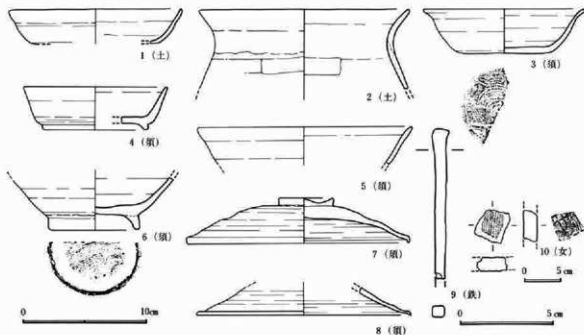
カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約51cm、奥行き約151cmで、煙道部は緩やかに住居外に約74cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は深さ約8～16cm程掘り込んだ後、ルームを主体に埋め戻している。両袖部分などにピットがいくつか認められる。遺物は左袖付近から煙道部分にかけて出土している。



第245図 C区32号住居跡図(3)

カマド

1. 暗褐色土 C P 多含、ルーム埋多含、焼土僅含。
  2. 暗褐色土 C P 僅含、焼土多含。
  3. 赤褐色土主体。
  4. 暗褐色土 焼土・炭化物多含。
  5. 灰主体
  6. 暗褐色土 焼土・炭化物含む。
- 掘り方
7. 暗褐色土 ローム埋多含。



第246図 C区32号住居跡出土遺物図(4)

住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**C区29号住居跡** (図版第247～250図、写真図版54-1・2、94)

56-C-00グリッドに位置し、重複関係はC区27号住居跡に先行し、C区36B号住居跡より後行する。また西壁部分が中群馬用水部分の調査不可能部分に延びているために、住居跡すべての調査ができなかった。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北約670m、東西約665mであるが、面積は計測不可能である。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝はカマド部分を除くすべての壁際から検出されており、おそらくは調査不可能部分にも存在すると考えられる。規模は幅20～30cm、深さ6cmを測り、残存状態は良好である。貯蔵穴は楕円形で南東隅に検出されており、規模は長軸約125cm、短軸約90cm、深さ約55cmを測る。柱穴は6基を検出し、その内の2基が立て替えに伴う柱穴と考えられる。P1は直径約30cm、深さ約50cm、P2は直径約60cm、深さ約60cm、P3は直径約40cm、深さ約50cm、P4は直径約40cm、深さ約50cmを測る。P1の立て替え前の柱穴であるP5は直径約45cm、深さ約40cm、P4の立て替え前の柱穴であるP6は直径約45cm、深さ約45cmを測る。柱穴の間はP1-P2間310cm、P2-P3間330cm、P3-P4間300cm、P4-P1間325cmである。掘り方は床面より約5cm掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は住居の床面のほぼ全域から土師器や須恵器が多数出土している。カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約60cm、奥行き約170cmで、煙道部は緩やかに住居外に約90cm程延びる。両袖は残存し、袖の先端部分は石を構架材とし、その他の部分は粘質土で細長く作り出している。支脚は見当たらないものの、支脚を立てたと考えられるピットが燃焼部のほぼ中央に検出されている。カマド掘り方は深さ約2～6cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物はカマド内には認められない。

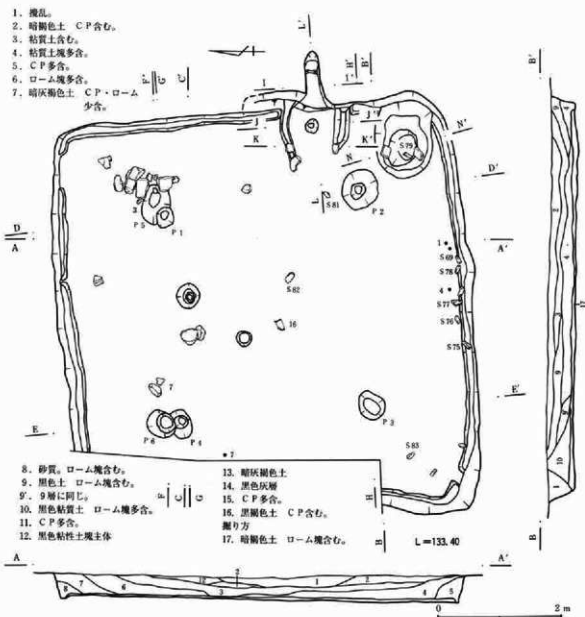
住居跡の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

## C区31号住居跡 (図版第251図、写真図版54-4)

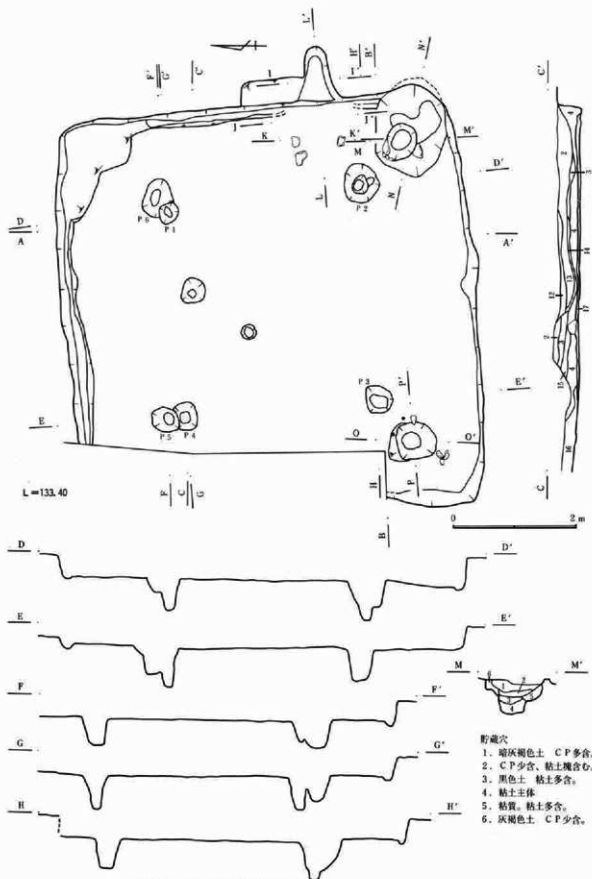
62-C-02グリッドに位置し、重複関係はC区30号住居跡、C区32号住居跡に先行する。西側の半分以上が調査区域外に延びるために、平面形態や規模は不明である。床面は堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は認められない。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約30cm、奥行き約94cmで、煙道部は緩やかに住居外に約58cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は深さ約6-14cm程掘り込んだ後、ルームを主体に埋め戻している。両袖部分に軸石を立てるためのピットが認められる。遺物はほとんど認められない。

住居跡の廃絶時期は遺物が無いことから不明である。

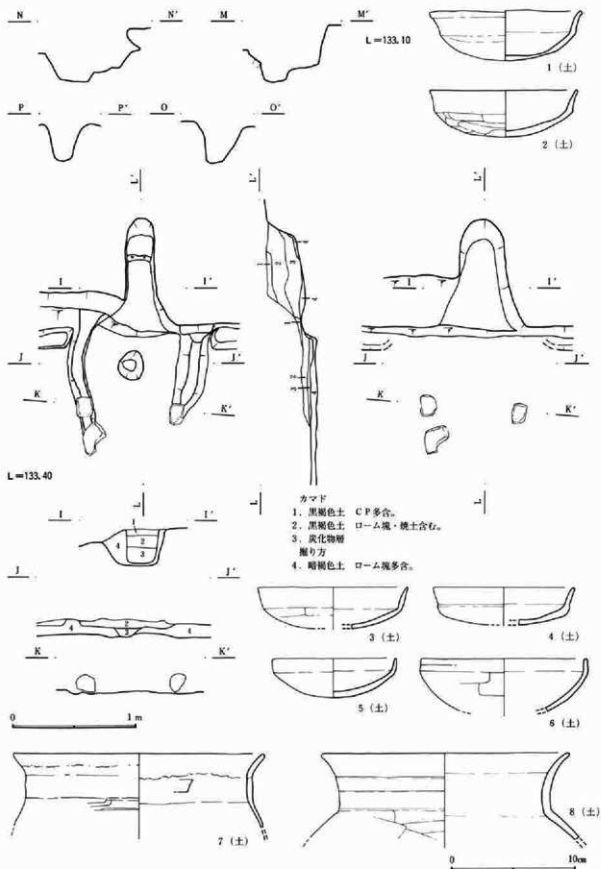


第247図 C区29号住居跡図(1)



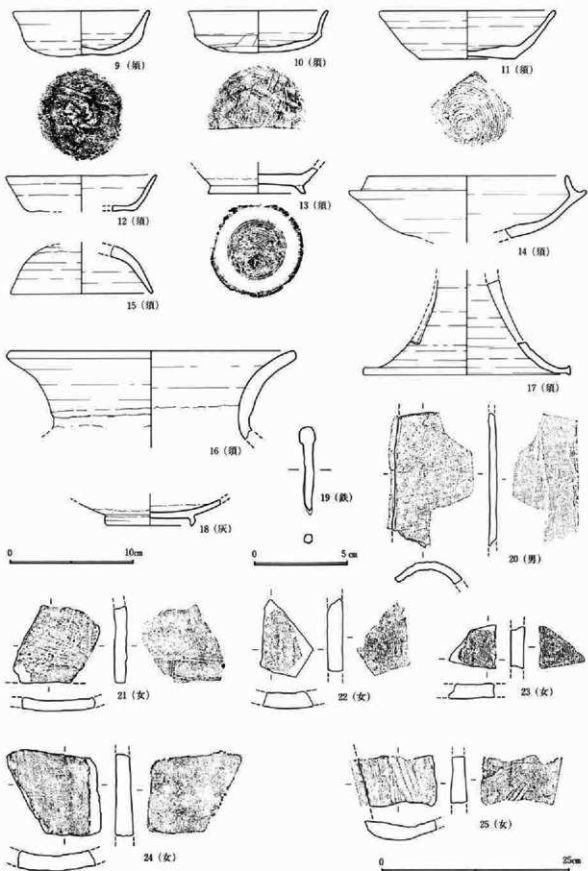
第248図 C区29号住居跡図(2)

第1節 古墳時代後期～平安時代

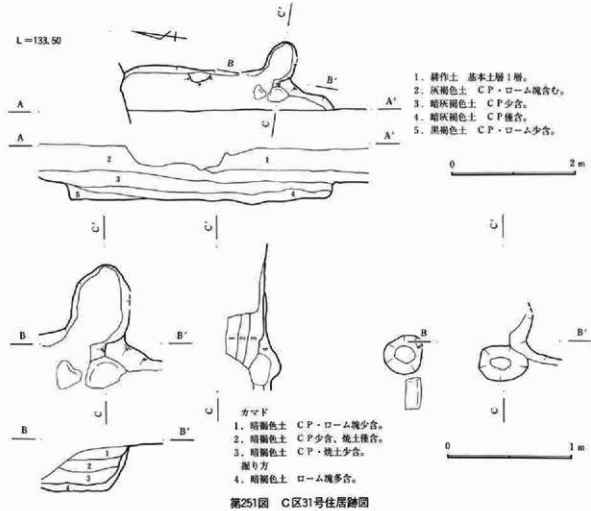


第249図 C区29号住居跡図・出土遺物図(3)

第3章 検出された遺構・遺物



第250図 C区29号住居跡出土遺物図(4)



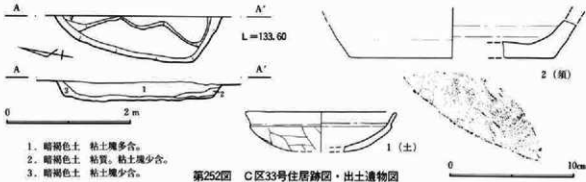
第251図 C区31号住居跡図

C区33号住居跡 (図版第252図)

60-C-03グリッドに位置するが、住居の東側部分の半分以上が中群馬用水部分の調査不可能部分に及びているために、住居跡全体の調査ができなかった。そのために、重複関係や平面形態も不明であり、規模や面積も計測不可能である。床面は堅く平坦である。壁高は約25cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴の存在は不明である。掘り方は認められない。遺物もほとんど認められない。

カマドは東壁に位置していたと考えられるために、調査不可能部分に位置すると考えられる。

住居跡の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

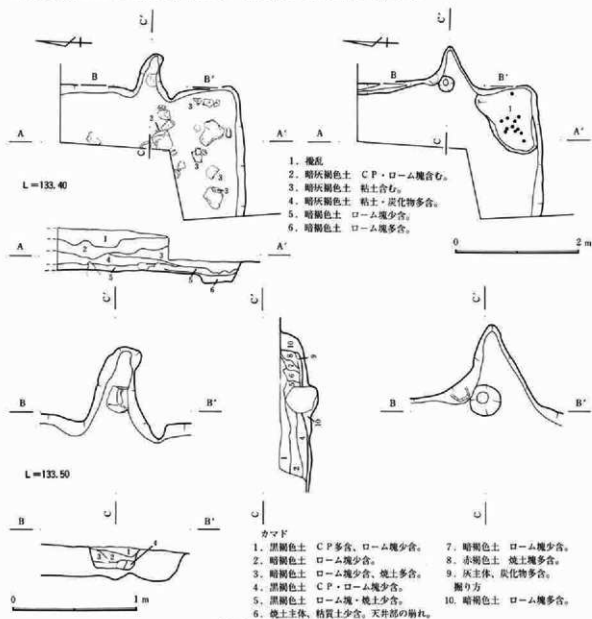


第252図 C区33号住居跡図・出土遺物図

C区34号住居跡 (図版第253-255図、写真図版54-8、55-1・2、94)

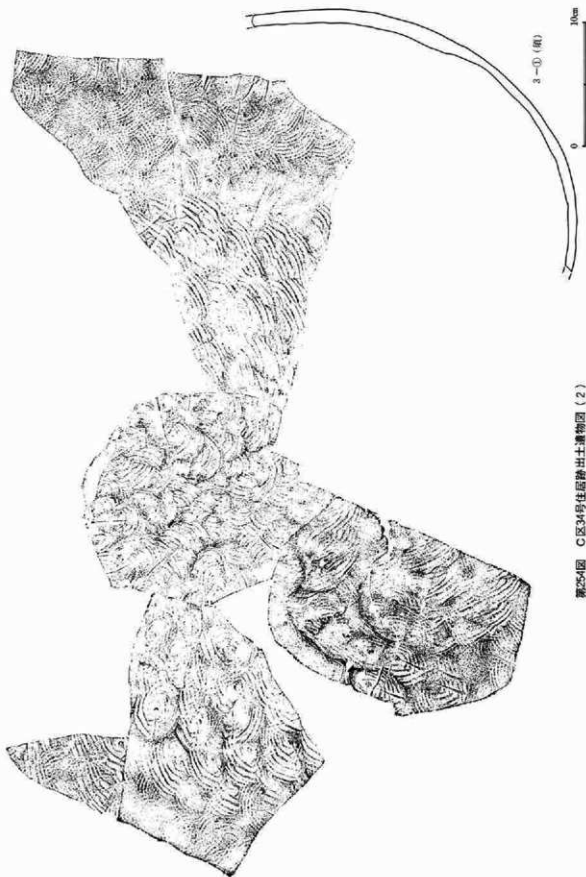
58-C-04グリッドに位置するが、C区33号住居跡などと同様に、住居の西側部分の半分以上が中群馬用水部分の調査不可能部分に伸びているために、住居跡全体の調査ができなかった。そのために重複関係や平面形態は不明であり、規模や面積は計測不可能である。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴の存在は不明である。貯蔵穴は掘り方調査時に南東隅に検出され、楕円形で長軸125cm、短軸70cm、深さ13cmを測る。遺物は南壁周辺に認められる。転蹠が床面に多数認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約30cm、奥行き約74cmで、煙道部は緩やかに住居外に約65cm程延びる。両袖は残存し、粘質土を構築材とする。燃焼部と煙道部を分けるような形で、大きな石が位置しているが、その用途は不明である。カマド掘り方は深さ約8cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

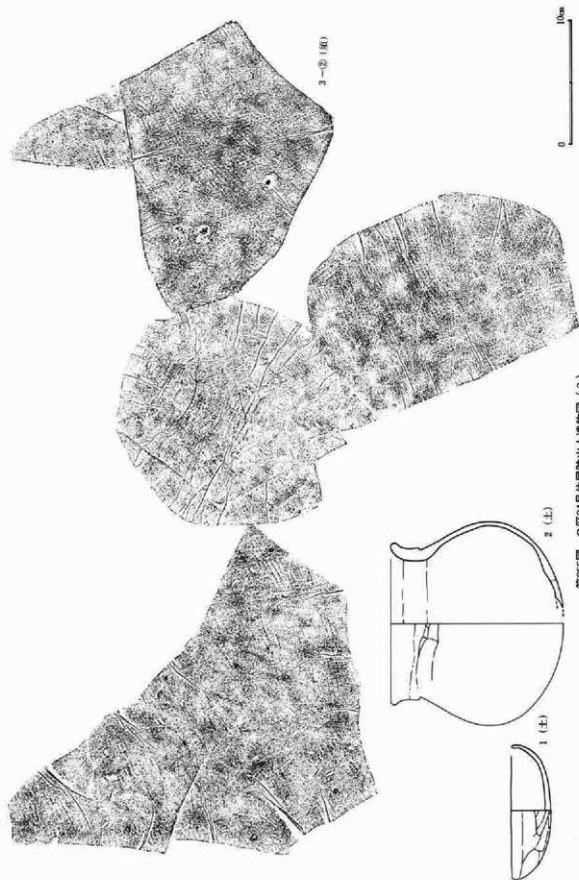


第253図 C区34号住居跡図(1)





第254図 C区34号住居跡出土遺物(2)

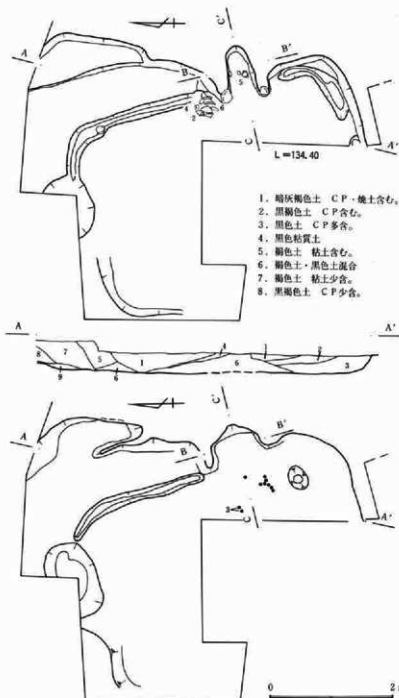


第255図 C区34号住居跡出土遺物(3)

住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**C区35号住居跡**（図版第256・257図、写真図版55-3-6、94）

65-C-33グリッドに位置し、重複関係はC区26号住居跡より後行する。西側半分が調査区域外に延びるために、平面形態は不明であるが、おそらくは長方形と考えられる。ただ、北側に張り出すような部分が認められるが、この住居跡に確実に伴うものなのかどうかは不明である。また規模や面積は計測不可能である。床面は堅く平坦である。壁高は20cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝はカマド部分を除く北東隅から南東隅にかけての東壁際から検出され、幅20cm、深さ5cmを測る。貯蔵穴、柱穴の存在は不明である。その他に大小二つのピットが検出されている。掘り方は認められない。遺物はカマドの左袖付近から燃焼部手前にかけて多数認められる。

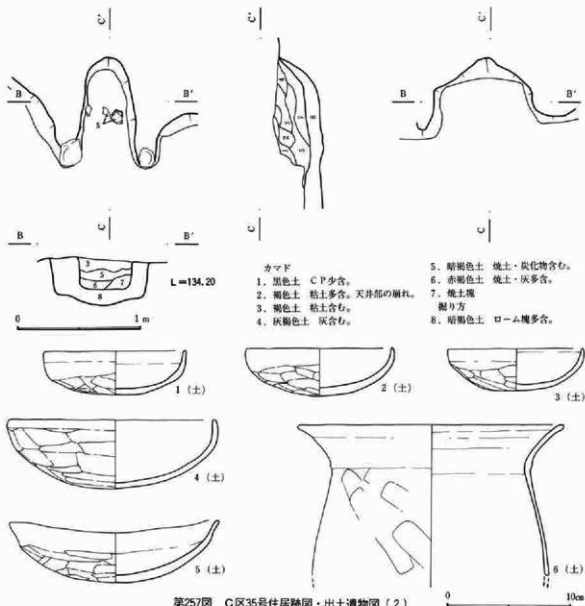


第256図 C区35号住居跡図(1)

他に大小二つのピットが検出されている。掘り方は認められない。遺物はカマドの左袖付近から燃焼部手前にかけて多数認められる。

カマドは東壁の中央から南寄り位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約55cm、奥行き約85cmで、煙道は緩やかに住居外に約75cm程延びる。両袖は残存し、石を構架材とする。カマド掘り方は長方形に深さ約10cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。



第257図 C区35号住居跡図・出土遺物図(2)

**C区36A号住居跡** (図版第258図、写真図版94)

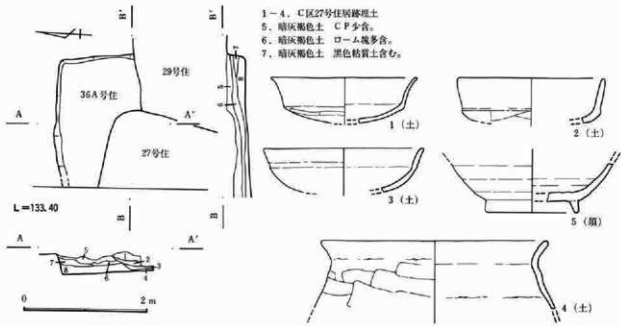
57-C-03グリッドに位置し、重複関係はC区27号住居跡、C区29号住居跡より先行する。住居の南側をC区27号住居跡とC区29号住居跡に壊され、西側は中群馬用水の調査不可能部分に延びているために、平面形態は不明で、規模や面積は計測不可能である。床面は堅く平坦である。壁高は20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴の存在は不明である。掘り方は認められない。遺物はほとんど認められない。

カマドは東壁に存在していたと考えられるために、壊されていると考えられる。

住居跡の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

**C区36B号住居跡** (図版第259・260図、写真図版55・7・8、56-1・2、94)

43-C-02グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.0m、東西約3.7mで、面積は約11.1㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は僅かに約10cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴はカマドの右袖のすぐ南側に検出され、規模は楕



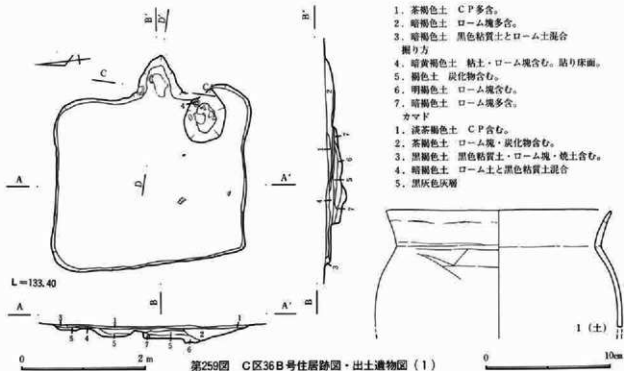
- 1-4. C区27号住居跡埋土  
 5. 暗灰褐色土 CP少含。  
 6. 暗灰褐色土 ローム塊多含。  
 7. 暗灰褐色土 黒色粘質土含む。

第258図 C区36A号住居跡図・出土遺物図

円形で長軸約90cm、短軸約65cm、深さ約20cmを測る。掘り方は床面より約5～15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は貯蔵穴内に認められる。

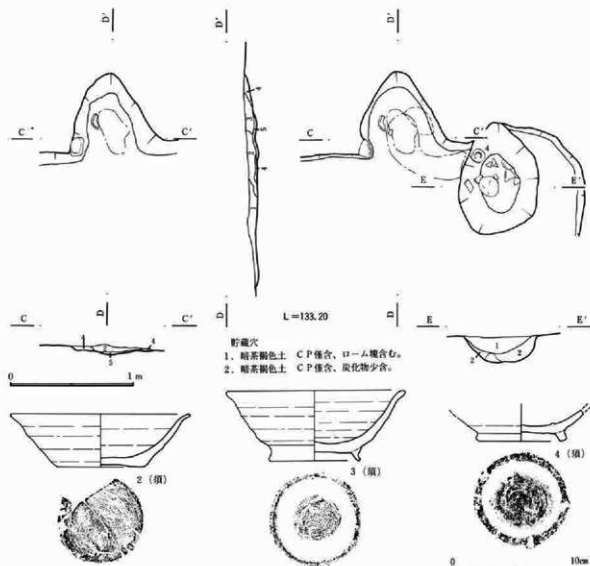
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約55cm、奥行き約70cmで、煙道部は緩やかに住居外に約60cm程延びる。両袖は残存し、左袖は石を構築材とする。カマド掘り方はほとんど認められない。遺物は燃焼部内に僅かに認められる。

住居跡の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。



1. 茶褐色土 CP多含。  
 2. 暗褐色土 ローム塊多含。  
 3. 暗褐色土 黒色粘質土とローム土混合  
 掘り方  
 4. 暗黄褐色土 粘土・ローム塊含む。貼り床面。  
 5. 褐色土 炭化物含む。  
 6. 明褐色土 ローム塊多含。  
 7. 暗褐色土 ローム塊多含。  
 カマド  
 1. 淡茶褐色土 CP含む。  
 2. 茶褐色土 ローム塊・炭化物含む。  
 3. 黒褐色土 黒色粘質土・ローム塊・焼土含む。  
 4. 暗褐色土 ローム土と黒色粘質土混合  
 5. 黒灰色灰層

第259図 C区36B号住居跡図・出土遺物図(1)



第260図 C区36B号住居跡団・出土遺物図(2)

**C区37号住居跡** (図版第261～263図、写真図版56-3、95)

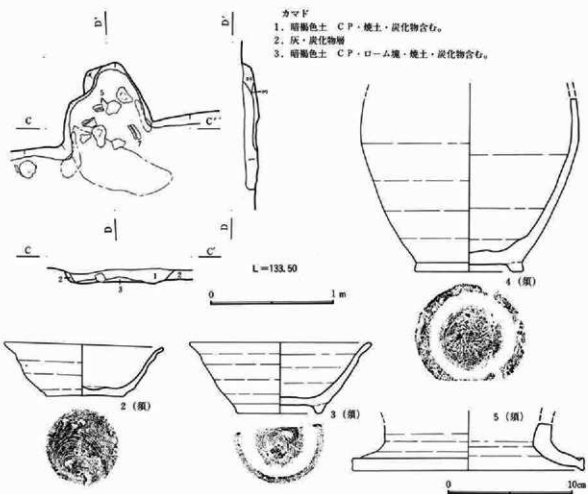
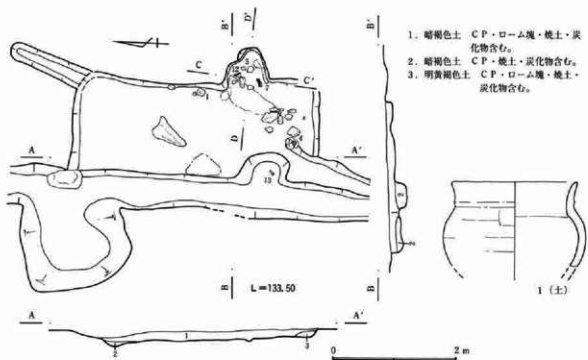
51-C-02グリッドに位置し、重複関係はC区7号溝に先行する。平面形態は長方形を呈するが、西壁部分をC区7号溝に壊されているために、規模や面積は計測不可能である。床面は堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴の存在は不明である。掘り方は認められない。遺物はカマドから南東隅にかけて認められる。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅約70cm、奥行き約62cmで、煙道部は緩やかに住居外に約53cm程延びる。両袖は不明確である。カマド掘り方は認められない。遺物は燃焼部内に多数認められる。

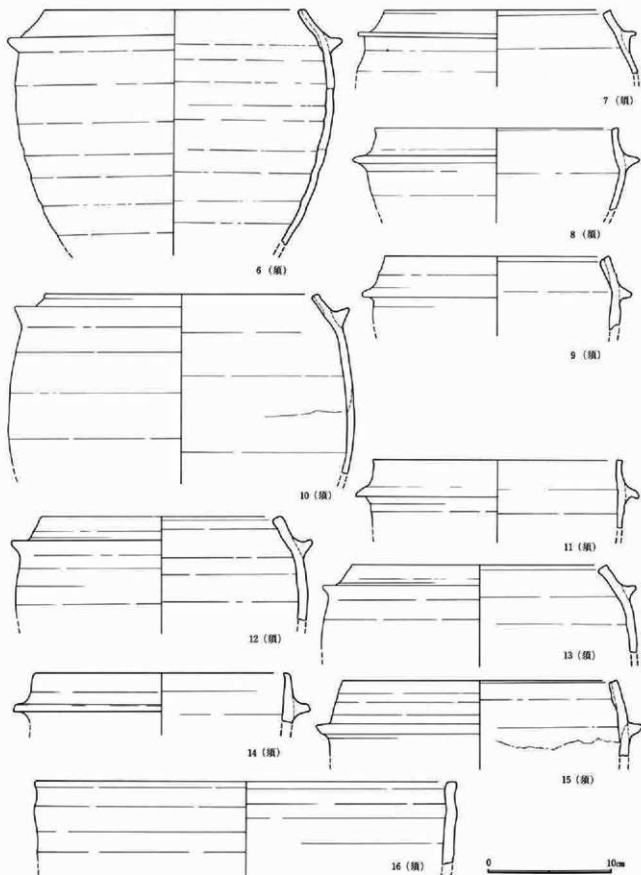
住居跡の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

**C区38号住居跡** (図版第264・265図、写真図版56-4、95)

54-C-04グリッドに位置し、重複関係はC区6号溝に先行し、東壁の一部が壊されている。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.3m、東西約2.6mで、面積は約8.6㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は10cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は掘り方調査



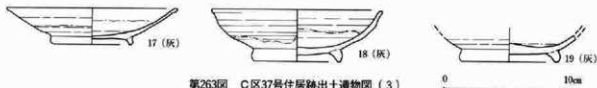
第261図 C区37号住居跡・出土遺物図(1)



第262図 C区37号住居跡出土遺物図(2)



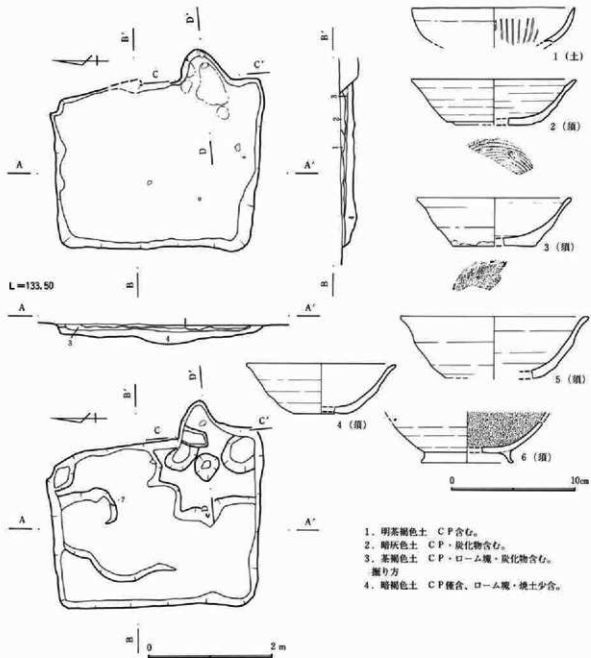
第1節 古墳時代後期～平安時代



第263図 C区37号住居跡出土遺物図(3)

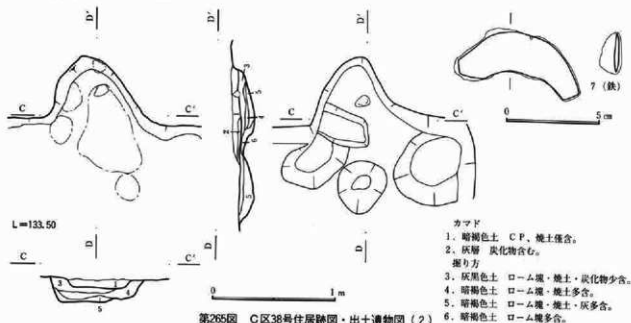
時に検出され、規模は円形で直径70cm、深さ15cmを測る。掘り方は床面より約8-20cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は散漫に認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃烧部幅約70cm、奥行き約56cmで、煙道部は緩やかに住居外に約50cm程延びる。両袖は不明確である。カマド掘り方は深さ約12cm程掘り込んだ後、ロームや焼土、灰で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。



1. 明茶褐色土・CP含む。
  2. 暗灰色土・CP・炭化物含む。
  3. 茶褐色土・CP・ローム塊・炭化物含む。
- 掘り方
4. 暗褐色土・CP塊含、ローム塊・焼土少含。

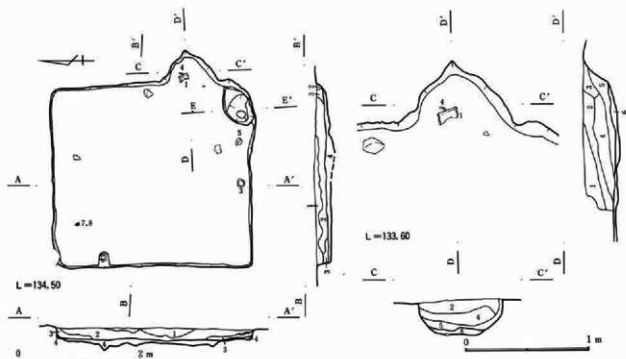
第264図 C区38号住居跡図・出土遺物図(1)



住居跡の廃絶時期は遺物から9～10世紀と考えられる。

C区39号住居跡 (図版第266・267図、写真図版56-5、95)

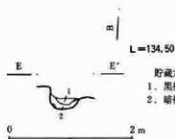
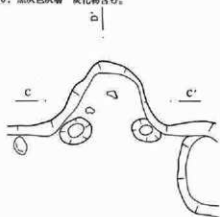
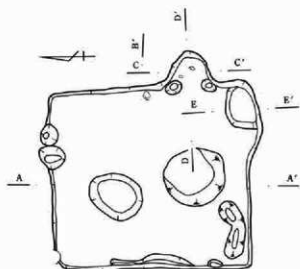
55-C-06グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.2m、東西約2.9mで、面積は約9.28㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、ほぼ直線的に立ち上がる壁溝は掘り方調査時に西壁際に検出され、規模は幅20cmであるが、深さは僅かである。貯蔵穴は南東隅に検出され、規模は楕円形で長軸約70cm、短軸35cm、深さ約25cmを測る。柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より約5～15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。出土遺物はカマド周辺から南壁際にかけて認められる。



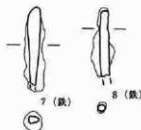
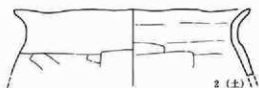
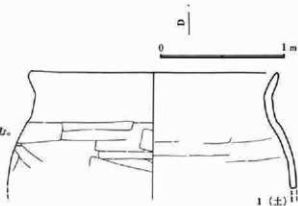
1. 明茶褐色土 C P・焼土・炭化物含む。
2. 茶褐色土 C P・ローム塊・焼土・炭化物含む。
3. 茶褐色土 C P・焼土・炭化物含む。
- 掘り方
4. 暗茶褐色土 C P僅含、ローム塊・灰・炭化物少含。

カマド

1. 淡茶褐色土 C P含む。
2. 茶褐色土 C P含む。
3. 暗茶褐色土 ローム塊含む。
4. 暗褐色土 C P・ローム塊含む。
5. 黒褐色土 ローム塊・焼土・炭化物多含。
6. 黒灰色灰層 炭化物含む。



- 貯蔵穴
1. 黒褐色土 C P、炭化物含む。
  2. 暗褐色土 灰含む。



第267図 C区39号住居跡図・出土遺物図(2)

第3章 検出された遺構・遺物

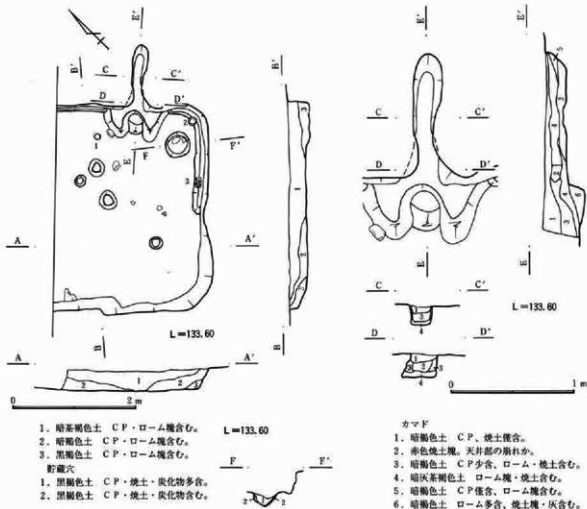
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約62cm、奥行き約55cmで、煙道部は緩やかに住居外に約48cm程延びる。両袖は不明確であるが、掘り方調査時に袖石を立てたと考えられるピットが検出されている。カマド掘り方は認められない。遺物は燃焼部に認められる。

住居跡の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

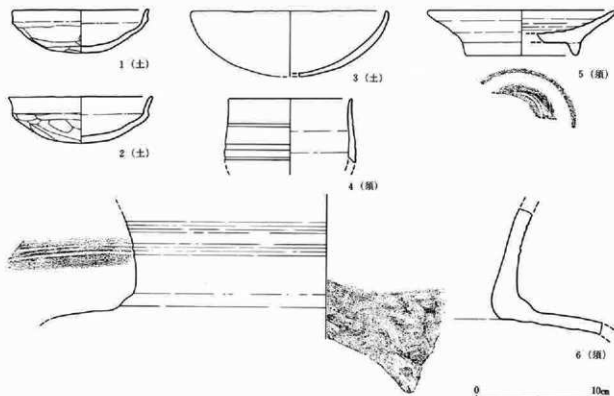
C区40号住居跡 (図版第268・269図、写真図版56-6-8、57-1、95)

51-C-11グリッドに位置し、重複関係は無いが、北側部分が中群島用水部分の調査不可能部分に延びているために、住居跡全体の調査ができなかった。そのために重複関係や平面形態は不明であり、規模や面積は計測不可能である。床面は堅く平坦である。壁高は25-30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は南東隅部分から南壁のほぼ中央にかけて検出され、規模は幅20cm、深さ3-5cmを測る。貯蔵穴は南東隅に円形で検出され、規模は直径約40cm、深さ20cmを測る。明確な柱穴は検出されなかったが、小さなピットが4基検出されており、あるいはこの中のどれかが相当するのかもしれない。掘り方は認められない。遺物は貯蔵穴内やカマド周辺から南壁際にかけて認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約21cm、奥行き約150cmで、煙道部は緩やかに住居外に約100cm程延びる。両袖は残存し、ロームを主体とする土を構築材とする。天井部が僅かに残存している。カマド掘り方は不明である。遺物はほとんど認められない。



第268図 C区40号住居跡図(1)



第269図 C区40号住居跡出土遺物図(2)

住居跡の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

#### C区41号住居跡(図版第270図、写真図版57-2・3、95)

47-C-10グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北3.6m、東西3.1mで、面積は約11.3㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は約10cmを測り、やや垂直に立ち上がる。貯蔵穴は掘り方調査時に南東隅に正方形で検出され、規模は一辺約40cm、深さ20cmを測る。壁溝、柱穴は検出されなかったが、掘り方に大小の掘り込みが認められることから、いずれかがそれに相当するかもしれない。掘り方は部分的に床面より掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド付近から南壁際にかけて僅かに認められる。

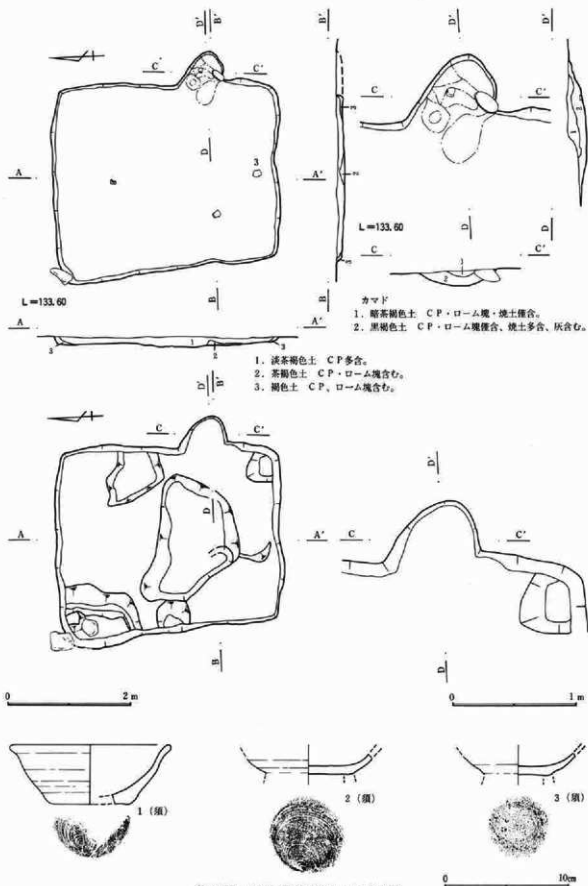
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約50cm、奥行き54cmで、煙道部は緩やかに住居外に約50cm程延びる。右袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方はほとんど認められない。遺物もほとんど認められない。

住居跡の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

#### C区42号住居跡(図版第271・272図、写真図版57-4～6)

39-C-21グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北4.9m、東西4.1mで、面積は約18.7㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は45cmものを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は掘り方調査時に西壁から南壁際にかけて検出され、規模は幅15cm、深さ3～8cmを測る。西壁側には2条検出されていることから、あるいは住居の拡張の可能性も考えられる。貯蔵穴も掘り方調査時に南東隅に楕円形で検出され、規模は長軸約95cm、短軸65cm、深さ約10cmを測る。柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より約15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はほとんど認められない。

第3章 検出された遺構・遺物



第270図 C区41号住居跡図・出土遺物図

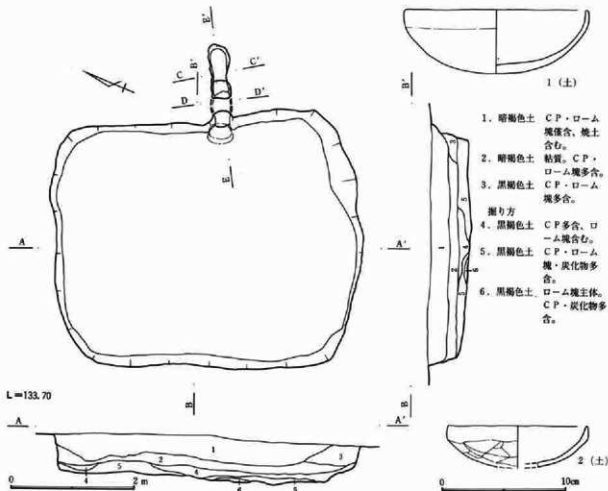
カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅32cm、奥行き136cmで、煙道部は緩やかに住居外に119cm程延びる。両袖は不明確であるが、天井部が燃焼部から煙道部にかけて残存する。カマド掘り方は深さ約10cm程掘り込んだ後、焼土を主体に埋め戻している。あるいは初期の段階の燃焼面なのかもしれない。遺物はほとんど認められない。

住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**C区43号住居跡** (図版第273～275図、写真図版57・7・8、95)

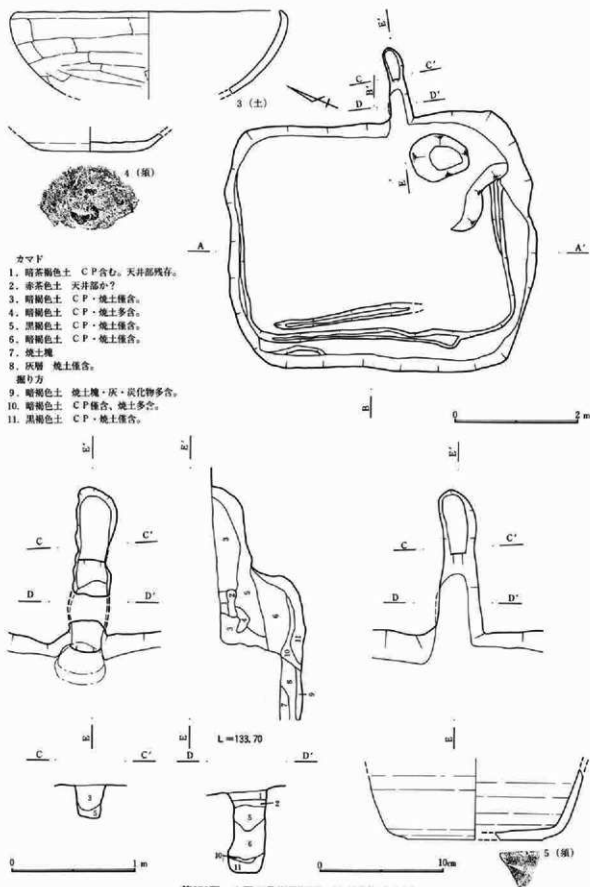
39-C-17グリッドに位置し、調査時点では重複関係は無いとされていたが、2基のカマドの存在から2軒か、あるいは住居の拡張の可能性も考えられる。平面形態は長方形を呈し、規模は南北4.8m、東西3.4mで、面積は約17.1㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかったが、床面、及び掘り方面に大小の掘り込みが認められることから、いずれかがそれに相当するかもしれない。貯蔵穴も掘り方調査時に南東隅に楕円形で検出され、規模は長軸約70cm、短軸約50cm、深さ約14cmを測る。掘り方は床面より約10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド付近から住居の中央部にかけて認められる。

第1カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約68cm、奥行き約56cmで、煙道部は緩やかに住居外に約45cm程延びる。両袖は不明確である。カマド掘り方は半円形に深さ約10cm程掘り込んだ後、ロームと焼土を主体に埋め戻している。遺物は燃焼部内に僅かに認められる。



第271図 C区42号住居跡図・出土遺物図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



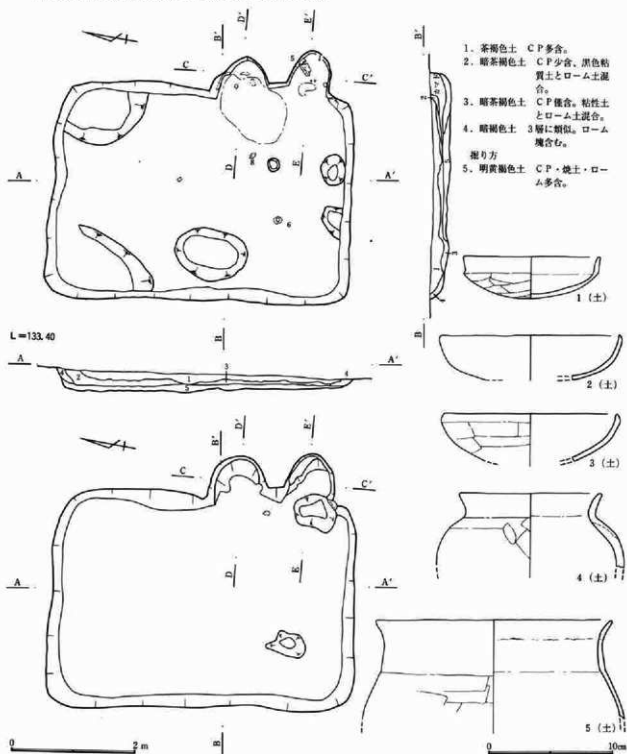
第272図 C区42号住居跡図・出土遺物図(2)



第2カマドは南東隅に位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約58cm、奥行き約64cmで、煙道部は緩やかに住居外に約54cm程延びる。両袖は不明確である。遺物は燃焼部内に僅かに認められる。

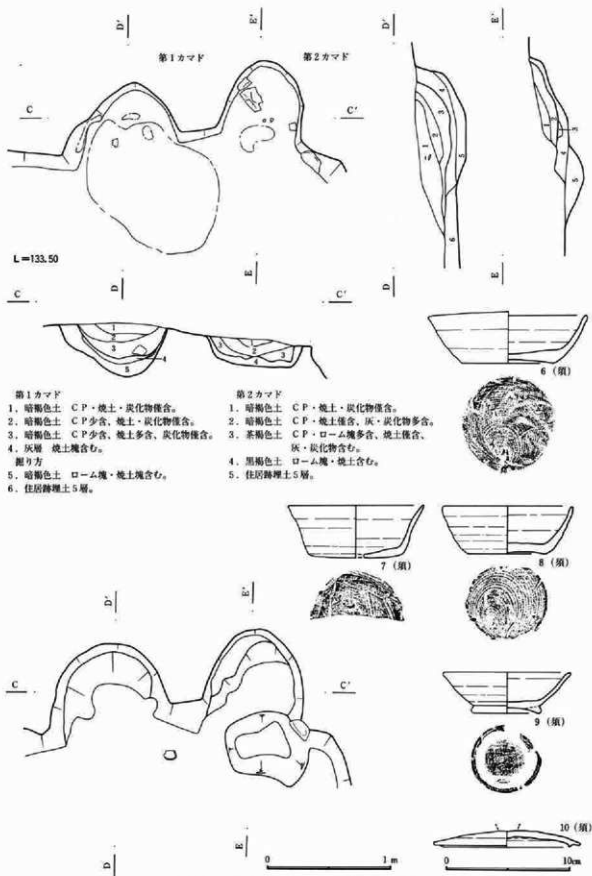
第1カマドと第2カマドとの前後関係は、第2カマドが第1カマドに伴う貯蔵穴を埋めていることなどから新しいと考えられる。

住居跡の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

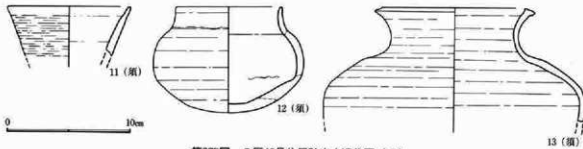


第273図 C区43号住居跡面・出土遺物図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第274図 C区43号住居跡図・出土遺物図(2)



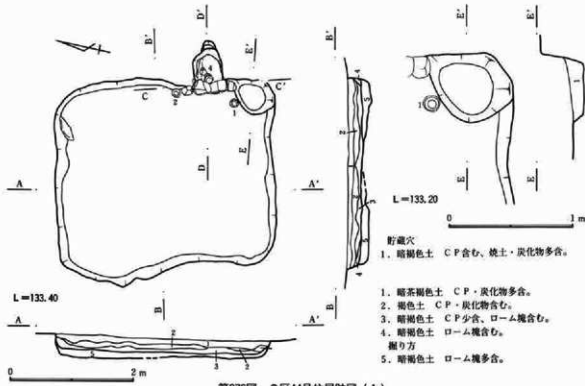
第275図 C区43号住居跡出土遺物図(3)

C区44号住居跡 (図版第276・277図、写真図版58-1-5、95)

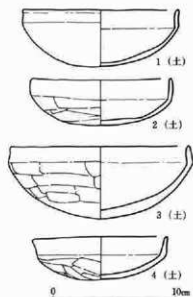
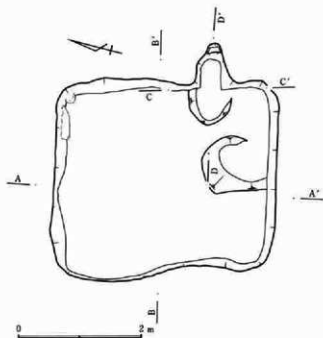
44-C-04グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北3.5m、東西3.2mで、面積は約10.6㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は20-25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に楕円形で検出され、規模は長軸約70cm、短軸55cm、深さ10cmを測る。掘り方は床面より12cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド周辺に認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約58cm、奥行き約82cmで、煙道部は緩やかに住居外に約66cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。両袖から天井部に架ける形で真ん中から二つに折れた石が検出されている。カマド掘り方は深さ8cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物は燃焼部から左袖付近を中心に出土している。

住居跡の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

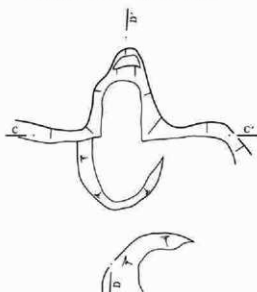
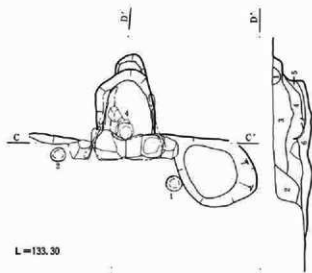


第276図 C区44号住居跡図(1)



カマド

1. 明褐色土 ローム塊多含。
2. 暗褐色土 C P 多含、焼土・炭化物少含。



3. 暗褐色土 C P・焼土・炭化物少含。
4. 暗褐色土 C P 少含、ローム多含、焼土・炭化物様含。
5. 暗茶褐色土 ローム塊、焼土塊、黒色灰多含。
6. 暗褐色土 ローム塊多含。

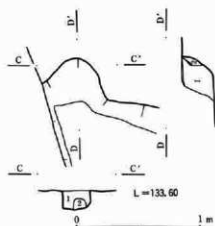
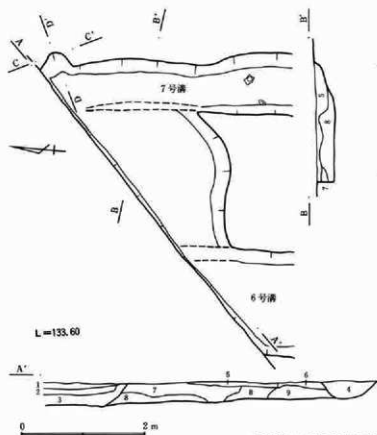
C区45号住居跡 (図版第278図)

第277図 C区44号住居跡図・出土遺物図(2)

53-C-10グリッドに位置し、重複関係はC区6号溝、C区7号溝に先行する。北側が中群馬用水により壊されており、平面形態や規模は不明である。床面は堅く平坦である。南壁だけが残存し、壁高は約25～30cmを測る。壁溝、貯蔵穴、柱穴の存在は不明である。掘り方は認められない。遺物は認められない。

カマドは東壁に位置し、遺存状態は良好でない。規模は不明な部分が多く、煙道部がほぼ垂直に住居外に28cm程延びる。両袖は不明確である。カマド掘り方は認められない。遺物はほとんど認められない。

住居跡の廃絶時期は遺物が無いことから不明である。

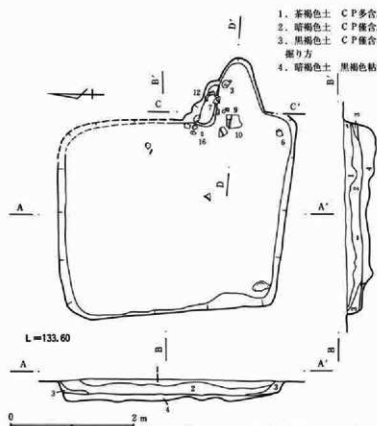


カマド

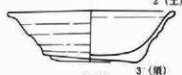
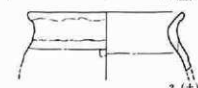
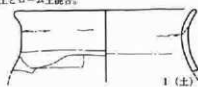
1. 暗褐色土 C P・ローム塊・焼土塊多含。
2. ローム塊

- 1-3. C区6号溝埋土
4. C区7号溝埋土
5. 茶褐色土 C P含む、ローム塊含。
6. 茶褐色土 C P含む、ローム塊多含。
7. 淡茶褐色土 C P含む、ローム塊多含。
8. 暗茶褐色土 ローム塊多含、焼土塊含。
9. 暗茶褐色土 C P・ローム塊多含、焼土塊含。

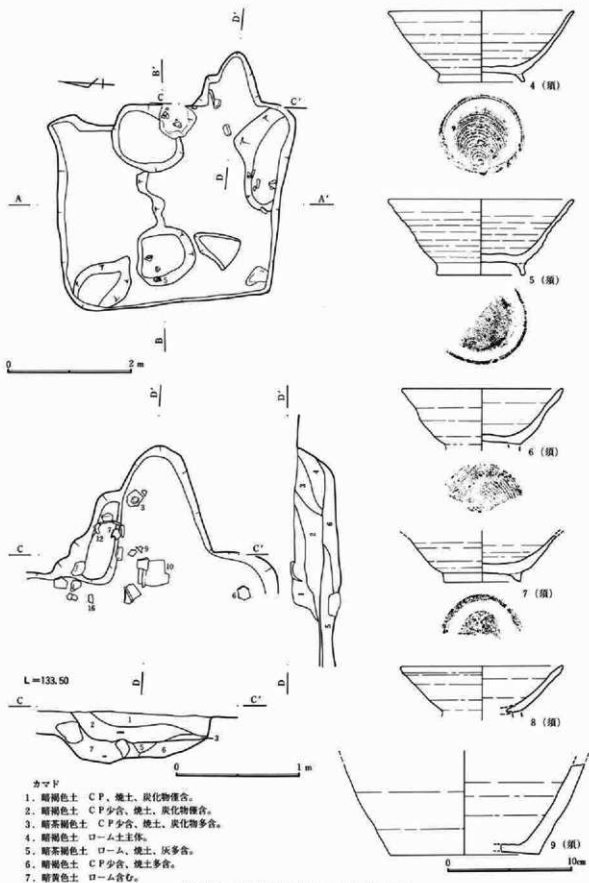
第278図 C区45号住居跡図



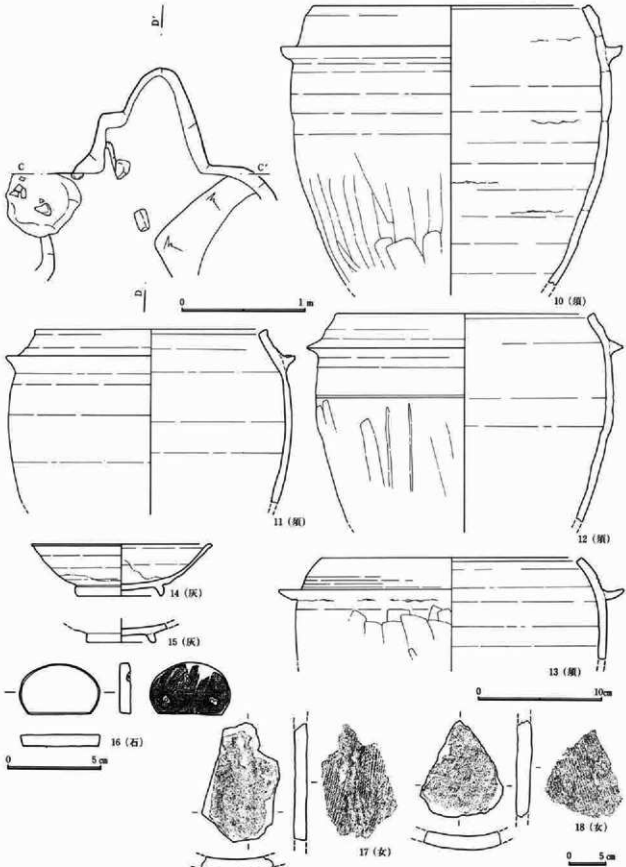
1. 茶褐色土 C P多含。
2. 暗褐色土 C P僅含。
3. 黒褐色土 C P僅含、黒褐色粘質土混含。
4. 暗褐色土 黒褐色粘質土とローム土混含。



第279図 C区46号住居跡図・出土遺物図(1)



第280図 C区46号住居跡面・出土遺物図(2)



第281図 C区46号住居跡図・出土遺物図(3)

C区46号住居跡 (図版第279-281図、写真図版58-6・7、95、96)

49-C-02グリッドに位置し、重複関係はC区15号溝に先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北3.6m、東西3.1mで、面積は約12.7m<sup>2</sup>を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかったが、掘り方面から4基の大型の掘り込みが検出されており、南壁に接する不定形の掘り込みがあるいは貯蔵穴に想定されるかもしれない。掘り方は床面より10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド周辺に多数認められる。

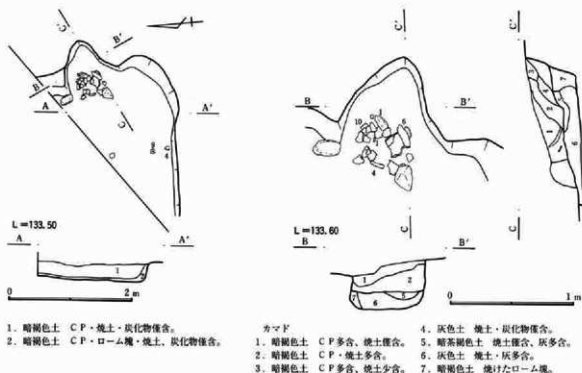
カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約71cm、奥行き約100cmで、煙道部は緩やかに住居外に約90cm程延びる。両袖は不明確であるが、左袖部分に段を有する。カマド掘り方は深さ約18cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物は燃焼部から左袖付近を中心に多数出土している。

住居跡の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

C区47号住居跡 (図版第282・283図、写真図版58-8、59-1・2、96)

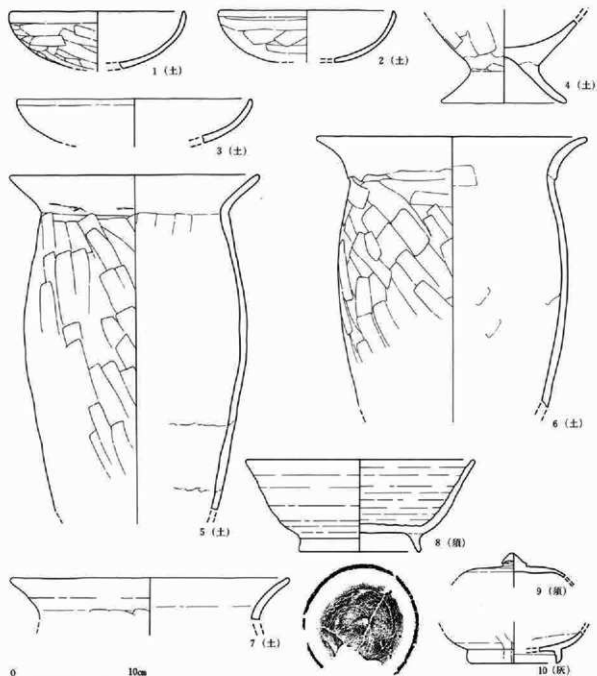
40-C-24グリッドに位置するが、中群馬用水により北壁と西壁を含む北側部分が壊されているために、重複関係は不明である。平面形態や規模も計測不可能である。床面は堅く平坦である。壁高は25cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴の存在は不明である。掘り方は認められない。遺物はカマド付近から南壁際にかけて認められる。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約74cm、奥行き約79cmで、煙道部は緩やかに住居外に約58cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は認められない。遺物は燃焼部内に多数認められる。



第282図 C区47号住居跡図(1)





第283図 C区47号住居跡出土遺物(2)

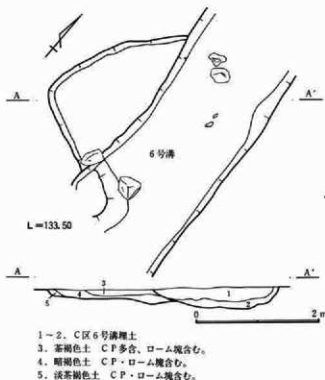
住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**C区48号住居跡** (図版第284図)

54-C-07グリッドに位置し、重複関係はC区6号溝に先行する。C区6号溝に住居の東側の半分以上を壊されているために、平面形態や規模は不明である。床面は堅く平坦である。壁高は10cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴の存在は不明である。掘り方は認められない。遺物も認められない。

カマドは東壁に位置していたと考えられることから、壊されていると考えられる。

住居跡の廃絶時期は遺物が無いことから不明である。



第284図 C区48号住居跡図

カマドは西壁の南西隅に位置するとされているが、焼土は確認されているものの遺存状態は悪く、カマドとしての構造も不明確であることから、カマドでないことも考えられる。遺物はほとんど認められない。

住居跡の廃絶時期は遺物から少なくとも1軒は10世紀と考えられる。

**C区50号住居跡** (図版第288図、写真図版59-4・5、96)

58-C-13グリッドに位置し、中群馬用水に南側が壊されているために、重複関係や平面形態は不明であり、規模や面積は計測不可能である。床面は堅く平坦である。壁高は15-20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は北壁部分に検出されており、その規模は幅20cmを測る。貯蔵穴と柱穴の存在は不明である。掘り方は認められない。遺物は認められず、転覆が床面に点在している。

カマドは東壁に位置するために、壊されていると考えられる。

住居跡の廃絶時期は遺物が無いことから不明である。

**C区51号住居跡** (図版第289-291図、写真図版59-6-8、97)

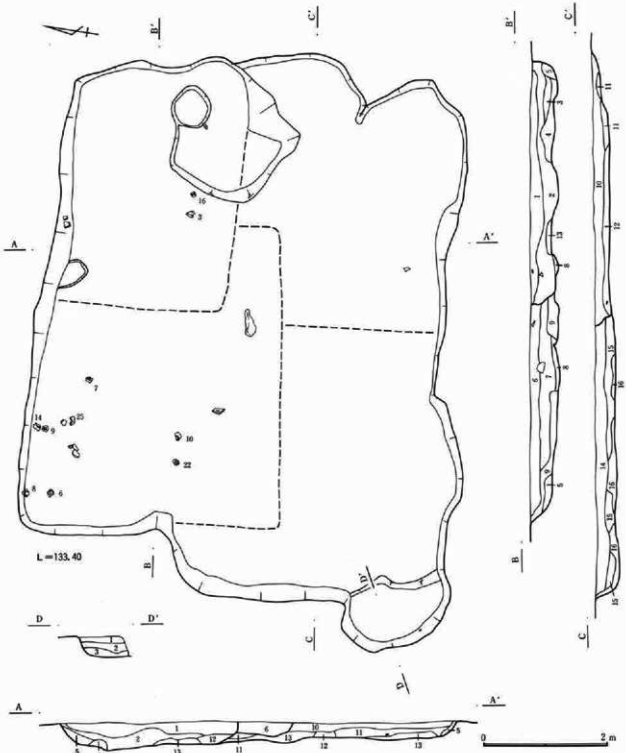
47-C-25グリッドに位置し、重複関係はC区52号住居跡より後行する。中群馬用水部分の工事に際して掘割された溝に一部を壊されているが、平面形態は長方形を呈し、規模は南北3.8m、東西3.4mで、面積は約13.8㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に楕円形で検出され、規模は長軸90cm、短軸65cm、深さ20cmを測る。掘り方は認められない。遺物はカマド付近に僅かに出土している。

カマドは東壁の中央からやや南側寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃烧部幅約70cm、奥行き約122cmで、煙道部は緩やかに住居外に約57cm程延びる。両袖は不明確である。カマド掘り方は認められない。遺物は燃烧部内から僅かに出土している。

住居跡の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

**C区49号住居跡** (図版第285-287図、写真図版59-3、96)

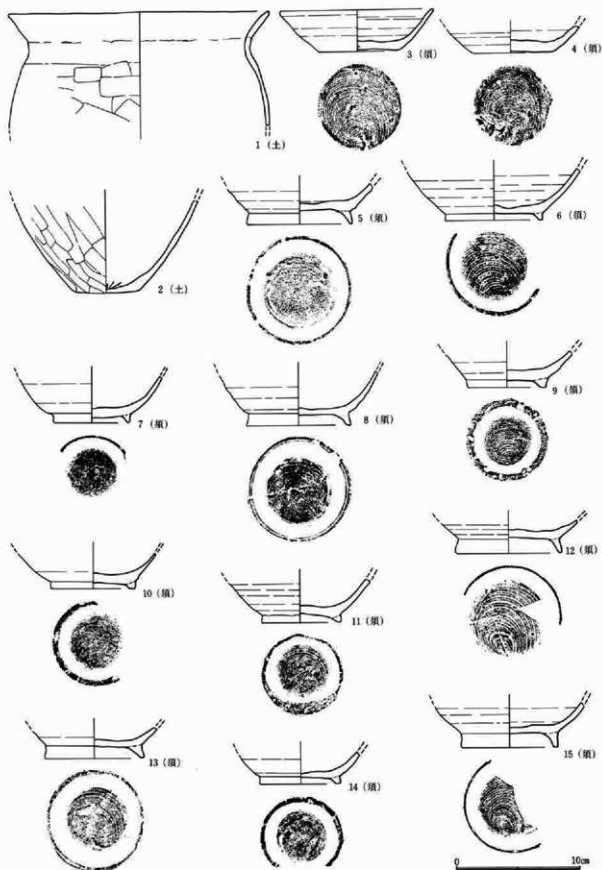
40-C-07グリッドに位置するが、西壁の南側部分が張り出す形であり、本遺跡から検出されている住居跡としても、かなりの大きさであることから、調査時点では重複関係が少なくとも4軒ほどある住居跡の集まりであると考えられ、その切り合い関係とそれぞれの壁の推定もなされている。だが、床面から出土する遺物が少ないために、それらの前後関係を追証することがほとんど不可能である。平面形態はほとんどの住居が長方形を呈するが、前述した理由から規模や面積は計測不可能である。床面は堅く平坦である。壁高は約20cmを測り、やや垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は認められない。遺物は南東隅に集中して認められる。



L=133.40

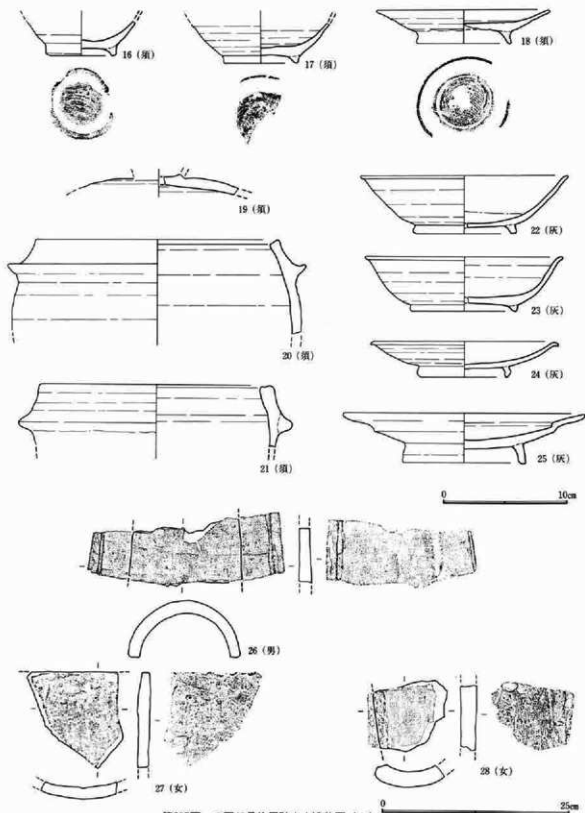
- |                          |                          |                                 |
|--------------------------|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 暗褐色土 C P 含む。          | 8. 暗褐色土 C P 少含、ローム塊多含。   | 15. 暗褐色土 C P 少含、炭化物・ローム塊<br>僅含。 |
| 2. 暗褐色土 C P 含む、焼土少含。     | 9. 黒褐色土 C P 少含、ローム僅含。    | 16. 暗褐色土 ローム塊多含。                |
| 3. 暗褐色土 C P 含む、ローム塊多含。   | 10. 暗褐色土 C P 少含。         | カマド                             |
| 4. 暗褐色土 C P・ローム塊含む。      | 11. 暗褐色土 C P 少含、炭化物少含。   | 1. 黒褐色土 C P・焼土・炭化物多含。           |
| 5. 暗褐色土 4層に類似。           | 12. 暗褐色土 C P 少含む、ローム塊含む。 | 2. 黒褐色土 C P・焼土・炭化物含む。           |
| 6. 暗褐色土 C P 含む、焼土僅含。     | 13. 暗褐色土 ローム塊多含。         | 3. 暗褐色土 焼土・ローム塊含む。              |
| 7. 暗褐色土 C P 少含、焼土・炭化物種含。 | 14. 暗褐色土 C P 少含、焼土僅含。    |                                 |

第285図 C区49号住居跡図(1)



第286図 C区49号住居跡出土遺物図(2)

第1節 古墳時代後期～平安時代

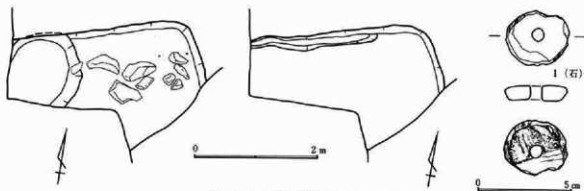


第287図 C区49号住居跡出土遺物(3)

C区52号住居跡 (図版第289・291図、写真図版60-1、97)

47-C-23グリッドに位置するが、南側の半分以上を中群男用水により壊されており、重複関係はC区51号住居跡に先行するものの、平面形態や規模は不明である。床面は堅く平坦である。壁高は約35cmを測り、

第3章 検出された遺構・遺物



第288図 C区50号住居跡面・出土遺物面

ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴の存在は不明である。掘り方は認められない。遺物は認められない。

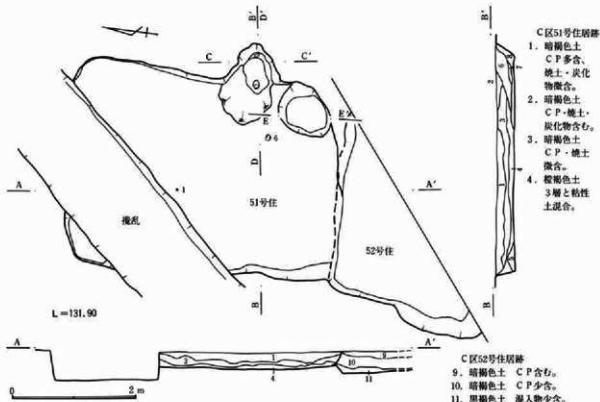
カマドは東壁の中央から南寄りに位置していたと考えられ、中群馬用水により壊されている。

住居跡の廃絶時期は遺物から9～10世紀と考えられる。

C区53号住居跡（図版第292・293図、写真図版60-2）

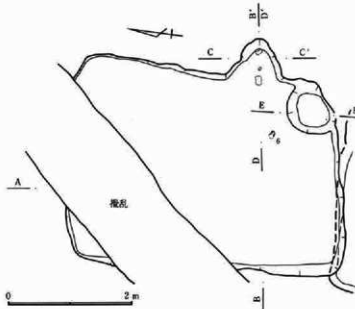
46-C-29グリッドに位置し、重複関係は無いものの、南東隅周辺部分を中群馬用水の迂回水路により壊されている。平面形態は長方形を呈し、規模は南北4.9m、東西3.3mを測るが、面積は計測不可能である。床面は貼り床を施し、堅く平坦である。壁高は約15cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に検出されているが、南側を壊されているために、平面形態や規模は不明である。遺物は南西隅に僅かに認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好であるが、煙出し部分が僅かに壊されてい



第289図 C区51・52号住居跡面(1)

第1節 古墳時代後期～平安時代



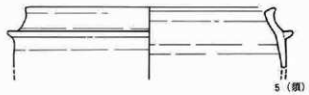
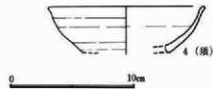
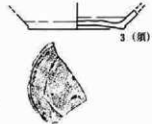
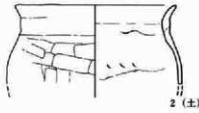
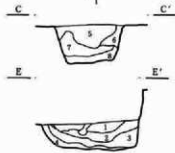
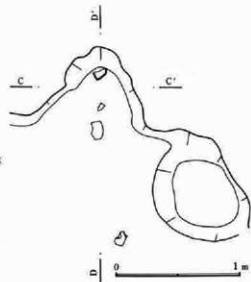
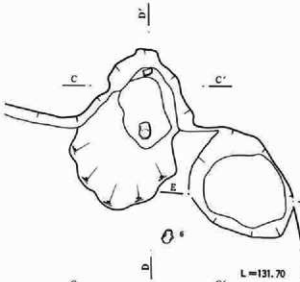
カマド

- 1・3-4, 住居跡注記参照
- 2, 暗褐色土 焼土多含。
- 5, 暗褐色土 C P少含、焼土多含。
- 6, 黒褐色粘性土
- 7, 暗褐色土 C P少含、焼土・灰多含。
- 8, 暗褐色土 焼土塊多含。

貯蔵穴

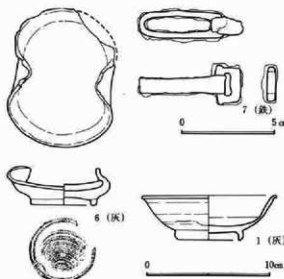
- 1, 住居跡3層と同じ。
- 2, 暗褐色土 C P微含。
- 3, 暗褐色土 混人物少含。
- 4, 黒褐色灰層 3層混合。

カマド注記参照



第290図 C区51号住居跡図・出土遺物図(2)

第3章 検出された遺構・遺物



第291図 C区51・52号住居跡出土遺物図(3)・(2)

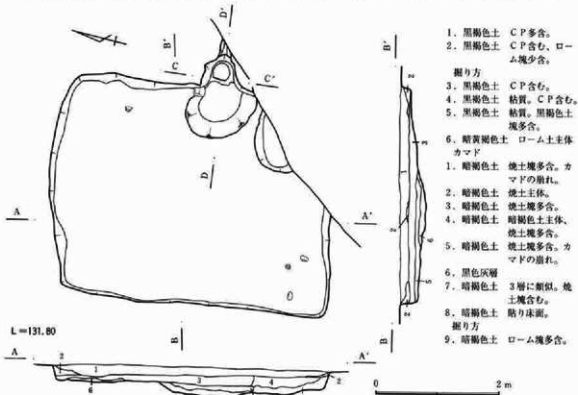
C区54号住居跡 (図版第294・295図、写真図版60-3・4、97)

45-C-32グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は主軸方向に長い長方形を呈し、規模は南北2.9m、東西3.8m、面積は11.1㎡を測る。床面は貼り床を施し、堅く平坦である。壁高は25cmを測る。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より約20cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド付近から南東隅にかけて僅かに認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄り位置し、遺存状態は良好である。規模は燃烧部幅約34cm、奥行き約112cmで、煙道部は緩やかに住居外に約46cm程延びる。両袖は不明確である。カマド掘り方は深さ約14cm程掘

る。規模は燃烧部幅約60cmで、奥行きと煙道部は緩やかに住居外に延びるが計測不可能である。左袖は残存し、石を構築材として用いている。カマド掘り方は方形に深さ約10-15cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物は認められない。

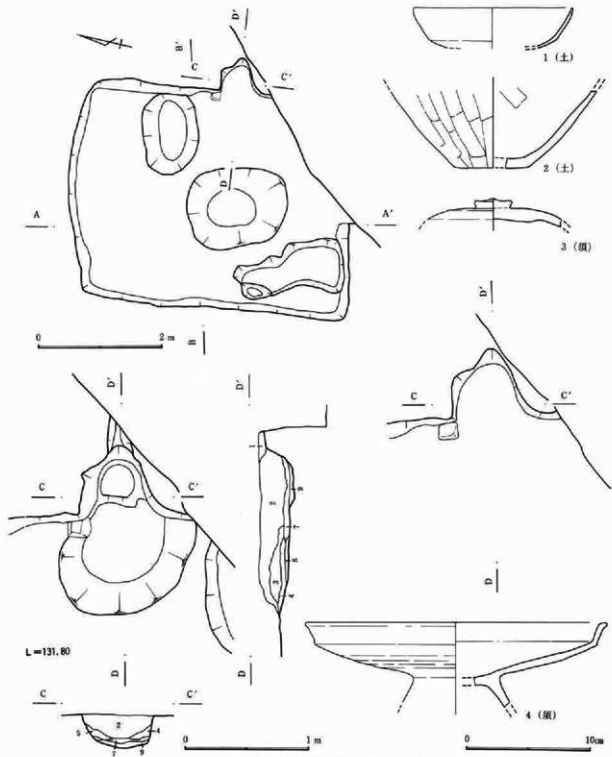
住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。



第292図 C区53号住居跡図(1)



第1節 古墳時代後期～平安時代



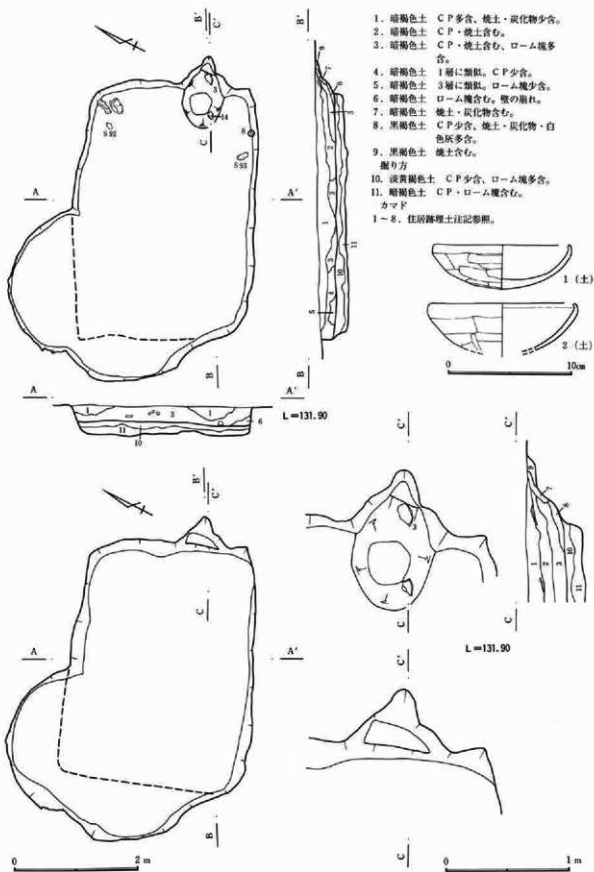
第293図 C区53号住居跡・出土遺物(2)

り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物は燃焼部内に僅かに認められる。

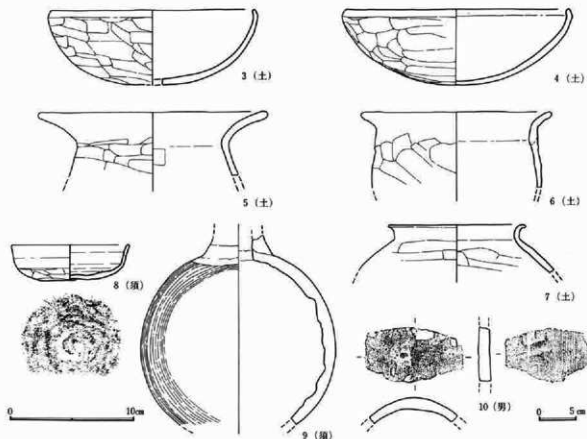
住居跡の廃絶時期は遺物から7～8世紀と考えられる。

**C区55号住居跡** (図版第296～300図、写真図版60-5～8、61-1・2、97)

45-C-40グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北4.7m、東西



第294図 C区54号住居跡図・出土遺物図(1)



第295図 C区54号住居跡出土遺物(2)

4.3mで、面積は約11.8㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より約5～15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は南東隅から住居の中央部分にかけて多数出土している。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約26cm、奥行き約100cmで、燃焼部は緩やかに住居外に約49cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材としている。カマド掘り方は深さ約8cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物は燃焼部内に土師器の壺が認められる。

住居跡の廃絶時期は遺物から7～8世紀と考えられる。

C区56号住居跡（図版第301図、写真図版61-3・4、97）

46-C-42グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北4.2m、東西4.1mで、面積は約16.3㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は約35cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝はカマド部分を除いたすべての壁に沿って、幅20～35cm、深さ3cmで検出された。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は2基検出されており、P1は直径25cm、深さ約20cm、P2は直径約25cm、深さ約15cmを測る。掘り方は不明である。出土遺物はカマド周辺から出土している。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅約64cm、奥行き約90cmで、煙道部は段を有して住居外に約80cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材としている。カマド掘り方はほとんど認められない。遺物は袖付近から燃焼部にかけて出土している。

住居跡の廃絶時期は遺物から7～8世紀と考えられる。

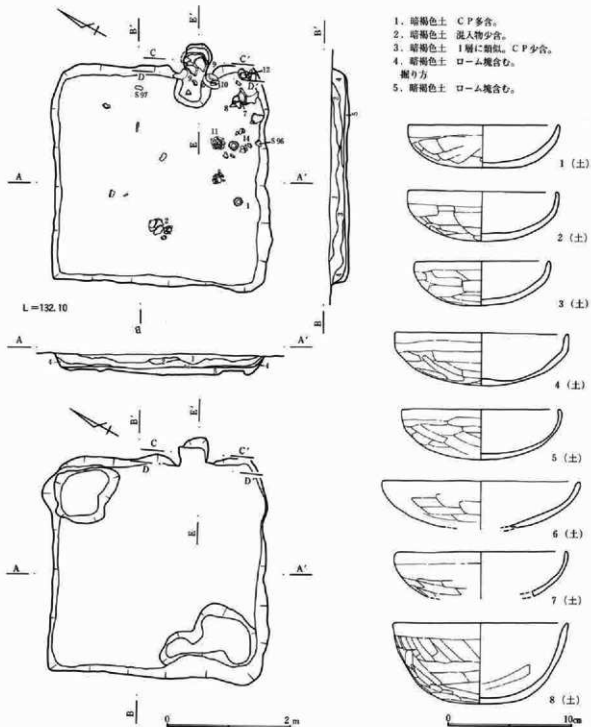
第3章 検出された遺構・遺物

C区57号住居跡 (図版第302図、写真図版61-5)

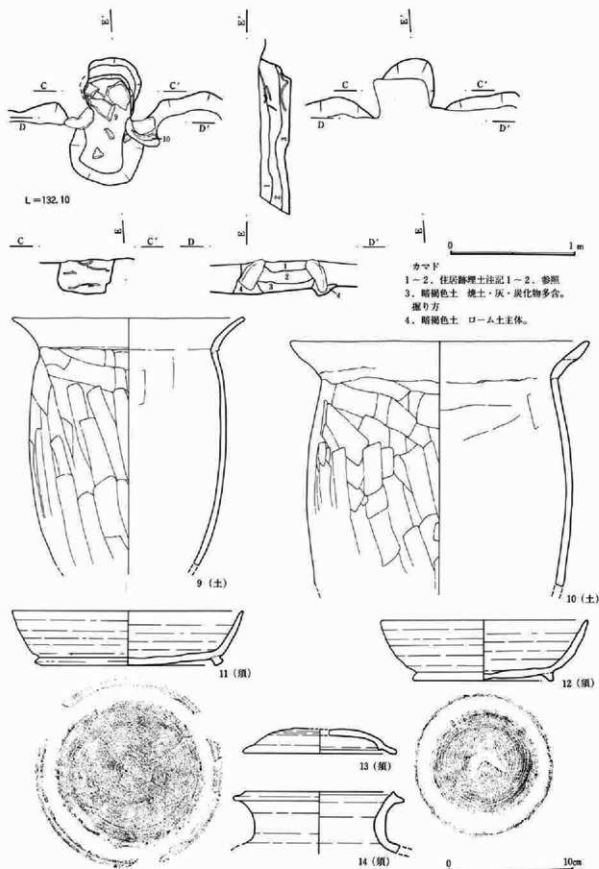
48-C-43グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.1m、東西約2.2m、面積は約6.0m<sup>2</sup>を測る。床面は堅く平坦である。壁高は10cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は認められない。遺物は認められない。

カマドは存在しない構造と考えられる。

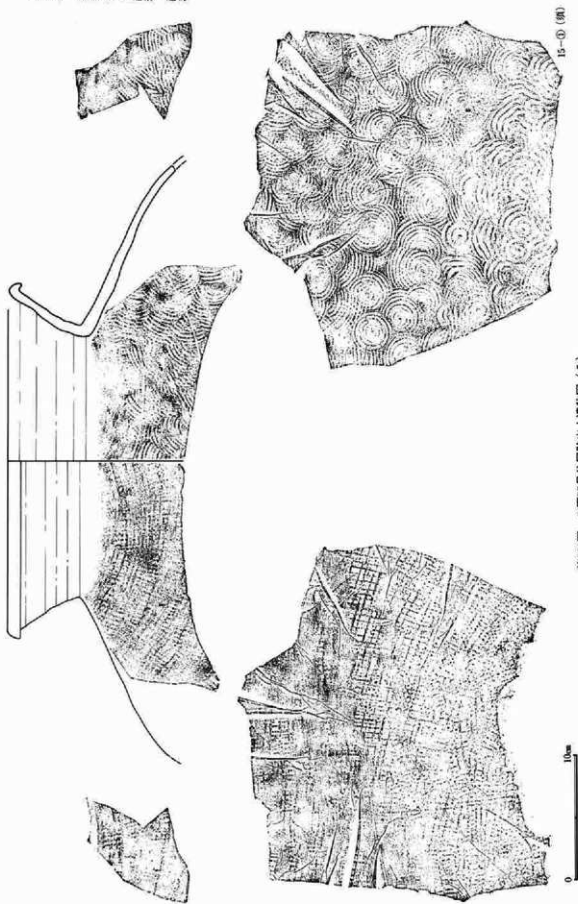
住居跡の廃絶時期は遺物が無いことから不明である。



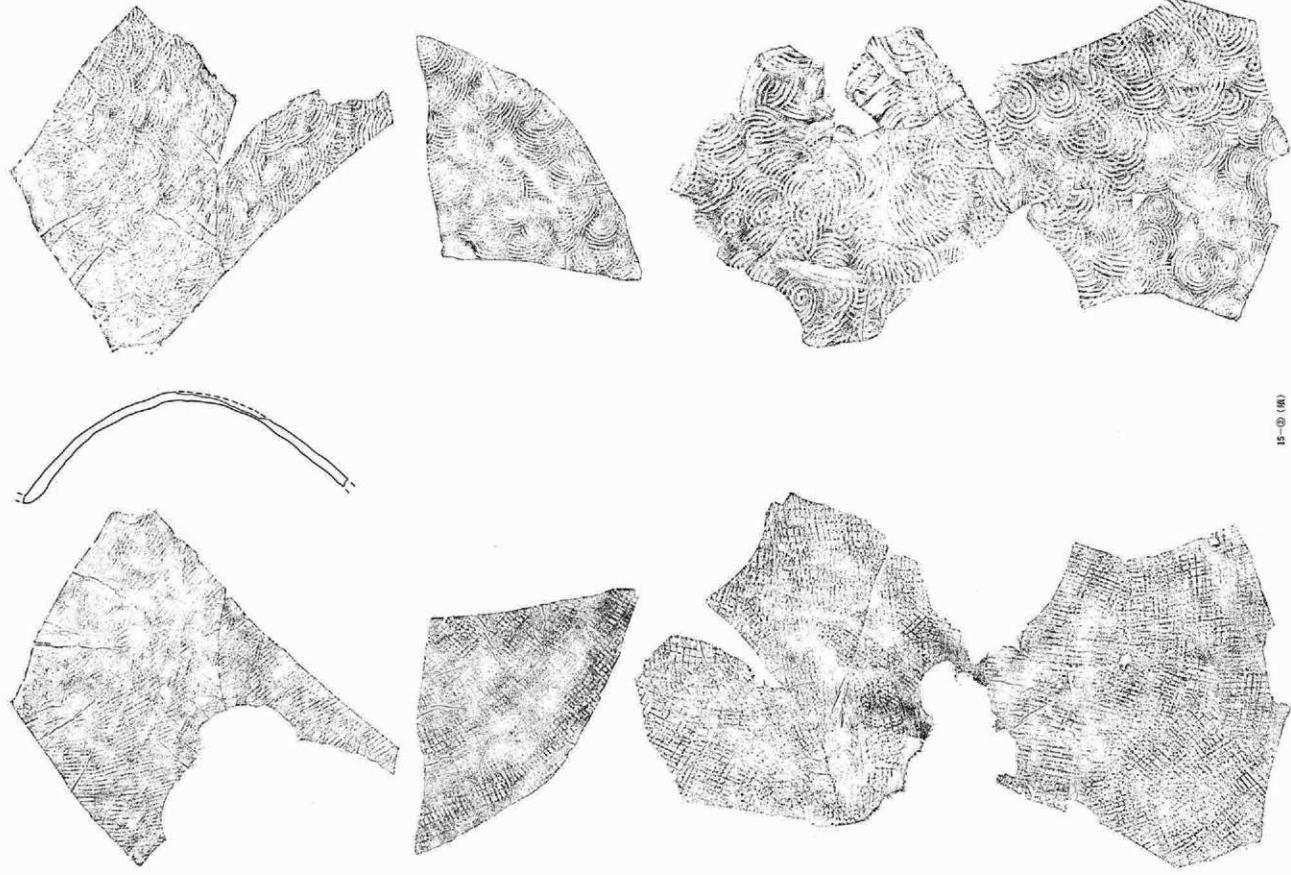
第296図 C区55号住居跡図・出土遺物図(1)



第297図 C区55号住居跡図・出土遺物図(2)



第298図 C区55号住居跡出土遺物(3)

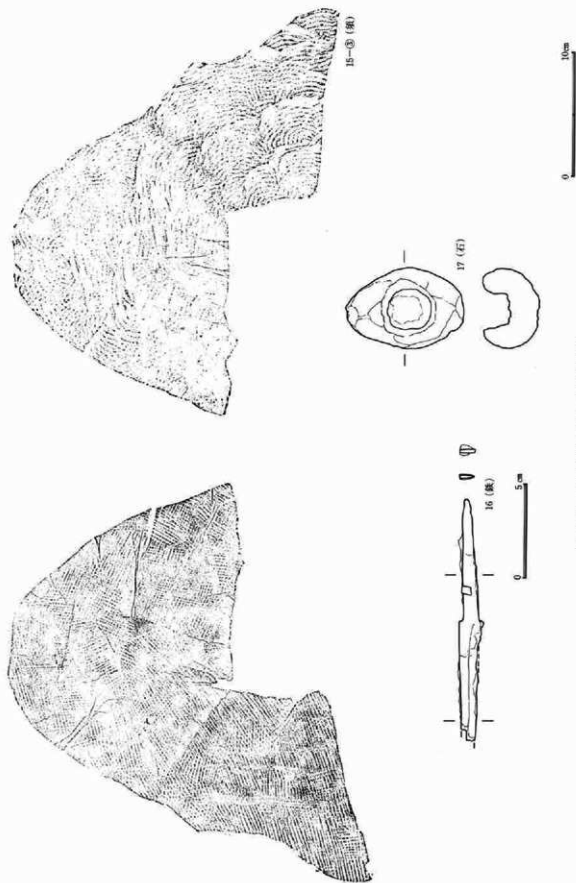


15—⑧ (原)

第299号 C区555号住居跡出土青銅器 (4)

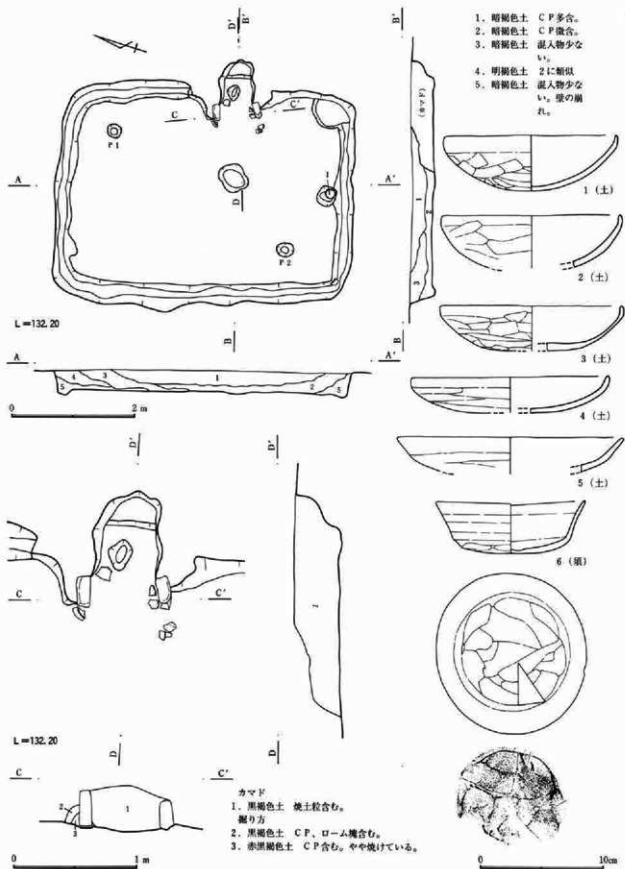






第300図 C区55号住居跡出土遺物図(5)

第3章 検出された遺構・遺物



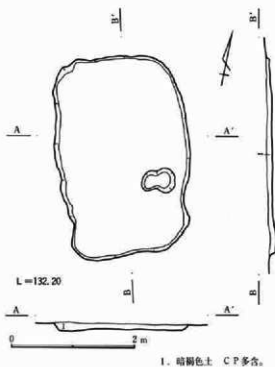
第301図 C区56号住居跡図・出土遺物図

## C区58号住居跡 (図版第303・304図、写真図版61-6、98)

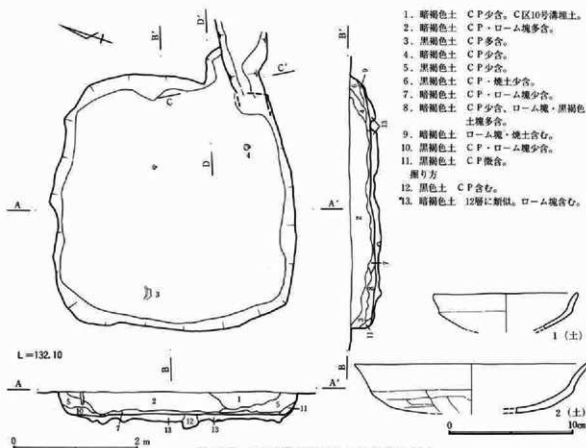
49-C-39グリッドに位置し、重複関係はC区10号溝に先行する。平面形態は正方形を呈し、規模は南北4.3m、東西4.3mで、面積は約13.8㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は約35cmを測る。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかったが、掘り方調査時に大小のピットがいくつか検出されており、どれかが相当すると考えられる。掘り方は床面より約15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は住居内に散漫な形で僅かに認められる。

カマドは東壁の中央から僅かに南寄りに位置するが、右部分がC区6号溝に壊されているために遺存状態は極めて悪い。そのために規模は計測不可能である。カマド掘り方は深さ約6cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物は認められない。

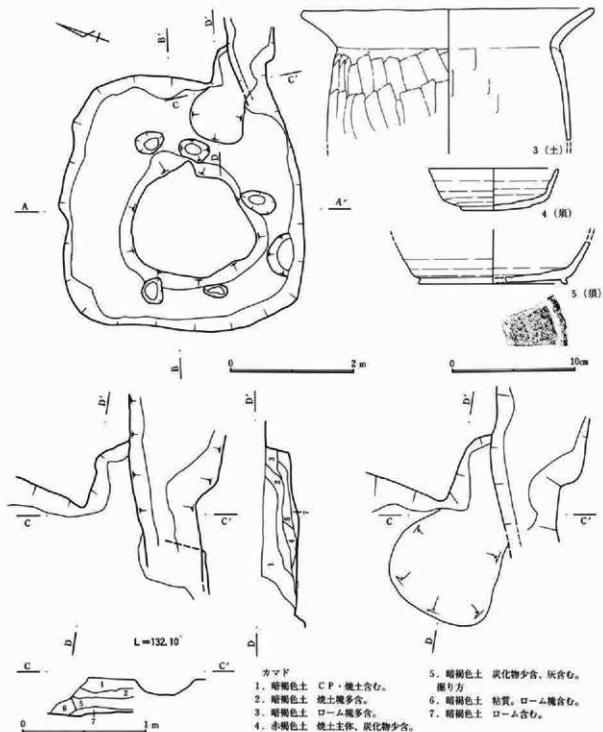
住居跡の廃絶時期は遺物から7～8世紀と考えられる。



第302図 C区57号住居跡図



第303図 C区58号住居跡図・出土遺物図(1)

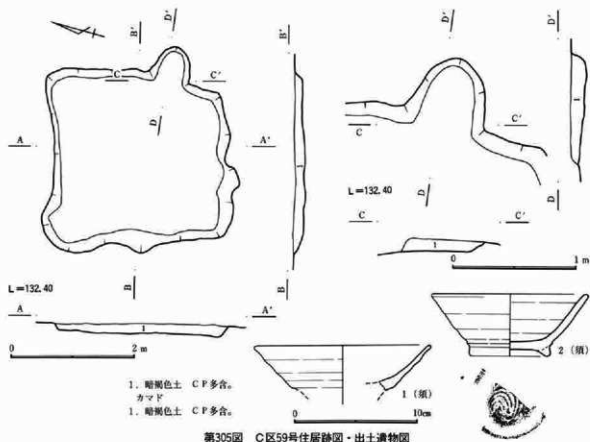


第304図 C区58号住居跡図・出土遺物図(2)

C区59号住居跡 (図版第305図、写真図版61-7・8)

53-C-46グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は正方形を呈し、規模は南北4.3m、東西4.3mで、面積は約8.2㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は約15cmを測る。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は認められない。遺物は認められない。

カマドは東壁の中央から僅かに南寄りに位置し、遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅約43cm、奥行き約62cmで、煙道部は緩やかに住居外に約50cm程延びる。両袖は不明確である。カマド掘り方は認められな



第305図 C区59号住居跡面・出土遺物図

い。遺物も認められない。

住居跡の廃絶時期は遺物から9～10世紀と考えられる。

**C区60号住居跡** (図版第306・307図、写真図版62-1・2、98)

56-C-46グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北3.4m、東西2.6mで、面積は約12.4㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より約15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド付近から住居の中央部分にかけて認められる。

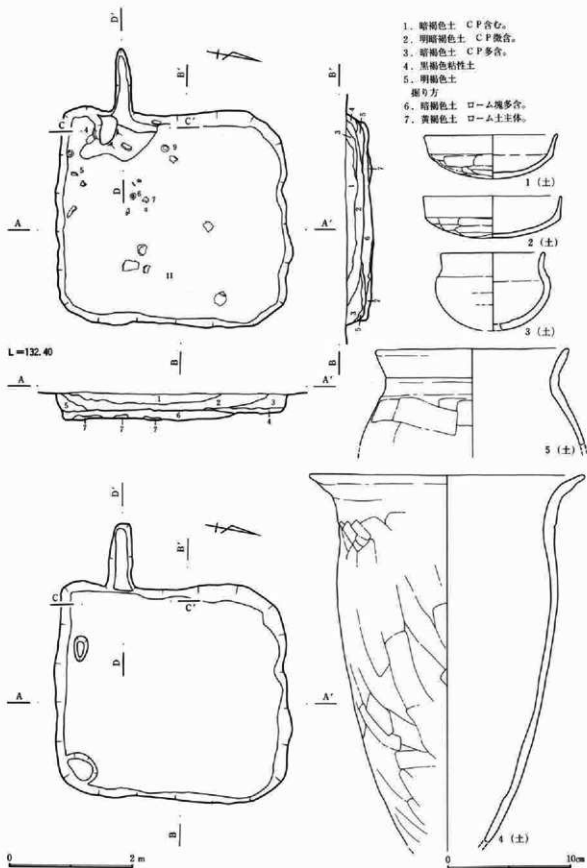
カマドは西壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は奥行き約175cmで、煙道部は緩やかに住居外に約100cm程延びる。両袖は不明確である。カマド掘り方は深さ約10～24cm程掘り込んだ後、ロームや焼土、灰などで埋め戻しており、あるいは初期の熱焼面が存在したのかも知れない。遺物は左袖付近に僅かに出土している。

住居跡の廃絶時期は遺物から7世紀後半と考えられる。

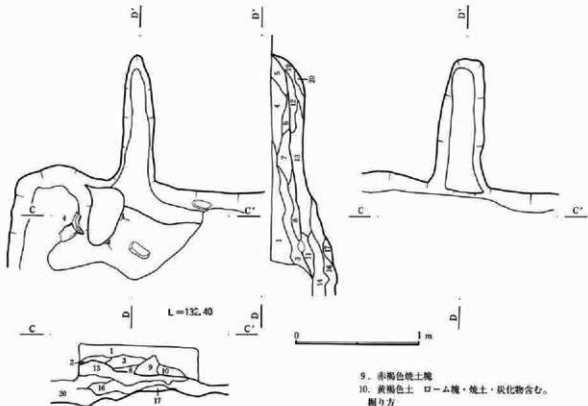
**C区61号住居跡** (図版第308・309図、写真図版62-3・4、98)

55-C-44グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は貯蔵穴が東に張り出す長方形を呈し、規模は南北約3.5m、東西約3.0mで、面積は約11.0㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は掘り方調査時に東壁から西壁にかけて検出され、幅25～45cm、深さ9cmを測る。貯蔵穴は南東隅に検出され、規模は直径100cm、深さ10cmを測る。柱穴は検出されなかった。住居のほぼ中央に楕円形の掘り込みが検出されている。掘り方は認められない。遺物は貯蔵穴内から出土している。

カマドは東壁の中央から僅かに南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は焼焼部幅約74cm、奥行き

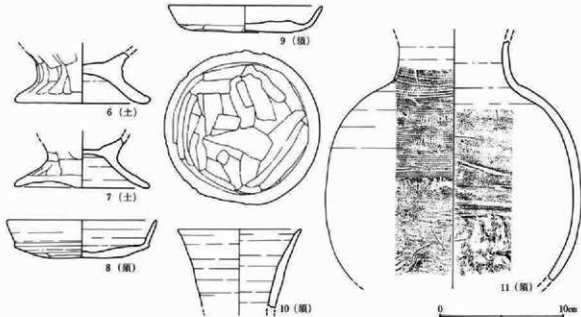


第306図 C区60号住居跡図・出土遺物図(1)



- カマド
1. 暗褐色土 C P・焼土含む。
  2. 暗褐色土 C P少含、ローム塊含む。
  3. 暗褐色土 C P少含、ローム塊・焼土含む。
  4. 暗褐色土 C P多含、焼土少含。
  5. 暗褐色土 C P・焼土少含。
  6. 暗褐色土 C P少含。
  7. 暗褐色土 C P少含、焼土塊・白色灰塊含む。
  8. 黒褐色土 焼土・黒色灰・白色灰含む。

9. 赤褐色焼土塊
  10. 黄褐色土 ローム塊・焼土・炭化物含む。
- 掘り方
11. 暗褐色土 焼土・白色灰少含。
  12. 黒褐色土 ローム・焼土・炭化物少含。
  13. 褐色土 黒褐色土塊・焼土・白色灰少含。
  14. 赤褐色土 ローム塊主体。
  15. 暗褐色土 焼土・炭化物含む。
  16. 黒褐色土 ローム塊・黒色灰少含。
  17. 淡黄褐色土 ローム主体、焼土少含。
  18. 黒褐色土 C P少含。
  19. 褐色土 ローム塊炭化物含む。
  20. 黒褐色土 C P微含。

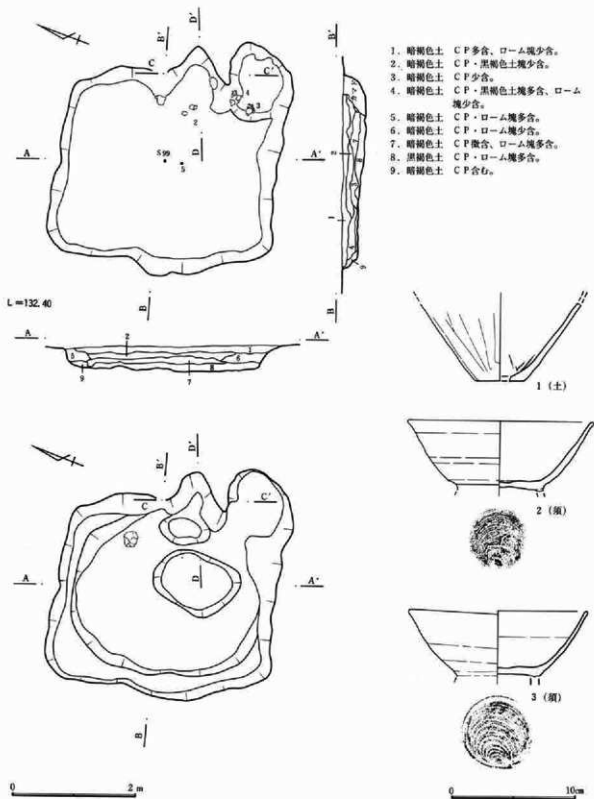


第307図 C区60号住居跡図・出土遺物図(2)

第3章 検出された遺構・遺物

約100cmで、煙道部は緩やかに住居外に約55cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は深さ約6-11cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物は燃焼部手前に出土している。

住居跡の廃絶時期は遺物から8-9世紀と考えられる。



第308図 C区61号住居跡団・出土遺物図(1)



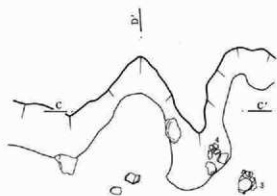
第1節 古墳時代後期～平安時代

カマド

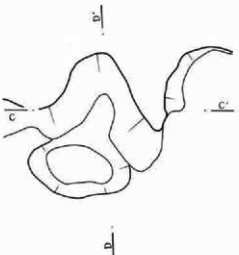
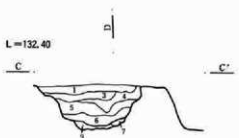
1. 暗褐色土 C F 多含、焼土・炭化物少含。
2. 暗褐色土 ローム塊・炭化物多含。
3. 黄褐色土 焼土化したローム塊。カマドの崩れ。
4. 暗褐色土 2層に類似。ローム塊少含。
5. 黄褐色土 焼土化したローム塊、炭化物多含。
6. 暗灰褐色土 焼土・黒色灰多含。
7. 暗灰褐色土 白色灰主体、ローム塊含む。
8. 黒褐色土 黒色灰・炭化物含む。

掘り方

9. 暗黄褐色土 ローム塊主体。
10. 暗褐色土 C F 少含、ローム塊・焼土含む。



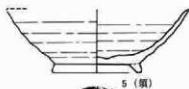
L=132.40



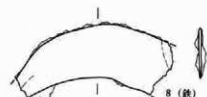
0 1m



7 (石)



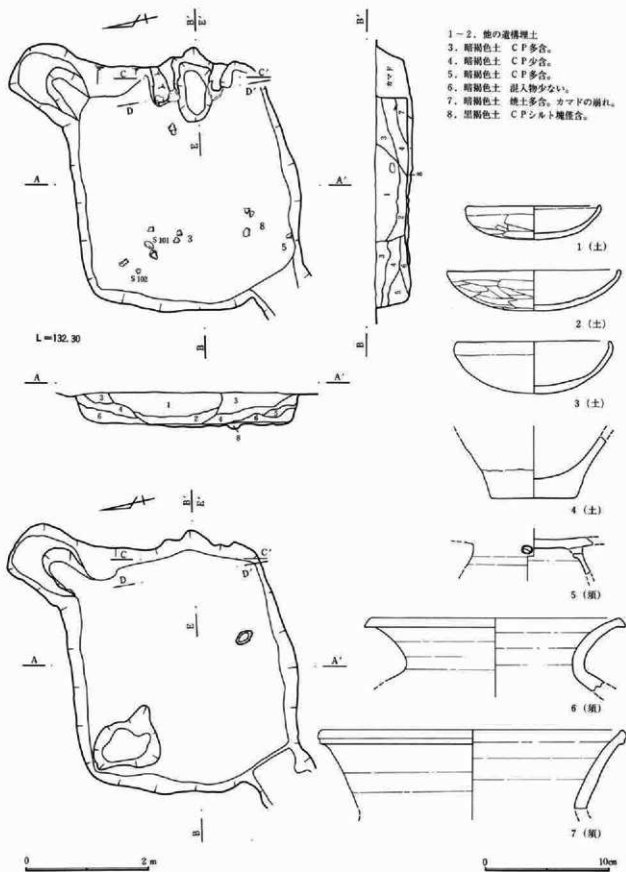
0 10cm



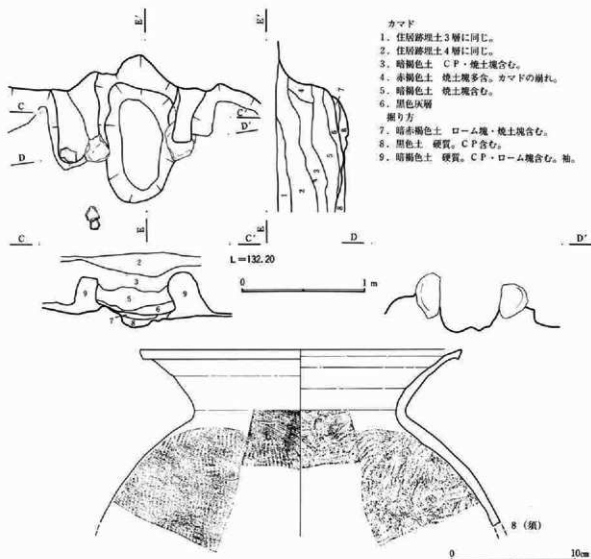
0 5cm

第309図 C区61号住居跡図・出土遺物図(2)

第3章 検出された遺構・遺物



第310図 C区62号住居跡図・出土遺物図(1)



第311図 C区62号住居跡図・出土遺物図(2)

**C区62号住居跡** (図版第310・311図、写真図版62-5、98)

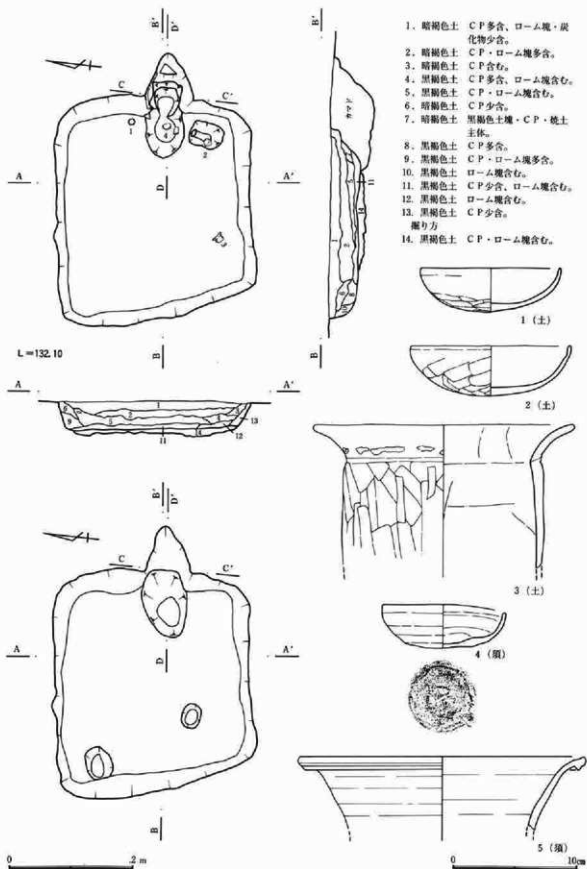
51-C-39グリッドに位置し、重複関係はC区10号溝に先行するが、北東隅と南西隅が壊されている。平面形態は主軸方向に僅かに長い長方形を呈し、規模は南北3.6m、東西3.8mで、面積は約13.4㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は45cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は認められない。遺物はカマド付近や中央部から西壁にかけて認められる。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約44cm、奥行き約117cmで、煙道部は緩やかに住居外に約20cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は長方形に深さ約10cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**C区63号住居跡** (図版第312～315図、写真図版62-6・7、98)

49-C-33グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は主軸方向に長い長方形を呈し、規模は南北3.7m、東西3.2mで、面積は約10.8㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に位置し、楕円形を呈す。



第312図 C区63号住居跡図・出土遺物図(1)

第1節 古墳時代後期～平安時代

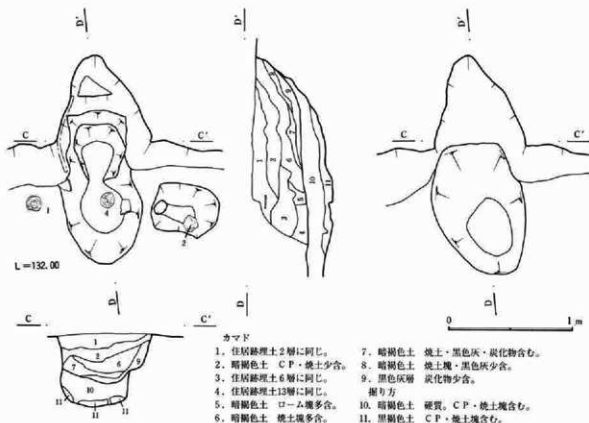
規模は長軸55cm、短軸約40cm、深さ10cmを測る。掘り方は約5～12cmの貼り床を施しており、ロームを主体に埋め戻している。遺物はカマド付近などに認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約25cm、奥行き約





第314図 C区63号住居跡出土遺物図(3)



第315図 C区63号住居跡図(4)

153cmで、煙道部は緩やかに住居外に69cm程延びる。両軸は僅かに残存し、ロームを構築材とする。カマド掘り方は深さ約20cm程掘り込んだ後、焼土を主体に埋め戻している。遺物は燃焼部手前に出土している。

住居跡の廃絶時期は遺物から7～8世紀と考えられる。

#### C区64号住居跡(図版第316・317図、写真図版62-8、63-1・2、98)

56-C-37グリッドに位置し、重複関係はC区6号溝、C区7号溝、C区10号溝に先行する。平面形態は主軸方向に長い長方形を呈し、規模は南北約4.2m、東西4.5mで、面積は約17.3m<sup>2</sup>を測る。北壁の東側半分に段を有する。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は約55cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は東壁付近が僅かに窪み程度で、ロームを主体に約5cmの貼り床を施しており、ロームを主体に埋め戻している。遺物は南壁に近接してこも編み石が集中して出土している。

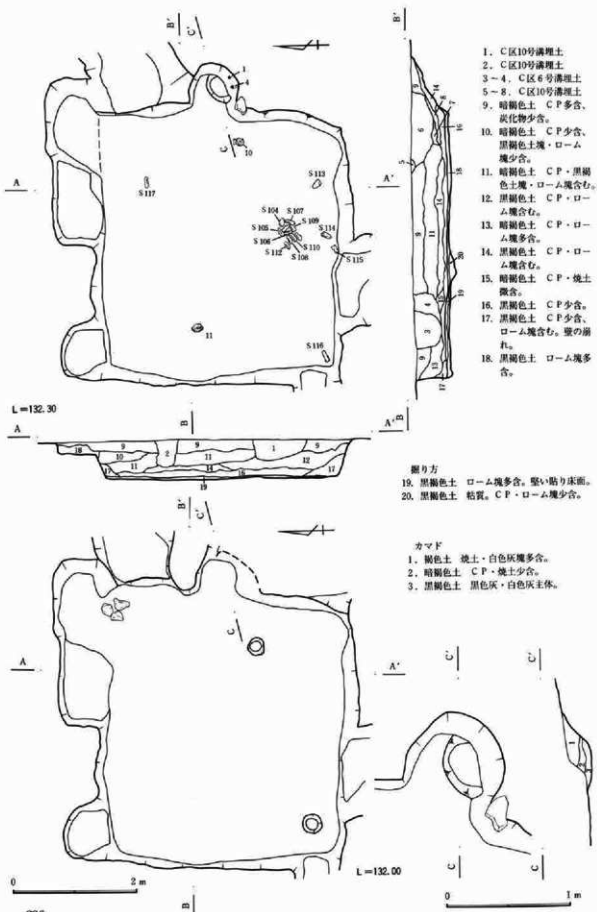
カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好でない。規模は燃焼部幅約52cm、奥行き約72cmで、煙道部は緩やかに住居外に70cm程延びる。右軸は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は認められない。遺物は燃焼部手前に僅かに認められる。

住居跡の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

#### C区65号住居跡(図版第318・319図、写真図版63-3・4)

58-C-40グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.4m、東西2.8mで、面積は約10.1m<sup>2</sup>を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は約15～20cmを測り、ほぼ直

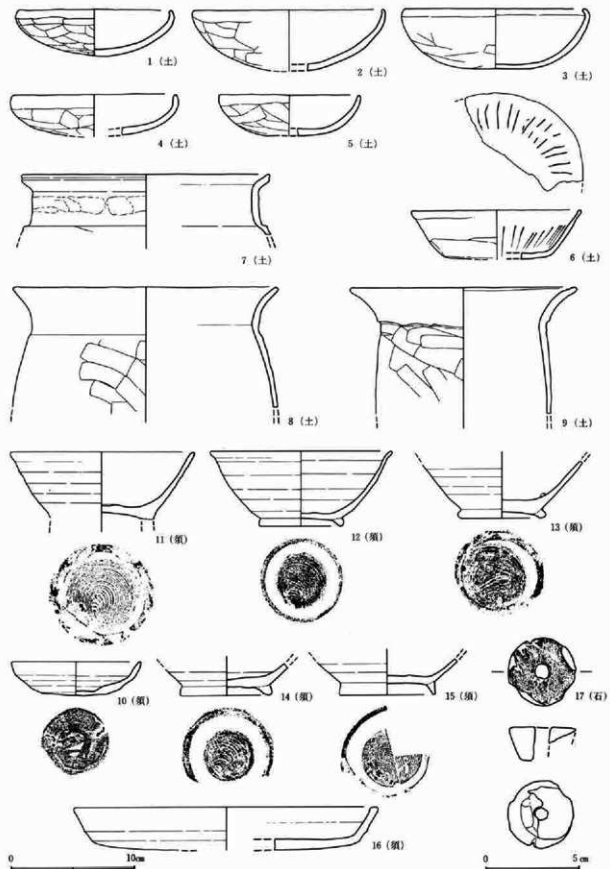
第3章 検出された遺構・遺物



第316図 C区64号住居跡図(1)



第1節 古墳時代後期～平安時代



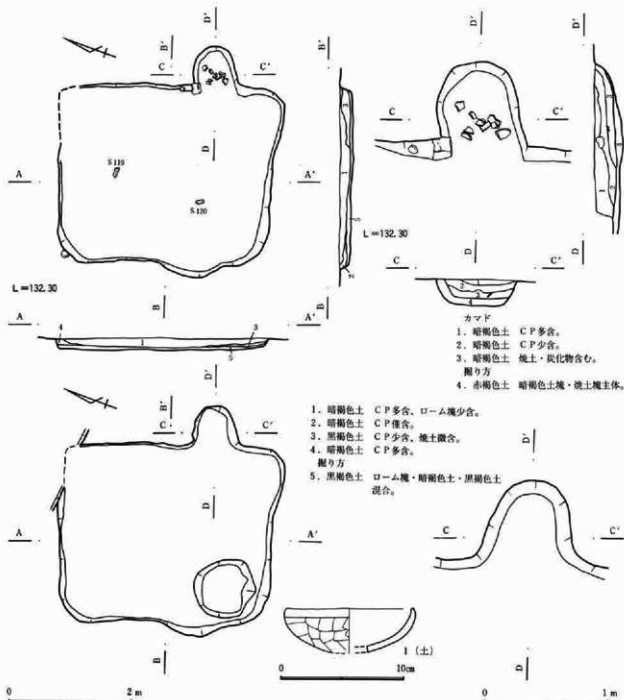
第317图 C区64号住居跡出土遺物图(2)

第3章 検出された遺構・遺物

線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より5cm掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はほとんど認められない。

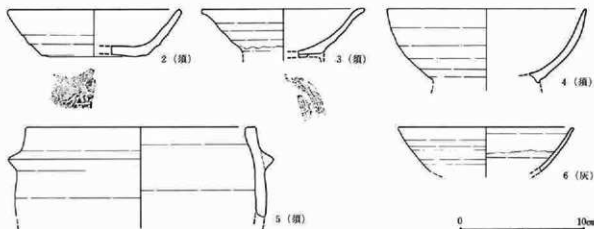
カマドは北東隅に位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約48cm、奥行き約73cmで、煙道部は緩やかに住居外に約59cm程延びる。左袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は深さ約6cm掘り込んだ後、焼土を主体に埋め戻している。遺物は燃焼部に集中して出土している。

住居跡の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。



第318図 C区65号住居跡図・出土遺物図(1)

第1節 古墳時代後期～平安時代

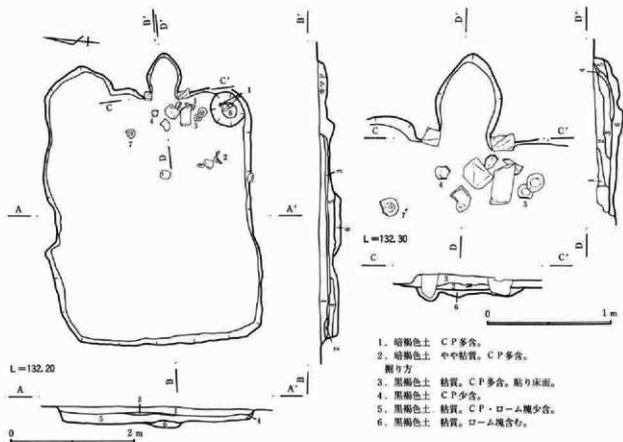


第319図 C区65号住居跡出土遺物図(2)

C区66号住居跡 (図版第320・321図、写真図版63-5・6、99)

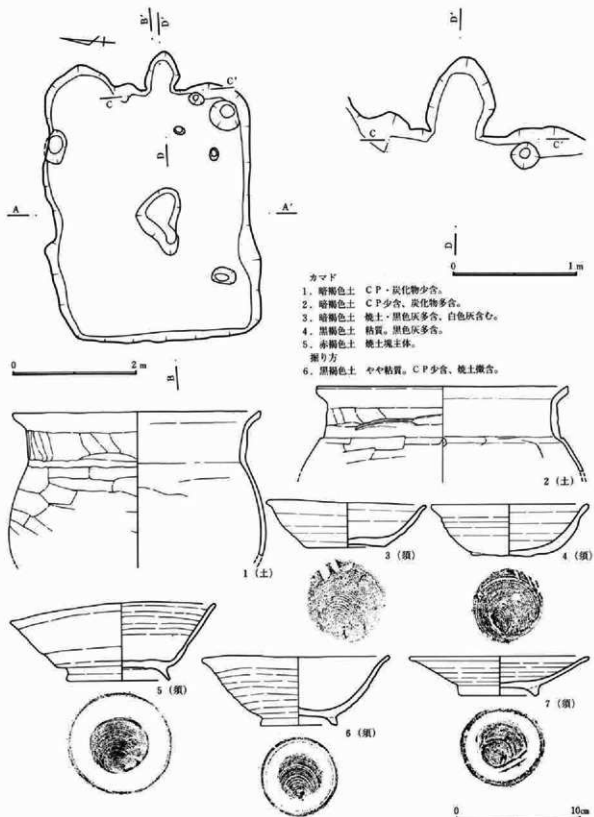
59-C-36グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は主軸方向に長い長方形を呈し、規模は南北約3.3m、東西約4.0mで、面積は約13.7m<sup>2</sup>を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は約10cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかったが、大小のピットをいくつか検出した。貯蔵穴は南東隅に位置し、円形で規模は直径約55cm、深さ約20cmを測る。掘り方は床面より約15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド付近や貯蔵穴内に認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約38cm、奥行き約



第320図 C区66号住居跡図(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第321図 C区66号住居跡図・出土遺物図(2)

73cmで、煙道部は緩やかに住居外に約68cm程延びる。両袖は残存し、石を構架材とする。燃焼部手前に二つに折れた石が出土しており、天井部に架けていたものと考えられる。カマド掘り方は深さ約8cm掘り込んだ

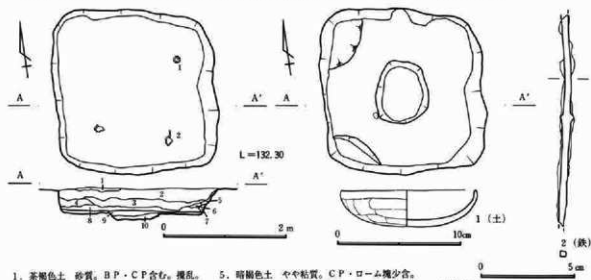
後、焼土などで埋め戻している。遺物は右袖付近に認められる。

住居跡の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

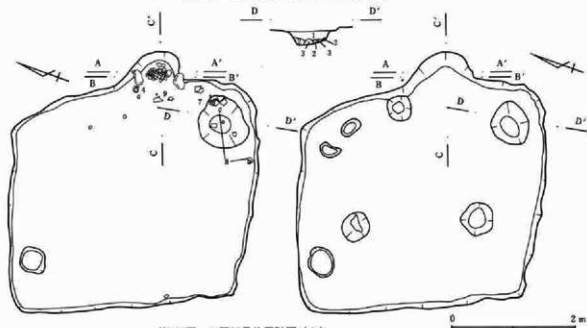
**C区68号住居跡** (図版第322図、写真図版63-7、99)

61-C-39グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北約2.6m、東西約2.5mで、面積は約6.2㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は30cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかったが、北西隅と南西隅、それに住居の中央に掘り込みが検出されている。掘り方は床面より約5-15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は南東隅付近に鉄鍬が出土している。

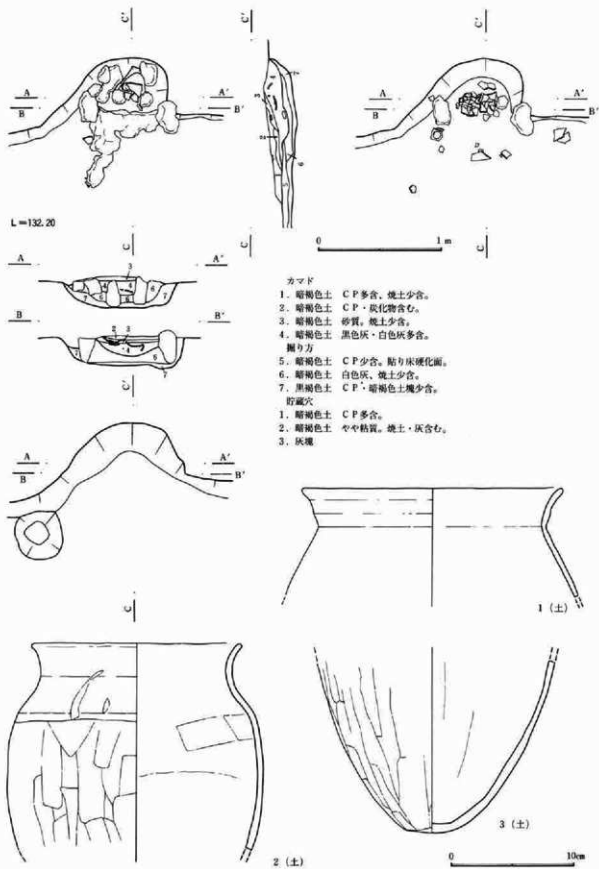
カマドは存在しない構造と考えられる。住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。



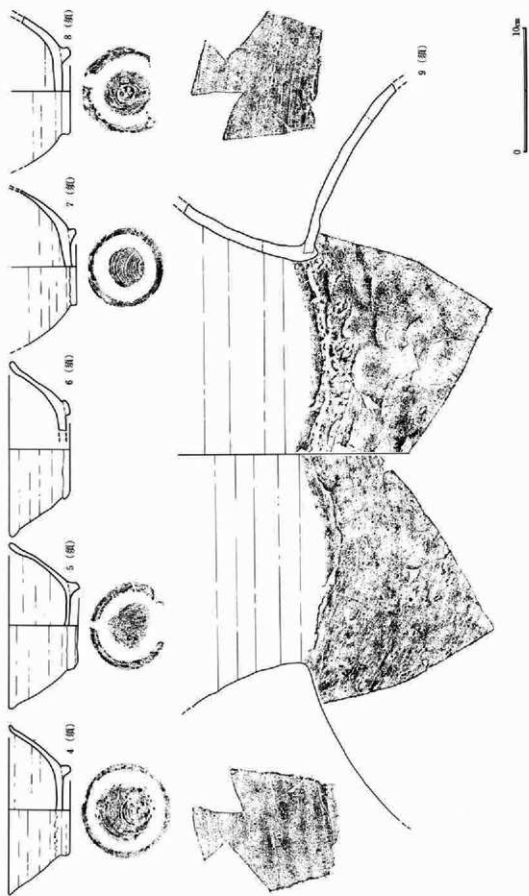
第322図 C区68号住居跡図・出土遺物図



第323図 C区69号住居跡図(1)



第324図 C区69号住居跡図・出土遺物図(2)



第325図 C区69号住居跡出土遺物図(3)

**C区69号住居跡** (図版第323~325図、写真図版63-8、64-1-3、99)

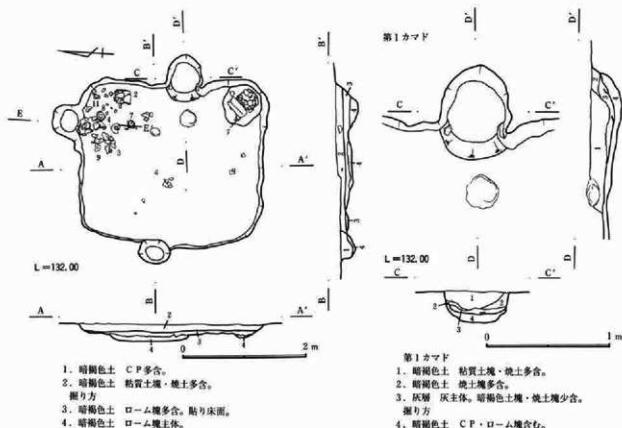
59-C-36グリッドに位置し、重複関係は無い。住居形態は長方形を呈し、規模は南北約3.9m、東西約3.4mで、面積は約13.4㎡を測る。床面は平坦である。壁高は10cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に位置し、楕円形で規模は長軸90cm、短軸約75cm、深さ25cmを測る。明確な柱穴は検出されていないが、掘り方で認められるいくつかのピットのどれかが、それに相当すると思われる。掘り方は不明である。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約48cm、奥行き約56cmで、煙道部は緩やかに住居外に約50cm程延びる。両軸は残存し、石を構築材とする。天井部には石が架けられていたと考えられる。カマド掘り方は深さ約10cm掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃焼部内から出土している。

住居跡の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

**C区70号住居跡** (図版第326~328図、写真図版64-4~8、99)

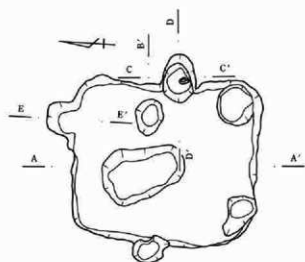
60-C-30グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約2.9m、東西約2.6mで、面積は約7.9㎡を測る。床面は貼り床が施され、堅く平坦である。壁高は約10cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に位置し、楕円形で規模は長軸65cm、短軸約55cm、深さ約15cmを測る。掘り方では西壁中央と住居中央、南西隅、それにカマド付近に大小の掘り込みが検出されている。掘り方は約10cm掘り込んだ後、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は北東隅の第2カマド付近と貯蔵穴内から多数出土しており、貯蔵穴内にはカマドの天井部に架けていたと考えられる石も



第326図 C区70号住居跡図(1)

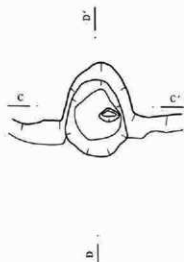


第1節 古墳時代後期～平安時代



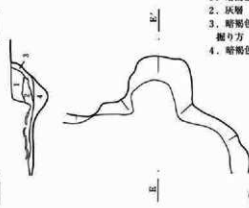
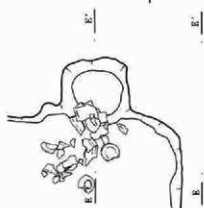
第2カマド

0 2 m



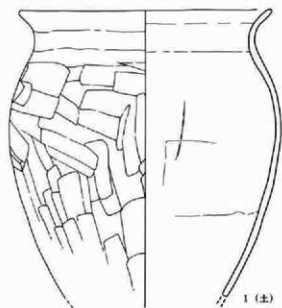
第2カマド

1. 暗褐色土 焼土塊主体、崩れ。
2. 灰褐色 灰主体、暗褐色土塊・焼土塊少含。
3. 暗褐色土 焼土塊主体、掘り方
4. 暗褐色土 ローム塊多含。

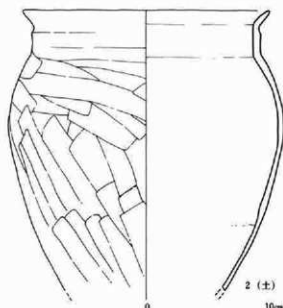


0 1 m

L=132.00



1 (土)

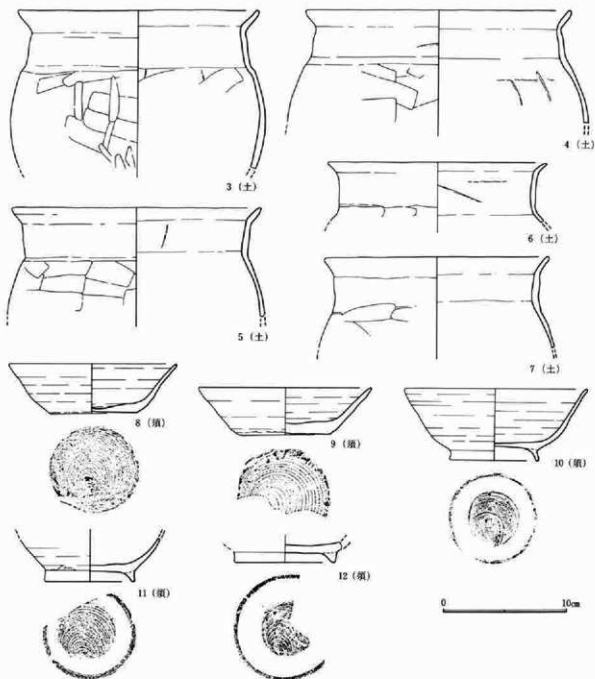


2 (土)

0 10cm

第327図 C区70号住居跡図・出土遺物図(2)

第3章 検出された遺構・遺物



第328図 C区70号住居跡出土遺物図(3)

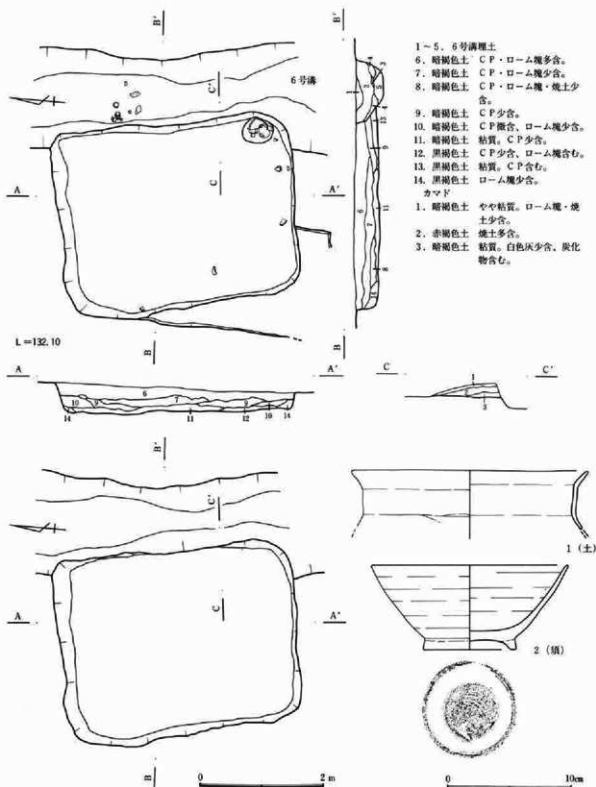
出土している。

第1カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約40cm、奥行き約75cmで、煙道部は緩やかに住居外に70cm程延びる。両軸は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は円形に深さ8cm掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。遺物はほとんど認められない。

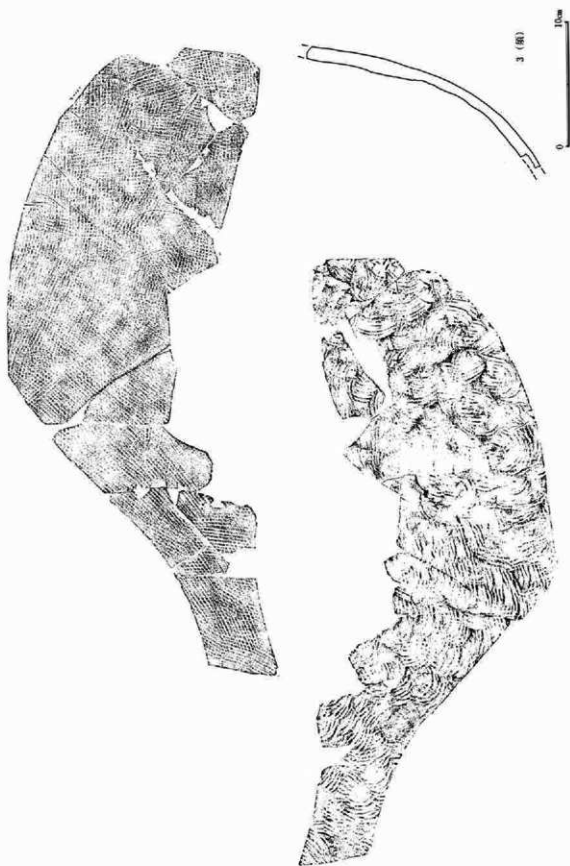
第2カマドは北壁の中央から東寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約33cm、奥行き約48cmを測る。焼土が多量に認められ、手前には多数の遺物が出土している。カマド掘り方は方形に深さ約4~11cm程掘り込んだ後、ロームを主体に埋め戻している。住居跡の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

C区71号住居跡 (図版第329・330図、写真図版65-2、100)

57-C-29グリッドに位置し、重複関係はC区6号溝に先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.8m、東西約3.0mで、面積は約11.0m<sup>2</sup>を測る。床面は堅く平坦である。壁高は約30cmを測り、ほぼ直線



第329図 C区71号住居跡図・出土遺物図(1)



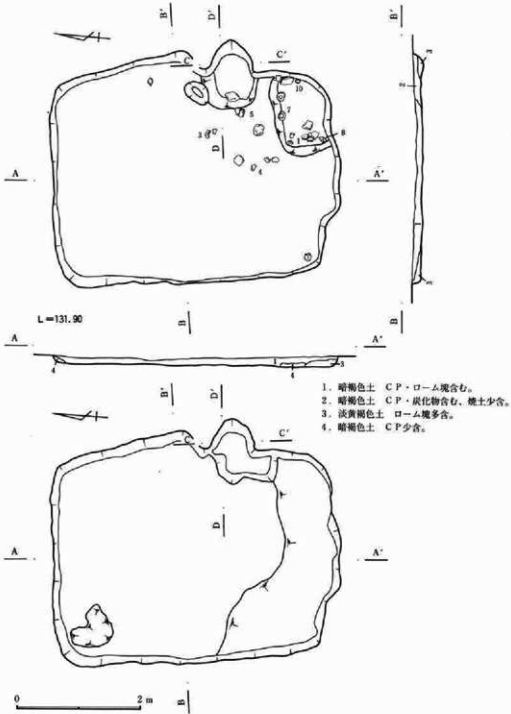
第330図 C区71号住居跡出土遺物図(2)

的に垂直に立ち上がる。壁溝と柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に位置し、楕円形で規模は長軸45cm、短軸35cm、深さ6cmを測る。掘り方は認められない。遺物は貯蔵穴内から南壁にかけて出土している。

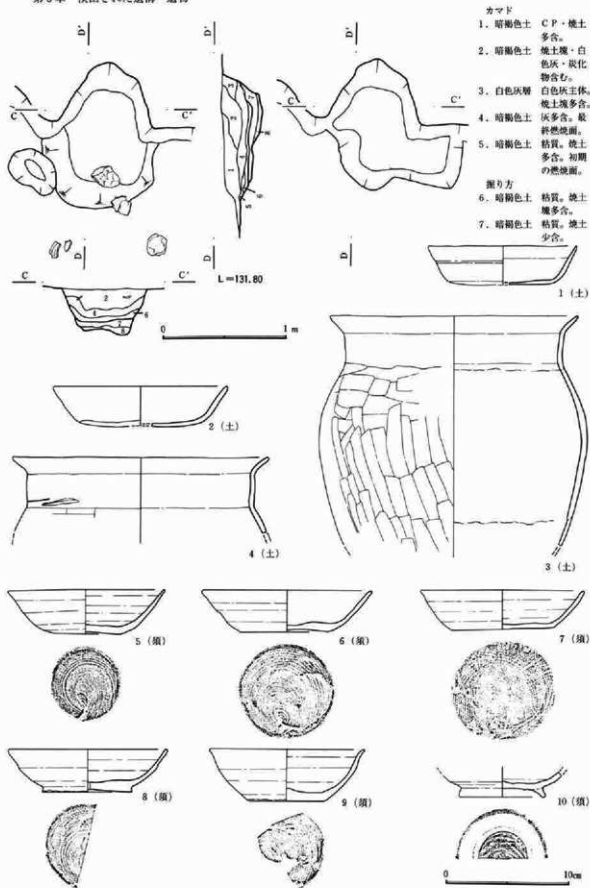
カマドは貯蔵穴と考えられるピットの存在から、東壁の中央からやや南寄りに位置していたものと考えられるが、C区6号溝により壊されたと考えられる。住居跡の廃絶時期は遺物から9世紀と考えられる。

**C区72号住居跡** (図版第331～332図、写真図版65-3～6、100)

58-C-26グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約4.6m、東西約



第331図 C区72号住居跡図(1)



第332図 C区72号住居跡図・出土遺物図(2)

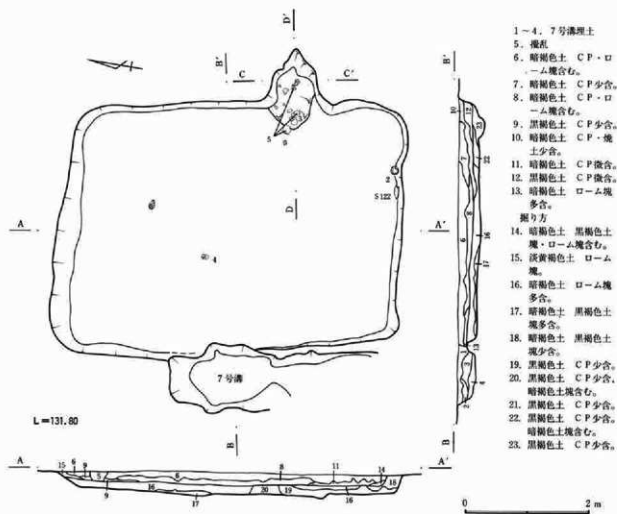
3.3mで、面積は約15.2㎡を測る。床面は堅く平坦である。壁高は約15cmを測り、緩やかに立ち上がる。壁溝、柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は東壁隅に検出されており、長軸140cm、短軸約95cm、深さ10cmの隅丸長方形を呈する。掘り方は認められない。遺物はカマド周辺と貯蔵穴内に集中している。

カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約55cm、奥行き約108cmで、煙道部は緩やかに住居外に約48cm程延びる。両袖は不明確であるが、燃焼部内に石が数点認められることから、構築材としていた可能性も考えられる。カマド掘り方は深さ約10cm程掘り込んだ後、焼土を主体に埋め戻している。遺物はほとんど認められない。住居跡の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

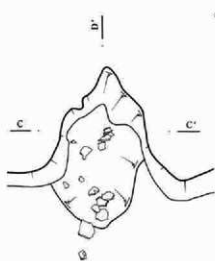
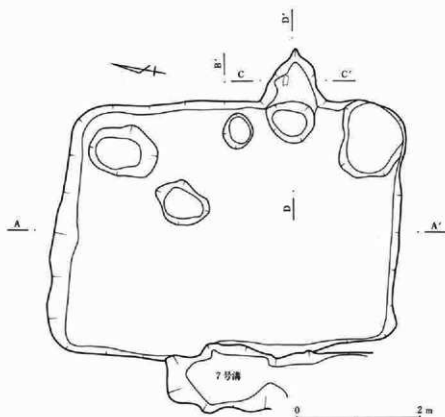
#### C区73号住居跡 (図版第333～335図、写真図版65-7・8、100)

52-C-26グリッドに位置し、重複関係はC区7号溝に先行する。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約5.5m、東西約4.0mで、面積は約21.7㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は20cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は検出されなかった。明確な柱穴は無いが、掘り方いくつかのピットが検出されており、どれかが相当するかもしれない。貯蔵穴は掘り方調査時に東壁隅に検出され、楕円形で長軸115cm、短軸100cm、深さ10cmを測る。掘り方は床面より約15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物は南壁から床面中央にかけてカマド周辺に僅かに認められる。

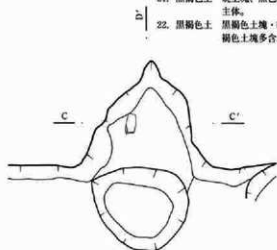
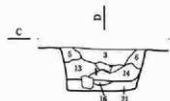
カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約56cm、奥行き約



第333図 C区73号住居跡図(1)



L=131.80



カマド

1. 暗褐色土 C F・焼土少含。
2. 暗褐色土 C F微含。
3. 暗褐色土 C F・ローム塊含む。
4. 赤褐色土 焼土塊多含。崩れ。
5. 暗褐色土 やや粘質。焼土塊多含。
6. 暗褐色土 焼土塊含む。
7. 暗褐色土 混入物少含。
8. 暗褐色土 C F・ローム塊・焼土少含。
9. 暗褐色土 やや粘質。焼土塊・炭化物含む。崩れ。
10. 暗褐色土 C F少含。焼土微含。
11. 淡黄褐色土 ロームの焼土化。崩れ。
12. 暗褐色土 10層に類似。灰・炭化物含む。
13. 黒褐色土 壁の崩れ。
14. 暗褐色土 やや粘質。焼土塊・黒色灰含む。
15. 暗褐色土 焼土・黒色灰少含。

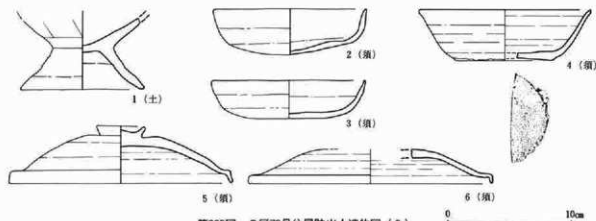
掘り方

16. 暗褐色土 ローム塊含む。
17. 暗褐色土 C F少含。
18. 黄褐色土 ローム塊。
19. 暗黄褐色土 暗褐色土とローム土混含。
20. 黒褐色土 やや粘質。C F少含。
21. 黒褐色土 焼土塊・黒色灰主体。
22. 黒褐色土 黒褐色土塊・暗褐色土塊多含。



第334図 C区73号住居跡図(2)





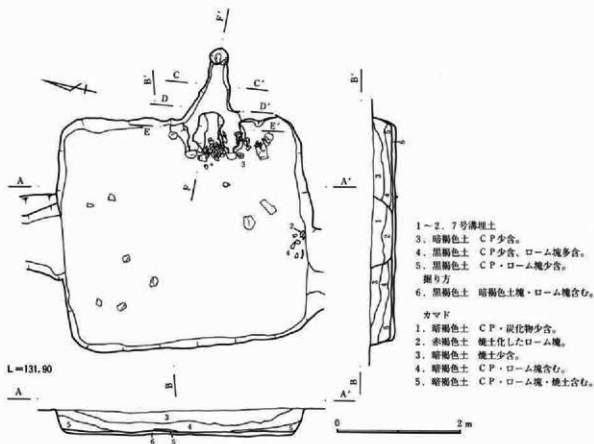
第335図 C区73号住居跡出土遺物図(3)

127cmで、煙道部は緩やかに住居外に約86cm程延びる。両袖は不明確である。カマド掘り方は深さ約12～22cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は熱焼部から多数出土している。

住居跡の廃絶時期は遺物から8～9世紀と考えられる。

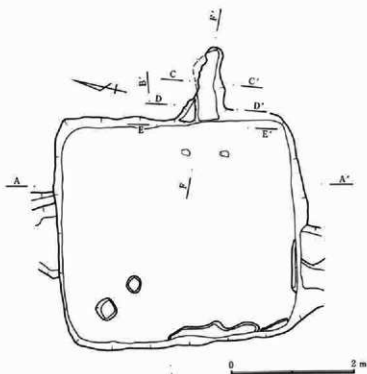
**C区74号住居跡** (図版第336～338図、写真図版66-1-4、100)

53-C-23グリッドに位置し、重複関係はC区7号溝に先行する。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模は南北約4.0m、東西約3.6mで、面積は約15.1㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約33cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝は掘り方調査時に西壁と南壁の一部で幅25cm、深さ3cmの規模で検出された。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は掘り方調査時に北西隅に2基検出されている。掘

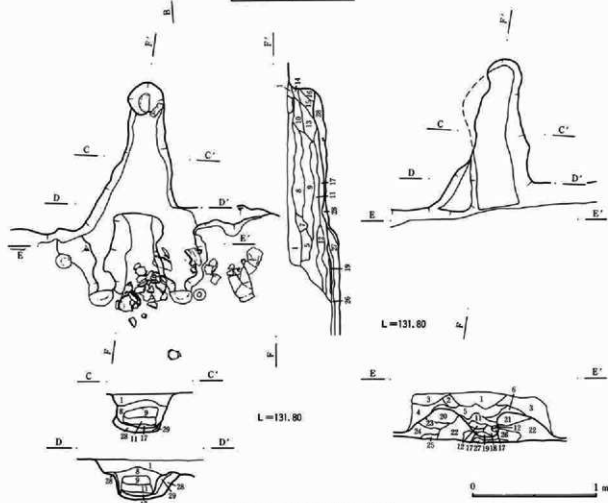


第336図 C区74号住居跡図(1)

- 1～2、7号溝埋土  
 3、暗褐色土 C P 少含。  
 4、黒褐色土 C P 少含、ローム塊多含。  
 5、黒褐色土 C P・ローム塊少含。  
 掘り方  
 6、黒褐色土 暗褐色土塊・ローム塊含む。
- カマド  
 1、暗褐色土 C P・炭化物少含。  
 2、赤褐色土 焼土化したローム塊。  
 3、暗褐色土 焼土少含。  
 4、暗褐色土 C P・ローム塊含む。  
 5、暗褐色土 C P・ローム塊・焼土含む。

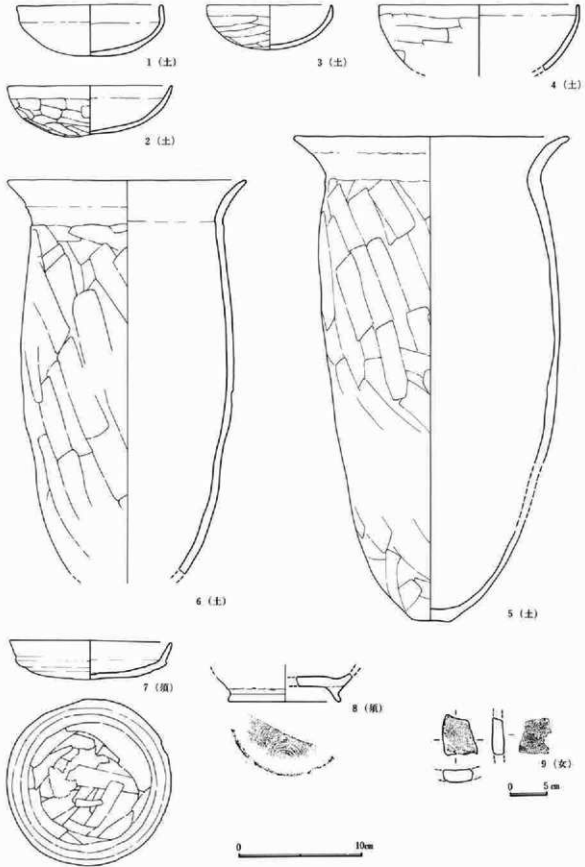


6. 淡黄褐色土 ローム塊・焼土少含。崩れ。
7. 暗褐色土 やや粘質。焼土塊含む。
8. 暗褐色土 オマド天井部。ローム土と暗褐色土で構成。
9. 暗褐色土 焼土・白色灰含む。
10. 暗褐色土 焼土・炭化物少含。
11. 暗褐色土 ローム塊・焼土塊含む。
12. 暗褐色土 焼土化したローム塊。白色灰主体。
13. 暗褐色土 やや粘質。焼土少含。
14. 暗褐色土 焼土多含。白色灰少含。
15. 暗褐色土 焼土塊・炭化物少含。
16. 暗褐色土
17. 暗褐色土 焼土・白色灰含む。
18. 淡黄褐色土 焼土化したローム塊。
19. 赤褐色土 焼土・黑色灰多含。
20. 黒褐色土 焼土僅含。
21. 黒褐色土 粘質。焼土僅含。袖。
22. 淡黄褐色土 ローム塊。
23. 暗褐色土 ローム塊含む。
24. 暗褐色土 C P 少含。
25. 暗黄褐色土 ローム塊主体。C P 含む。
26. 暗褐色土 ローム塊・白色灰塊含む。
27. 黒褐色土 やや粘質。焼土少含。
28. 黒褐色土 粘質。ローム塊含む。
29. 黒褐色土 やや粘質。焼土少含。



第337図 C区74号住居跡図(2)

第1節 古墳時代後期～平安時代



第338図 C区74号住居跡出土遺物図(3)

り方は床面より約5cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。出土遺物はカマドの右袖付近から南東隅にかけて多量に認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃烧部幅約47cm、奥行き約176cmで、煙道部は緩やかに住居外に約107cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は深さ約8cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃烧部から袖付近を中心に出土している。

住居跡の廃絶時期は遺物から7～8世紀と考えられる。

**C区75号住居跡** (図版第339～342図、写真図版66-5-8、67-1、100、101)

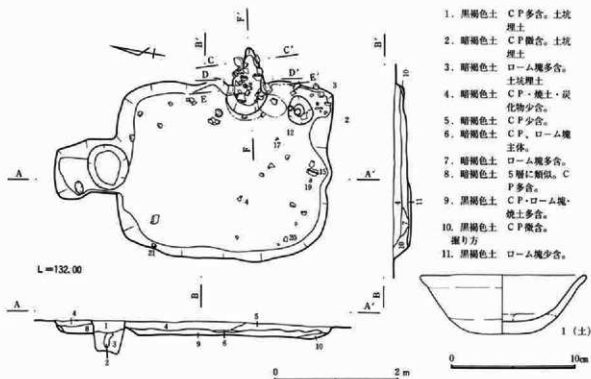
59-C-21グリッドに位置し、重複関係は無い。平面形態は長方形を呈するが、北壁のほぼ中央部分で北に長方形の張り出しをもつ。規模は南北約3.4m、東西約2.7mで、面積は約10.1㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁溝は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に長軸約50cm、短軸約40cm、深さ約30cmの規模で検出された。柱穴は掘り方調査時に南西隅付近に直径40cm、深さ15cmの規模で1基検出された。掘り方は床面より5cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はカマド周辺を中心に住居全域で認められる。

カマドは東壁の中央からやや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃烧部幅約43cm、奥行き約114cmで、煙道部は緩やかに住居外に約56cm程延びる。両袖は残存し、石を構築材とする。カマド掘り方は深さ約12cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物は燃烧部から煙出し部分にかけて出土している。

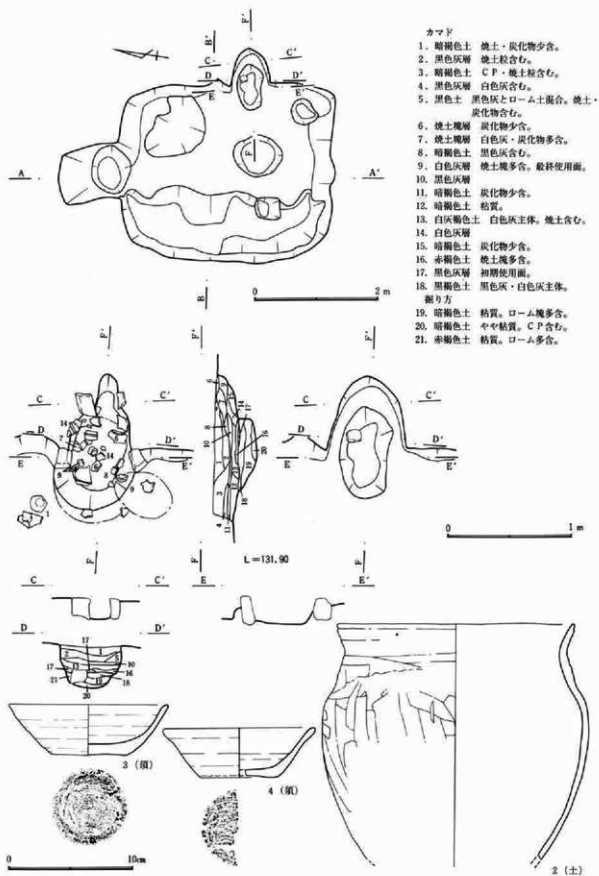
住居跡の廃絶時期は遺物から10世紀と考えられる。

**C区76号住居跡** (図版第343～344図、写真図版67-2)

44-C-32グリッドに位置し、重複関係は北壁の一部が土坑に壊されている。長方形を呈し、規模は南北約2.8m、東西約3.1mで、面積は約8.6㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は約30cmを測

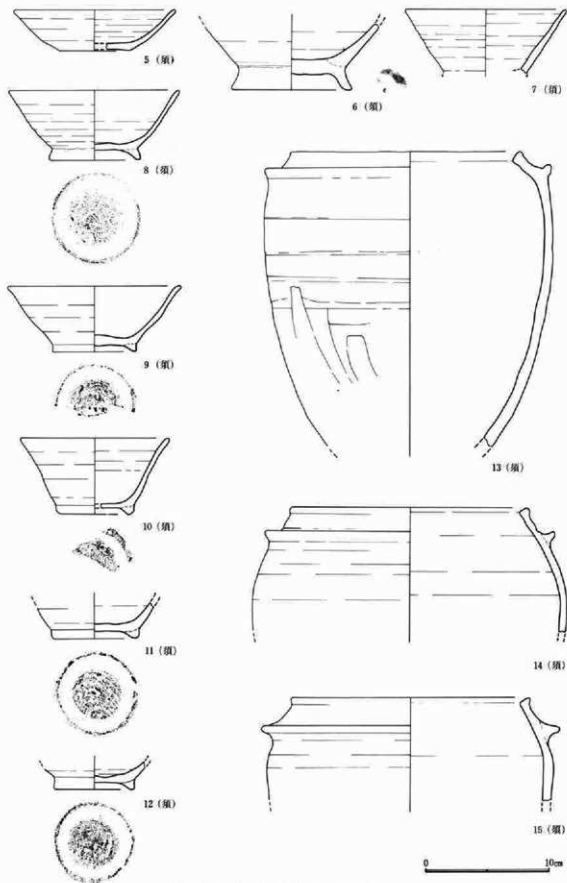


第339図 C区75号住居跡図・出土遺物図(1)



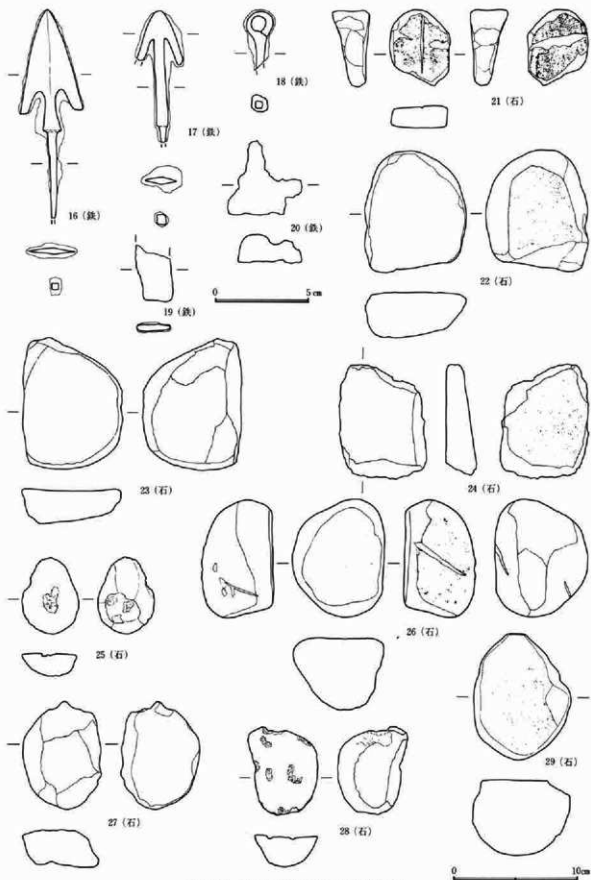
第340図 C区75号住居跡面・出土遺物面(2)

第3章 検出された遺構・遺物



第341図 C区75号住居跡出土遺物図(3)

第1節 古墳時代後期～平安時代



第342図 C区75号住居跡出土遺物図(4)

り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴はその存在が不明である。掘り方は床面より約10cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。遺物はほとんど認められない。

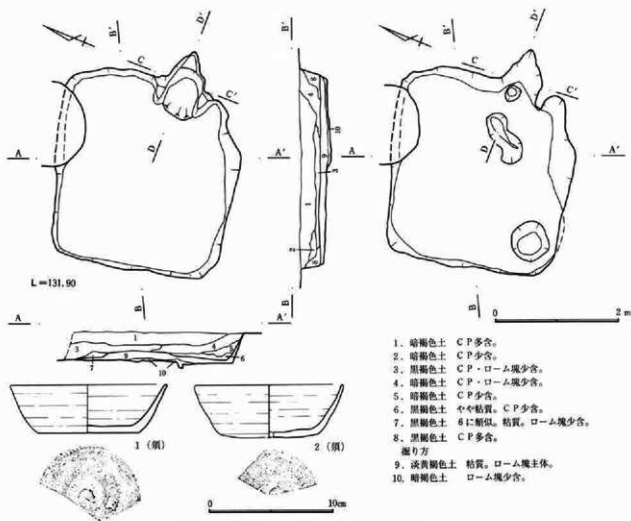
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約48cm、奥行き約110cmで、煙道部は緩やかに住居外に約56cm程延びる。両袖は残存し、粘質土を構築材とする。遺物はほとんど認められない。

住居跡の廃絶時期は遺物から8世紀と考えられる。

**C区77号住居跡** (図版第345図、写真図版67-3、101)

42-C-32グリッドに位置し、重複関係は無いが、中群馬用水の迂回からの擾乱により一部が壊されている。平面形態は長方形を呈し、規模は南北約3.6m、東西約3.0mで、面積は約11.3㎡を測る。床面は貼床が施され、堅く平坦である。壁高は40cmを測り、ほぼ直線的に垂直に立ち上がる。壁溝、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方は床面より約15cm程掘り込み、ロームを主体に貼り床を施している。出土遺物はカマド周辺に僅かに認められる。

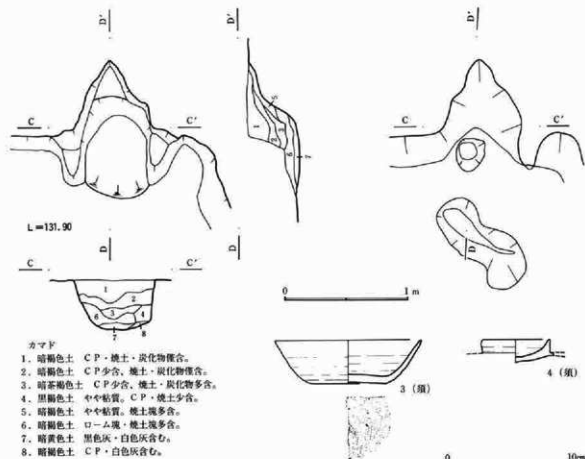
カマドは東壁の中央から南寄りに位置し、遺存状態は良好である。規模は燃焼部幅約44cmで、煙道部は緩やかに住居外に約90cm程延びる。両袖は残存し、ロームを構築材とする。カマド掘り方は深さ約4-10cm程掘り込んだ後、土で埋め戻している。遺物はほとんど認められない。



- 1. 暗褐色土 C P 多含。
- 2. 暗褐色土 C P 少含。
- 3. 黒褐色土 C P・ローム塊少含。
- 4. 暗褐色土 C P・ローム塊少含。
- 5. 暗褐色土 C P 少含。
- 6. 黒褐色土 やや粘質。C P 少含。
- 7. 黒褐色土 6 に類似。粘質。ローム塊少含。
- 8. 黒褐色土 C P 多含。
- 掘り方
- 9. 淡黄褐色土 粘質。ローム塊主体。
- 10. 暗褐色土 ローム塊少含。

第343図 C区76号住居跡図・出土遺物図(1)





第344図 C区76号住居跡・出土遺物図(2)

住居跡の廃絶時期は遺物から7～8世紀と考えられる。

#### C区1号溝 (図版第346図、写真図版67-4)

本遺構は、33-C-04-32-C-01グリッドに位置し、重複関係は不明である。南北方向の走行であるが、南側が農道部分に延びるために不明である。断面の形状はかまぼこ形を呈し、幅2.5m、深さ36cmを測る。

#### C区2号溝 (図版第346図、写真図版67-5)

本遺構は、33-C-09-32-C-04グリッドに位置し、重複関係はC区6号住居跡に後行する。南北方向に走行する。

#### C区3号溝 (図版第346図、写真図版102)

本遺構は、33-C-09-36-C-10グリッドに位置し、重複関係は不明である。東西方向に走行する。断面の形状はかまぼこ形を呈し、幅44cm、深さ28cmを測る。

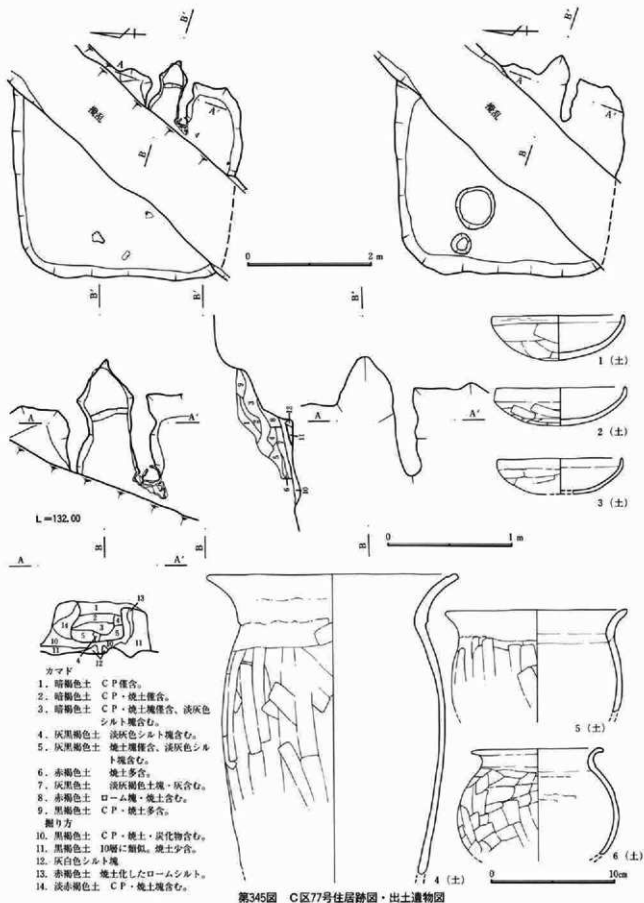
#### C区4号溝 (図版第347図、写真図版67-6、102)

本遺構は、35-C-05-35-C-01グリッドに位置し、重複関係はC区1号住居跡に後行するが、C区5号溝との前後関係は不明である。南北方向に走行する。

#### C区5号溝 (図版第347図)

本遺構は、35-C-01グリッド付近に位置し、重複関係はC区1号住居跡より後行するが、C区4号溝との切り合い関係が不明である。南北方向に走行する。

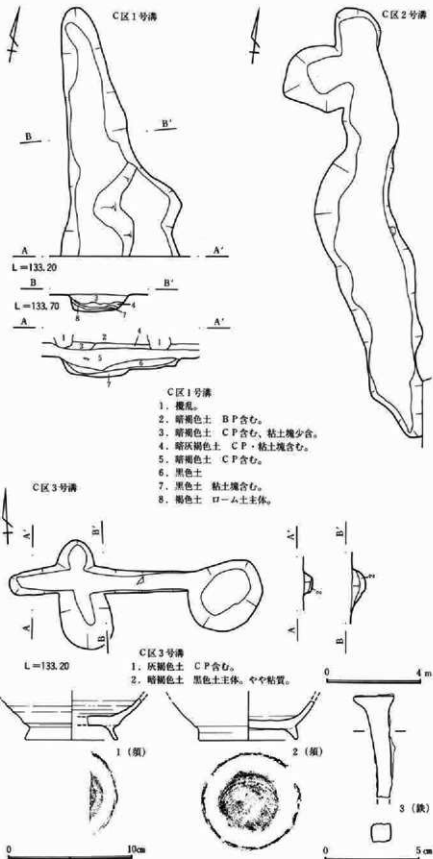
第3章 検出された遺構・遺物



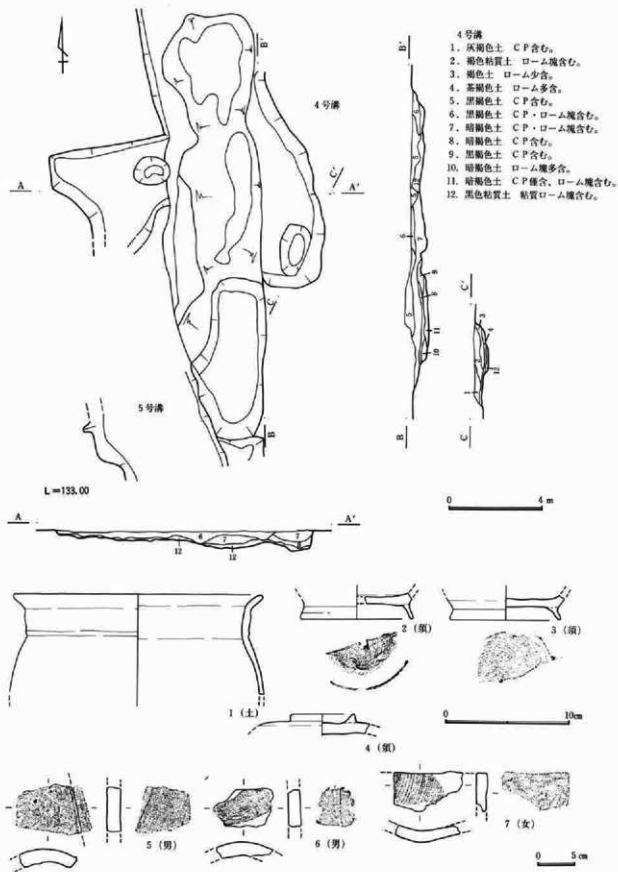
第345図 C区77号住居跡面・出土遺物図

C区6号溝(図版第348・  
349図、写真  
図版67-  
7、102)

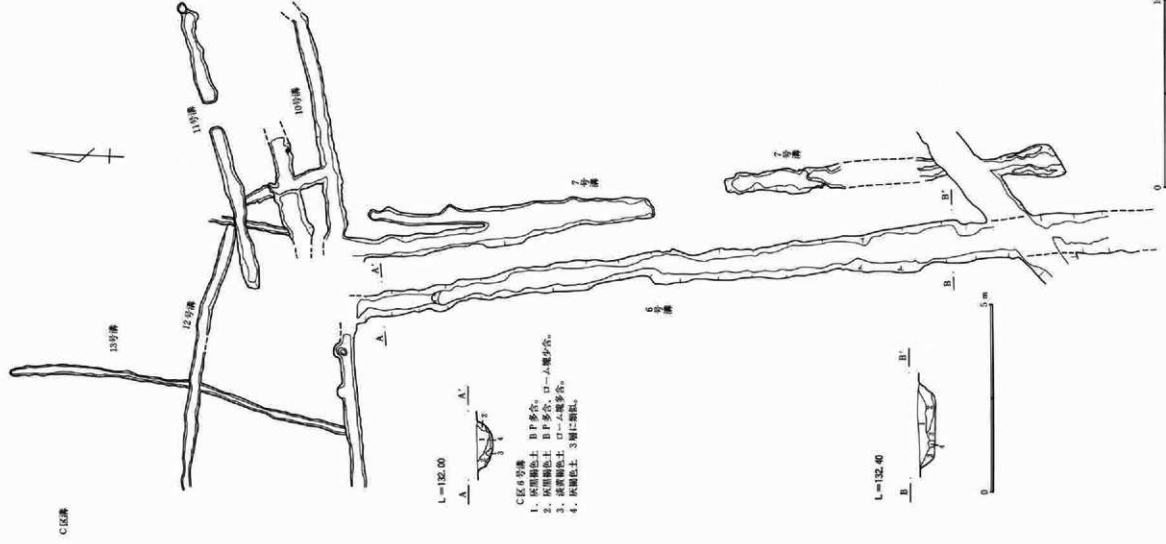
本遺構は、57-C-36～  
52-C-02グリッドに位置  
し、重複関係はC区48号住  
居跡、C区71号住居跡に後  
行するが、C区10号溝との  
前後関係は不明である。南  
北方向に走行する。規模は  
幅2.4m、深さ0.5mを測  
る。南に延長した部分にB  
区6号溝が位置することか  
ら、あるいは同一遺構かも  
知れない。また、C区7号  
溝とはほぼ平行して走行す  
ることや、C区10号溝やC区  
11号溝とはほぼ直交するこ  
となどから、B区の溝でも指  
摘したように、道などの遺  
構に伴う溝なのかもしれない。



第346図 C区1・2・3号溝図・出土遺物図



第347図 C区4・5号溝図・出土遺物図



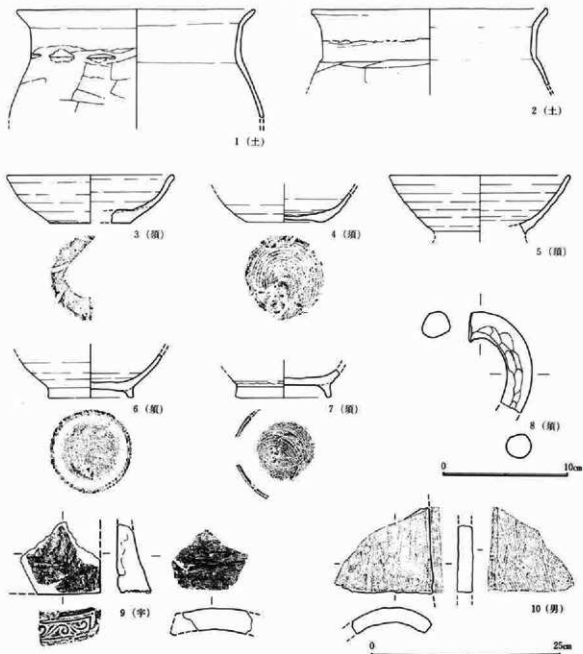


## C区7号溝 (図版第348図、写真図版67-7、102)

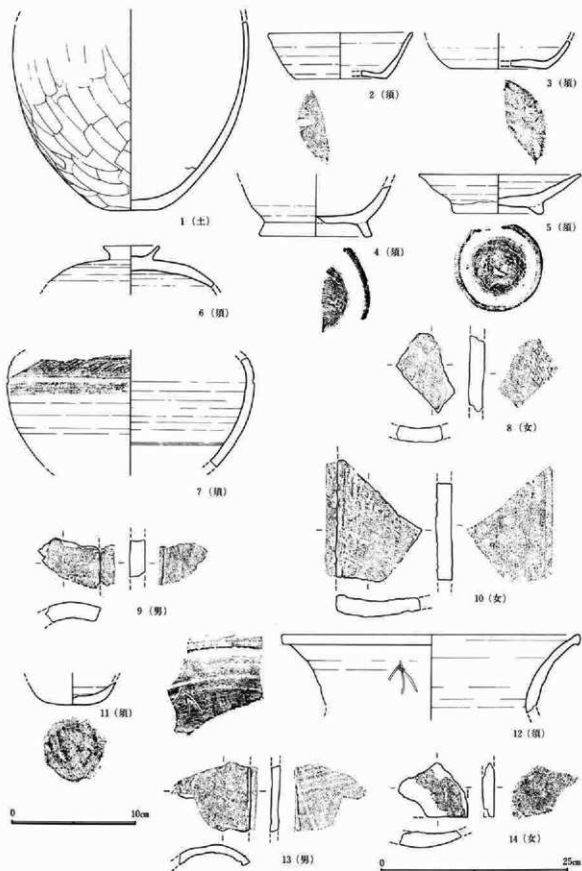
本遺構は、55-C-37~51-C-46グリッドに位置し、重複関係はC区45号住居跡、C区74号住居跡より後行するが、C区10号溝、C区11号溝、C区12号溝と切り合うもの、前後関係は不明である。南北方向に走行する。規模は幅2.0mを測る。C区6号溝でも指摘するように、ほぼ平行して走行することなどから、B区の溝でも指摘したように、道などの遺構に伴う溝なのかもしれない。

## C区8号溝 (図版第351図)

本遺構は、38-C-12~38-C-09グリッドに位置し、重複関係はC区13号土坑、C区9号溝と切り合うもの、前後関係は不明である。南北方向に走行する。規模は幅92cmを測る。

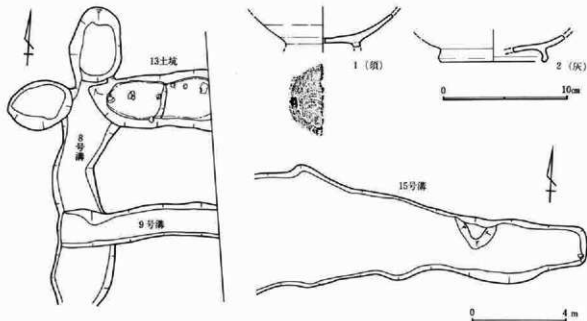


第349図 C区6号溝出土遺物図(2)



第350図 C区7・11・14号溝出土遺物図(2)





第351図 C区8・9・15号溝図・出土物図

**C区9号溝** (図版第351図)

本遺構は、37-C-10-38-C-10グリッドに位置し、重複関係はC区8号溝と切り合うものの、前後関係は不明である。東西方向の走行であるが、東側が調査区域外に延びているために、規模は幅68cmを測る。

**C区10号溝** (図版第348図)

本遺構は、49-C-38-61-C-36グリッドに位置し、重複関係はC区58号住居跡、C区64号住居跡より後行するが、C区11号溝との関係が不明である。東西方向に走行する。規模は幅1.0mを測る。C区11号溝とはほぼ平行であり、さらにC区6号溝やC区7号溝と直交する形であることから、走行方向が東西と南北のそれぞれが関連する遺構と考えられるかもしれない。

**C区11号溝** (図版第348・350図、写真図版102)

本遺構は、49-C-41-56-C-39グリッドに位置し、重複関係ではC区10号溝との関係が不明である。東西方向に走行する。規模は幅1.0mを測る。C区10号溝とはほぼ平行して走行することから、道などの遺構に伴う溝なのかもしれない。

**C区12号溝** (図版第348図)

本遺構は、55-C-40-62-C-41グリッドに位置し、重複関係はC区13号溝との切り合い関係が不明である。東西方向に走行する。規模は幅0.6mを測る。C区10号溝やC区11号溝とやや走行方向がずれている。C区12号溝とはほぼ直交している。

**C区13号溝** (図版第348図)

本遺構は、59-C-45-50-C-07グリッドに位置し、重複関係はC区12号溝との切り合い関係が不明である。東西方向に走行する。規模は幅0.5mを測る。C区6号溝やC区7号溝とやや走行方向がずれている。C区12号溝とはほぼ直交している。

**C区14号溝** (図版第350図、写真図版102)

本遺構は、49-C-12-50-C-07グリッドに位置し、重複関係は無い。東西方向に走行する。

第3章 検出された遺構・遺物

C区15号溝 (図版第351図)

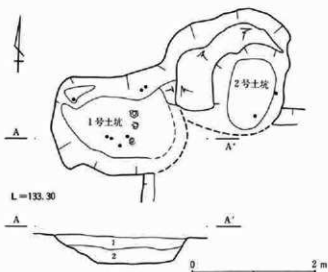
本遺構は、44-C-03-49-C-03グリッドに位置し、重複関係はC区2号住居跡に後行する。東西方向に走行する。規模は幅2.4mを測る。

C区1号土坑 (図版第352・353図、写真図版67-8、102)

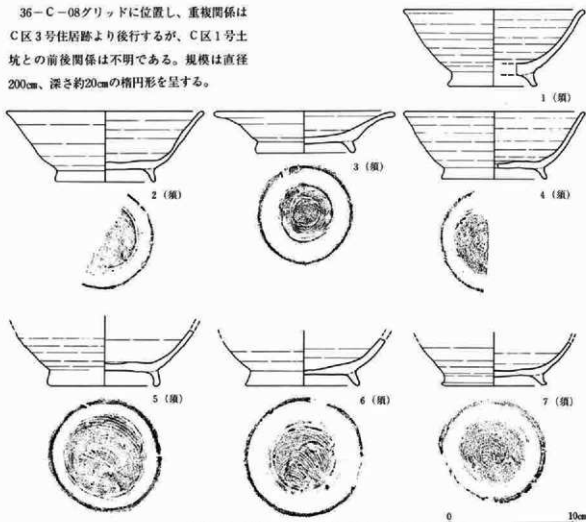
37-C-07グリッドに位置し、重複関係はC区3号住居跡より後行するが、C区2号土坑との前後関係は不明である。規模は長軸215cm、短軸155cm、深さ45cmの楕円形を呈する。

C区2号土坑 (図版第352・353図、写真図版67-8)

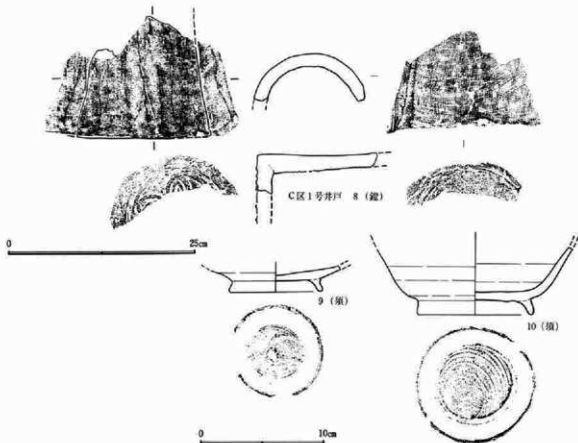
36-C-08グリッドに位置し、重複関係はC区3号住居跡より後行するが、C区1号土坑との前後関係は不明である。規模は直径200cm、深さ約20cmの楕円形を呈する。



1号土坑  
1. 暗灰褐色土 CP多含。  
2. 暗灰褐色土 ローム堆含む。



第352図 C区1・2号土坑図・出土遺物図(1)



第353図 C区1・2号土坑・1号井戸出土遺物図(2)

C区3号土坑 (図版第354～357図、写真図版68-1、103、104)

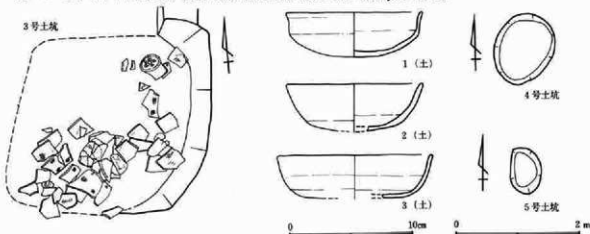
55-C-01グリッドに位置し、重複関係はC区29号住居跡より後行する。規模は長軸153cm、短軸140cm、深さ24cmの隅丸長方形を呈する。多量の瓦が出土している。

C区4号土坑 (図版第354図、写真図版68-2)

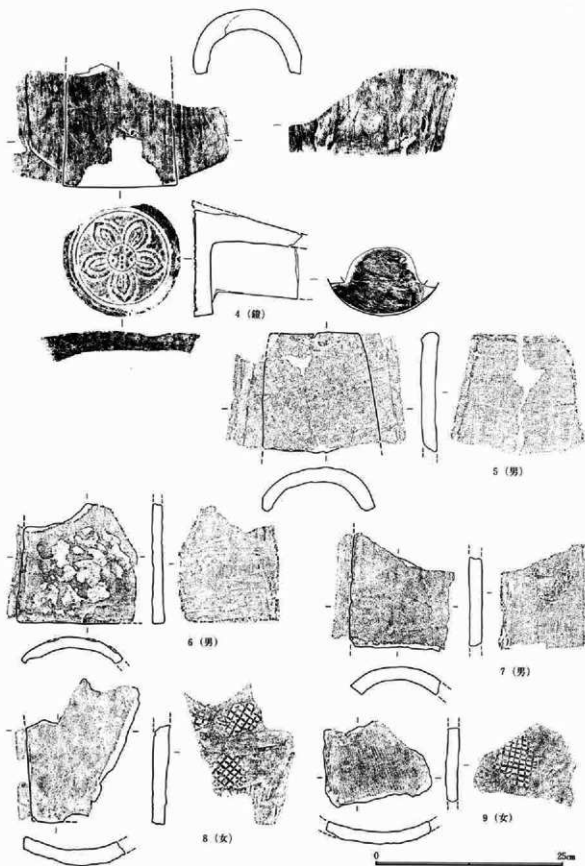
65-C-40グリッドに位置し、長軸110cm、短軸95cm、深さ14cmの楕円形を呈する。

C区5号土坑 (図版第354図、写真図版68-2)

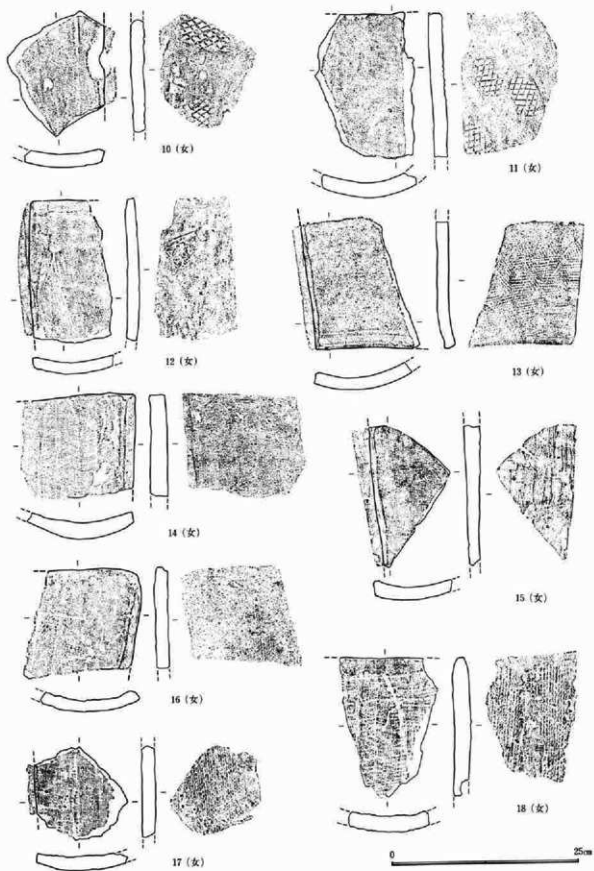
64-C-41グリッドに位置し、長軸70cm、短軸50cm、深さ11cmの楕円形を呈する。



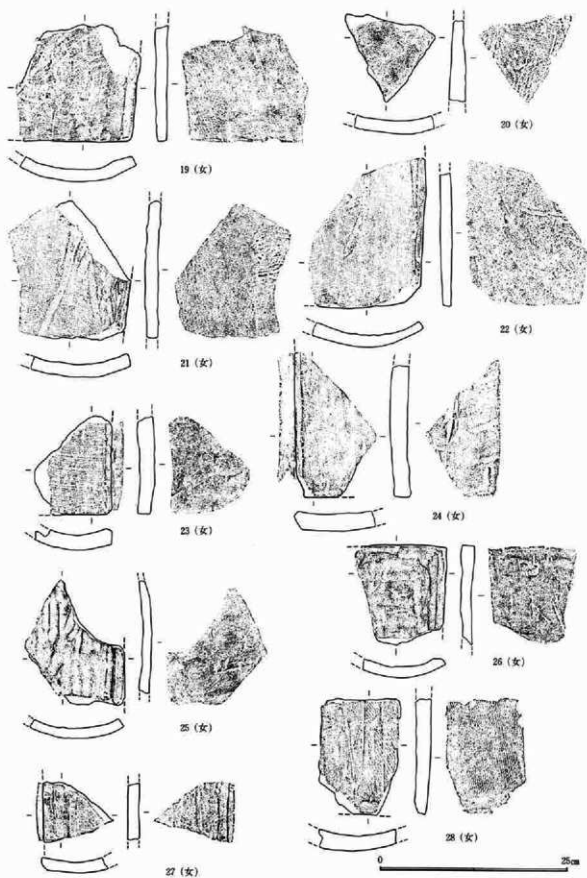
第354図 C区3・4・5号土坑図・出土遺物図(1)



第355図 C区3号土坑出土遺物図(2)

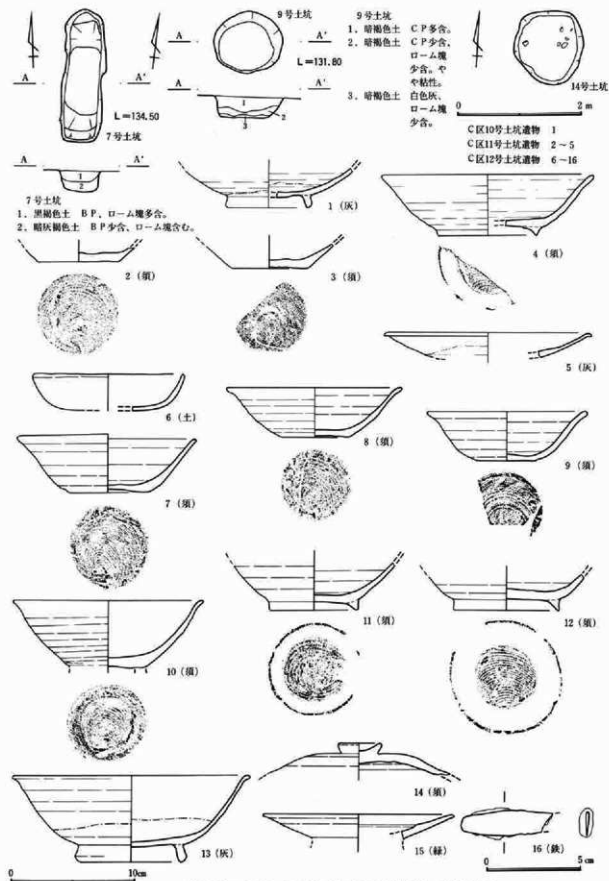


第356図 C区3号土坑出土遺物(3)



第357図 C区3号土坑出土遺物図(4)

第1節 古墳時代後期～平安時代



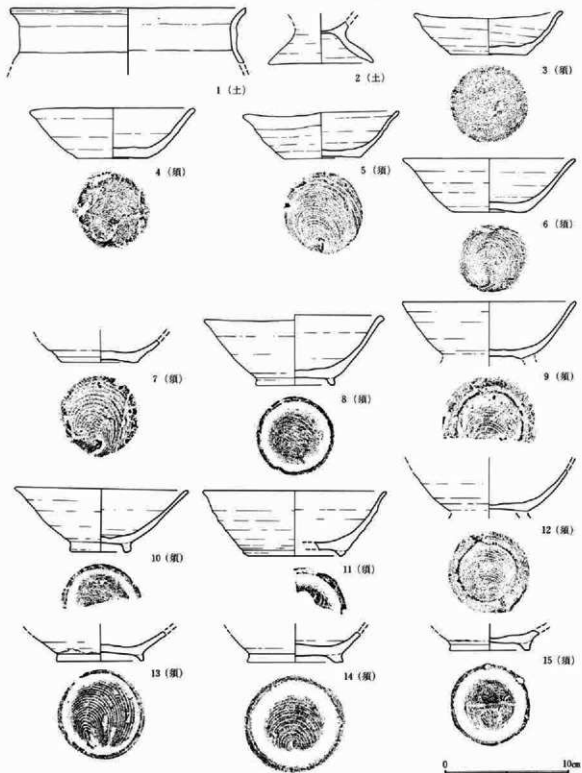
第358図 C区7・9・10・11・12・14号土坑内・出土遺物図

C区7号土坑 (図版第358図)

59-C-06グリッドに位置し、長軸210cm、短軸65cm、深さ35cmの隅丸長方形を呈する。

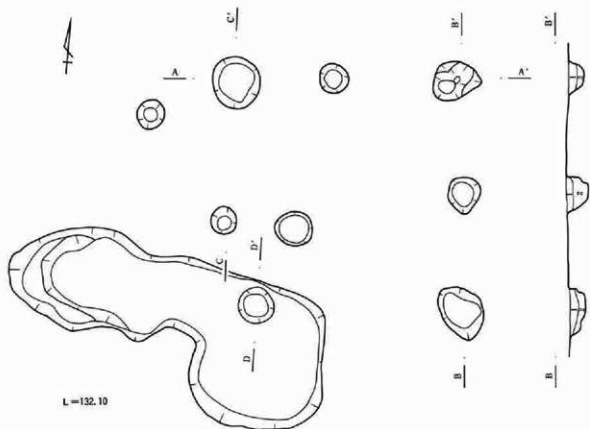
C区9号土坑 (図版第358図)

48-C-29グリッドに位置し、長軸110cm、短軸100cm、深さ50cmの楕円形を呈する。

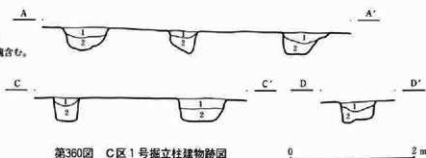


第358図 C区13号土坑出土遺物図





1. 暗褐色土 C P・ローム混含む。  
2. 暗褐色土 C P少含む、ローム混含む。



第360図 C区1号掘立柱建物跡図

**C区12号土坑** (図版第358図、写真図版105)

位置が不明である。

**C区13号土坑** (図版第359図、写真図版105)

37-C-11グリッドに位置し、重複関係はC区8号溝と認められるが、前後関係は不明である。規模は長軸190cm、短軸80cm、深さ30cmの楕円形を呈する。

**C区14号土坑** (図版第358図、写真図版68-3)

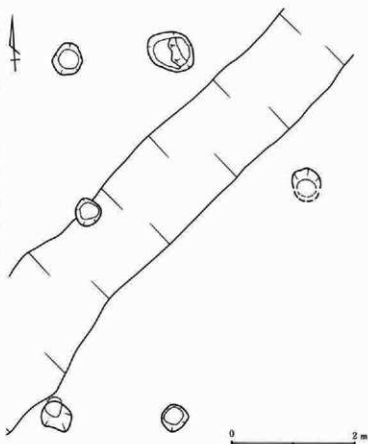
52-C-28グリッドに位置し、長軸115cm、短軸110cm、深さ15cmの楕円形を呈する。

**C区1号掘立柱建物跡** (図版第360図、写真図版68-4)

39-C-04グリッドに位置し、重複関係は無い。規模は、桁行2間(約4.4m)、梁行2間(約4.3m)と考えられ、床面積は推定で約19m<sup>2</sup>を測る。柱間寸法は、桁行で約6尺、梁行で約5～6尺を測る。柱穴の形態は円形を呈し、規模は直径約50～70cm、深さ約40cmを測る。柱穴が並ばない部分も認められることから、掘立柱建物跡と言えない可能性もある。

C区2号掘立柱建物跡 (図版第361  
図、写真図版  
68-5)

本建物跡は、50-C-23グリッドに位置し、重複関係は無い。規模は、桁行2間(約6.3m)、梁行2間(約4.3m)と考えられ、床面積は推定で約27㎡を測る。柱間寸法は、桁行で約8尺、梁行で約6尺を測る。柱穴の形態は円形を呈し、規模は直径約40-70cm、深さ約15-45cmを測る。柱穴が並ばない部分や検出されない部分も存在することから、掘立柱建物跡と言えない可能性もある。



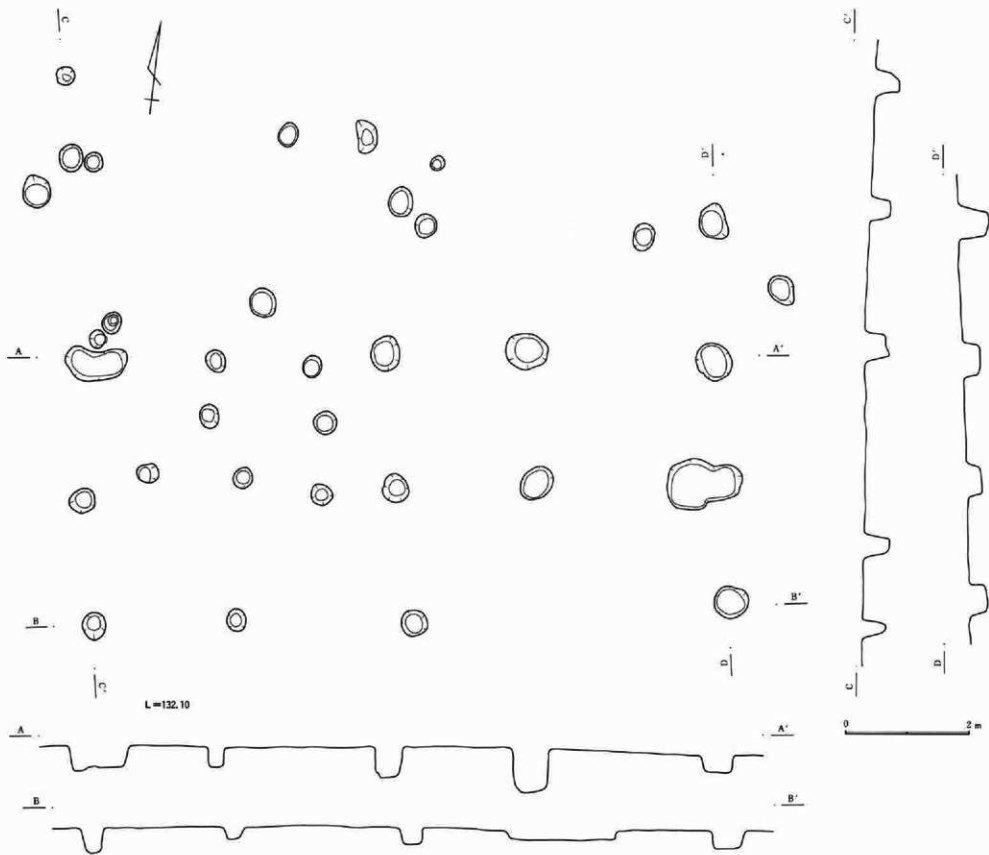
第361図 C区2号掘立柱建物跡

C区3号掘立柱建物跡 (図版第362図)

本建物跡は、50-C-30グリッドに位置し、重複関係は無い。規模は、桁行4間(約10.8m)、梁行3間(約6.6m)と考えられ、床面積は推定で約71.3㎡を測る。柱間寸法は、桁行で約8-10尺、梁行で約7-8尺を測る。柱穴の形態は円形から楕円形を呈し、規模は直径約30-60cm、深さ約20-70cmを測る。東側に多数の小さなピットが認められる点や柱穴が検出されない部分が存在する点から、他の掘立柱建物跡との重複関係があるのか、あるいは掘立柱建物跡そのものの存在が言えない可能性も考えられる。

C区1号井戸 (図版第363-401図、写真図版68-6-8、69-1-8、105-123)

56-C-04グリッドに位置し、重複関係は無い。形状は楕円形で、規模は長軸2.4m、短軸2.1m、深さ5.3mを測る。調査時には井戸枠などの構造や存在を示す痕跡は検出できなかった。断面では、部分にアグリが認められる。調査時の埋土の観察状況から一括埋没と考えられる。多数の石や瓦が組み合わされたように壁隙から検出されたことから、なんらかの構造物と考えられる。遺物は土師器や須恵器、それに瓦が多数出土している。これらの瓦については、第4章で詳しく述べることとする。



第362图 C区3号獨立柱建物跡圖



## 灰軸陶器

本遺跡から出土した灰軸陶器・緑軸陶器のうちの29点については、その産地について名古屋大学文学部の斎藤孝正氏に鑑定をお願いしたが、その結果を以下に記すこととする。

黒笹14号窯式（築投）段階3点

C区49号住居跡高台付椀・高台付皿、C区51号住居跡・耳皿

黒笹90号窯式（築投）段階3点

B区7号住居跡・水注（緑軸陶器）、C区52号住居跡・高台付椀、C区12号土坑・高台付段椀

篠岡4号窯式（黒笹90号窯式とほぼ同一段階）、濃北（小牧市）1点

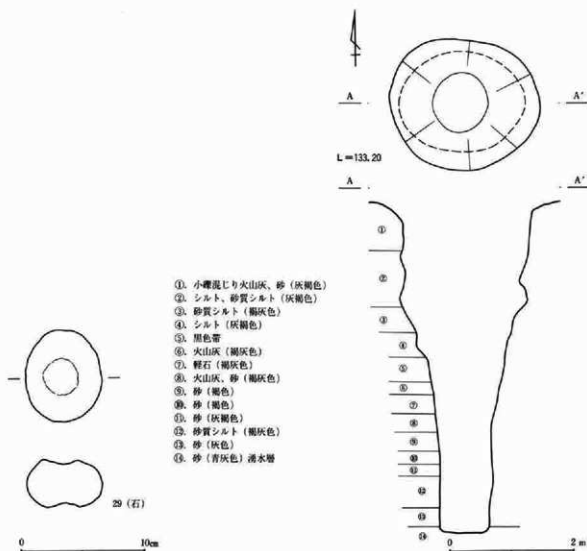
B区27号住居跡・高台付皿

光ヶ丘1号窯式（黒笹90号窯式とほぼ同一段階）16点

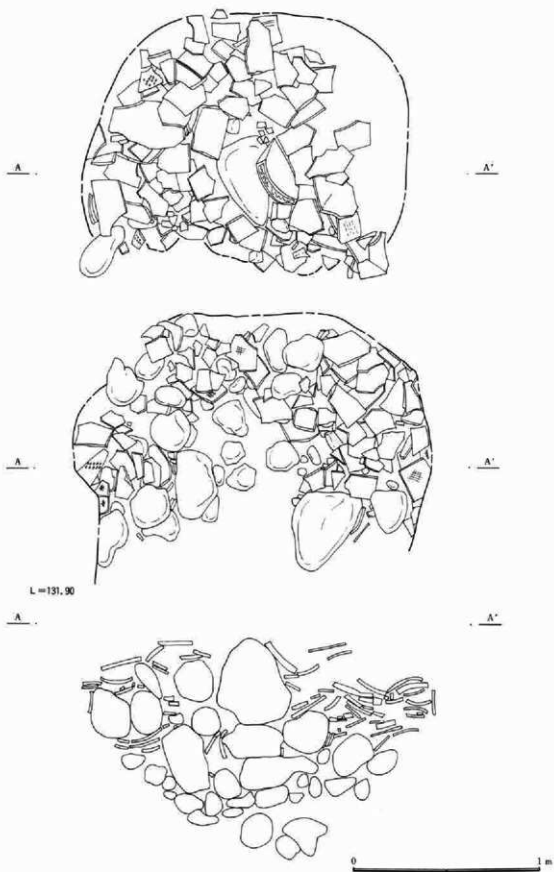
A区旧河道・高台付椀、B区7号住居跡・高台付椀、B区27号住居跡・瓶、B区38号住居跡・高台付段皿、

B区12号溝・高台付椀、C区11号住居跡・高台付椀、C区12号住居跡・高台付段皿、C区13号住居跡・高台

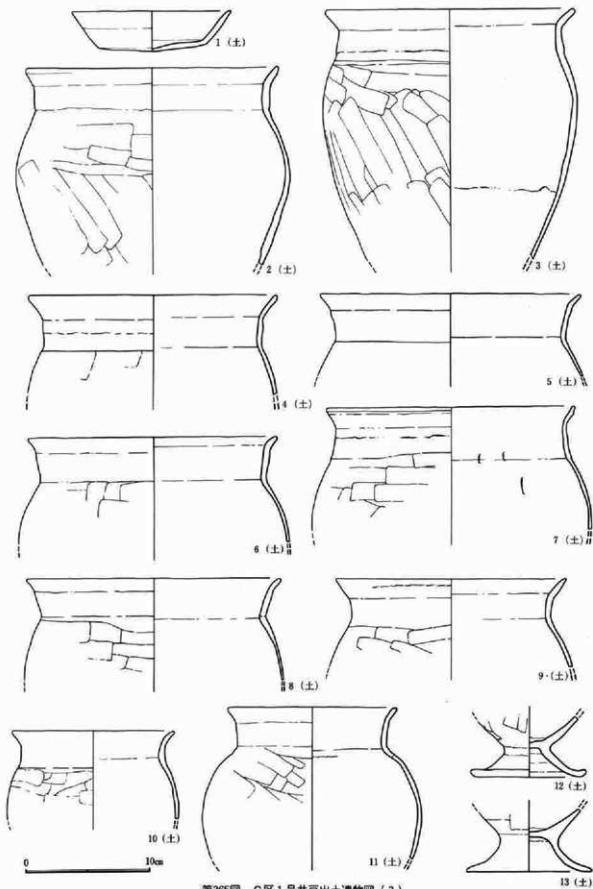
付皿、C区14号住居跡・高台付段皿、C区46号住居跡・高台付椀、C区49号住居跡・高台付椀・高台付皿、



第363図 C区1号井戸面・出土遺物図(1)

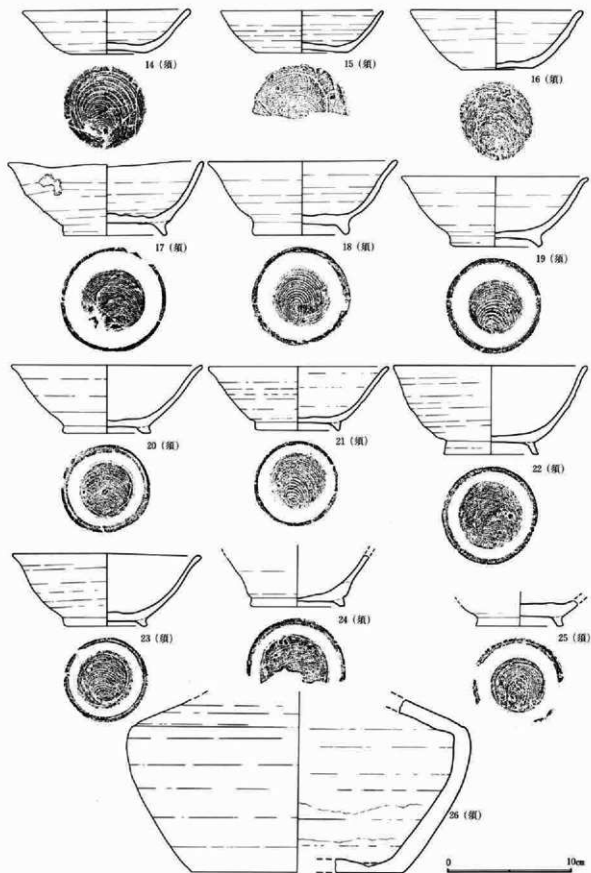


第364図 C区1号井戸図(2)



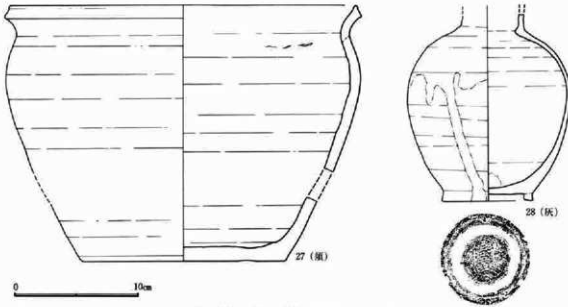
第365図 C区1号井戸出土遺物図(3)

第3章 検出された遺構・遺物



第366図 C区1号井戸出土遺物図(4)





第367図 C区1号井戸出土遺物図(5)

C区12号土坑・高台付椀、C区1号井戸・壺、C区一括・高台付皿

光ヶ丘1号窯式～大原2号窯式段階2点

B区7号住居跡・耳皿、C区11号住居跡・耳皿

大原2号窯式段階2点

B区地下式土坑・瓶、C区37号住居跡・高台付椀

虎浜山1号窯式段階1点

B区6号住居跡・高台付皿

丸石2号窯式段階1点

B区84号住居跡・高台付椀

以上のことから、その大部分が光ヶ丘1号窯式に集中している傾向が認められる。

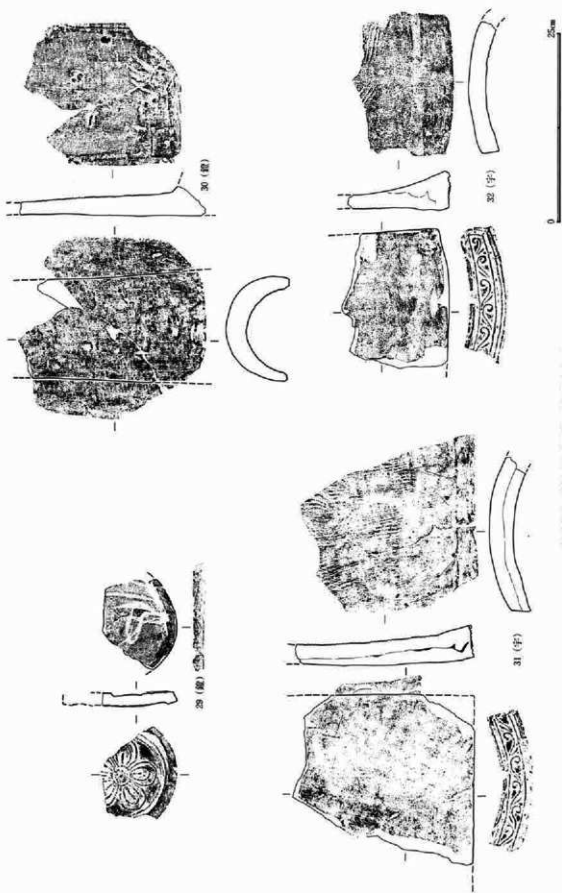
ここで猿投窯を中心とした灰輪陶器の研究の現状についてまとめてみることにする。

まず、猿投と東美濃での編年とその対比関係はおおまかには下記の通りである。

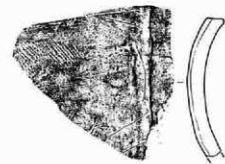
猿投(愛知県名古屋市中・豊田市周辺) 尾北(愛知県小牧市・春日井市付近) 美濃(岐阜県多治見市周辺)

黒笹14号窯式	篠岡47号窯式	
黒笹90号窯式	篠岡4号窯式	光ヶ丘1号窯式
折戸53号窯式	篠岡4号窯式	大原2号窯式
東山72号窯式(前川編年の第4段階)	篠岡27号窯式	虎浜山1号窯式
百代寺窯式(※第5段階)	篠岡1号窯式	丸石2号窯式
(※第6段階)	(大原10) 1080年	
H-G-105	西坂1号窯式	

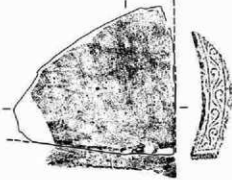
前川編年とは、椀・皿類の型式分類を中心に、折戸53号窯式・東山72号窯式・百代寺窯式を一括して折戸53号窯式とし、その全体を六段階に分類するとともに、第1段階の開始年代を900年頃に設定し、各段階の時間幅をそれぞれ30年と想定したものである。これから逆算すると、黒笹14号窯式や黒笹90号窯式は少なくとも9世紀代に遡ることになる。



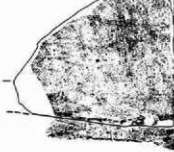
第368図 C区1号井戸出土遺物図(6)



34 (字)



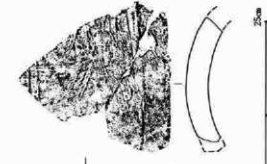
35 (字)



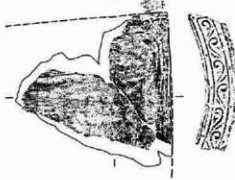
36 (字)



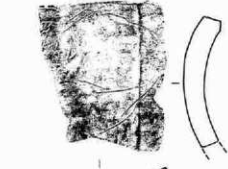
37 (字)



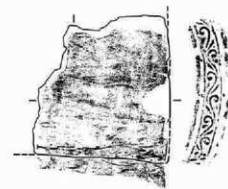
38 (字)



39 (字)



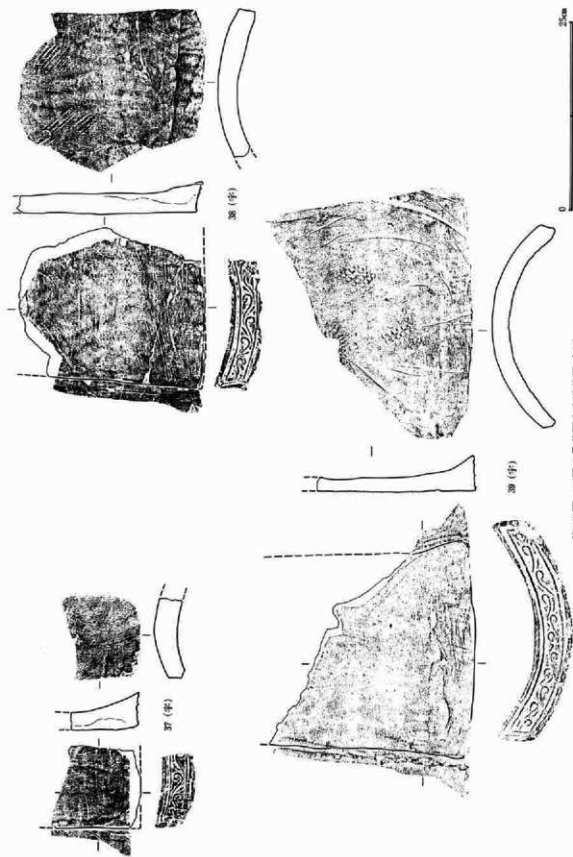
40 (字)



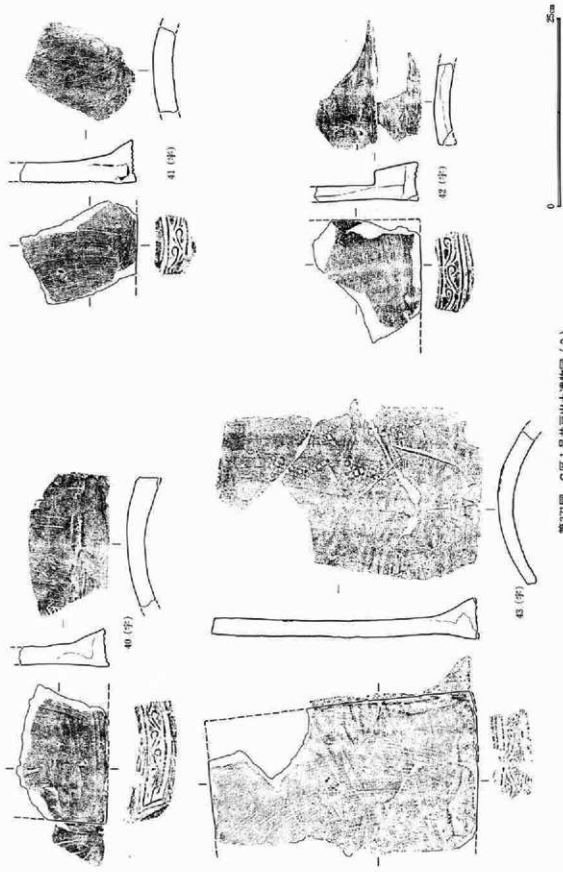
41 (字)



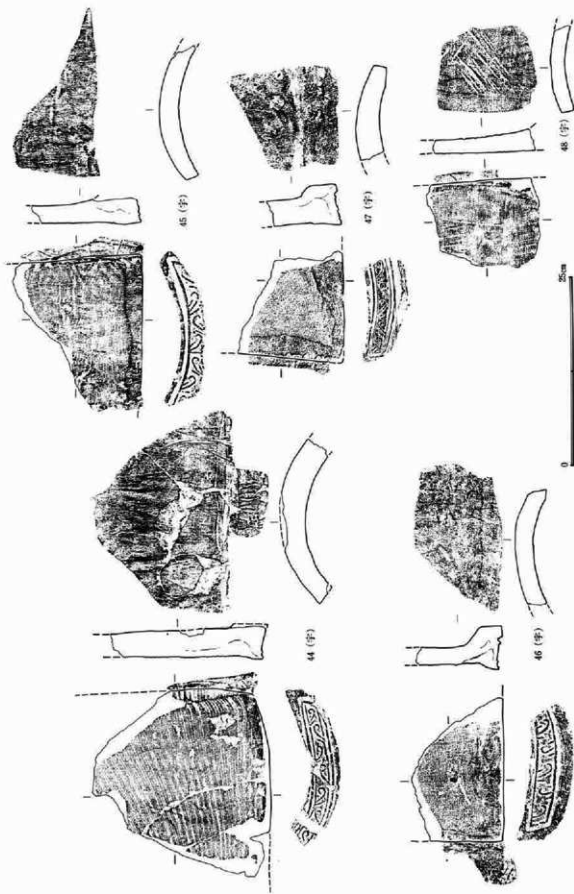
第369図 C区1号井戸出土遺物図(7)



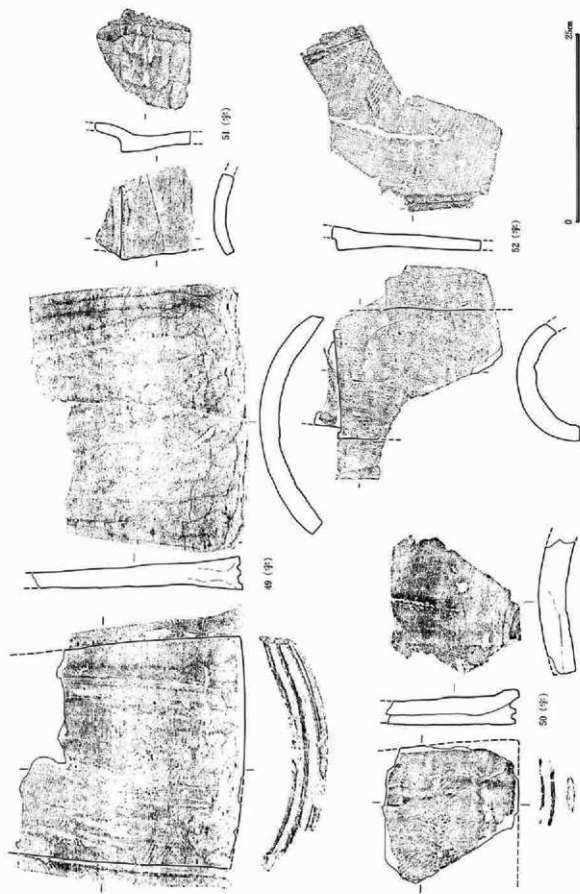
第370図 C区1号井戸出土遺物図(8)



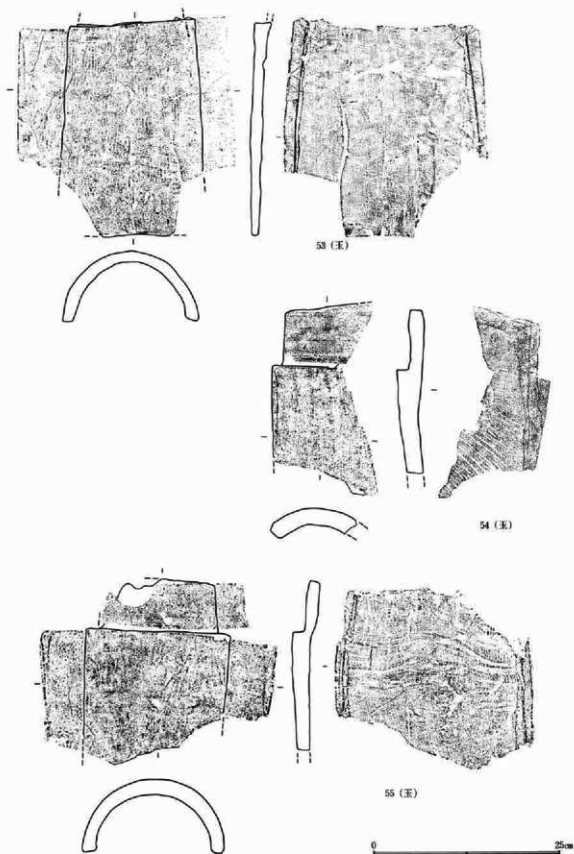
第371圖 C区1号井戸出土遺物(9)



第372図 C区1号井戸出土遺物図(10)

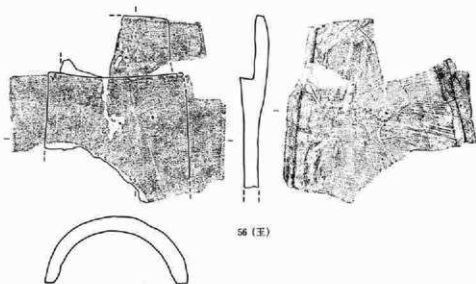


第375圖 C区1号井戸出土遺物図(11)

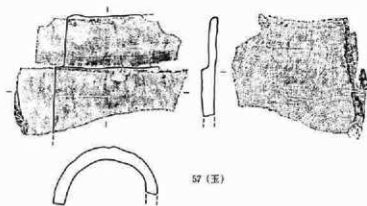


第374図 C区1号井戸出土遺物図(12)

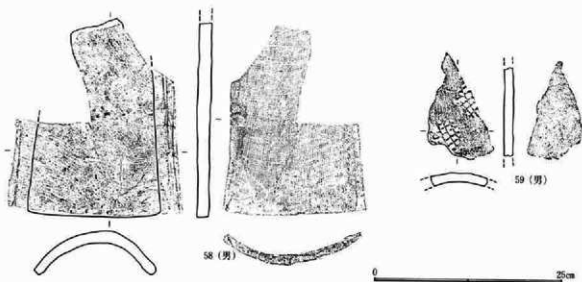




56 (玉)



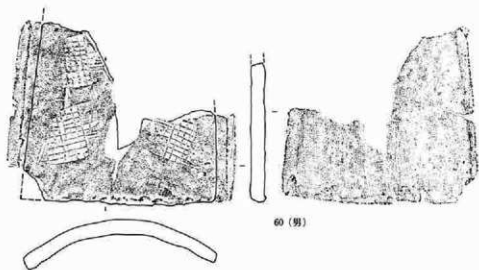
57 (玉)



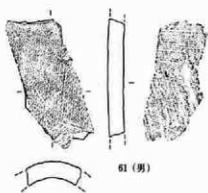
58 (男)

59 (男)

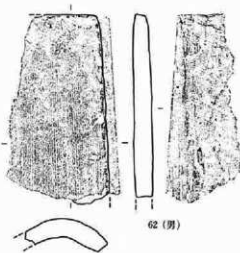
第375図 C区1号井戸出土遺物図 (13)



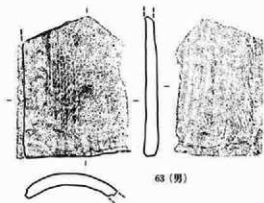
60 (男)



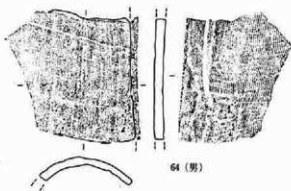
61 (男)



62 (男)



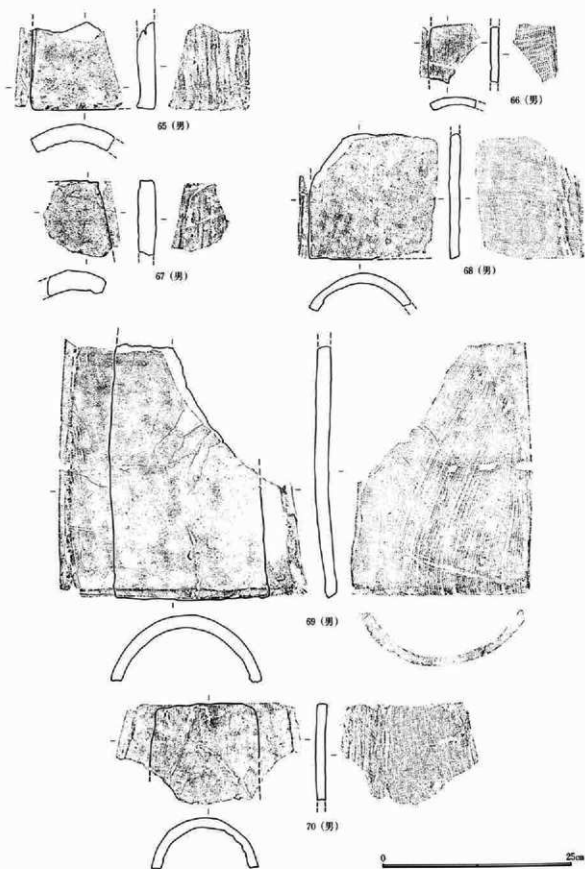
63 (男)



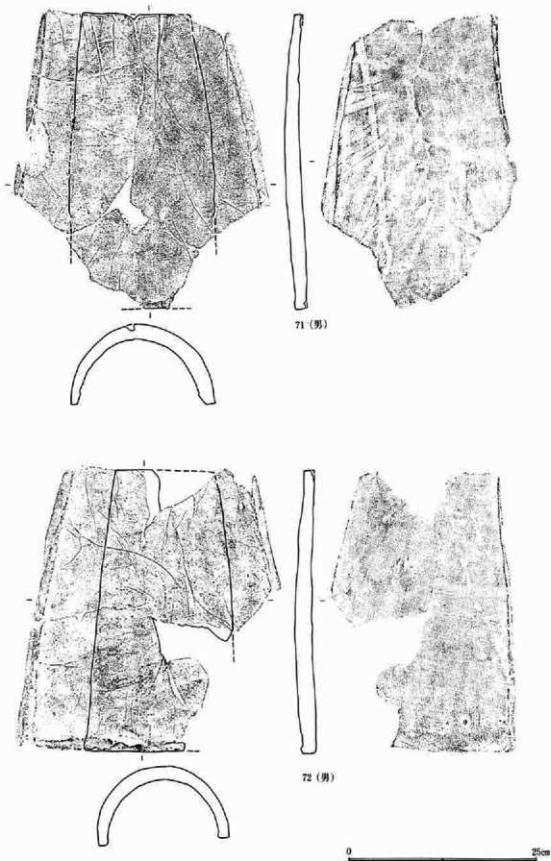
64 (男)

0 25cm

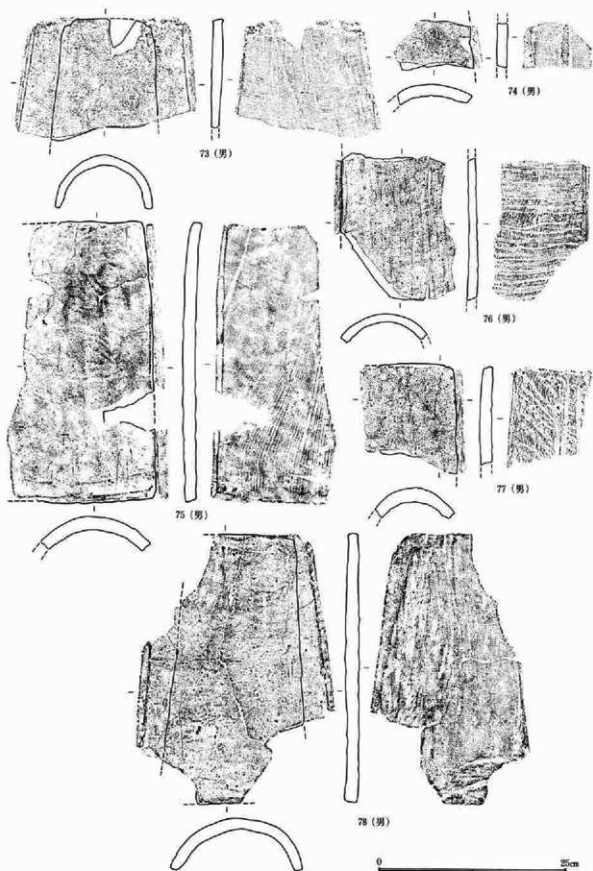
第376図 C区1号井戸出土遺物図(14)



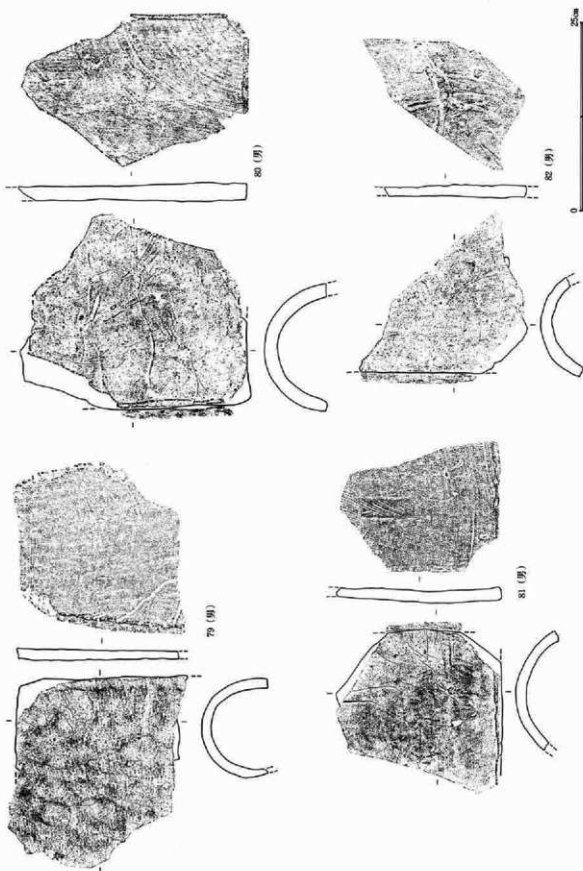
第377図 C区1号井戸出土遺物図 (15)



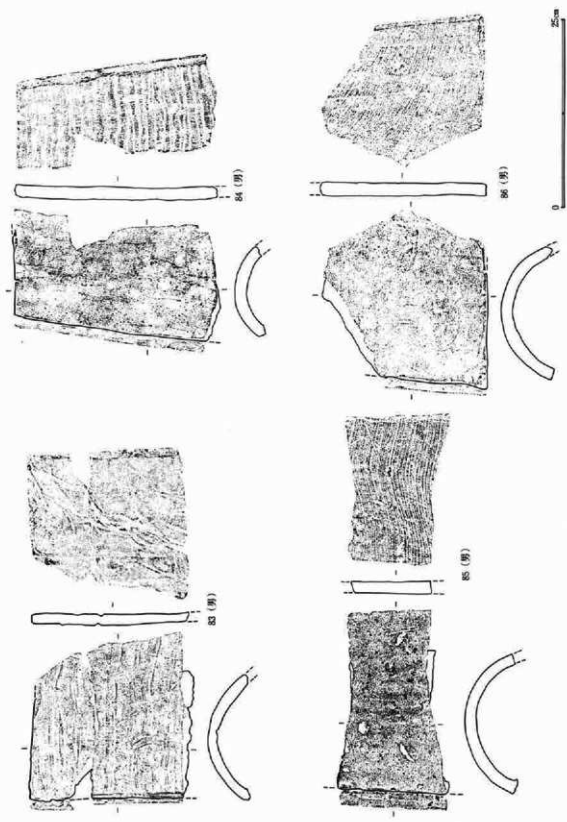
第378図 C区1号井戸出土遺物図(16)



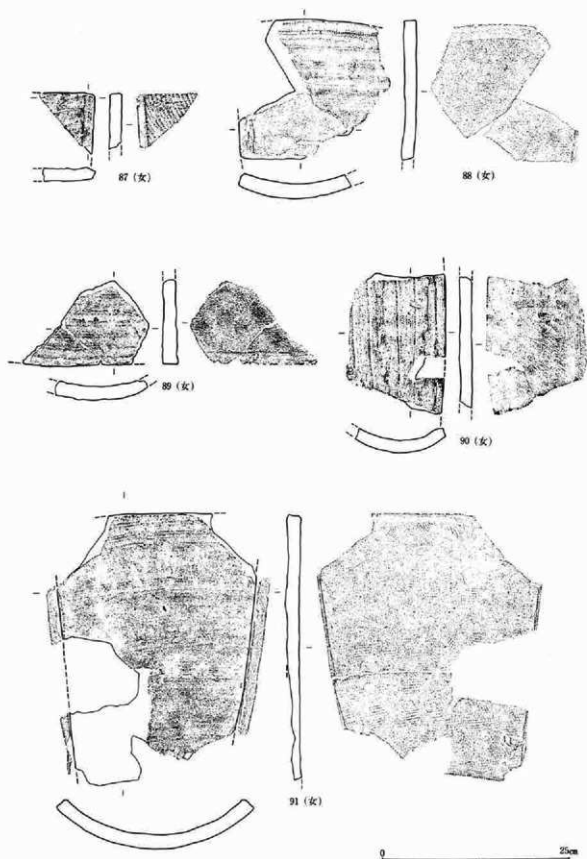
第379図 C区1号井戸出土遺物図(17)



第380図 C区1号井戸出土遺物図(18)

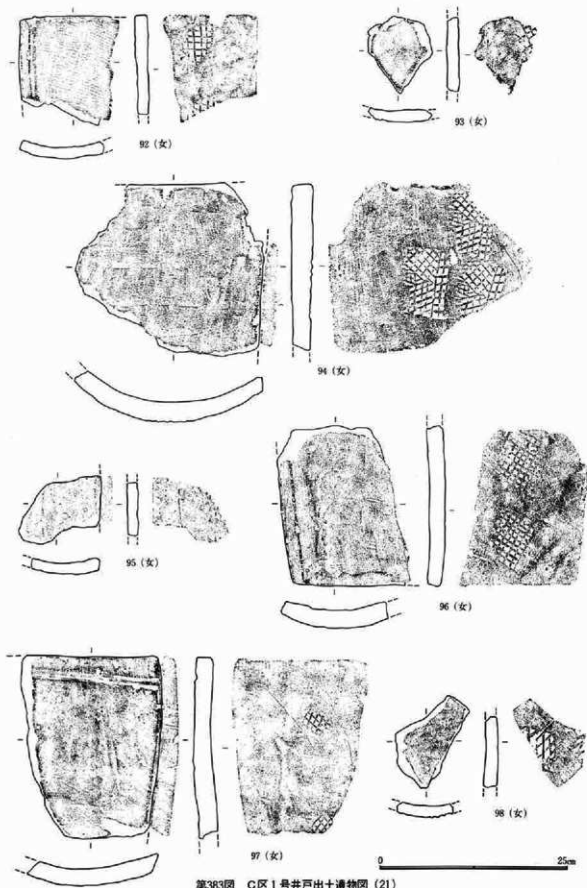


第381图 C区1号井戸出土器物图(19)

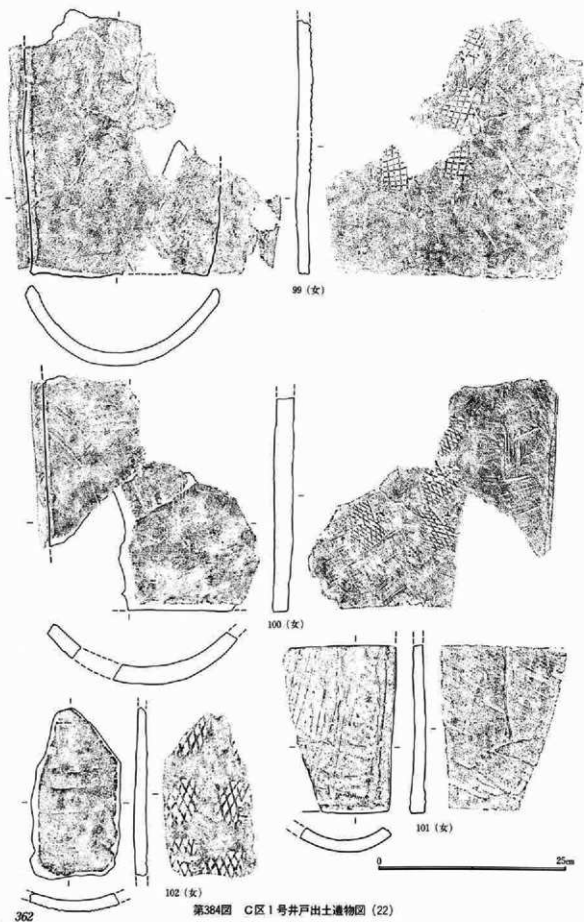


第382図 C区1号井戸出土遺物図(20)

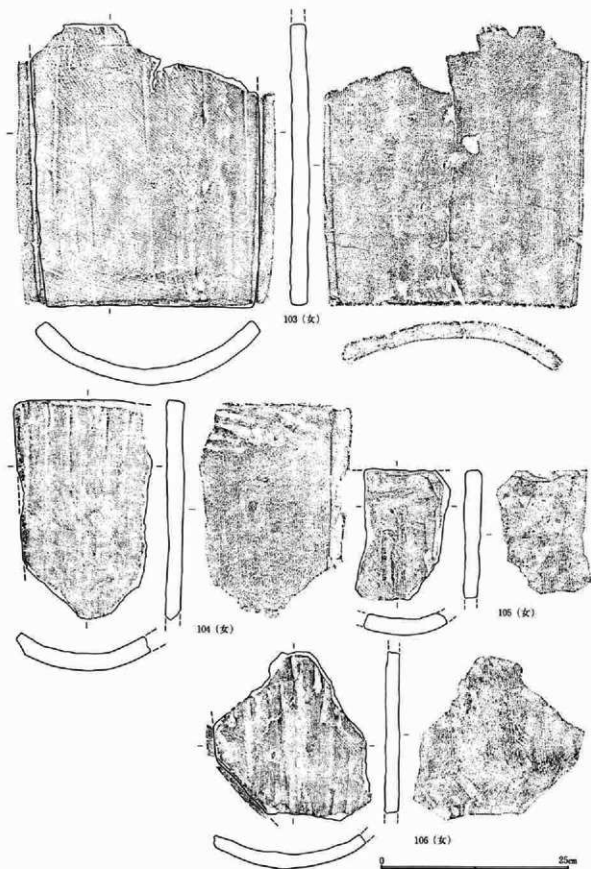




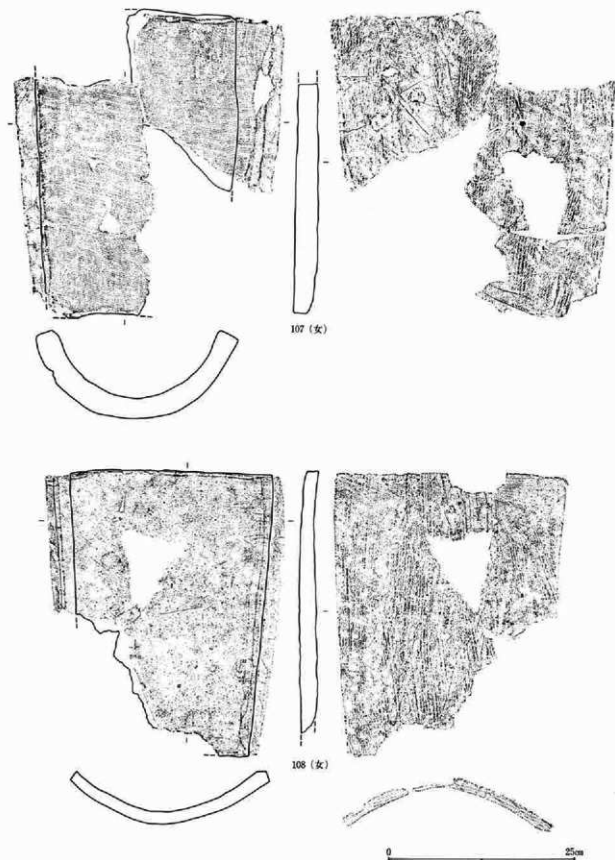
第383圖 C区1号戸出土遺物圖 (21)



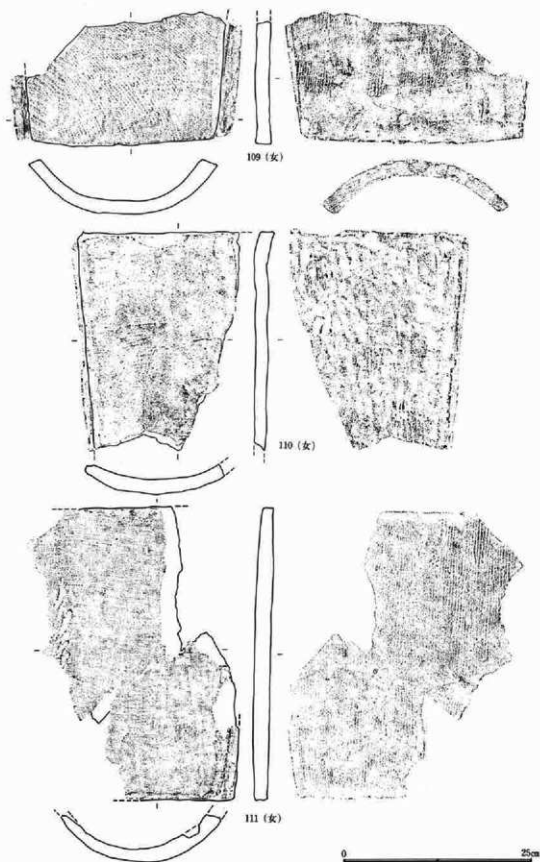
第384図 C区1号戸出土遺物図(22)



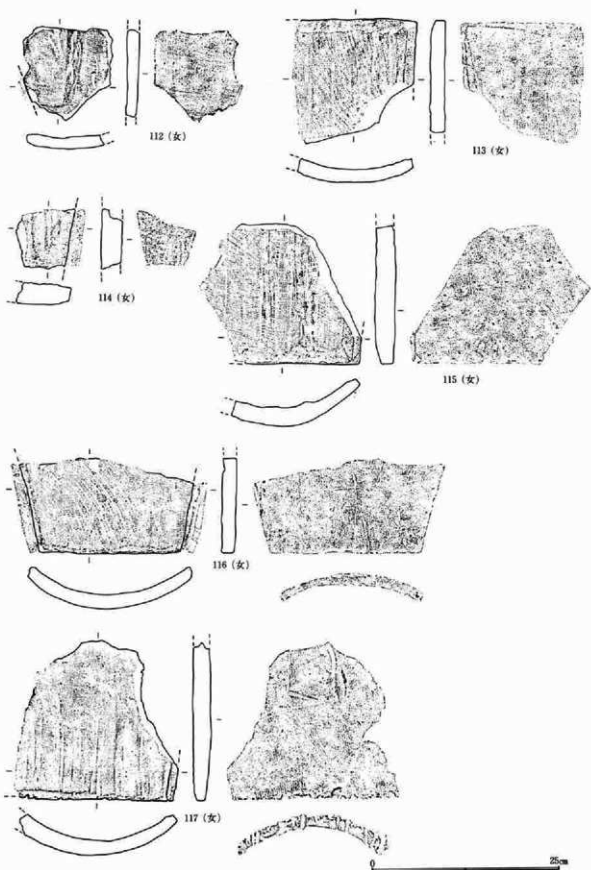
第385図 C区1号井戸出土遺物図(23)



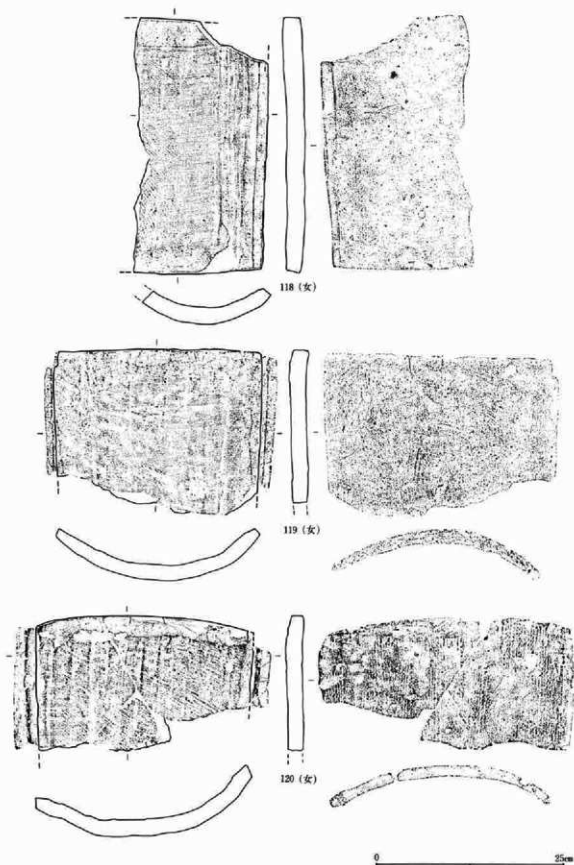
第386図 C区1号井戸出土遺物図(24)



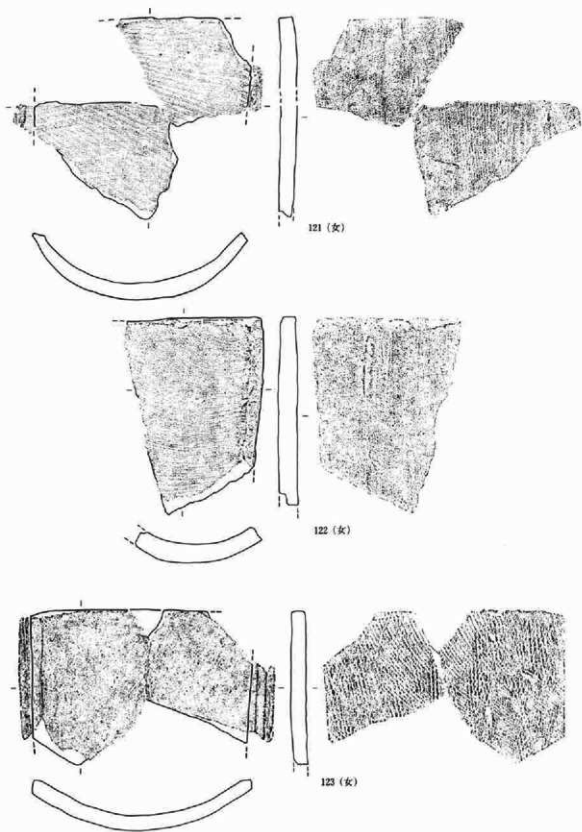
第387圖 C区1号井戸出土遺物圖(25)



第388図 C区1号井戸出土遺物図(26)



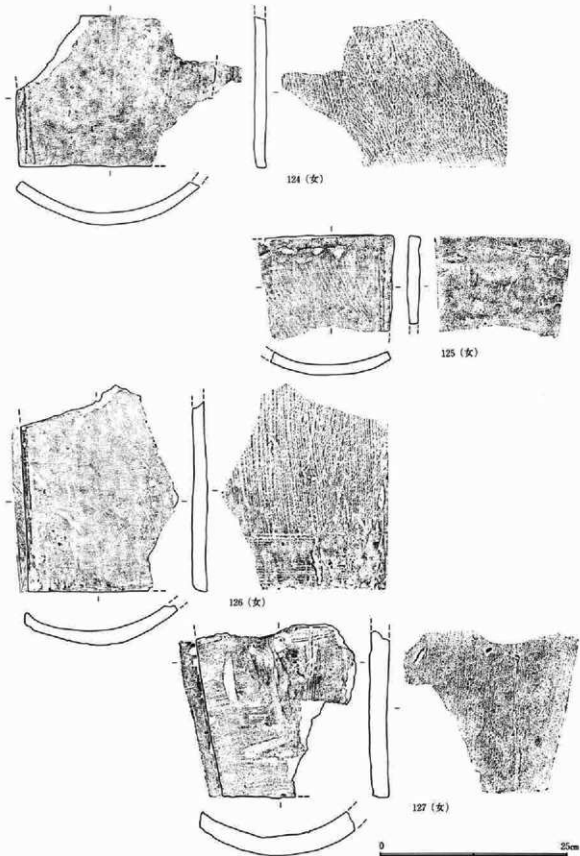
第389図 C区1号井戸出土遺物図(27)



0 25cm

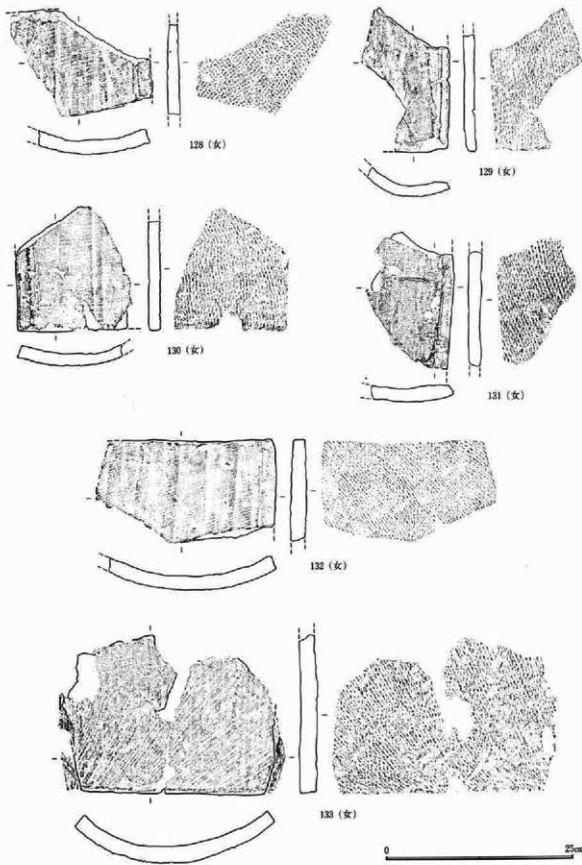
第390図 C区1号井戸出土遺物図(28)



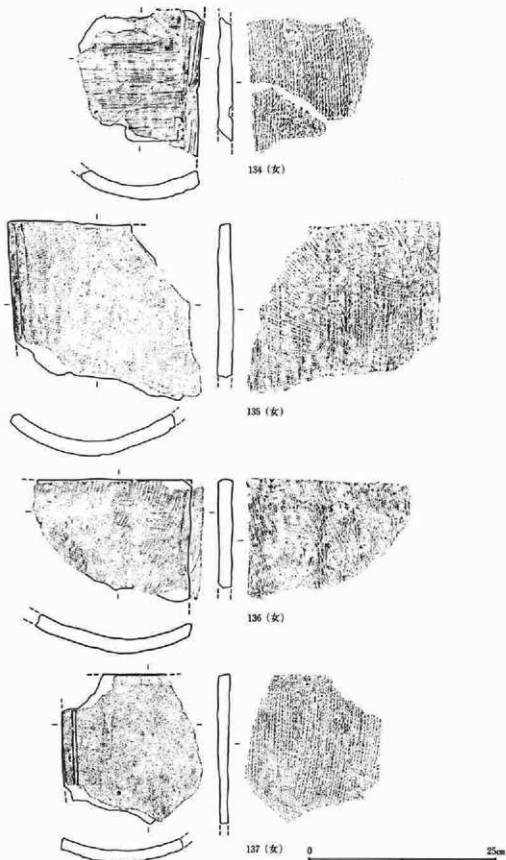


第391图 C区1号井戸出土遺物图(29)

第3章 検出された遺構・遺物

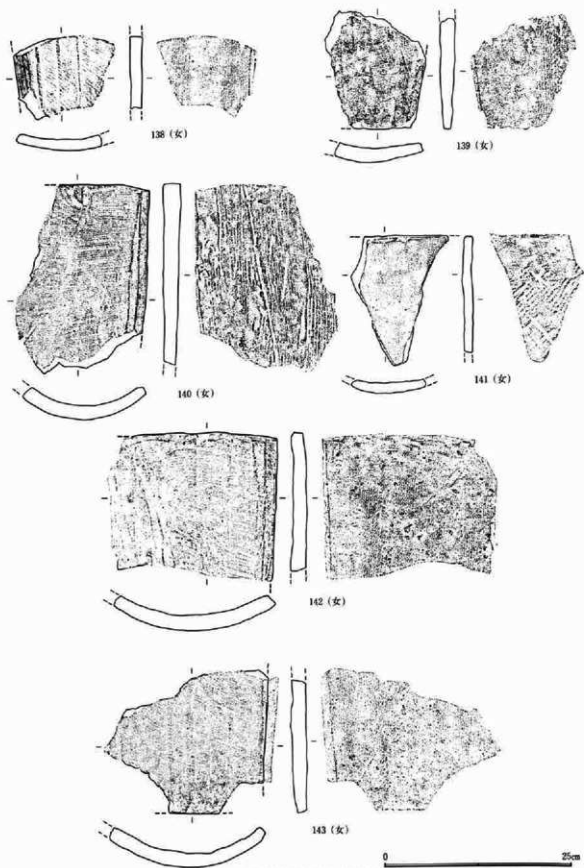


第392図 C区1号井戸出土遺物図(30)

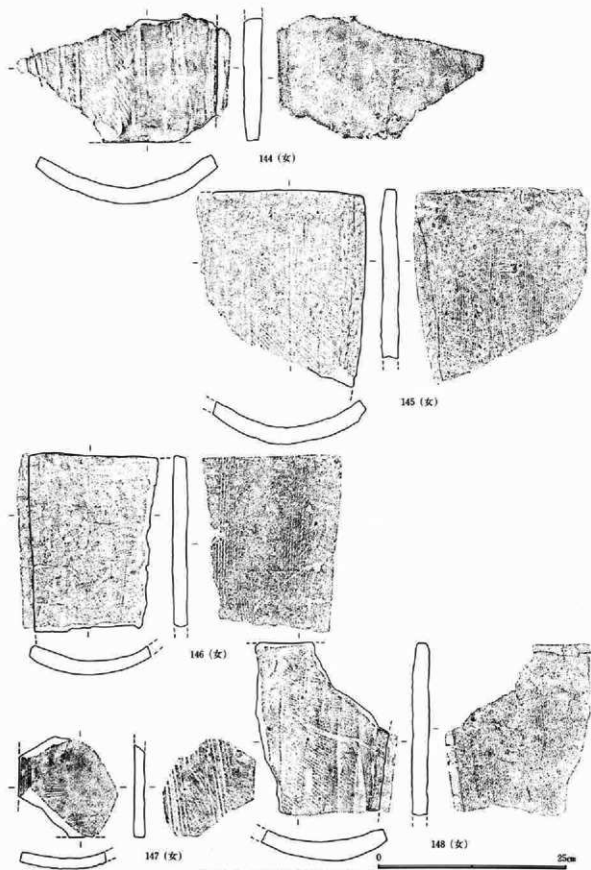


第393圖 C区1号井戸出土遺物(31)

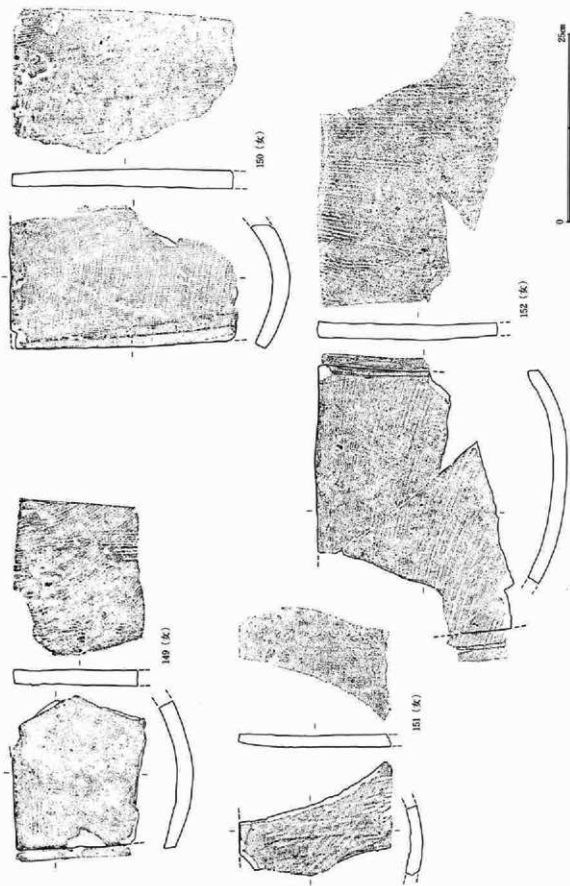
第3章 検出された遺構・遺物



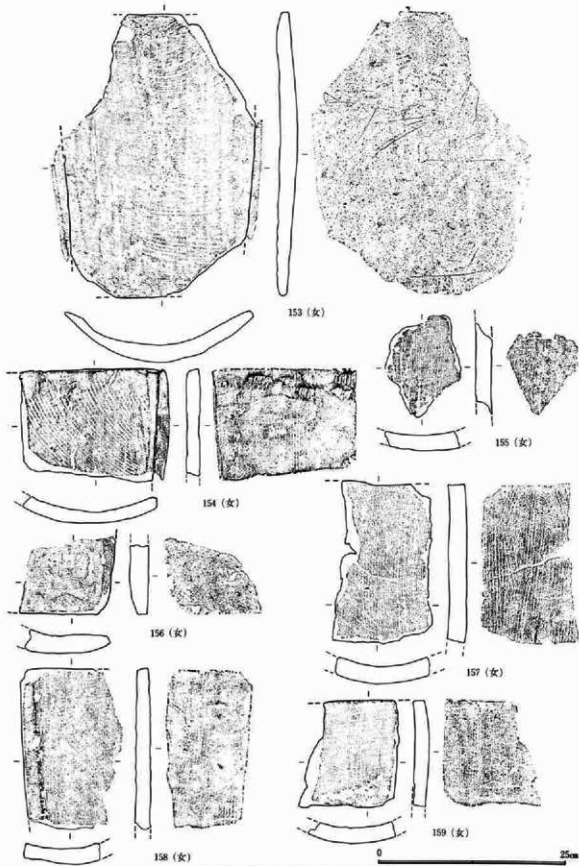
第394図 C区1号井戸出土遺物図(32)



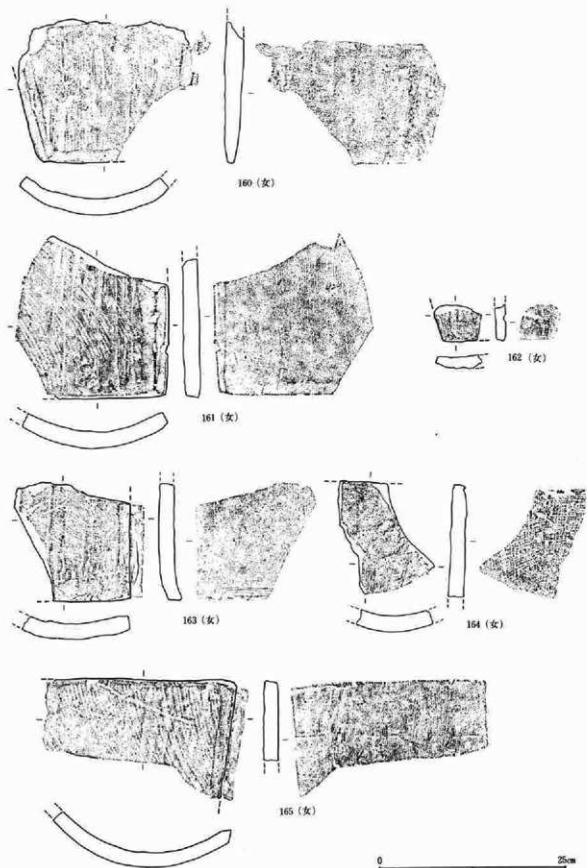
第395图 C区1号井戸出土遺物图(33)



第396図 C区1号井戸出土遺物図(34)

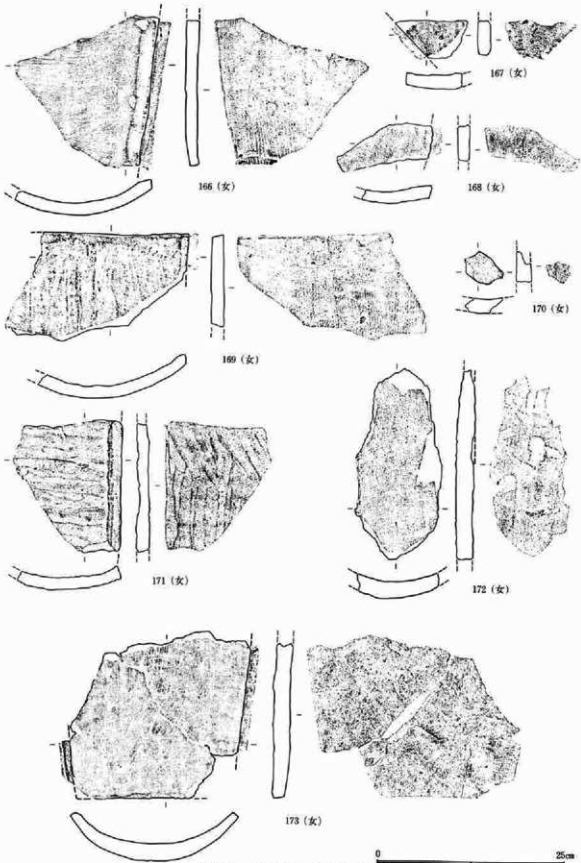


第397図 C区1号井戸出土遺物図(35)

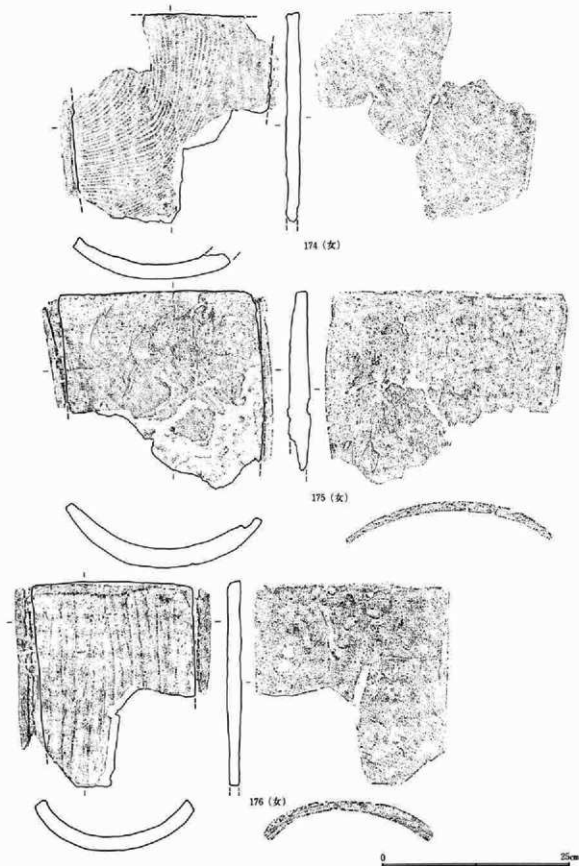


第398図 C区1号井戸出土遺物図(36)

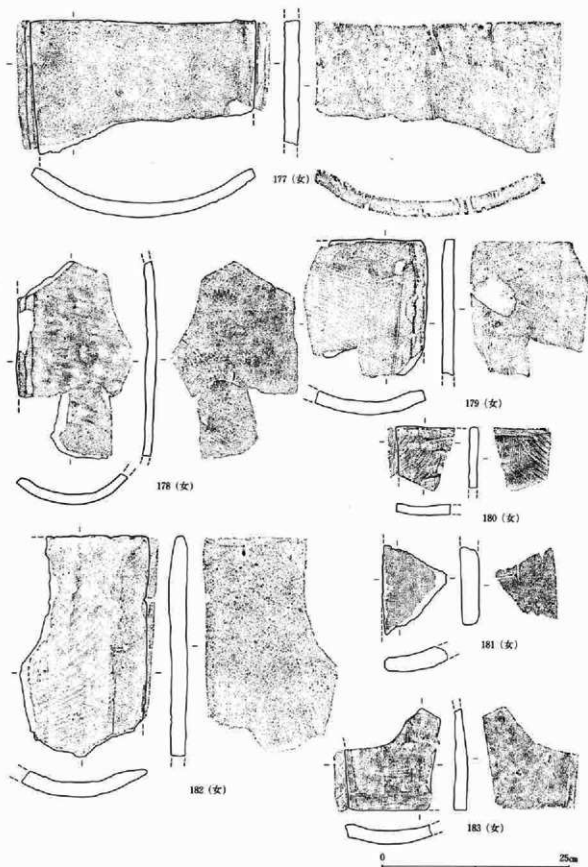




第399図 C区1号井戸出土土器断片(37)

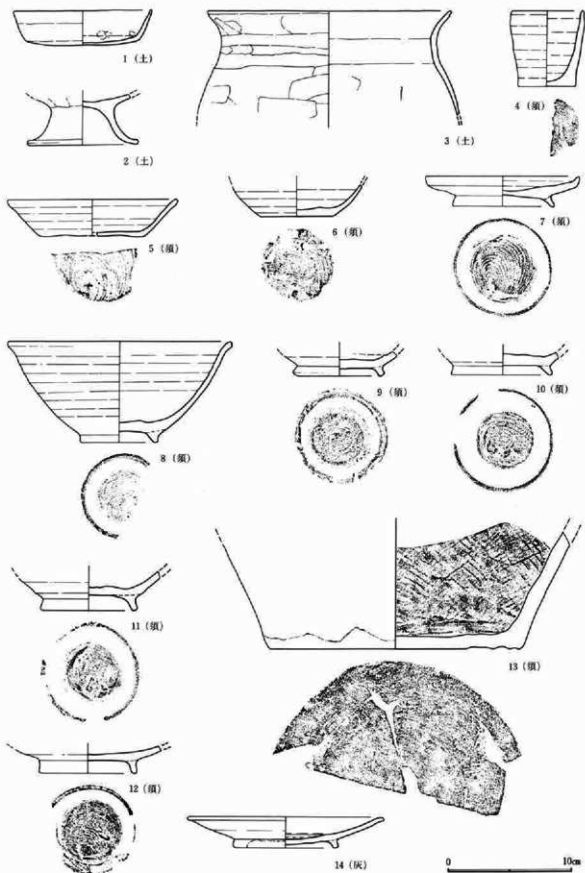


第400図 C区1号井戸出土遺物図(38)

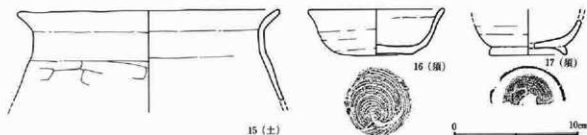


第401図 C区1号井戸出土遺物図(39)

第3章 検出された遺構・遺物



第402図 C区一括出土遺物図(1)



第403図 C区一括出土遺物図(2)

註 前川 実 猿投窯における灰軸陶器生産最末期の様相相—瀬戸市百代寺遺出土遺物を中心として— 瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要 Ⅲ 瀬戸市歴史民俗資料館 1984

丸石2号窯式について、後続する西坂1号窯式との間に若干の格差が認められるとし、その間に大原10号窯式を設定する意見が提示されている。これについては、丸石2号窯式自体の内容が先行する虎浜山1号窯式に類似する様相と、次期の大原10号窯式に類似する様相との二つを持っているために分離できる可能性が想定されるとともに、極端な考えとしては丸石2号窯式段階そのものが無くなるとも言える。

註 若尾正成 白瓷から白瓷系陶器への転換期について 美濃の古陶 美濃古窯研究会会報1 美濃古窯研究会 1987

また、従来は丸石2号窯式までが灰軸陶器の範疇とされ、西坂1号窯式以後は山茶碗(白瓷系陶器)とされていたが、現在は西坂1号窯式段階までが灰軸陶器とされており、この段階までが他地域にまで流通しているのが確認されている。この西坂1号窯自体は表採資料であり、岐阜県多治見市赤坂1号窯がその指標となる。県内ではまだ未検出であるが、今後検出されるかも知れない。

註 田口昭二・鹿野 健・若尾正成 赤坂1号窯発掘調査報告書 岐阜県多治見市教育委員会 1985

瀬戸地域を生産の中心とする山茶碗は、灰軸陶器を主体とする前段階の広域交易型から生産地周辺の隣接地域内消費へと大きく転換する。ただし、京都や鎌倉などの都市部での大量消費に対応して流通しており、また隣接する長野県では南に行くに従って増加し、特に飯田市周辺の伊那谷地域からは多数出土している。共伴する器種で特徴的な資料として小皿があり、12世紀前半は高台を持つが、12世紀後半からは平底に変わる。この山茶碗については、現時点では群馬県内での出土例が無いものの、長野県でも吉田からの出土例があるので、今後検出される可能性がある。

次に、猿投窯V期とされる黒笹14号窯式の開始時期についての問題がある。これに関しては9世紀の初頭と後半中頃に設定する二つの見解が提示されている。

斎藤氏自身は黒笹14号窯式I型式を9世紀第2四半期に比定されている。

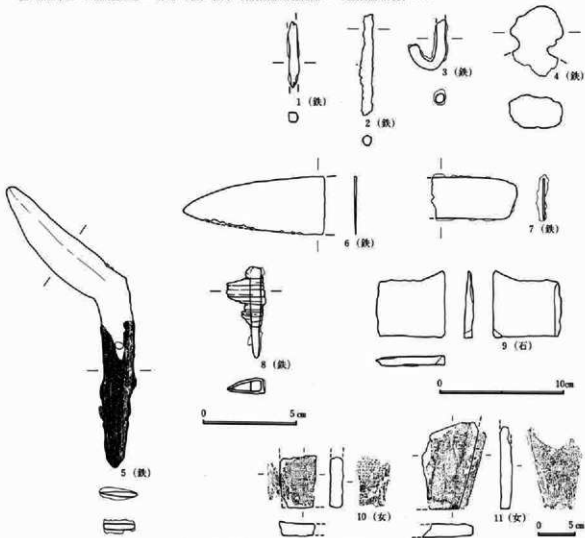
註 斎藤孝正 灰軸陶器の研究Ⅱ—猿投窯V期論—黒笹の型式編年— 名古屋大学文学部研究論集104史学35 名古屋大学 1989

第3章 検出された遺構・遺物

また、最近では詳細な編年表を作成されている。

時期	猿投窯	尾北窯	美濃窯
V期	黒笹14号窯式1型式		
	黒笹14号窯式2型式	篠岡47号窯式1型式	
	黒笹90号窯式1型式	篠岡4号窯式1型式	
	黒笹90号窯式2型式	篠岡4号窯式2型式	光ヶ丘1号窯式前半期(1型式)
	黒笹90号窯式3型式	篠岡4号窯式2型式	光ヶ丘1号窯式後半期(2型式)
VI期	折戸53号窯式1型式	篠岡4'号窯式1型式	大原2号窯式前半期(1型式)
	折戸53号窯式2型式	篠岡4'号窯式1型式	大原2号窯式後半期(2型式)
970年	東山72号窯式1型式	篠岡27号窯式1型式	虎渓山1号窯式
11世紀	百代寺窯式1型式	篠岡1号窯式1型式	丸石2号窯式
	百代寺窯式2型式	篠岡1号窯式2型式	大原10号窯式
Ⅶ期	1型式	(+)	西坂1号窯式

註 斎藤孝正 灰輪陶器生産の一様相 美濃の古陶 美濃古窯研究会会報3 美濃古窯研究会 1989



第404図 試掘トレンチ出土、表採遺物図

## 紡錘車

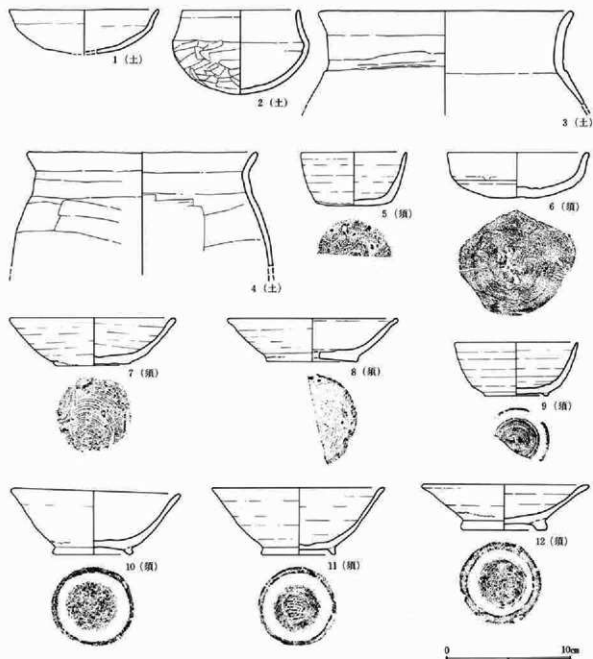
紡錘車については、その材質から土製と石製、それに鉄製とに分けられる。本遺跡からは、土製1点、石製5点、鉄製1点の総数7点が出土しており、大部分が破損している。石材では滑石が多く用いられている。集落全体での占める割合は24軒に1点であり、168軒の住居跡からみれば、割合が少ない。

県内の紡錘車の集成に関しては布織との関連を追及した中沢氏らの研究がある。

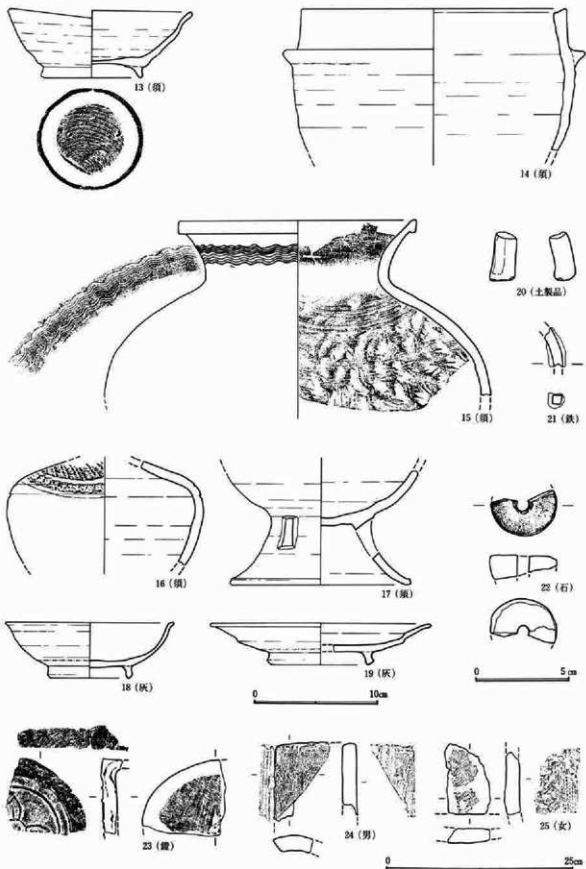
県内での鉄製紡錘車は8世紀後半の松井田町愛宕山遺跡4号住居跡から出土している例が最古である。

## 金属製品

本遺跡から出土した鉄製品は総数59点である。その種類は紡錘車、鎌、刀子、鎌、釘などであり、日常生

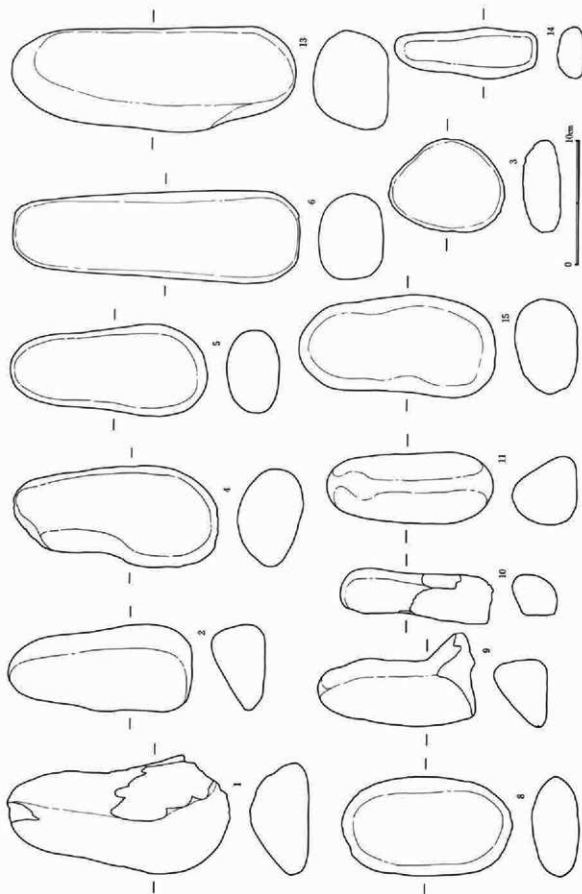


第40図 遺跡一括出土遺物図(1)

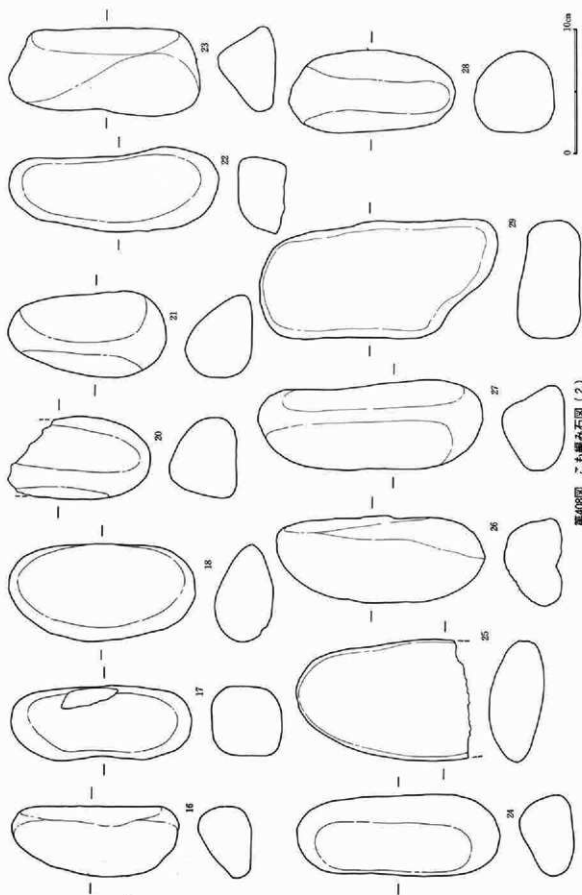


第406図 遺跡一括出土遺物図(2)

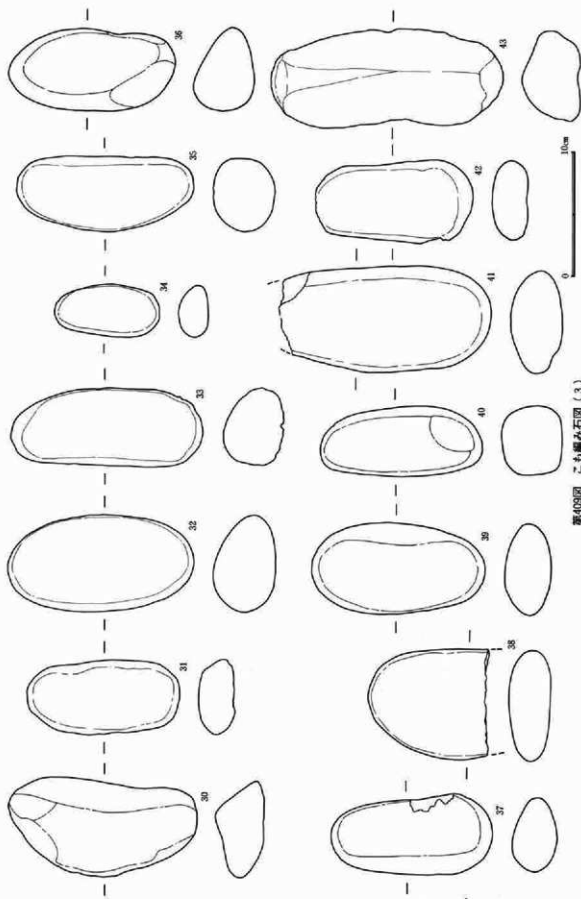




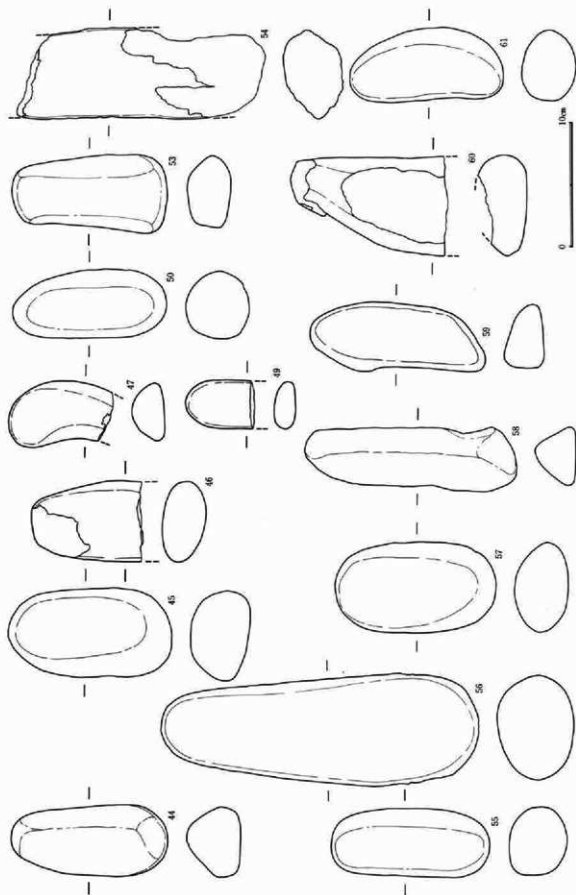
第407図 とも羅み石図(1)



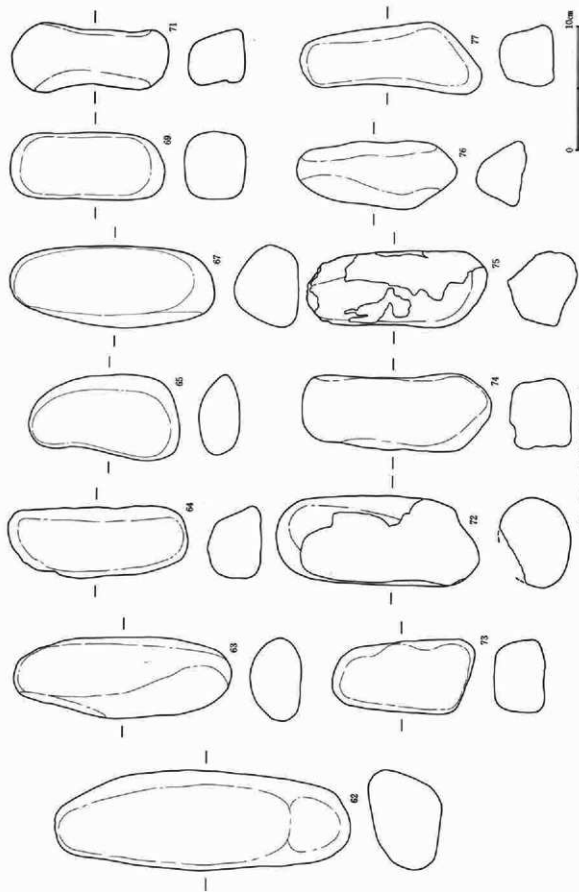
第408図 こも塚み石図(2)



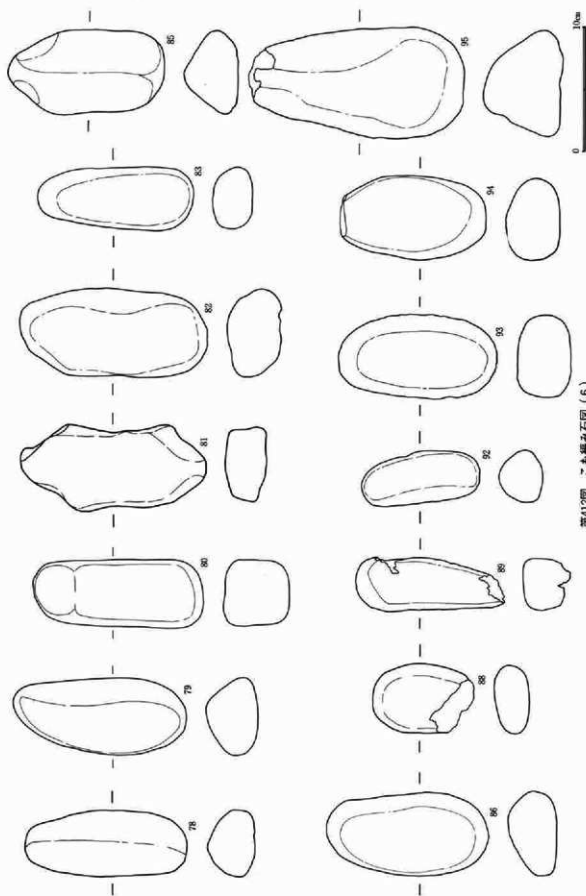
第409図 こも塚み石版(3)



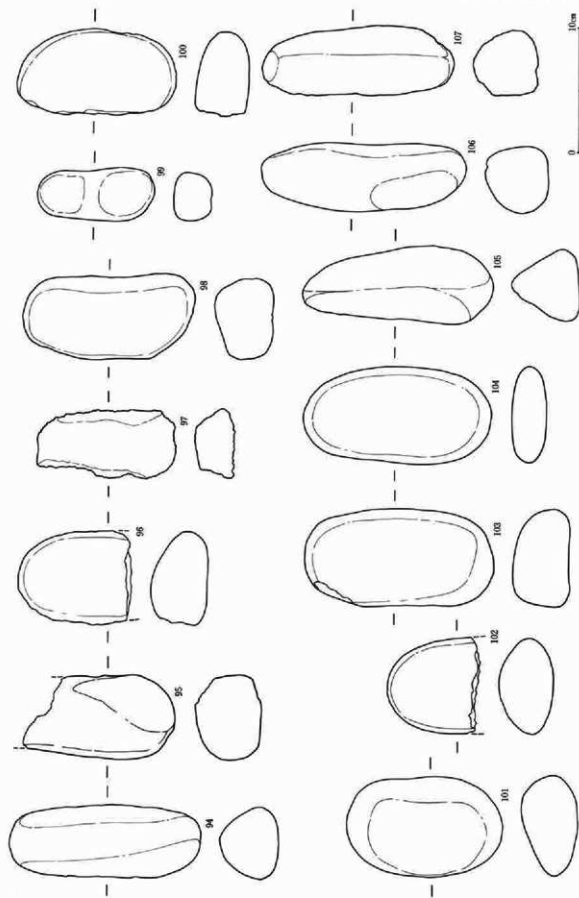
第410図 こも羅分石図(4)



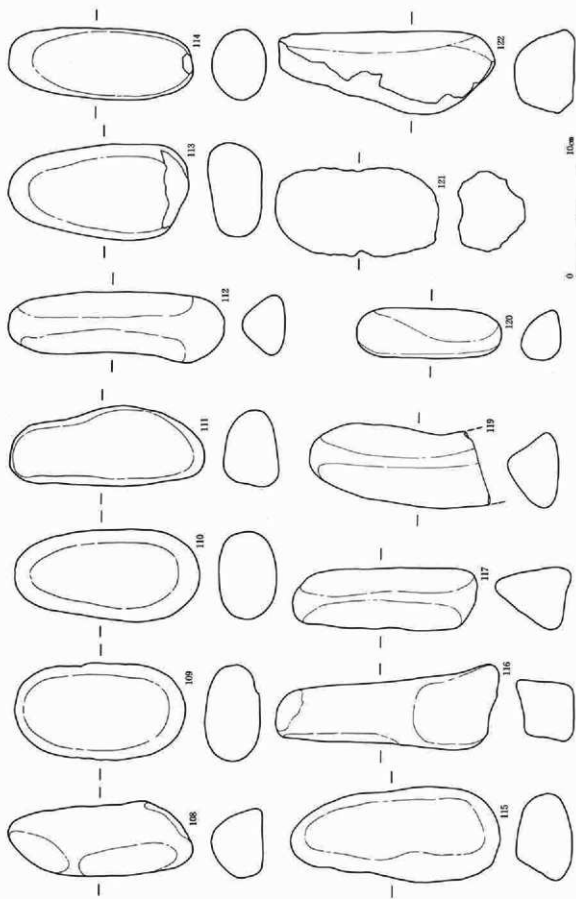
第411図 こも織み石函(5)



第412図 こも編み石器(6)

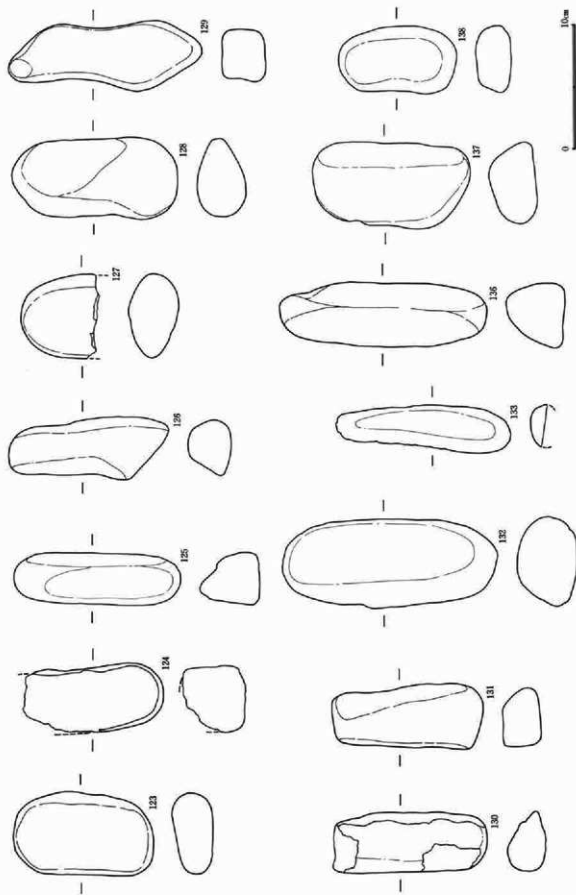


源413図 こも羅み石鏡(7)

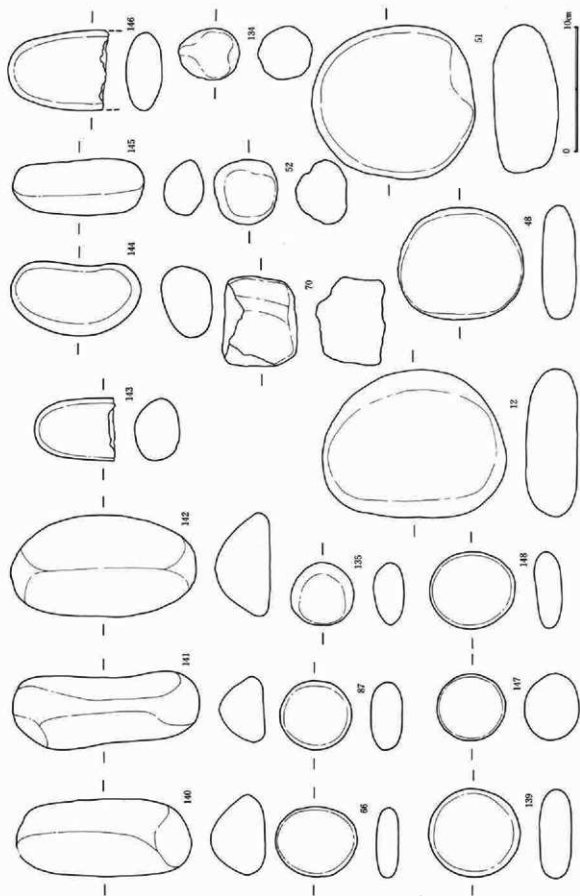


第414図 こも麻が石 (8)

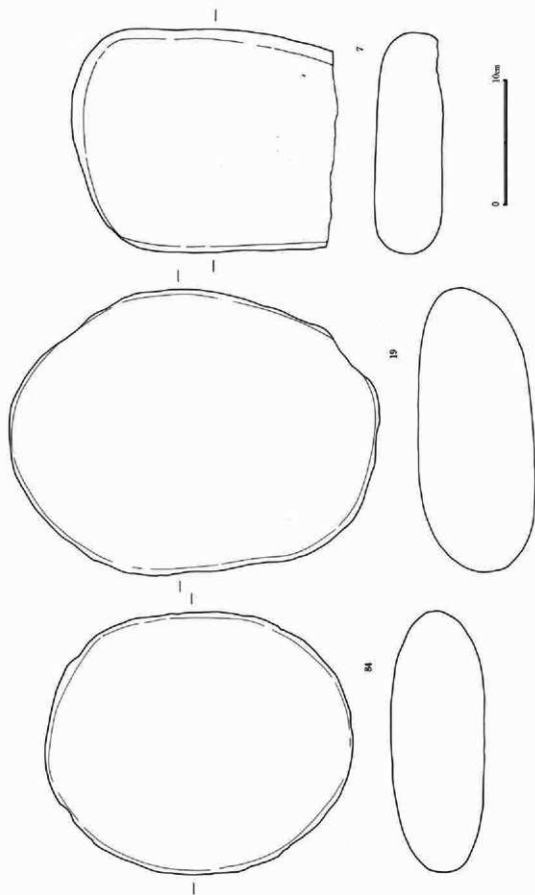




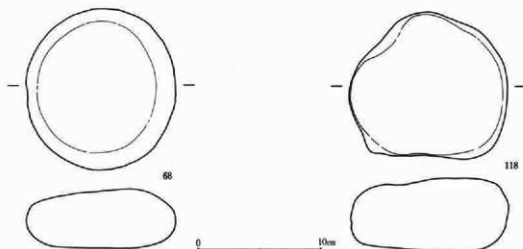
第415図 之七 磨み石図(9)



第416図 こも塚小石図 (10)



第417図 こも羅み石函(11)



第418回 こも編み石図 (12)

活の生産活動に伴う程度のもと考えられる。だが、鉄自体は錆直しや持ち出しが考えられるために出土状態の把握も必要とされる。

鐵は矢の先に装着されるものであり、当然飛び道具としての役割を果たすうえで弓そのものの存在が考えられるが、それに関連した遺物は木製品も含めてまったく認められない。また、弓矢としての対象物と考えた場合、武器か狩猟具という二つの道具としての機能が考えられるが、現状では分離は不可能である。

刀子については、木製品や木簡類の削りなどに用いられたものと考えられるが、本遺跡からは多数の木製品や木簡に再利用した定木が1点出土しており、関連が強いと言える。

鉄製品の出土した住居跡と点数は下記の通りである。

B区7号住居跡、B区15号住居跡、B区16号住居跡、B区32号住居跡2点、B区38号住居跡3点、B区71号住居跡、B区72号住居跡、B区74号住居跡、B区76号住居跡、B区84号住居跡、C区6号住居跡2点、C区10号住居跡、C区11号住居跡4点、C区12号住居跡2点、C区13号住居跡、C区14号住居跡、C区18号住居跡2点、C区22号住居跡、C区23号住居跡2点、C区27号住居跡、C区29号住居跡、C区32号住居跡、C区38号住居跡、C区39号住居跡、C区51号住居跡、C区61号住居跡2点、C区68号住居跡、C区75号住居跡2点

#### こも編み石 (図版第407～418、451、452図、写真図版131～136)

本遺跡のすべての遺構から総数148点が出土している。そのうち大型の資料については、形態から白石などの可能性が考えられる。

特徴としては、長さは4～20cmの間に分散しているが、特に11～17cmに集中している。幅は4～13cmの間で、特に5～8cmに集中している。重さは100～2,200gの間に分散しているが、特に400～800gに集中している。石材は粗粒安山岩や石英閃緑岩などが用いられている。

こも編み石については、すでに桜岡正信による国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群での分析が報告されている。大きさでは長さ11～16cm、幅4～8cmに集中する傾向が認められている。重さも400～500gの間が多いとのことであり、本遺跡の資料とはほぼ類似している。

また、出土状態をみると、壘際などの一箇所に集中している傾向が認められる。特にC区29号住居跡

の15個やC区64号住居跡の14個などはその代表例である。

だが、こも編み石の機能についても、敲打痕が認められる資料も多数存在することから、としての機能を有する場合も想定されるとする意見もある。このように、こも編み石自体の規定概念が曖昧であり、はたして機能そのものを示している遺物名称とは言えないかも知れない。

#### 木器・木簡状木製品（図版第419～427図、写真図版137～142）

本遺跡のA区旧河道内から多量の土師器や須恵器とともに多数出土している。

製品の種類としては、生産用具の農具としての鋤や鍬、工具としての柄、建築材としての柱や板材、土木材としての枕、生活用具としての容器、化粧・装身具としての櫛、それに木簡などが認められる。

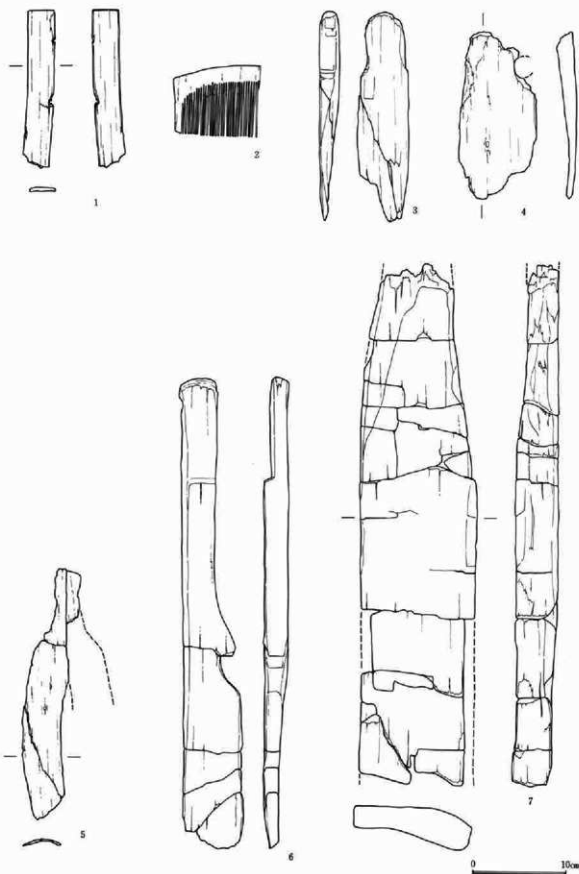
その樹種鑑定を実施した結果、トチノキ・エノキ・クリ・コナラ・サクラ・ヒノキ・ケヤキ・スギ・モミ・カエデ・ナナカマド・サワグルミ・ウツギ・ヤマグワ・イヌガヤなどが検出されている。

#### 種子（写真図版143～145）

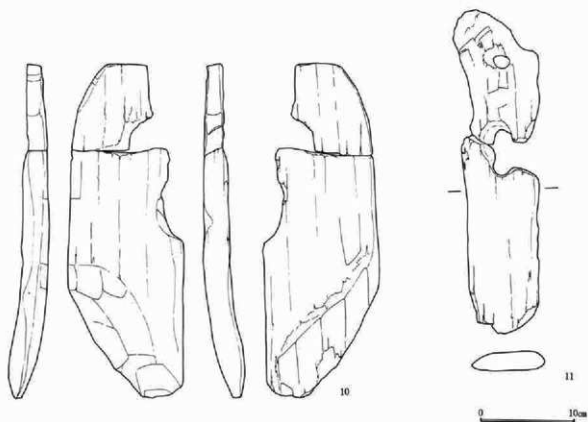
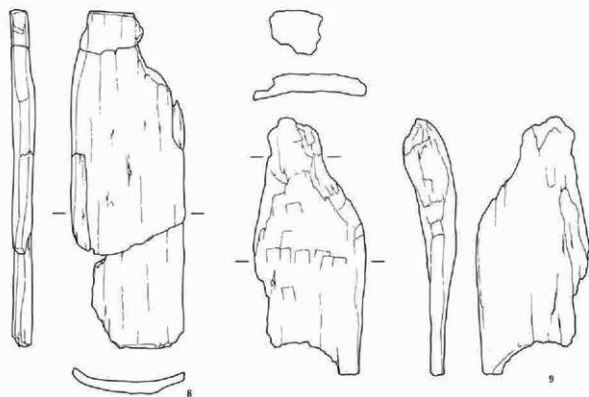
牛池川に接するA区の旧河道部分から多量の種子類が出土した。その種類はオニグルミ・夕顔・マクワウリ・ノブドウ・モモなどである。残念ながら、遺跡での花粉分析は実施していないが、一緒に多量の木製品や自然木が出土しており、その樹種鑑定を実施した結果は前記した通りであるが、対応する樹種が検出されておらず、これらの種子はおそらくは食用などの目的で本遺跡の集落に持ち込まれた後に、投棄されたものと考えられる。

#### 漆付着土器（写真図版124）

土師器や須恵器の主に坏類の内面に漆が溜まるように付着している例が僅かだが認められる。これは漉し布の存在と関連していると考えられるし、また、外面に対して皮膜状に意図的に塗る例が存在している。漆自体は現在でも塗料として、主に木製品の塗器類の防湿、防腐、あるいは接着などの用途に使用されており、これから土器の内面に塗る場合は同様の目的が考えられる。一方、外面に塗る場合については、残念ながらその目的が現時点では不明であり、今後の研究に期待したい。

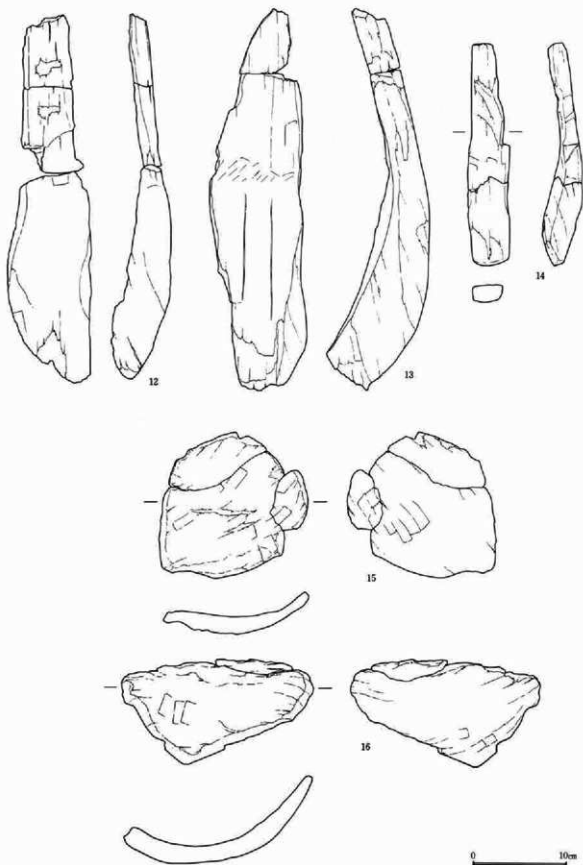


第419図 木簡・木製品図(1)



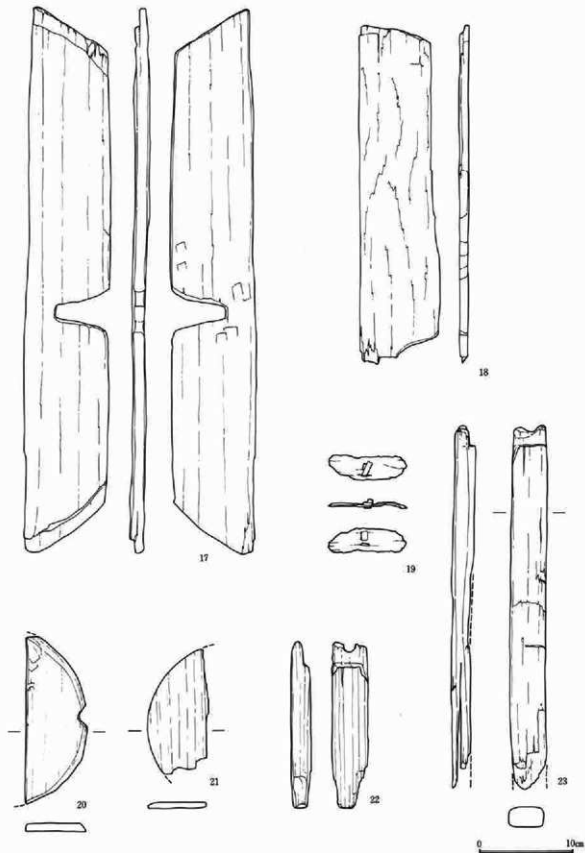
第420図 木器・木製品図(2)

0 10cm

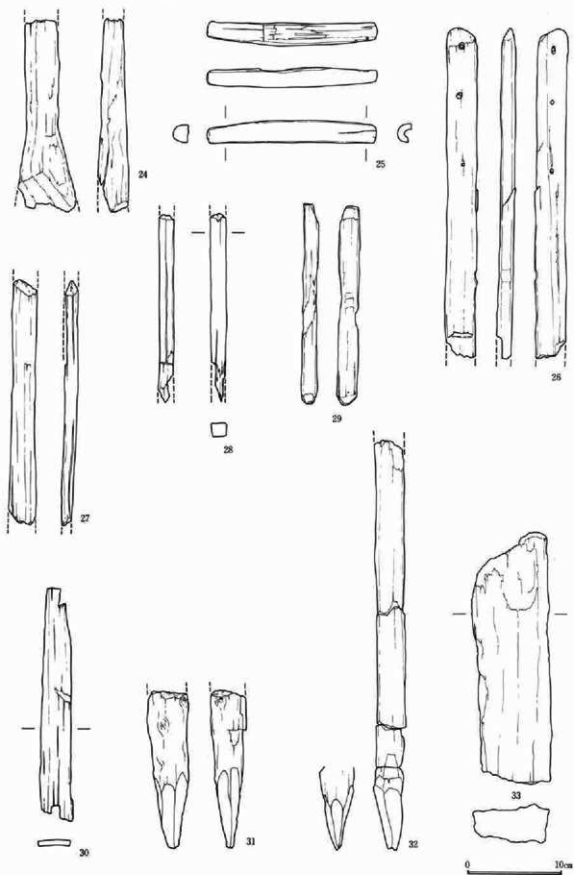


第421図 木器・木製品図(3)

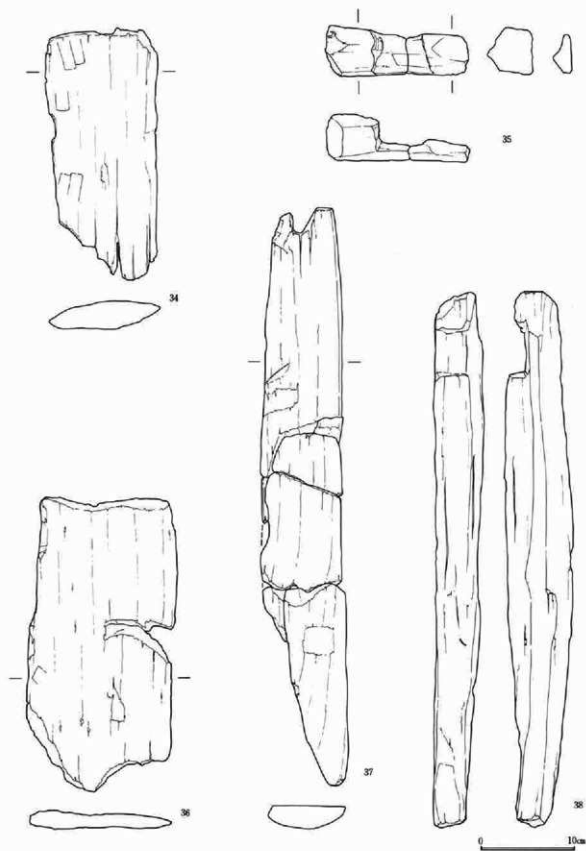




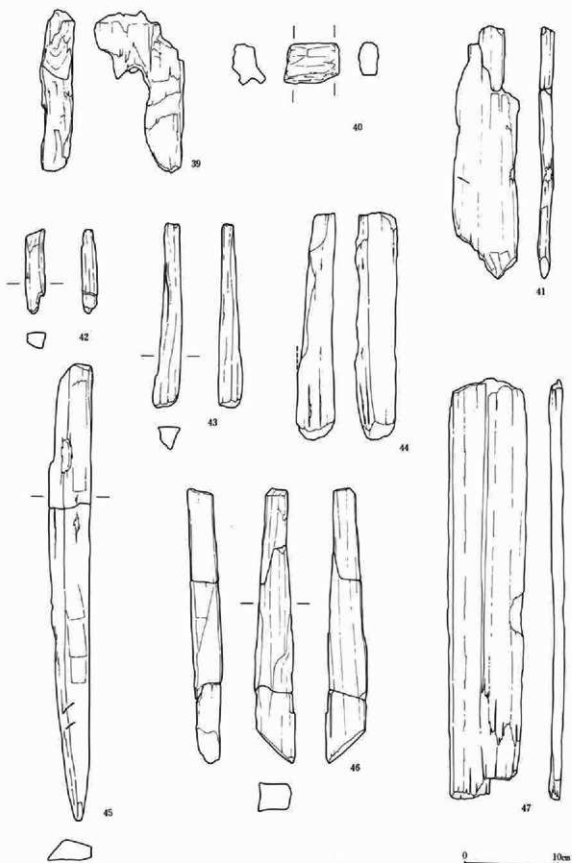
第422図 木器・木製品図(4)



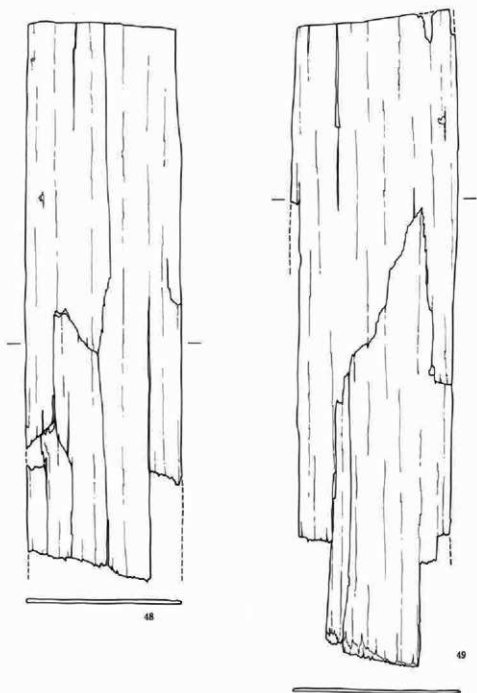
第423図 木器・木製品図(5)



第424図 木器・木製品図(6)

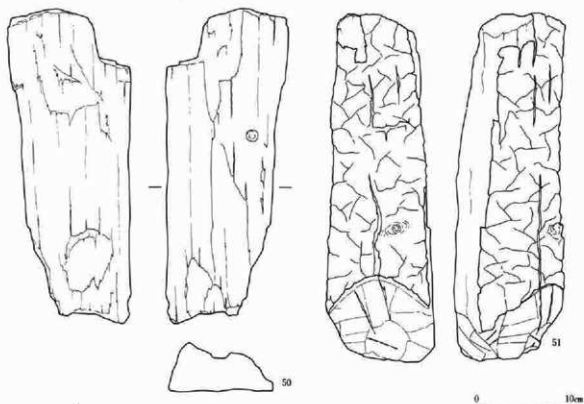


第425図 木器・木製品図(7)



第426圖 木器・木製品圖(8)

0 10cm



第427図 木器・木製品図(9)

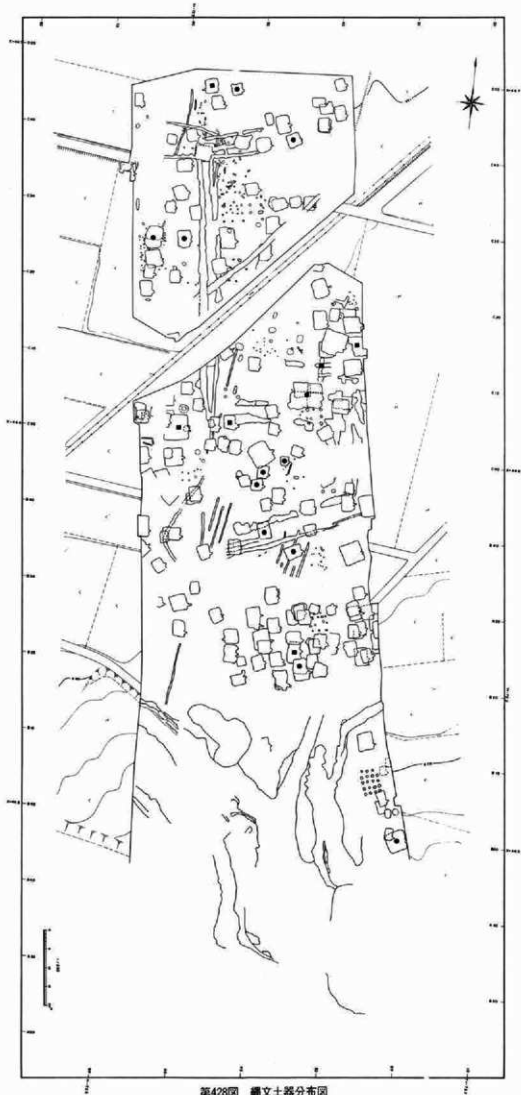
#### 砥石(図版第450図)

鉄製品存在から砥石の重要性が目立ってくる。本遺跡からは総数21点が出土している。形態では、長身・木葉などが認められる。また、榛名山二ツ岳の軽石を利用した砥石には、幾筋もの条痕と比較的深めの窪みが認められることが多い。石材では、榛名山二ツ岳軽石を用いた9点、飯島静雄氏の鑑定による砥沢石が8点、砂岩2点、粗粒安山岩と頁岩がそれぞれ1点である。ほとんどが堅穴住居跡の埋土に含まれており、明確な使用時の状況を留めているものはない。C区75号住居跡からの一括資料ともいえる榛名山二ツ岳軽石を石材とした砥石の出土状態は、特定の用途を考える。また、C区55号住居跡の資料は、中央部に直径約3cmの穴を片側から開けており、同様の資料が下東西遺跡などでも出土しているが、その用途は不明である。

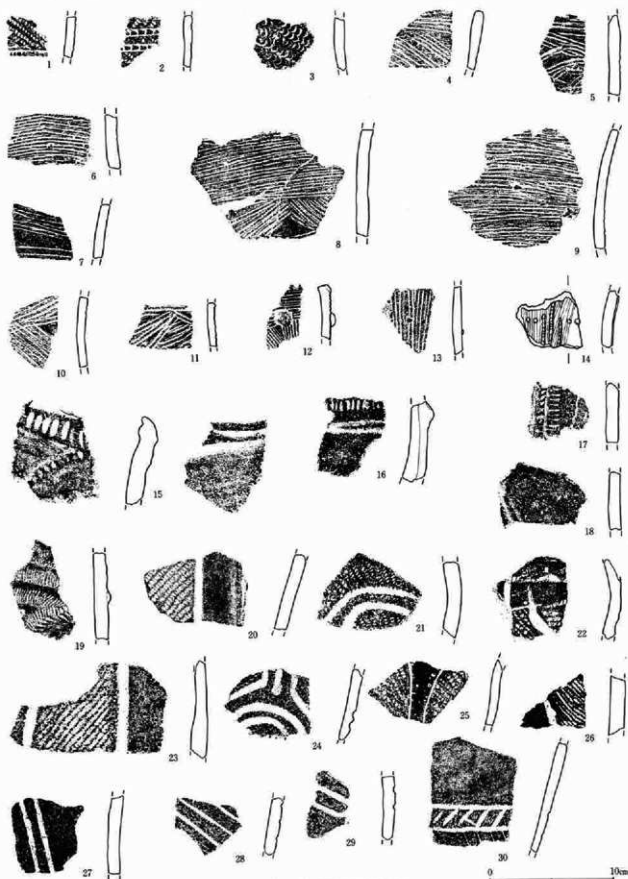
周辺の遺跡での出土状況を見ると、北原遺跡では、住居跡99軒のうち10軒から出土しており、10.1%の割合である。下東西遺跡では、住居跡220軒のうち9軒から出土しており、僅かに4.1%の割合である。

砥石の石材については、上記したような内訳であり、対象物によって選択される石材も存在すると考えられる。また、その時期によっても、流通の問題が大きく関係してくる場合も有り得る。

玉作りの遺跡では、滑石などの軟らかい石を対象とするために、結晶片岩・砂岩・泥岩などが多用されているが、鉄製品を対象とする場合には、それが刀なかぬなど農耕具の刃先なのか、などにより異なってくる。時間的には中・近世においては、商品として流通する過程での規制が存在したり、その産地からの切り出しにも何らかの規制が存在する場合が多い。

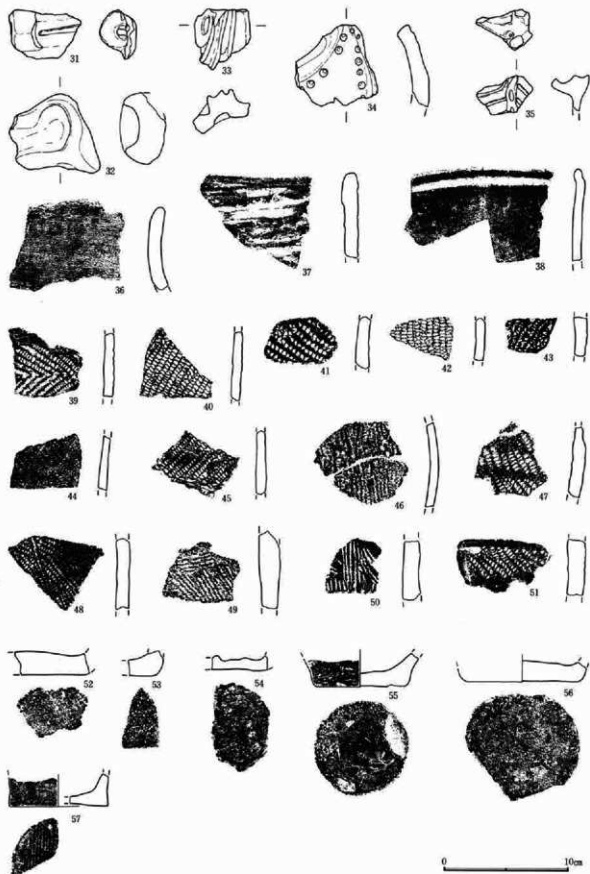


第428図 縄文土器分布図

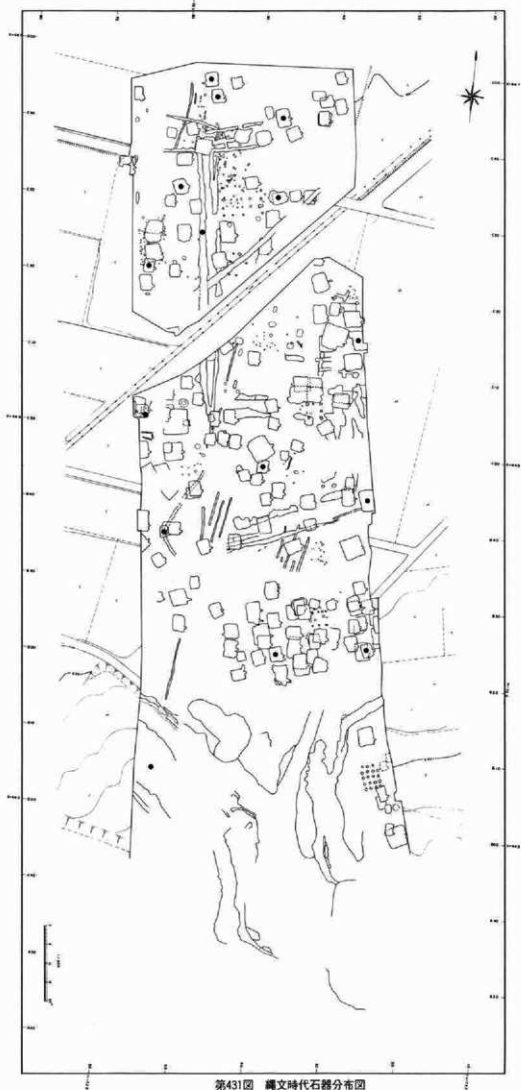


第429図 縄文土器図(1)

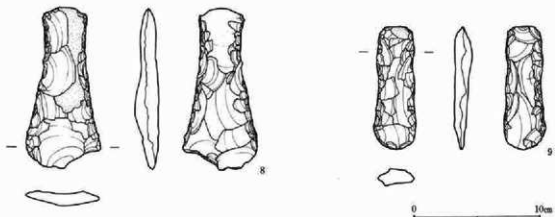
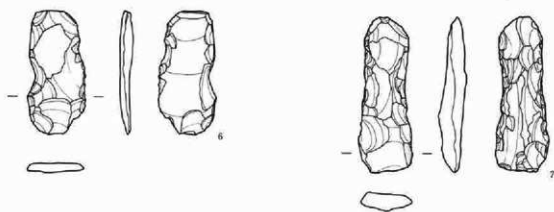
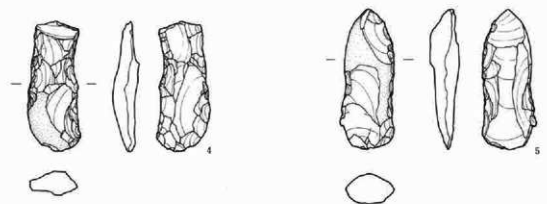
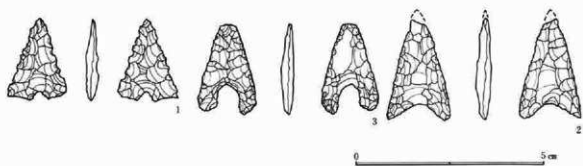




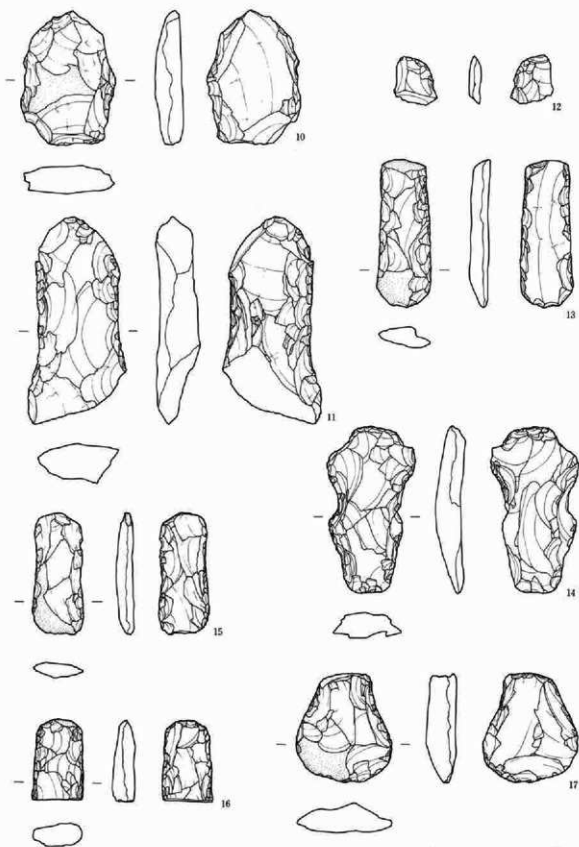
第430図 縄文土器図(2)



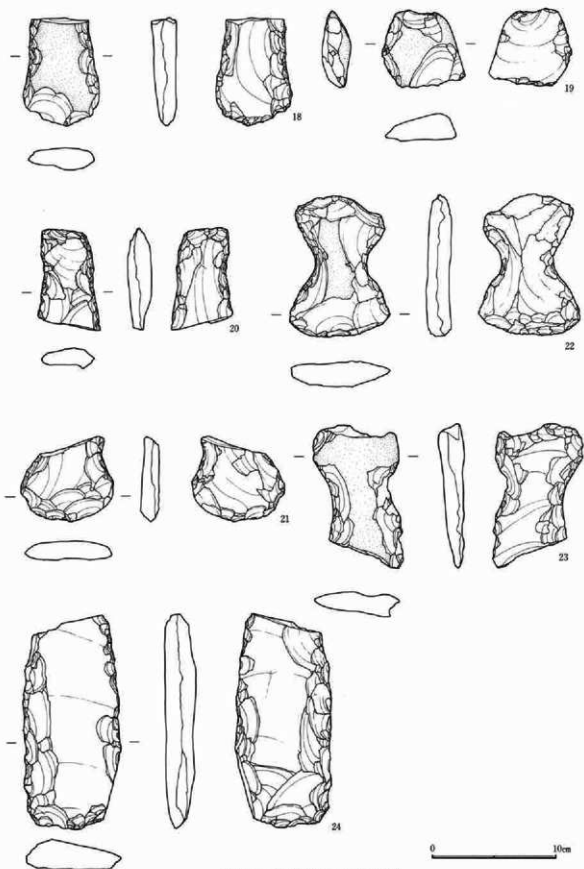
第431図 縄文時代石器分布図



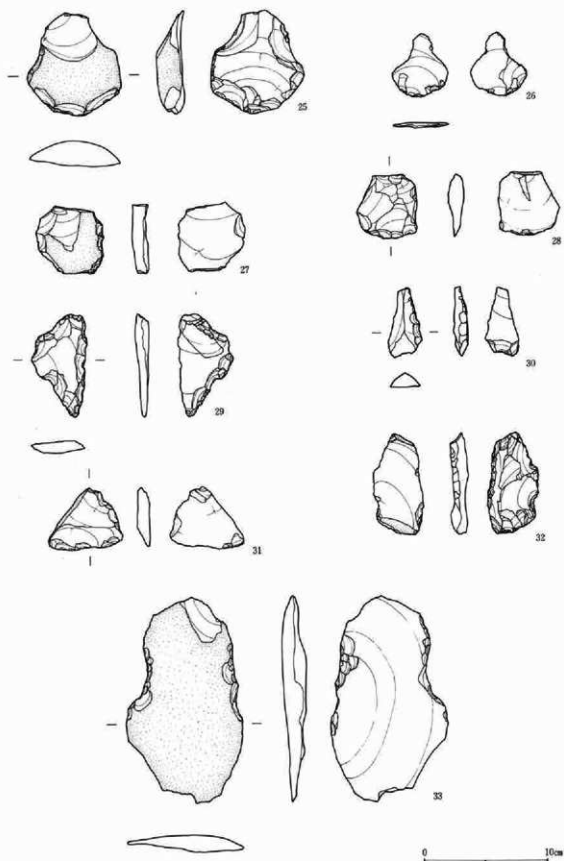
第432図 縄文時代出土石器図(1)



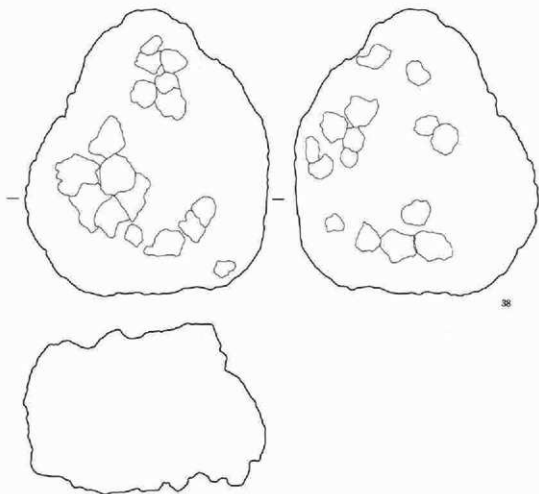
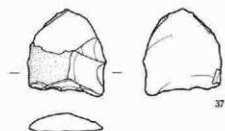
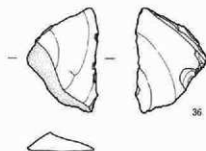
第433図 縄文時代出土石器図(2)



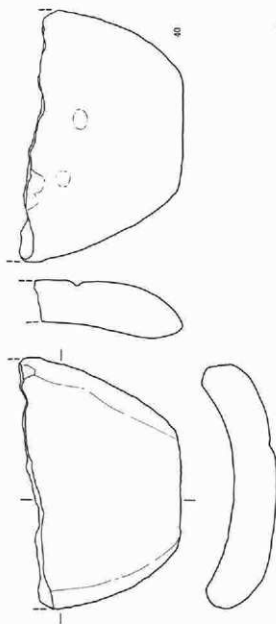
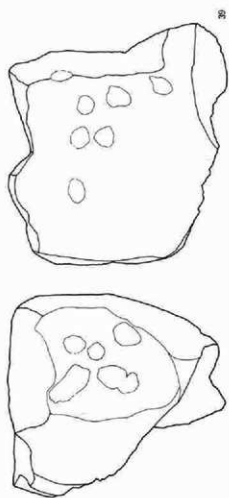
第434回 縄文時代出土石器図(3)



第435図 縄文時代出土石器図(4)

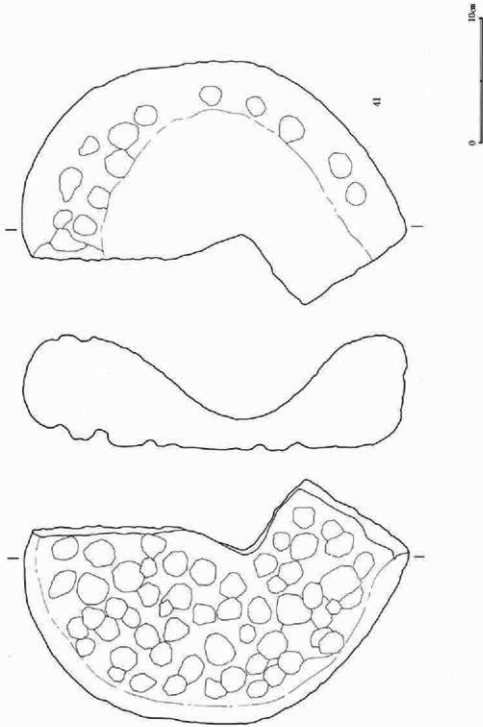


第436圖 縄文時代出土石器図(5)



第437図 縄文時代出土石器図(6)





第438圖 横文時代出土石版圖(7)

### 第3章 検出された遺構・遺物

#### 縄文土器 (図版第428～430図、写真図版127)

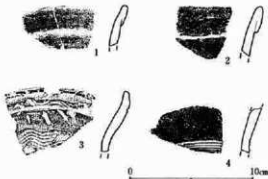
出土した量は小破片を主体とした総数500点余りであるが、その中で時期が特定できたり、実測が可能であったのは57点である。

時期別では、前期後半の諸磯系と、中期の加曽利Eの時期に集中する傾向が認められる。

これは、周辺の遺跡からも同様の傾向が判明している。

#### 縄文土器 (図版第431～438図、写真図版128～131)

そのほかに表採や後世の時代の遺構覆土中などから多数の石器や石製品、それに剥片が出土しているが、遺跡自体が古墳時代から平安時代までの集落を中心としている複合遺跡であることから、打製石斧や石鎌などの特定器種の石器を除いては、残念ながら所属する時代を断定できず、縄文時代に属する石器の総点数もはっきりとは把握できない。そのため、ここでは抽出できた特定の石器のみについて記述することとする。総点数は41点で、内訳は打製石斧24点、石鎌3点、削器などの剥片石器10点、多孔石4点である。



第439図 弥生時代出土土器図

#### 弥生土器 (図版第439図、写真図版131)

僅かに小破片が4点だけの出土であるが、後期の樽式に属する。だが、本遺跡からはこの時代に属する遺構はまったく検出されていない。

だが、本遺跡の南側に位置する国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群の北側、牛池川右岸の台地上の緑辺部に集中して、住居跡12軒・土坑3基・方形周溝墓3基などが検出されており、中期末から後期初頭の集落が存在したことが判明している。この集落を支える生産基盤としての水田や畠が周辺に存在していたはずであることから、この時期の本遺跡の存在する台地の土地利用としては、台地面での畠や牛池川流域の河川敷部分での水田が考えられよう。

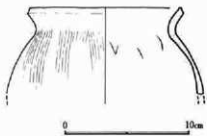
#### 古墳時代前期の土器 (図版第440図、写真図版131)

C区1号住居跡から有段(S字)口縁をもつ台付甕の口縁部分が、1点だけであるが出土している。この住居跡の時期とは明らかに異なるために、埋没時の流れ込みによる混入と考えられる。本遺跡では、この時期に属する遺構はまったく検出されていないが、牛池川の南側の台地にひろがる国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群からは、台地の南側緑辺部周辺に25軒もの住居跡が検出されている。また、その台地のほぼ全域がHr-F Aに埋没した畠として土地利用されていたことが発掘調査から判明しており、本遺跡周辺にもなんらかの関連する遺構が存在していた可能性も考えられる。

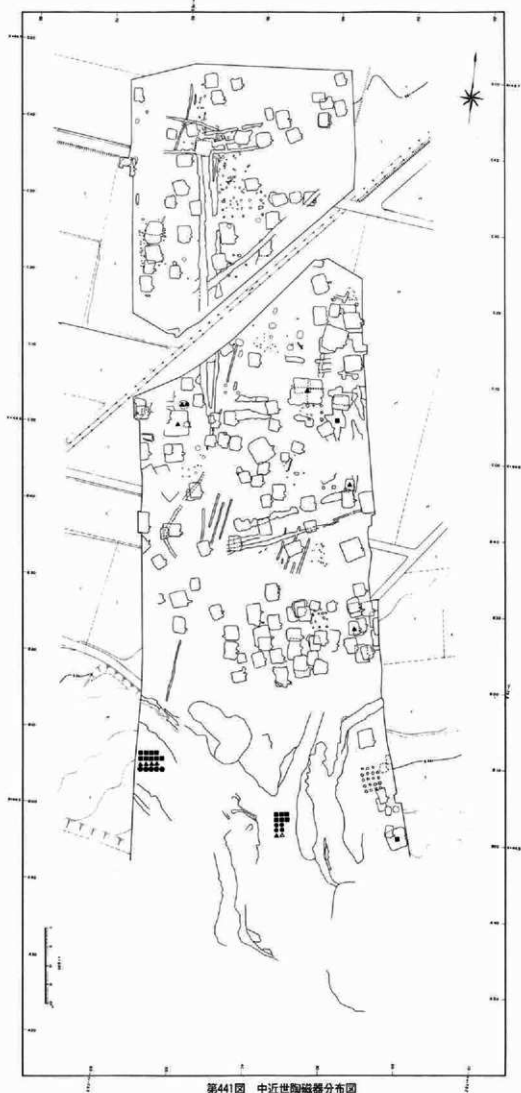
#### 中近世陶磁器 (図版第441～444図、写真図版146、147)

本遺跡から出土した中近世の遺物は少なく、分析対象となった資料は52点とさらに少なく、その出土状態をみても明確に中近世に所属する遺構からではない。

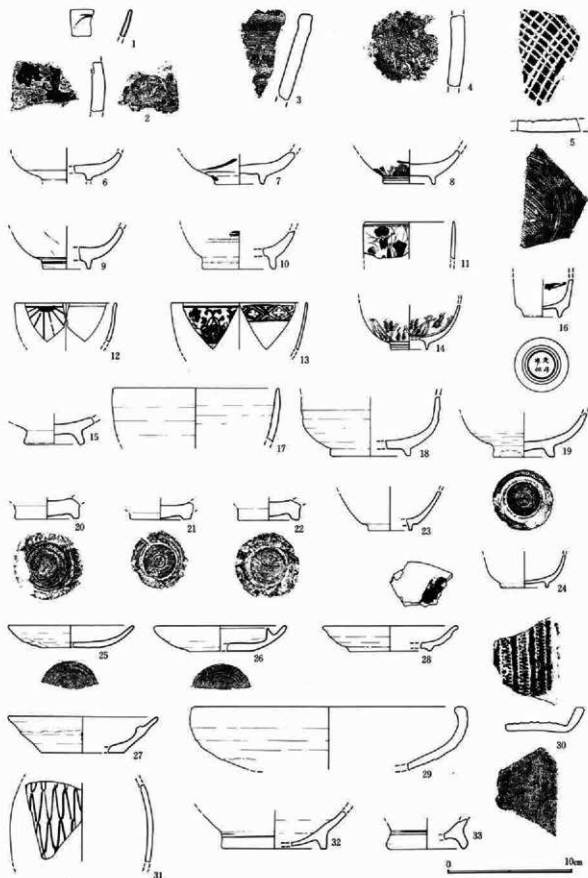
取り上げた大部分が小破片であり、完形品及び大型の破片はまっ



第440図 古墳時代前期出土土器図

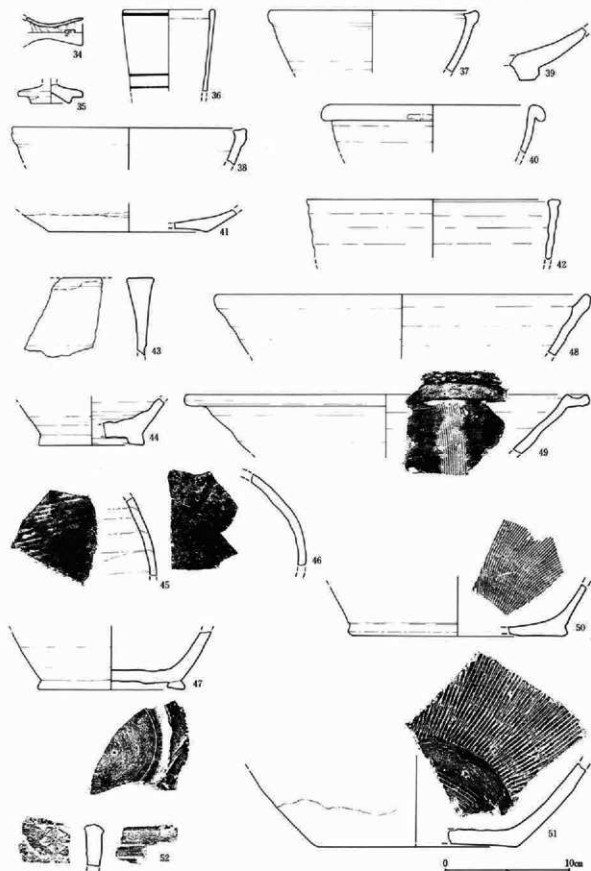


第441圖 中近世陶磁器分布圖



第442図 中近世陶磁器図(1)

第1節 古墳時代後期～平安時代

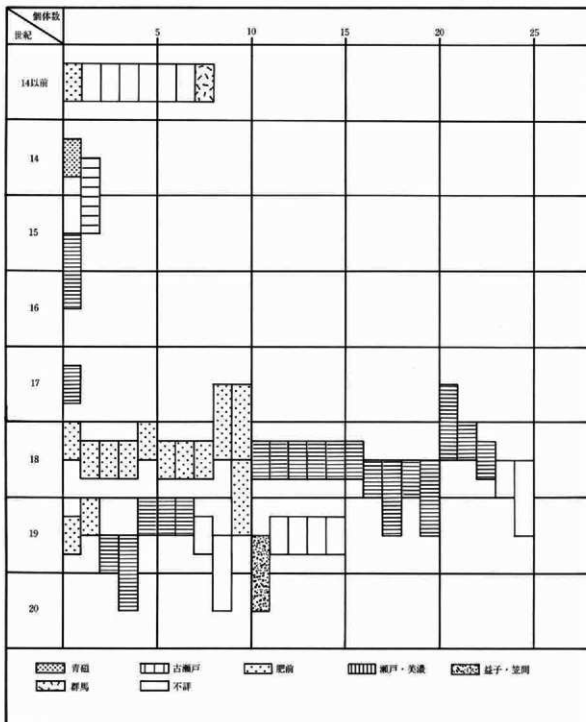


第443圖 中近世陶磁器圖(2)

### 第3章 検出された遺構・遺物

たく認められない。小破片が多いのは、おそらくは畑地として利用されていたときに、日常のごみとして捨てられたものと考えられる。周辺の集落には北原と東国分があり、両者のどちらかの耕作者による投棄が考えられる。また、在地系の鍋や中世の在地系播鉢、内耳鍋が欠除しており、この点からも使用地点からかなり離れた地であることが立証される。

時期的にみても（第444図）、最も古い段階が14世紀代であり、中国製の青磁が1点だけである。資料の大



第444図 中近世陶磁器世紀別出土量図

部分は18世紀から19世紀にかけてに集中している。生産地も伊万里・唐津の肥前系と瀬戸・美濃系の二つが主体を占めている。国分境遺跡と生産地との距離からみても、肥前系の割合が高いと言える。江戸時代に瀬戸が有田に押され気味だった状況が現れている。

出土する器種もいわゆる日常雑器を主体としており、一般の集落で用いられていたものと考えて間違いなであろう。

周辺の遺跡での北原遺跡では、近世の溝が二条検出されており、さらに、埋葬された土器と銭から時期がほぼ確定される墓が検出されている。唐津が7世紀から18世紀にかけて出現するのに対して、瀬戸・美濃や京焼は18世紀から19世紀を主体としている。

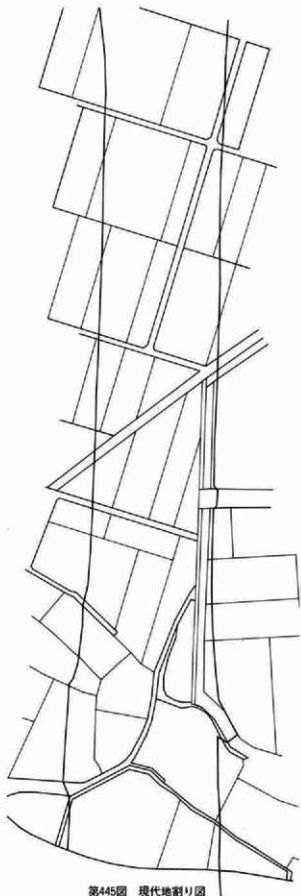
一方、国分僧寺・尼寺中間地域遺跡群では、13世紀から16世紀にかけての時期を主体に出土しており、13・14世紀が青磁と常滑を主体としているのに対して、15・16世紀には瀬戸・美濃系が主体を占める傾向が認められる。

下東西遺跡では、12世紀から16世紀にかけて出土しており、特に13～15世紀が主体を占めており、12世紀は瀬美、13世紀は青磁と常滑、14世紀は常滑、15世紀は常滑よりも瀬戸・美濃、16世紀には瀬戸・美濃というように、時期に合わせて生産地が推移するのが特徴である。また、瀬美や常滑の隆盛が12・13世紀であり、その後は衰退していくのに対して、瀬戸・美濃がそれにかわって隆盛していく過程が読み取れる。

さらに、唐津の流通経路を伊万里系が引き継いでいた過程も各遺跡の状況から読み取れる。

#### 中世瓦（写真図版126）

C区11号住居跡から2点出土しているだけで、残りの点は台地の南側の下位段丘から出土している。おそらくは台地上からの河川敷部分への投棄が考えられる。



第445図 現代地割り図

## 第4章 まとめ

## 第1節 土器・その他

すでに、第3章第1節第1項で指摘しているように、本遺跡での遺構と遺物には、山王廃寺や上野国分僧寺・尼寺、それに上野国府に隣接しているという位置からもわかるように、特徴的な資料が多数認められ、ここでそのいくつかについて述べることとする。

まず、住居の存続時期について

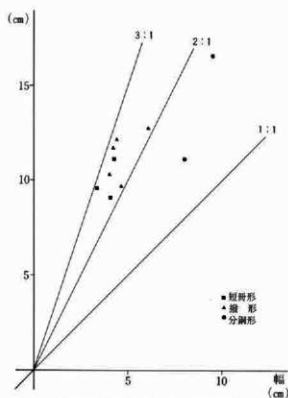
は、出土する土器を主体とする遺物や、住居形態などから推定しているが、土器については、坂口一氏や三浦京子氏らによる県内の土師器と須恵器に関する一連の研究などを基に、本遺跡での大まかな段階設定を用いているが、本報告書ではそれに関する具体的な記述が残念ながら収録できず、改めて別の機会を設けていきたい。

土器法量に関して、口径と器高との関係を示したのが第447図である。土師器坯は四種類で、A類は九底で外稜を有し、口縁部は僅かに外反する形態を指し、器高3～4cm、口径10～12cmに集中する。B類は口縁部は「く」字状、ないしは「C」字状に内湾する形態を指し、器高3～4cmと、5～7cmの二つに分散し、口径も10cm前後と20cmまでの間にやや分散している。C類は口縁部が強い横撫でによりほぼ直立する形態を指し、器高3～4cm、口径10～15cmに集中する。D類はその他の形態をすべて含む形とするが、前記のA～C類の三形態がかなり具体的な形態を示すものであるのに対して、D類はいくつもの形態を含む資料である可能性が高く、その意味では前者とは同様に比較できないと言える。法量は器高3～4cm、口径11～14cmに集中する。同様に、須恵器坯は器高3～4cm、口径10～14cmである。須恵器高台付碗は器高5～6cm、口径15cm前後に集中している。

灰釉陶器の出土点数も多く、住居総数168軒中36軒(21.4%)から出土している。特に光ヶ丘1号窯式段階が最も多い傾向を示しており、黒笹14号窯、90号窯、それに尾北の笹岡4号窯の資料も認められる。県内では、三浦氏によれば光ヶ丘1号窯式の新しい段階

器種 石材	石 罫	石 斧	石 鋸	削 器	割 片 石 器	石 皿	多孔石	計
黒 曜 石	1							1
黒色安山岩	1				1			2
灰色安山岩								1
細粒安山岩		1						1
粗粒安山岩						1	3	4
実質玄武岩	1							1
珪質頁岩				1				1
黒色頁岩		22	1	6				29
チャート	1							1
計	3	24	1	7	1	1	3	41

第3表 縄文石器器種別石材表



第446図 縄文時代打製石斧長幅相関図



から出土量が増し、大原2号窯式・虎溪山1号窯式の古い段階にピークを迎え、丸石2号窯式になると激減する傾向であるとのことである。本遺跡ではそれよりも古い段階にピークを示しており、国府や国分僧寺・尼寺に近接する位置であることや、山王庵寺に関連する可能性が高いことに遺跡の性格の一端が示されていると言える。

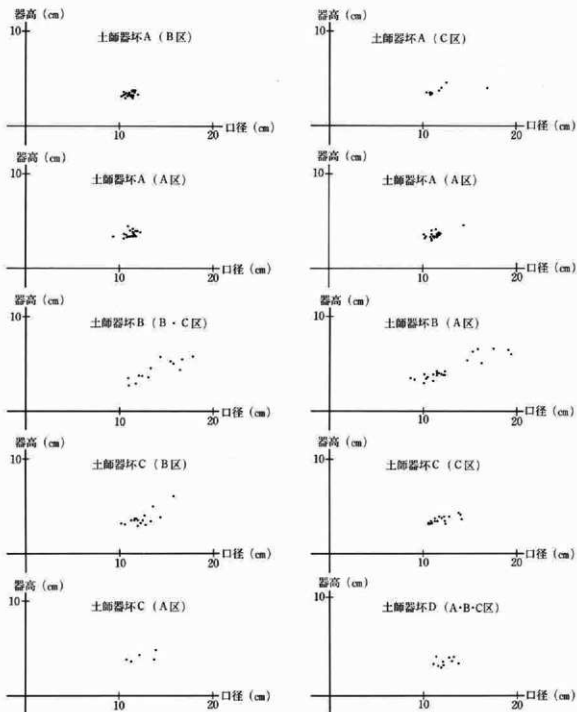
緑釉陶器も出土しており、水注などの器種がみられる。特に、陰刻花文の高台付段皿が、破片ではあるが、C区13号住居跡から出土しており、宝相華文の省略されたものと考えられる。猿投産である。

黒画土器は、土師器の坯の体部外面に認められ、耳が立っているような動物①と大きな角がある動物②、それに動物③の尻だけが描かれている。動物①は顔の口部分が細くっており、馬、あるいは鹿に似ている感じである。動物③は大きさが異なるものの尻の様子が動物①に類似しており、あるいは同種の動物なのかもしれない。動物②は角と顔の部分の様子から牛に類似しているが、視点を変えてみると、鬼のようにも見える。どれにしても、当時の集落周辺で見られる動物を表現しているのかもしれない。また、坯の底に向かう形で絵が描かれており、普通の坯の使い方では絵が見にくいことになる。あるいは逆さまにして、蓋のような使い方をしていたのであろうか。同様の資料が、前橋市柳久保遺跡の水田跡の9～10世紀の土師器の坯、伊勢崎・東流通団地遺跡の平安時代の井戸の土師器の坯から出土しており、特に、柳久保遺跡の資料は馬に騎上する人物と立つ人物から構成されており、その様子から鬼を想起している。そして、「牛頭天王」と、災いに対する祭祀に関係する資料と考えられている。本遺跡の資料は、動物のみの描写であり、同様の考えができるのかは不明であるが、なんらかの行為に伴うものであることは間違いないであろう。

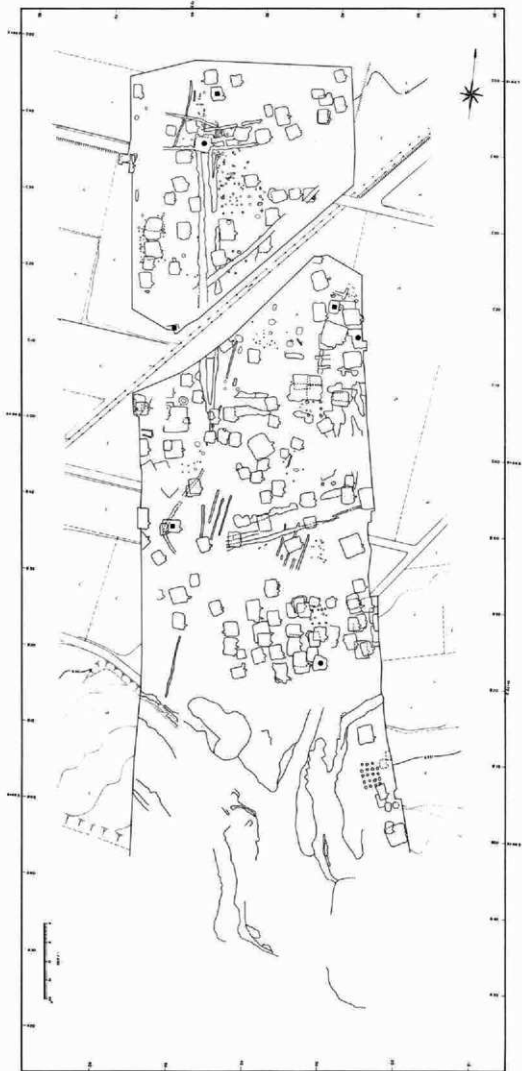
鉄製品は、総数59点出土しており、器種は紡錘車、鎌、刀子、鍬、鎌、釘などの種類がみられる。特に、刀子や鍬の多さは、本遺跡の性格を物語る上で重要な点と言える。住居跡からの出土率は35%である。

木製品も、7～8世紀の農具類などの特徴を示す良好な資料であり、他の同時期の遺跡の資料との比較する重要な例である。特に、本遺跡の南側を流れる牛池川の下流に存在する前橋市の寺田遺跡や元総社明神遺跡からは6世紀前半段階の降下火山灰である、H-r-F Aの堆積前後の遺構から木製品が出土しており、本遺跡と同様に農具類や建築材、杭などの器種が認められ、今後の研究の一助となろう。

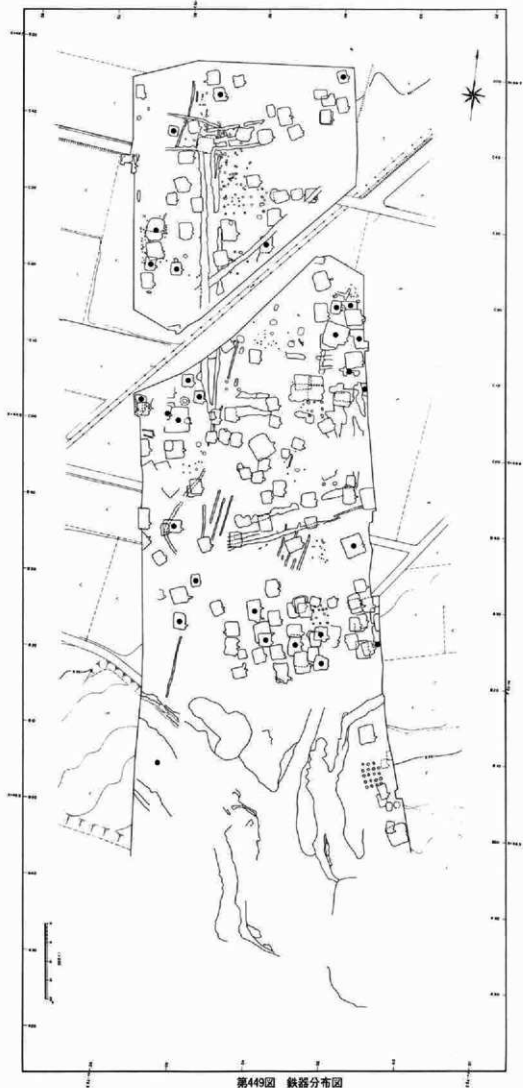
これらのことを含めて、本遺跡から出土した遺構と遺物から、本遺跡の性格は、山王庵寺を創建し、維持していた集団の管理下に所属していた可能性が高く、さらに、上野国分僧寺・尼寺の創建と管理にも携わる立場にあった集団でもあったと考えられる。



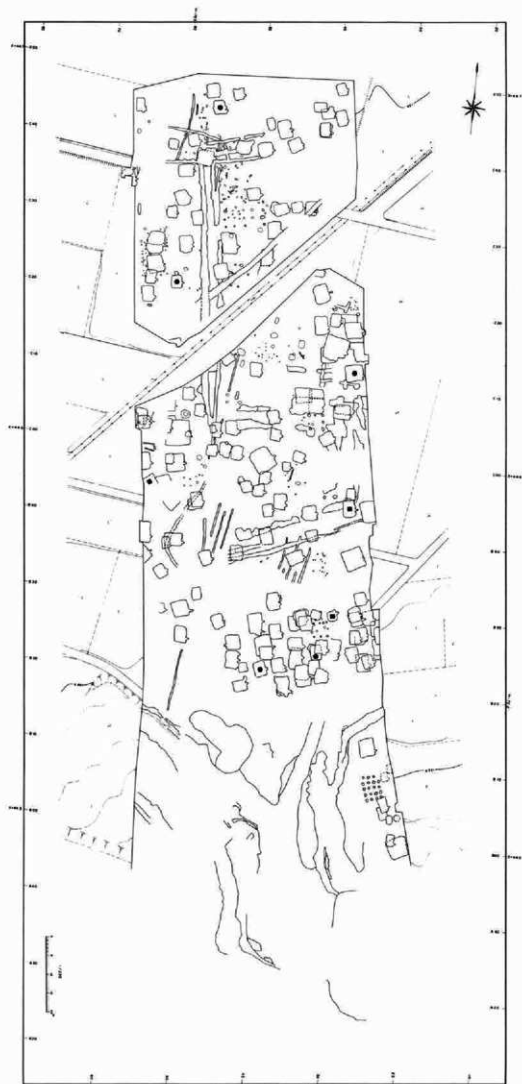
第447図 土師器環量比較図



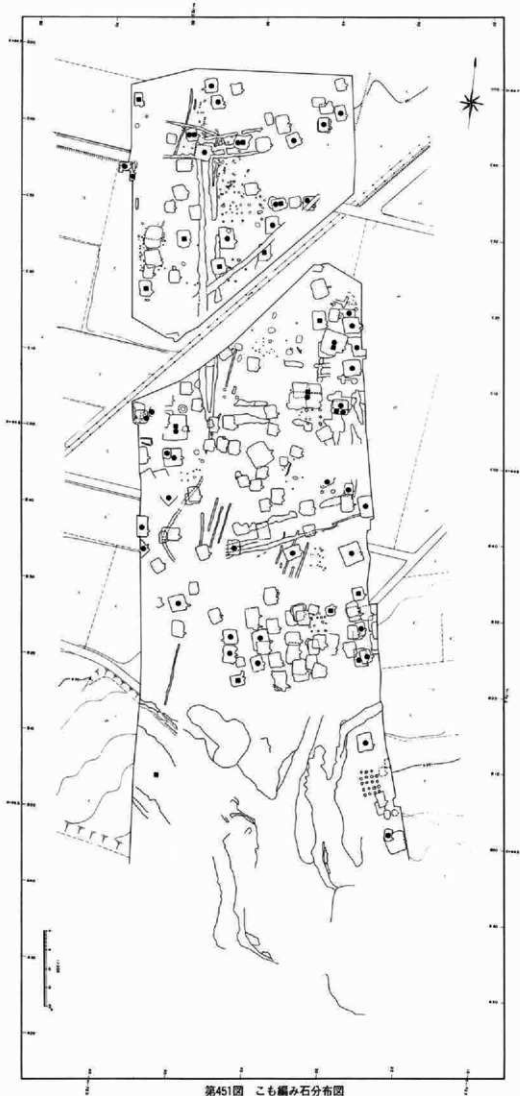
第448図 紡績車分布図



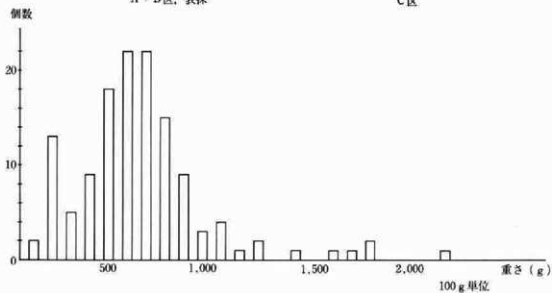
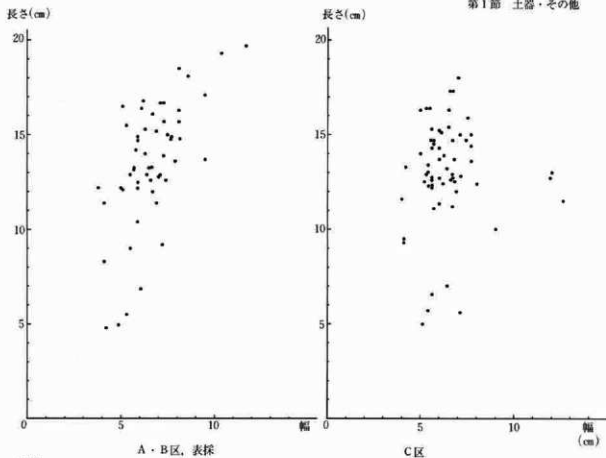
第449図 鉄器分布図



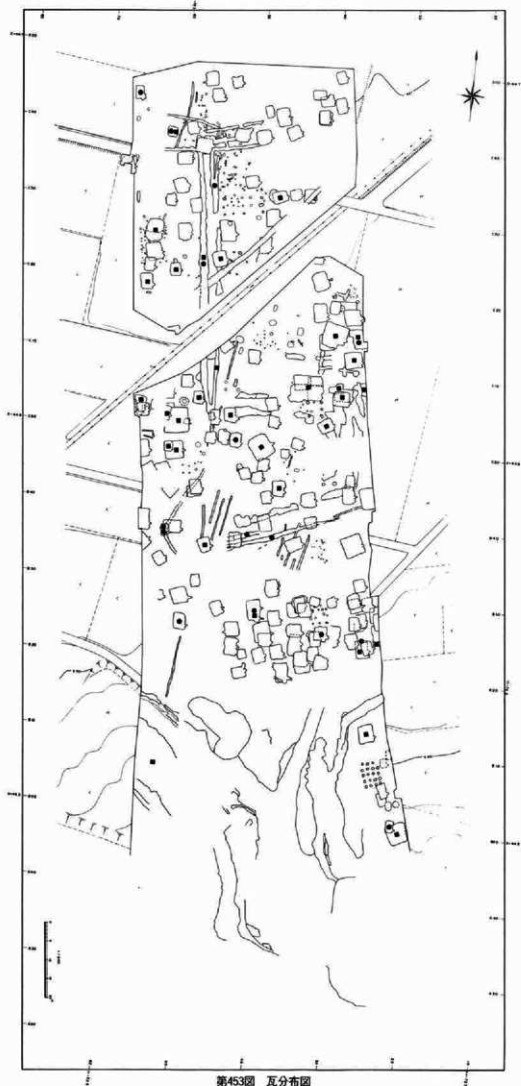
第4500圖 礎石分布圖



第451図 こも瀧み石分布図

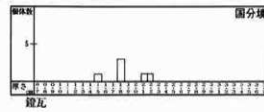
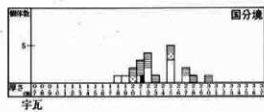
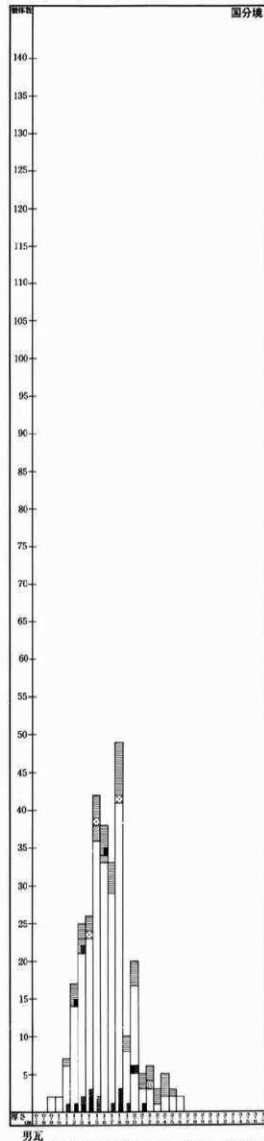
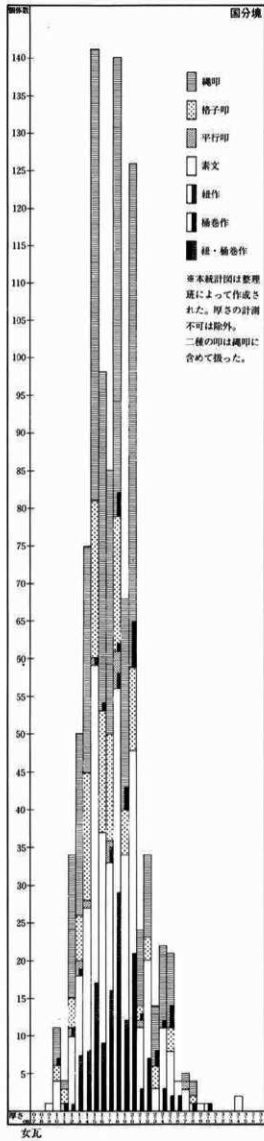


第452図 こも瀧み石長幅・重量相関、石材図

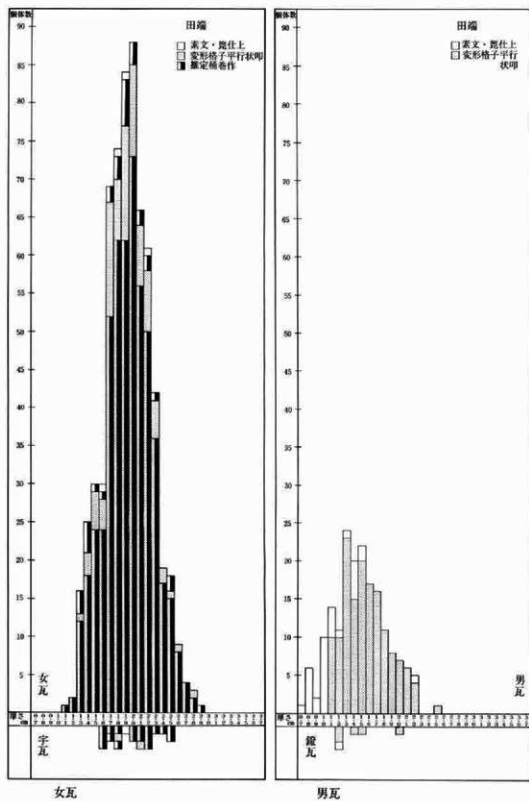


第453圖 瓦分布圖

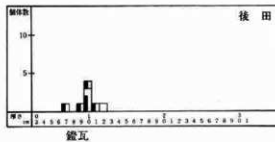
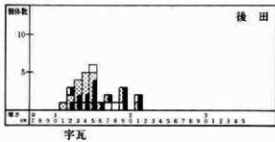
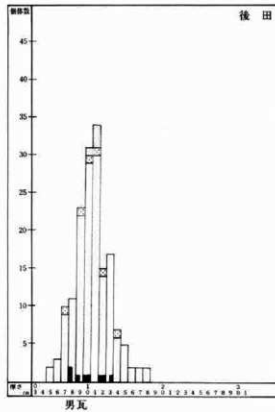
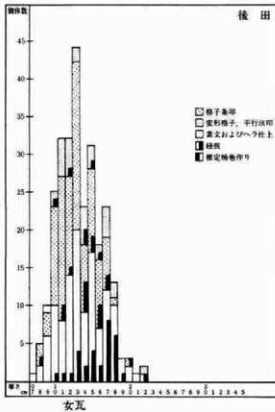
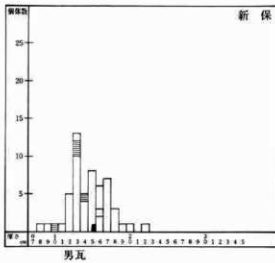
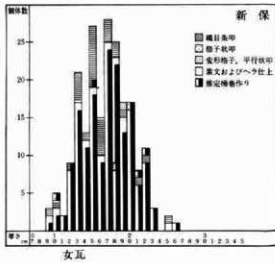




第454回 互観察統計図(1)

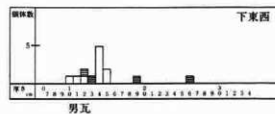
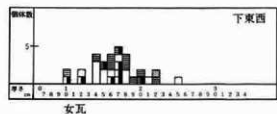
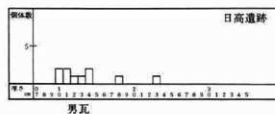
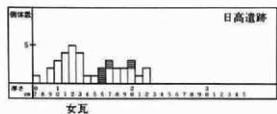
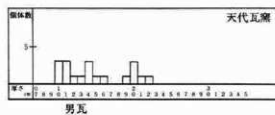
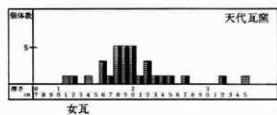
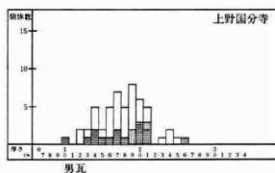
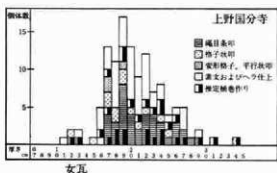
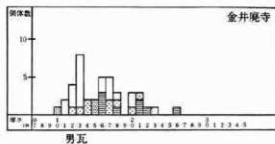
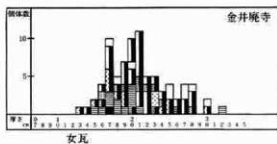


第455図 瓦観察統計圖(2)



第456図 瓦観察統計図(3)

第4章 まとめ



第457図 瓦観察統計図(4)

## 第2節 瓦

## 第1項 瓦類の観察

## 1. 瓦類の観察

本道跡から1315点の古代瓦片が出土し、整理担当者から当団本部歴史部史部瓦班（大江正行・木津博明・飯塚誠）に古瓦整理の依頼があり、本稿はそれを受けて作成した。本書では細片を除き、遺構との関係、接合関係の高い個体、特徴的な個体などを重視し、遺構に関連して47点を、瓦類中に184点、計231点の実測図、拓影図を掲げた。なお本稿で用いる古名称や術語には送り仮名は用いないこととし、代って古名称や術語の中で難解な場合のみ仮名を付した。送り仮名を多用すると術語や古名称の字儀が失われ、活用しえて行為をあらわす名詞に変わることをさけるためである。

## (1) 観察表項目について

観察については各個体を平等に扱う必要から共通の観察項目を設けて全個体を一覧表化した。第16表がそれである。表内の項立ては遺物番号、出土地、瓦種別、胎土、色調、焼成、製作技法など一般的な内容のほか、肉眼観察による製作地の推定を行ない記入した。以下は凡例と例言で、胎土については次項で触れ、紙面を時間的制約から以下、例号と凡例を小さな字とした。

まず種類は古名を用い、男・女瓦がある。特例として、男瓦は玉縁付男瓦を表し、それは瓦番号1331のとおり、大形破片でありながら、その風成りがどちらとも言い難い形状を呈している際に用いた。

焼成地は製作地である窯跡群と同意であるが、個々の窯跡単位を捉えたのではなく、範囲内箇所に存在する大窯跡群単位を記入した。その中で、中之条窯跡群中の天代瓦窯跡<sup>1)</sup>地区で焼成されたと見られる例のみ記入したが、その理由としては天代瓦窯跡が供給元として最も遠距離（直線距離で約27km）にあるので、焼成後に特別に窯跡名を記入した。窯跡群名の判断に迷う場合については二つ以上の窯跡群名を記入した。また肉眼観察の根拠には1979年米、継続実施している胎土分析成果と整合するよう見立てを心がけている。

「量目」は厚さのみを記入した。厚さは同一個体であっても均一ではないので、各個体の平均と見える箇所を測定し、単位はセンチメートルである。

「胎土」は主体を占める表地（粘土粒子）と含まれる夾雑物とに分けしっかりと観察しなければならぬが、本稿では焼成地の推定を行っていないので表地は表・密の2通りに、夾雑物は表・少・多の期で用いて簡便にした。

「焼成」は器色の色調をとらえ灰・淡黄・褐色のように捉え、その順はおおむね還元から酸化気味と考えて差し支えない。ただしそれは焼成の最終工程であって当初からの焼成を捉えた訳ではない。また焼上は焼さを捉え、軟・表・硬の三分区とした。「硬」は焼き過ぎる個体や、爪を立てた場合に、個が付かないであろうと思える個体を、「軟」は水洗いした時に壊れてしまうように見える個体に用い、「表」は軟質と硬質の中間の個体に用いた。

「成形技法」については一般的にいわれる成形技法にのっとり、作瓦の工程が屋敷されたシステム製品であると見なし、「粘土板割取」の有・無、「一枚作」の可能性の有・無、「生地の「叩き締め」の方法などをとらえて4項目を設けた。

「粘土板割取」は布圧痕下に残る垂直糸切状の条痕を粘土板割取り痕と見なし、「○」は認められる時、「なし」は無い時、「/」は縦作痕の場合に用いた。縦作が疑わしい時は「？」を付した。横巻作は他の寄木状の単位が認められる場合に「○」を記入し、「なし」は認められない時、「/」の際に用いた。男瓦の場合であっても寄木単位が認められる際には「○」を、本来的な技法である型木2枚割の可能性が高い時は「なし」とした。不明確な場合は「？」を用いて区分した。「一枚作」についても、横巻作の寄木状の単位が認められる際も「○」を付した。一枚作は女・男瓦の双方にあり、女瓦の場合は、側部に一枚作型合の側部圧痕および側部に布目の圧痕の付された場合と寄木単位が認められない場合の両者を「○」とした。男瓦は、絶対多数ではないが、一部に側面部の弧成りが大きく開き出し芯型を用いたの二枚割瓦とは考え難い個体が存在している。その場合は一枚作としての根拠薄弱のため「/」とした。一枚作とした例は側部に型木圧痕や、布目痕をとどめる場合である。横巻作に関しては群馬語の場合、一般的に女瓦にそれを認めてよい絶対多数の例の得られる地域で、その一方で多数ではない横巻作による製作の一群が存在する。横巻作観察の意識は、男・女瓦とも共通であるが、横巻作の寄木状の圧痕が不明確な時にも「なし」としたは加括弧ではなく、道正として一枚作と根本的な作瓦技法を左証するのだ。さらに粘土板合目、布合目の確認を事項で行ない該当する場合に「○」を付した。粘土板合目項で縦作は粘土板合目と存在しないはずなので「縦」と記入してある。

叩き締めについては主に素文状態が多く、「素文」として成型台や横巻作上に瓦素材がある時、手の押圧や無られた状態の表面をとどめる例をさし、その際の痕跡に閉結が認められれば叩いた項目に「○」を記入した。縦叩例も多い。縦叩は縄の太い縄にかかわらず、「縄多」・「縄単」の2区分を行った。縄多は縄文様でいう筋条帯（ローラー）成形かまたは長い印板に細縄を縦巻して用いたであろう例を指し、その場合は、「密な状態での縦巻が現れ、縄目が多く付いていること」の略称が「縄多」である。「縄単」は「細長い印板を横巻きに細縄を巻いて叩いた」でであろう個体を指し、単純な縦叩を略したものである。この一群中に女・男瓦の両者の表・裏面の小口面に叩き直された例があり、横巻作に「T字状印」と記入した。T字状印は、叩のほどこされた状態があたかもT字状を呈するからである。その縦叩は、女瓦の横巻作の場合、表上より右下がりに粗な状態で叩かれるのが一般的であるが密に叩かれた個体が少例あり、それらについては製作地が中之条窯跡群中の天代瓦窯跡<sup>1)</sup>地区に限定（胎土を含む）されるので焼成後に「天代瓦窯跡地区」とか記入してある。また縦叩と格子印の両者が用いられた例が微量あり、それについては字数との関連で「横狭」と略し横狭焼成を補足を加えた。「格子印」については、格子目の粗・密にかかわらず正格子か斜格子のどちらかに区分した。格子印で筋路がある時や特徴的な格子の場合に焼成後に「筋路」

## 第4章 まとめ

宇瓦格子紋、「小判形格子印」、「円状格子印」などのように記入した。「平行印」は須置器にほどこされるのと同様の例をさしているが類似に木目の印がある。「木目」はかっ<sup>25</sup>は実在の印としたことがあったが、それを用いると一表集中の表と同意になってしまうので木目と称することにした。その形態は、表面が水平にしたがって浅い平行状の凹凸状態を呈し、または本理にしたがって浅い平行状の凹凸を認め、それが増減した状態もあったろうと察せられ、いずれにしても、凹凸化の浅い印の場合に用いた。「靴」、「襪」については、外面成形の最終時に外面を撫で整えたか、撫で整えた痕跡があるかの確認で、一般的には痕跡は痕跡が類例は少なく、撫が多い。袖巻作女瓦、型木2枚割の男瓦の場合、回転台もしくは轆轤が使用されるので撫がその際に付けば轆轤の有無の欄に「○」が記入される。「轆轤痕」は、回転痕の場合もあるが、多くは撫の場合で、回転方向に「左」、「右」とあるのは、回転の際の砂粒の移動を捉え、右・左は回転台もしくは轆轤そのものの走行を意味する。

整形および西調整の前段階に袖巻作女瓦と型木2枚割の男瓦に、截断の痕跡もしくは指痕を全部行わないで、末端の一部を残し、乾燥後に割った場合ともに少数例であるが二種ある。それについて「生乾き後截断」と摘要欄に記入した。「布目の擦消」は、女瓦では四部、男瓦では凸部に残された布目痕消を指している。擦消全面の場合は、女瓦の古様が多くあり、部分擦消の場合は粘土板の接合面や、奉合日などの継目意識的に消した部分も多く含まれる。擦消面取は主として鏡によって、截断の痕跡を再整形した磨削跡を指している。截断時の擦消も、乾燥後の磨り跡に似た箇所に残されている例もあり、かならずしも全部が再整形面であるとは言い難い。また西調整を行う際、男・女瓦ともに、奥小口側に面取回数が多く、広小口側に少ないのが一般的であるので回数そのものが一體性の丁寧さを反映している訳ではなく、ここでは、システム製品で量産物である瓦の各組が、どの程度の面取回数が行なわれているのを知ることと目的としている。

出土遺構名称は、瓦に注記された調査時点の名称である。

摘要欄に記載した内容で触れなかった名称および語彙は、「背面布、瓦当面磨砂・背面磨漆、赤色塗彩、裏・表布目（裏面に布目）、凹状・片岩紋合、十三宝型、小判形格子・円状格子・隅切瓦・隅落瓦、凸面磨削痕、整形時口クロ痕、黒色塗、八重巻窓跡か・銅部に布目痕、側部噴出状、粘土小塊成形、連ハゼ、二次加工凹盤、一本作、上野区分式鏡瓦」などがある。

「背面布」は瓦当背面に布の圧痕ありの略で古代上野における鏡瓦製作上、良く見かける技法で「一本作」も同意に近いが、「一本作<sup>22</sup>」とするには裏面磨削の場合をさしている。

「瓦当面磨砂」は瓦当箇所を押込んだ粘土塊と瓦との分離に用いた砂の存在があるの略で、河原砂の付着を意味する。

「背面磨削」は、瓦背面の整形に用いた鏡の痕跡が良く残るの略で、通常の整形とは区別する。

「赤色塗彩」は、鏡瓦の隅部や、宇瓦隅部に建築材に彩色された際に瓦部まで赤色塗料がおよんで付着した例をさし、この場合、隅部を除く箇所まで付着した例は少ない。

「裏・表布目」は通有に残される布目圧痕の反対側、男瓦なら表・女瓦なら裏面に部分的ではあるが布の圧痕があつた際の例をさしている。それは一般と同じ除布目圧痕で笠懸部群装瓦に見られる。

「凹状」は、布のかわりに大まかな凹凸状を呈する例をさして呼び、現在、国分寺中四地蔵堂で用いられている名称である。その編物について全体を通観したことではないが、綿糸類に糸を経糸側に細網状織線を織り込んだ編物である。その組織状の織線に準りのある例を実現したとはなく、イネ科植物の細かな組織が見えるので多くの場合<sup>23</sup>は、植物原体を用いた織物の編物と考えられる。「片岩紋合」は、富岡層群に根ざす瓦の胎土中に特徴的に夾雑して見られる。読者に対しての記載ではなく、報告記述用の備えであったが、理解に支障にはならないので摘要欄にそのまま残した。

「十三宝型」も報告記述用の備えであるが、十三宝は現在の佐渡郡境町に所在する十三宝塚遺跡<sup>24</sup>（推定佐渡郡南都路寺院）出土瓦類は印に格子目为主体でその中に特徴的な小判形や円形を呈する印板先の印例が多く存在し、それを除く格子目の類も特徴的であり、それらについて「十三宝型」とし、「小判形格子」・「円状格子」も補助的に用いた。

「表面割落」は語義のとおりである。それは、風・雨よりも凍結によるハゼの割落が多いと考えられるが、「連ハゼ<sup>25</sup>」は、割落面が割解でないと同割が困難であり、用語として使用される条件が限られるため風化調査等表状態にある状態は別に、「表面割落」ありとした。「隅切瓦」・「隅落瓦」との区別は、降種や積出す箇所を使用する大きな面取を隅切瓦、瓦の隅部をわずかに削り落したの、武蔵国分寺などにも見られる例を隅落瓦とした。

「凸面磨削痕」は瓦の場合鏡削のように成形時の内磨しによる顕著な彫削痕跡は極めて少なく、大半は整形の際の磨削調整に鏡削の工具所作が加えられ、その鏡削の所作を捉えて鏡削とした。

「整形時轆轤痕」は整形時に回転台ないしは轆轤を利用し、その痕跡の明確な個体をさす。轆轤使用の有無の項目とは一致し、あえて強調する意味で用いた。

「黒色塗」は、瓦全体は、酸化しているか大巾していない限り、多少なりとも、強<sup>26</sup>が加わっているが、ここでは極端な黒色を呈した個体について用いた。

「八重巻窓か」は、安中市秋岡層群中の八重巻窓散布地に多くみられる $Fe_2O_3$ と $SiO_2$ の粘土土を多く含む肉眼による個有窓跡群の同定に近い意味がある。

「側部に布目痕」・「側部噴出状<sup>28</sup>」は、女瓦（男瓦もありうる）一枚作りに用いたと考えられる成形台の側部個または側部個に台の噴出しを認める場合に用い、噴出しが認められた際は多くの場合に布目痕も存在する。

「撫印」は語義のとおり撫を加えた後に用いた意である。

「粘土小塊成形」は、粘土の小塊の接合面を3単位以上と定める場合について使用した。今回実現した限りにおいては粘土板割取が小塊の接合面内でも各様におよぶものか不明でない。そのため母体がタタラ成形であった場合は、タタラ成形時の小塊集合によるタタラの積み上げが考えられるであろう。照らには粘土板割取の際に生じる余切角が各様の方向に走る粘土小塊成形の瓦がわずかながら存在<sup>29</sup>する。

「二次加工凹盤」は瓦使用の二次的に加工した内磨の略である。

「一本作」は鏡瓦に用いたが、現在時点では小林行雄氏・木村健三郎が確定された技法<sup>30</sup>ばかりでなく、布包円筒状工具を用いたと考えられる方法<sup>31</sup>や、型木に瓦部と男瓦部を同時に押出で製したと考えられる方法など広い意味である。今回は布の鏡目は見られない。

「上野区分式鏡瓦」はかつて設定<sup>32</sup>した鏡・宇瓦意匠の外、藤岡窓跡群製と考えられる数種の宇瓦についても、上野区分式瓦の瓦範に含むかの問題が残されている。

### (2) 胎土の内眼観察について

瓦の胎土は、近年に至ってようやく、主要窯跡群の胎土識別が、可能となってきた。可能に導いた主因

は、胎土の化学分析と、窯跡群採取資料の丹念な観察にある。

胎土の化学分析はケイ素<sup>133</sup>X線により、胎土主要窯跡群の須恵器と瓦計120点余りの成果がある。分析をはじめから10余年が経過しているが、分析値に疑問が生じた場合は次年次に解決の方法が、または地質図との照合を丹念に行うか、考方を変えるかして分析依頼を繰り返してきた。当初の頃の疑問点の一つに瓦の胎土と須恵器の胎土が分析結果において一致する大いに疑問であった。その理由は瓦中に含まれる夾雑物の多さと、明らかに二種以上の陶土素材を合成したかのように色の異なった（含まれる成分逐一主として鉄分差）縞状の帯の例が多くあり、同じ窯跡群中で採取した須恵器群と分析傾向が一致してなお窯中におさまるとは思えなかった。しかし、分析を始めた結果、成分分析のストロンチウム(Sr)／ルビジウム(Rb)；カルシウム(Ca)／カリウム(K)の割合は須恵器の質量と大差なく、特に微量元素は近似値が得られた。その後、元素の成分は土質調整そのものの母体基盤に直接、係わっていることが次第に確定的となりつつある。そうした結果において傾向を得た窯跡群に中之条窯跡群一吾妻町、月夜野窯跡群一月夜野町、太田・金山窯跡群一太田市、笠懸窯跡群一新田町、秋田窯跡群一安中市、吉井窯跡群一吉井町、赤岡・観音山窯跡群一高崎市があり、分析量が少ないかまたは未分析の窯跡群に藤岡窯跡群一藤岡市(2点)、桐生・笠懸窯跡群一桐生市(0点)が残されている。

各窯跡群採取の瓦・須恵器片は内視観察をする際、産石の標本のような存在であるが、それについての胎土所見だけで質感の鑑えが充足されるものでなく、日常的に識別意識を持ちながら、思内出土のあらゆる土器の胎土からたえず得た。それは胎土分析との兼ね合いと、産地造の製品の供給先を知る考古学上の必要性からである。その結果、焼物胎土の特性に三つの視点があることがわかった。①夾雑物、②夾雑物を除く素地、③割れ口の方角性である。その際、胎土・素地・夾雑物の相違区分は、胎土とは、夾雑物と素地を加えたもの、素地とは胎土中の夾雑物を除いたもの、夾雑物は2〜3mmの大きな石を小粒、それ以下の夾雑物を瓦物粒、含まれる粘土の粒状、たとえば黒色〜褐色粒状鉄分とケイ酸分が主要成分で、そうした粒状物を粘土物質と呼び分け、その全体が白色微細物であると認識している(この夾雑物判定は大江のみの認識)。内視観察における三つの視点の用法は、各窯跡群製品によって異なり、秋岡、赤岡・観音山窯跡群は夾雑物優先、笠懸窯跡群は割れ口優先、吉井窯跡群は素地優先のように用いているが、認識の揃えのある場合は複数の窯跡群名を使用するようにしている。

中之条窯跡群は吾妻郡中之条町にある天代瓦窯跡群<sup>134</sup>が明らかにされているほかは明瞭でない。夾雑物は白色微細物粒が目立ち、合せて灰色〜灰〜淡褐色の大きな粘土物質が多く含まれる。微細な黒〜灰色の粘土物質は、焼成が甘かったり、酸化気味では目立ち焼物と黒胡麻状または細かなケール状となる。

月夜野窯跡群は桐生郡月夜野町<sup>135</sup>に所在し、大量ではないが瓦を焼造している。今頃は該当がない。

笠懸窯跡群は新田郡笠懸村に存在し、金山直紋岩<sup>136</sup>を主とする山際支群と尾尾層群を基盤<sup>137</sup>とする鹿の川支群とに分かれる。両者とも心に惹かれるウツクク状または直に傾ける傾向があり、重点③が優先される。夾雑物は鹿の川支群では白色微細物粒が白粉をまよふたように入り、他の焼物粒が目立たない。素地の粒度はともにやや荒い。山際支群では、細かな白色微細物粒のほかは白色〜灰色微細物粒が目立つ。褐色、黒色物質は両者とも円粒状及び不整形が多く、爪では割れない。

太田・金山窯跡群は、太田市北方の金山丘陵から八王子丘陵の南側に存在しているが、瓦造窯跡群は少なく今頃は該当がないと思われる。

藤岡窯跡群は藤岡市西方の丘陵中にある。板鼻層群と富岡層群基盤<sup>138</sup>とさらには、その流出による二次堆積層を母体とする一群とがある。板鼻層群基盤は白色微細物粒が極めて目立ち、他の夾雑物は目立たないで笠懸窯跡群中の鹿の川支群と極めて良く似ており、区分困難な場合も多いが、差異は割れ口にあり、藤岡窯跡群の方が強く、鹿の川支群の方が弱い。夾雑物基盤は、全体的に藤岡窯跡群の方が多く、黒色物質は、藤岡窯跡群群中に円粒が多く傾向にある。富岡層群基盤は、吉井窯跡群の同基盤とは連続地帯で、しかも直接のため傾斜は困難であり、本稿中では藤岡・吉井とした大半がそれである。素地は荒く、全体的に結合作用を強く起こすであろう白色半透明角ばった微粒が多く含まれ、黒色微細物も円粒状及び不整形の両者がやや大粒をまよえて見られ、ともに焼物粒をまよえて爪で押潰すことは困難である。

吉井窯跡群は多野郡吉井町にありその主体は富岡層群にあるが、流出の二次堆積層があり複雑な感を呈する。藤岡窯跡群と似た胎土の一群は前述のとおりであるが、多北地区を中心とした窯跡出土例に、パイ皮のように鋭角にも素地方向が重なり、夾雑物の量は群中で最も多い特徴をもつ。それは、吉井窯跡群製品の主体でもあり、観察表中の吉井とある大半は、それを指している。

赤岡窯跡群は高崎市西方の観音山丘陵中の窯跡群で、基盤は板鼻層群である。藤岡・吉井と用いた例は、同一基盤のため判別しづらい例をさくしている。同一層群であっても、含まれる白色微細物粒に差があって北西方にいかにたがいつくなくなる傾向がある。黒色物質量はそれより少ない。素地は細かく、目が揃い、焼物と割れ口から選入された製品のように入らぬことしばしばである。

秋田窯跡群は、安中市北方の秋田丘陵中にある。秋田丘陵は北側に秋田層群があり、南側に板鼻層群があるが目下、各支群がどちらの母体に属するかの区分は行っていない。しかしいずれに属したとしても、胎土傾向にそう差はない。夾雑物は、赤岡窯跡群中のそれより、さらに白色微細物粒が少ないかまたはほとんどなく、それに代わって黒色物質が目立っている。素地の、粒度はやや荒く、高の質量は軽い。黒色物質は極めて軟らかく焼物ならなければ爪で潰れる特徴をもつ。

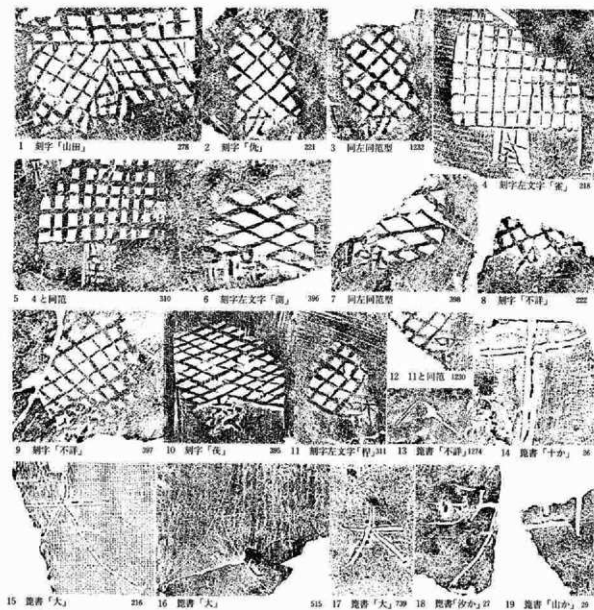
以上、胎土傾向を概括的に触れたが、各窯跡群相互を比較する前提に立って表現したもので、読者については、前文中の特定窯跡群の特徴を読みつつ、手持の瓦片を見ながら、いったいどの窯跡群の製品であろうかなどの推定に使用するのには止めていただきたい。行うなら、各窯跡群の資料を充分実見観察したうえで比較していただきたい。また前述文、今後、地域における土器・瓦研究は、胎土をしっかりと観察し、製作地の特定推定を行ない窯跡群単位の製品序列化を行なう方向性を進めようと考えているが、その際、関東地方における県外の地域においては、窯跡群数は群馬県よりはるかに少なく、数年間で観察が可能になるであろう。しかし群馬県は、地質上の標準県のような県で、前もって今のうちから、検討を進めておかなければならない必要性がある。そのため、あえて各窯跡群の胎土の特徴を文章表現した次第で仔細は直接尋ねられた。

#### 第4章 まとめ

なお、瓦類はすべて接合に供した。方法は製作窯跡群を示唆する胎土別に全個体を仕分け、さらに製作技法別に分別して、その単位毎に接合を行った。瓦の接合状況からすれば、相当に高く、各実測図中の拓影を見てのとおりである。

#### 2. 瓦類の観察

同一の観察は群馬郡上野国分寺跡、吾妻郡金井廃寺遺跡、吾妻郡天代瓦窯遺跡、高崎市日高遺跡、前橋市下東遺跡、利根郡後田遺跡、高崎市新保遺跡、渋川市有馬廃寺跡、高崎市田端遺跡で試みられ、その集合

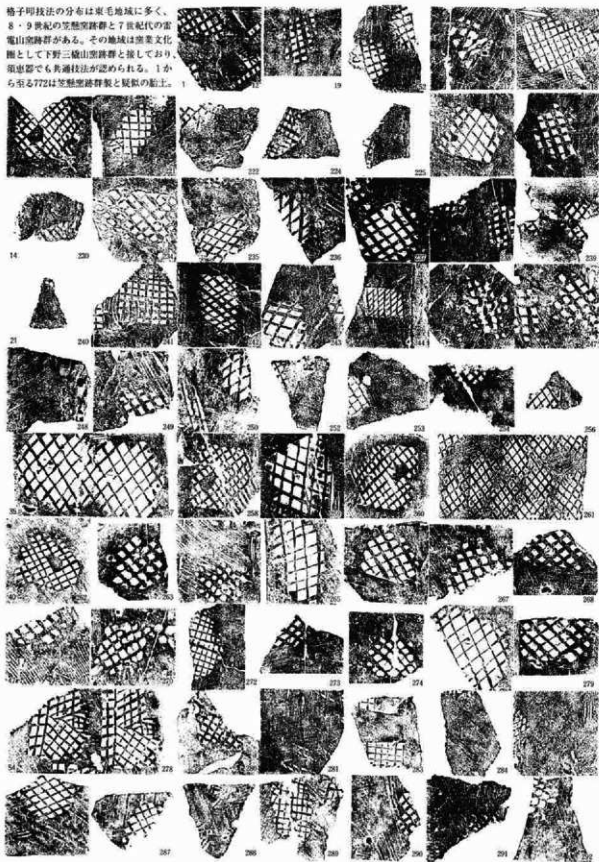


既判説によると1は山田郡、2・3は佐位郡の「佐」とされているが4かの字跡が解名であるので佐井郡の頭文字、「佐」は略字の「佐」と同じ。4は佐位郡那部郡名頭文字。6・7は佐位郡洞名郡名頭文字。8は佐位郡反治郡の頭文字「反」と推定されているが空懸窯跡群製の別字文字は拓影図の位置のように格子が上方に、文字が下方になり、そうした形からすると反のようには見えない。9は判説できず。10は「茂」と認め、吉田東佳「大日本地名辞書」1906によると佐位郡美濃郡は美茂郡の中略であり、茂呂の地名称は現存する。「茂」は音でも、訓でしげる。茂と同字であり、美茂郡の郡跡瓦と考えられる。11-12は「程」と認めるが目下、検討中であるが、佐位郡中の解名である可能性が持たれる。14-19の読書読うら、明瞭なのは15-17の「大」のみである。

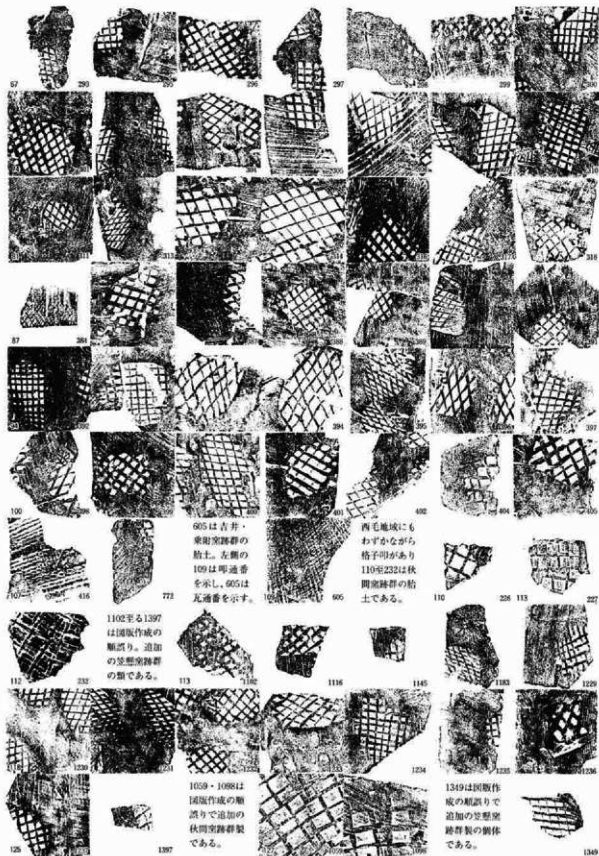
附図1 (第458図) 文字瓦拓影図 1 : 2



格子印技法の分布は東毛地域に多く、8・9世紀の空懸窯跡群と7世紀代の雷電山窯跡群がある。その地域は崇徳文化圏として下野三嶽山窯跡群と接しており、須恵窯でも共通技法が認められる。1から至る772は空懸窯跡群製と疑いの胎土。



附図2 (第459図) 格子印拓影図 (1) 1 : 4



附図3 (第460回) 格子印拓影図(2) 1:4

が、図1-3、および観察表・附表3である。

国分寺例(廃寺)は南緑築地跡に設けたA・Bトレンチから出土した瓦片のうち任意抽出して173点を観察し、主体時期は8世紀中頃から9世紀初頭頃である。金井例(廃寺)は金堂跡と考えられる中核地域に散布していた122点の採集資料が供され、いわば任意に近く、主体時期は7世紀後半から8世紀である。天代例(瓦窯)は発掘調査で得られたC区地の51点を扱い、主体時期は8世紀中頃である。日高例(集落関連・近接地に瓦葺仏堂を推定)は9世紀後半に埋没した154号溝から出土した瓦46点で主体時期は9世紀に置かれる。下東西例(集落・豪族居宅跡)は廃材、住居内転用瓦など山王廃寺から運ばれたと考えられる二次的な存在の46片で、主体時期は7世紀後半から9世紀前半頃である。後田例(集落)は隣接地に瓦葺小仏堂が想定され、8世紀前半の565点を、新保例(寺院雑舎群と集落)は新保廃寺隣接地から得られた7世紀後半を主体とする例で、260点余りの観察を行なった。有馬例(廃寺)は推定寺地内の発掘調査で得られた30点と既出の70点を加え計100点の観察を行なった。製作の主体は8世紀中頃である。田端例(寺院関連集落)は田端廃寺隣接地から土地区画溝が検出され、併せて諸遺構から1,274点の瓦類が出土し主体時期は7世紀終末、下限に9世紀他の瓦が少量認められた。以上比較対象となる9遺跡は性格が多様であるので注意されたい。

今回扱った瓦類は1,315点で内訳は鏡瓦7、字瓦22、男瓦305、女瓦980、男・女瓦1(以下検討の際は除外する)であった。特に諸遺構の中で注目されるのはC区1号井戸跡から出土した鏡瓦3、字瓦20、男瓦216、女瓦781、男・女瓦1、計1,021点出土の存在である。仔細は、検出された遺構の項を参照されたい。出土状況の大略はどのような目的に沿うかも次章によらねたいが井筒周囲を瓦敷にし、井戸機能停止後に一括埋没させた可能性が推定されている。そのため、廃棄時における一括廃棄の可能性は極めて高く、長楽寺遺跡1号井戸跡<sup>88</sup>(中世、15世紀末頃一括埋没廃棄、出土瓦147点)の例とともに供給地における稀少な多量出土例である。その他の遺構、および表採資料は鏡瓦4、字瓦2、男瓦89、計294点があり、以降C区1号井戸とその他の一群とに大別し記述したい。

まず各瓦種組成は、C区1号井戸跡の場合、女:男瓦は781:216=3.62:1となり、既観察のうち日高(3.6:1)、新保例(3.9:1)、田端例(3.6:1)、有馬例(4.3:1)と並んで女瓦存在の割合が高い。また、字:鏡瓦の関係は20:3=6.6:1となり、既観察のうち日高例(5:1)を上まわり、明らかに字瓦を故意に持って来ており、なにか特殊事情がその背景にはありそうである。男瓦と鏡瓦との関係は216:3=72:1で、女瓦と字瓦との関係も781:20=39.1:1となり、やや片寄った値となり、人為の所作か、流用について規制がなされたかもしれない可能性を高めている。仮りにどこかの一堂字の解体に伴って流用したものが否を考えると、おむね、本瓦葺建物の女瓦と男瓦の葺方の割合は2:1前後である。このことを検証

遺跡名称	女瓦数	男瓦数	同左比	字数	鏡数	同左比	男:鏡比	女:字比	男・女:軒
上野 国分寺築地跡	120	53	2.3:1	○	○	—	—	—	—
金井 廃寺遺跡	81	41	2.0:1	○	○	—	—	—	—
天代 瓦窯遺跡	32	19	1.7:1	○	○	—	—	—	—
日 高 遺 跡	36	10	3.6:1	(5)	(1)	5:1	10:1	7.6:1	7.7:1
下 東 西 遺 跡	32	14	2.3:1	○	×	—	—	—	—
後 田 遺 跡	266	164	1.6:1	(27)	(12)	2.25:1	13.7:1	9.9:1	11.0:1
新 保 遺 跡	209	54	3.9:1	(2)	(1)	2.0:1	54.0:1	10.4:1	87.7:1
田 端 遺 跡	(792)	(194)	(4.1:1)	(27)	(14)	1.9:1	13.9:1	29.3:1	24.0:1
	642	181	3.6:1						
有馬 廃寺遺跡	77	18	4.3:1	(1)	(2)	0.5:1	9.0:1	77.0:1	31.7:1
国分墳遺跡	980	305	3.2:1	22	7	3.1:1	43.6:1	44.5:1	44.3:1
総数	781	216	3.6:1	(30)	(3)	6.7:1	72.0:1	39.1:1	43.3:1
C区1号井戸	199	89	2.2:1	(2)	(4)	0.5:1	22.3:1	99.5:1	48.0:1
その他出土									

附表1(第4表) 各遺跡出土の相互比率

( )は実数で、他はグラフ化に用いた数量

した上野国分僧寺・尼寺中間地域の中世寺院（小見庵寺）例の瓦葺方試算によると女瓦：男瓦＝8：3（2.26：1）、重量試算から出した出土量比較は、女瓦：男瓦＝988枚：415枚（2.37：1）であった。この結果からすると、日高・新保・田端・有馬例とならんでC区1号井戸の女：男瓦＝3.62：1の割合はやや特異と言わざるを得ないかもしれないが、諸遺跡の傾向成りは事実であるとの唯物的な視点に立てばそれ成りの理由が考えうる。それは、割れ方に左右され、女瓦の方が曲率が低いため細片に割れ易い点である。さらに小見庵寺例は、中世瓦で中世瓦の女瓦は幅が狭いため破片数は古代瓦より多くはならないことに原因があるようであり、今後に持越したい。

葺方を鐘瓦を用いると極端な値が出るので、女瓦と宇瓦をもってすると女瓦相互の重さなりを除き25cmを有効長とすれば、39枚×25cm＝976cmに対し宇瓦1枚を数えることができる。また男・女瓦：鐘・宇瓦（軒瓦）で算出すると、997：23＝43.3：1であるので45枚×25cm＝1083cmを数え、日高例192cm、新保例2192cm、田端例600cm、有馬例792cmのうち中樞建物が大きかったと考えられる新保例に次ぐ規模が囃裏に写し出されるのである。日高・後田例は瓦も小形であって小堂宇の軒先をわずかに飾る規模の葺方が想像でき、田端、有馬の両例はある程度の規模はあっても建物のうちの一字、中樞建物のみが瓦葺ではなかったと想像される。

その他の一群の各種組成は、女：男瓦は199：89＝2.23：1となり、上野国分寺中間地域の葺方試算に近く、妥当性のある数値が得られる。男瓦と鐘瓦は89：4＝22.25：1であり、新保例を除き他は一般例に近い結果的には無作意に近い流用を思わせる。女瓦：宇瓦は199：2＝99.5：1で、それについては使用の頻度が宇瓦について少なかったようである。男・女瓦：鐘・宇瓦（葺瓦）で算出すると288：6＝48：1となり、新保例の87.7：1に次ぎ、C区1号井戸の43.3：1に近似する。そのことは瓦葺建物側に43前後：1になりうる瓦葺状態があったからとわずかながら可能性が持たれ、重要な視点である。

厚さについて集計の結果は、第454図、附表2のとおりである。既検討結果からすれば、同一建物であっても女瓦と男瓦とでは女瓦の方がやや厚く、当遺跡においても同様であった。C区1号井戸の男瓦の厚さの総計340.2cm÷207点＝1.643cm、女瓦の厚さの総計1355.3cm÷773点＝1.75cm、そのほかの一群の男瓦の総計143cm÷88点＝1.625cm、女瓦の厚さの総計344.3cm÷191点＝1.802cm算出でき、両者ともに、男瓦1.6cm、女瓦1.8cmとなり、まったく一致に近い整合を見る。それを近接してある上野国分寺築地跡の例から比較すると男瓦は、国分寺例が約2mmほど厚く、女瓦は約1.5mmほど厚い傾向があり、経験上を加えれば、上野国分寺所用瓦の方が薄い瓦が用いられている場合が多く、当遺跡の搬入先は厚さからすると尼寺側から主体が運ばれたとも考えられる。

粘土板剥取痕について、C区1号井戸出土の女瓦781例中470例（60%）に、その他出土の女瓦199例中74例

遺跡名称	集計瓦主体年代観と下限	男 瓦		女 瓦	
		平均値	範囲	平均値	範囲
上野国分寺築地跡	8世紀中頃、9世紀	1.88	2.0	1.96	1.9
金井庵寺遺跡	7世紀後半～8世紀後半	1.59	1.3	2.04	2.1
天代瓦窯遺跡	8世紀中頃	1.48	1.0～2.0	2.00	1.8～2.0
日高遺跡	8世紀後半～9世紀	1.40	1.0～1.4	1.45	1.1
下東西遺跡	7世紀末～9世紀	1.55	1.5	1.74	1.8
後田遺跡	8世紀前半	1.07	1.1	1.34	1.4
新保遺跡	7世紀末、9世紀	1.46	1.3	1.68	1.7
田端遺跡	7世紀末、9世紀	1.49	1.3	1.90	2.0
有馬庵寺跡	8世紀前半、8世紀後半	1.37	1.3～1.5	1.76	1.6
国分境	C区1号井戸	1.64	計	1.75	計
遺跡	その他出土	1.63	1.5～1.8	1.80	1.8

附表2（第5表） 男・女瓦の厚さの比較

附表3 (第6表) 窯跡群別瓦分類表

笠懸窯跡群 (K)			
種	印はか	類形名称	数量
踏	欠損	—	2
字	正格子	1	1枚? 1。
	斜格子	1	1枚? 1。
	縄草	8	1枚? 8、粘土板合1。
	素文	4	1枚? 4。
男	正格子	1-a	1
	斜格子	2-a・b	2
	木目	5-a	2
	縄草	6-a・a'	6
	素文	8-a・a'	123
女	网上	8-c	(6)
	正格子	1-a・b	71
	斜格子	2-a・b	34
	斜格子	3-a・b	4
	平行	4-a・b	1
	木目	5-a・b	4
	縄草	6-a・b	193
		6-c	(9)
	縄多	7-a・b	31
	素文	8-a・b	99
		8-b	(21)
		8-c	(1)
小計	1号井戸1021点中593点(58.0%)、1号井戸踏3点中2(66.6%)、1号井戸字20点中14(70%)、1号井戸印216点中139(64.4%)、1号井戸女781点中428(56.1%)		
笠懸窯跡群? (K?)			
種	印はか	類形名称	数量
踏	—	—	—
字	—	—	—
女	素文	8-c	1
小計	1号井戸1021点中1(0.01%)、女1(0.1%)		
笠懸・吉井窯跡群 (K・Y)			
種	印はか	類形名称	数量
踏	—	—	—
字	—	—	—
男	縄多	7-a・a'	2
	素文	8-a'	1
女	縄草	6-a・a'・b	11
	素文	8-a・a'・b	3
小計	1号井戸1021点中18(1.8%)、男3(1.4%)、女14(1.8%)、 ※はか1点男・女あり。		
笠懸・藤岡窯跡群 (K・F)			
種	印はか	類形名称	数量
踏	—	—	—
字	—	—	—
男	素文	7-a	1

女	縄草	6-a	1	寄木板1。
	素文	8-a	1	寄木板1。
小計	1号井戸1021点中3(0.3%)、男1(0.5%)、女2(0.3%)			
笠懸・垂野窯跡群 (K・N)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
踏	—	—	—	—
字	—	—	—	—
男	—	—	—	—
女	縄草	6-a	2	寄木板2、布合目1。
小計	1号井戸1021点中2(0.2%)、女2(0.3%)			
藤岡窯跡群 (F)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
踏	欠損	—	1	—
字	縄草	6-a・b	1	1枚? 1。
	素文	8-a・b	1	1枚? 1。
男	素文	8-b	1	1枚? 1。
女	素文	8-a	7	寄木板1、寄木? 2。
		8-b	(3)	(1枚3、1枚? 2)。
小計	1号井戸1021点中11(1.1%)、踏1(33.0%)、字2(10.0%)、男1(0.5%)、女7(6.9%)			
藤岡・吉井窯跡群 (F・Y)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
踏	—	—	—	—
字	縄草	6-a・b	1	1枚? 1。
	素文	8-a・b	2	寄木板1、1枚? 2。
男	素文	8-a	2	—
女	平行	4-c	3	縄作3。
	木目	5-c	1	縄作1。
	縄草	6-a・b	2	寄木板1、1枚? 1、粘土板合1。
	縄多	7-a・b	1	寄木? 1、1枚? 1。
小計	1号井戸1021点中13(1.4%)、字4(20.0%)、男2(0.9%)、女7(9.9%)			
吉井窯跡群 (Y)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
踏	—	—	—	—
字	—	—	—	—
男	木目	5-a	2	—
	縄草	6-a	1	—
	縄多	7-a	28	布合目2。
	素文	8-a	29	布合目2。
		8-b	(1)	(1枚1)。
		8-c	(2)	(縄作2、縄作? 2)。
女	平行	4-c	2	縄作2。
	木目	5-a・b	1	寄木板1、1枚?、布合目1。
		5-b	1	1枚1。
	縄草	6-a・b	51	寄木板35、寄木板? 15、1枚? 16 粘土板合11、粘土板? 2、布合目6、 布合目? 2。
	縄多	7-a・b	12	寄木板6、寄木板? 1、1枚? 1、 粘土板合2、粘土板? 2、布合目1、 布合目? 2。
		7-b	6	1枚6。
	素文	8-a・b	140	寄木板54、寄木? 14、1枚? 43、 粘土板合12(5.8、2.4)、粘土板合? 1、布合目7。
		8-b	(41)	(1枚41)。
		8-c	(21)	(縄作21、縄作? 1)。
		未分節	1	1枚1。
小計	1号井戸1021点中255(25.0%)、男40(18.5%)、女214(27.4%)、 計 ※はか1点男・女あり(素文・縄作1)。			

第4章 まとめ

吉井堂跡群 (Y?)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
錠			—	—
字			—	—
男			—	—
女	英文	8-c	1	一枚1。
小計	1号井戸1021点中1 (0.1%)、男1 (0.5%)。			
吉井・桑附堂跡群 (Y-N)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
錠			—	—
字			—	—
男	縄多	7-a-a'	2	寄木版1、粘土板合1。
	縄単	1-b-c	1	縄作。
	格子			
	縄単	6-a-b	18	寄木版12、寄木版?5、一枚?6、粘土板合3、布合目3、布合目?2。
女	縄多	7-a-b	6	寄木版5、寄木版?1、一枚?7、布合目?1。
	英文	8-a-b	5	寄木版5、寄木版?2、一枚?2、布合目1。
		8-c	(1)	縄1、紐?1。
小計	1号井戸1021点中32 (3.1%)、男2 (0.9%)、女30 (3.8%)。			
桑附堂跡群 (N)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
錠			—	—
字			—	—
男	平行	4-c	1	縄作1。
	縄多	7-a	3	布合目?1。
	英文	8-a-a'	10	寄木版1、寄木版?7、粘土板合1 (2)。
女		8-c	(1)	紐? (1)。
	平行	4-a	1	寄木版1。
	縄単	6-a-b	6	寄木版4、寄木版?1、一枚?1、布合目?1。
	縄多	7-a-b	8	寄木版6、寄木版?1、一枚1、一枚?1、粘土板合2、布合目?2。
	英文	8-a-b	16	寄木版6、寄木版?1、一枚8、一枚?4、粘土板合?1、布合目2、布合目?1。
小計	1号井戸1021点中45 (4.4%)、男14 (6.5%)、女 (4.0%)。			
桑附堂跡群 (N?)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
錠			—	—
字			—	—
男			—	—
女	英文	8-a	1	寄木版1。
		8-b	1	一枚1。
小計	1号井戸1021点中2 (0.2%)、女2 (0.3%)。			
秋間堂跡群 (A)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
錠			—	—
字			—	—
男	縄多	7-a	5	寄木版1。
	英文	8-a-a'	3	寄木版1。
	正格子	1-a-b	3	一枚?3。
	縄単	6-a	1	寄木版1。

縄多	7-a-b-b'	1	寄木版?1、一枚1。	
英文	8-a-b-b'	10	寄木版2、寄木版?3、一枚3、一枚?5、布合目?1。	
小計	1号井戸1021点中23 (2.3%)、男8 (3.7%)、女15 (1.9%)。			
秋間・桑附堂跡群 (A-N)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
錠			—	—
字			—	—
男	縄多	7-a	1	寄木版?1。
	印欠損	未分類	1	
	縄単	6-a	3	寄木版3。
	縄多	7-a	2	寄木版2。
	英文	8-a-b	1	
小計	1号井戸1021点中8 (0.8%)、男1 (0.5%)、女7 (0.9%)。			
中之条堂跡群 (NA)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
錠			—	—
字			—	—
男			—	—
女	縄多	7-a	6	寄木版6。
小計	1号井戸1021点中6 (0.6%)、女6 (0.8%)。			
中之条・桑附堂跡群 (NA-N)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
錠			—	—
字			—	—
男	縄多	7-c	1	縄作1。
女			—	—
小計	1号井戸1021点中1 (0.1%)、女1 (0.1%)。			
不詳 (?)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
錠			—	—
字			—	—
男	平行	4-a'-b	1	紐?1、一枚?7。
	縄単	6-a	2	
	英文	8-a	1	
女	縄単	6-a-b	1	一枚?1。
	英文	8-a-b	1	一枚?1。
小計	1号井戸1021点中6 (0.6%)、男4 (1.9%)、女2 (0.3%)。			

その他出土

空想堂跡群 (K)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
錠	印欠損	未分類	2	
	英文	8-	1	
字	英文	8-b	2	一枚2。
男	縄単	6-a-b	1	
	縄多	7-a-b	1	
	英文	8-a-b	26	粘土板1。
		8-b	(1)	
女	正格子	1-b	8	一枚8。
	斜格子	2-b	7	一枚7。
	木目	5-b	2	一枚2。
	縄単	6-a	1	寄木版1。
		6-b	5	寄木版1、寄木版?1、一枚5。
	縄多	7-a	1	寄木版1。
		7-a-b	3	寄木版3、一枚?3。

素文	7-b	2	一枚2。	
	8-a	4	寄木版4、粘土板合1 (Z1)、布合目1。	
	8-a・b・b'	6	寄木版跡? 5、一枚? 6、布合目? 1。	
	8-b	28	一枚25、一枚? 3。	
小計	そのほか294点中101 (34.2%) そのほか器4点中3 (75.0%)、そのほか字2点中 (100.0%)、そのほか男89点中28 (31.5%)、そのほか199点中女87 (33.7%)。			
空想空跡群? (X?)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
鏡			-	-
字			-	-
男			-	-
女			-	-
鏡	鏡多	7-a・b	1	寄木版1、一枚?、粘土板1 (S)。
字	素文	8-a・b	1	一枚?。
小計	そのほか294点中2 (0.7%)、女2 (1.0%)。			
空想・吉井空跡群 (K・Y)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
鏡			-	-
字			-	-
男			-	-
女			-	-
鏡	鏡単	6-b	2	一枚1、一枚? 1。
字	素文	8-b	1	一枚1。
小計	そのほか294点中3 (1.0%)、女3 (1.5%)			
空想・桑附空跡群 (K・N)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
鏡			-	-
字			-	-
男			-	-
女			-	-
鏡	素文	8-a	1	
字	鏡多	7-a	1	寄木版1。
男	素文	8-a・b	2	寄木版1、一枚? 1。
女				
小計	そのほか294点中4 (1.4%)、男1 (1.1%)、女3 (1.5%)。			
藤岡空跡群 (F)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
鏡			-	-
字			-	-
男			-	-
女			-	-
鏡	鏡単	6-b	1	一枚1。
字	鏡多	7-a・b	3	寄木版? 1、一枚? 3。
男	素文	8-a・b	2	寄木1、一枚? 2。
女	素文	8-c	1	紐作1。
小計	そのほか294点中7 (2.4%)、女7 (3.5%)。			
藤岡・吉井空跡群 (F・Y)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
鏡			-	-
字			-	-
男			-	-
女			-	-
鏡	素文	8-a	1	
字	素文	8-a・b	1	一枚?。
小計	そのほか294点中2 (0.7%)、男1 (1.1%)、女1 (0.5%)。			
吉井空跡群 (Y)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
鏡	印欠損		1	粘土板1。
字			-	-
男			-	-
女			-	-
鏡	鏡多	7-a	3	粘土板合1 (Z)。
字	素文	8-a・a'	16	寄木版1、粘土板合2 (S1・Z1)。

女	8-b	1	紐作1。	
	印欠損	1		
	平行	4-b	1	一枚1。
	4-c	1	紐作1。	
	鏡単	6-a	1	寄木版1。
	鏡多	7-a・b	11	寄木版7、寄木版? 1、一枚? 10、粘土板合2 (S2)。
	素文	8-a	2	寄木版2、粘土板合2 (S2)。
	8-a・b	7	寄木版? 2、一枚? 5。	
	8-b	14	一枚14。	
	8-c	3	紐作3。	
小計	そのほか294点中63 (21.4%)、跡1 (25.0%)、男20 (22.5%)、女42 (21.1%)。			
吉井・桑附空跡群 (Y・N)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
鏡			-	-
字			-	-
男			-	-
女			-	-
鏡	素文	8-a・b	1	一枚? 1。
小計	そのほか294点中1 (0.3%)、女1 (0.5%)。			
桑附空跡群 (N)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
鏡			-	-
字			-	-
男			-	-
女			-	-
鏡	木目	5-a	1	
字	鏡多	7-a	2	
男	素文	8-a・c	13	紐作ホ1、布合目1
		8-b	1	一枚1。
女	鏡単	6-a・b	2	寄木版1、寄木版? 2、一枚? 2。
	鏡多	7-a	5	寄木版5。
	鏡多	7-a・b	11	寄木版7、寄木版? 4、一枚? 10。
		7-b	4	一枚。
	素文	8-a	15	寄木版15、粘土板合5 (Z5)。
		8-a・b	5	寄木版4、一枚作? 5。
		8-b	3	一枚3。
小計	そのほか294点中63 (21.4%)、男17 (19.1%)、女46 (23.1%)。			
桑附・秋岡空跡群 (N・A)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
鏡			-	-
字			-	-
男			-	-
女			-	-
鏡	鏡多	7-a	1	
小計	そのほか294点中1 (0.3%)、男1 (1.1%)。			
秋岡空跡群 (A)				
種	印はか	類形名称	数量	観察表中の内容
鏡			-	-
字			-	-
男			-	-
女			-	-
鏡	鏡単	6-a	1	粘土板1 (Z1)。
字	鏡多	7-a	3	布合目1。
男	素文	8-a	15	布合目2。
		8-c	2	紐作2。
女	正格子	1-a・b	2	粘土板1 (Z1)。
	鏡多	7-a・b・b'	3	寄木版3、一枚? 1。
		7-b	5	一枚3、一枚? 2。
	素文	8-a	7	寄木版7。
		8-a・b・b'	5	寄木版1、寄木? 4。
		8-b	4	一枚2、一枚? 2。
小計	そのほか294点中47 (15.9%)、男21 (23.6%)、女26 (12.1%)			

#### 第4章 まとめ

秋田窯跡群? (A?)				男 女	表文	8-a・b	-	-
種 別	印はか 彫形名称	数量	観察表中の内容					
錠 字		--	--	小	そのほか294点中1 (0.3%)、女1 (0.1%)。			

(37%)を認めた。それに対して男瓦は1号井戸跡216点のうち106点(49%)、そのほか出土の男瓦に89点のうち20点(22%)が観察(疑問な例を除く)された。したがって作瓦の主体は粘土塊(たたら)からの粘土板剥取の方法によって瓦材を得ていたと推定できる。

女瓦の製作技法は統計化したC区1号井戸1,021点、そのほか294点の中で桶巻作の際に生じた寄木状の圧痕の見られる例が、C区1号井戸出土例718点のうち304点(39%)、そのほかで199点のうち67点(34%)が認められた。全体的に桶巻作が少ないのは、上野国分寺築地跡で25%存在することからすれば、当遺跡出土瓦の製作時点がやや後出するためと考えられた。桶巻作の判断が付かなかった例の多くは細片のため寄木状の単位が捉えられない場合も多く、実態は、これを上回る筈である。

女瓦桶巻作の証左として布合目、粘土板の合目がある。布合目はC区1号井戸の寄木痕を有するうち304例、粘土板合目50例(S型8例、Z型4例、その他38例)であった。S・Zは粘土板接合を上からみた場合の合せ目の形でS形は軸心の回転方向が右回転、Z形は左回転の傾向を示唆している。全体的に布合目が女瓦桶巻作四枚割りとした場合の割合により、はるかに少ないのは従来の9遺跡例と共通している。初回の上野国分寺築地跡出土瓦の検討の際、桶巻作の四分割位置に布の合目をそそえたものと考えられ、その後も、10年来その考え方は変っていないし、指で布合目を削り取ったなどの類例も重さみその手法の存在について、その後も深まるばかりである。

軸心ないし回転痕は、わずかな夾雑物塵微粒の移動であっても、それが回転に伴うと判断される例についてありと考えた。C区1号井戸出土の女瓦231点・男瓦124点に認められ、そのうち、右回転と判別できる4点、左回転17点であった。その他出土の例では男瓦61点・女瓦48点にそれが認められた。

#### 3. 瓦類の分類

瓦類の分類結果は附表3のとおりである。基軸も各窯跡群別に置き、各窯跡群の頭文字を取ってアルファベットで表現し、たとえば笠懸窯跡群であればK、笠懸・乗附など二つ以上の窯跡群名称が重なる時は、K・Nとした。その中で中之条窯跡群だけがNAのとおり二字となってしまった。理由はNを乗附窯跡群に用いたためである。次に、叩手法をもって分類基本名称を1正格子、2斜格子、3格子、4平行、5木目、6縄目、7縄多、8素文とした。さらに製作上の成形技法をもって、男瓦についてはaは芯型を用いた2枚割り、a'はその芯型に寄木痕が認められ、おそらくは桶巻作と考えられる時に、bは一枚作、cは紐作の時に用いた。二つ以上の技法名称が記入されている場合は、たとえばa・bでは、一般的な二枚割と、一枚作の両方に可能性が持たれる時に用い、云い換えればどちらの製作技法であるのか不明確である際に用いた。女瓦についてはaは寄木痕のある一般的な桶巻作が推定しえる時に、bは一枚作りの時に用い、縄多T字状の多くが、側端噴出段などもこの中に含まれる。b'は一枚作であって、その製作台に寄木状の圧痕が認められる際に用いた。cは紐作を示す。以上に基づいて類別名称を与えたが、男・女瓦各1例を用いて反復するとK男玉7aは笠懸窯跡群製と見られ、玉縁付男瓦、素文で製作は2枚割と考えられる。K女8aは笠懸窯跡群製で、表面は素文で横骨による桶巻作と考えられる。

また類別名称は観察表中にも記入したが、摘要欄の字数の関係で記入しきれなかった個体について次に加えた。

48-K男玉7a、58-59-Y男7a、180-K男8a'、216-A女7b、218-K男2a、221-K女1a・



b、222-K女1 a・b、278-K女1 a・b、310-K女 a・b、311-K女 a・b、384-K女7 a・b、395・396・397・398-K女 a・b、431・432・433・434・435・436-N A女7 a、462-K女7 a・b、522-Y女7 a、528-Y女7 a、541-K女7 a、553-Y・N女7 a、812-Y女8 a、947-Y女7 a、1013-Y女7 b、1064-A男7 a、1068-A女7 b、1094-F女7 a・b、1100-Y・F男8 a、1143-K女8 a・b、1178-K字8 b、1230-K女2 b、1232-K女1 b、1242-K女7 b、1244-Y女7 a、1266-K男7 a、1278-Y女8 a・b、1294-K女6 b、1297-A女7 b'、1314-A女8 b、1327-N女7 b、1346 Y錠であった。

分類表中の数量について、反復して使用した数量は( )を用いた。たとえば笠懸窓跡群の男瓦素文の8は数量123個体あり8cは(6)と記入されているが、123個中6個が8cの細作に類されるという意味である。

小計はC区1号井戸1021点とその他出土294点の2大別した数量から算出した百分率で、それは附図本文よりの基本数値である。百分率は小数点以下2桁まで算出し、2桁目を四捨五入した。

#### 4. 考察

##### (1) C区1号井戸出土瓦について

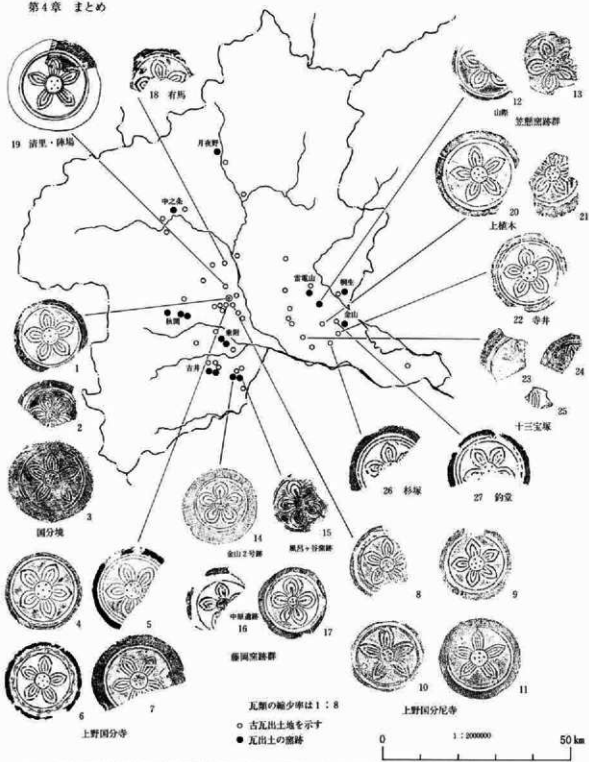
1号井戸出土瓦の主体は笠懸窓跡群製で58%を占めており、その中には上野国分寺式鏡瓦が含まれている。瓦No. 3は上野国分寺式鏡瓦中では古様で、僧寺から絶対量が、尼寺からは現状は未出か、あったとしても微尠(尼寺の瓦葺着手が僅か遅れる)で、さらに近接の山王庵寺には国分寺式鏡瓦が供給されておらず、あったとしても微尠のため、1号井戸出土瓦は国分僧寺瓦を含んでいることになる。58%である592点の時期は笠懸窓跡群の量産盛期が8世紀後半頃までであり、国分寺式軒瓦の製造が775年頃までであるため、大半は8世紀代の製品と見なされ、58%の量は笠懸窓跡群に対して国分二寺側の依存の割合が示されたものとして重要である。

1号井戸から出土した瓦類は、二次利用とあっても、本報告の瓦拓影図を見て判るとおり、大形破片が多く、付近に落ちていた瓦を集めたには大き過ぎること、官製を多く含む笠懸窓跡群製品が58%も存在していることから、国分二寺側からの廃材の一括譲渡によると推定される。その瓦が載せられていた本来の建物は一字であったか複数であったか、または瓦葺建物の全体的な修理によって得られたものかは厳密には分からないが、笠懸窓跡群製の鏡・宇瓦からなる軒瓦16(2:14)、男瓦139:女瓦438の男1に対しての女3.15の割合は、1号井戸全体の男瓦:女瓦1:3.62に近い。蓋然性ありと考えられ、本来の瓦葺建物の瓦葺観を反映していると推測される。その建物は創建当初に建てられた建物で上野国分寺式鏡瓦の古様を含むことから僧寺側建物に可能性が持たれる。笠懸窓跡群製の軒瓦:男・女瓦の割合は1:36.1であるので算式試算は $36.1 \times \text{有効長} 25\text{cm} = 902.5\text{cm}$ となり、全体総量から求めた1,107cmと約200cmの差しかなく、瓦葺の建物観を反映する試算値は小さくなり、また、約9mは、既値からすると新保道跡例の約22mに次ぐ規模であるので中樞建物の一部の瓦であろうと考えられる。

供給上や各窓跡群についての問題は、数多く指摘しうる条件にあるが、時間的な都合から言及することは困難である。要点だけ触れると、

1. 藤岡窓跡群関連では、国分寺瓦室である金山瓦室かその周辺で製作された鏡瓦No. 4型が存在しているが、同窓跡群製はそれを含めて11点しかなく、僅か1.1%にしかならない。それで官窯としての性格が果たせたのだろうか。また窓跡群側から見ると上野国分寺式鏡瓦は国分寺しか出土がなく、他に供給された例を見ない。ところが印銘文字瓦である<sup>10)</sup>は上植木庵寺、山王庵寺など広域に供給され、供給上の分配を厳密に行っていた感が強い。なぜそのような分配法を取ったのであろうか。

第4章 まとめ



- 4・7 (群馬歴史考古研究会)『第3回古瓦研究会研究資料』1982。5・6・11・15・16・17住谷修編『上野瓦集西毛編』1980
- 8-10 松島栄治・梅沢重昭『上野国分尼寺調査報告書Ⅱ』1970
- 12-13 大江・木津による
- 14 坂詰秀一ほか『上野金山瓦窯跡』1966
- 18 (渋川市教育委員会)『有馬廃寺跡』1988
- 19 中沢悟ほか『清里・陣場遺跡』((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団)1981
- 20・21 石田茂作『上植木廃寺』『飛鳥時代寺院址の研究』1936
- 22 尾崎喜作編『寺井廢寺』『日本考古学年報-1』1948
- 23-25 前沢和之ほか『十三宝塚遺跡調査概報Ⅰ・Ⅱ』1975・1976
- 26・27 須田茂『群馬県における古代瓦葺瓦の変遷「入谷遺跡」』(新田町教育委員会)1981

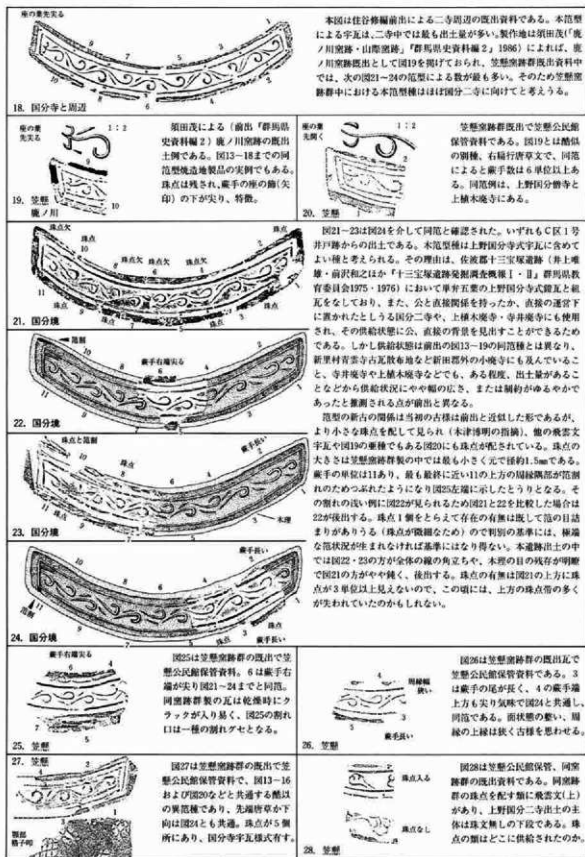
附図4 (第461図) 上野国分寺式鏡瓦分布図













附圖5 (第462圖) 軒瓦同范関係圖(1) 1:4

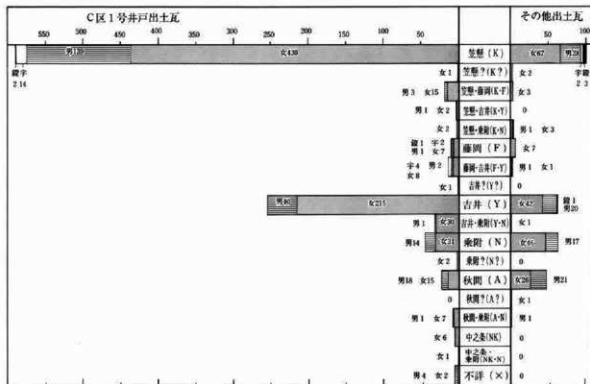


附図6 (第463図) 軒瓦同范関係図(2) 1:4

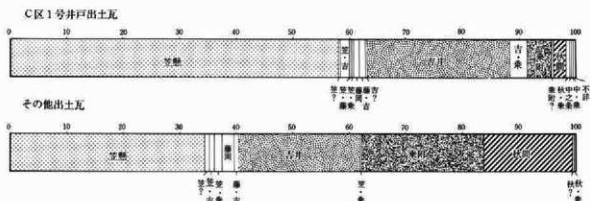


附図7(第464図) 軒瓦同図関係図(3) 1:4

<p>細部片であるが図分二寺に明確な形で同范例はない。唐草文の裏手が扁平で、周縁の下平縁の幅が異様（図分二寺では一般的）に厚く、当初の范型から変化しているのを思わせる。</p>  <p>29. 図分境 1106</p>	 <p>30. 同分寺</p> <p>図29と同范例を図30・31に掲げた。30は『史跡上野園分寺跡発掘調査概要7』（群馬県教育委員会）1986から転載。31は住谷修編『上野瓦東西毛籠』1980による。両例は異范であり、子葉の立ち方と裏手位置が異っており、たとえ彫直しを考えても結び付きは無理である。図29は胎土からすると笠懸唐草群製で、左と思われる福行唐草文は図19・20の福行の向と逆である。</p>
 <p>31. 同分二寺と周辺</p>	<p>図32は藤岡窯跡群金山2号跡の例（注27）を掲げた。笠懸唐草群が、上野園分寺に向け量産を行っていた頃、同じ位置として藤岡窯跡群での焼造があった。図32は、図8の上野園分寺式唐瓦とも2号址から出土し、組瓦をなしており、そのため図33を上野園分寺式瓦類に加える必要があり、園分寺式瓦瓦は福行唐草文をとる点からも字瓦意匠統一の意図はあったであろう。</p>
 <p>32. 藤岡金山2号跡</p>	<p>図33は周縁を欠損するが范型がよく判る状態にある。胎土は吉井・藤岡窯跡群製の質感を呈するが、残念ながら窯跡資料は未出である。図34は上野園分二寺と周辺からの既出資料で住谷修編『上野瓦東西毛籠』1980からの転載で、11は裏手が厚く同范型である。裏手数は11あり、笠懸唐草群製の図21・25も11単位ありの共通し、11という単位に深い意味があるのかも知れない。</p>
 <p>33. 図分境 16</p>	<p>笠懸公民館保管、同窯跡群資料で、同窯跡群中、郭縁から裏手と子葉を出す最少例で、共通様式の地例の大半は吉井・藤岡窯製品である。造瓦組織がわかりであることを窺わせる。</p>
 <p>34. 同分二寺と周辺</p>	 <p>35. 笠懸</p> <p>図36の胎土の質感は笠懸窯跡群製に見える。笠懸窯跡群中において郭縁から裏手を出す例は図36のみしか判らないが、他にも類似様式が存在することを含んで考えておく必要がある。図35・36は、類似様が上積本塚寺から出土しているのを除く（当時は官寺依りであった）と、焼造地が新田郡。接する古代の勢多、役部内から既出例は知られていないので、同期の意匠字瓦の生産が特定された目的に沿うことを考えさせられる。それが園分寺であったかもしれない。そのため本様式の一類を園分寺式瓦瓦として含めるかの問題が生じる。図38は前掲住谷修氏による。図36と同范型である。裏手数10である。</p>
 <p>36. 図分境 18</p>	 <p>37. 図分境 23</p> <p>胎土の質感は吉井・藤岡窯跡群製に見える。同范型を探したが、窯跡、庵寺などの既出例は見当らなかった。いずれにしても同分二寺での使用は少なかったのである。</p>
 <p>38. 図分二寺と周辺</p>	<p>本図を作成するのに当たり、なるべく原寸資料を用いて1：2原図版下に仕立てた。同范の確認は、1：1の段階と1：2の段階の両方で行なった。龍瓦の場合には各片別に名称と番、字瓦の場合は、各裏手の上下に開放方向に向けて記入した。したがって数字の一致が同范を確認しうる個所となる。報告書中の資料はコピーで拡大し照合したが、その際、同范でありながら比較物と異なる大きさになったものは、計算のし直しと、コピーの再複写を行なって確認している。また今さらながらであるが園分寺資料を多く含む住谷修編『上野瓦東西毛籠』1980の存在は同范比較の際の基本資料でもあり、その存在に感謝している。</p>



附図9 (第466図) 各窯跡群別集計図



附図10 (第467図) 各窯跡群別百分率割合図

2. 吉井窯跡群は9世紀代に大量な造瓦を行った窯跡群で、国分二寺へは差替瓦を大量に供給している。1号井戸出土のY女8 aの薄手の瓦が1号井戸の下限資料で、それは、日高遺跡で9世紀末頃埋没した154号中に含まれているので1号井戸出土瓦の下限は、以前である。吉井窯跡群製瓦は25.0%を占める。

3. 中之条窯跡群は、最も古い瓦窯で今回6点を確認した。近年、渋川市有馬庵寺跡でも存在が判っているので、国分二寺の建立について同窯跡群も呼応したように生産したことが窺われる。

(2) その他出土の瓦について

その他出土の瓦がどこで使用されたのかを考えたい。近接して国分二寺のほか、上毛野氏族の氏寺であった山王庵寺(放光寺)が、当遺跡の存在する台地の延長上に位置している。山王庵寺の瓦の主体は吉井・乗附・秋間窯跡群にあるので、その他出土瓦とC区1号井戸との比較を行いながら見たい。

笠懸窯跡群製 (K類) その他出土 鏡・宇5、男28、女67、計100 (その他中の34%)

笠懸窯跡群製 (K類) C区1号井戸 鏡・宇16、男193、女483、計593 (1号井戸中58%)

吉井窯跡群製 (Y類) その他出土 鏡・宇1、男20、女42、計63 (その他中の21%)

#### 第4章 まとめ

吉井窯跡群製 (Y類)	C区1号井戸	鎧・字0, 男 40, 女215, 計255 (1号井戸中25%)
秋間窯跡群製 (A類)	その他出土	鎧・字0, 男 21, 女 26, 計 47 (その他中の15%)
秋間窯跡群製 (A類)	C区1号井戸	鎧・字0, 男 8, 女 15, 計 23 (1号井戸中2%)
乗附窯跡群製 (N類)	その他出土	鎧・字0, 男 17, 女 46, 計 63 (その他中の21%)
乗附窯跡群製 (N類)	C区1号井戸	鎧・字0, 男 14, 女 31, 計 45 (1号井戸中 4%)

となり、秋間・乗附窯跡群瓦が占める割合は、C区1号井戸跡よりも群を抜いてその他出土瓦の方が多く、その他出土の大半が山王廃寺とのつながりの中でもたらされたものと考えられる。しかしながら、山王廃寺出土瓦をもって、生産地からの視点での捉え方がなされていないので実数の比較が行えないことは残念である。また、笠懸窯跡群製が100点も含まれているのは、国分二寺とのつながりであろう。

国分境遺跡に起居した人々にとって三カ寺とも身近な存在であったことを、その他出土の瓦類は物語っている。

- (1) 『天代瓦窯遺跡』中之条町教育委員会1982
- (2) 製作技法について今後、まとめるつもりである。
- (3) 乗附窯跡群中の小塚支群と、秋間窯跡群中の高根支群中の女瓦にそれを確認している。
- (4) 『十三家塚遺跡発掘調査概報Ⅱ』群馬県教育委員会1976
- (5) 『正倉院の陶器』(正倉院事務所編、日本経済新聞社)1971の解説に詳しい。
- (6) 上野国で生産された瓦類のうち最も顕著な黒色種は笠懸窯跡群製に多く見られる。
- (7) 群馬県工業試験場で化学分析され、花園一「瓦の胎土分析について」(山王廃寺第7次調査報告書)(前橋市教育委員会)1982に報告されている。
- (8) 本津博明の用語による。窯跡群では秋間窯跡群内の高根支群、八重色支群で多く生産されている。
- (9) 新里村雷電山窯跡群に接した、新宮古瓦敷地帯での女瓦を採集している。近く本津博明は「外摺山道跡発掘調査報告書」(新里村教育委員会)に掲載されるようである。
- (10) 小林行雄「故古代の技術」(城書房)1963、木村健三「造瓦と考古学」(真陽社)1976などが基本にある。
- (11) 大江正行「瓦類」上野国分寺寺域の調査(群馬町教育委員会)1975で造られた。
- (12) 大江は山の中で、統一回分寺意匠があるのを認め、「天代瓦窯跡の存在意義」、「天代瓦窯遺跡」(中之条町教育委員会)1982の中でそれらの一群について上野国分寺系と名称をあたえ、「瓦類」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか)1988の中で上野国分寺式とした。鎧瓦については抽象的な早弁五葉とすると定義し、字瓦の二種を含めたが字瓦全体をどこまで含むのかという点については供給上の問題が多いため定義していない。まとめる必要性が生じて来ている。
- (13) 花園一・大江正行「胎・鎌倉・後田遺跡出土土器の胎土分析」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか)1989で各窯跡群式料の分析結果をまとめた。
- (14) 『天代瓦窯遺跡』(中之条町教育委員会)1982
- (15) 『月夜野窯跡群』(月夜野町教育委員会)1985
- (16) 新井秀夫「群馬の地質と地下資源・群馬県地質図」内外地図1964・飯島静男「群馬県の地質」『群馬県誌』1987を用い、窯跡所在地の地質を検討し、地質上の名称はそれによる。
- (17) 『金井廃寺遺跡』(吾妻町教育委員会)1979
- (18) 『日高遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか)1982
- (19) 『下野西遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか)1987
- (20) 『後田遺跡Ⅱ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか)1988
- (21) 『新保遺跡Ⅱ・野沢遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか)1988
- (22) 『有馬院寺跡』(渋川市教育委員会)1988
- (23) 『田端遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか)1988
- (24) 『長楽寺遺跡』(尾島町教育委員会)1978
- (25) 『上野国分寺・尼寺中期地域(Ⅰ)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか)1986の中で本津博明は同遺跡出土の中世瓦(整理用ケース15箱、全体重量2,989gの瓦)を使い、男・女瓦対応関係比率を求めた。氏の統計法は中世瓦製作の観察にはじまり組立関係の抽出に至るまで詳細に検討されており、その中で互方互試をされた。今後、互方互試の基礎とならうものである。
- (26) 佐原 真「平瓦輪巻作」『考古学雑誌』第58巻2号)1972の中で今関久雄氏は粘土板結合の合目を天代瓦窯跡群出土の女瓦28点について検討し、佐原真の指摘(前出に同じ)されたS型(左側)が3例、S型(右側)が1例存在することを確認された。天代例ばかりでなく、古代上野瓦のうち、回転軸のない輪巻を用いた製作の多くは左回転である。このことは月夜野・笠懸窯跡を除き、各窯跡群で製作された須恵器製作の回転方向が主として輪巻右回転であることと対照的である。第10世紀代の窯跡の多くから須恵器・瓦との両方を採集することができ、全体趨勢として須恵器、瓦と同一室で焼造した、一般にいう瓦、陶の兼業窯の可能性が高い。しかし工人集団が同一であったか否か、この回転方向の差が示すとおり疑問は残るのである。あるいは輪巻輪(けろくろ)が一般的に左旋(ごくり)の左回転であるので考えられなくないが作瓦の作業性からしても良いと思えず、作瓦の場合は製作台の位置を明からすと足元より50cm以上の高さがあるので、輪巻輪で左旋(たちごり)なども検討してみる必要がある。
- (27) 坂詰秀一「上野・金井瓦窯跡」(立正大学文学部考古学研究室小報第8冊)1966



## 第2項 上野国分僧寺・尼寺中間地域出土瓦様相から見た国分境遺跡出土の瓦類に就いて はじめに

国分境遺跡出土の瓦類に就いては第1項で詳細なる観察・所見が記述され、国分境遺跡出土の瓦類の様相が分明にされている。そして、国分境遺跡は、放光寺(山王院寺)(以下放光寺と略記)跡と河川を隔てずして至近位置の遺跡であるにも拘わらず、既、調査段階で国分寺系瓦の出土量が比較的多い点が問題視された。

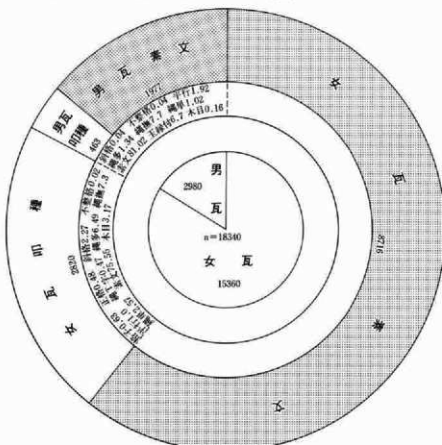
本項では、第1項で記述された国分境遺跡出土の瓦類の様相をより具体的にすること第1義とし、筆者が得ている上野国分僧寺・尼寺中間地域出土の瓦様相から鑑み、上述した問題点に就いて記述したい。記述するに就いては、次の項目を概述しまとめてみたい。

1. 上野国分僧寺・尼寺中間地域の瓦様相。2. 放光寺跡の瓦。3. まとめ。

### 1. 上野国分僧寺・尼寺中間地域の瓦様相

上野国分僧寺・尼寺中間地域(以下中間地域と略記)は、国分境遺跡の南限をほぼ東西に流走する牛池川を介した台地上に位置し、国分境遺跡の南側に当たる遺跡で、国分二寺・国府に近接する遺跡である。

ここで概述する中間地域の瓦様相は、昭和62年度に実施した遺物選別作業時に得た所見で、Y・Z・A・B区の遺構外出土の瓦類約18,340点<sup>註3</sup>のものと、昨年発行した中間地域第3分冊(D・C区)と近刊される第4分冊(C・B区)の調査報告書を作成時等に得た所見であり、延約40,000点の瓦から得ているが、具体的には前者の所見を用いる。そして、附図1に示した円グラフは、上述前者をグラフ化したもので、男瓦と女瓦の比率がほぼ1:5であることが判断される。又、素文と叩整形時の叩類が認められるものの瓦の比率は、男・女瓦合せて6:1である。この素文と叩類の判明している瓦を更に各窯群別に類別し、技法等の割合を100分率で表にしたものが附図2<sup>註4</sup>の1-3である。



附図1 (第468図) 中間地域出土瓦種類別図

左の円グラフは、Y・Z・A・B区の遺構外(奈良・平安時代に特定される溝状遺構・住居・土坑等以外の遺構・包含層等から出土した遺物を除く)出土瓦をグラフ化したものである。

内側の円は、総量での男瓦・女瓦の数量比を示したものである。

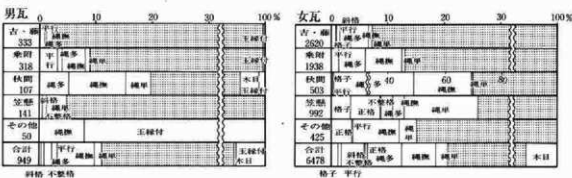
外側の円は、内側の総量中に含まれる技法未分類の瓦を除外したもので、技法未分類の瓦の内訳は、男瓦540点女瓦3,824点である。

このグラフは、国分二寺に挟まれた地域での瓦を扱ったものであることから、国分寺に供給された瓦であることはほぼ確実視出来、この瓦のアーチャーは、国分寺としての瓦葺き建築物の堂宇等に用いられた瓦のアーチャー結果となる。然し、時期別に分別することは無理に近いことから、みなしとしての最も良好なものと考えられる。

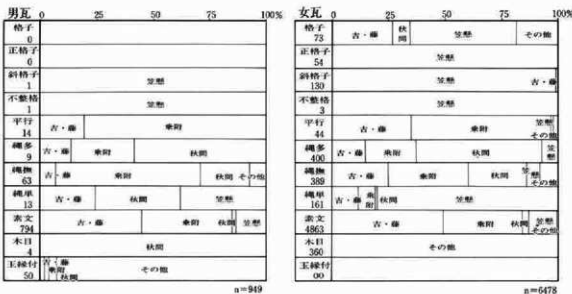
今後、中間地域(Y-D区)でも国分境遺跡同様に分析していく所存であり、報告書第8分冊中に記述する予定である。

第4章 まとめ

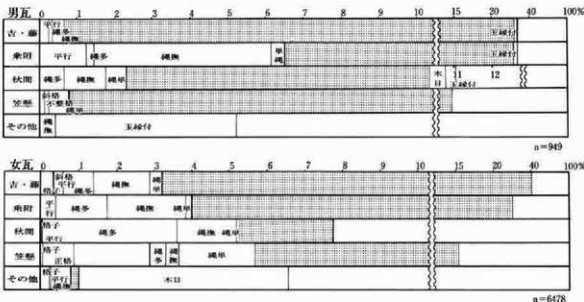
1 図



2 図



3 図



素文

附図2 (第469図) 窯跡群別技法分類図

第468図の表は、円グラフの外側の男瓦2,440点と女瓦11,536点を各窯跡群毎の素文・印類の比率を示したものである。附2-1図からは、吉井・藤岡、笠懸、乗附、秋間の順で素文の比率が多いことが判断され、印類も各窯跡群毎にその割合が異なることが判読出来る。附2-2図は、印類毎に各窯跡群の割合を比率にしたもので、格子系は笠懸がほぼ全てで、平行印きは乗附が大半で吉井・藤岡が従である。縄多印系は乗附・秋間で主体を成し、縄単印は吉井・藤岡、秋間、笠懸の三者で分割され、素文は秋間が非常に少ない。附2-3図は、男瓦女瓦毎の全体量から各窯群中の印類がどの位の割合を占めるかを現したもので、各窯跡群毎に積み上げ方法により示した。様相は附2-1・2図を合せた様な状態が看取される。又、全体量に対する各窯跡群の占める割合は、吉井・藤岡39.78%、乗附30.37%、秋間8.21%、笠懸15.25%、その他6.39%である。この中で、註4でも記述した様に乗附の割合が多いのは、藤岡に含まれると思われるものが半分近くある事でありこの30.37%を2で除したものを吉井・藤岡に加算したものが実数に近いものと考えている。この点から、吉井・藤岡からの国分二寺への供給が最大であったことが言い得るが、時期的問題がある。更に笠懸が大きい点は、国分二寺創建時の官窯と考えられる点から、創建段階でのものが大半占めていると考えられ、補修・葺き更え・堂宇の新造等、創建以降の段階では、笠懸からの供給は非常に少なかったと考えられる点にあり、創建時から改修等には吉井・藤岡が主体であったことが推定され、事実、上野の瓦当300種程が有る中で、その多くが吉井・藤岡のものが占めている。又、逆にこのことは、吉井・藤岡地域での瓦葺き建物の建立が多かったことも示唆しているものとも思われる。秋間・乗附は元來放光寺に係る窯跡群瓦であるが、全体的に数量が少ない、国府・国分二寺自体が放光寺に近接した地に造営・建立という点があるが、早なる物質の供給が大きい少ないは言い得ない背景の存在がある。

ここで上述の点を要約し窯跡群毎の国分寺との係わりをまとめてみたい。

笠懸—創建統一意匠の瓦当瓦・創建々物用瓦を主体的に焼造。8世紀中頃～8世紀後半代。

吉・藤—創建時笠懸より遅れ焼造を開始し、以降、国分二寺の主要供給元で、県下平野部の主要寺院に瓦を供給している。8世紀後半～10世紀前半代。

秋間—放光寺創建（7世紀後半）以後、山王・秋間系寺院の瓦を乗附と共に焼造し、国分二寺には、補修乃至小堂宇用の瓦を供給する。供給量は少ない。8世紀後半～9世紀後半代。

乗附—国分二寺への供給は基本的に秋間と同じ。

## 2. 放光寺の瓦

放光寺跡出土瓦の中で最大の特色は、国分寺創建意匠の瓦当瓦の出土が微量である点にある。一方、8世紀後半以降は、9世紀代には吉井・藤岡の瓦を多く葺いている。この放光寺は、「上野国交替実録帳」の記載内容によれば、長元2年（1029）以前には定額寺であったことが知られる。この為、上野国の筆頭“官寺”国分寺に最大量の瓦を供給する吉井・藤岡からの瓦の供給を受けても不思議はない。然し、放光寺自体は“上毛野朝臣氏”の私寺としての創建であり、所謂“山王・秋間系寺院”は、秋間と乗附に瓦の供給密を備えている。唯、律令体制が整備され前代の私的の所有型態が官的に変革されることによって、放光寺が公の支配体制下におかれたとしても8世紀後半～9世紀代には、前代と同様な瓦の供給体制を保持しており、9世紀代に吉井・藤岡の瓦を多く受給したとしても笠懸系の国分寺統一意匠の瓦当瓦及び男・女瓦を拒絶するかの如きの状況が看取される。この国分寺創建統一意匠の瓦群を拒絶するかの状況は、上野国交替実録帳「国分二寺議定額寺（後略）定額寺 放光寺 件寺 依氏人申請不為定額寺 仍除放已了者」の記載内容の「氏人」の真意を示唆していると考えられる。

上述の如く、8世紀中頃に創建された国分寺の創建統一意匠の瓦群を放光寺は拒絶するかの状況であり、

国分寺系瓦（吉井・藤岡産瓦群）は、定額寺に格付されることにより受給があったことが推察され、定額寺の寺格を「氏人」は断り、元来の「私寺 放光寺」の姿に復しようとしている。ここに、前代に於ける上毛野国の筆頭氏族の私寺としての体面を果そうとしているのであり、「氏人」とは「上毛朝野臣（君）氏」の直接の後裔であることが類推される。

### 3. まとめ

前段では中間地域の所見と放光寺の状況を記述した。ここで、この両者と前項で評述のあった国分境遺跡の瓦の様相を対比させ検討を加えてみたい。

C区第1号井戸跡（以下C1井と略記）は、上半部が石積みで9世紀後半にその廃棄があり、構築はこれを通る9世紀中頃以前と考えられる。C1井出土の瓦は、その出土状態から井戸の壁体に直接用いられたものではないが、井戸の周囲に敷かれたものである可能性は非常に高く“瓦敷”であったことが想定される。この出土瓦の特徴の一つとして接合率が高い点があり、このことは、搬入時はかなりの大型破片であったことが考えられる。そして、産地別割合は、笠懸が約6割を占め、孰も8世紀代の国分寺創建に伴うものである。この笠懸建創瓦は、前段で記述した様に放光寺では非常に少ない瓦であり、出土量の中で6割を占めることから、搬入元は放光寺ではなく、寧ろ、国分寺を考えざるを得ない。更に、大型破片であることと、9世紀中頃以前にその搬入が考えられることを類推すれば、国分寺での創建乃至創建に近い頃に建立のあった建物の瓦と思われ、瓦は、この建物の瓦が葺き替えられた折に、何らの背景と要因により国分境に搬入されたものと考えられる。そして、この背景と要因は以下の①～⑧の中に内在する。

- ① 国分境遺跡は、7世紀後半頃に特殊な獨立柱建物とこれを囲む溝状遺構が構築され、始めて人の生活の痕跡が認められる。そして、この二者の遺構は、東方に位置する放光寺の創建に先立つ獨立柱建物群とはほぼ同時期と考えられ、7世紀代としては、この両者の獨立群は非常に特殊なものと言い得ること。
- ② 国分境遺跡出土の7世紀末頃から8世紀代初期器は、放光寺創建瓦を造した秋岡窯群からの搬入が非常に多いこと。
- ③ 9世紀中頃に比定されている「K-14窯式」の灰釉陶器が多く出土していること。
- ④ 鉄器の様相には、大型品が無く、鎌・刀子・鏃等の小型品が多い。鏃は型上8世紀代に比定される。刀子は時期差があるもの、大平の刀子の研ぎ減り方は、刃岡部鋭く研ぎ減る通有のものとなり、全体に薄く、刃部は直線的に研ぎ減っている。この研ぎ方を見限りには、物を平らに研ぐ削る為を目的としていることが看取される。そして、農具たる鎌は、全てが欠損品であり、かなり限定された鉄器のみが認められるのである。又、鉄質は刀子に限り非常に良質であること。
- ⑤ 木製品類では定木が出土しており、特殊な遺物であること。
- ⑥ C1井は、水を確保する為であるが、南側には、牛池川及び牛池川に流入する旧河川の存在があり、南側の住居の構成員はこの旧河川で水を得たと考えられる。井戸は、検出された住居群中でも、特に北側の住居構成員の為に構築されたことが判断出来ること。
- ⑦ 検出されている溝状遺構は、2本平行に存在するものが多く、形態上機能は“道”であり、住居は、この“道”に規制されて構築している。南側では、①であげた特殊獨立柱建物とこれを囲む溝とはほぼ同様な指向方向が認められることから、両者は明らかに“区画”を構成した溝状遺構であったことが類推出来ること。
- ⑧ 国分境遺跡と放光寺の中間位の所には、北原作兵衛塚の瓦棺用墓状の遺構が検出されている。この瓦は全て放光寺の秋岡系のもので考えられ、少なくとも、この地点迄は確実に放光寺の影響が強く感ぜられ、更に、この北原作兵衛塚の西側が放光寺の影響下と無縁と考え難い点があること。

以上の如く国分境遺跡の特徴的な事柄を列記したが、前述の背景と要因はこれら中に内在している。

先ず、国分境遺跡自体であるが、7世紀後半頃に推定される獨立は、放光寺建立以前の獨立と同様な性格が考えられ、この前代の遺構が未検出なことから、7世紀中頃・後半に特殊城としての性格が具備されていたと考えられる。そして、放光寺創建頃の7世紀末頃から、秋岡窯群群造の製品が多く搬入されることから、放光寺と非常に密接な関係があったと考えられる。又、9・10世紀には、遺跡内には道を備え恐らく整然とした土地区画が存在し、鉄器等の遺物様相からも非常に特殊な状況が考えられ、農耕を主とする住居群とは考え難い。このことは、7・8世紀の特殊状況が継承されたとする点に妥当性があり、8～10世紀の間は少なくとも放光寺と直接関わったと考えられ、直接係わることは、放光寺々々地としての可能性が非常に濃厚である。

C1井の瓦は、上述の状況下で搬入されたと仮定せざるを得ない。C1井の瓦は前述した様に、井戸周囲に敷かれていた可能性は大であり、足で踏まれる瓦を放光寺のものは用いず、わざわざ国分寺から搬入することは、背後には国分寺と放光寺を繋ぐ第三者の介在がなければ、単に井戸だけの用途の為に搬入は出来得ず、この第三者たる人物の存在が、国分寺遺跡と直接係わると推定される。この場合、第三者の人物は国分寺の機構の中でも高位であったこと、放光寺の運営面でも直接係わる人物であったことが推察される。そして、この放光寺に直接係わる人物とするならば、放光寺創建の創作者の後裔と考えられ「上毛野朝臣(君)氏某」であろうことが類推される。

時間と紙数の関係でまとも無く中途半端な記述となったが、今後、「放光寺跡」に係わる問題を記述したいと考えているので、その中で再び詳述するつもりなので御容赦願いたい。

## 参考文献

- 大江正行 『田端寺の墓定一瓦類』 『田端遺跡』 上越新聞報同僚埋蔵文化財発掘調査報告書第9集 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 昭和63年(1988)  
 山王塚寺跡第1次発掘調査概報 前橋市文化財研究会 昭和50年(1975)  
 山王塚寺跡第2次発掘調査概報 前橋市文化財研究会 昭和51年(1976)  
 山王塚寺跡第3次〜7次発掘調査概報 前橋市教育委員会 昭和53年(1978)・昭和54(1980)・昭和57年(1982)

## 註

1. 拙著「上野国分寺々々地考」『群馬の考古学』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 昭和63年(1988)  
 『周辺遺跡』『上野国分寺々々地考』『尼寺中間地帯』岡越自動車新沼高埋蔵文化財発掘調査報告書 第24集 (3) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 平成元年(1989)  
 『古代群馬郡考』『群馬文化』219・220) 群馬県埋蔵文化財研究協議会 平成元年・平成2年(1989・1990)  
 『上野国交野実録』・『山の上野』に記載・転載されている「放光寺」が前橋市山王所在の山王塚寺に該当されることを論述した。
2. 「国分寺だより」―北原国分遺跡特報集号―財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団国分寺中間地帯発掘調査現地事務所 昭和56年(1981) 一般向けの冊子であるが、国分遺跡の第一次調査の成果に就いて撰述した中に記述されている。
3. 遺構外縁のようになった遺物が多量にある中で、瓦に就いては、そのデータ集積を目的として、実測量を極力少なくする代わりに40,000点の出土瓦の中から選別した瓦(選別の基準は、太少に拘らず、断片であっても側部乃至端部の残存等のみをデータ集積のための資料として採出)と、選別資料を収納する以前に、ある程度のデータ(作成地・種・成形・整形)化したもの多数である。又、Y-D区内検出で遺構内出土瓦に就いてはその全てをデータ化する予定である。
4. 本分期を実施したのは昭和63年3月で、この頃の筆者の遺跡推定は未だ充分なものではなかった。この為兼併したものの中心は藤岡・惣想と考えられるものも含まれていると現在思っている。この点は、肉眼観察による地味判定による危険な点でもあるが今現在では兼併・勘合をかなりな所まで分別出来るものと思っている。
5. 上毛野朝臣氏の建立による放光寺に近接する点で、国府・国分二寺の地は、この上毛野朝臣氏が継述したことにより各々の造営・建立がある。ここに国分二寺建の政治的・社会的背景がある。詳細は註1前期書を参照されたい。
6. 所謂「山王・秋間系寺院」とは、大江正行氏が文獻1で論述された「山王・秋間系復弁七葉窟瓦」を以て「放光寺(山王塚寺)寺院連合組織」を指す。この「放光寺(山王塚寺)寺院連合組織」の背景には、前代の「佐野屯倉」をめぐり地域盟主と各共同体首長層との結びつきにより成立すると論述されている。この放光寺(山王塚寺)寺院連合組織に組織される寺院には、放光寺を頂点に、田端庵寺・水窪遺跡・馬庭東遺跡(多胡郡名寺院)・瀨田神社遺跡・奥原遺跡があり、孰も復弁七葉窟瓦と同様の出発の個瓦を用いた。又、8世紀以降以降には、兼原庵寺・根小原庵高神社遺跡・里見庵寺などをあげられている。これらの寺院の建立は、各地の共同体首長層の直接に係わる氏寺としての創設と建立があったと考えられる。だがこの中には、郡名寺院に推定される馬庭東遺跡の如くの「官寺」の存在がある。この「官寺」に氏寺同様に「山王・秋間系 弁七葉窟瓦」を以て意義は、新たな意匠の創設を必要とせざるに資する。この資員が在地首長層による物質的保護にはかならないが、堂宇の建立技術的な面ではやはり中央等の係わりが無縁とは思われない。寺院はこれらが合体して始めて建物が増加配置して建立される。だが、ここに大きく欠如するのが僧尼である。寺はこの僧尼なくしてはその機能がとうとげられない。又、本尊等の仏像も仏師の存在が、直接搬入されたと考えられるがその判断はつきかねる。僧尼の点はこの「山の上野」の碑文等に認められる様に、「(前略) 長利僧母を記定文也 放光寺僧」は、多胡郡以前の片岡里(評?)の出自の人物が評(群馬)の放光寺の僧として入寺して来たことが判断される。この「放光寺僧」は大江氏が山部里(郡)の里長の兄弟に疑っている。筆者も、7世紀末頃の状況から、放光寺に仕え得る人物は、各地の首長層に直接係わる人物と考える点に妥当性があることからこの考えを支持する。即、評(郡)を超えての入寺すること、放光寺=上毛野朝臣(君)氏との有機的関係にはかならない。僧尼が中央から派遣されない限り、「在地」からの任用しかあり得ない事から、国分寺建立以前の僧尼の任用については(西上野=大江氏のいう)田「佐野屯倉」地 放光寺との係わりが最大であったと考えられる。ここに、8世紀前半(国分寺創建以前)代に所謂「官寺」系寺院に「山王・秋間系復弁七葉窟瓦」を以て意義が内在する。更に、大江氏(評?)「放光寺(山王塚寺)寺院連合組織」は、この信仰の証しとして「金井石碑」の碑文誌をして、信仰の一元的組織体としての存在を示唆する記述をしているが、上述の如く、僧尼の派遣を放光寺が主体として行えば、少なくとも大江氏設定の2段階(寺併末頃から8世紀初頃)に、特に田端庵寺は、放光寺が直接に派遣された筈であり、第3段階は併せて言及できなくても、放光寺に係わる僧であることは確実視される。このことは、これらの僧が習熟した確実な同一であったことを意味しており、後代の宗派に区別するものとして捉えられる。このことから、「放光寺(山王塚寺)寺院連合組織」とは、同一教義を用いた、上野国(上毛野国)初出の「放光系組織」=「宗派組織」であり中央の律令体制に対する地方での組織西編成として、古墳造営停止後前代の組織維持の為に派られたと考えられる。国分遺跡は、正に、この放光寺の隆興の遺跡である。
7. 註1〜8前期書を参照されたい。

## 第5章 出土遺物の科学的分析

### 第1節 胎土分析

群馬県工業試験場独立研究員 小沢達樹

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団主任調査研究員 麻生敏隆

#### はじめに

土器は粘土と鉱物粒子などの混合物を材料とし、焼成という科学変化を利用して焼き固めるものである。そして、胎土分析とは、その土器の素材となる粘土の元素を割り出す分析である。

考古学におけるその分析目的は、遺跡から出土する遺物である土師器・須恵器・瓦・陶磁器類の胎土観察からみた生産地（窯）の推定と、分析結果とが一致するかということを知ることにある。

現在までに群馬県内における土師器・須恵器・瓦等の胎土分析については、縄文土器を除けば、遺跡で総計660点の試料を数えている。

特に、国府及び国分寺周辺の遺跡での胎土分析についてみると、遺跡数は国分館寺・尼寺中間地域遺跡群、鳥羽遺跡、下東西遺跡、山王庵寺跡などで、その分析点数も年々増加しており、その傾向も知ることができるようになってきている。

今回は国分境遺跡から出土した土師器、須恵器、瓦について、選択した20点の資料を分析対象とした。

#### 分析の目的と試料の選択

国分境遺跡は、7世紀後半から11世紀前半にかかる時期に主として営まれた集落である。集落を形成する住居跡からは多数の遺物が出土している。また、牛池川の旧河道に投げ込まれた状態で多数の土師器・須恵器・木製品等が出土している。これらの遺物の中から、分析目的に応じて土器の資料を選定した。

土師器については、これまで分析があまり実施されていない暗文が施された資料について、今後の研究の一助となる事を目的とする。須恵器については、7世紀代の坏身や高台付碗について、これまでの成果と比較して、窯の同定を目的とする。さらに、瓦については、県内で現在確認されている窯跡との対比、大江正行・木津博明氏による肉眼観察の結果との一致を目的とする。

#### 分析方法及び測定条件

蛍光X線分析 分析用試料は各試料を10 $\mu$ m以下に粉碎し、5～10gを径4cmの円板に成型して使用した。測定条件は次のとおりである。

蛍光X線分析装置：理学電機（株）製KG-4型

X線管球：銀対陰極 50kV、20mA

分光結晶：Fe、Sr、RbにはLiF(2d=4.028Å)

Ca、K、Ti、Ri、AlにはEDDT(2d=8.808Å)

MgにはADP(2d=10.648Å)

検出器：LiFを使用したとき、S.C.EDDT、ADPを使用したとき、P.C

時定数：1

計数法：Fe、Ca、K、Ti、Sr、Rbはチャートにより、Si、Al、Mgは定時計数法によった。

なおチャートは4'/minとした。



附圖1 (第470回) 胎土分析試料圖

第5章 出土遺物の科学的分析

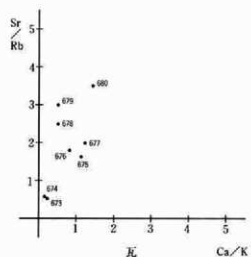
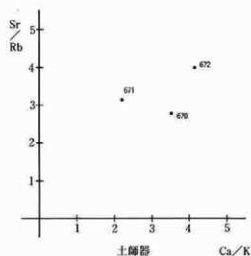
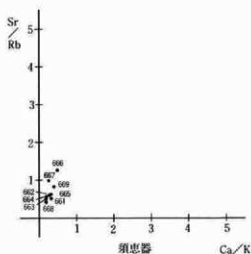
附表1 (第7表) 胎土分析資料の肉眼観察表

番号	推定年代	種別	焼成・胎土の肉眼観察	備考・登録番号
1	7世紀	須恵器	基地は細かく、高は軽い。胎土は黒青。夾雑物は白色の角張った砂粒状鉱物粒子をやや含む。焼成は甘く軟質、色調は還元気味の灰色を呈する。	旧河道286 兼附
2	7世紀	須恵器	基地は細かく、高は軽い。気泡は少ない。夾雑物は茶色の円粒状鉱物粒子を多く含む。焼成は甘く軟質、色調は還元気味の白灰色を呈する。	旧河道287 兼海
3	7世紀	須恵器	基地は細かく、高は軽い。夾雑物は細かな白色鉱物粒子と黒色鉱物粒子を多く含む。砂粒も僅かながら含む。焼成は甘く軟質、色調は酸化気味の褐色を呈する。	旧河道218 秋岡
4	7世紀	須恵器	基地は細かく、高は軽い。胎土は気泡を僅かに含む。夾雑物は細かな白色鉱物粒子を僅かに含む。焼成は硬質、色調は還元気味の灰色を呈する。	旧河道111 兼海
5	7世紀	須恵器	基地は細かく、高は軽い。胎土は黒青。夾雑物は細かな白色鉱物粒子と黒色鉱物粒子を多く含む。焼成は甘く軟質、色調は還元気味の白灰色を呈する。	旧河道216 秋岡
6	7世紀	須恵器	基地は細かく、高は軽い。胎土は気泡を僅かに含む。夾雑物は細かな白色鉱物粒子を多く含む。焼成は甘く軟質、色調は還元気味の黒灰色を呈する。	旧河道225 兼附
7	7世紀	須恵器	基地は細かく、高は軽い。胎土はねっとりで層状の編走行が見られる。夾雑物は白色・灰色の角張った砂粒状鉱物粒子、黒色鉱物粒子を僅か含む。焼成は甘く軟質、色調は還元気味の灰色を呈する。	旧河道245 兼附・秋岡
8	7世紀	須恵器	基地は細かく、高は軽い。胎土はねっとり。夾雑物は黒色の丸味をおびた鉱物粒子を多く含む。焼成は甘く軟質、色調は還元気味の灰色を呈する。	旧河道242 秋岡
9	7世紀	須恵器	基地は細かく、高は軽い。胎土は層状の編走行が見られる。夾雑物は細かな白色鉱物粒子を多量に含む。焼成は硬質、色調は還元気味の灰色を呈する。	旧河道238 兼附
10	7世紀	土師器	基地は細かく、高は軽い。胎土は僅かながら層状の編走行が見られる。夾雑物は茶色の円粒状物を含む。砂粒は少ない。焼成は硬質、色調は酸化気味の褐色を呈する。	特殊7・昭文 藤岡か
11	7世紀	土師器	基地は細かく、高は軽い。胎土は僅かながら層状の編走行が見られる。夾雑物は茶色の円粒状物を含む。焼成は甘く軟質、色調は酸化気味の褐色を呈する。	特殊8・昭文 木野か
12	7世紀	土師器	基地は細かく、高は軽い。胎土は夾雑物は茶色の円粒状物、砂粒、白色鉱物粒子を僅かに含む。焼成は硬質、色調は酸化気味の褐色を呈する。	特殊9・昭文 藤岡か
13	8世紀	明瓦	基地は密で、夾雑物は白色鉱物粒子を含む。焼成は軟で、色調は灰色を呈する。	673・秋岡・75
14	8世紀	女瓦	基地は密で、夾雑物は白色・茶色鉱物粒子を微量含む。焼成は密で、色調は暗灰色を呈する。	674・笠懸・455
15	8世紀	明瓦	基地は密で、夾雑物は白色鉱物粒子を含む。焼成は軟で、色調は灰色を呈する。	675・笠懸・52
16	8・9世紀	女瓦	基地は密で、夾雑物は白色鉱物粒子・砂粒を少量含む。焼成は軟で、色調は灰色を呈する。	676・秋岡・783
17	8世紀	女瓦	基地は密で、夾雑物は黒色鉱物粒子を多量に含む。焼成は密で、色調は灰色を呈する。	677・中之条・432
18	8世紀	女瓦	基地は密で、夾雑物は白色鉱物粒子を多量に含む。焼成は硬で、色調は灰色を呈する。	678・中之条・433
19	8世紀	女瓦	基地は密で、夾雑物は白色・黒色鉱物粒子を多量に含む。焼成は密で、色調は灰色を呈する。	679・吉井・442
20	8世紀	女瓦	基地は密で、夾雑物は白色鉱物粒子を多量に含む。焼成は硬で、色調は暗灰色を呈する。	680・吉井・800

附表2 (第8表) 胎土分析値一覧表

資料	成分	SiO <sub>2</sub> (%)	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> (%)	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> (%)	TiO <sub>2</sub> (%)	CaO (%)	MgO (%)	K <sub>2</sub> O (%)	Sr/Rb	Ca/K
661	65.0	18.8	3.34	0.75	0.64	1.80	2.11	0.53	0.31	
662	70.9	18.8	2.54	0.72	0.54	1.61	2.06	0.60	0.25	
663	75.9	15.8	2.68	0.83	0.35	1.45	1.45	0.50	0.19	
664	66.7	19.2	3.34	0.74	0.46	1.74	2.22	0.51	0.19	
665	73.4	15.7	2.00	0.43	0.42	1.00	1.18	0.60	0.31	
666	63.9	18.9	5.57	0.84	0.74	1.18	1.67	1.28	0.47	
667	67.9	21.8	2.92	0.81	0.36	1.66	1.28	1.0	0.23	
668	69.7	17.7	4.69	0.88	0.30	1.75	1.60	0.44	0.13	
669	65.9	19.8	6.16	0.83	0.49	1.86	1.23	0.8	0.37	
670	60.0	14.8	8.56	1.15	3.50	5.30	1.28	2.76	3.53	
671	61.0	16.3	8.22	1.19	2.03	1.90	1.15	3.14	2.20	
672	58.8	14.0	8.37	1.11	3.53	4.24	1.10	4.0	4.15	
673	63.6	24.8	3.23	0.95	0.84	1.09	1.12	1.81	0.83	
674	61.6	20.4	5.61	0.87	1.07	1.13	1.04	1.89	1.20	
675	61.6	22.0	9.41	0.91	1.26	1.02	1.07	3.52	1.41	
676	62.6	21.8	7.64	1.24	0.95	1.62	0.99	1.58	1.10	
677	66.7	18.3	5.07	0.74	0.41	1.32	1.83	0.53	0.19	
678	71.3	18.4	2.84	0.77	0.34	1.93	1.64	0.55	0.16	
679	63.7	21.9	5.84	0.93	0.66	0.99	1.30	2.5	0.53	
680	66.5	19.3	7.76	0.82	0.58	0.78	1.10	3.0	0.53	





附図2 (第471圖) Sr/Rb・Ca/K 相関図

波高分析器；積分方式

測定線：FeK $\alpha$ 、CaK $\alpha$ 、KK $\alpha$ 、TiK $\alpha$ 、SiK $\alpha$ 、AlK $\alpha$ 、MgK $\alpha$ 、SrK $\alpha$ 、RbK $\alpha$ の各1次線を使用した。

X線照射面積；20mm $\phi$

標準試料；財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団から依頼を受けた土器6点 (295・310・336・345・360・380) を化学分析し標準試料とした。

注) 295：吉井窯跡群須恵器坏 310：国分僧寺・尼寺中間地域女瓦 336：下東西土師器坏 345：下東西遺跡須恵器蓋 360：下東西遺跡須恵器羽釜 380：国分僧寺・尼寺中間地域棧瓦

#### 分析結果

結果については、附表2、及び附図1に示した。

須恵器はかなり集中した値を示しており、これまでの分析との比較が可能であり、肉眼観察における各窯跡群の領域内及びそれに接した傾向が得られたが、試料番号667については外れた。ただし、乗附窯跡群の領域内に入る。

土師器はこれまでに分析された既知分析資料に671が近接傾向にあり、670・672は拡散傾向にある。資料が少ないために比較できないが、試料番号672を除いてやや集中する値を示している。特に、試料番号670は他の資料と大きく値が違いため、県内の粘土でない可能性が高く、県外からの搬入品とも考えられる。

瓦は笠懸窯跡群とみられる673・674・675、吉井窯跡群とみられる679・680については領域内におさまったが、吉井窯跡群とみられた676、中之条窯跡群とみられた677・678については近似値が得られず、領域から大きく外れた。

#### 参考文献

- 三辻得一 古代土器の産地推定法 考古学ライブラリー14 ニュー・サイエンス社  
群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編集・発行の各遺跡発掘調査報告書

## 第2節 国分境遺跡出土の馬歯・牛歯について

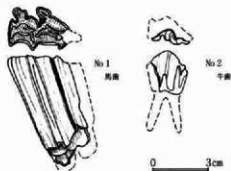
前 財団法人群馬県畜産協会常任理事 大江正直

国分境遺跡より古墳時代—平安時代に属する馬歯・牛歯が出土し、担当者よりこれらを調査し本遺跡の性格付けに寄与するよう依頼があった。時間及び紙面の都合により要点のみ記載することとしたが、調査に伴う既知例や観察上の諸注意に関しては本稿と同時に作成している「上野国分僧寺・尼寺中間地域 4分冊1989」を参照されたい。担当者によれば国分境遺跡のA区旧河道跡から古墳時代—平安時代（7世紀—10世紀）に属する馬歯1個、牛歯1個が出土している。

**No. 1 馬歯 LP<sup>2</sup>** 馬歯は大きく大変力強い。全体黒褐色を呈し、前附歯より前及び歯根を失っている。内部エナメル装はやや複雑で両小窩の発達が目立っている。現歯冠長30.6（推定歯冠長39.7、単位mm）歯冠幅23.3、推定幅率58.3、現歯冠高56.1、全歯高63.3、エナメル装の厚1.5—1.1、重量32.1g。この馬は性不明、年齢は4—5才、幼令、体高140cm、大形馬の中では小さい馬である。同時代の馬と比較すると歯冠長、歯冠幅ともに大きく、幅率は同じであり、改良度も当時とすると高いことを示している。現代馬と比較すると歯冠長、歯冠幅、幅率ともに同じである。

**No. 2 牛歯 LP<sub>3</sub>前葉及び後葉の舌面** 牛歯は大きく後葉及び歯根を失っている。全体灰白色で、咬頭や高い山形を示し、末咬鈍である。現歯冠長18.8（推定歯冠長22.6）、舌側歯冠高22.7である。この牛は性不明、年齢2—2.5才、幼令で、同時代の牛と比較すると大きく、現代黒牛和種とほぼ同じ大きさである。群馬県下東西遺跡より奈良時代前期に属する「下東西牛A奈良」の頭蓋が出土しているがこの牛のP<sub>3</sub>の歯冠長は15.9（舌面）であり、No. 2牛歯は「下東西牛A奈良」より遙かに大きく、1例のことであったことはわからないが古墳時代—平安時代にはこの地が活力に満ちた土地であったことを示している。

担当者によればこの馬歯の出土した場所は牛池川の河川敷で、国分尼寺に近接した対岸にあり、そこは山王庵寺と同一台地・近接地にあり、上毛野国の筆頭家族の氏寺と有縁の氏族または血縁の氏族が居住していた場所であると言うことである。このNo. 1の馬歯を有する馬は宮崎重雄が調査した古墳時代の有力首長館跡とされている群馬県三ツ寺遺跡の濠から出土したNo. 1号馬推定体高148cm（144—152cm）に比較すると小さい。しかし当時の上毛野国としてはNo. 1の馬歯を有する馬は大形馬で、幅率も大きいところから改良度も高い馬であったと考えられ、上毛野国の筆頭家族と有縁または血縁の氏族の首長が飼育したとしても恥ずかしくない立派な馬であったと考えられる。またNo. 2の牛歯を有する牛が現代黒毛和種とほぼ同じ大きさを有する牛であったことから見て古墳時代—平安時代にはこの地は経済的にも豊かで、活力に満ちた土地であったと考えられる。



附図1（第472図）本遺跡出土馬歯・牛歯 1：2



附図2（第473図）同左

## 第3節 国分境遺跡出土木製品類の樹種同定

金沢大学教養部 鈴木三男  
農林水産省森林総合研究所 能城修一

群馬県群馬郡馬町国分境（こくぶごかい）遺跡より出土した木材の樹種を調査した。この遺跡は榛名山麓を東南に流れる八幡川と牛池川の間の台地の牛池川側（南側）にあり、7世紀から10世紀にかけて集落が営まれている。調査試料はこの遺跡の大溝から出土した木材のうち99点を選んで行った。これらのうち、55点が鋸、鋸、曲物、板などの加工材で、41点が自然木、3点が樹皮である。樹皮と同定不能な2点を除いた94点の樹種を調べた結果、以下にある24の樹種が検出されたので、これらの樹種の同定結果を表1と2に、その根拠となった材形質について以下に略記し、その顕微鏡写真を図版1から9に示した。なお、同定に用いられた木材組織プレパラートは金沢大学教養部生物学教室に保管されている。

1. カヤ *Torreya nucifera* (Linn.) Sieb. et Zucc. イチイ科 図版1-1 (GUN-60)

仮道管と単列の放射組織からなる針葉樹材で、樹脂細胞を欠く。晩材部は最少なく年輪界はやや明瞭、仮道管の内壁には顕著ならせん肥厚があり、通常2本づつまとまって走っている。放射組織は柔細胞からなり、分野壁孔は小さくトウヒ型で、各分野2個ある。以上の形質からイチイ科のカヤの材と同定した。

当遺跡からは角棒として1点出土しているが、カヤ材は材質が緻密で粘りけがあり、加工しやすいことから、各種建築材、器具材等に広い用途があり、縄文時代から用いられてきている。

2. イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch イヌガヤ科 図版1-2 (GUN-13)

カヤに似た材構造を示すが、晩材部はきわめて少なく、年輪界は不明瞭である。また樹脂細胞が散在して均一に分布し、構成細胞の水平壁は数珠状に肥厚し、仮道管内壁のらせん肥厚は傾きが水平に近く、2本づつまとまるようなことはない、などのことから区別され、イヌガヤ科のイヌガヤの材と同定した。この材は硬く緻密で、粘りがあり、木理はやや不整で、加工はややむずかしい。小細工物、手網の枠などに用いられ、特に縄文時代には丸木弓として多用されてきている。当遺跡からは櫛と加工材として2点出土しているが、この樹種の櫛への利用は珍しい。

3. スギ *Cryptomeria japonica* (Linn. f.) D. Don スギ科 図版1-3 (GUN-22)

年輪幅が広く、早材から晩材への移行は緩やかで、幅広い晩材部を持つ針葉樹材である。樹脂細胞は晩材部に多く、接線方向にややまとまって同心円状に分布する。樹脂細胞の水平壁はやや厚く、特に数珠状に肥厚することはあまりない。仮道管にらせん肥厚はなく、放射組織は単列で柔細胞からなる。分野壁孔は大きなスギ型で、長軸はほぼ水平になり、1分野あたり2個が普通である。以上の形質からスギの材と同定した。スギ材はわが国のもっとも優秀な針葉樹材の一つで、建築材を始めありとあらゆる用途に用いられているが、関東地方では弥生時代以前にはその利用は殆ど知られていない。当遺跡からは曲物、容器部材、などとして6点が用いられている。

4. ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版2-4 (GUN-43)

年輪幅は一般に狭く、早材から晩材への移行は比較的急で、狭い晩材部を持つ針葉樹材。年輪界は比較的明瞭で、スギ同様、同心円状に緩くまとまった樹脂細胞を持つが、その水平壁はしばしば数珠状に肥厚する。放射組織は単列で柔細胞からなり、分野壁孔はやや小振りのヒノキ型で、各分野に2個ある。以上の形質からヒノキの材と同定した。この材は古墳時代以降の日本で最も優秀な針葉樹材で、材質、加工性、保存性などいずれにおいても優れていて、古代の近畿地方を中心とした地域で大いに利用されてきている。しかし縄文時代においてはその利用は少なく、特に関東地方では弥生-古墳時代以降、わずかにその利用はみられるものの、木筒や曲物等の容器など特殊な用途に限られている。当遺跡からは曲物などの容器の底板と椀状の木器として4点が出土している。

5. モミ属 *Abies* マツ科 図版2-5 (GUN-26)

一見スギによく似た針葉樹材で、年輪幅は広く、早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部は幅広い。樹脂細胞はきわめて少なく、あったとしても年輪界付近に限られる。放射組織は単列で柔細胞からなり、壁はあつく、多数の単壁孔を備え、特に垂直壁は数珠状になる。分野壁孔はやや小さくスギ型で各分野に2-3個ある。以上の形質からマツ科のモミ属の材と同定した。この属には暖温帯に普通なモミ *A. firma* Sieb. et Zucc.、太平洋側の冷温帯に分布するウラジロモミ *A. homolepis* Sieb. et Zucc.、それに亜高山帯に分布するシラベ *Abies veitchii* Lindl. などがあるが材構造での区別は困難である。しかし、モミ属の材が関東地方の古墳時代から古代にかけて多用され、その当時関東平野の丘陵部及び山地帯の下部には多量のモミ林があったことが推定されていることから、これら遺跡出土材の多くはモミの材であることが推定される。これら遺跡出土材は多くはスギ材やヒノキ材と同様の用いられ方をしており、当遺跡からの出土材も容器底板や薄板、椀状木製品などで、他の遺跡の出土例とよく一致する。

6. ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版2-6 (GUN-92)

放射方向にやや長い楕円の小道管が単独あるいは放射方向に数個複合して均一に散在する散孔材で、年輪界は不明瞭で、道管の直径は年輪界に向けてゆっくりと小さくなる。道管の穿孔は単一で、側壁の壁孔は交互状で密、らせん肥厚はみられない。木部柔組織は散在状で目立たず、放射組織は単列で異性、道管との壁孔は交互状で密に並び、蜂の巣状を呈する。以上の形質からヤナギ属の材と同定したが、この属には多数の種類があり、種の識別は出来ない。これらの多くは成長が早く、材は軽軟で箱ものなどわずかの用途がある。当遺跡出土材も丸太枕や板状のものが多少あるが多くは自然木であり、出土した大溝周囲に生育していたものと考えられる。

7. サワグルミ *Pterocarya rhoifolia* Sieb. et Zucc. クルミ科 図版3-7 (GUN-25)

中型で放射方向にやや長い楕円の道管が疎らに散在する散孔材で、年輪界は不明瞭である。道管は多くは単独、時に2-3個が放射方向に複合する。木部柔組織が1細胞幅で接線方向につながって分布する。放射組織はほぼ同性で狭く、多くは1-2細胞幅である。以上の形質からクルミ科のサワグルミの材と同定した。この種は冷温帯から暖温帯にかけての河床など多湿で水はけのよい所に多く、材質は軽軟で肌は粗く、指物、火鉢の胴、鞍などに用いられる。当遺跡からは農具(鋤?)や板材として出土しているが、関東地方平野部の遺跡からはこの材の出土はほとんどなく、当遺跡が山地に程近くに立地していることを表している

と考えられる。

8. ハンノキ属ヤシャブシ節 *Alnus* sect. *Alnobetula* カバノキ科 図版3-8 (GUN-80)

ヤナギ属に似た道管配列を示す散孔材だが、それより道管はやや角張っており、複合しているものも多い。道管直径は年輪界に向けて順次小さくなるが、年輪界は不明瞭である。道管の穿孔は横棒の多い階段状で、道管相互の壁孔は小さく密に交互状に配列する。木部柔組織は散在状で目立たず、放射組織は単列で同性で、集合放射組織は見られない。以上の形質からカバノキ科ハンノキ属のうち、集合放射組織が希にしか見られないヤシャブシ節ヤシャブシ *Alnus firma* Sieb. et Zucc. やその変種のミヤマヤシャブシ var. *hirtella* Fr. et Sav. の材と同定した。これらは関東地方の山地によく生える落葉樹で、材はやや堅硬で木理美しく、旋作材や床柱、木鼻などに用いられるが、遺跡からの出土例は少ない。当遺跡出土材は1点のみである。

9. クマシデ属クマシデ節 *Carpinus* sect. *Distegocarpus* カバノキ科 図版3-9 (GUN-77)

放射方向に数個集合した楕円の小道管が放射方向にやや集まって配列する放射孔材の散孔材で、年輪界は不明瞭。道管の穿孔は単一と横棒の少ない階段状で、道管相互の壁孔は交互状で密にある。木部柔組織はややルーズな接線状で、量は多くはない。放射組織は集合状と1-3列の異性のものがあり、希に結晶を持つ。以上の形質からカバノキ科クマシデ属の内、道管の穿孔が単一と階段状の両方を持つクマシデ *Carpinus japonica* Blume やサワシバ *Carpinus cordata* Blume などのクマシデ節の材と同定した。これらは材構造が互いによく似ているので区別はできていない。これらの材は緻密、堅硬で柄類、旋作材などによく用いられるが、遺跡の出土例はきわめて少ない。当遺跡からは自然木が1点出土している。

10. クマシデ属イヌシデ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 図版4-10 (GUN-42)

クマシデ節によく似た材だが、道管の穿孔はほとんどが単一で、階段状のものはごく希にしか見られないことから区別され、クマシデ属のアカシデ *C. laxiflora* (Sieb. et Zucc.) Blume やイヌシデ *Carpinus tchonoskii* Maxim. の材であることがわかる。これらの材質と用途はクマシデ節のそれとほぼ同じである。当遺跡からは杭(?)と自然木が1点づつ出土している。

11. クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版4-11 (枝・幹材、GUN-83); 図版4-12 (根材、GUN-75)

年輪の初めに大道管があり、そこから順次径を減じて晩材部では薄壁で角張った小道管が集まって火炎状をなす環孔材で、年輪は明瞭である。辺材部は淡茶褐色で腐り易いが、心材部では漆黒を呈し、きわめて保存性が高い。道管の穿孔は単一で放射組織は単列同性、背は低い。以上の形質からブナ科のクリの材と同定した。根材としたものは道管の配列が複雑で、放射組織、繊維組織、柔組織などの構成細胞が薄壁で径が大きいことなどにより区別した。クリ材は広葉樹材の中では最も優秀なものの一つで、特にその保存性が優れていることから、鉄道の枕木や、橋梁、杭などの土木用材、建物の土台などによく用いられてきた。縄文時代には全国的に最もよく利用されたものであるが、古墳時代以降、加工技術の変化にともなってその利用は減ってきている。当遺跡では井戸枠や板材などの加工材の他自然木としても多数出ており、人々の身近にあって利用されていたことが伺える。

12. コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図版5-13 (GUN-34)

中型でやや楕円形をした道管が放射方向にルーズに集まって配列する放射孔材で、大きな複合放射組織が目立ち、木部柔組織は1-数細胞層の帯が接線方向に均一に並ぶ。道管の穿孔は単一で、放射組織は単列同性と複合状のふたつがある。心材は茶褐色に着色する。以上の形質からブナ科コナラ属のうち、常緑のカシ類(アカガシ亜属)の材と同定した。この仲間には関東地方ではアカガシ *Quercus acuta* Thunb.、シラカシ *Q. myrsinaefolia* Blume、アラカシ *Q. glauca* Thunb. などがあるが材での区別はできていない。これらの材は硬く強靱で弾性強く、柄杓、各種農具などにひろく用いられるが、関東地方では縄文時代にはほとんど利用されていなかったが、古墳時代及びそれ以降では鋤や鍬などの農具として非常によく用いられていることが分かっている。当遺跡出土材も農具で、カシ材が日高遺跡や新保遺跡など他の群馬県内の遺跡と同様に用いられてきたことが分かる。

13. コナラ属クスギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版5-14 (GUN-73)

年輪の初めに大きな丸い道管が並び、そこから順次径を減じ、晩材部では円い小型の道管が放射方向に配列する環孔材で、大きな複合放射組織が目立つ。木部柔組織は接線状で、小道管の周囲には道管状仮道管が分布する。道管の穿孔は単一で、放射組織は単列同性と複合状のふたつがあり、しばしば結晶を持つ。心材は茶褐色に着色するが辺材とあまり違わない。以上の形質からコナラ属のうち落葉性のコナラ亜属のもので、しかも晩材部道管が丸く比較的太いことからクスギ *Quercus acutissima* Carr.、アベマキ *Q. variabilis* Blume. などのクスギ節の材であることが分かる。この両者は材構造が互いによく似て区別できないが、分布がクスギでは全国的であるのに対し、アベマキは西日本に偏っているので、当遺跡出土材は前者である可能性が高い。材はやや硬めで肌目粗く、複合放射組織にそって割裂自在であり、ミカン割の椀目の板を作るのが容易で、関東地方では縄文時代から古代まで板材や建築材などとしてよく利用されていたことがわかっている。当遺跡からは角材や自然木として4点が出土している。

14. コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版5-15 (GUN-56)

クスギ節によく似た材だが、晩材部の小道管は微細で、薄壁で角張っており、火災状あるいは放射状に配列し、心材部はしばしばクリ同様漆黒に着色するなどで異なり、同じコナラ亜属のうち、コナラ *Q. serrata* Mur.、ミズナラ *Q. mongolica* Fis. et Turcz.、カシワ *Q. dentata* Thunb. などのコナラ節の材であることが分かる。材はクスギ節に似るが割裂はそれほど容易でなく、またミズナラなどでは木肌がたいへん美しく保存性も良いので家具材などに良く用いられる。縄文時代以降クスギと同様の利用があるが、それよりも一般に少なく、むしろ二次林の主要な構成要素として薪炭材や堅穴住居の柱などに良く用いられる。当遺跡からは鍬?が1点出土している。

15. エノキ属 *Celtis* ニレ科 図版6-16 (GUN-12)

年輪の初めに大径管があり、そこから順次径を減じて、晩材部では小径管が塊状に集まって斜め接線方向に分布する環孔材。道管の穿孔は単一で、小径管には顕著ならせん肥厚がある。木部柔組織は周囲状で、放射組織は数細胞幅から10細胞幅の大きなものまで変異があり、異性、直立細胞や方形細胞にしばしば結晶を持つ。以上の形質からニレ科のエノキ属の材と同定した。この属には暖温帯にごく普通のエノキ *Celtis sinensis* Pers. とそれよりやや涼しいところに多いエゾエノキ *C. jezoensis* Koizd. があるが、材構造での区別

はむずかしい。いずれも材は比較的堅硬で割裂困難であり、柄物、器具材、運動用具などに使われる。縄文時代以降の関東地方に遺跡では自然木、加工木ともに普遍的な樹種で、当遺跡では自然木として1点が出土している。

16. ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版6-17 (GUN-50)

エノキ属に良く似た環孔材だが、孔圏外ではすぐ小道管の塊になる。放射組織はあまり大きくならず、上下端の細胞以外は平伏細胞からなり、結晶が上下端の細胞にしばしば現れる、などにより区別される。材質は堅硬強靱で光沢がある優秀な広葉樹材で、成長がよくしかも大木となるので古くから建築材や農具、生活具、漆器木地などに広く利用されてきている。当遺跡では鋤?と容器(朔物?)に利用されている。

17. ヤマグワ *Morus bombycis* Koidz. クワ科 図版6-18 (GUN-74)

エノキ属に良く似た材で、小道管にらせん肥厚があることなど良く一致するが、道管の配列がやや違い、放射組織の形も膨らみの無い紡錘形であり、心材部は鮮やかな茶褐色に着色する、などから区別され、クワ科のヤマグワの材と同定した。この材はやや堅硬で強靱であり、水湿に特に強く、土台回りなどの建築材や実に様々な器具材に用いられている。縄文時代以降の遺跡から建築部材や自然木としてもしばしば出土しており、当遺跡の出土材は4点とも自然木で、遺跡が湿性の環境下にあったことが伺える。

18. ウツギ *Deutzia crenata* Sieb. et Zucc. ユキノシタ科 図版7-19 (GUN-20)

微細な小道管が均一に分布する散孔材で、年輪界は殆ど目立たない。道管はほぼ単独で、沢山の横溝からなる階段穿孔を持つ。放射組織は3-6細胞幅くらいで背が極めて高く、直径が大きく背の高い細胞が多数混じりあって、粗雑である。以上の形質から、ユキノシタ科のウツギの材と同定した。これは畑の縁などに良く植えられる落葉低木で、木材の量は少ないので木釘など特殊用途の他はあまり無い。当遺跡からは自然木として2点が出土している。

19. モモ *Prunus persica* (Linn.) Batsch. バラ科 図版7-20 (GUN-81)

年輪の初めに丸い中型の道管がほぼ単独で数層に並び、晩材部では丸い小さい道管が単独あるいは数個放射方向に複合して散在する半環孔材である。道管の穿孔は単一で内壁に顕著ならせん肥厚がある。木部柔組織は目立たず、放射組織は3-5細胞幅くらいの同性に近い異性で、接線面できれいな紡錘形になる。放射組織の構成細胞は直径や大きく粗雑な感じがする。心材部はしばしば茶褐色に着色し、道管には黒褐色のゴム状物質が沈着している。以上のことからバラ科サクラ属のモモの材と同定した。モモの材はウメ *Prunus mume* Sieb. et Zucc. の材にやや似るが、後者では早材の道管があまり大きくならないことから区別できる。モモは中国産だが日本では縄文前期にすでに見られ、材ではいくつかの関東地方の古墳時代の遺跡からすでに検出されている。当遺跡からは自然木として1点が出土している。

20. サクラ属 *Prunus* バラ科 図版7-21 (GUN-62)

丸い小道管が単独あるいは数個おもに放射方向に複合して均一に分布する散孔材で、道管の直径は早材部から晩材部にかけてわずかに小さくなる。道管の穿孔は単一で、隔壁の壁孔は交互状、内壁に顕著ならせん肥厚がある。放射組織は3-5細胞幅くらいの同性に近い異性で、やや粗雑な感じがする。モモ同様しばし

## 第5章 出土遺物の科学的分析

ば道管内に茶褐色の沈着物がある。以上の形質からバラ科サククラ属の材と同定した。この属には沢山の種類があり、いくつかの種類は特徴的で区別されるが必ずしも区別できない場合があるのでここでは属として一括した。なお、顕微鏡写真に示されているGUN-62はヤマザクラ *Prunus jamasakura* Sieb. ex Koidz. に良く一致する。ヤマザクラの材は堅硬でやや緻密、光沢美しく優秀な広葉樹材であり、建築材、器具材として広く用いられ、特に縄文時代には漆器木地としてよく用いられている。当遺跡からは板材、加工材及び自然木として多数(10点)が出土している。

### 21. ナナカマド属 *Sorbus* バラ科 図版8-22 (GUN-16)

単独の小道管が均一に分布する散孔材で、年輪界は殆ど目立たない。道管の穿孔は単一で、内壁に微かならせん肥厚がある。木部柔組織は散在状だが、やや量が多い。放射組織は微細で、ほぼ2細胞幅で背も低く、同性である。以上の形質からバラ科のナナカマド属の材と同定した。この属には暖温帯から冷温帯に分布するアズキナシ *Sorbus alnifolia* (Sieb. et Zucc.) K. Koch.、冷温帯を中心に分布するナナカマド *Sorbus commixta* Held. などがあるが材構造での区別は出来ていない。いずれも材は堅硬で緻密、割裂は困難であり、器具材などに用いられる。当遺跡からは丸太枕及び自然木として5点出土している。

### 22. カエデ属 *Acer* カエデ科 図版8-23 (GUN-51)

小道管が単独あるいは数個放射方向に複合して均一に分布する散孔材で、道管の量は少なく、年輪界はあまり明瞭でない。道管の穿孔は単一で側壁の壁孔は交互状、内壁には顕著ならせん肥厚がある。木部柔組織は目立たず、放射組織は1-5細胞幅くらいの紡錘形で同性である。以上の形質からカエデ属の材と同定した。この属には暖温帯から冷温帯にかけて多数の種が分布しているが材構造で各種類を識別するには至っていない。この属の材は堅硬緻密で光沢があり、建築材、柄物、指物、漆器木地、彫刻材など色々な用途がある。当遺跡出土材は加工材が1点である。

### 23. トチノキ *Aesculus turbinata* Blume トチノキ科 図版8-24 (GUN-1)

放射方向に長い楕円形をした小道管が単独或は放射方向に数個複合して均一に散在する散孔材で、道管の穿孔は単一、内壁に微かならせん肥厚が認められる。放射組織は単列同性で、しばしば綺麗な層階状の配列をしめす。以上の形質からトチノキの材と同定した。この木は冷温帯から暖温帯にかけての湿性の地に広く分布する落葉樹で、大木となり、材は柔らかく肌目緻密で、加工が容易なので漆器木地を始め各種器具、建築材に広く用いられる。当遺跡からも、槽、鋏、加工材として、8点が出土している。

### 24. ウコギ属 *Acanthopanax* ウコギ科 図版9-25 (GUN-8)

薄壁で多角形をした道管が主に接線方向に複合して波状の紋をなす散孔材で、道管の直径は年輪初めから年輪界に向けてゆっくりと小さくなっていく。道管の穿孔は単一で、道管相互の壁孔はやや大振りて緩い交互状、放射組織は幅広い紡錘形でよく目立ち、鞘状となり、異性である。以上の形質からウコギ科ウコギ属の材と同定した。この属は暖温帯から冷温帯にかけて分布する落葉低木で、日本に数種があるが材構造での区別は出来ていない。当遺跡からは自然木など3点が出土している。



## 同定された樹種の組成について

当遺跡からは沢山の木材が出土したが樹種の同定を行えたのは加工材55点、自然木41点である。樹種調査した試料数が少ないので明確な事は分からないが、この調査範囲では次の事が言える。

第3表は同定された樹種を加工木と自然木に分けて集計したものである。これを見ると加工木としてはサクラ属、トチノキ、スギ、モミ属、サワグルミ、ケヤキ、ヒノキなどが比較的多いことが分かる。その内訳を見ると(表2)、サクラ属とサワグルミはそのほとんどが加工程度の低いものでその用途ははっきりしないが、トチノキは槽や椀、スギ、モミ属、ヒノキは曲物、板材、棒、部材など、ケヤキは容器というように、それぞれ目的にかなった樹種の選択のもとに利用され、しかもサクラ属の3点とトチノキの1点を除いてはこれらのほとんどが、自然木としては認められない。このことはこれらの木材が生産地から運ばれてきて当遺跡で利用されていたことを伺われる。それが特に顕著なのは上述の針葉樹3種で、これらはきめの細かい小さな木製品にはヒノキ、粗雑でわりと大振りなものや建築部材にはモミ属、その中間的なところにはスギと、やや利用傾向に違いがあるとはいえ、殆ど同じ目的で用いられているが、そのいずれもが遺跡のすぐ周囲に生育していたとは考えられないことは自然木の出土が全く無いことからいえる。そのことは調査点数が少ないので断定は出来ないが、当遺跡付近での自生を考えにくいイヌガヤ、アカガシ亜属、カヤなどもよそから持ち込まれたものである可能性が高い。この一方で自然木に多い樹種を見るとクリ、ヤナギ属、ヤマグワなどであり、これらは当遺跡の中あるいはすぐ周辺に普通に生えていたものと見なせる。

附表3 (第11表) 国分境遺跡出土木材の樹種の比較

樹種名	加工木	自然木	合計
サクラ属	7	3	10
トチノキ	7	1	8
スギ	6		6
モミ属	6		6
サワグルミ	5		5
ケヤキ	4		4
ヒノキ	4		4
クマシラ	2	9	11
ヤナギ属	2	8	10
ナナカマド属	2	3	5
イヌガヤ	2		2
クヌギ属	1	3	4
ウコギ属	1	2	3
イスシデ属	1	1	2
アカガシ亜属	1		1
カエデ属	1		1
カヤ	1		1
コナラ属	1		1
ヤマグワ		4	4
ウツギ		2	2
エノキ属		1	1
クマシデ属		1	1
モミ		1	1
ヤシヤブシ属		1	1
合計	54	40	94

第5章 出土遺物の科学的分析

附表1 (第9表) 国分埴跡出土土木材の樹種 (標本番号順)

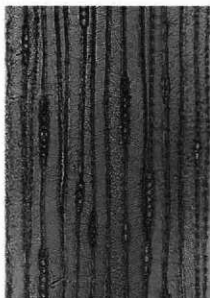
標本番号	樹種	器種	木取り等	遺物番号	標本番号	樹種	器種	木取り等	遺物番号
GUN-1	トチノキ	槽		1	GUN-50	ケヤキ	籠?	板目?	58
GUN-2	トチノキ	槽		2	GUN-51	カエデ属	加工材	ミカン割	59
GUN-3	ウツギ	自然木		5.3	GUN-52	サクラ属	板材	板目?	60
GUN-4	クリ	自然木		5.4	GUN-53	ケヤキ	容器		61
GUN-5	クリ	自然木		5.5	GUN-54	ケヤキ	容器		62
GUN-6	トチノキ	加工材		3	GUN-55	ナナカマド属		丸太杭	64
GUN-7	ウコギ属	用途不明		6					
GUN-8	ウコギ属	自然木		5.8	GUN-56	コナラ属	籠?		68
GUN-9	クリ	自然木		5.9		コナラ属			
GUN-10	コナラ属	自然木		5.10	GUN-57	モミ属	棒?		69
	クスギ節				GUN-58	ヤナギ属		丸太杭	70
GUN-11	スギ	曲物底板?	切り欠き有	71-1	GUN-59	ヒノキ	曲物底板		71-2
GUN-12	エノキ属	自然木		5.12	GUN-60	カヤ	角棒		72-1
GUN-13	イヌガヤ	櫓		109	GUN-61	ヒノキ	角棒		72-2
GUN-14	樹皮	剥皮		110	GUN-62	サクラ属	板材?	板目?	80
GUN-15	イヌガヤ	加工材		111	GUN-63	クリ	板材?	ミカン割	81
GUN-16	ナナカマド属	自然木		5.16	GUN-64	サクラ属	加工材	ミカン割	82
					GUN-65	モミ属	棒状	板目?	83
GUN-17	ヤマダワ	自然木		5.17	GUN-66	ヒノキ	棒状	板目?	84
GUN-18	ヤマダワ	自然木		5.18	GUN-67	スギ	木筒状	板目?	85
GUN-19	サワグルミ	加工材	板目?	17	GUN-68	トチノキ	板材?	板目?	86
GUN-20	ウツギ	自然木		5.20	GUN-69	ヤナギ属	板材?	板目?	87
GUN-21	ナナカマド属	自然木		5.21	GUN-70	サクラ属	加工材	ミカン割	88
					GUN-72	クリ	加工材		27
GUN-22	スギ	角材		12-1	GUN-73	コナラ属	加工材		25
GUN-23	コナラ属	角材		12-2		クスギ節			
	クスギ節				GUN-74	ヤマダワ	自然木		S.2
GUN-24	サワグルミ	籠?	板目?	13-1	GUN-75	クリ	加工材		26
GUN-25	サワグルミ	板材		13-2	GUN-76	コナラ属	自然木		S.41
GUN-26	モミ属	容器底板	板目?	16		クスギ節			
GUN-27	スギ	容器底板		11	GUN-77	クマシラ属	自然木		S.45
GUN-28	サワグルミ	板材	板目?	19		クマシラ属			
GUN-29	トチノキ	加工材	板目?	18	GUN-78	ナナカマド属	加工材		34
GUN-30	樹皮	薄板	板目?	20		属			
GUN-31	スギ	加工材	板目?	21	GUN-79	クリ	自然木		S.42
GUN-32	サワグルミ	加工材	板目?	23-1	GUN-80	ヤシヤブシ	自然木		S.25
GUN-33	クリ	加工材	ミカン割	23-2		節			
GUN-34	コナラ属?	籠?	板目?	24-1	GUN-81	モモ	加工材		41
	カガシ亜属				GUN-82	サクラ属	自然木		S.43
GUN-35	モミ属	加工材?	板目?	29	GUN-83	クリ	自然木		S.22
GUN-36	ナナカマド属	丸太杭		28	GUN-84	ヤナギ属	自然木		S.28
					GUN-85	ヤナギ属	加工材		26
GUN-37	樹皮	曲物底板		31	GUN-86	ウコギ属	自然木		S.27
GUN-38	保存不良で 同定不能	薄板	板目?	33	GUN-87	クリ	自然木		S.21
					GUN-88	ヤナギ属	自然木		S.40
GUN-39	トチノキ	籠		36	GUN-89	クマシラ属	自然木		S.36
GUN-40	モミ属	板材	板目?	40		イメシラ属			
GUN-41	保存不良で 同定不能	樹皮部分?		42-1	GUN-90	ヤナギ属	自然木		S.23
					GUN-91	クリ	自然木		S.29
GUN-42	クマシラ属	杭?		43	GUN-92	ヤナギ属	自然木		S.44
	イメシラ属				GUN-93	ヤナギ属	自然木		S.46
GUN-43	ヒノキ	容器底板	板目?	44	GUN-94	ヤナギ属	自然木		S.28
GUN-44	サクラ属	加工材	板目?	45	GUN-95	ヤマダワ	自然木		S.24
GUN-45	ケヤキ	容器		50	GUN-96	スギ	板材		37
GUN-46	サクラ属	自然木		52	GUN-97	トチノキ	自然木		S.34
GUN-47	サクラ属	加工材	板目?	53	GUN-98	ヤナギ属	加工材		5
GUN-48	サクラ属	加工	板目?	54	GUN-99	トチノキ	加工		9
GUN-49	モミ属	薄板	板目?	55	GUN-100	サクラ属	加工材		15

附表2 (第10表) 国分埴遺跡出土木材の樹種 (樹種名別)

標本番号	樹種	器種	木取り等	遺物番号	標本番号	樹種	器種	木取り等	遺物番号
GUN-13	イヌガヤ	櫛		109	GUN-11	スギ	曲物底板?	切り欠き有	71-1
GUN-15	イヌガヤ	加工材		111	GUN-22	スギ	角材		12-1
GUN-7	ウコギ属	用途不明		6	GUN-27	スギ	容器底板		11
GUN-8	ウコギ属	自然水		S 8	GUN-31	スギ	加工材	板目	21
GUN-86	ウコギ属	自然水		S 27	GUN-67	スギ	木簡状	板目	85
GUN-3	ウヅキ	自然水		S 3	GUN-96	スギ	板材		37
GUN-20	ウヅキ	自然水		S 20	GUN-1	トチノキ	櫛		1
GUN-12	エノキ属	自然水		S 12	GUN-2	トチノキ	櫛		2
GUN-51	カエデ属	加工材	ミカン割	59	GUN-6	トチノキ	加工材		3
GUN-60	カヤ	角棒		72-1	GUN-29	トチノキ	加工材	板目?	18
GUN-42	クマシデ属	杖?		43	GUN-39	トチノキ	線		36
	イヌシデ属				GUN-68	トチノキ	板材?	板目	86
GUN-89	クマシデ属	自然水		S 36	GUN-97	トチノキ	自然水		S 34
	イヌシデ属				GUN-99	トチノキ	加工		9
GUN-77	クマシデ属	自然水		S 45	GUN-16	ナナカマド属	自然水		S 16
	クマシデ属				GUN-21	ナナカマド属	自然水		S 21
GUN-4	クリ	自然水		S 4	GUN-36	ナナカマド属	丸太杖		28
GUN-5	クリ	自然水		S 5					
GUN-9	クリ	自然水		S 9	GUN-55	ナナカマド属	丸太杖		64
GUN-33	クリ	加工材	ミカン割	23-2	GUN-78	ナナカマド属	加工材		34
GUN-63	クリ	板材?	ミカン割	81	GUN-43	ヒノキ	容器底板	板目	44
GUN-72	クリ	加工材		27	GUN-59	ヒノキ	曲物底板		71-2
GUN-75	クリ	加工材		26	GUN-61	ヒノキ	角棒		72-2
GUN-79	クリ	自然水		S 42	GUN-66	ヒノキ	棒状	板目	84
GUN-83	クリ	自然水		S 22	GUN-26	モミ属	容器底板	板目	16
GUN-87	クリ	自然水		S 31	GUN-35	モミ属	加工材?	板目	29
GUN-91	クリ	自然水		S 39	GUN-40	モミ属	板材	板目	40
GUN-45	ケヤキ	容器		50	GUN-49	モミ属	薄板	板目	55
GUN-50	ケヤキ	櫛?	板目?	58	GUN-57	モミ属	棒?		60
GUN-53	ケヤキ	容器		61	GUN-65	モミ属	棒状	板目	83
GUN-54	ケヤキ	容器		62	GUN-81	モモ	加工材		41
GUN-34	コナラ属?	櫛?	板目	24-1	GUN-80	ヤシヤシ属	自然水		S 35
	カガシヤシ属				GUN-58	ヤナギ属	丸太杖		79
GUN-10	コナラ属	自然水		S 10	GUN-69	ヤナギ属	板材?	板目	87
	クスギ属				GUN-84	ヤナギ属	自然水		S 38
GUN-23	コナラ属	角材		12-2	GUN-85	ヤナギ属	加工材		26
	クスギ属				GUN-88	ヤナギ属	自然水		S 40
GUN-73	コナラ属	加工材		25	GUN-90	ヤナギ属	自然水		S 33
	クスギ属				GUN-92	ヤナギ属	自然水		S 44
GUN-76	コナラ属	自然水		S 41	GUN-93	ヤナギ属	自然水		S 46
	クスギ属				GUN-94	ヤナギ属	自然水		S 28
GUN-56	コナラ属	櫛?		68	GUN-98	ヤナギ属	加工材		5
	コナラ属				GUN-95	ヤマグワ	自然水		S 24
GUN-44	サクラ属	加工材	板目	45	GUN-17	ヤマグワ	自然水		S 17
GUN-46	サクラ属	自然水		52	GUN-18	ヤマグワ	自然水		S 18
GUN-47	サクラ属	加工材	板目	53	GUN-74	ヤマグワ	自然水		S 2
GUN-48	サクラ属	加工	板目?	54	GUN-30	樹皮	薄板	板目?	20
GUN-52	サクラ属	板材	板目?	60	GUN-14	樹皮	樹皮		110
GUN-62	サクラ属	板材?	板目	80	GUN-37	樹皮	曲物底板		31
GUN-64	サクラ属	加工材	ミカン割	82	GUN-38	保存不貞で 同定不能	薄板	板目	33
GUN-70	サクラ属	加工材	ミカン割	88	GUN-41	保存不貞で 同定不能	樹皮部分?		42-1
GUN-82	サクラ属	自然水		S 43					
GUN-100	サクラ属	加工材		15					
GUN-19	サワグルミ	加工材	板目	17					
GUN-24	サワグルミ	櫛?	板目	13-1					
GUN-25	サワグルミ	板材		13-2					
GUN-28	サワグルミ	板材	板目	19					
GUN-32	サワグルミ	加工材	板目?	23-1					



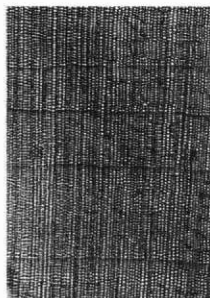
1 a. カヤ (GUN-60) C×40.



1 b. 同 T×100.



1 c. 同 R×400.



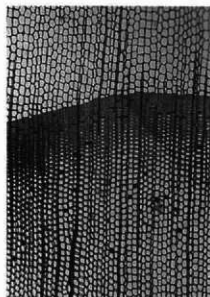
2 a. イヌカヤ (GUN-13) C×40.



2 b. 同 T×100.



2 c. 同 R×400.



3 a. スギ (GUN-22) C×40.



3 b. 同 T×100.



3 c. 同 R×400.



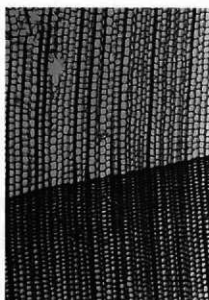
4 a. ヒノキ (GUN-43) C×40.



4 b. 同 T×100.



4 c. 同 R×400.



5 a. モミジ (GUN-26) C×40.



5 b. 同 T×100.



5 c. 同 R×400.



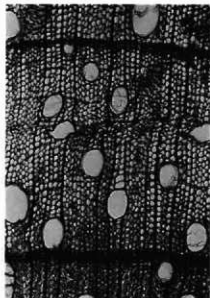
6 a. ヤナギ属 (GUN-92) C×40.



6 b. 同 T×100.



6 c. 同 R×200.



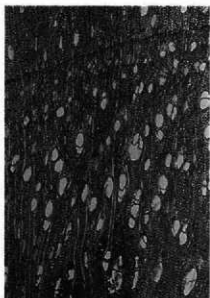
7 a. サワグルミ (GUN-25) C×40.



7 b. 同 T×100.



7 c. 同 R×200.



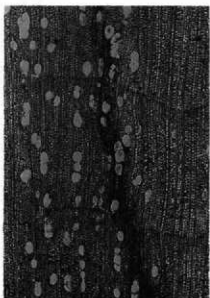
8 a. ヤシャブシ節 (GUN-80) C×40.



8 b. 同 T×100.



8 c. 同 R×200.



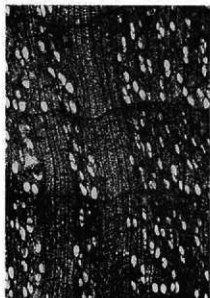
9 a. クマシデ節 (GUN-77) C×40.



9 b. 同 T×100.



9 c. 同 R×200.



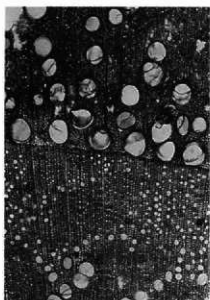
10a. イヌシデ筋 (GUN-42) C×40.



10b. 同 T×100.



10c. 同 R×200.



11a. クリ 枝・幹材 (GUN-83) C×40.



11b. 同 T×100.



11c. 同 R×200.



12a. クリ 横材 (GUN-75) C×40.



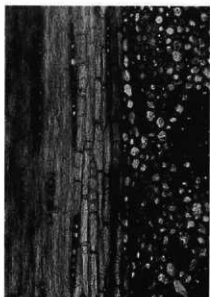
12b. 同 T×100.



12c. 同 R×200.



13a. アカガシ亜属 (GUN-34) C×40.



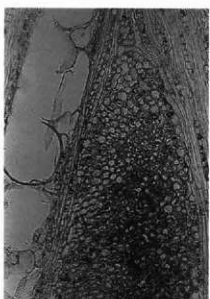
13b. 同 T×100.



13c. 同 R×200.



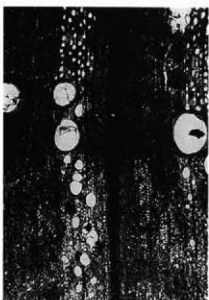
14a. クスギ節 (GUN-73) C×40.



14b. 同 T×100.



14c. 同 R×200.



15a. コナラ節 (GUN-56) C×40.



15b. 同 T×100.



15c. 同 R×200.





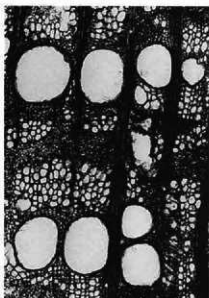
16a. エノキ属 (GUN-12) C×40.



16b. 同 T×100.



16c. 同 R×200.



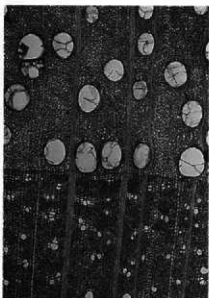
17a. ケヤキ (GUN-50) C×40.



17b. 同 T×100.



17c. 同 R×200.



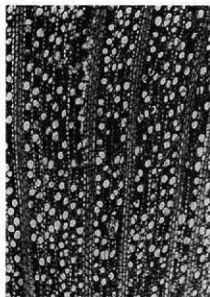
18a. ヤマグイ (GUN-74) C×40.



18b. 同 T×100.



18c. 同 R×200.



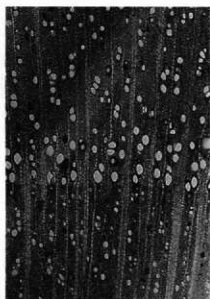
19a. ウツギ (GUN-20) C×40.



19b. 同 T×100.



19c. 同 R×200.



20a. モモ (GUN-81) C×40.



20b. 同 T×100.



20c. 同 R×200.



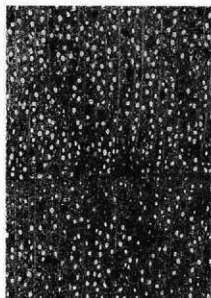
21a. サクラ属 (GUN-62) C×40.



21b. 同 T×100.



21c. 同 R×200.



22 a. ナナカマド属 (GUN-16) C×40.



22 b. 同 T×100.



22 c. 同 R×200.



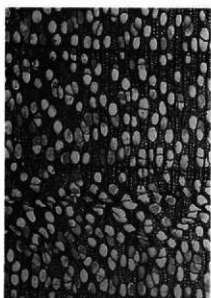
23 a. カエデ属 (GUN-51) C×40.



23 b. 同 T×100.



23 c. 同 R×200.



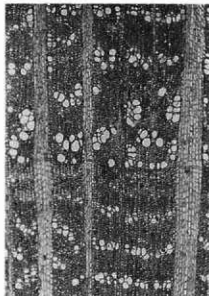
24 a. トチノキ (GUN-1) C×40.



24 b. 同 T×100.



24 c. 同 R×200.



25a. ウコギ属 (GUN-8) C×40.



25b. 同 T×100.



25c. 同 R×200.

第12表 土器観察表

出土遺構	種別	種別	底径 (cm)	断面	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号	
A区 2号 住居跡	20-1	床面直上 ほぼ定形	土師器 坏 A	器高 3.3 口径 11.0	黒色炭物粒子	酸化焙 焼質	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸割り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	20-2	床面直上 1/4	土師器 坏 A	器高 4.0 口径(12.0)	黒色炭物粒子	酸化焙 焼	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外傾する。体部は 丸割り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 3
	20-3	埋土 台部 1/2	土師器 台付甕	器高(3.4) 口径 - 底径(9.6)	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	酸化焙 焼	橙～明 褐	底部欠損のため器形は不明。台部は横撫で。	4
	20-4	カマド内 1/4	土師器 甕	器高(16.2) 口径 20.8 底径 -		酸化焙 焼	にぶい 褐	口縁部は外反する。外面側部は丸割り、口縁部 は横撫で。内面側部は横方向の撫で。	5
	20-5	床面直上 ほぼ定形	須恵器 坏	器高 4.0 口径 12.4	白色炭物粒子	還元焙 焼	灰	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。口縁部 ・体部の一部は横撫で、体部は丸割り後軽い撫 で、器内面は横方向の撫で。	2
	20-6	埋土 紐欠損 1/4	須恵器 蓋	器高(1.5) 口径(11.2)		還元焙 焼	灰	口縁部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 上半部は回転削り、紐部は貼り付け。	6
A区 3号 住居跡	21-1	床面直上 1/4	土師器 坏 D	器高 3.5 口径(12.0) 底径 6.5	黒色炭物粒子	酸化焙 焼	明褐	底部は完全な平底で、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸割り、口縁部・器内面は横撫で。	4
	21-2	床面直上 1/4	須恵器 坏	器高 3.8 口径(12.8) 底径(6.4)	白色炭物粒子	還元焙 焼	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部 は回転糸切り後未調整。	1
	21-3	埋土 底部 1/4	須恵器 高台付甕	器高(2.9) 口径 - 底径 5.8	白色炭物粒子	還元焙 焼	灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	6
	21-4	床面直上 胴部 1/2	須恵器 甕	器高(11.5) 口径 - 底径 -		還元焙 焼	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面は撫で。	器面に炭 化物付着 7
A区 4号 住居跡	22-1	床面直上 1/4	須恵器 高台付甕	器高 4.6 口径(14.6) 底径(5.8)	白色炭物粒子	還元焙 焼	浅黄	腰が強く張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤 整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り 付け。	3
	22-2	床面直上 1/5	須恵器 高台付甕	器高 4.2 口径(14.6) 底径(6.6)	黒色炭物粒子	還元焙 焼	にぶい 黄橙	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。 底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	内面に炭 付着 4
	22-3	埋土 底部	須恵器 高台付甕	器高(1.9) 口径 - 底径 6.8	黒色炭物粒子	還元焙 焼	灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	5
A区 旧河道	30-1	底面 定形	土師器 坏 A	器高 3.4 口径 11.7	白色炭物粒子	酸化焙 焼	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸割り、口縁部・器内面は横撫で。	5
	30-2	底面 定形	土師器 坏 A	器高 3.5 口径 11.6		酸化焙 焼	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸割り、口縁部・器内面は横撫で。	6
	30-3	底面 定形	土師器 坏 A	器高 3.8 口径 11.5		酸化焙 焼	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸割り、口縁部・器内面は横撫で。	9
	30-4	底面 4/5	土師器 坏 A	器高 3.3 口径 11.4		酸化焙 焼	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸割り、口縁部・器内面は横撫で。	13
	30-5	底面 1/2	土師器 坏 A	器高 3.9 口径 11.2		酸化焙 焼	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸割り、口縁部・器内面は横撫で。	14
	30-6	底面	土師器 坏 A	器高 3.1 口径 10.5		酸化焙 焼	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸割り、口縁部・器内面は横撫で。	15

出土 遺物	押印番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種類 別	径目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
A区 旧河道	30-7 70	底面 1/2	土埴器 坏 A	器高 3.3 口径 11.4		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	17
	30-8 70	底面 ほぼ完成	土埴器 坏 A	器高 (3.9) 口径 11.5		酸化焰	明褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	18
	30-9 70	底面 4/5	土埴器 坏 A	器高 3.9 口径 11.8		酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	16
	30-10 70	底面 ほぼ完成	土埴器 坏 A	器高 3.2 口径 10.8		酸化焰	にぶい 赤褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	20
	30-11 70	底面 1/2	土埴器 坏 A	器高 3.6 口径 11.3		酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	21
	30-12 70	底面 1/2	土埴器 坏 A	器高 3.3 口径 9.4		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	22
	30-13 70	底面 1/2	土埴器 坏 A	器高 3.1 口径 12.2		酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	23
	30-14 70	底面 5/6	土埴器 坏 A	器高 3.8 口径 12.3		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	24
	30-15 70	底面 7/8	土埴器 坏 A	器高 3.7 口径 11.6	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	25
	30-16 70	底面 完成	土埴器 坏 A	器高 3.3 口径 11.8		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 30
	30-17 70	底面 ほぼ完成	土埴器 坏 A	器高 3.3 口径 11.5		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	31
	30-18 70	底面 1/2	土埴器 坏 A	器高 3.3 口径 11.2		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	34
	30-19 70	底面 1/2	土埴器 坏 A	器高 3.3 口径 11.0		酸化焰	明褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	35
	30-20 70	底面 ほぼ完成	土埴器 坏 A	器高 3.9 口径 12.0		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	38
	30-21 70	埋土 完成	土埴器 坏 A	器高 3.6 口径 10.2		酸化焰	にぶい 赤褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	42
	30-22 70	埋土 完成	土埴器 坏 A	器高 3.3 口径 11.3		酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	43
	30-23 70	埋土 完成	土埴器 坏 A	器高 3.7 口径 12.0		酸化焰	にぶい 褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	44
	30-24 70	埋土 1/3	土埴器 坏 A	器高 (3.7) 口径(11.6)		酸化焰	にぶい 褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	49
	30-25 70	埋土 1/4	土埴器 坏 A	器高 (3.3) 口径(11.6)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	57
	30-26 70	埋土 1/3	土埴器 坏 A	器高 (2.8) 口径(11.2)		酸化焰	にぶい 褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	58

出土 遺構	探検番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種類 別種	径目 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
A区 田河道	30-27 70	洗い場 完形	土師器 坏 A	器高 3.3 口径 11.6		酸化胎 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	60
	30-28	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 (3.6) 口径(12.0)		酸化胎 褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	61
	30-29 70	埋土 完形	土師器 坏 A	器高 3.6 口径 11.0		酸化胎 にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	63
	30-30	底面 1/2	土師器 坏 A	器高 3.0 口径 11.0		酸化胎 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	65
	30-31	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 (3.6) 口径(11.0)		酸化胎 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	72
	30-32	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 3.6 口径 11.5		酸化胎 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	74
	30-33 70	埋土 完形	土師器 坏 A	器高 3.2 口径 10.3		酸化胎 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	75
	30-34 70	埋土 3/4	土師器 坏 A	器高 4.0 口径 11.0		酸化胎 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	76
	30-35 70	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 3.9 口径 12.0		酸化胎 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	79
	30-36	埋土 3/4	土師器 坏 A	器高 (3.3) 口径 12.0		酸化胎 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	80
	31-37 70	埋土 2/3	土師器 坏 A	器高 3.6 口径 11.9		酸化胎 にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	81
	31-38	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 3.9 口径 11.4		酸化胎 にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	85
	31-39 70	洗い場 完形	土師器 坏 A	器高 3.7 口径 11.7		酸化胎 にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	90
	31-40 70	埋土 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.6 口径 11.6		酸化胎 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	口縁の歪 みが顕著 95
	31-41	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 (3.4) 口径(12.6)		酸化胎 にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	底部黒色 99
	31-42	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 (3.0) 口径(10.6)		酸化胎 橙 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	106
	31-43	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 (4.7) 口径(11.2)		酸化胎 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	口縁の歪 みが顕著 115
	31-44 70	埋土 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.4 口径 11.6		酸化胎 にぶい 橙 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	123
	31-45 70	埋土 完形	土師器 坏 A	器高 3.8 口径 11.2		酸化胎 赤褐 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	128
	31-46	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 (2.8) 口径(10.6)		酸化胎 明赤褐 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	128

出土 遺構	探図番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種類 別種	径目 (mm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
A区 旧河道	31-47	埋土 1/4	土師器 環 A	器高 (3.0) 口径(11.0)		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	131
	31-48 70	埋土 完形	土師器 環 A	器高 3.1 口径 11.3		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	136
	31-49 70	底面 ほぼ完形	土師器 環 A	器高 3.5 口径 11.7	白色紅物粒子	酸化焰 橙 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	138
	31-50 70	底面 3/4	土師器 環 A	器高 3.5 口径 11.8		酸化焰 橙 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	内面に黒 色塗付者 143
	31-51	埋土 1/4	土師器 環 A	器高 (3.7) 口径(11.0)		酸化焰 橙 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	148
	31-52	埋土 1/2	土師器 環 A	器高 3.5 口径 10.8		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	内面に暗 文の彫跡 151
	31-53	埋土 1/4	土師器 環 A	器高 (2.8) 口径(10.0)		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	155
	31-54	埋土 1/4	土師器 環 A	器高 (2.9) 口径(11.0)		酸化焰 にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	156
	31-55	土手 1/4	土師器 環 A	器高 (2.9) 口径(10.2)		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	157
	31-56	埋土 1/3	土師器 環 A	器高 (3.0) 口径(10.0)		酸化焰 にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 159
	31-57	埋土 1/4	土師器 環 A	器高 (3.5) 口径(10.4)		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	160
	31-58	埋土 1/4	土師器 環 A	器高 (3.5) 口径(11.0)		酸化焰 橙 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	163
	31-59 70	埋土 1/2	土師器 環 A	器高 4.1 口径 11.5		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。 内・外面の一部に塗付者。	器面の摩 減が顕著 167
	31-60 70	埋土 2/3	土師器 環 A	器高 3.1 口径 11.0	白色紅物粒子	酸化焰 橙 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	168
	31-61	埋土 1/2	土師器 環 A	器高 3.3 口径 10.9		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	170
	31-62	埋土 1/2	土師器 環 A	器高 (3.5) 口径 12.4		酸化焰 橙 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	173
	31-63	埋土 1/2	土師器 環 A	器高 4.0 口径 11.0		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	174
	31-64 70	埋土 3/4	土師器 環 A	器高 (3.6) 口径 11.6		酸化焰 橙 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	口縁の歪 みが顕著 175
31-65	埋土 1/3	土師器 環 A	器高 (3.7) 口径(11.0)	白色紅物粒子	酸化焰 にぶい 橙 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	178	
31-66	埋土 1/4	土師器 環 A	器高 (4.0) 口径(12.4)		酸化焰 橙 硬質	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	内外面 黒色処理 180	



出土 遺構	押込番号 写真番号	出土位置 遺存状態	器 別 種	径目 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考 登録番号
A区 旧河道	31-67	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 (3.5) 口径(12.0)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 181
	31-68	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 (3.0) 口径(10.4)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	185
	31-69	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 (3.3) 口径(12.6)		酸化焰	褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。 内面の割がれが顕著。被熱の影響か？	外面の摩 滅が顕著 187
	31-70	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 3.2 口径 11.4		酸化焰 焼質	にぶい 褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	189
	31-71	埋土 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.6 口径 11.3		酸化焰	明赤褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	口縁部に 黒色付着 190
	31-72	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 4.1 口径(11.3)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	197
	32-73	洗い場 1/4	土師器 坏 A	器高 (3.3) 口径(11.4)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	201
	32-74	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 3.4 口径 10.4		酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	218
	32-75	埋土 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.4 口径 11.2		酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	220
	32-76	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 3.8 口径(11.7)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	73
	32-77	埋土 5/6	土師器 坏 A	器高 3.9 口径 11.3		酸化焰 焼質	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	口縁の歪 みが顕著 127
	32-78	洗い場 1/4	土師器 坏 A	器高 (2.9) 口径(10.3)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	内・外面 漆?付着 特殊14
	32-79	埋土 1/7	土師器 坏 A	器高 (2.8) 口径(12.8)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	内面に漆 付着 特殊13
	32-80	埋土 底部欠損 1/8	土師器 坏 A	器高 (2.8) 口径(11.9)		酸化焰	にぶい 黄橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	内面に硝 文 特殊10
	32-81	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 (3.4) 口径(11.0)		酸化焰 焼質	明赤褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	202
	32-82	底面 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 4.1 口径 11.5		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	10
	32-83	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 (3.0) 口径(10.8)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	84
	32-84	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 (3.5) 口径(12.0)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	208
	32-85	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 (3.1) 口径(11.6)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	51
	32-86	底面 1/2	土師器 坏 A	器高 3.2 口径 11.0		酸化焰 焼質	にぶい 赤褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	93

出土 遺構	棟号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器	口径 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
A区 旧河通	32-87	埋土 完形	土師器 坏 A	器高 3.4 口径 11.6		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	137
	32-88	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 4.3 口径(11.4)		酸化焰 黒褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面黒色 処理 179
	32-89	底面 1/4	土師器 坏 A	器高 2.5 口径(12.4)		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	19
	32-90	底面 完形	土師器 坏 A	器高 3.6 口径 10.6		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	11
	32-91	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 2.8 口径(10.8)		酸化焰 赤褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	53
	32-92	洗い場 1/2	土師器 坏 A	器高 3.2 口径(10.6)		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	147
	32-93	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 3.5 口径(12.0)	白色鉱物粒子	酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	176
	32-94	底面 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.7 口径 10.8		酸化焰 灰褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	7
	32-95	底面 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 4.4 口径 11.0		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	8
	32-96	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 3.5 口径(14.0)		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	66
	32-97	埋土 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 4.8 口径 14.9		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	86
	32-98	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 3.9 口径(15.0)		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	内面に暗 文 89
	32-99	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 4.0 口径(14.0)		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	91
	32-100	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 4.4 口径(13.6)		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	116
	32-101	埋土 1/5	土師器 坏 A	器高 3.7 口径(13.0)		酸化焰 明赤褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	154
	32-102	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 4.2 口径(12.2)		酸化焰 赤褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	内面に笠 書き 特殊5
	33-103	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 3.0 口径(15.8)		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	161
	33-104	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 4.5 口径 14.4		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 172
	33-105	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 3.7 口径(13.4)		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 184
	33-106	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 3.9 口径(13.8)		酸化焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	186

出土遺跡	採回番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器	測 尺	目 寸 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考 登録番号
A区 旧河道	33-107	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 (3.9) 口径(15.0)			酸化焙 硬質	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	205
	33-108 70	土手 完形	土師器 坏 B	器高 3.8 口径 11.1	白色凝物粒子		酸化焙 硬質	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	33-109 70	土手 3/4	土師器 坏 B	器高 2.7 口径 10.1			酸化焙 硬質	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	12
	33-110	底面 1/3	土師器 坏 B	器高 (3.4) 口径(12.0)			酸化焙 硬質	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	29
	33-111 70	底面 ほぼ完形	土師器 坏 B	器高 (4.1) 口径(12.5)			酸化焙 硬質	にぶい 褐	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	32
	33-112 71	底面 5/6	土師器 坏 B	器高 3.9 口径 11.9			酸化焙 硬質	黒褐	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	33
	33-113 71	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高 4.5 口径 12.6			酸化焙 硬質	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	47
	33-114 71	埋土 完形	土師器 坏 B	器高 3.8 口径 11.4			酸化焙 硬質	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	71
	33-115	埋土 1/3	土師器 坏 B	器高 (3.7) 口径(12.4)			酸化焙 硬質	灰褐	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	82
	33-116	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高 (4.0) 口径(12.2)			酸化焙 硬質	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	83
	33-117 71	埋土 1/3	土師器 坏 B	器高 (3.0) 口径 (9.6)			酸化焙 硬質	赤褐	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	97
	33-118	埋土 完形	土師器 坏 B	器高 3.5 口径 8.6			酸化焙 硬質	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	98
	33-119 71	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高 3.8 口径 12.1	白色凝物粒子		酸化焙 硬質	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	102
	33-120 71	埋土 3/4	土師器 坏 B	器高 4.2 口径 11.4			酸化焙 硬質	にぶい 褐	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	104
	33-121	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高 3.6 口径 10.2			酸化焙 硬質	橙	丸底で口縁部は「く」字状にほぼ直立する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	117
	33-122	埋土 1/3	土師器 坏 B	器高 (3.3) 口径(12.0)			酸化焙 硬質	にぶい 橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	120
	33-123	埋土 1/3	土師器 坏 B	器高 (3.0) 口径(10.6)			酸化焙 硬質	灰褐	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	121
	33-124	土手 2/3	土師器 坏 B	器高 3.3 口径 11.7			酸化焙 硬質	にぶい 橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 152
	33-125 71	埋土 2/3	土師器 坏 B	器高 3.9 口径 11.4			酸化焙 硬質	にぶい 黄橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	166
	33-126 71	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高 3.9 口径 11.0	白色凝物粒子		酸化焙 硬質	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体 部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	169

出 土 遺 跡	地区番号	出土位置	遺存状態	種 別	目 寸 (cm)	胎 土	施 成	色 調	器 形・技法等の特徴	備 考
A区 旧河道	33-127 71	埋土	2/3	土師器 坏 B	器高 3.2 口径 11.0	白色灰物粒子	酸化焰	にぶい	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	171
	33-128 71	埋土	1/4	土師器 坏 B	器高 (3.6) 口径(12.0)		酸化焰 硬質	黒	丸底で口縁部は「く」字状にはば直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	183
	33-129 71	底面	1/2	土師器 坏 B	器高 7.6 口径 15.8	白色灰物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	26
	33-130 71	底面	1/2	土師器 坏 B	器高 5.4 口径 14.6		酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	27
	33-131	埋土	1/3	土師器 坏 B	器高 (3.7) 口径(14.6)		酸化焰	にぶい	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	52
	33-132	埋土	1/4	土師器 坏 B	器高 (3.9) 口径(14.0)		酸化焰	にぶい 黒	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	54
	34-133	埋土	1/2	土師器 坏 B	器高 (4.9) 口径(14.4)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	55
	34-134 71	埋土	1/2	土師器 坏 B	器高 6.3 口径 15.2		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	70
	34-135	底面	1/2	土師器 坏 B	器高 5.5 口径 14.7	白色灰物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	78
	34-136	埋土	1/2	土師器 坏 B	器高 (4.8) 口径(15.6)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	101
	34-137 71	埋土	3/4	土師器 坏 B	器高 (4.3) 口径 14.6		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	103
	34-138	埋土	1/4	土師器 坏 B	器高 (4.8) 口径(14.6)		酸化焰	にぶい	丸底で口縁部は「く」字状にはば直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	182
	34-139	埋土	1/3	土師器 坏 B	器高 (5.0) 口径(16.0)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	207
	34-140	埋土	1/2	土師器 坏 B	器高 (6.1) 口径(16.0)		酸化焰	明赤褐 硬質	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	口縁の歪みが顕著 200
	34-141	埋土	1/2	土師器 坏 B	器高 4.8 口径 16.4		酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	87
	34-142 71	埋土	ほぼ完形	土師器 坏 B	器高 6.6 口径 17.5		酸化焰	明赤褐	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	88
	34-143 71	埋土	1/2	土師器 坏 B	器高 5.1 口径 16.2		酸化焰	にぶい 赤褐	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	193
	34-144 71	底面	2/3	土師器 坏 B	器高 2.9 口径 10.0		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	36
	34-145 71	底面	ほぼ完形	土師器 坏 B	器高 3.5 口径 10.4		酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	37
	34-146 71	底面	3/4	土師器 坏 B	器高 4.2 口径 12.3	白色灰物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	39

出土遺構	挿図番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別	口径(m)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
A区 旧河道	34-147	埋土 1/3	土師器 坏 B	器高(3.1) 口径(10.0)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	59
	34-148 71	埋土 定形	土師器 坏 B	器高 4.0 口径 10.3		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	62
	34-149	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高(4.0) 口径(14.0)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	67
	34-150	埋土 1/3	土師器 坏 B	器高(4.5) 口径(13.0)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	内面に篋削り 特殊1
	35-151	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高 4.0 口径 12.4		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	69
	35-152	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高 3.2 口径 11.0		酸化焰	にぶい 褐	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	77
	35-153 71	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高 3.3 口径 9.0		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	96
	35-154	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高 3.2 口径 10.1		酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	100
	35-155	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高(4.1) 口径(12.6)		酸化焰	硬質 橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 124
	35-156 71	埋土 4/5	土師器 坏 B	器高 3.5 口径 11.6		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	139
	35-157	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高(3.3) 口径(11.2)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 144
	35-158	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高 3.5 口径 12.0		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 146
	35-159 71	埋土 2/3	土師器 坏 B	器高 3.8 口径 12.2		酸化焰	灰褐	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 164
	35-160 71	埋土 3/4	土師器 坏 B	器高 4.0 口径 11.6		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	198
	35-161	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高(3.5) 口径(11.0)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	209
	35-162	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高(3.7) 口径(13.6)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	108
	35-163 71	底面 1/3	土師器 坏 B	器高(5.7) 口径(15.6)		酸化焰	にぶい 硬質 橙	丸底で器高が深く、口縁部は「C」字状に僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	28
	35-164	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高(5.4) 口径(14.8)		酸化焰	硬質 橙	丸底で口縁部は「C」字状に僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	107
	35-165	埋土 1/8	土師器 坏 B	器高(3.5) 口径(16.8)		酸化焰	暗灰	丸底で口縁部は「C」字状に僅かに内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 特15
	35-166 71	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高(6.5) 口径(19.1)		酸化焰	にぶい 赤褐	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 140

出土 遺構	押戻番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種類 別種	底目 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
A区 旧河道	35-167 71	埋土 2/3	土師器 坏 B	器高 6.0 口径 19.4		酸化焰 にぶい 橙	丸底で口縁部は「C」字状にゆるく内湾する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	191
	35-168	洗い場 1/2	土師器 坏 B	器高 (3.5) 口径 (11.0)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は「C」字状に強く内湾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	165
	35-169	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高 (4.9) 口径 (17.0)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は「C」字状に僅かに内湾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 195
	35-170 70	埋土 完形	土師器 坏 C	器高 3.8 口径 10.9		酸化焰 硬質 黒褐	丸底で外稜を有し、口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で、外面は黒色。	内面縦熱 割がね 2
	35-171	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 (2.7) 口径 (10.0)		酸化焰 にぶい 橙	丸底で外稜を有し、口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	50
	35-172	埋土 1/2	土師器 坏 C	器高 (4.0) 口径 (12.4)		酸化焰 赤褐	丸底で外稜を有し、口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	196
	35-173	埋土 1/2	土師器 坏 C	器高 (3.3) 口径 (11.0)		酸化焰 灰褐	丸底で外稜を有し、口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	119
	35-174	埋土 1/3	土師器 坏 C	器高 (6.0) 口径 (18.0)		酸化焰 硬質 橙	丸底で外稜を有し、口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	56
	35-175	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 (7.0) 口径 (16.0)		酸化焰 明赤褐 硬質	丸底で外稜を有し、口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	92
	35-176	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 (5.5) 口径 (16.0)		酸化焰 にぶい 橙	丸底で外稜を有し、口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	206
	36-177	埋土 1/3	土師器 坏 C	器高 (3.6) 口径 (12.6)		酸化焰 硬質 赤褐	丸底で口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	48
	36-178	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 (3.2) 口径 (11.8)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	94
	36-179	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 (3.8) 口径 (12.0)		酸化焰 硬質 黒褐	丸底で口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	105
	36-180	埋土 1/3	土師器 坏 C	器高 (2.7) 口径 (9.2)		酸化焰 にぶい 橙	丸底で口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	129
	36-181	埋土 1/2	土師器 坏 C	器高 4.3 口径 12.6		酸化焰 にぶい 橙	丸底で口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	130
	36-182 70	埋土 1/3	土師器 坏 C	器高 (3.4) 口径 (12.0)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	132
	36-183 70	洗い場 1/2	土師器 坏 C	器高 4.8 口径 14.0		酸化焰 橙	丸底で口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	141
	36-184	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 (3.5) 口径 (12.0)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	142
	36-185	埋土 1/2	土師器 坏 C	器高 3.9 口径 13.8		酸化焰 にぶい 橙	丸底で口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	145
	36-186	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 (4.0) 口径 (13.4)		酸化焰 硬質 褐	丸底で口縁部は強い横撫でによりほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面黒色 149

出土遺物	検出番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種類 別種	目録 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
A区 旧河道	36-187	埋土 1/2	土師器 坏 C	器高 4.2 口径 11.5		酸化焰	にぶい 赤褐	丸底で口縁部は強い横線でによりほぼ直立する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横線で。	150
	36-188 70	埋土 1/3	土師器 坏 C	器高 (3.6) 口径(12.8)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は強い横線でによりほぼ直立する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横線で。	162
	36-189	埋土 ほぼ定形	土師器 坏 C	器高 3.6 口径 11.4		酸化焰	にぶい 赤褐	丸底で口縁部は強い横線でによりほぼ直立する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横線で。	177
	36-190	埋土 1/2	土師器 坏 C	器高 (4.2) 口径(12.6)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部は強い横線でによりほぼ直立する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横線で。	188
	36-191	埋土 1/2	土師器 坏 C	器高 2.9 口径 9.2		酸化焰	黒灰	丸底で口縁部は強い横線でによりほぼ直立する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横線で。	194
	36-192	埋土 1/2	土師器 坏 C	器高 3.1 口径 10.0		酸化焰	にぶい 黄橙	丸底で口縁部は強い横線でによりほぼ直立する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横線で。	199
	36-193	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 (5.7) 口径(15.6)		酸化焰	橙 硬質	丸底で器高は深く、口縁部は強い横線でにより ほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面 は横線で。	204
	36-194	埋土 1/3	土師器 坏 D	器高 (3.5) 口径(13.2)		酸化焰	橙	平底気味で口縁部は強く外反する。体部は丸削り、 口縁部・器内面は横線で。	器面の磨 減が顕著 125
	36-195	洗い場 1/3	土師器 坏 D	器高 (3.5) 口径(16.0)	白色灰物粒子	酸化焰	褐	丸底で口縁部は「く」字状に強く外反する。体 部は丸削り、口縁部・器内面は横線で。	153
	36-196	埋土 1/8	土師器 坏 C	器高 (2.8) 口径(12.2)		酸化焰	明赤褐	丸底で器高は深く、口縁部は強い横線でにより ほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面 は横線で。	内面に縦 割 特3
	36-197	埋土 1/12	土師器 坏 C	器高 (3.1) 口径(11.7)		酸化焰	明赤褐	丸底で器高は深く、口縁部は強い横線でにより ほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面 は横線で。	内面に縦 割 特18
	36-198	埋土 1/5	土師器 坏 A	器高 (3.8) 口径(14.1)		酸化焰	明赤褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横線で。	内面に縦 割 特2
	36-199	埋土 底部 1/4	土師器 坏	器高 - 口径 -		酸化焰	橙	破片のため器形は不明。	内面に縦 割 特17
	36-200	埋土 破片	土師器 坏	器高 - 口径 -		酸化焰	にぶい 赤褐	破片のため器形は不明。	内面に縦 割 特19
	37-201	埋土 1/5	土師器 坏 D	器高 (4.6) 口径(15.7)		酸化焰	橙	平底気味で、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上 がる。体部は丸削り、口縁部・器内面は横線で。	内面に暗 文 特7
	37-202	埋土 1/4	土師器 坏 D	器高 (5.2) 口径(16.4)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。 体部は丸削り、口縁部・器内面は横線で。	内面に放 射状暗文 特8
	37-203	埋土 1/4	土師器 坏 D	器高 (3.9) 口径(14.8) 底径 (8.6)		酸化焰	橙	平底で口縁部は僅かに外反する。体部は丸削り、 口縁部・器内面は横線で。	内面に放 射状暗文 特9
	37-204	埋土 1/8	土師器 坏 D	器高 (4.2) 口径(14.0)		酸化焰	にぶい 褐	底部欠損のため器形は不明だが、丸底と考えら れる。体部は丸削り、口縁部・器内面は横線で。	内面に放 射状暗文 特11
	37-205	埋土 口縁部 破片	土師器 坏 D	器高 (3.2) 口径 (9.8)		酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部欠損のため器形は不明だが、丸底と考えら れる。体部は丸削り、口縁部・器内面は横線で。	表面に漆 塗り 特16
	37-206	底面 脚部欠損 ほぼ定形	土師器 高坏	器高 (3.4) 口径(12.2) 底径 -		酸化焰 硬質	にぶい 橙	脚部欠損のため、器形は不明である。坏部は外 縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は丸 削り、口縁部・器内面は横線で。	288

出土遺構	探検番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種類 別種	底目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
A区 旧河道	37-207	埋土・下 半部欠損 1/2	土師器 甕 台付甕?	器高 (6.7) 口径(11.2) 底径 -		酸化焰 硬質	黒	口縁部は強い横溝により直立する。胴部外面は横方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	267
	37-208	埋土・下 半部欠損 1/4	土師器 甕 台付甕?	器高 (5.1) 口径(10.6) 底径 -		酸化焰 硬質	橙	口縁部は外反する。胴部外面は横方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	268
	37-209	埋土・下 半部欠損 1/4	土師器 甕 台付甕?	器高 (6.2) 口径(10.6) 底径 -		酸化焰 硬質	橙	口縁部は外反する。胴部外面は横方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	269
	37-210	埋土・下 半部欠損 1/4	土師器 甕 台付甕?	器高 (6.1) 口径(10.0) 底径 -		酸化焰 硬質	橙	口縁部は僅かに外反する。胴部外面は横方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	270
	37-211	埋土・ 底部欠損 1/2	土師器 甕 台付甕?	器高 (6.9) 口径 (8.0) 底径 -		酸化焰	浅黄橙	口縁部は強く外反する。胴部外面は斜方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	器面の摩 減が顕著 271
	37-212	埋土・ 口縁部 1/2	土師器 甕	器高 (4.9) 口径(19.6) 底径 -		酸化焰	にぶい 黒	胴部欠損のため器形は不明だが、口縁部は強く外反する。胴部外面は横方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	252
	37-213	底面 口縁部 1/4	土師器 甕	器高 (5.4) 口径(18.2) 底径 -		酸化焰	褐色	胴部欠損のため器形は不明だが、「コ」字状口縁を有し、外反する。胴部外面は横方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	254
	37-214	埋土・ 口縁部 1/2	土師器 甕	器高 (6.5) 口径(21.6) 底径 -		酸化焰	にぶい 黒	胴部欠損のため器形は不明だが、口縁部は強く外反する。胴部外面は横方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	器面の摩 減が顕著 253
	37-215	埋土・ 口縁部 1/4	土師器 甕	器高 (6.3) 口径(19.0) 底径 -		酸化焰	にぶい 黒	口縁部は外反する。胴部外面は横方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	256
	38-216	埋土・ 底部 完形	土師器 甕	器高 (6.0) 口径 - 底径 7.6		酸化焰	黒黒	上半部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	器面の摩 減が顕著 264
	38-217	埋土・ 口縁部 1/4	土師器 甕	器高 (6.4) 口径(22.6) 底径 -		酸化焰	にぶい 橙	下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	器面の摩 減が顕著 255
	38-218	埋土・ 口縁部 1/2	土師器 甕	器高 (8.8) 口径(22.0) 底径 -		酸化焰	にぶい 橙	口縁部は外反する。胴部外面は横・斜方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	器面の摩 減が顕著 257
	38-219	埋土・ 口縁部 1/2	土師器 甕	器高(10.7) 口径(22.4) 底径 -		酸化焰	にぶい 橙	口縁部は外反する。胴部外面は横・斜方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	251
	38-220	埋土・下 半部欠損 1/2	土師器 甕	器高(16.2) 口径(25.8) 底径 -		酸化焰	橙	口縁部は外反する。胴部外面は横・斜方向の彫削り、内面は巻縁で、口縁部は横溝で。	250
	38-221	埋土・ 1/2	須恵器 坏	器高 3.5 口径 10.6		還元焰	灰	丸底で口唇部の内側に反りがあり内傾している。轆轤整形 (右回転)。底部は回転彫削り。	286
	38-222	埋土・ 1/2	須恵器 坏	器高 3.0 口径 10.4		還元焰	灰	丸底で口唇部の内側に反りがあり内傾している。轆轤整形 (右回転)。底部は回転彫削り。	287
	38-223 71	埋土・ 4/5	須恵器 坏	器高 3.7 口径(10.8)		還元焰	灰白	丸底で口唇部の内側に反りがあり内傾している。轆轤整形 (右回転)。底部は回転彫削り。	285
	38-224 71	埋土	須恵器 坏	器高 (3.2) 口径 10.8		還元焰	灰	平底気味で口縁部は僅かに内湾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転彫削り。	215
	38-225 71	埋土・ 1/2	須恵器 坏	器高 3.7 口径 8.0	白色泥物粒子	還元焰	灰	丸底で口縁部は強く内傾している。轆轤整形 (右回転)。底部は回転彫削り。	214
	38-226 71	埋土・ 完形	須恵器 坏	器高 3.2 口径 10.2		還元焰	暗青灰	丸底で口唇部の内側に反りがあり内傾している。轆轤整形 (右回転)。底部は回転彫削り。	284



出土構	探区番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器	口径 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
A区 旧河道	39-227 71	底面 1/2	須恵器 坏	器高 3.0 口径 14.0 底径 10.0		還元焰 灰	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	40
	39-228 71	埋土 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 4.0 口径 11.8 底径 6.5		還元焰 灰	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	外面に自然輪付着 46
	39-229 71	洗い場 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.2 口径 10.7 底径 6.0		還元焰 灰	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	68
	39-230 71	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 (3.4) 口径 (12.2) 底径 (6.4)		還元焰 橙	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	133
	39-231	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 3.1 口径 13.2 底径 8.3		還元焰 灰	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	109
	39-232	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 (3.1) 口径 (13.0) 底径 (9.1)	黑色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	122
	39-233	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 3.4 口径 9.4 底径 5.0		還元焰 灰	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	135
	39-234	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 3.7 口径 10.1 底径 6.4		還元焰 暗緑灰	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	217
	39-235	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 (5.3) 口径 (13.0) 底径 (6.6)		還元焰 灰	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	内面に自然輪付着 222
	39-236 71	埋土 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.1 口径 9.4 底径 7.2		還元焰 灰	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	225
	39-237	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 (4.4) 口径 (11.0) 底径 (7.3)		還元焰 灰	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	226
	39-238	埋土 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 4.2 口径 12.0 底径 9.0		還元焰 灰	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	外面に自然輪付着 54
	39-239	洗い場 1/3	須恵器 坏	器高 (2.9) 口径 (13.0) 底径 —		還元焰 灰	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	219
	39-240 71	埋土 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 2.9 口径 13.0	黑色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	45
	39-241	埋土 1/3	須恵器 坏	器高 (4.0) 口径 (11.0)	白色鉱物粒子	還元焰 灰赤	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	223
	39-242 71	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 3.8 口径 9.6 底径 6.5	白色鉱物粒子	還元焰 灰	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	221
	39-243	埋土 1/3	須恵器 坏	器高 (3.8) 口径 (18.8) 底径 —		還元焰 灰	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	211 高坏?
	39-244	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 (3.0) 口径 (11.8)		還元焰 白灰	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	外面の母 底が顕著 227
	39-245	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 (3.6) 口径 (12.0)		還元焰 灰白	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	210
	39-246	埋土 底面 1/2	須恵器 坏	器高 (2.9) 口径 — 底径 (10.6)		還元焰 灰	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形（右回転）。底部は回転蹴り後未調整。	212

出土遺構	標高 写真番号	出土位置 遺存状態	種類 別称	径目 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
A区 旧河道	40-247 71	埋土 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.1 口径 10.2		還元焰 灰白	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	213
	40-248 71	底面 1/2	須恵器 坏	器高 6.8 口径 17.6		還元焰 灰	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	41
	40-249 71	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 7.0 口径 15.6		還元焰 灰	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	216
	40-250 71	土手 完形	須恵器 坏	器高 3.8 口径 11.0 底径 5.5		還元焰 にぶい 橙	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	3
	40-251 71	土手 完形	須恵器 坏	器高 4.4 口径 13.9 底径 6.5		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	口縁部分 に漆付着 4
	40-252 71	埋土 3/4	須恵器 坏	器高 6.9 口径 12.4 底径 6.5		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	110
	40-253 71	1号集石 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.8 口径 12.6 底径 7.9		還元焰 黒	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	112
	40-254 71	1号集石 1/2	須恵器 坏	器高 3.2 口径 13.0 底径 5.5		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	113
	40-255 71	底面 1/2	須恵器 坏	器高 3.9 口径 12.2 底径 6.2		還元焰 灰白	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	114
	40-256 71	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 4.0 口径 14.2 底径 8.0		還元焰 灰白	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	118
	40-257 71	埋土 1/4	須恵器 坏	器高(4.2) 口径(13.6) 底径(6.6)		還元焰 淡黄	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	228
	40-258 71	埋土 1/4	須恵器 坏	器高(4.0) 口径(12.0) 底径(5.0)		還元焰 淡黄	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	内面に漆 付着 特12
	40-259 71	埋土 1/3	須恵器 高台付輪	器高(5.4) 口径(16.0) 底径(12.6)		還元焰 灰	丸底で高台よりも突出し、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	245
	40-260 71	埋土 1/2	須恵器 高台付輪	器高 4.3 口径 15.6 底径 11.6		還元焰 灰	丸底で高台よりも突出し、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	242
	41-261 71	埋土 ほぼ完形	須恵器 高台付輪	器高 4.5 口径 18.6 底径 13.9		還元焰 灰	丸底気味で、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	224
	41-262 71	洗い場 1/2	須恵器 高台付輪	器高 5.3 口径 18.8 底径 12.0		還元焰 灰	腰の張りは弱く、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	234
	41-263 71	埋土 1/2	須恵器 高台付輪	器高 6.0 口径 19.6 底径 12.4		還元焰 灰白	丸底気味で、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	233
	41-264 71	埋土 1/2	須恵器 高台付輪	器高 4.8 口径 17.6 底径 12.2		還元焰 灰	腰の張りは弱く、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	236
	41-265 71	埋土 1/4	須恵器 高台付輪	器高(3.7) 口径(18.0) 底径(14.8)		還元焰 灰	腰の張りは弱く、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	235
	41-266 71	埋土 1/4	須恵器 高台付輪	器高(4.2) 口径(16.8) 底径(12.2)		還元焰 灰	腰の張りは弱く、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	外面自然 釉付着 244

出土遺構	縄文番号 写具番号	出土位置 遺存状態	種別 器	視目 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号	
A区 旧田道	41-267	埋土 底部 高台付輪 1/2	須恵器 高台付輪	器高 (1.9) 口径 - 底径 7.6		還元焰 灰青黒	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	内面底部 緑黒 第4	
	42-268	埋土 底部 高台付輪	須恵器 高台付輪	器高 (7.3) 口径(16.8) 底径 (8.6)		還元焰 灰	腰の張りは弱く、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	248	
	42-269 72	1号集石 1/2	須恵器 高台付輪	器高 7.4 口径 17.5 底径 8.5		還元焰 灰白	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	231	
	42-270	埋土 1/3	須恵器 高台付輪	器高 (5.6) 口径(16.2) 底径(11.2)		還元焰 灰	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	238	
	42-271 72	土手 完形	須恵器 高台付輪	器高 4.6 口径 12.3 底径 6.4		還元焰 灰	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	内面に黒 色煤? 229	
	42-272	埋土 1/2	須恵器 高台付輪	器高 5.3 口径 14.2 底径 5.9		還元焰 灰白	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	内面に黒 色煤? 232	
	42-273	埋土 1/4	須恵器 高台付輪	器高 (6.7) 口径(15.4) 底径(10.4)		還元焰 灰白	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	243	
	42-274 72	土手 完形	須恵器 高台付輪	器高 5.4 口径 14.2 底径 6.3		還元焰 明黄緑	腰が僅かに張り、口縁部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	230	
	42-275 72	土手 1/2	須恵器 高台付輪	器高 5.5 口径 14.0 底径 6.4		還元焰 灰	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	内面にク ール付着 241	
	42-276	埋土 1/2	須恵器 高台付輪	器高 4.6 口径 15.2 底径 8.4	黒色炭化物粒子	還元焰 灰	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	239	
	42-277	埋土 底部 高台付輪	須恵器 高台付輪	器高 (3.4) 口径 - 底径 7.6		還元焰 灰白	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	237	
	42-278	1号集石 1/4	灰釉陶器 高台付輪	器高 (4.7) 口径(14.0) 底径 (6.4)			灰白	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	240
	42-279 72	埋土 1/2	須恵器 高台付輪	器高 5.5 口径 15.0 底径 7.0		還元焰 にぶい 橙	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	247	
	42-280 72	埋土 1/2	灰釉陶器 高台付輪	器高 4.0 口径 16.6 底径 8.6			灰白	器高が低く、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	246
	43-281	埋土 口縁部 1/3	須恵器 要	器高(16.0) 口径(24.4)		還元焰 灰	下半部欠損のため器形は不明だが、口縁部は外反する。継作り。轆轤整形。胴部外面は平行明き、内面はあて具の青海波文の叩き整形。	外面自然 釉付着 252	
	43-282	埋土 口縁部 1/2	須恵器 要	器高(10.0) 口径(21.0)		還元焰 灰	下半部欠損のため器形は不明だが、口縁部は外反する。継作り。胴部外面は平行明き、内面はあて具の青海波文の叩き整形後轆轤再整形。	258	
	43-283	埋土 口縁部 3/4	須恵器 要	器高 (4.9) 口径 (9.0)		還元焰 にぶい 橙	胴部欠損のため器形は不明だが、口縁部は外反する。轆轤整形。	280	
	43-284	埋土 上半部 1/4	須恵器 要	器高(11.8) 口径(15.6)		還元焰 灰	下半部欠損のため器形は不明だが、口縁部は外反する。継作り。轆轤整形。	249	
	43-285 72	埋土 底部欠損 1/2	須恵器 要	器高 15.3 口径 12.6		還元焰 灰	口縁部は外反する。継作り。轆轤整形。胴部外面は轆轤調整、内面は削削り。	274	
	43-286	埋土 胴部 1/3	須恵器 壺	器高(12.7) 口径 -		還元焰 灰	口縁部と底部欠損のため器形は不明。継作り。轆轤整形。胴部外面は平行明き、内面はあて具の青海波文の叩き整形後轆轤再整形。	内面に鉛 黄面 272	

出土 遺 蹟	所属番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種 別 器 種	規 目 (cm)	胎 土	施 成 色 調	器 形・技法等の特徴	備 考 登録番号
A区 旧河道	43-287	埋土 口縁部 1/2	須恵器 耳付壺	器高 (8.0) 口径(16.0)	還元焰	灰	胴部欠損のため器形は不明。轆轤整形。	265
	44-288	埋土 口縁部 1/5	須恵器 壺	器高 (9.3) 口径(18.0)	還元焰	灰	胴部欠損のため器形は不明。轆轤整形。	263
	44-289	埋土 口縁部 1/4	須恵器 壺	器高 (6.3) 口径(20.0)	還元焰	灰	胴部欠損のため器形は不明。轆轤整形。	266
	44-290	埋土 口縁部 1/6	須恵器 壺	器高(16.3) 口径(34.2)	還元焰	灰白	胴部欠損のため器形は不明。轆轤整形。	261
	44-291	埋土 口縁部 1/5	須恵器 壺	器高(12.0) 口径(36.0)	還元焰	オリーブ 黒	胴部欠損のため器形は不明。轆轤整形。	260
	45-292 72	埋土 2/3	須恵器 鉢	器高 13.8 口径 32.4 底径 18.0	還元焰	灰白	平底で口縁部は直角に外折し、内湾気味に立ち 上がる。紐作り。轆轤整形。	275
	45-293	埋土 胴部 1/2	須恵器 長楕壺	器高 (8.3) 口径 (7.0)	還元焰	灰	底部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。	259
	45-294	埋土 肩部 3/4	須恵器 台付長楕 壺	器高 (7.4) 口径 -	還元焰	灰	肩部、及び台部欠損のため器形は不明。紐作り。 轆轤整形。	277
	45-295 72	底面 胴部	須恵器 長楕壺	器高(11.9) 口径 (9.0)	還元焰	灰	底部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。	278
	45-296	埋土 胴部	須恵器 長楕壺	器高(12.0) 口径 -	還元焰	灰	底部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。	279
	45-297	埋土 胴部 完形?	須恵器 壺?	器高 (7.1) 口径 - 底径 -	還元焰	灰	口縁部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整 形。	273
	45-298 72	埋土 1/2	須恵器 平瓶	器高(15.1) 口径 - 底径 10.1	還元焰	灰	紐作り。轆轤整形。肩部は貼り付け。	外面自然 釉付着 307
	45-299	埋土 下半部 完形	須恵器 壺	器高(10.4) 口径 - 底径 10.0	還元焰	灰	上半部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整 形。底部は胎削り?高台は貼り付け。	276
	45-300 72	埋土 1/2	須恵器 鉢	器高 13.0 口径 16.0 底径 7.0	還元焰	灰	口縁部はほぼ直線的に緩やかに外反する。底部 付近にくびれを有する。紐作り。轆轤整形。底部 は胎削り。	300
	45-301	埋土 坏部 1/2	須恵器 高坏	器高 4.6 口径 10.4 底径 -	還元焰	暗青灰	脚部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。 坏部は受けを有する。脚部は貼り付けで、空間 を有する。	290
	45-302 72	埋土 脚部 3/4	須恵器 高坏	器高 (8.0) 口径 - 底径(12.0)	還元焰	灰	坏部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。 脚部は緩やかに開き、先端部に返しを有する。	301
	45-303 72	埋土 脚部 1/2	須恵器 高坏	器高 6.0 口径 - 底径 12.2	還元焰	灰	坏部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。 脚部は緩やかに開き、3箇所に通かしを有する。 先端部に返しを有する。	304
	46-304 72	埋土 胴部 2/3	須恵器 長瓶	器高(17.7) 口径 -	還元焰	灰	紐作り。轆轤整形。胴部は一方が平坦で、一方 が丸く張り出す。取手は貼り付け。	口縁部・ 取手欠損 306
46-305 72	埋土 1/2	須恵器 蓋	器高 3.7 口径 12.0	還元焰	灰	丸みをもつ天井部から外反する。轆轤整形 (右 回転)。	111	
46-306 72	埋土 1/2	須恵器 蓋	器高 3.5 口径 12.0	還元焰	灰	丸みをもつ天井部から外反する。轆轤整形 (右 回転)。	134	

出土遺構	埋戻番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	口径 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
A区 旧河道	46-307	埋土・下 半部欠損 1/2	須恵器 蓋	器高 (2.9) 口径 -		還元焰	灰	口唇部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。鈕部は貼り付け。	297
	46-308	埋土 鈕部欠損 1/2	須恵器 蓋	器高 (3.0) 口径 (18.8)		還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)。鈕部は欠損しているが、貼り付けと考えられる。	291
	46-309	埋土 鈕部欠損 1/3	須恵器 蓋	器高 (2.8) 口径 (19.2)		還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)。鈕部は輪状形で貼り付け。	292
	46-310	埋土 鈕部欠損 1/3	須恵器 蓋	器高 (2.3) 口径 (19.0)		還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)。鈕部は欠損しているが、貼り付けと考えられる。	293
	46-312	埋土 鈕部欠損 1/3	須恵器 蓋	器高 (2.6) 口径 (17.2)		還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)。鈕部は欠損しているが、貼り付けと考えられる。	295
	46-313	埋土 1/6	須恵器 蓋	器高 (3.0) 口径 (18.6)		還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)。鈕部は輪状形で貼り付け。	296
	46-314	埋土 上半部 1/4	須恵器 蓋	器高 (3.0) 口径 -		還元焰	灰白	口唇部欠損のため器形は不明。鈕部は擬宝珠状形で貼り付け。轆轤整形 (右回転)。	298
	46-315	埋土 1/3	須恵器 蓋	器高 (3.0) 口径 (12.2)	赤色鉱物粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)。鈕部は擬宝珠状形で貼り付け。	289
	46-316	埋土 1/5	須恵器 盤	器高 (3.7) 口径 (24.4)		還元焰	灰	丸底気味で口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。	281
	46-317	埋土 1/4	須恵器 盤	器高 (3.3) 口径 (25.2)		還元焰	灰	丸底気味で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。	282
46-318 72	埋土 1/2	須恵器 盤	器高 2.9 口径 (24.0)		還元焰	灰	平底で口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。	283	
B区 1号 住居跡	48-1	床面直上 1/4	土師器 坏 A	器高 (2.9) 口径 (12.4)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。器面の環状部は肥厚り後部で、口縁部・器内面は横撫で。	器面の環状部が顕著 1
B区 5号 住居跡	51-1 74	床面直上 完形	土師器 坏 A	器高 3.8 口径 11.4	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は肥厚り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	51-2 74	床面直上 完形	土師器 坏 A	器高 3.9 口径 11.7	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外傾する。体部は肥厚り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	51-3 74	床面直上 1/2	土師器 坏 A	器高 (3.3) 口径 (11.7)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外傾する。体部は肥厚り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の環状部が顕著 10
	51-4 74	カマド 3/4	土師器 坏 A	器高 3.0 口径 11.9	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は肥厚り、口縁部・器内面は横撫で。	9
	51-5 74	床面直上 1/6	土師器 坏 A	器高 4.8 口径 (16.0)	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は肥厚り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の環状部が顕著 12
	51-6 74	床面直上 3/4	土師器 坏 B	器高 3.5 口径 13.1	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は肥厚り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の環状部が顕著 3
	51-7 74	床面直上 ほぼ完形	土師器 坏 B	器高 5.0 口径 15.8	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は肥厚り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の環状部が顕著 4
	51-8 74	埋土 3/4	土師器 坏 B	器高 4.2 口径 12.5	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は肥厚り、口縁部・器内面は横撫で。	7

出 土 構 造	棟 号	出 土 位 置	種 別	目 寸 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技 法 等 の 特 徴	備 考
B区 5号 住居跡	51-9 74	埋土 3/4	土師器 坏 B	器高 5.3 口径 15.5	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に僅かに内傾する。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩減が顕著
	51-10 74	カマド内 1/4	土師器 坏 B	器高 (6.9) 口径(17.4)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に内傾する。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	11
	51-11 74	床面直上 3/4	土師器 坏 C	器高 5.0 口径 13.6	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	口縁部に歪み5
	52-12 74	床面直上 3/4	土師器 坏 C	器高 3.5 口径 11.7	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩減が顕著6
	52-13 74	埋土 1/3	土師器 坏 C	器高 (2.2) 口径(12.0)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩減が顕著13
	52-14	埋土 口縁部 1/4	土師器 甕	器高 (3.4) 口径(14.0) 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 黄褐	「コ」字状口縁を呈し、口唇部は外反する。口縁部は横撫で、胴部外面は艶削り、内面は横撫で。	21
	52-15	埋土 口縁部 1/3	土師器 甕	器高 (5.8) 口径(17.4) 底径 -		酸化焰	淡黄	長胴の甕で口縁部は外反する。胴部外面は艶削り、内面は横撫で。	19
	52-16	埋土 口縁部 1/5	土師器 甕	器高 (5.0) 口径(13.6) 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 褐	長胴の甕であるが、胴部欠損のため器形は不明。口縁部は僅かに外反する。	20
	52-17 74	埋土 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 4.4 口径 8.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。口縁部・体部の一部は横撫で、体部は艶削り後軽い撫で、器内面は横方向の撫で。	14
	52-18 74	カマド 2/3	須恵器 坏	器高 3.0 口径 10.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。口縁部・体部の一部は横撫で、体部は艶削り後軽い撫で、器内面は横方向の撫で。	15
	52-19	埋土 底部	須恵器 高台付甕	器高 (2.0) 口径 - 底径 7.6		還元焰	灰	口縁部欠損のため、器形は不明。轆轤整形（右回転）。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	23
	52-20 74	カマド 1/3	須恵器 甕	器高 (3.8) 口径 - 底径 3.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	上部部を欠損するが、注口を有する。紐作り。轆轤整形。底部は同一方向の艶削り。	16
	52-21 74	床面直上 胴部欠損 3/4	須恵器 甕	器高 (5.7) 口径 -	白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。底部は回転艶削り後調整。	17
	52-22	カマド 1/4	須恵器 羽釜	器高(14.0) 口径(18.8) 底径 -	白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾する。紐作り。轆轤整形。鈿は貼り付け。	18
	B区 6号 住居跡	53-1 74	床面直上 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.8 口径 16.7 底径 5.4	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	口縁部は外反する。轆轤整形（右回転）。底部は回転糸切り後未調整。
53-2 74		カマド内 1/2	須恵器 坏	器高 3.7 口径 13.1 底径 6.5	白色鉱物粒子	還元焰	黄	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形（右回転）。底部は回転糸切り後未調整。	3
53-3 74		カマド内 1/2	須恵器 坏	器高 3.7 口径 10.6 底径 5.2	白色鉱物粒子	還元焰		口縁部は外反する。轆轤整形（右回転）。底部は回転糸切り後未調整。	4
53-4 74		床面直上 ほぼ完形	須恵器 高台付轆	器高 5.7 口径 14.1 底径 6.4	白色鉱物粒子	還元焰	黒褐	口縁部は強く外反する。轆轤整形（右回転）。底部は回転糸切り後未調整。高台は貼り付け。	1
53-5		埋土 口縁部 1/8	須恵器 羽釜	器高 (7.0) 口径(19.6) 底径 -		還元焰	明赤褐	口縁部はほぼ直立する。紐作り。轆轤整形。鈿は貼り付け。	9
54-6 74		カマド内 底部欠損 1/4	須恵器 羽釜	器高(24.1) 口径(20.2) 底径 -	白色鉱物粒子	還元焰	明赤褐	口縁部は僅かに内湾する。紐作り。轆轤整形。鈿は貼り付け。	6

出土遺物	標本番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別	径目 (mm)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
B区 6号 住居跡	54-7	埋土 底部欠損 1/8	須恵器 明差	器高(11.0) 口径(21.0) 底径 -		還元焰 明赤褐	口縁部はほぼ直立する。紐作り。轆轤整形。筒は貼り付け。	8
	54-8 74	床面直上 1/2	灰輪陶器 高台付輪	器高 2.7 口径 - 底径 6.8	白色鉱物粒子	灰白	口縁部は強く外反する。轆轤整形(右回転)。	5
B区 7号 住居跡	55-1 75	貯蔵穴内 底部	土師器 壺	器高(7.0) 口径 - 底径 3.7		酸化焰 明赤褐	上半部欠損のための器形は不明。胴部外面下半部は縦方向の発掘り、内面は撫で。底部に寛当て痕。	3
	55-2 75	貯蔵穴内 台部欠損 ほぼ定形	土師器 台付壺	器高(15.7) 口径 12.8 底径 -		酸化焰 明赤褐	口縁部は外反する。紐作り。口縁部は撫で。胴部外面上半部は横方向の発掘り、下半部は縦方向の発掘り、内面は撫で。底部に寛当て痕。	2
	56-3 75	埋土 ほぼ定形	須恵器 高台付輪	器高 5.3 口径(15.0) 底径 7.0		還元焰 黄灰	轆轤整形(右回転)。口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。底部は回転糸切り後未調整。高台は貼り付け。	4
	56-4 75	貯蔵穴内 完形	灰輪陶器 耳皿	器高 2.5 口径 - 底径 5.2		灰白	底部は回転糸切り後未調整。	1
	56-5 75	埋土 底部 2/3	灰輪陶器 高台付輪	器高(2.3) 口径 - 底径 9.1		灰	轆轤整形(右回転)。口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。底部は回転糸切り後未調整。高台は貼り付け。	内面に重 ね焼き痕 7
	56-6 75	埋土 胴部 取手欠損	緑釉陶器 水注	器高(11.1) 口径 - 底径 -			口縁部、及び底部を欠損している。轆轤整形。取手は帯状の細片で貼り付け。	塗役 12
B区 8号 住居跡	58-1 75	カマド内 完形	土師器 坏 C	器高 3.4 口径 13.4	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 橙	丸底で、口縁部はほぼ直立する。体部は発掘り、口縁部・器内面は撫で。	器面の摩 滅が顕著 1
	58-2 75	カマド内 ほぼ定形	土師器 坏 D	器高 3.6 口径 13.6	白色鉱物粒子	酸化焰 橙	丸底で、口縁部は外反する。体部は発掘り、口縁部・器内面は撫で。	器面の摩 滅が顕著 2
	58-3 75	カマド内 底部欠損 1/5	土師器 壺	器高(17.6) 口径(23.4) 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 橙	長胴の壺で口縁部は僅かに外反する。胴部外面は斜方向の発掘り、内面は撫で。	5
	58-4 75	床面直上 ほぼ定形	須恵器 坏	器高 4.9 口径 13.7 底径 3.6	白色鉱物粒子	還元焰 灰白	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	3
	58-5 75	床面直上 ほぼ定形	須恵器 坏	器高 3.9 口径 13.2 底径 6.6	白色鉱物粒子	還元焰 灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	4
	58-6 75	掘り方 ほぼ定形	須恵器 坏	器高 5.0 口径(15.0) 底径(8.0)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 橙	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	6
B区 9号 住居跡	60-1 75	埋土 1/3	須恵器 坏	器高 3.0 口径 12.8	白色鉱物粒子	還元焰 明青灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転発掘り。	1
	60-2 75	埋土 底部完形	須恵器 高台付壺	器高 3.0 口径(13.0) 底径 6.4	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。高台は貼り付け。	2
	60-3 75	埋土 1/4	須恵器 高台付輪	器高 6.0 口径(14.8) 底径(7.8)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。高台は貼り付け。	3
B区 10号 住居跡	61-1 75	床面直上 1/2	須恵器 高台付輪	器高 5.4 口径 15.0 底径 8.2	白色鉱物粒子	還元焰 灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転発掘り後調整。高台は貼り付け。	2
	61-2 75	床面直上 ほぼ定形	須恵器 壺	器高 3.6 口径 15.4	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。底部は輪状形で貼り付け。	1
B区 11号 住居跡	62-1 75	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 3.3 口径 15.8	白色鉱物粒子	酸化焰 橙	丸底で、口縁部は外反する。体部は発掘り、口縁部・器内面は撫で。	器面の摩 滅が顕著 6

出 土 構	押印番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種 別	規 目 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技法等の特徴	備 考 登録番号
B区 11号 住居跡	62-2 75	床面直上 上半部 1/4	土師器 甕	器高 9(9.2) 口径(20.8) 底径 -	白色灰物粒子	酸化焰	橙	長胴の甕で口縁部は外反する。紐作り。胴部外面は横方向の寛削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	8
	62-3 75	埋土 1/3	須恵器 坏	器高 4.2 口径(12.2) 底径 18.0)	白色灰物粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は外反する。底部は回転糸切り後、周辺部のみ寛調整。	2
	63-4 75	埋土 3/4	須恵器 高台付盤	器高 3.3 口径 21.0 底径 13.2	白色灰物粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。口縁部は外傾する。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	1
B区 12号 住居跡	64-1 76	カマド直上 り方 1/4	土師器 坏 D	器高 3.1 口径(10.6)	白色灰物粒子	酸化焰	にぶい 褐	平底気味で、口縁部は内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の厚 減が顕著
	64-2 76	カマド内 ほぼ定形	須恵器 坏	器高 4.0 口径 13.0 底径 7.7	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	還元焰	灰	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後寛調整。	2
	64-3 76	貯蔵穴内 1/2	須恵器 坏	器高 4.0 口径(11.4) 底径 6.0	白色灰物粒子	還元焰	灰	口縁部は直線的に外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	3
	64-4 76	埋土 ほぼ定形	須恵器 蓋	器高 3.9 口径 13.2		還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転寛削り、底部は貼り付け。	1
B区 14号 住居跡	69-1 76	カマド内 1/4	土師器 坏 A	器高 3.8 口径(12.0)	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	69-2	埋土 1/4	土師器 坏 D	器高 3.2 口径(13.2) 底径 9.0)	白色灰物粒子	酸化焰	橙	底部は完全な平底で、口縁部は外反する。体部底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	69-3 76	カマド内 鉢	土師器 鉢	器高 10.8 口径(20.0)	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	酸化焰	橙	器高が深く、丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	14
	69-4	埋土 1/6	土師器 鉢	器高 (5.9) 口径(19.2)	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	酸化焰	橙	器高は深く、胴部が張り、口縁部は折り返す。紐作り。内面に棒状具による磨き。	内面黒色 処理 9
	69-5 76	カマド内 定形	須恵器 坏	器高 3.7 口径 10.8	白色灰物粒子	還元焰	灰白	丸底で、口縁部はやや内湾気味に直立する。轆轤整形(右回転)。	1
B区 15号 住居跡	72-1 76	床面直上 1/2	土師器 坏 A	器高 3.3 口径 11.3	白色灰物粒子	酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	4
	72-2 76	床面直上 1/4	土師器 坏 A	器高 3.2 口径(12.0)	白色灰物粒子	酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	6
	72-3 76	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 (3.5) 口径(18.4)	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。器高は低く、体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	5
	72-4	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 (3.5) 口径(12.6)	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	7
	72-5 76	床面直上 1/2	土師器 坏 B	器高 (5.8) 口径(15.7)	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は「C」字状に強く内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	72-6 76	床面直上 胴部欠損 ほぼ定形	土師器 甕	器高 (9.6) 口径 -		酸化焰	橙	口縁部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の寛削り、内面は横撫で。	1
	72-7 76	瀬り方 ほぼ定形	須恵器 坏	器高 2.8 口径 11.2		還元焰	にぶい 赤褐	丸底で外縁を有し、口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	2
72-8 76	床面直上 胴部	須恵器 横敷	器高(15.8) 口径 -		還元焰	灰	胴部は一方が平坦で、一方が丸く張り出す。紐作り、轆轤整形。	胴部欠損 15	



出 土 構	探洞番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種 別 器 種	成 目 (cm)	胎 土	焼 成 色 調	器 形・技法等の特徴	備 考 登録番号
B区 18号 住居跡	74-1	床面直上 上半部 1/4	土師器 罍	器高(11.3) 口径(20.4) 底径 -	白色灰物粒子	酸化焰 赤黒	長胴の罍で口縁部は外反する。継作り。胴部外面は横方向の内湾あり、内面は横溝で、口縁部は横溝で。	3
	74-2 76	床面直上 2/3	須恵器 坏	器高 4.0 口径 13.5 底径 8.9	白色灰物粒子	還元焰 灰	口縁部は直線的に外反する。轆轤整形(右回転)。底部は平底で、回転盤切り後磨調整。	2
	74-3 76	埋土 ほぼ完形	須恵器 高台付罍	器高 2.8 口径 16.3 底径 7.8	白色灰物粒子	還元焰 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転盤切り。高台は貼り付け。	1
B区 19号 住居跡	76-1 76	掘り方 完形	土師器 坏 D	器高 3.1 口径 11.6		酸化焰 にぶい 橙	口縁部はほぼ直線的に外傾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	1
	76-2 76	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 3.5 口径 12.4	白色灰物粒子	還元焰 褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	3
	76-3 76	カマド内 2/3	須恵器 坏	器高 3.7 口径 9.9	白色灰物粒子	還元焰 灰	口縁部は僅かに内湾気味に直立する。轆轤整形(右回転)。底部は回転盤切り。	4
	76-4 76	カマド内 1/2	須恵器 坏	器高 2.8 口径(12.4) 底径 7.2	白色灰物粒子	還元焰 オリーブ 灰	口縁部は直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転盤切り後未磨調整。	5
B区 20号 住居跡	78-1 77	掘り方 完形	土師器 鉢	器高 7.8 口径 20.6		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。内面に特殊工具による磨き。	内面黒色 処理 1
B区 21号 住居跡	80-1 77	掘り方 完形	土師器 坏 A	器高 3.6 口径 11.6	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	1
	80-2 77	掘り方 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.2 口径 10.9	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	3
	80-3 77	掘り方 1/2	土師器 坏 B	器高(5.2) 口径(16.6)	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	酸化焰 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	5
	80-4 77	掘り方 完形	土師器 坏 A	器高 3.5 口径 10.7		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部はほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	2
	80-5	埋土 1/3	土師器 坏 C	器高(3.0) 口径(10.9)	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	酸化焰 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	6
	80-6 77	掘り方 1/2	土師器 坏 C	器高(3.8) 口径(13.4)	白色灰物粒子	酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	4
	80-7	埋土 脚部 上半部 1/2	土師器 罍	器高(6.7) 口径(20.8) 底径 -		酸化焰 にぶい 褐	口縁部は外反する。継作り。胴部外面は横・斜方向の丸削り、内面は横溝で、口縁部は横溝で。	
	80-8	埋土 脚部 1/2	須恵器 高坏	器高(4.7) 口径 - 底径(14.1)	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	還元焰 灰	坏部欠損のため器形は不明。継作り。轆轤整形。脚部は貼り付け。	8
B区 22号 住居跡	81-1 77	埋土 完形	土師器 坏 C	器高 3.4 口径 13.4	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	酸化焰 橙	丸底で器高は低く、口縁部は僅かに外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	1
	81-2	埋土 1/3	土師器 坏 C	器高(3.5) 口径(13.2)		酸化焰 橙	丸底で器高は低く、口縁部は直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	2
B区 23号 住居跡	82-1 77	床面直上 完形	土師器 坏 B	器高 3.2 口径 10.2	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	酸化焰 にぶい 橙	丸底で口縁部は「く」字状に内傾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	1
	82-2 77	床面直上 完形	土師器 坏 B	器高 4.5 口径 13.4		酸化焰 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	2

出土遺構	採回番号 写真番号	出土位置 遺存状況	器 別 種	径目 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考 登録番号
B区 23号 住居跡	82-3 77	掘り方 ほぼ完形	土師器 坏 B	器高 5.7 口径 17.9	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。 体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	83-4 77	床面直上 下半部	土師器 壺	器高(20.3) 口径 底径 4.6	白色鉱物粒子	還元焰	明赤褐	上半部欠損のため器形は不明。紐作り、胴部外面は縦方向の寛削り、内面は横撫で。	5
	82-5 77	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 2.4 口径 11.4	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	丸底で口唇部の内側に反りがあり内傾している。 轆轤整形(右回転)。底部は寛削り。	4
	82-6 77	床面直上 口縁部	須恵器 壺	器高(8.4) 口径 26.0		還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り。胴部外面は平行叩き、内面はあて具の背海波文の叩き整形。	8
	83-7 77	床面直上 上半部 1/5	須恵器 壺	器高(21.7) 口径(15.9)	白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り、胴部外面は格子目熱輪付者轆轤整形。	内外面白 7
	B区 25号 住居跡	85-1 77	カマド内 口縁部 1/2	土師器 壺	器高(8.4) 口径 18.3 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」字状口縁部を有すが、下半部が欠損のため器形は不明。紐作り、胴部外面は横方向の寛削り。内面は横方向の寛撫で、口縁部は横撫で。
85-2		カマド内 口縁部 1/4	土師器 壺	器高(7.6) 口径(19.6) 底径 -		酸化焰	赤黒	口縁部は外反する。紐作り、胴部外面は横方向の寛削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	3
85-3 77		カマド内 底部 1/2	土師器 壺	器高(6.8) 口径 - 底径 4.4	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	暗赤褐	上半部欠損のため器形は不明。胴部外面は縦方向の寛削り、内面は横撫で。	4
B区 27号 住居跡	73-3 77	埋土 上半部 羽釜 1/4	須恵器 羽釜	器高(10.8) 口径(21.0) 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄赤	口縁部は内傾する。紐作り、轆轤整形(右回転)。踵は削り付け。	2
	73-4 77	床面直上 ほぼ完形 高台付	灰輪肉器 高台付	器高 3.1 口径 15.8 底径 7.1			灰	口縁部は僅かに内湾するが、口唇部は強く外反する。	内面に重 ね焼き痕 3
	73-5 77	床面直上 ほぼ完形	灰輪肉器 瓶	器高(6.6) 口径 - 底径(5.6)			灰白	徳利形を呈する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
B区 30号 住居跡	86-1 77	掘り方埋 土・下半 部1/3	須恵器 壺	器高(6.6) 口径 - 底径(5.6)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	灰黄赤	口縁部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。底部は回転糸切り後未調整。	1
	B区 32号 住居跡	90-1 78	床面直上 上半部 1/3	土師器 壺	器高(20.8) 口径 22.4 底径 -		還元焰	橙	口縁部は外反する。紐作り、胴部外面は横・斜方向の寛削り、内面は横撫でか?口縁部は横撫で。
90-2 78		カマド内 上半部 1/2	土師器 壺	器高(18.6) 口径(18.4) 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	橙	口縁部はやや外傾する。紐作り、胴部外面は斜方向の寛削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	2
90-3 78		貯蔵穴内 ほぼ完形 高台付	須恵器 高台付	器高 7.4 口径 18.3 底径 12.1	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	器形は腰が張り、口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸調整。高台は貼り付け。	5
B区 33号 住居跡	91-1 77	カマド埋 土 1/5	須恵器 坏	器高(3.8) 口径(9.1)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部は強く内傾する。轆轤整形(右回転)。底部は寛削り。	1
	91-2 77	カマド埋 土 1/8	須恵器 坏	器高(3.1) 口径(10.4)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部は強く内傾する。轆轤整形(右回転)。底部は寛削り。	2
B区 34号 住居跡	92-1 78	床面直上 1/2	須恵器 坏	器高 2.4 口径 9.8 底径 6.6	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部は強く内傾する。轆轤整形(右回転)。底部は寛削り。	1
	92-2 78	床面直上 1/3	須恵器 坏	器高(3.5) 口径(11.4)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	オリーブ 灰	丸底で口唇部の内側に反りがあり内傾している。 轆轤整形(右回転)。底部は寛削り。	2
B区 36号 住居跡	95-1 78	床面直上 完形	土師器 坏 C	器高 5.4 口径 15.0	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	橙	丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	口縁部の 張り顕著 1

出土遺構	探検番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別	直径 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
B区 36号 住居跡	95-2	掘り方 下半部 1/2	土師器 壺	器高 (7.1) 口径 - 底径 3.7	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	灰褐色	上半部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方向の彫り、内面は横撫で。	2
	95-3 78	カマド掘り方・口縁部1/2	須恵器 壺	器高 (9.4) 口径 25.6 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗オリーブ灰	胴部欠損のため器形は不明。口縁部は強く内反する。紐作り。轆轤整形。口縁部、及び口唇部に横撫で状文。	4
	96-4 78	掘り方 上半部 1/4	須恵器 壺	器高 (11.6) 口径 (15.0) 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	オリーブ灰	下半部欠損のため器形は不明。口縁部は外反する。紐作り。胴部は叩き整形後轆轤再整形。外面は磨具による横撫で。	7
	96-5 78	埋土 上半部 1/3	須恵器 壺	器高 (10.9) 口径 (10.6) 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	下半部欠損のため器形は不明。口縁部は外反する。紐作り。胴部は叩き整形後轆轤再整形。	6
	97-1	掘り方埋土・台部1/2	土師器 台付壺	器高 (2.0) 口径 - 底径 (8.4)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	胴部欠損のため器形は不明。台部は横撫で。	10
	98-2 78	床面直上 上半部 1/2	土師器 壺	器高 (19.6) 口径 19.7 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。胴部外面は斜方向の彫り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	14
B区 38号 住居跡	97-3	床面直上 底部	須恵器 壺	器高 (2.3) 口径 - 底径 6.4		還元焰	灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	8
	97-4 78	埋土 1/4 高台付壺	須恵器 高台付壺	器高 2.8 口径 (14.0) 底径 (7.3)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	蓋が張り、口縁部はやや外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	4
	97-5 78	掘り方 1/3 高台付壺	須恵器 高台付壺	器高 (4.7) 口径 13.4 底径 (5.5)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗青灰	蓋が張り、口縁部はやや外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	高台欠損 1
	97-6	掘り方埋土 底部	須恵器 高台付壺	器高 (2.5) 口径 - 底径 7.4	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	高台欠損 5
	98-7	埋土 坏部 1/4	灰釉陶器 高台付段 皿	器高 (2.1) 口径 (15.3) 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子		灰	蓋が張り、口縁部はやや外反する。轆轤整形。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	高台欠損 7
	99-1 79	埋土 完形	土師器 坏 A	器高 3.2 口径 10.8	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は彫り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	99-2 79	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 (3.5) 口径 (11.6)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は彫り、口縁部・器内面は横撫で。	3
99-3 79	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高 3.3 口径 (11.2)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は彫り、口縁部・器内面は横撫で。	2	
99-4	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 (3.8) 口径 (11.2)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は彫り、口縁部・器内面は横撫で。	5	
99-5	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 (3.9) 口径 (18.2)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は彫り、口縁部・器内面は横撫で。	4	
99-6	床面直上 口縁部 1/5	土師器 壺	器高 (6.9) 口径 (19.6) 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	胴部欠損のため器形は不明だが、口縁部は外反する。胴部外面は横方向の彫り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	6	
99-7	埋土 口縁部欠損	須恵器 壺	器高 (14.6) 口径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	上半部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。底部は回転糸切り後未調整。	7	
99-8 79	床面直上 下半部 1/3	須恵器 壺	器高 (5.6) 口径 - 底径 6.6	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	蓋が張り、口縁部はやや外反するが、口唇部は欠損している。紐作り。轆轤整形。	10	
B区 40号 住居跡	101-1	カマド内 1/5	土師器 坏 A	器高 (2.9) 口径 (10.7)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は彫り、口縁部・器内面は横撫で。	4

出土遺構	探図番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別	径目 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
B区 40号 住居跡	101-2	埋土 1/5	土師器 環 A	器高 (3.6) 口径(11.2)	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	5
	101-3	埋土 1/5	土師器 環 B	器高 (3.8) 口径(15.4)	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、 口縁部・器内面は横撫で。	3
	101-4	埋土 1/6	土師器 環 B	器高 (3.1) 口径(15.4)	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は「C」字状に内湾 する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 B42-1
	101-5	埋土 1/3	土師器 環 B	器高 (3.8) 口径(15.4)	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状に内湾する。体部は 篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 2
	102-6	口縁部欠 損	土師器 甕	器高(27.0) 口径 - 底径 4.5	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	酸化焰	灰褐	口縁部欠損のため、器形は不明。胴部外面は縦 方向の篋削り、内面は横撫で。	10
	102-7	埋土 下半部 1/3	土師器 甕	器高(14.0) 口径 - 底径 10.4	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	酸化焰	灰褐	上半部欠損のため、器形は不明。胴部外面は斜 方向の篋削り、内面は横撫で。	6
	101-8	埋土 1/3	須恵器 甕	器高 (3.5) 口径(10.0)	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	還元焰	黄灰	丸みをもつ天弁部からは直線的に内湾する。 轆轤整形 (右回転)。	1
B区 41号 住居跡	104-1	床面直上 ほぼ完形	土師器 環 A	器高 4.3 口径 18.3	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	104-2	床面直上 下半部	土師器 甕	器高 (8.0) 口径 - 底径 5.6	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	酸化焰	にぶい 黄橙	口縁部欠損のため、器形は不明。胴部外面は縦 方向の篋削り、内面は横撫で。	4
	104-3	床面直上 1/6	須恵器 鉢	器高 6.9 口径(20.3) 底径(13.6)		還元焰	灰白	口縁部は「C」字状に強く内湾する。轆轤整形 (右回転)。体部下下部・底部外面は篋削り、 体部下下部・底部内面に当て痕。	2
	104-4	床面直上 1/5	須恵器 高台付環	器高 (3.4) 口径 - 底径(14.2)		還元焰	灰	底部から直線的に口縁部に立ち上がる。轆轤整 形 (右回転)。底部は回転調整後、高台は貼 り付け。	3
B区 43号 住居跡	107-1	埋土 1/4	土師器 環 A	器高 (3.1) 口径(10.7)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	4
	107-2	埋土 1/3	土師器 環 C	器高 (3.9) 口径(17.6)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は篋削り、 口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 3
	107-3	床面直上 台付 1/2	土師器 台付甕	器高(28.5) 口径 24.1 底径 -		酸化焰	にぶい 黄	裳部欠損のため器形は不明。台部は横撫で。	6
	107-4	埋土 上半部 1/2	土師器 甕	器高(28.5) 口径 24.1 底径 -		酸化焰	黄	下半部欠損のため器形は不明。口縁部は強く外 反する。継作り。胴部外面は縦方向の篋削り、 内面は横方向の篋削りで、口縁部は横撫で。	1
	107-5	床面直上 1/3	須恵器 鉢	器高 6.8 口径(17.0) 底径(10.7)		還元焰	灰白	腰が強く張り、口縁部は内湾する。轆轤整形。 体部は横方向の篋削り、底部は篋調整。	2
	107-6	埋土 底部 1/2	須恵器 高台付鉢	器高 (3.3) 口径 - 底径(15.0)		還元焰	褐灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	5
	107-7	床面直上 底部 1/3	須恵器 甕	器高 (4.5) 口径 - 底径 (5.6)		還元焰	黄白	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形。底部 は回転糸切り後未調整。	7
B区 44号 住居跡	107-9	床面直上 ほぼ完形	土師器 環 A	器高 3.7 口径 11.6		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外湾する。体部は 篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
B区 45号 住居跡	109-1	床面直上 口縁部 1/4	土師器 甕	器高 (5.2) 口径(18.2)		酸化焰	にぶい 黄	「コ」字状口縁を有すが、胴部欠損のため器形 は不明。継作り。胴部外面は横方向の篋削り、 内面は横方向の篋削りで、口縁部は横撫で。	5

出 土 遺 跡	採回番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種 別	目 録	材 質	色 調	器 形・技 法 等 の 特 徴	備 考 登録番号
B区 45号 住居跡	109-2	掘り方埋 土・口縁 部1/4	土師器 壺	器高(6.1) 口径(20.6)	酸化焰	にぶい 赤褐色	腰部欠損のための器形は不明だが、口縁部は外傾する。紐作り。胴部外面は横方向の彫削り、内面は横方向の磨撫で、口縁部は横撫で。	6
	109-3	掘り方埋 土・口縁 部1/4	土師器 壺	器高(7.0) 口径(20.0)	酸化焰	明赤褐色	腰部欠損のための器形は不明だが、口縁部は外反する。紐作り。胴部外面は横方向の彫削り、内面は横方向の磨撫で、口縁部は横撫で。	8
	109-4	カマド内 口縁部 1/5	土師器 壺	器高(6.5) 口径(20.4)	酸化焰	にぶい 褐色	腰部欠損のための器形は不明だが、口縁部は外反する。紐作り。胴部外面は横方向の彫削り、内面は横方向の磨撫で、口縁部は横撫で。	7
	109-5	床面直上 高台欠損 1/4	須恵器 高台付輪 底径 -	器高(5.8) 口径(14.6)	還元焰	黄灰	腹が張り口縁部はやや外反する。輪軸整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	1
	109-6	埋土 底部 高台付輪	須恵器 高台付輪 口径 - 底径 6.3	器高(2.5)	還元焰	灰白	器形は不明。輪軸整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	3
	109-7	カマド内 底部	須恵器 高台付輪 口径 - 底径 6.5	器高(2.1)	還元焰	灰黄褐色	器形は不明。輪軸整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	2
	109-8	床面直上 はば定形 耳取	須恵器 耳取 器高 3.8 口径 10.4 底径 5.6	器高 3.8 口径 10.4 底径 5.6	還元焰	灰	輪軸整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	14
	109-9	埋土 底部欠損 1/3	須恵器 羽釜 器高(24.9) 口径(12.4) 底径 -	器高(24.9) 口径(12.4) 底径 -	還元焰	灰黄	口縁部は直立する。紐作り。輪軸整形。胴部外面は縦方向の彫削り、内面は磨撫で。踵は貼り付け。	11
	109-10	床面直上 1/2	須恵器 高台付輪 器高(27.0) 口径(20.3) 底径(7.0)	器高(27.0) 口径(20.3) 底径(7.0)	還元焰	灰	口縁部は内湾する。紐作り。輪軸整形。胴部外面上半部は輪軸調整。下半部は斜方向の彫削り、内面は磨撫で。踵は貼り付け。	10
	B区 46号 住居跡	111-1 80	床面直上 定形	土師器 耳 A 器高 3.5 口径 11.3	器高 3.5 口径 11.3	酸化焰	橙	丸底で外傾を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は彫削り、口縁部・器内面は横撫で。
111-2 80		ビット内 1/3	須恵器 杯 器高 3.2 口径 10.2	器高 3.2 口径 10.2	還元焰	灰	丸底で外傾を有し、口縁部は外傾する。輪軸整形(右回転)。	4
111-3 80		床面直上 はば定形	須恵器 杯 器高 4.1 口径 11.4	器高 4.1 口径 11.4	還元焰	灰	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に直立する。輪軸整形(右回転)。底部は手持ちの不定方向の彫削り。	2
111-4 80		床面直上 1/2	須恵器 杯 器高 3.5 口径(11.0)	器高 3.5 口径(11.0)	還元焰	灰	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に直立する。輪軸整形(右回転)。底部は彫削り。	3
111-5		カマド内 1/4	須恵器 杯 器高(3.6) 口径(14.2) 底径(8.6)	器高(3.6) 口径(14.2) 底径(8.6)	還元焰	灰	口縁部はやや内湾気味に直立する。輪軸整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	5
B区 47号 住居跡	112-1 80	埋土 1/3	土師器 杯 器高 3.5 口径(12.0)	器高 3.5 口径(12.0)	酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は彫削り後撫で。	1
B区 48号 住居跡	115-1	カマド内 口縁部 1/2	土師器 壺 器高(7.1) 口径(19.9)	器高(7.1) 口径(19.9)	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は横方向の彫削り、口縁部は横撫で、内面胴部は磨撫で。	8
	115-2	埋土 口縁部 1/2	土師器 壺 器高(5.3) 口径(20.0)	器高(5.3) 口径(20.0)	酸化焰	暗赤褐色	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は横・斜方向の彫削り、口縁部は横撫で、内面胴部は磨撫で。	9
	115-3 80	貯蔵穴内 1/2	須恵器 杯 器高 4.0 口径(12.8) 底径 5.2	器高 4.0 口径(12.8) 底径 5.2	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。輪軸整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
	115-4 80	貯蔵穴内 1/2	須恵器 高台付輪 器高 5.4 口径(14.0) 底径(6.8)	器高 5.4 口径(14.0) 底径(6.8)	還元焰	にぶい 褐色	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。輪軸整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	2
	115-5 80	埋土 1/2	須恵器 高台付輪 器高 3.2 口径(14.0) 底径(8.4)	器高 3.2 口径(14.0) 底径(8.4)	還元焰	灰白	内厚で器高は低く、口縁部は僅かに外反する。輪軸整形(右回転)。底部は回転糸切りか。高台は貼り付け。	7

出土遺構	陣岡番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	口径 (mm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
B区 48号 住居跡	115-6	埋土 1/5	須恵器 高台付椀	器高(4.8) 口径(14.2) 底径 -	還元焰	灰	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は欠損しているもの、高台が存在したと考えられる器形である。	3
	115-7	埋土 底部	須恵器 高台付椀	器高(2.6) 口径 - 底径 8.0	還元焰	灰	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	5
	115-8	埋土 底部	須恵器 高台付椀	器高(1.8) 口径 - 底径 6.6	還元焰	黒褐色	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	4
	115-9	埋土 胴部 1/3	須恵器 長頸瓶	器高(4.0) 口径 - 底径 -	還元焰	明褐色	頸部、及び底部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。	10
	116-1	埋土 1/5	須恵器 杯	器高 3.5 口径(12.8) 底径(5.0)	還元焰	灰	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	2
B区 49号 住居跡	116-2	埋土 1/3	須恵器 杯	器高(4.0) 口径(16.1) 底径 -	還元焰	灰	踵の張りが固く、口縁部は強く外反する。轆轤整形(右回転)。底部は不明。	1
	117-1	埋土 1/4	土師器 杯 D	器高(4.3) 口径(13.4)	酸化焰	橙	丸底で、口縁部は内湾気味に立ち上がる。体部は肥削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の厚 減が顕著 1
B区 51号 住居跡	118-1	埋土 80 上半部 1/2	土師器 壺	器高(16.0) 口径 19.6	酸化焰	橙	「コ」字状口縁を有する。最大径は上半部に位置するが、張りは弱い。紐作り。外面胴部は肥削り、口縁部は横撫で、内面胴部は肥削り。	3
B区 52号 住居跡	119-1	カマド内 底部	土師器 台付壺	器高(4.1) 口径 - 底径(7.8)	酸化焰	明赤褐色 -にぶ い赤褐色	外面胴部は肥削り、内面胴部は指による撫で、台部は横方向の撫で。	4
	119-2	埋土 80	須恵器 ほぼ完形 杯	器高 3.4 口径 12.8 底径 6.7	還元焰	褐色	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	119-3	カマド内 底部	須恵器 杯	器高(3.3) 口径 - 底径 6.3	還元焰	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	5
	119-4	床面直上 底部	須恵器 高台付椀	器高(1.6) 口径 - 底径 7.8	還元焰	灰	器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	3
	121-1	床面直上 80 1/2	須恵器 杯	器高 4.0 口径 12.6 底径 7.0	還元焰	灰	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
B区 53号 住居跡	121-2	カマド内 80 1/3	須恵器 杯	器高 3.8 口径(12.7) 底径(8.0)	還元焰	にぶい 橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	121-3	床面直上 1/4	須恵器 杯	器高 3.6 口径(13.2) 底径(8.3)	還元焰	白灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	3
	121-4	埋土 1/4	須恵器 杯	器高 4.1 口径(12.2) 底径 6.7	還元焰	黄灰	口縁部は内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	4
	121-5	床面直上 80 1/3	須恵器 杯	器高 4.2 口径(13.0) 底径(8.0)	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	5
	121-6	掘り方 80 1/2	須恵器 高台付椀	器高 5.2 口径(13.4) 底径(9.4)	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	6
	122-1	床面直上 81	土師器 杯 A	器高 3.6 口径 11.1	酸化焰	明赤褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は肥削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	122-2	床面直上 81 3/4	土師器 杯 A	器高 3.1 口径(11.4)	酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は肥削り、口縁部・器内面は横撫で。	8

出土遺構	探函番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別	別種	底目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
B区 54号 住居跡	122-3 81	埋土 1/2	土師器 坏 C	器高 3.4 口径(11.7)		酸化焰	橙	丸底でやや内湾気味に立ち上がるが、口縁部はほぼ直立する。体部は丸削り後撫で、口縁部・器内面は横撫で。	2	
	122-4	床面直上 1/5	須恵器 蓋	器高 (2.8) 口径 (9.0)		還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)。	4	
	122-5 81	床面直上 1/3	須恵器 高坏	器高 (5.5) 口径(28.2)		還元焰	灰	口縁部は内側に折り返す。轆轤整形 (右回転)。体部は回転丸削り後横撫で。脚部は欠損。	5	
B区 55号 住居跡	123-1 81	床面直上 1/2	土師器 坏 A	器高 3.7 口径 11.8		酸化焰	明赤褐	丸底で外縁を有し、口縁部はほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	1	
	124-2	床面直上 上半部 1/4	土師器 壺	器高 (7.0) 口径(19.4)		酸化焰	にぶい 赤褐	口縁部は外反する。経作り、胴部外面は縦方向の丸削り、内面は横撫で。口縁部は横撫で。内面に染めての痕跡。	2	
	124-3 81	カマド内 下半部 1/2	土師器 壺	器高(15.8) 口径 - 底径 (4.1)		酸化焰	橙	上半部欠損のため器形は不明。経作り。胴部外面は斜方向の丸削り、内面は横撫で。	3	
B区 56号 住居跡	125-1	床面直上 1/4	須恵器 坏	器高 4.2 口径(14.3)	白色粘物餃子	還元焰	橙	脛が張り、口縁部は外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1	
B区 57号 住居跡	127-1	掘り方埋土・底部 1/2	須恵器 坏 - 底径 6.4	器高 (1.3) 口径 - 底径 6.4		還元焰	赤灰	器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1	
B区 58号 住居跡	128-1 81	床面直上 3/4	土師器 坏 D	器高 4.3 口径 14.9		酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部は僅かに外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	内面に黒色付着物 1	
	128-2 81	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 3.3 口径(13.9) 底径 (9.1)		還元焰	灰白	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転丸削り後未調整。	2	
	129-3	埋土 底部 1/4	須恵器 坏	器高 (1.8) 口径 - 底径 (6.0)		還元焰	橙	脛は強いが、器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切りか。	3	
B区 59号 住居跡	131-1 81	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 2.9 口径(11.0)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	1	
	131-2 81	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 3.4 口径 12.7 底径 (7.2)		還元焰	灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2	
B区 60号 住居跡	132-1 81	床面直上 完形	土師器 坏 A	器高 3.2 口径 11.4		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の濃減が顕著 1	
	132-2 81	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 (2.9) 口径(11.0)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	6	
	132-3 81	床面直上 完形	土師器 坏 A	器高 3.5 口径 11.6		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部はほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	2	
	133-4 81	埋土 3/4	土師器 坏 C	器高 4.1 口径 12.7		酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	4	
	133-5 81	カマド内 1/2	土師器 坏 B	器高 3.0 口径(10.9)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状に内湾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の濃減が顕著 5	
	133-6 81	床面直上 上半部 1/2	土師器 壺	器高(12.7) 口径 22.0 底径 -		酸化焰	明褐	「コ」字状口縁を有する。最大径は胴部上半部だが、張り弱い。胴部外面は丸削り、内面は横撫で。口縁部は横撫で。	7	
	133-7	埋土 上半部 1/4	土師器 壺	器高 (8.6) 口径(19.1) 底径 -		酸化焰	橙	口縁部は強く外反するが、下半部欠損のため器形は不明。張り弱い。胴部外面は丸削り、内面は縦方向の撫で。口縁部は横撫で。	8	

出土 遺構	押区番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別	別種	径目 (cm)	胎土	施成	色調	器形・技法等の特徴	備 考 登録番号
B区 60号 住居跡	133-8 81	床面直上 はば定形	須恵器 坏	器高 3.4 口径 11.6 底径 5.0		還元焰	陶灰		口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転脱脂後脱脂調整。	3
	133-9 81	埋土 脚部	須恵器 高坏	器高 (9.0) 口径 - 底径 8.6		還元焰	灰		坏部欠損のための器形は不明。轆轤整形。	10
	133-10	埋土 胴部	須恵器 壺	器高 (7.3) 口径 - 底径 -		還元焰	灰		口縁部、及び底部欠損のための器形は不明。轆轤 整形。	9
B区 61号 住居跡	134-1	埋土 1/3	土師器 坏 B	器高 (3.8) 口径 13.3		酸化焰	橙		丸底で口縁部は「C」字状に内傾する。体部は 篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 1
	134-2	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 3.6 口径(14.1)		還元焰	灰-灰 白		丸底で口縁部は直線に外傾する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転脱脂。	2
	135-3	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 7.0 口径(16.4)		還元焰	灰白		丸底で口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転脱脂。	3
	135-4 81	埋土 胴部	須恵器 高坏	器高 (6.7) 口径 - 底径 12.5		還元焰	灰		坏部欠損のための器形は不明。轆轤整形。	6
B区 62号 住居跡	136-1 81	1/2	土師器 坏 C	器高 (3.5) 口径(11.4)		酸化焰	橙		丸底で外縁を有し、口縁部はほぼ直立する。体 部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	136-2	下半部 1/2	土師器 壺	器高(10.0) 口径 - 底径 (5.0)		酸化焰	明赤褐		上半部欠損のための器形は不明。胴部外面は篋削 り、内面は横撫で。	6
	136-3 82	カマド袖 底部欠損 1/3	土師器 壺	器高(36.8) 口径(21.0) 底径 -		酸化焰	にぶい 橙		口縁部は強く外反する。胴部外面は縦方向の篋 削り、内面は縦方向の横撫で、口縁部は横撫で。	3
	136-4 81	カマド内 下半部 1/2	土師器 壺	器高(11.4) 口径 - 底径 (3.3)		酸化焰	にぶい 橙		上半部欠損のための器形は不明。胴部外面は篋削 り、内面は横方向の横撫で。	内面に篋 削り 7
	137-5 82	埋土 下半部	土師器 壺	器高(13.6) 口径 -		酸化焰	褐		上半部欠損のための器形は不明。胴部外面は横・ 縦方向の篋削り、内面は横方向の横撫で。	11
	137-6	埋土 1/6	須恵器 坏	器高 (3.7) 口径(12.6)		還元焰	灰褐		丸底で口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右 回転)。	2
	137-7 81	埋土 口縁部 1/3	須恵器 壺	器高 9.7 口径(22.6)		還元焰	灰		壺部欠損のための器形は不明。継作り。轆轤整形。 胴部外面は叩き後轆轤再整形。内面はあて具の 青海波文の叩き整形。	8
B区 64号 住居跡	138-1 82	床面直上 はば定形 A	土師器 坏 A	器高 3.6 口径 10.5		酸化焰	橙		丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は 篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	138-2 82	床面直上 1/2	土師器 坏 A	器高 3.4 口径(11.5)		酸化焰	橙		丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は 篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
B区 65号 住居跡	139-1	貯蔵穴内 1/3	土師器 坏 A	器高 (3.4) 口径(12.7)		酸化焰	橙		扁平な丸底で外縁を有し、口縁部は外傾する。 体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 7
	139-2 82	貯蔵穴内 完形	土師器 坏 A	器高 3.3 口径 10.4		酸化焰	橙		丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 4
	139-3 82	貯蔵穴内 完形	土師器 坏 C	器高 3.0 口径 11.3		酸化焰	にぶい 褐		丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は篋削り、 口縁部・器内面は横撫で。	2
	140-4 82	貯蔵穴内 1/2	土師器 坏 C	器高 (6.4) 口径(13.6)		酸化焰	橙		丸底で器高は深く、口縁部はほぼ直立する。体 部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	9



出 土 遺 構	押印番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種 別 器 種	規 目 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技法等の特徴	備 考 登録番号
B区 65号 住居跡	140-5	貯蔵穴内 ほぼ定形	土師器 坏 B	器高 5.6 口径 15.8		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状に僅かに内湾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 6
	140-6	貯蔵穴内 定形	土師器 坏 D	器高 3.2 口径 11.3		酸化焰	にぶい 褐	平底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。底部は手持ちの丸削り、口縁部・器内面は横撫で。底部中央部に型風(石目状)の痕跡。	3
	140-7	貯蔵穴内 定形	土師器 坏 D	器高 3.4 口径 13.1		酸化焰	にぶい 褐	平底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。底部は手持ちの丸削り、口縁部・器内面は横撫で。底部中央部に型風(石目状)の痕跡。	5
	140-8	上半部 1/2	土師器 甕	器高(22.0) 口径(18.4)		酸化焰	褐	口縁部は外反する。最大径は口縁部で、胴の張りは緩やかである。胴部外面は縦方向の丸削り、内面は丸調整。口縁部は横撫で。	1
B区 66号 住居跡	141-1	床面直上 1/2	須恵器 高台付椀	器高 (4.9) 口径 16.0 底径 (6.6)		還元焰	にぶい 橙	口縁部はほぼ直線的に立ち上がる。轆轤整形(右回転)、底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	高台欠損 1
	143-1	床面直上 定形	土師器 坏 B	器高 2.9 口径 12.0		酸化焰	にぶい 橙	扁平な丸底で口縁部はやや内湾する。体部は丸削り後軽い横撫で、口縁部・器内面は横撫で。	1
B区 67号 住居跡	143-2	埋土 1/4	土師器 坏 D	器高 (3.3) 口径(12.0)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は有段を呈す。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 4
	143-3	カマド裡 土 1/4	土師器 坏 D	器高 2.5 口径(13.8)		酸化焰	橙	扁平気味の丸底で、口縁部は外傾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 7
	143-4	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 3.6 口径(13.2) 底径 (8.6)		酸化焰	褐	平底外縁を有し、口縁部はやや外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	143-5	カマド裡 土 1/4	須恵器 坏	器高 (3.8) 口径(12.7) 底径 (8.0)		還元焰	灰	平底で口縁部はやや「く」字状に立ち上がる。轆轤整形(右回転)、底部は丸削り。	2
	145-1	床面直上 ほぼ定形	土師器 坏 A	器高 3.3 口径 12.0		酸化焰	橙	丸底で外縁を有すが、器全体が歪んでいるために、口縁部には外反・直立する部分がある。体部は丸削り後横撫で、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 1
B区 68号 住居跡	145-2	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 3.5 口径(10.8)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外傾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 2
	145-3	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 (3.5) 口径(11.8)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外傾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 3
	145-4	埋土 上半部	土師器 甕	器高(20.7) 口径(21.4)		酸化焰	橙	口縁部はやや外反する。胴部の張りは強く、胴部外面は丸調整で、内面は丸調整。口縁部は横撫で。	器面の摩滅が顕著 5
	144-1	カマド内 1/3	土師器 坏 A	器高 (2.8) 口径(11.8)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外傾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
B区 69号 住居跡	144-2	カマド内 1/2	須恵器 坏	器高 4.5 口径(12.0)		還元焰	褐	胴が張り、口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)、底部は回転丸削り。	1
	144-3	床面直上 1/2	土師器 坏 A	器高 3.5 口径(11.4)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部はやや外反する。体部は丸削り後横撫で、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 1
B区 70号 住居跡	146-1	埋土 底部 1/2	土師器 甕	器高 (5.0) 口径 - 底径 5.4		酸化焰	にぶい 橙	器形は不明。胴部外面は縦方向の丸削り、内面は横撫で。	3
	146-2	カマド内 1/3	須恵器 坏	器高 4.3 口径(12.4) 底径 (6.2)		酸化焰	にぶい 褐～褐	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)、底部は回転糸切り後未調整。	1
	147-3	カマド内 上半部 1/3	須恵器 羽釜	器高(12.6) 口径(21.6) 底径 -		還元焰	黄緑	最大径は胴部に有する。口縁部は内湾する。縁作り、轆轤整形。胴部下半部は縦方向の丸削り、甕は貼り付け。	4

出 土 遺 構	棟 号 写真番号	出土位置 遺存状態	種 別 器 種	径目 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技 法 等 の 特 徴	備 考 登録番号
B区 71号 住居跡	147-4 83	カマド内 上半部 1/3	須恵器 羽釜	器高(18.2) 口径(22.2) 底径 -		還元焰	にぶい 黄緑	最大径は胴部に有する。口縁部は内湾する。紐作り、轆轤整形。胴部下半部は縦方向の発削り。踵は貼り付け。	5
B区 72号 住居跡	148-1 83	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高(3.0) 口径(12.9)		還元焰	明褐色	丸底で口縁部は僅かに外反する。体部は惣削り後施で、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩減が顕著 3
	148-2 83	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 4.3 口径(14.6) 底径 (6.0)		還元焰	灰黄褐色	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	148-3 83	カマド内 1/3	須恵器 坏	器高 4.6 口径 15.0 底径 (5.9)		還元焰	にぶい 黄褐色	腰がやや張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	148-4 83	床面直上 8	須恵器 坏	器高(3.3) 口径(13.8) 底径 -		還元焰	灰黄〜 黒褐色	やや内湾気味に立ち上がるが、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。	高台付か? 4
	148-5	カマド内 底部破片	灰釉陶器 高台付板	器高(3.6) 口径 - 底径 (7.8)		灰黄		器形は不明。上半部に浸し掛けによる施釉。高台は貼り付け。	6
B区 74号 住居跡	150-1	埋土 1/5	須恵器 高台付樽	器高(3.4) 口径(15.0) 底径(11.5)		還元焰	灰白	口縁部はほぼ直線的に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転発削り後発調整。	外面に自然釉付着 3
	150-2	埋土 1/4	須恵器 蓋	器高(2.5) 口径(14.8)		還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転発削り。紐部は不明。	内面に自然釉付着 4
B区 75号 住居跡	151-1 83	カマド内 1/3	土師器 坏 C	器高 3.5 口径 12.5		還元焰	にぶい 黄緑	丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は惣削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	151-2 83	床面直上 ほぼ定形	土師器 坏 C	器高 3.5 口径 12.0		還元焰	黄緑	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は惣削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩減が顕著 4
	151-3 83	床面直上 1/3	土師器 坏 D	器高(3.4) 口径(12.0)		還元焰	黄緑	丸底で口縁部は外傾する。体部は惣削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩減が顕著 7
	151-4	埋土 1/4	土師器 坏 D	器高(4.6) 口径(14.9)		還元焰	黄緑	丸底で口縁部はやや直線的に立ち上がる。体部は惣削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩減が顕著 6
	152-5 83	埋土 台部欠損	土師器 台付甕	器高(10.0) 口径 10.0		還元焰	にぶい 赤褐色	口縁部は僅かに外反する。胴部外面は惣削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	器面の摩減が顕著 11
	152-6 83	貯蔵穴内 完形	須恵器 坏	器高 4.0 口径 13.0 底径 6.8		還元焰	褐色	口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	器形の空みが顕著 1
	152-7 83	貯蔵穴内 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 4.4 口径 12.6 底径 6.8		還元焰	灰	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	152-8 83	床面直上 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 4.3 口径 12.7 底径 7.1		還元焰	灰	口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	5
	152-9 83	床面直上 完形	須恵器 蓋	器高 5.0 口径 19.9		還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転発削り、紐部は貼り付け。	10
B区 76号 住居跡	154-1 83	床面直上 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.6 口径 14.2 底径 8.0		還元焰	灰	腰が張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	154-2 83	埋土 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.5 口径 12.7 底径 5.8		還元焰	灰	腰が張り、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	154-3 83	埋土 1/3	灰釉陶器 高台付樽	器高 4.1 口径(13.6) 底径 (7.0)		灰白		腰が張り、口縁部は外反する。底部は惣削り後糸切り痕を消す。内面にとちんによる重なり焼の痕跡。	施釉は内面のみ 4

出 土 機	押戻番号 写真番号	出土位置 遺存状況	種 別	別 種	度 目 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技法等の特徴	備 考 登録番号
B区 77号 住居跡	156-1 83	カマド内 上半部	土師器	甕	器高(14.6) 口径 20.4 底径 -		酸化焰	橙	口縁部はやや外反する。最大径は胴部上半部、 腰の張り強い。胴部外面は横・斜方向の鋭削り、 内面は撫で、口縁部は横撫で。	6
	156-2 83	埋土 1/2	須恵器	坏	器高 5.1 口径 12.9 底径 6.2		還元焰	灰黄	腰がやや張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	内面黒色 処理 1
	156-3 83	埋土 1/3	須恵器	坏	器高 3.8 口径(12.6) 底径 (7.6)		還元焰	灰黄	腰が僅かに張り、口縁部はやや外反する。轆轤 整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
B区 78号 住居跡	157-1 84	カマド内 1/4	土師器	坏 A	器高 5.6 口径(18.0)		酸化焰	橙	丸底で器高が高く、外縁を有す。口縁部はやや 外反する。体部は鋭削り後撫で、口縁部・器内 面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 2
	157-2 84	カマド内 1/4	土師器	坏 A	器高(6.2) 口径(17.8)		酸化焰	橙	丸底で器高が高く、外縁を有す。口縁部はやや 外反する。体部は鋭削り後撫で、口縁部・器内 面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1
B区 80号 住居跡	158-1	床面直上 1/2 底部完形	須恵器	高台付甕	器高 2.7 口径(14.0) 底径 7.6		還元焰	灰	器高は浅い。轆轤整形(右回転)。底部は回転 糸切り後未調整。高台は張り付け。	内面に自 然釉付着 3
	158-2	埋土 底部	須恵器	高台付甕	器高(3.0) 口径 - 底径 8.0		還元焰	灰白	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2
B区 81号 住居跡	159-1 84	貯蔵穴内 ほぼ完形	土師器	甕 C	器高 3.2 口径 12.3		酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部は僅かに外反する。体部は鋭削り、 口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1
	159-2 84	貯蔵穴内 底部	土師器	甕	器高(11.1) 口径 - 底径 5.8		酸化焰	黒褐	上半部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方 向の鋭削り、内面は撫撫で。	3
	160-3 84	埋土 1/2	須恵器	坏	器高 3.8 口径(14.9) 底径 11.3		還元焰	白灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整 形(右回転)。底部は回転鋭切り後未調整。	2
	160-4 84	埋土 頸部 1/2	須恵器	甕	器高(8.3) 口径(26.5) 底径 -		還元焰	灰	胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。 胴部外面は平行叩き、内面はあて具の青海波文 の叩き整形。	4
B区 82号 住居跡	161-1 84	カマド内 口縁部 1/5	土師器	甕	器高(6.2) 口径(21.0) 底径 -		酸化焰	にぶい 赤褐	胴部欠損のため器形は不明。口縁部は外反する。 胴部外面は鋭削り、内面は撫で、口縁部は横撫 で。	4
	161-2 84	床面直上 1/2 底部完形	須恵器	坏	器高 4.2 口径(12.7) 底径 8.0		還元焰	灰	口縁部はほぼ直線的に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	161-3 84	床面直上 1/2	須恵器	坏	器高 3.4 口径 12.0 底径 7.0		還元焰	灰	腰は張らず、口縁部はやや外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	161-4 84	床面直上 下半部 1/2	須恵器	甕 衣	器高(16.0) 口径 - 底径 10.0		還元焰	褐灰	胴は張るが、口縁部欠損のため器形は不明。紐 作り。轆轤整形。底部は糸切り。高台は貼り付 け。	5
	162-1 83	埋土 口縁部 1/4	土師器	甕	器高(7.6) 口径(19.2) 底径 -		酸化焰	橙	胴部欠損のため器形は不明。口縁部は「コ」字 状口縁に近い。紐作り。胴部外面は横方向の鋭 削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	3
162-2 84	埋土 口縁部 1/6	土師器	甕	器高(6.0) 口径(19.2) 底径 -		酸化焰	明赤褐	器形は不明。「コ」字状口縁を有する。紐作り。 胴部外面は横方向の鋭削り、内面は撫で、口縁 部は横撫で。口縁部に指頭痕が認められる。	4	
163-3 84	床面直上 完形	須恵器	坏	器高 3.7 口径 12.8 底径 6.9		還元焰	褐灰	口縁部はほぼ直線的に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	底部に粘 土塊付着 1	
163-4 84	埋土 底部	須恵器	坏	器高(2.1) 口径 - 底径(7.4)		還元焰	黄灰- 灰黄褐	体部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。 底部は回転糸切り後未調整。	2	
163-5 84	埋土 頸部欠損 1/2	須恵器	甕	器高(7.5) 口径 -		還元焰	灰	器形は不明。轆轤整形(右回転)。上半部は回 転鋭削り。紐部は貼り付け。	5	

出土 遺構	検出番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種類 別称	径目 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
B区 83号 住居跡	163-6	埋土 上半部欠 損・1/6	須恵器 蓋	器高 (2.5) 口径 17.2		還元焰	灰白	口縁部は下方に折り落ち。轆轤整形(右回転)。	6
B区 84号 住居跡	165-1 84	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 3.1 口径 11.3		酸化焰	明赤褐色	丸底で外縁を有し、口縁部は外傾する。体部は 鋭削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 8
	165-2	埋土 底部	土師器 婁	器高 (4.0) 口径 - 底径 3.6		酸化焰	にぶい 黄橙	底部のみの残存で器形は不明。胴部外面は鋭削り、 内面は横撫で。内面底部付近に炭の着て痕 が多数認められる。	15
	165-3	埋土 底部	土師器 婁	器高 (7.4) 口径 - 底径 4.9		酸化焰	灰褐	上半部欠損のための器形は不明。胴部外面は鋭削り。 内面は横撫で。	外面に付 着物多い 16
	165-4	埋土 台部? 1/2	土師器 台付婁?	器高 (3.3) 口径(11.7) 底径 -		酸化焰	灰白	器形は不明。	17
	165-5 84	床面直上 完形	須恵器 坏	器高 2.4 口径 9.9 底径 6.0		還元焰	にぶい 黄橙	小型で器高が低く、口縁部は僅かに内湾気味に 立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転 糸切り後未調整。	1
	165-6 84	床面直上 完形	須恵器 坏	器高 2.1 口径 10.9 底径 5.0		還元焰	にぶい 橙	小型で器高が低く、口縁部は僅かに内湾気味に 立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転 糸切り後未調整。	内面に横 付着 2
	165-7 84	床面直上 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 2.1 口径 10.0 底径 5.0		還元焰	浅黄	小型で器高が低く、口縁部は僅かに内湾気味に 立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転 糸切り後未調整。あるいは静止糸切りか。	3
	165-8 84	床面直上 底部完形 1/2	須恵器 坏	器高 2.4 口径 9.8 底径 5.0	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	還元焰	にぶい 褐	小型で器高が低く、口縁部は僅かに内湾気味に 立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転 糸切り後未調整。器内面は横で。	口縁に歪 み 4
	165-9 84	床面直上 1/2	須恵器 坏	器高 (2.1) 口径 10.2 底径 6.1	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	還元焰	にぶい 褐	小型で器高が低く、口縁部は僅かに内湾気味に 立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転 糸切り後未調整。器内面は横で。	5
	165-10 84	床面直上 1/2	須恵器 坏	器高 (2.2) 口径 (9.8) 底径 (5.1)		還元焰	浅黄	小型で器高が低く、口縁部は僅かに内湾気味に 立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転 糸切り後未調整。	6
	165-11 84	床面直上 1/2	須恵器 坏	器高 2.3 口径 10.2 底径 4.7		還元焰	浅黄橙	小型で器高が低く、口縁部は僅かに内湾気味に 立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転 糸切り後未調整。	7
	165-12	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 1.6 口径 10.4 底径 10.0		還元焰	にぶい 黄橙	小型で器高が低く、口縁部は僅かに内湾気味に 立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転 糸切り後未調整。	9
	166-13 84	床面直上 1/2	須恵器 坏	器高 4.6 口径 14.8 底径 8.0	白色炭物粒子	還元焰	にぶい 橙	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	10
	166-14 84	床面直上 ほぼ完形 高台付輪	須恵器 高台付輪	器高 4.5 口径 9.8 底径 5.8		還元焰	黒	腹に張りがみられ、口縁部は僅かに外反する。 轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台 は貼り付け。	内・外面 黒色処理 13
	166-15	カマド内 口縁部 1/4	須恵器 羽釜	器高 (6.4) 口径(20.8) 底径 -		還元焰	橙	口縁部は内湾する。口唇部は平坦に近い。肩は 断面三角形状で、貼り付け。皿当て痕が認めら れる。最大径は胴部上半部に有する。	18
	166-16 84	床面直上 ほぼ完形 高台付輪	灰釉陶器 高台付輪	器高 7.3 口径 16.0 底径 8.0		灰白		腹に張りがみられ、口縁部は外反する。底部は 厚く、糸切り痕が残る。高台は貼り付け後撫で 調整。	内面に重 ね焼き痕 12
B区 85号 住居跡	167-1 85	床面直上 完形	土師器 坏 A	器高 3.5 口径 11.0		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は鋭削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 2
	167-2 85	床面直上 1/2	土師器 坏 A	器高 3.7 口径(11.6)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外傾する。体部は 円周方向の鋭削り、口縁部・器内面は横撫で。	4
	167-3 85	床面直上 完形	土師器 坏 C	器高 3.7 口径 11.7		酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部は僅かに外傾する。体部は鋭削り、 口縁部・器内面は横撫で。	1

出 土 遺 跡	所属番号 写式番号	出土位置 遺存状態	種 別	測 定 目 (cm)	胎 土	焼 成 色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考 登録番号
B区 85号 住居跡	167-4	埋土	土師器 壺	器高 3.8 口径 14.4		酸化焰 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。器面の磨減が顕著	3
	167-5	床面直上 口縁部 1/4	土師器 壺	器高 (5.0) 口径 (12.6) 底径 -		酸化焰 橙	胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の匏削り、内面は撫で、口縁部は横撫で。	6
	167-6	埋土 1/6	須恵器 高台付杯	器高 (3.7) 口径 (17.0) 底径 (13.0)		還元焰 灰黒	底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部の調整は不明。高台は貼り付け。	5
B区 86号 住居跡	169-1	床面直上 1/2	土師器 壺	器高 3.0 口径 11.6		酸化焰 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾する。器面は匏削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	169-2	床面直上 1/2	土師器 壺	器高 4.7 口径 15.0		酸化焰 灰白	丸底で口縁部は直線的に外傾する。器面は匏削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の磨減が顕著
	169-3	埋土 上半部 1/4	土師器 壺	器高 (9.0) 口径 (21.2) 底径 -		酸化焰 明赤褐	下半部欠損のため器形は不明。口縁部は外反する。胴部外面は匏削り、内面は撫で、口縁部は横撫で。	3
	169-4	埋土 1/2	須恵器 壺	器高 3.5 口径 (12.3)		還元焰 灰	丸底の蓋形の坏身で、口縁部は強く内傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転削り。	4
B区 87号 住居跡	169-6	埋土 ほぼ定形	土師器 壺 A	器高 3.4 口径 10.5		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外傾する。器面は匏削り後撫で、口縁部・器内面は横撫で。	器面の磨減が顕著
	169-7	埋土 底部 1/4	須恵器 高台付輪	器高 (2.8) 口径 - 底径 (9.8)		還元焰 灰	胴部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)、底部は回転削り後調整。高台は貼り付け。	1
B区 88号 住居跡	170-1	埋土 口縁部 1/4	土師器 壺	器高 (5.4) 口径 (20.0) 底径 -		酸化焰 明赤褐	胴部欠損のため器形は不明。口縁部は外反する。胴部外面は匏削り、内面は撫で、口縁部は横撫で。	3
	170-2	埋土 底部 高台欠損	須恵器 高台付輪	器高 (2.0) 口径 - 底径 (5.7)		還元焰 灰白 黒褐	胴部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)、底部は回転削り。高台は貼り付け。	1
	170-3	床面直上 上半部欠 損・1/5	須恵器 壺	器高 (1.8) 口径 (14.9)		還元焰 灰	口縁部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)、器面は不明。	上面に自然熱付着
B区 89号 住居跡	171-1	埋土 上半部 1/10	土師器 台付壺	器高 (7.4) 口径 (10.5) 底径 -		酸化焰 灰白	口縁部はやや外反するが、底部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の匏削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	4
	171-2	床面直上 口縁部 1/2	土師器 壺	器高 (7.8) 口径 (20.4) 底径 -		酸化焰 橙	口縁部はほぼ直立する。胴部外面は縦方向の匏削り、内面は匏削り後撫で、口縁部は横撫で。	1
B区 90号 住居跡	172-1	埋土 ほぼ定形	土師器 壺 D	器高 4.0 口径 12.8 底径 7.0		酸化焰 橙	ほぼ平底で口縁部は先端が僅かに内湾する。底部・器面は匏削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面に放射状磨文
	173-2	床面直上 口縁部 1/2	土師器 壺	器高 (6.8) 口径 19.8 底径 -		酸化焰 橙	口縁部は外反する。胴部外面の上半部は横方向の匏削り、内面は撫で、口縁部は横撫で。	6
	173-3	床面直上 1/2	須恵器 壺	器高 3.8 口径 14.2 底径 8.0		還元焰 灰白	腰が張り、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転削り後未調整。	3
	173-4	貯蔵内 ほぼ定形	須恵器 壺	器高 3.3 口径 11.5 底径 6.3		還元焰 灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転削り後未調整。	1
	173-5	埋土 1/2	須恵器 壺	器高 3.2 口径 (11.7) 底径 (7.1)		還元焰 黒褐	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転削り後未調整。	4
	173-6	カマド内 1/4	須恵器 壺	器高 3.5 口径 (11.9) 底径 (6.6)		還元焰 灰	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転削り後未調整。	5

出土遺構	棟号	棟内位置 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	口径(cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
B区 2号 住居跡		174-1 86	床面直上 完形	土師器 坏 A	器高 3.3 口径 11.1		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 1
		174-2 86	床面直上 完形	土師器 坏 A	器高 3.3 口径 11.1		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 2
		174-3 86	床面直上 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.4 口径 12.0		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部はやや外反する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 3
		174-4 86	ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.7 口径 11.4		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部はやや外反する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 4
		174-5 86	床面直上 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.8 口径 11.5		酸化焰 黒褐色	九底で外縁を有し、口縁部は強く外反する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 5
		174-6 86	床面直上 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.2 口径 11.3		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 6
		174-7 86	床面直上 1/2	土師器 坏 A	器高 3.0 口径 10.6		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部は強く外反する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	7
		175-8 86	カマド内 ほぼ完形	土師器 甕	器高(35.5) 口径 22.4 底径 4.3		酸化焰 黒	口縁部は外反する。胴部外面の上半部は横方向、下半部は斜方向の甍削り、内面は甍削り後撫で、口縁部は横撫で。	8
		175-9 86	カマド内 ほぼ完形	土師器 甕	器高(36.6) 口径 21.6 底径 5.8		酸化焰 橙	口縁部は外反する。胴部外面の上半部は横方向、下半部は斜方向の甍削り、内面は甍削り後撫で、口縁部は横撫で。	9
		175-10	カマド内 1/2	土師器 甕	器高(16.0) 口径 16.4		酸化焰 明褐色	口縁部は外反する。胴部外面は横・斜方向の甍削り、内面は甍撫で、口縁部は横撫で。	11
		175-11 86	床面直上 上半部 1/2	土師器 甕	器高(13.4) 口径 16.9 底径 -		酸化焰 にぶい 橙	下半部欠損のため器形は不明。口縁部は外反する。胴部外面は横方向の甍削り、内面は撫で、口縁部は横撫で。	12
B区 93号 住居跡		176-1 86	埋土 1/5	土師器 坏 A	器高(2.9) 口径(11.0)		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部は外傾する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
		176-2 86	埋土 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.6 口径 13.8		酸化焰 橙	九底で口縁部はほぼ直立する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
B区 1号 溝		177-1 86	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高(3.2) 口径(10.9)		酸化焰 橙	九底で口縁部は僅かに内湾気味に立ちあがる。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 3
		177-2 86	埋土 1/3	土師器 坏 A	器高(3.0) 口径(11.6)		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 2
		177-3 86	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高(2.8) 口径(12.5)		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部は僅かに外傾する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 1
		177-4 86	埋土 胴部 1/2	須恵器 横版	器高(7.8) 口径 -		還元焰 灰	器形、及び口縁部欠損のため器形は不明。体部は甍削り。	4
B区 6号 溝		179-1 86	埋土 完形	土師器 坏 A	器高 3.5 口径 10.8		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
		179-2 86	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高(3.3) 口径(10.4)		酸化焰 橙	九底で口縁部は「く」字状に内傾する。体部は甍削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
B区 9号 溝		181-1	埋土 底部	須恵器 高台付輪	器高(3.2) 口径 - 底径 8.2		還元焰 灰	口縁部欠損のため器形は不明。輪縁部(右回転)。底部は固転糸切り。高台は貼り付け。	1

出土遺物	持国番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種類 別称	寸法 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備 考 登録番号
B区 10号 溝	179-3	埋土 底部 1/2	須恵器 甕	器高 (1.8) 口径 底径 7.0	黒色黏物粒子	還元焰 灰	平底だが、口縁部欠損のため器形は不明。底部は丸削り後焼直し。	1
B区 11号 溝	179-4 87	埋土 完形	土師器 坏 A	器高 3.7 口径 10.9		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	179-5	埋土 高台欠損 1/4	須恵器 高台付輪	器高 (4.1) 口径 (15.7) 底径 (7.4)		還元焰 灰	腰が張り、口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2
	179-6	埋土 底部 1/4	須恵器 鉢	器高 (7.4) 口径 - 底径 -	石英	還元焰 灰黄	轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	3
B区 11・12 号溝	179-7 87	埋土 1/2	土師器 坏 A	器高 (3.0) 口径 (11.4)		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部はほぼ直立する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	179-8	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 (4.0) 口径 (9.8) 底径 (4.7)		還元焰 橙	腰が僅かに張り、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。回転糸切り後未調整。	2
	179-9	埋土 底部 1/2	須恵器 高台付輪	器高 (2.7) 口径 - 底径 (7.0)		還元焰 灰白	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	器面の摩 減が顕著 5
	179-10	埋土 高台欠損 底部1/2	須恵器 高台付輪	器高 (2.3) 口径 - 底径 (8.4)		還元焰 灰	腰の張りは弱く、口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
	179-11	埋土 頸部	須恵器 長頸甕?	器高 (7.1) 口径 - 底径 -		還元焰 灰白	肩部、及び口縁部欠損のため器形は不明。紐作り、轆轤整形。	7
B区 12号 溝	179-12	埋土 底部 1/2	須恵器 高台付輪	器高 (2.6) 口径 - 底径 (9.0)		還元焰 灰白	体部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2
	179-13	埋土 1/2	灰輪陶器 高台付輪	器高 5.2 口径 (17.8) 底径 (9.4)		灰白	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形。底部は回転調整。高台は貼り付け。	1
B区 13号 溝	179-15	埋土 1/8	須恵器 坏	器高 (4.4) 口径 (14.2) 底径 (5.5)		還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的で外傾する。轆轤整形 (右回転)。回転糸切り後未調整。	高台付輪 か? 1
	179-16	埋土 1/2	須恵器 高台付輪	器高 (4.8) 口径 - 底径 (7.7)		還元焰 灰白	腰の張りは弱く、口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2
B区 地下式 土坑	182-1 87	床面直上 完形	須恵器 坏	器高 4.4 口径 13.5 底径 6.7	白色黏物粒子	還元焰 灰	腰が僅かに張り、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	182-2 87	床面直上 完形	須恵器 坏	器高 3.7 口径 12.8 底径 6.0		還元焰 灰	腰が僅かに張り、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	182-3 87	床面直上 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.8 口径 13.4 底径 7.0		還元焰 灰	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	3
	182-4 87	床面直上 完形	須恵器 高台付輪	器高 5.4 口径 14.2 底径 6.9		還元焰 灰白	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
	182-5 87	床面直上 ほぼ完形	須恵器 高台付輪	器高 5.1 口径 13.4 底径 6.2		還元焰 灰黄	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	5
	182-6 87	床面直上 ほぼ完形	灰輪陶器 瓶	器高 13.5 口径 5.2 底径 8.2		灰	胴は強く張り、頸部は細く、口縁部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	6
B区 1号 井戸	186-1 87	埋土 上半部	土師器 甕	器高 (7.7) 口径 13.6 底径 -		酸化焰 橙	口縁部は外反する。紐作り、胴部外面は丸削り内面は調整。口縁部は横撫で。	2

出土遺構	検出番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	口径 (mm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
B区 1号 井戸	186-2 87	埋土 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.5 口径 11.2 底径 7.0		還元焰 灰	腰が僅かに張り、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形（右回転）。底部は回転糸切り後未調整。	1
	189-1	1/2	土師器 坏 A	器高 3.6 口径(10.4) 底径		酸化焰 明赤褐	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は匙削り、口縁部・器内面は横撫で。	5
B区 一帖	189-2	口縁部 1/2	須恵器 壺	器高 7.8 口径(18.5) 底径		還元焰 にぶい 黄	胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。	5
	189-3	1/4	須恵器 坏	器高(3.5) 口径(10.5) 底径		還元焰 灰	丸底で口縁部は外傾する。轆轤整形（右回転）。	2
	189-4	1/4	須恵器 坏	器高(2.1) 口径(9.0) 底径(5.2)		還元焰 灰	平底で口縁部は僅かに外傾する。轆轤整形（右回転）。底部は回転糸切り後未調整。	3
	189-5 87	1/2	須恵器 高台坏柄	器高 7.1 口径 16.6 底径 8.3		還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形（右回転）。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	1
	189-6	胴部	須恵器 罍	器高(5.4) 口径 -		還元焰 灰	胴部、及び底部欠損のため器形は不明。轆轤整形。胴部に修状工具による区別沈線と、擦掻き点列文を施す。	4
	189-7	頸部 1/2	須恵器 壺	器高(9.7) 口径 - 底径 -		還元焰 明灰	密部、及び口縁部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。	3
	189-8	縁部欠損 1/4	須恵器 壺	器高(4.6) 口径(16.0)		還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形（右回転）。外面に自然輪付着	2
	189-9	口縁 1/8	須恵器 羽釜	器高(8.4) 口径(20.1) 底径		還元焰 にぶい 黄	口縁部は僅かに内湾するが、下半部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。肩は貼り付け。	4
	C区 1号 住居跡	190-1 88	カマド埋 り方 完形	土師器 坏 B	器高 4.3 口径 16.5		酸化焰 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は匙削り、口縁部・器内面は横撫で。
190-2 88		埋土 1/2	土師器 坏 B	器高 3.8 口径(12.7)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は匙削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の厚 減が顕著 2
190-3		カマド埋 土 1/4	土師器 坏 B	器高(3.6) 口径(13.7)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は内湾する。体部は匙削り、内面は撫で、口縁部は横撫で。	5
190-4		カマド埋 土 1/4	土師器 坏 B	器高 3.7 口径(14.0)		酸化焰 橙-い ぶい橙	丸底で口縁部は内湾し、先端で「く」字状を呈する。体部は匙削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の厚 減が顕著 4
191-4		カマド埋 土 1/4	土師器 坏 B	器高 3.7 口径(14.0)		酸化焰 橙-い ぶい橙	丸底で口縁部は内湾し、先端で「く」字状を呈する。体部は匙削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の厚 減が顕著 4
191-6 88		埋土 ほぼ完形	土師器 坏 D	器高 2.9 口径 11.9 底径 8.4		酸化焰 明赤褐	底部は平底さみで、口縁部は先端で僅かに内湾するが、全体的にはほぼ直線的に外傾する。体部・底部は匙削り、口縁部は横撫で。	器面の厚 減が顕著 3
191-7 88		カマド埋 土・口縁 部 2/3	土師器 壺	器高(16.5) 口径 16.8 底径 -		酸化焰 にぶい 橙	口縁部は外反する。胴部外面は横及び斜方向の匙削り、内面は横方向の撫で、口縁部は横撫で。	17
191-8 88		カマド内 1/3	須恵器 坏	器高 4.4 口径(14.8)	白色鉱物粒子	還元焰 にぶい 黄	丸底で口縁部は直線的に外傾する。轆轤整形（右回転）。体部は匙削り後撫で調整。	7
191-9		埋土 底部 1/2	須恵器 高台付柄	器高(2.3) 口径 - 底径 6.1		還元焰 白灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形（右回転）。底部は回転糸切り後未調整。	9
191-10		埋土 底部 2/3	須恵器 坏	器高 4.2 口径 - 底径(8.0)		還元焰 灰	口縁部欠損のため、器形は不明。轆轤整形（右回転）。底部は回転糸切り後未調整。	10



出土遺構	検出番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 別種	径目 (mm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	発掘 登録番号
C区 1号 住居跡	192-11	埋土 底部	須恵器 坏	器高 (1.1) 口径 - 底径 (7.6)	黒色鉱物粒子	還元焰 灰白	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	11
	192-12	埋土 底部 1/5	須恵器 高台付轆 轤	器高 (4.2) 口径 - 底径 8.8		還元焰 灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	13
	192-13	埋土 底部破片	須恵器 盤	器高 (2.1) 口径 - 底径 (14.0)		還元焰 灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	12
	192-14	埋土 1/5	須恵器 盤	器高 (4.2) 口径 (19.8) 底径 (14.8)		還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り出し。	8
	192-15	埋土 底部	須恵器 蓋	器高 - 口径 -		還元焰 灰	轆轤整形。	16
	192-16	埋土 1/5	須恵器 蓋	器高 2.2 口径 (6.4)		還元焰 灰	口唇部は下方に折り返すものの、欠損している。轆轤整形 (右回転)。蓋部は貼り付け。	15
C区 2号 住居跡	194-1	埋土 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.6 口径 12.1 底径 8.4		焙 にぶい 橙	口縁部は外傾する。轆轤整形 (右回転)。体部・口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 1
	194-2	埋土 土師器 台付夾	土師器 台付夾	器高 (7.4) 口径 - 底径 -		酸化焰 にぶい 赤褐	口縁部、及び台部欠損のため器形は不明。	6
	194-3 88	埋土 1/2	須恵器 高台付轆 轤	器高 5.6 口径 (15.6) 底径 (9.6)		還元焰 灰黄褐	腰の張りは弱く、口縁部は外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2
	194-4	埋土 1/2	須恵器 高台付轆 轤	器高 (2.5) 口径 - 底径 (7.8)		還元焰 灰	坏部を欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	7
	194-5 88	埋土 高台付轆 轤	須恵器 高台付轆 轤	器高 (5.5) 口径 - 底径 (10.0)		還元焰 褐灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	3
	194-6	埋土 底部 1/3	須恵器 高台付轆 轤	器高 (3.2) 口径 - 底径 (8.2)		還元焰 灰黄	口縁部は欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
C区 3号 住居跡	195-1	埋土 口縁部 1/5	土師器 甕	器高 (4.8) 口径 (20.8) 底径 -		酸化焰 橙	口縁部は外反するが、体部欠損のため器形は不明。	3
	195-2 88	埋土 ほぼ完形	土師器 甕	器高 13.3 口径 12.3		酸化焰 にぶい 橙	口縁部は外反する。胴部外面は横方向の磨削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	10
	195-3	埋土 台部	土師器 台付夾	器高 (5.2) 口径 - 底径 9.8		酸化焰 明赤褐	体部欠損のため器形は不明。胴部外面は縦方向の磨削り。内面は横撫で、台部は横撫で。	6
	195-4	埋土 台部 1/3	土師器 台付夾	器高 (3.3) 口径 - 底径 (8.9)		酸化焰 明赤褐	体部欠損のため器形は不明。台部は横撫で。	7
	195-5 88	床面直上 1/3	須恵器 高台付轆 轤	器高 5.9 口径 15.0 底径 6.8		還元焰 灰白	腰は僅かに張り、口縁部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	1
	195-6	カマド内 底部	須恵器 坏	器高 (3.0) 口径 - 底径 5.5		還元焰 灰白	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2
	195-7 88	床面直上 上半部 1/4	須恵器 羽釜	器高 (13.1) 口径 (19.0) 底径 -		還元焰 にぶい 橙	口縁部は内湾するが、下半部欠損のため器形は不明。横作り。轆轤整形。罫は貼り付け。	4
	195-8	埋土 口縁部 1/6	須恵器 羽釜	器高 (9.6) 口径 (19.2) 底径 -		還元焰 灰	口縁部は内湾するが、下半部欠損のため器形は不明。横作り。轆轤整形。罫は貼り付け。	5
C区 6号 住居跡	197-1 88	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 4.1 口径 (12.8) 底径 (5.6)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	腰の張りは弱く、先端部は僅かに外反するものの、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1

出土 遺構	縄文番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	径目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 6号 住居跡	197-2	埋土 1/5	須恵器 坏	器高 4.1 口径(13.8) 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	浅黄	腰の張りが高く、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形。底部は欠損のため不明。	2
	197-3	埋土 1/5	須恵器 坏	器高 3.7 口径(13.6) 底径 (8.4)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り後未調整。	3
	197-4	埋土 底部 1/6	須恵器 高台付輪	器高 (2.1) 口径 - 底径 (6.2)	白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	5
	197-5	埋土 底部 1/2	須恵器 高台付輪	器高 (1.6) 口径 - 底径 (6.5)		還元焰	灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	4
	197-6	埋土 底部 1/5	須恵器 高台付輪	器高 (2.0) 口径 - 底径(13.1)		還元焰	白灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	6
	197-7	埋土 口縁部	須恵器 羽釜	器高 (6.0) 口径(18.8) 底径 -		焰	橙	口縁部は内湾するが、器形は不明。紐作り。轆轤整形。胴は貼り付け。	7
	C区 7号 住居跡	198-1 88	床面直上 完形	土師器 坏 C	器高 3.3 口径 10.7		酸化焰	橙	丸底で口縁部はほぼ直立的。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。
198-2 88		カマド内 完形	土師器 坏 C	器高 3.2 口径 10.6		酸化焰	橙	丸底で口縁部はほぼ直立的。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
198-3 88		掘り方 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.5 口径 10.4		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	体部の半分は黒色 3
198-4		埋土 1/3	土師器 坏 A	器高 (2.7) 口径(11.8)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	体部の半分は黒色 5
198-5		埋土 1/4	土師器 坏 B	器高 (5.0) 口径(14.8)		酸化焰	橙	底部は欠損しているが、丸底と考えられる。口縁部はやや内湾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	4
198-6 88		カマド内 口縁部へ 底部・1/2	土師器 葉	器高 26.9 口径 18.3	白色鉱物粒子	酸化焰	黒褐	口縁部は外反する。紐作り。胴部外面は丸削り内面は横撫で、口縁部は横撫で。	12
199-7 88		床面直上 台部欠損 3/4	土師器 台付葉	器高(11.4) 口径 12.9 底径 -		酸化焰	赤褐	口縁部は外反する。紐作り。胴部外面は丸削り内面は横撫で、口縁部は横撫で。	器面の摩 減が顕著 7
199-8		埋土 台部欠損 1/4	土師器 台付葉	器高 (7.3) 口径(11.0) 底径 -		酸化焰	橙	口縁部は僅かに外反する。紐作り。胴部外面は丸削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	器面の摩 減が顕著 9
C区 9号 住居跡		200-1	埋土 1/4	土師器 坏 D	器高 2.1 口径(15.2) 底径(13.2)		酸化焰	橙	平底気味な底部で器高は低く、口縁部はほぼ直線的に外傾する。底部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。
	200-2	南壁際 1/5	土師器 坏 D	器高 (2.6) 口径(11.6) 底径(13.2)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で器高は低く、口縁部は外反気味に立ち上がる。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 2
	200-3	埋土 1/5	土師器 坏 C	器高 (3.3) 口径(11.6)		酸化焰	橙	底部は欠損しているが、丸底と考えられる。口縁部はほぼ直立的。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 3
	200-4	埋土 底部 1/2	須恵器 高台付輪	器高 (2.8) 口径 - 底径 (7.0)		還元焰	灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	4
C区 10号 住居跡	202-1 89	床面直上 ほぼ完形	土師器 坏 C	器高 3.2 口径 12.4		酸化焰	にぶい 赤褐	平底気味で、口縁部は内湾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1
	202-2	埋土 1/4	土師器 坏 D	器高 (3.2) 口径(13.6) 底径 (9.9)		酸化焰	橙	平底で口縁部は内湾気味に外反する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 6

出土遺構	検出番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 別種	径目 (cm)	胎土	施成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 10号 住居跡	202-3	埋土 口縁部 1/2	土師器 壺	器高 (8.0) 口径(19.8) 底径 -		酸化焰 橙	「コ」字状口縁を呈し、口唇部は外反する。胴部外面は横方向の彫り、内面は縦溝で、口縁部は横溝で。	器面の摩滅が顕著 25
	202-4 89	埋土 1/2	須恵器 杯	器高 3.9 口径 13.0 底径 6.8		還元焰 灰白	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り後未調整。	2
	202-5 89	カマド埋 土 1/2	須恵器 杯	器高 3.1 口径(12.3) 底径 7.6	黒色炭物粒子 白色炭物粒子	還元焰 灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り後未調整。	底部に粘土層付着 3
	202-6 89	埋土 1/3	須恵器 杯	器高 (2.7) 口径(12.1) 底径 (7.1)		還元焰 灰	口縁部は僅かに内湾する。轆轤整形 (右回転) 底部は回転赤切り後未調整。	口縁部に 歪み 4
	202-7 89	埋土 2/3	須恵器 杯	器高 3.5 口径(13.4) 底径 7.7		還元焰 灰	口縁部は僅かに内湾する。轆轤整形 (右回転) 底部は回転赤切り後未調整。	5
	202-8	埋土 1/4	須恵器 杯	器高 3.9 口径(12.7) 底径 (6.2)		還元焰 灰	口縁部は僅かに内湾する。轆轤整形 (右回転) 底部は回転赤切り後未調整。	底部摩滅 7
	202-9	埋土 1/2	須恵器 杯	器高 3.5 口径(12.5) 底径 (7.9)	黒色炭物粒子	還元焰 灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り後未調整。	水洗ぎ痕 8
	202-10	埋土 1/4	須恵器 杯	器高 3.7 口径(13.2) 底径 6.0		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転) 底部は回転赤切り後未調整。	9
	202-11 89	埋土 1/4	須恵器 杯	器高 3.4 口径(12.3) 底径 6.4		還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り後未調整。	10
	202-12	カマド埋 土 1/3	須恵器 杯	器高 3.5 口径(12.8) 底径 (7.6)		還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り後未調整。	11
	202-13	埋土 1/4	須恵器 杯	器高 3.5 口径(13.2) 底径 (7.3)		還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り後未調整。	12
	202-14	埋土 1/3 高台付輪	須恵器 高台付輪	器高 6.1 口径(14.8) 底径 9.4		還元焰 灰白	腰が張らず、口縁部は外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り。高台は貼り付け。	13
	203-15 89	埋土 1/2 高台付輪	須恵器 高台付輪	器高 5.4 口径(14.8) 底径 (6.8)		還元焰 褐灰	腰が張り、口縁部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り。高台は貼り付け。	14
	203-16 89	埋土 1/2 高台付輪	須恵器 高台付輪	器高 (6.0) 口径(15.0) 底径 (9.0)		還元焰 灰	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り。高台は貼り付け。	高台欠損 16
203-17	埋土 1/3 高台付輪	須恵器 高台付輪	器高 (4.9) 口径(14.1) 底径 -		還元焰 灰白	腰に張りはみられず、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り。高台は貼り付け。	17	
203-18 89	埋土 1/2	須恵器 蓋	器高 3.1 口径(11.2)	白色炭物粒子	還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)。上半部は回転彫り、下半部・内面は溝で。蓋部は貼り付け。	19	
203-19	埋土 欠損	須恵器 蓋	器高 (2.6) 口径 -		還元焰 灰	口唇部は欠損のため不明。轆轤整形 (右回転) 上半部は回転彫り、下半部・内面は溝で。蓋部は貼り付け。	20	
203-20	埋土 前部 1/2	須恵器 長頸壺	器高 (9.3) 口径 - 底径 -		還元焰 褐灰	口縁部及び底部欠損のため、器形は不明。継作り。轆轤整形。	22	
C区 11号 住居跡	206-1	埋土 底部欠損 1/2	土師器 D	器高 (3.5) 口径(13.0) 底径 (9.3)		酸化焰 橙	底部は欠損しているが、平底傾向が顕著である。口縁部はほぼ直線的に外傾する。彫り後調整。口縁部は横溝で、底部は彫り。	体部に脂 埋さへ痕 31
	206-2 89	貯蔵穴内 台部	土師器 台付壺	器高 (4.2) 口径 - 底径 9.0		酸化焰 褐	体部欠損のため器形は不明。台部は横溝で。	14

出 土 構	押戻番号 写真番号	出土位置 遺存状況	種 別 器 種	度 目 (cm)	胎 土	焼 成 色 調	器 形・技法等の特徴	備 考 登録番号
C区 11号 住居跡	206-3 89	掘り方壇 土・高台	土師器 台付甕	器高(3.2) 口径 ー 底径 9.0	ー	酸化焰 にぶい 澄ー	体部欠損のため器形は不明。高台は横溝で。	13
	206-4 89	貯蔵穴内 高台	土師器 台付甕	器高(3.3) 口径 ー 底径 8.6	ー	酸化焰 明赤焰	体部欠損のため器形は不明。高台は横溝で。内面に甕状工具の当て痕が認められる。	15
	206-5 89	カマド内 上半部	土師器 甕	器高(13.4) 口径(19.6) 底径 ー	ー	酸化焰 明赤焰	口縁部は外傾し、胴部外面は横方向の掘削り、口縁部・胴部内面は横溝で。	10
	206-6	カマド内 口縁部	土師器 甕	器高(4.7) 口径(21.2) 底径 ー	ー	酸化焰 明赤焰	「コ」字状口縁を呈すが、体部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の掘削り、内面・口縁部は横溝で。	11
	206-7	埋土 口縁部	土師器 甕	器高(5.5) 口径(20.0) 底径 ー	ー	酸化焰 明赤焰	「コ」字状口縁を呈すが、体部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の掘削り、内面・口縁部は横溝で。	12
	206-8 89	床面直上 ほぼ定形	須恵器 坏	器高 3.8 口径 12.8 底径 5.5	ー	還元焰 灰白 黒褐	腰の張りは弱く、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	17
	206-9 89	貯蔵穴内 ほぼ定形	須恵器 坏	器高 3.5 口径 12.7 底径 5.9	ー	還元焰 灰	先端部は僅かに外反するが、口縁部は僅かに内湾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	18
	206-10 89	掘り方壇 土 ほぼ定形	須恵器 坏	器高 3.5 口径 13.0 底径 6.2	白色灰物粒子	還元焰 灰白	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	19
	207-11 89	カマド内 3/4	須恵器 坏	器高 4.0 口径 13.0 底径 5.5	褐色灰物粒子	還元焰 橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	全体に歪み 20
	207-12 89	床面直上 3/4	須恵器 坏	器高 3.5 口径 13.2 底径 5.3	ー	還元焰 灰	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	21
	207-13 89	カマド内 1/2	須恵器 坏	器高 3.7 口径 13.9 底径 7.3	褐色灰物粒子	還元焰 白灰	腰が僅かに張り、口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	23
	207-14	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 3.6 口径(13.6) 底径 6.6	黒色灰物粒子	還元焰 灰	腰の張りは強く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	22
	207-15 89	貯蔵穴内 1/2	須恵器 坏	器高 3.7 口径(13.2) 底径(6.6)	褐色灰物粒子 白色灰物粒子	還元焰 黒褐	口縁部はほぼ直線的に外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	24
	207-16 89	埋土 1/2	須恵器 坏	器高(4.4) 口径 13.0 底径(6.2)	ー	還元焰 灰黄ー 黒褐	口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。粘土 25	口縁部の 歪み顕著 26
	207-17	貯蔵穴内 1/2	須恵器 坏	器高 4.2 口径(13.5) 底径(6.5)	ー	還元焰 にぶい 澄	腰が僅かに張り、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	27
	207-18	貯蔵穴内 底部定形	須恵器 坏	器高 3.3 口径(12.6) 底径 5.1	白色灰物粒子	還元焰 にぶい 赤褐ー 黒褐	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	28
	207-19	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 3.2 口径(12.2) 底径(5.6)	白色灰物粒子	還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	44
	207-20 89	掘り方 1/2	須恵器 高台付輪	器高 4.6 口径(15.6) 底径 5.8	白色灰物粒子	還元焰 白灰	腰の張りは弱く、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	糸切り痕 が不明確 29
	207-21	貯蔵穴内 1/3	須恵器 高台付輪	器高 5.4 口径(14.6) 底径(7.2)	白色灰物粒子	還元焰 にぶい 黄褐	腰の張りは弱く、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	30
	207-22 89	床面直上 4/5	須恵器 高台付輪	器高 5.1 口径 14.9 底径 6.7	白色灰物粒子	還元焰 灰	口縁部は直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	32

出土 通 標	採回番号 写真番号	出土位置 遺存状態	器 種 別	径目 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考 登録番号
C区 11号 住居跡	207-23	埋土 1/8	須恵器 高台付輪	器高 (6.1) 口径(15.1) 底径 (7.9)	黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	腰の張りは弱く、口縁部は直線的に外反する。 轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り。高台は貼り付け。	38
	207-24	埋土 1/3	須恵器 高台付輪	器高 4.9 口径(14.6) 底径 6.8	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	腰の張りは弱く、口縁部はやや外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り。高台は貼り付け。	37
	207-25	埋土 底部	須恵器 高台付輪	器高 (2.4) 口径 - 底径 6.4		焰	にぶい 褐	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り。高台は貼り付け。	底面内部に 漆付着 39
	207-26	埋土 底部 1/2	須恵器 高台付輪	器高 (4.0) 口径 - 底径(11.2)	白色鉱物粒子 褐色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り。高台は貼り付け。	33
	207-27	埋土 高台欠損 1/2	須恵器 高台付輪	器高 2.0 口径(14.1) 底径 (6.5)		還元焰	黒褐	器高は低く、口縁部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り。高台は貼り付け。	35
	207-28 89	埋土 底部欠損	須恵器 坏	器高 (4.4) 口径 15.7 底径 -		還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は欠損しているが、紐作りの痕跡と円盤状の底部の存在が認められる。	25
	208-29	掘り方 須部	須恵器 長須部	器高 (5.4) 口径 - 底径 -		還元焰	灰白	口縁部、及び肩部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。	5
	208-30	埋土 1/4	灰輪陶器 高台付輪	器高 2.6 口径(14.4) 底径 (6.3)			灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。高台は貼り付け。	内面に重 ね焼き痕 6
	208-31	埋土 底部 1/2	灰輪陶器 高台付輪	器高 (2.5) 口径 - 底径 (8.2)			灰白	口縁部欠損のため不明。轆轤整形 (右回転)。高台は貼り付け。	内面に重 ね焼き痕 7
	208-32	埋土 1/3	灰輪陶器 高台付輪	器高 2.6 口径(14.6) 底径 (7.2)			灰白	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。高台は貼り付け。	内面に重 ね焼き痕 9
	208-33	貯蔵穴内 底部欠損 1/6	灰輪陶器 高台付輪	器高 4.7 口径(16.0) 底径 -			灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。高台は貼り付け。	内面に重 ね焼き痕 8
	208-34 89	土坑内 定形	灰輪陶器 耳皿	器高 2.7 口径 11.2 底径 5.3			灰	器高は低く、口縁部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り。	2
	208-35 89	埋土 台部 1/6	緑輪陶器	器高 口径 - 底径(13.0)				破片のため器形は不明。	4
C区 12号 住居跡	210-1	埋土 1/4	土師器 坏 A	器高 3.0 口径(10.4) 底径 5.2		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は磨削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 11
	210-2 90	貯蔵穴内 台部 1/2	土師器 台付栗	器高 (4.6) 口径 - 底径 (8.8)		酸化焰	明赤褐	体部欠損のため器形は不明。台部は横撫で。	23
	210-3 90	床面直上 上半部 3/4	土師器 栗	器高(16.9) 口径(21.6) 底径 -	黒色鉱物粒子 褐色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」字状口縁を呈し、口唇部は外反するが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方向の磨削り。内面は横撫で。口縁部は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 30
	210-4	カマド埋 土・口縁 部 1/2	土師器 栗	器高 (7.8) 口径(20.5) 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐	「コ」字状口縁を呈し、口唇部は外反するが、体部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方向の磨削り。内面は横撫で。口縁部は横撫で。	21
	210-5	埋土へ 口縁部 1/2	土師器 栗	器高 (5.0) 口径(21.6) 底径 -	黒色鉱物粒子 褐色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」字状口縁を呈し、口唇部は外反するが、体部欠損のため器形は不明。口縁部は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 20
	211-6	カマド内 底部 1/2	土師器 栗	器高 (9.0) 口径(20.5) 底径 -	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐	上半部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜・縦方向の磨削り。内面は横撫で。口縁部は横撫で。	22
	209-7 90	貯蔵穴内 定形	須恵器 坏	器高 3.3 口径 12.2 底径 6.2	白色鉱物粒子 石英	還元焰	灰	腰がやや張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り後未調整。粘土塊付着。体部の底部寄り部分に糸の痕跡。	1

出 土 遺 構	棟号 写真番号	出土位置 遺存状態	種 別 器 種	径 目 (cm)	胎 土	焼 成 色 調	器 形・技 法 等 の 特 徴	備 考 登録番号	
C区 12号 住居跡	209-8 90	貯蔵穴内 完形	須恵器 環	器高 3.5 口径 13.2 底径 6.7	白色灰物粒子 石英	還元焰 黒褐	腰が僅かに張り、口縁部は外張りする。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。底部は6-8cmと厚く、円盤作りと考えられる。	月夜野・ 敷田 2	
	209-9 90	貯蔵穴内 完形	須恵器 環	器高 3.7 口径 12.4 底径 5.8	白色灰物粒子	還元焰 灰	腰が僅かに張り、口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	3	
	209-10 90	埋土 ほぼ完形	須恵器 環	器高 3.2 口径 13.0 底径 5.7	白色灰物粒子	還元焰 黒灰	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	4	
	211-11 90	床面直上 2/3	須恵器 環	器高 4.1 口径 12.7 底径 6.0		還元焰 黒褐 橙	腰がやや張り、口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。内面黒色処理。	口縁部に 漆付着 6	
	211-12 90	埋土 ほぼ完形	須恵器 環	器高 4.0 口径 12.6 底径 7.0	白色灰物粒子 石英	還元焰 黒褐 赤褐	口縁部は外張りする。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整で、円盤作りと考えられる。	月夜野・ 敷田 5	
	211-13 90	床面直上 底部完形	須恵器 環	器高 2.9 口径(13.7) 底径 8.0		還元焰 灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	7	
	211-14	埋土 1/3	須恵器 環	器高 3.2 口径(15.4) 底径(9.2)		還元焰 灰	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	9	
	211-15	埋土 1/4	須恵器 環	器高 3.5 口径(13.3) 底径(5.5)		還元焰 灰黄褐 一黒	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	10	
	211-16	貯蔵穴内 底部 1/3	須恵器 高台付輪	器高(4.1) 口径 - 底径 -		還元焰 灰	口縁部は欠損のために不明だが、腰の張りはほとんどみられない。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	高台欠損 8	
	211-17 90	貯蔵穴内 2/3	須恵器 高台付輪	器高 口径 14.7 底径 8.0		還元焰 灰白	腰が僅かに張り、口縁部はほぼ直線的に外張りする。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	口縁部に 漆み 13	
	211-18 90	カマド埋 土 1/2	須恵器 高台付輪	器高 5.7 口径(15.0) 底径 6.8		還元焰 黒灰	腰が僅かに張り、口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	14	
	211-19	貯蔵穴内 1/2	須恵器 高台付輪	器高 3.8 口径(12.8) 底径 6.6		還元焰 橙	腰の張りは有さず、口縁部はほぼ直線的に外張りする。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	18	
	211-20	貯蔵穴内 ほぼ完形 高台付輪	須恵器 高台付輪	器高 2.9 口径 13.8 底径 6.4	白色灰物粒子	還元焰 にぶい 黄橙	腰の張りは有さず、口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	漆み有り 17	
	211-21 90	貯蔵穴内 1/2	須恵器 高台付輪	器高 7.7 口径(18.4) 底径 8.4		還元焰 にぶい 橙	腰がやや張り、口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	12	
	211-22	貯蔵穴内 底部 高台付輪	須恵器 高台付輪	器高(3.0) 口径 - 底径 6.1		還元焰 にぶい 橙	口縁部欠損のために器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	15	
	211-23	貯蔵穴内 底部完形 高台付輪	須恵器 高台付輪	器高(2.3) 口径 - 底径 6.8		還元焰 灰	口縁部欠損のために器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	16	
	211-24	床面直上 口縁部 1/8	灰輪陶器 高台付段 皿	器高(2.2) 口径(19.9) 底径 -		灰オリ 一 ブ	口縁部はほぼ直線的に外張りする。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	高台欠損 19	
	C区 13号 住居跡	212-1 90	埋土 3/4	土師器 環 C	器高 2.4 口径(10.5)		酸化焰 橙	丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は艶潤り、口縁部・器内面は襍敷で。	器面の摩 滅が顕著 6
		212-2 90	床面直上 ほぼ完形	土師器 羹	器高 25.4 口径 17.6 底径 4.2	白色灰物粒子	酸化焰 橙	「コ」字状口縁を呈し、口唇部は外反する。胴部外面は縦方向の艶潤り、内面は襍敷で、口縁部は襍敷で。	胴部の漆 みが顕著 10
212-3		埋土 上半部 1/8	土師器 羹	器高(7.7) 口径(11.6) 底径 -	石英	酸化焰 にぶい 赤褐	口縁部は外反する。胴部外面は横方向の艶潤り、口縁部・器内面は襍敷で。	7	

出 土 遺 跡	棟 号 住居跡	棟回番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種 別	度 目 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技法等の特徴	備 考 登録番号
C区 13号 住居跡		213-4	床面直上 上半部 1/3	土師器 甕	器高(18.8) 口径(18.2) 底径 -	白色灰物粒子	酸化焙	赤褐色	「コ」字状口縁を呈し、口唇部は外反する。胴部外面は横・斜方向の発掘り、内面は発掘で、口縁部は横撫で。	11
		213-5	埋土 1/5	須恵器 坏	器高 4.2 口径(12.9) 底径 (5.1)		還元焙	灰	體は僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	5
		213-6	圍り方埋 土 1/4	須恵器 高台付筒	器高(4.7) 口径(13.6) 底径 (8.0)		還元焙	灰	體はやや張り、口縁部は僅かに外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
		213-7 90	カマド内 1/2	須恵器 高台付筒	器高 5.6 口径(14.6) 底径 (7.0)		還元焙	灰	體は僅かに張り、口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2
		213-8	圍り方埋 土 1/5	須恵器 高台付筒	器高 5.5 口径(14.9) 底径 (8.7)		還元焙	灰白	體はやや張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	3
		213-9 90	埋土 2/3	灰輪陶器 高台付皿	器高 3.7 口径 17.6 底径 3.6			灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がるが、口唇部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後発調整。高台は貼り付け。	灰輪の剥 落存在
		213-10 90	埋土 破片	緑輪陶器 高台付口 皿?	器高 - 口径 - 底径 -				破片のため器形は不明。	1
		214-1	埋土 底部	須恵器 高台付筒	器高(2.9) 口径 - 底径 (5.8)		還元焙	灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	1
		214-2	埋土 口縁部 1/8	須恵器 高台付筒	器高(3.3) 口径(12.0) 底径 -		還元焙	灰	口縁部は内湾気味に立ち上がるが、口唇部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部は欠損のため不明であるが、高台は貼り付け。	4
		C区 15号 住居跡		215-1 90	埋土 1/3	土師器 坏 B	器高 3.7 口径(11.6)		酸化焙	灰褐色
215-2	埋土 1/4			土師器 坏 C	器高 2.8 口径(12.6)		酸化焙	に近い 赤褐色	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は発掘り、口縁部・器内面は横撫で。	2
215-3 90	埋土 上半部 1/2			土師器 甕	器高(9.0) 口径 14.6 底径 -		酸化焙	褐色	口縁部は外反する。胴部外面は横・斜方向の発掘り、内面は発掘で、口縁部は横撫で。	7
215-4	埋土 口縁部 1/2			土師器 甕	器高(6.1) 口径(23.0) 底径 -		酸化焙	褐色	口縁部は強く外反するが、体部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方向の発掘り、内面は発掘で、口縁部は横撫で。	8
216-5	埋土 1/4			須恵器 坏	器高(3.6) 口径(12.2) 底径 -	黒色灰物粒子 白色灰物粒子	還元焙	灰	體の張りは弱く、先端部は僅かに外反するものの、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	3
216-6 90	埋土 ほぼ完全 高台付甕			須恵器 高台付甕	器高 4.5 口径 17.2 底径 14.0	黒色灰物粒子	還元焙	灰	口縁部は内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
216-7 90	埋土 1/4			須恵器 高台付甕	器高 4.7 口径(19.0) 底径(14.9)	黒色灰物粒子	還元焙	灰	口縁部は内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	5
216-8 90	埋土 1/2			須恵器 蓋	器高 3.5 口径(20.0)		還元焙	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)上半部は回転発掘り。紐部は貼り付け。	6
C区 16号 住居跡		218-1 91	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高(3.4) 口径(12.0)		酸化焙	褐色	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は発掘り依撫で、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1
		218-2 91	床面直上 1/4	土師器 坏 C	器高 3.9 口径(12.9)		酸化焙	褐色	丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は発掘り、口縁部・器内面は横撫で。	2
		218-3	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高(2.9) 口径(12.2)		酸化焙	褐色	丸底で口縁部は「C」字状に内湾する。体部は発掘り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 3

出土 遺構	採回番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	口径 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 16号 住居跡	218-4	カマド内 口縁部	土師器 甕	器高(7.4) 口径(14.8) 底径 -		酸化焰 にぶい 赤褐一 期赤褐	口縁部は強く外反する。胴部外面は縦方向の 筋削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	13
	219-5	埴土 底部 1/3	須恵器 坏	器高(4.8) 口径(13.0) 底径(8.1)		還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右 回転)。底部は回転糸切り後未調整。	4
	219-6 91	埴土 底部欠損 ほぼ定形	須恵器 蓋	器高 1.8 口径 10.8		還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 蓋部は貼り付け。	9
	219-7 91	埴り方 底部欠損 1/2	須恵器 蓋	器高(2.5) 口径(10.8)		還元焰 灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 蓋部は貼り付け。	10
	219-8	埴土 1/4	須恵器 蓋	器高 3.0 口径(20.4)		還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 上半部は回転艶撫り。蓋部は貼り付け。	8
	219-9 91	埴土 1/2	須恵器 蓋	器高(2.6) 口径(18.8)		還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 上半部は回転艶撫り。蓋部は貼り付け。	11
	219-10	埴土 1/4	灰釉陶器 高台付甕	器高(1.4) 口径 - 底径(7.8)		灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	内面に重 ね焼き痕 7
	220-1 91	埴土 上半部 1/2	土師器 甕	器高(24.8) 口径(23.4) 底径 -		酸化焰 橙	口縁部は強く外反する。胴部外面は縦・斜方向の 艶撫り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	3
	220-2	埴土 底部のみ 1/3	土師器 甕	器高(2.8) 口径 - 底径(4.4)		酸化焰 にぶい 褐	口縁部、及び体部欠損のため器形は不明。胴部 外面は艶撫り、内面は艶撫で。	内部整形 不明整 1
	220-3	カマド内 底部欠損 1/5	須恵器 蓋	器高 2.6 口径(18.0)		還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 上半部は艶撫り。蓋部は貼り付け。	2
C区 18号 住居跡	222-1	カマド内 口縁部 1/5	土師器 甕	器高(7.0) 口径(16.3) 底径 -		酸化焰 明赤褐	口縁部は外反するが、体部欠損のため器形は 不明。胴部外面は横方向の艶撫り、内面は刷毛目 状の艶撫り、口縁部は横撫で。	2
	222-2 91	床面直上 胸部定形 高台欠損	須恵器 高台付甕	器高(4.1) 口径 13.0 底径(5.7)		還元焰 白灰	腰は僅かに張り、口縁部は外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付 け。	高台欠損 1
	222-3	床面直上 底部 1/6	須恵器 蓋?	器高(5.2) 口径 - 底径(12.4)		還元焰 灰	体部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。 底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	3
	222-4	床面直上 口縁部 1/5	須恵器 羽釜	器高(9.0) 口径(17.8) 底径 -		還元焰 にぶい 黄橙	口縁部はほぼ直立するが、下半部欠損のため器 形は不明。縁作り。轆轤整形。胴部外面は縦方 向の艶撫り、内面は艶撫で。蓋は貼り付け。	4
	222-5	カマド内 口縁部 1/8	須恵器 羽釜	器高(5.0) 口径(21.3) 底径 -		還元焰 黄灰	口縁部は内湾するが、体部欠損のため器形は 不明。縁作り。轆轤整形。	5
C区 19号 住居跡	224-1 91	床面直上 1/2	土師器 坏 C	器高 2.9 口径(10.7)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は直立する。体部は艶撫り、口縁 部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 1
	224-2 91	カマド内 1/2	土師器 甕	器高(17.8) 口径 13.7 底径 -	白色炭化物粒子	酸化焰 にぶい 橙	口縁部は外反する。胴部外面は艶撫り、内面は 撫で、口縁部は横撫で。	6
	224-3 91	埴土 口縁部 定形	土師器 甕	器高(5.9) 口径(15.7) 底径 -		酸化焰 にぶい 橙	口縁部は外反するが、体部欠損のため器形は 不明。胴部外面は横方向の艶撫り、内面は横撫 で艶撫り。口縁部は横撫で。	3
	224-4 91	カマド内 上半部 1/2	土師器 甕	器高(13.0) 口径 21.6 底径 -		酸化焰 褐	口縁部は外反するが、下半部欠損のため器形は 不明。胴部外面は横方向の艶撫り、内面は艶撫 で、口縁部は横撫で。	4
	224-5 91	カマド内 上半部	土師器 甕	器高(11.3) 口径(16.4) 底径 -		酸化焰 にぶい 橙	口縁部は外反するが、下半部欠損のため器形は 不明。胴部外面は縦・斜方向の艶撫り、内面は 艶撫りで艶撫り。口縁部は横撫で。	5



出土 遺構	検出番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別	口径 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 19号	224-6	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 3.5 口径(11.5) 底径(6.9)		還元焰	黒	腰の張り是有せず、口縁部は僅かに外反する。 轆轤整形(右回転)。底部は回転彫り。	2
	217-1 91	床面直上 完形	土師器 坏 B	器高 3.7 口径 12.1	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内湾する。体 部は彫削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
C区 20号 住居跡	217-2 91	床面直上 2/5	土師器 坏 A	器高(3.7) 口径 19.3		酸化焰	にぶい 黒	丸底で口縁部は僅かに外反する。体部は彫削り、 口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1
	225-1	カマド内 口縁部 1/4	土師器 壺	器高(8.0) 口径(17.6) 底径 -		酸化焰	橙	「コ」字状口縁を呈すが、下半部欠損のため器 形は不明。胴部外面は横方向の彫削り、内面は 横方向の刷毛目肌。口縁部は横撫で。	器面の摩 減が顕著 5
C区 21号 住居跡	225-2	カマド内 口縁部 1/5	土師器 壺	器高(7.2) 口径(17.6) 底径 -	金雲母粒子	酸化焰	橙	口縁部は強く外反するが、体部欠損のため器形 は不明。胴部外面は横方向の彫削り、内面は 横撫で。口縁部は横撫で。	6
	226-3 92	カマド内 土・底部 1/2	土師器 壺	器高(8.8) 口径(17.6) 底径 3.5		酸化焰	明赤黒	上半部欠損のため器形は不明。胴部外面は縦方 向の彫削り、内面は横撫で。紐作り。	8
	226-4 92	カマド敷 り方 1/2	須恵器 高台付椀	器高 5.0 口径(13.0) 底径 6.4		還元焰	にぶい 橙-灰 黒	腰の張りは強く、口縁部はやや外反する。轆轤 整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼 り付け。	1
	226-5 92	カマド周 土	須恵器 高台付椀	器高 4.7 口径(13.1) 底径 5.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	腰の張りは有せず、僅かに口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台 は貼り付け。	2
	226-6 92	床面直上 1/2	須恵器 高台付椀	器高 6.5 口径(14.8) 底径 8.2		還元焰	にぶい 橙	腰は僅かに張り、口縁部はやや外反する。轆轤 整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼 り付け。	足高台 3
	226-7 92	カマド内 上半部 3/4	須恵器 羽釜	器高(18.0) 口径(19.0) 底径 -		還元焰	にぶい 赤黒	口縁部は強く内湾する。紐作り。轆轤整形。胴 部外面に篋による「X」の刷毛目肌。器は貼り付 け。	15
	226-8 92	カマド内 底部欠損 4/5	須恵器 羽釜	器高(21.7) 口径(20.0) 底径 -	白色鉱物粒子	還元焰	にぶい 黒	口縁部は強く内湾する。紐作り。轆轤整形。胴 部外面下半部は縦方向の彫削り。器は貼り付け。	9
	226-9	カマド内 口縁部 1/8	須恵器 羽釜	器高(6.1) 口径(18.0) 底径 -		還元焰	灰白- 黒	口縁部は内湾するが、体部欠損のため器形は不 明。紐作り。轆轤整形。器は貼り付け。	12
	226-10 92	カマド周 土・口縁 部-1/4	須恵器 羽釜	器高(9.0) 口径(18.0) 底径 -		還元焰	にぶい 黒	口縁部は強く内湾するが、体部欠損のため器形 は不明。紐作り。器は貼り付け。	10
	226-11	埋土? 口縁部 1/8	須恵器 羽釜	器高(8.5) 口径(18.0) 底径 -		還元焰	にぶい 橙	口縁部は内湾するが、体部欠損のため器形は不 明。紐作り。轆轤整形。器は貼り付け。	11
	226-12 92	カマド周 土・底部 1/2	灰輪陶器 壺	器高(5.8) 口径 - 底径(9.0)			灰白	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回 転)。底部は回転彫削り。高台は削り出し。	4
	C区 22号 住居跡	228-1	埋土 1/5	土師器 坏 A	器高(4.1) 口径(17.0)		酸化焰	橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は彫削り、口縁部・器内面は横撫で。
228-2 92		床面直上 完形	土師器 坏 B	器高 2.7 口径 11.0	白色鉱物粒子 褐色鉱物粒子	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状に強く内湾する。体 部は彫削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
228-3		埋土 1/4	土師器 坏 B	器高(2.7) 口径(12.1)	石英	酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに「C」字状に内湾する。 体部は彫削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 3
228-4		埋土 1/3	土師器 坏 C	器高(3.1) 口径(11.1)		酸化焰	黒	丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は彫削り、 口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 2
228-5		床面直上 口縁部 1/5	土師器 壺	器高(7.5) 口径(22.4) 底径 -		酸化焰	橙	口縁部は強く外反するが、体部欠損のため器形 は不明。胴部外面は横方向の彫削り、内面は 横撫で。口縁部は横撫で。	器面の摩 減が顕著 12

出 土 構 造	棟 号	棟 号	出 土 位 置	種 別	容 器	容 器 寸 法 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技 法 等 の 特 徴	備 考
C区 22号 住居跡	228-6	埋土	須志器 環	器高(4.3) 口径(17.0)		還元焰	灰白	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転調整か。	6		
	228-7	埋土 1/4	須志器 高台付柄	器高(4.0) 口径(17.4) 底径(14.0)	白色紅物粒子	還元焰	灰	口縁部はほぼ直線的に外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転調整か。高台は貼り付け。	8		
	228-8	埋土 1/4	須志器 高台付柄	器高(4.7) 口径(15.9) 底径(10.8)	黒色紅物粒子	還元焰	灰	口縁部はほぼ直線的に外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転調整か。高台は貼り付け。	7		
	228-9	埋土 1/5	須志器 高台付柄	器高(3.9) 口径(18.2) 底径(11.8)		還元焰	灰白	口縁部はほぼ直線的に外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転調整か。高台は貼り付け。	9		
	229-10 92	埋土 前部 1/2	須志器 台付長須 壺	器高(4.7) 口径 - 底径 -		還元焰	灰	口縁部、及び底部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。外部外面はカキ目状工具による調整。内面は横撫で。	14	外面刷印	
	229-11	埋土 口縁部 1/6	須志器 壺	器高(6.4) 口径(36.0) 底径 -		還元焰	灰	口縁部は外反するが、体部欠損のため器形は不明。口縁部は横撫で。	10		
	229-12	埋土 底部欠損 1/5	須志器 壺	器高(3.4) 口径(20.6)		還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転調整か。底部は貼り付け。	11		
	C区 23号 住居跡	230-1	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高(2.6) 口径(9.7)		酸化焰	橙	九底で口縁部は僅かに内湾する。体部は匙削り、口縁部・器内面は横撫で。内面に同心円状の施文が直。		器面の摩 滅が顕著 30
		230-2	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高(3.3) 口径(11.2)		酸化焰	橙	九底で口縁部はほぼ直立する。体部は匙削り、口縁部・器内面は横撫で。		器面の摩 滅が顕著 3
		230-3	埋土 1/6	須志器 坏 D	器高(3.7) 口径(18.7)		還元焰	灰白	九底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は欠損のため不明。		5
		230-4 92	掘り方 完形	須志器 坏	器高 3.6 口径 13.1 底径 7.1		還元焰	灰白	腰が張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転後未調整。		口縁部に 漆付着 1
		230-5 92	掘り方 ほぼ完形	須志器 坏	器高 3.6 口径 12.4 底径 6.4		還元焰	灰	僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転後未調整。		口縁部に 漆付着 2
230-6		カマド埋 土・底部 1/3	須志器 坏	器高(1.8) 口径 - 底径(7.0)	黒色紅物粒子	還元焰 硬質		上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転後未調整。		外面に自 然釉付着 14	
230-7		カマド埋 土・底部 1/4	須志器 坏	器高(2.2) 口径 - 底径(6.4)		還元焰	黒	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転後未調整。		4	
231-8		床面直上 底部	須志器 高台付柄	器高(2.8) 口径 - 底径 6.4	黒色紅物粒子 褐色紅物粒子	還元焰	灰白	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転後未調整。高台は貼り付け。		7	
231-9		埋土 底部	須志器 高台付柄	器高(2.0) 口径 - 底径 7.3		還元焰	褐灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転後未調整。高台は貼り付け。		8	
231-10		カマド埋 土 底部	須志器 高台付柄	器高(2.3) 口径 - 底径 8.6		還元焰	灰白	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転後未調整。高台は貼り付け。		6	
231-11		掘り方埋 土 底部	須志器 高台付柄	器高(2.7) 口径 - 底径(6.8)		還元焰	灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転後未調整。高台は貼り付け。		9	
231-12	埋土 底部	須志器 高台付柄	器高(2.2) 口径 - 底径(5.8)	白色紅物粒子	還元焰	灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転後未調整。高台は貼り付け。		10		
231-13	埋土 底部 1/2	須志器 高台付柄	器高(2.4) 口径 - 底径(8.2)	黒色紅物粒子	還元焰 硬質	灰白	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転後未調整。高台は貼り付け。		11		

出土 遺構	検出番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別	別種	口径 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 23号 住居跡	231-14	埋土 底部欠損 1/2	須恵器 甕	器高(14.5) 口径(14.6) 底径 -		還元焰 硬質	灰	口縁部は強く外反する。紐作り。轆轤整形。胴部外面は平行叩き、内面は轆轤再整形。	17	
	231-15	埋土 底部	須恵器	器高(8.3) 口径(14.6) 底径(16.0)		還元焰	灰	体部欠損のための器形は不明。轆轤整形。胴部内面は荒撫で。	13	
C区 25号 住居跡	234-1 93	カマド内 1/3	土師器 坏 B	器高 3.8 口径(12.4)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに「C」字状に内湾する。体部は荒削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1	
	234-2 93	埋土 1/3	土師器 坏 B	器高 2.8 口径(11.6)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部は「C」字状に内湾する。体部は荒削り、口縁部・器内面は横撫で。	3	
	234-3 93	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高 3.3 口径(11.4)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状に内湾する。体部は荒削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 5	
	234-4	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 2.8 口径(14.0)		酸化焰	橙	丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は荒削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 6	
	234-5	埋土 1/5	土師器 坏 C	器高(1.7) 口径(15.7)		酸化焰	にぶい 橙	丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は荒削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 7	
	234-6	埋土 口縁部 1/3	土師器 甕	器高(4.3) 口径(17.6)		酸化焰	にぶい 橙	口縁部は強く外反するが、体部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の荒削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	10	
	235-7 93	埋土 口縁部 1/2	土師器 甕	器高(10.5) 口径(24.0)	黒色炭物粒子 赤色炭物粒子	酸化焰	褐	口縁部は強く外反するが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は縦方向の荒削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	9	
	236-8 93	埋土 底部欠損	土師器 甕	器高(31.0) 口径 22.8		酸化焰	橙	口縁部は強く外反する。胴部外面は縦・斜方向の荒削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	17	
	236-9 93	埋土 底部欠損	土師器 甕	器高(29.9) 口径 22.6	白色炭物粒子	酸化焰	橙	口縁部は強く外反する。胴部外面は縦・斜方向の荒削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	18	
	236-10 93	埋土 底部欠損	土師器 甕	器高(30.6) 口径(23.0)		酸化焰	橙	口縁部は強く外反する。胴部外面は縦方向の荒削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	器面の摩 減が顕著 19	
	236-11	埋土 1/4	須恵器 坏	器高(5.0) 口径(13.7) 底径(7.2)		還元焰	灰	口縁部はほぼ直線的に外開する。轆轤整形(右回転)。底部は回転荒削り。	2	
	236-12	埋土 1/3	須恵器 坏	器高 3.5 口径(9.7) 底径(6.2)		還元焰	灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転荒削り。	16	
	236-13	埋土 底部 高台付焼	須恵器 高台付焼	器高(1.5) 口径 - 底径(10.1)		還元焰	灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転荒削り。高台は貼り付け。	8	
	236-14 93	埋土 1/2	須恵器 蓋	器高 2.3 口径 10.2		還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。蓋部は貼り付け。	13	
236-15	埋土 底部欠損 1/5	須恵器 蓋	器高(2.0) 口径(18.8)		還元焰	褐灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転荒削り。蓋部は貼り付け。	12		
237-16	埋土・口 縁部・胴 部1/3	須恵器 甕	器高(14.4) 口径 -		還元焰	灰褐	口縁部及び底部欠損のため器形は不明。紐作り。胴部外面上半部は轆轤整形。下半部は叩き、内面は当て具の叩き整形後轆轤再調整。	表面にひ び割れ 15		
C区 26号 住居跡	239-1	カマド埋土 1/5	土師器 坏 C	器高 3.6 口径(11.4)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は荒削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1	
	239-2	埋土 口縁部 1/4	土師器 甕	器高(9.1) 口径(22.8)		酸化焰	にぶい 橙	口縁部は強く外反するが、体部欠損のため器形は不明。胴部外面は縦方向の荒削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	4	

出 土 遺 構	採回番号 写真番号	出土位置 遺存状態	機 器 別 種	検 目 (cm)	胎 土	焼 成 色 調	器 形・技 法 等 の 特 徴	備 考 登録番号
C区 26号 住居跡	239-3	埋土 1/4	須恵器 壺	器高 5.6 口径(25.4) 底径(19.4)		還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的に直立する。轆轤整形(右回転)。底部は欠損のため不明。高台は貼り付け。	2
	239-4 93	床面直上 1/2	須恵器 蓋	器高 3.2 口径(14.4)		還元焰 灰白 硬質 灰	口縁部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転脱離り。蓋部は貼り付け。	3
C区 27号 住居跡	240-1	床面直上 1/4	土師器 坏 B	器高(5.1) 口径(21.0)		酸化焰 におい 橙	丸底で口縁部は「C」字状に内湾する。体部は丸脱離り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1
	240-2	床面直上 底部 1/2	土師器 壺	器高(6.2) 口径 - 底径 3.0		酸化焰 におい 赤褐	上半部欠損のため器形は不明。胴部外面は縦方向の脱離り、内面は横撫で。	6
	240-3	埋土 1/6	須恵器 壺	器高(3.8) 口径(15.1) 底径(11.1)		還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	240-4 94	埋土 1/2	須恵器 高台付輪	器高 4.9 口径(13.5) 底径 6.0		還元焰 におい 橙	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	5
C区 28号 住居跡	243-1	カマド内 口縁部 1/5	土師器 壺	器高(6.4) 口径(23.0)		酸化焰 におい 橙	「コ」字状口縁を呈し、口縁部の器厚はやや厚い。胴部外面は横方向の脱離り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	器面の摩 減が顕著 6
	243-2 94	カマド内 ほぼ定形	須恵器 壺	器高 3.9 口径 13.5 底径 7.2		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	243-3 94	カマド内 1/2	須恵器 高台付輪	器高 5.1 口径(13.9) 底径 8.0		還元焰 灰白 灰黄	腰の強りはほとんど存せず、口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	6
	243-4	埋土 底部欠損 1/6	須恵器 高台付輪	器高(3.0) 口径(14.2) 底径 -		灰白 灰黄	口縁部は僅かに外反するが、底部欠損のため、器形は不明。轆轤整形。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	7
C区 29号 住居跡	249-1 94	床面直上 ほぼ定形	土師器 坏 A	器高 4.0 口径 12.0		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は丸脱離り、口縁部・器内面は横撫で。口縁部は歪みか顕著。	器面の摩 減が顕著 1
	249-2 94	貯蔵穴内 3/4	土師器 坏 A	器高 3.7 口径 11.7		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は丸脱離り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 3
	249-3	床面直上 1/4	土師器 坏 A	器高(3.2) 口径(12.0)		酸化焰 橙	丸底で僅かに外縁を有し、口縁部はやや外反する。体部は丸脱離り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 7
	249-4	床面直上 1/4	土師器 坏 A	器高(2.9) 口径(11.2)		酸化焰 橙 軟質	丸底で外縁を有し、口縁部はやや外反する。体部は丸脱離り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 8
	249-5	埋土 1/4	土師器 坏 C	器高 3.0 口径(9.9)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は強い横撫でで直立する。体部は丸脱離り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 5
	249-6	埋土 1/5	土師器 坏 C	器高(4.1) 口径(13.1)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は強い横撫でで直立する。体部は丸脱離り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 9
	249-7	床面直上 口縁部 1/4	土師器 壺	器高(5.7) 口径(20.0) 底径 -		酸化焰 明赤褐	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の脱離り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	17
	249-8 94	埋土 口縁部 1/3	土師器 壺	器高(6.6) 口径(19.6) 底径 -		酸化焰 におい 赤褐	「フ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜・横方向の脱離り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	口縁部に 脆の痕跡 16
	249-9 94	埋土 ほぼ定形	須恵器 坏	器高 3.5 口径 10.9		還元焰 灰	丸底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転脱離り。	2
	250-10 94	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 3.3 口径(11.1)		還元焰 灰	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。体部は丸脱離り。	4

出土遺構	探洞番号 写真番号	出土位置 遺存状況	種類 別称	口径 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 29号 住居跡	250-11	埋土 1/3	須恵器 坏	器高 3.8 口径(13.8) 底径 (7.4)		還元焰 灰白	唇が僅かに張り、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	5
	250-12	埋土 1/5	土師器 坏 D	器高 (2.8) 口径(12.0)		酸化焰 にぶい 橙	平底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	10
	250-13	埋土 底部	須恵器 高台付筒	器高 (1.8) 口径 - 底径 (7.7)		還元焰 灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	12
	250-14	埋土 脚部欠損 1/2	須恵器 高坏	器高 (4.5) 口径(15.8)		還元焰 灰	口唇部の内側に返しがあり、内傾しているが、脚部欠損のため器形は不明。轆轤整形。	14
	250-15	埋土 1/4	須恵器 蓋	器高 (3.7) 口径(11.4)	白色灰物粒子	還元焰 緑黄	丸みをもつ天井部から僅かに外反する。轆轤整形。	11
	250-16	床面直上 口縁部 1/4	須恵器 羹	器高 (6.2) 口径(23.0) 底径 -		還元焰 灰白	口縁部は強く外反するが、体部欠損のため器形は不明。轆轤整形。	18
	250-17	埋土 脚部欠損 1/3	須恵器 高坏	器高 (7.5) 口径 - 底径(16.5)		還元焰 灰	坏部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。脚部は縄や小に開き、残存する位置から4箇所に通かしを有する。先端部に返しを有する。	19
	250-18	埋土 底部 1/2	灰釉陶器 高台付筒	器高 (1.7) 口径 - 底径 (7.2)		灰白	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形。底部は回転糸切り後調整。高台は貼り付け。	13
C区 32号 住居跡	246-1	カマド内 1/4	土師器 坏 D	器高 (2.7) 口径(14.0) 底径(10.4)	黒色灰物粒子	酸化焰 赤褐	平底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。底部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	器面の摩滅が顕著 3
	246-2	カマド掘り方・口縁部-1/6	土師器 羹	器高 (6.3) 口径(16.9) 底径 -		酸化焰 褐	口縁部は外反するが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外縁は横方向の丸削り、内面は丸削り、口縁部は横溝で。	器面の摩滅が顕著 9
	246-3	埋土 1/3	須恵器 坏	器高 (3.5) 口径(13.0) 底径 (7.4)		還元焰 灰	口縁部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	246-4	掘り方埋土	須恵器 高台付筒	器高 (3.4) 口径(11.6) 底径 (8.5)	黒色灰物粒子	還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	外面に自然熱付着 5
	246-5	埋土 口縁部 1/2	須恵器 坏?・高台付筒?	器高 (3.0) 口径(17.2) 底径 -		還元焰 にぶい 橙-黒 褐	口縁部は僅かに外反するが、底部欠損のため器形は不明。轆轤整形。底部の調整は不明。	高台の存在は不明 8
	246-6	埋土 底部 1/2	須恵器 高台付筒	器高 (4.0) 口径 - 底径 7.3	黒色灰物粒子	還元焰 硬黄	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
	246-7 74	埋土 ほぼ完形	須恵器 蓋	器高 3.6 口径 17.8		還元焰 橙-黒 褐	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)。上半部は回転鋭削り、鈕部は貼り付け。	7
	246-8	掘り方埋土・脚部欠損-1/5	須恵器 蓋	器高 (2.2) 口径(17.2)	黒色灰物粒子	還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。鈕部は貼り付け。	6
C区 33号 住居跡	252-1	埋土 1/5	土師器 坏 A	器高 (3.2) 口径(12.2)		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外傾する。体部は丸削り、口縁部・器内面は横溝で。	1
	252-2	床面直上 底部 1/4	須恵器 鉢?	器高 (2.6) 口径 - 底径(16.4)		還元焰 灰	底部のみの残存のため器形は不明。轆轤整形。底部は丸削り後溝で。	3
C区 34号 住居跡	255-1 94	貯蔵穴内 完形	土師器 坏 B	器高 3.2 口径 10.7	白色灰物粒子	酸化焰 橙	丸底で口縁部は「C」字状に近い形で内湾する。器面の摩滅は顕著 1	器面の摩滅が顕著 1
	255-2	床面直上 1/4	土師器 羹	器高 13.8 口径(12.8)		酸化焰 灰褐	丸底で胴部が張り、口縁部は外反する。胴部外縁は横方向の丸削り、内面は丸削り、口縁部は横溝で。	2

出土遺構	棟頭番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器名	別種	径目 (cm)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 34号 住居跡	254-255	床面直上	須恵器 須恵器	壺	器高 - 口径 - 底径 -		還元焰 灰	底部のみの残存のため器形は不明。轆轤整形。 胴部外面は平行叩き、内面は当て具の青濁文の 叩き整形。	4
	255-3	胴部							
C区 35号 住居跡	257-1	壁溝内	土師器	壺	器高 3.5 口径 11.5		酸化焰 橙	九底で口縁部はほぼ直立する。体部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 1
	257-2	床面直上	土師器	壺	器高 3.8 口径 12.0		酸化焰 橙	九底で口縁部はほぼ直立する。体部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 4
	257-3	掘り方	土師器	壺	器高 3.3 口径 10.9		酸化焰 橙	九底で口縁部はほぼ直立する。体部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	内面が摩 滅 5
	257-4	床面直上	土師器	壺	器高 5.5 口径 16.7		酸化焰 橙	九底で口縁部は「C」字状に内湾する。体部は 寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 2
	257-5	カマド内	土師器	壺	器高 4.0 口径 16.9		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 3
	257-6	壁溝内	土師器	壺	器高(12.0) 口径(18.2)		酸化焰 橙	口縁部は外反するが、下下部欠損のため器形は 不明。胴部外面は斜方向の寛削り、内面は横撫 で、口縁部は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 6
	257-6	上半部	1/2						
C区 36A号 住居跡	258-1	埋土	土師器	壺	器高 3.6 口径 11.8		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部は強く外反する。体 部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	258-2	埋土	土師器	壺	器高(3.5) 口径(11.7)		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反気味に 立ち上がる。体部は寛削り、口縁部・器内面は 横撫で。	2
	258-3	カマド埋	土師器	壺	器高(3.4) 口径(12.9)		酸化焰 橙	九底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は 寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 3
	258-4	カマド埋	土師器	壺	器高(5.3) 口径(18.2)		酸化焰 橙	口縁部は外反するが、胴部欠損のため器形は不 明。胴部外面は横方向の寛削り、内面は横撫で、 口縁部は横撫で。紐作り。	5
	258-5	カマド埋	須恵器	高台付 壺	器高(3.1) 口径 - 底径(7.5)		還元焰 灰 硬質	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
C区 36B号 住居跡	259-1	掘り方埋	土師器	壺	器高(9.3) 口径(18.0)		酸化焰 橙	口縁部は外反するが、下下部欠損のため器形は 不明。胴部外面は横方向の寛削り、内面は横撫 で、口縁部は横撫で。	5
	260-2	掘り方埋	須恵器	壺	器高 4.2 口径(14.2) 底径 6.8		還元焰 灰	腰は僅かに張り、口縁部はやや外反する。轆轤 整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	260-3	埋土	須恵器	高台付 壺	器高 5.5 口径(14.2) 底径 7.4		還元焰 灰	腰はやや張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤 整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼 り付け。	3
	260-4	貯蔵穴内	須恵器	高台付 壺	器高(2.2) 口径 - 底径 7.2		還元焰 灰白	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
C区 37号 住居跡	261-1	埋土	土師器	小型壺	器高(6.4) 口径(10.0) 底径 -		酸化焰 橙	口縁部は僅かに外反する。胴部外面は横方向の 寛削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	7
	261-2	床面直上	須恵器	壺	器高 4.2 口径 12.5 底径 6.1		還元焰 におい 橙一橙	腰はやや張り、口縁部はやや外反する。轆轤 整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。轆 轤痕を明瞭に残す。	1
	261-3	埋土	須恵器	高台付 壺	器高 5.6 口径 14.5 底径 6.8		還元焰 白灰 軟質	腰は僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆 轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は 貼り付け。	2
	261-4	床面直上	須恵器	壺	器高(13.6) 口径 - 底径 8.6		還元焰 灰	口縁部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤 整形。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	13

出土遺構	棟図番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種類 器種	口径 (mm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備 考 登録番号
C区 37号 住居跡	261-5	カマド内 底 1/3	須恵器 鉢	器高(5.6) 口径— 底径(18.4)		還元焰 灰黄	上半部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。底は強く圓さ、先端部に這を有する。	10
	262-6	埋土 上半部 1/5	須恵器 羽釜	器高(18.6) 口径(21.0) 底径—		還元焰 にぶい 橙	口縁部は強く内湾する。紐作り。轆轤整形。跗は貼り付け。	15
	262-7	カマド内 口縁部 1/5	須恵器 羽釜	器高(5.0) 口径(18.4) 底径—		還元焰 黒	口縁部は強く内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。跗は貼り付け。	17
	262-8	床面直上 口縁部 1/6	須恵器 羽釜	器高(6.4) 口径(19.6) 底径—		還元焰 にぶい 黄緑	口縁部は「く」字状に強く内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。跗は断面三角形を呈し、貼り付け。	18
	262-9	埋土 口縁部 1/6	須恵器 羽釜	器高(5.7) 口径(18.0) 底径—		還元焰 にぶい 黄緑	口縁部は「く」字状に強く内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。跗は貼り付け。	19
	262-10	カマド内 上半部 1/5	須恵器 羽釜	器高(14.1) 口径(22.0) 底径—		還元焰 にぶい 黄緑	口縁部は強く内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。跗は貼り付け。	16
	262-11	口縁部 1/6	須恵器 羽釜	器高(5.3) 口径(20.0) 底径—		還元焰 灰	口縁部はほぼ直立するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。跗は貼り付け。	20
	262-12	カマド内 口縁部 1/5	須恵器 羽釜	器高(8.0) 口径(19.2) 底径—		還元焰 灰黄	口縁部は強く内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。跗は貼り付け。	21
	262-13	床面直上 口縁部 1/6	須恵器 羽釜	器高(6.8) 口径(20.4) 底径—		還元焰 灰	口縁部は強く内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。跗は貼り付け。	22
	262-14	埋土 口縁部 1/10	須恵器 羽釜	器高(4.1) 口径(20.5) 底径—	白色鉱物粒子	還元焰 にぶい 橙	口縁部は僅かに内湾気味に直立するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。跗は貼り付け。	24
	262-15	埋土 口縁部 1/6	須恵器 羽釜	器高(5.9) 口径(22.0) 底径—		還元焰 灰黄濁	口縁部は僅かに内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。跗は貼り付け。	23
	262-16	埋土 1/8	須恵器 鉢	器高(6.4) 口径(34.0) 底径—		還元焰 暗赤灰	口縁部は僅かに外反気味に直立するが、下部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。	25
	263-17	埋土 底部 1/4	灰輪陶器 高合付蓋	器高 2.8 口径(13.6) 底径 6.6		灰白	口縁部は内湾気味に立ち上がり、口唇部が外反する。轆轤整形。底部は回転糸切り。高合は貼ね返し張り付け。	内面に重 ね返し張 り
	263-18	床面直上 1/2	灰輪陶器 高合付椀	器高 4.1 口径(13.7) 底径(7.0)		灰白	口縁部は内湾気味に立ち上がり、口唇部が外反する。轆轤整形。底部は回転糸切り。高合は貼ね返し張り付け。	内面に重 ね返し張 り
263-19	埋土 底部 1/2	灰輪陶器 高合付椀	器高(1.9) 口径— 底径 8.0		灰黄	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形。底部は回転糸切り。高合は貼り付け。	6	
C区 38号 住居跡	264-1	埋土 1/10	土師器 環 D	器高(3.2) 口径(13.0)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。内面に放射状筋文。口縁部・器内面は横撫で。	5
	264-2	埋土 1/4	須恵器 環	器高 3.6 口径(13.2) 底径(6.0)		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	264-3	張り方埋 土 1/4	須恵器 環	器高 3.8 口径(12.2) 底径(6.5)	白色鉱物粒子 石英	還元焰 にぶい 橙	壁が僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	264-4	埋土 1/5	須恵器 環	器高(3.9) 口径(12.0) 底径(4.4)		還元焰 灰白- 濁灰	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	3
	264-5	埋土 1/8	須恵器 環	器高(4.8) 口径(15.0) 底径(8.2)		還元焰 灰	壁がやや張り、口縁部は僅かに外反気味に立ち上がるが、底部欠損のため器形は不明。轆轤整形。底部は回転糸切りか。	4

出土 土橋	押図番号 写式番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	口径 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 38号 住居跡	264-6	廻り方埋 土・底部 高台付輪	須壺器 高台付輪	器高 (3.1) 口径 - 底径 (7.4)		還元焰 灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	内面に黒色 処理 7
	267-1 95	カマド内 口縁部 1/4	土師器 壺	器高 (9.1) 口径 (19.8)		酸化焰 にぶい 橙	口縁部は僅かに外反するが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の篋削り、内面は篋削で、口縁部は横撫で。	5
C区 39号 住居跡	267-2	埋土 口縁部 1/3	土師器 壺	器高 (5.1) 口径 (18.9)		酸化焰 赤褐	口縁部はやや外反するが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の篋削り、内面は篋削で、口縁部は横撫で。	6
	267-3 95	床面直上 ほぼ定形	須壺器 坏	器高 4.2 口径 13.1 底径 5.7		還元焰 灰	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	267-4	カマド内 底部 3/4	須壺器 坏	器高 (1.8) 口径 - 底径 5.5		還元焰 灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	267-5 95	床面直上 高台付輪 1/2	須壺器 高台付輪	器高 5.0 口径 (14.5) 底径 (7.6)		還元焰 灰黄	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	3
	267-6	埋土 底部定形	須壺器 高台付輪	器高 (1.9) 口径 - 底径 7.3		還元焰 灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	内面に重 ね焼き痕 4
	269-1 95	床面直上 定形	土師器 坏 A	器高 3.4 口径 11.0		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1
	269-2 95	壁溝際 定形	土師器 坏 A	器高 3.7 口径 11.6		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は外反する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	内面の摩 減が顕著 2
269-3 95	壁溝内 1/2	土師器 坏 B	器高 (5.2) 口径 (16.0)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 3	
269-4	埋土 1/5	須壺器 坏	器高 (5.1) 口径 (10.0)		還元焰 灰	口縁部は直立するが、底部欠損のため器形は不明。轆轤整形。	器面に自 然輪付着 5	
269-5	埋土 高台付輪 1/4	須壺器 高台付輪	器高 3.5 口径 (15.0) 底径 (8.8)		還元焰 灰	器高は低く、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4	
269-6	埋土 顔部 1/3	須壺器 壺	器高 (9.5) 口径 -		還元焰 灰	口縁部及び胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。胴部外面は叩き整形後轆轤再整形。内面は当て具の背海流文の叩き整形後撫で。	6	
C区 41号 住居跡	270-1 95	床面直上 2/3	須壺器 坏	器高 (4.7) 口径 13.0 底径 (6.3)		還元焰 褐灰	腰がやや張り、口縁部はやや外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	1
	270-2	埋土 高台欠損 底部	須壺器 高台付輪	器高 (1.7) 口径 - 底径 (7.1)		還元焰 灰褐	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	器面の摩 減が顕著 2
	270-3	埋土 高台欠損 底部	須壺器 高台付輪	器高 (2.1) 口径 - 底径 (5.4)		還元焰 灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	3
C区 42号 住居跡	271-1	カマド内 1/2 方 C	土師器 坏 C	器高 5.0 口径 (14.6)		酸化焰 にぶい 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1
	271-2	埋土 1/3 C	土師器 坏 C	器高 (3.2) 口径 (11.2)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は強い横撫でにより直立する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	272-3	廻り方埋 土 1/4 B	土師器 坏 B	器高 (6.5) 口径 (21.0)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は「く」字状に内湾する。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 4
	272-4	埋土 底部 1/3	須壺器 坏	器高 (1.3) 口径 - 底径 (8.0)		還元焰 灰	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後撫で。	5



出土 遺構	探検番号 写真番号	出土位置 遺存状況	種別 器	径目 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 42号 住居跡	272-5	埋土 下半部 1/4	須恵器 坏	器高 (5.0) 口径 一 底径(10.7)		還元焰 灰	外傾気味だが、口縁部欠損のため器形は不明。 轆轤整形 (右回転)。底部は回転彫り。	外面に自然釉付着 6
	273-1	カマド内 完形	土師器 坏 A	器高 3.3 口径 10.9	石英	酸化焰 灰	九底で外傾を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	273-2	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高 (3.5) 口径(14.3)		酸化焰 灰	九底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。 体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 6
	273-3	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高 (3.7) 口径(13.9)		酸化焰 灰	九底で口縁部は「C」字状に内湾する。体部は 寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 7
	273-4	埋土 口縁部 1/3	土師器 壺	器高 (5.7) 口径(11.4)		酸化焰 灰	口縁部は外反するが、下半部欠損のため器形は 不明。胴部外面は横方向の寛削り、内面は横撫 で、口縁部は横撫で。	13
	273-5	カマド内 口縁部 1/5	土師器 壺	器高 (7.8) 口径(19.0)		酸化焰 灰	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形 は不明。胴部外面は横方向の寛削り、内面は横 撫で、口縁部は横撫で。	10
	274-6	床面直上 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 4.0 口径 12.8 底径 7.4	黒色炭物粒子	還元焰 灰	膝が僅かに張り、口縁部は僅かに内湾気味に立 ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転赤 切り後未調整。	2
	274-7	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 (4.1) 口径(10.9)		還元焰 灰	平底で口縁部は外傾する。轆轤整形 (右回転)。 底部は回転赤切り後撫で。	3
	274-8	床面直上 1/3	須恵器 坏	器高 3.8 口径(10.3) 底径 (6.3)		還元焰 灰	口縁部は僅かに内湾する。轆轤整形 (右回転)。 底部は回転赤切り後未調整。	4
	274-9	埋土 ほぼ完形	須恵器 高台付輪 高台付輪	器高 3.2 口径 10.3 底径 5.6		還元焰 白灰	膝は僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆 轤整形 (右回転)。底部は回転赤切り。高台は 貼り付け。	8
	274-10	埋土 唇部欠損 1/3	須恵器 壺	器高 (1.3) 口径(10.1)		還元焰 灰	口唇部は下方に折り歪す。轆轤整形 (右回転)。 上半部は回転寛削り、内面は湾曲気味の撫で。 底部は貼り付け。	9
	275-11	埋土 口縁部 1/3	須恵器 壺	器高 (4.0) 口径(10.0)		還元焰 灰白	口縁部は僅かに外反気味に直立するが、胴部欠 損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。	内面に自然 釉付着 14
	275-12	埋土 1/3	須恵器 壺	器高 (8.3) 口径 (8.5)		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反気味に直立する。紐作り。 轆轤整形。	外面に自 然釉付着 12
275-13	埋土 上半部 2/3	須恵器 壺	器高 (8.9) 口径(12.8) 底径 一		還元焰 灰	口縁部は外反するが、下半部欠損のため器形は 不明。紐作り。轆轤整形。	11	
C区 44号 住居跡	277-1	床面直上 完形	土師器 坏 A	器高 4.5 口径 12.5		酸化焰 明褐色 黒濁	九底で外傾を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 1
	277-2	床面直上 完形	土師器 坏 C	器高 3.8 口径 11.2		酸化焰 灰	九底で口縁部は強い横撫でにより直立する。 体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	277-3	カマド内 2/3	土師器 坏 B	器高 5.7 口径 14.4		酸化焰 灰	九底で口縁部は「く」字状に強く内湾する。体 部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 滅が顕著 3
	277-4	カマド内 ほぼ完形	土師器 坏 A	器高 3.4 口径 10.9		酸化焰 灰	九底で外傾を有し、口縁部は僅かに外反する。 体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	4
C区 46号 住居跡	279-1	埋土 口縁部	土師器 壺	器高 (4.9) 口径(14.5)		酸化焰 黒	口縁部は外反するが、胴部欠損のため器形は不 明。胴部外面は横方向の寛削り、内面は横撫で、 口縁部は横撫で。	8
	279-2	埋土 口縁部	土師器 壺	器高 (4.6) 口径(12.2)		酸化焰 暗赤黒	口縁部は外反するが、胴部欠損のため器形は不 明。胴部外面は横方向の寛削り、内面は横撫で、 口縁部は横撫で。	9

出土 遺構	採回番号 与瓦番号	出土位置 遺存状態	種別 器	度量 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 46号 住居跡	279-3 96	カマド内 底部欠損 2/3	須恵器 坏	器高 4.2 口径 13.2 底径 7.4		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。粘土層積み上げの痕跡が明瞭。	1
	280-4 96	埋土 ほぼ完形 高台付輪	須恵器 高台付輪	器高(5.7) 口径(15.0) 底径(7.0)		還元焰 灰白 鉄質	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
	280-5	割り方 1/2	須恵器 高台付輪	器高 6.0 口径(14.8) 底径(7.1)		還元焰 灰	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに外湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	6
	280-6	床面直上 高台欠損 1/2	須恵器 高台付輪	器高(4.4) 口径(12.9) 底径(6.1)		還元焰 灰	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2
	280-7	カマド内 底部 1/2	須恵器 高台付輪	器高(3.6) 口径 - 底径(6.0)		還元焰 灰白	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	7
	280-8	埋土 高台欠損 1/2	須恵器 高台付輪	器高(3.7) 口径(13.0) 底径 -		還元焰 灰白 胎	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は欠損のため不明。高台は貼り付け。	3
	280-9	カマド内 下半部 1/4	須恵器 鉢?	器高(7.2) 口径 - 底径(11.8)		還元焰 灰白 灰	上半部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。底部は調整。	14
	281-10 95	カマド内 底部欠損 1/2	須恵器 羽釜	器高(22.2) 口径(22.2) 底径 -		還元焰 灰白 胎	口縁部は強く内湾する。最大径は胴部に有する。紐作り。轆轤整形。下半部は縦方向の彫削り。跗は貼り付け。	10
	281-11 96	カマド内 上半部 1/4	須恵器 羽釜	器高(13.7) 口径(18.6) 底径 -		還元焰 灰白	口縁部は強く内湾するが、下半部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。跗は水平方向に貼り付け。	12
	281-12 95	カマド内 上半部 1/2	須恵器 羽釜	器高(16.5) 口径(20.6) 底径 -		還元焰 灰	口縁部は強く内湾する。最大径は胴部に有する。紐作り。轆轤整形。下半部は縦方向の彫削り。跗は断面三角形で貼り付け。	11
	281-13	埋土 口縁部 1/5	須恵器 羽釜	器高(8.0) 口径(20.8) 底径 -		還元焰 灰黄 胎	口縁部は強く内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。上半部は縦方向の彫削り。跗は水平方向に貼り付け。	13
	281-14 96	埋土 ほぼ完形 高台付輪	灰輪陶器 高台付輪	器高 4.1 口径 14.5 底径 6.8	白色灰物粒子	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がるが、口唇部は外反する。轆轤整形。高台は貼り付け。	内面に重 焼き痕 5
	281-15 96	埋土 底部	灰輪陶器 高台付輪	器高(1.5) 口径 - 底径(5.6)			坏部欠損のため器形は不明。轆轤整形。高台は貼り付け。	16
	C区 47号 住居跡	283-1 96	カマド内 2/3	土師器 坏 B	器高(4.5) 口径 14.3		還元焰 陶	丸底で口縁部は内湾気味に立ち上がる。体部は彫削り、口縁部・器内面は横撫で。
283-2		カマド内 1/4	土師器 坏 B	器高(4.1) 口径(14.1)		還元焰 陶	丸底で口縁部は内湾気味に立ち上がる。体部は彫削り、口縁部・器内面は横撫で。	12
283-3		埋土 1/6	土師器 坏 B	器高(3.5) 口径(18.7)		還元焰 灰白 胎	丸底で口縁部は内湾気味に立ち上がる。体部は彫削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
283-4		埋土 台部 1/3	土師器 台付罌	器高(6.7) 口径(21.6) 底径(10.0)		還元焰 陶	壺部欠損のため器形は不明。胴部外面は縦方向の彫削り。内面は横撫で。台部は横撫で。	9
283-5 96		カマド内 底部欠損 3/4	土師器 罌	器高(26.7) 口径(20.0)		還元焰 陶	口縁部は強く外反する。紐作り。胴部外面は縦・斜方向の彫削り。内面は横撫で、口縁部は横撫で。	6
283-6 96		カマド内 底部欠損	土師器 罌	器高(21.5) 口径(21.6)		還元焰 灰白 胎	胴の張りは弱く、口縁部は強く外反する。胴部外面は斜・横方向の彫削り。内面は横撫で、口縁部は横撫で。	11
283-7		カマド内 口縁部 1/3	土師器 罌	器高(3.3) 口径(22.4)		還元焰 灰白 胎	口縁部は強く外反するが、胴部欠損のため器形は不明。口縁部は横撫で。	8

出土 遺物	棟号 49号	棟内 位置	出土 状況	種類 別	目録 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号	
C区 47号 住居跡	283-8 96	283-8 1/2	出土位置 遺存状態	須恵器 高台付輪	器高 7.2 口径(18.8) 底径(9.7)		還元焰 灰	腰が僅かに張り、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	4	
				床面直上 上半部	須恵器 蓋	器高(1.9) 口径 -		還元焰 灰	口唇部分が不明。轆轤整形(右回転)。底部は自然釉。蓋部は削れている。	10
				埋土 底部	灰輪向器 高台付輪 ?	器高(2.5) 口径 - 底径(6.8)		灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	5
C区 49号 住居跡	286-1 286-2 286-3 96 286-4 286-5 286-6 286-7 286-8 286-9 286-10 286-11 286-12 286-13 286-14 286-15 287-16 287-17	埋土 口縁部 1/6	埋土 底部完形	土師器 壺	器高(9.0) 口径(20.9)		酸化焰 褐	口縁部は外反するが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方向の彫削り、内面は施釉で、口縁部は焼酎で。	25	
				埋土 底部完形	土師器 壺	器高(7.2) 口径 - 底径 5.0		酸化焰 黒黒	上半部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方向の彫削り、内面は施釉で。	24
				床面直上 ほぼ正形	須恵器 杯	器高 3.3 口径 12.4 底径 6.5		還元焰 赤灰	口縁部はほぼ直線的で外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り後未調整。	4
				埋土 底部完形	須恵器 杯	器高(2.0) 口径 - 底径 6.5		還元焰 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り後未調整。	1
				埋土 高台部 完形	須恵器 高台付輪	器高(3.2) 口径 - 底径 8.2		還元焰 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	5
				床面直上 下半部	須恵器 高台付輪	器高(3.9) 口径 - 底径(7.8)		還元焰 灰	腰が僅かに張るが、上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	6
				埋土 下半部 1/2	須恵器 高台付輪	器高(3.6) 口径 - 底径(6.2)		還元焰 灰白	腰が僅かに張るが、上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	7
				床面直上 下半部	須恵器 高台付輪	器高(4.3) 口径 - 底径 8.1		還元焰 灰白 黄 灰	腰が僅かに張るが、上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	8
				埋土 高台部 完形	須恵器 高台付輪	器高(2.8) 口径 - 底径 6.3		還元焰 灰白 黄 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	9
				埋土 高台部	須恵器 高台付輪	器高(2.7) 口径 - 底径(6.7)	石英	還元焰 灰黄	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	器面の摩 減が顕著 10
				埋土 下半部	須恵器 高台付輪	器高(3.2) 口径 - 底径 6.4	石英	還元焰 灰白 黄 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	11
				埋土 高台部	須恵器 高台付輪	器高(2.6) 口径 - 底径(8.3)		還元焰 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	12
				埋土 高台部	須恵器 高台付輪	器高(2.4) 口径 - 底径 8.0		還元焰 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	13
床面直上 高台部	須恵器 高台付輪	器高(2.3) 口径 - 底径 6.5		還元焰 灰	腰が僅かに張るが、上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	16				
埋土 下半部 1/2	須恵器 高台付輪	器高(3.4) 口径 - 底径(7.8)		還元焰 灰白	腰が僅かに張るが、上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	15				
床面直上 高台部 完形	須恵器 高台付輪	器高(2.8) 口径 - 底径 5.0		還元焰 灰黄	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	器面の摩 減が顕著 17				
埋土 高台部 1/2	須恵器 高台付輪	器高(3.1) 口径 - 底径(6.0)		還元焰 灰白 黄 灰	腰が僅かに張るが、上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転未切り。高台は貼り付け。	18				

出 土 遺 跡	棟 号	出 土 位 置	機 器 種 類	度 目 (cm)	胎 土	焼 成 色 調	器 形・技 法 等 の 特 徴	備 考 登録番号
C区 49号 住居跡	287-18	埋土 1/4 底部完形	須恵器 高台付甕	器高 2.7 口径(13.6) 底径 (7.6)		還元焰 灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	22
	287-19	埋土 上半部	須恵器 蓋	器高 (1.6) 口径 —		還元焰 灰	口唇部は不明。轆轤整形(右回転)。上半部は荒削り、踵部は貼り付け。	箱部欠損 23
	287-20	埋土	須恵器 剥蓋	器高 (7.5) 口径(19.2) 底径 —		還元焰 にぶい 磨一に ぶい期	口縁部は強く内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。甕は水平方向に貼り付け。	26
	287-21	埋土	須恵器 剥蓋	器高 (4.9) 口径(18.8) 底径 —		還元焰 灰赤	口縁部は僅かに内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。胴部の張りが高い。甕は断面三角形の貼り付け。	27
	287-22 96	埋土 1/2	灰輪陶器 高台付甕	器高 4.6 口径(16.6) 底径 8.3		灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がるが、口唇部が外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	14
	287-23	埋土 1/4	灰輪陶器 高台付甕	器高 (4.3) 口径(15.8) 底径 8.5		灰白	甕が張り、口縁部はほぼ直線的に立ち上がるが、口唇部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後調整。高台は貼り付け。	19
	287-24 96	埋土 1/2	灰輪陶器 高台付甕	器高 2.9 口径(15.0) 底径 7.6		灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がるが、口唇部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	内面に重 ね焼き痕 21
287-25 96	床面直上 1/2	灰輪陶器 高台付段 皿	器高 3.9 口径(19.2) 底径 (9.6)		灰	口縁部は段を有し、僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	20	
C区 51号 住居跡	290-1	床面直上 口縁部 1/5	土師器 甕	器高 (5.1) 口径(15.4)		酸化焰 明赤焰 ～にぶ い赤焰	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の荒削り、内面は鏡面。口縁部は横溝で。	4
	290-2	埋土 上半部	土師器 甕	器高 (6.2) 口径(12.8)		酸化焰 橙	「コ」字状口縁を呈すが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の荒削り、内面は鏡面。口縁部は横溝で。接合部が明確。	小型台付 甕か？ 3
	290-3	埋土 底部 1/4	須恵器 坏	器高 (1.2) 口径 — 底径 (7.8)		還元焰 にぶい 磨	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後調整。	2
	290-4	埋土	須恵器 坏	器高 (2.9) 口径(12.4) 底径 —		還元焰 灰	甕が僅かに張り、口縁部は内湾気味に立ち上がるが、口唇部は外反する。轆轤整形。底部欠損のため不明だが、荒削りか。	1
	290-5	埋土 口縁部 1/8	須恵器 剥蓋	器高 (4.7) 口径(20.0) 底径 —		還元焰 灰褐	口縁部は内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。甕は水平方向の貼り付け。	5
	291-6 97	床面直上 ほぼ完形	須恵器 耳皿	器高 3.0 口径 11.0 底径 5.3		還元焰 にぶい 磨	口縁部は両端を折り返す。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	6
C区 52号 住居跡	291-1 97	埋土 3/4	灰輪陶器 高台付甕	器高 3.6 口径 10.6 底径 4.9		灰	甕が張り、口縁部はほぼ直線的に外傾するが、口唇部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後調整。高台は貼り付け。	内面に重 ね焼き痕 1
C区 53号 住居跡	293-1	カマド内 1/4	土師器 坏 C	器高 (3.3) 口径(12.8)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は強い横溝でほぼ直立する。体部は鏡面調整。口縁部・器内面は横溝で。	1
	293-2	埋土 底部 1/2	土師器 甕	器高 (6.0) 口径 — 底径 (6.1)		酸化焰 にぶい 磨	上半部欠損のため器形は不明。胴部外面は縦方向の荒削り、内面は鏡面。	2
	293-3	カマド内 上半部 1/2	須恵器 蓋	器高 (1.7) 口径 —		還元焰 暗褐	口唇部は不明。轆轤整形(右回転)。踵部は貼り付け。	4
	293-4	埋土 坏部 1/3	須恵器 坏 B	器高 (6.3) 口径(24.2) 底径 —		還元焰 灰赤	口縁部はやや外反気味に立ち上がる。紐作り。轆轤整形。	3
C区 54号 住居跡	294-1 97	埋土 ほぼ完形	土師器 坏 B	器高 3.5 口径 11.0		酸化焰 にぶい 磨	丸底で口縁部は「く」字状に内傾する。体部は荒削り、口縁部・器内面は横溝で。	2

出土遺構	種類	種類	別種	口径 (cm)	土質	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 54号 住居跡	294-2	埋土 1/4	土師器 坏 B	器高 (3.7) 口径(11.6)	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 5
	295-3	カマド内 1/2	土師器 坏 B	器高 (5.9) 口径 12.4	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に強く内傾する。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 3
	295-4	カマド内 1/3	土師器 坏 B	器高 (6.0) 口径(18.0)	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「く」字状に内傾する。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 4
	295-5	埋土 口縁部 1/3	土師器 甕	器高 (5.0) 口径(18.4)	酸化焰	褐	口縁部は強く外反するが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の艶削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	7
	295-6	埋土 口縁部 1/4	土師器 甕	器高 (6.0) 口径(14.8)	酸化焰	明褐色 ～ 褐	口縁部は強く外反するが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方向の艶削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	8
	295-7	埋土 口縁部 1/2	土師器 甕	器高 (3.6) 口径(11.0)	酸化焰	にぶい 赤褐色	口縁部は外反気味に強く傾くが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の艶削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	器面の摩 減が顕著 9
	295-8	南壁際 完形	須恵器 坏	器高 2.7 口径 9.4	還元焰	灰	丸底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は手持ち艶削り。	1
	295-9	埋土 胴部 1/8	須恵器 横板	器高(15.0) 口径 -	還元焰	灰	胴部、及び底部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。胴部は貼り付け。内面の整形痕が明確。	10
	C区 55号 住居跡	296-1	床面直上 完形	土師器 坏 C	器高 3.4 口径 12.1	酸化焰	明赤褐色	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。
296-2		床面直上 ほぼ完形	土師器 坏 C	器高 4.0 口径 12.2	酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に直立する。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
296-3		埋土 ほぼ完形	土師器 坏 C	器高 3.5 口径 10.8	酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
296-4		埋土 ほぼ完形	土師器 坏 C	器高 4.2 口径 14.0	酸化焰	橙	丸底で口縁部は強い撫でではほぼ直立する。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	4
296-5		カマド内 1/4	土師器 坏 B	器高 (4.0) 口径(12.7)	酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾する。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	5
296-6		カマド内 1/5	土師器 坏 D	器高 (3.6) 口径(15.7)	酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 5
296-7		カマド内 1/4	土師器 坏 C	器高 (3.6) 口径(13.8)	酸化焰	にぶい 赤褐色	丸底で口縁部は内湾気味に立ち上がる。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 7
296-8		床面直上 ほぼ完形	土師器 坏 D	器高 3.7 口径 14.1	酸化焰	にぶい 黄褐色	丸底で器高は深く、口縁部は僅かに外反する。体部は艶削り、口縁部・器内面は横撫で。	8
297-9		カマド内 1/3	土師器 甕	器高(19.5) 口径(18.6)	酸化焰	褐	口縁部は強く外反する。胴部外面は斜方向の艶削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	11
297-10		カマド内 上半部 1/3	土師器 甕	器高(19.3) 口径(24.0)	酸化焰	橙	口縁部は強く外反するが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方向の艶削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	12
297-11		床面直上 ほぼ完形	須恵器 高台付盤	器高 4.3 口径 18.5 底径 15.1	還元焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転艶削り。高台は貼り付け。	9
297-12		埋土 ほぼ完形	須恵器 高台付盤	器高 4.8 口径 16.5 底径 11.2	還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転艶削り。高台は貼り付け。	10

出 土 遺 址	押印番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種 別	径目 (cm)	胎 土	焼 成 色 調	器 形・技法等の特徴	備 考 登録番号
C区 55号 住居跡	297-13	埋土 底部欠損 1/8	須恵器 壺	器高 (2.0) 口径(12.3)		還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)。 紐部は貼り付け。	24
	297-14	床面直上 口縁部	須恵器 壺	器高 (4.8) 口径(11.4)		還元焰 灰白	口縁部は外反するが、胴部欠損のため器形は不明。 継作り。轆轤整形。	14
	298・299 300-15 97	カマド内	須恵器 壺	器高 一 口径 一		還元焰 灰白	口縁部は外反するが、破片のため器形は不明。 継作り。轆轤整形。胴部外面は格子叩き、内面 は当て具の青濁波文の明き整形。	15
C区 56号 住居跡	301-1 97	床直 完形	土師器 杯 C	器高 4.4 口径 13.8		酸化焰 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に直立する。体 部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	1
	301-2	埋土 1/5	土師器 杯 C	器高 (4.1) 口径(14.1)		酸化焰 橙-に ぶい橙	丸底で口縁部は強い撫でによりほぼ直立する。 体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 5
	301-3	埋土 1/5	土師器 杯 C	器高 (3.6) 口径(14.6)		酸化焰 明赤褐	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に直立する。体 部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	301-4	埋土	土師器 杯 C	器高 (2.8) 口径(15.8)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は内湾気味にはほぼ直立する。体部 は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 4
	301-5	埋土 1/4	土師器 杯 A	器高 (2.8) 口径(18.2)		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反気味に 立ち上がる。体部は寛削り、口縁部・器内面は 横撫で。	器面の摩 減が顕著 6
	301-6 97	埋土 完形	須恵器 杯	器高 (3.6) 口径(14.6)		還元焰 明赤褐	丸底で口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右 回転)。底部は寛削り。	2
	C区 58号 住居跡	303-1	埋土 口縁部 1/5	土師器 杯 A	器高 (2.8) 口径(11.4)		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部はやや外反する。体 部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。
303-2		埋土 1/5	土師器 杯 A	器高 (3.9) 口径(18.8)		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は強く外反する。体 部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 3
304-3		床面直上 口縁部 1/2	土師器 壺	器高(10.4) 口径(23.6)		酸化焰 明赤褐	口縁部は強く外反するが、下半部欠損のため器 形は不明。胴部外面は斜方向の寛削り、内面は 横撫で、口縁部は横撫で。	5
304-4 98		床面直上 ほぼ完形	須恵器 杯	器高 3.3 口径 10.4		還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転寛削り。	自然胎。 粘土残付 着1
304-5		埋土 1/6	須恵器 高台付盤 ?	器高 (3.3) 口径 一 底径(11.6)		還元焰 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回 転)。底部は寛削り。高台は削り出し?	4
C区 59号 住居跡	305-1	埋土 1/5	須恵器 杯	器高 (3.5) 口径(14.2)		還元焰 黄灰	口縁部は僅かに内湾気味に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は欠損のため不明。	1 高台付腕 か?
	305-2	埋土 1/3	須恵器 高台付輪	器高 4.8 口径(12.7) 底径 (6.8)		還元焰 暗灰	口縁部は僅かに内湾気味に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転余切り。高台は貼り付 け。	2
C区 60号 住居跡	306-1 98	床面直上 完形	土師器 杯 A	器高 3.5 口径 10.8		酸化焰 橙	丸底で口縁部は僅かに外反する。体部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1
	306-2 98	埋土 1/2	土師器 杯 C	器高 3.3 口径 11.2		酸化焰 にぶい 橙	丸底で口縁部は強い撫でで直立する。体部は寛 削り、口縁部・器内面は横撫で。	内面黒色 処理 2
	306-3	埋土	土師器 杯 D	器高 (6.1) 口径 (8.2)		酸化焰 橙	器高は深く、口縁部は僅かに外反する。体部は 寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 5
	306-4 98	埋土 底部欠損 1/3	土師器 壺	器高(29.2) 口径 22.0	白色灰物粒子	酸化焰 褐	上半部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。 胴部外面は斜方向の寛削り、内面は寛削り、口 縁部は横撫で。	9

出土遺構	採掘番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	寸法目(cm)	胎土	施成色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号	
C区 60号 住居跡	306-5	床面直上 口縁部	土師器 甕	器高(7.6) 口径14.6	白色軟物粒子	酸化焰 明黄褐色	口縁部はやや外反するが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の彫削り、内面は塗敷で、口縁部は横溝で。	8	
	307-6	埋土 台部 完形	土師器 台付甕	器高(4.1) 口径— 底径10.2		酸化焰 橙	胴部欠損のため器形は不明。台部外面は縦方向の彫削り、内面は横溝で。	10	
	307-7	床面直上 台部 1/2	土師器 台付甕	器高(3.5) 口径— 底径(10.8)		酸化焰 橙	胴部欠損のため器形は不明。台部外面は縦方向の彫削り、内面は横溝で。	11	
	307-8	埋土 1/4	須恵器 坏	器高3.0 口径(12.0)		還元焰 灰	体部が扁平に近く、外縁を有し、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤変形(右回転)。底部は回転彫削り後塗で。	3	
	307-9	埋土 完形	須恵器 坏	器高2.1 口径12.4		還元焰 灰	平底気味で、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤変形(右回転)。底部は手持ち彫削り。	4	
	307-10	埋土 須部 1/2	須恵器 甕	器高(6.2) 口径(10.0) 底径—		還元焰 黄灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がるが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤変形。	6	
	307-11	床面直上 胴部 1/8	須恵器 甕	器高(19.0) 口径—		還元焰 灰白	口縁部、及び底部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤変形。胴部外面は平行叩き、内面は当て具の青海波文の叩き整形後轆轤再整形。	7	
	C区 61号 住居跡	308-1	埋土 底部 1/2	土師器 甕	器高(6.0) 口径— 底径(3.8)		酸化焰 褐	器形は不明。胴部外面は縦方向の彫削り、内面は塗敷で。	器面の摩減が顕著 5
		308-2	カマド内 高台欠損 3/4	須恵器 高台付椀	器高(5.5) 口径14.7 底径(6.8)		還元焰 におい 黄褐色 黒	腰の張りは見られず、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤変形(右回転)。底部は回転彫削り高台は貼り付け。	1
		308-3	貯蔵穴内 高台欠損 3/4	須恵器 高台付椀	器高(4.2) 口径14.4 底径(6.6)		還元焰 におい 橙	腰は僅かに張り、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤変形(右回転)。底部は回転彫削り。高台は貼り付け。	2
		309-4	貯蔵穴内 下半部 1/2	須恵器 高台付椀	器高(4.2) 口径— 底径6.8		還元焰 黒	上半部欠損のため器形は不明。轆轤変形(右回転)。底部は回転彫削り。高台は貼り付け。	3
309-5		床面直上 1/3	須恵器 高台付椀	器高(4.9) 口径— 底径(7.1)		還元焰 黒	上半部欠損のため器形は不明。轆轤変形(右回転)。底部は回転彫削り。高台は貼り付け。	4	
C区 62号 住居跡	310-1	埋土 ほぼ完形	土師器 坏 C	器高2.7 口径10.7		酸化焰 におい 橙	丸底で口縁部はほぼ直立する。体部は彫削り、口縁部・器内面は横溝で。	器面の摩減が顕著 1	
	310-2	カマド埋 土 1/3	土師器 坏 D	器高3.2 口径(14.0)		酸化焰 におい 橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は彫削り、口縁部・器内面は横溝で。	2	
	310-3	床面直上 1/4	土師器 坏 B	器高(4.1) 口径(12.8)		酸化焰 橙	丸底で口縁部は「C」字状に内湾する。体部は彫削り、口縁部・器内面は横溝で。	器面の摩減が顕著 3	
	310-4	埋土 底部 完形	土師器 甕	器高(4.9) 口径— 底径6.8		酸化焰 黒褐色	底部のみの残存で器形は不明。胴部外面は彫削り、内面は塗敷でか。	器面の摩減が顕著 4	
	310-5	床面直上 1/4	須恵器 甕	器高(2.7) 口径— 底径—		還元焰 灰白	上半部、及び台部欠損のため器形は不明。轆轤変形。台部は貼り付け。台部の残存部分に2箇所刻印が認められ、測定で5箇所か。	6	
	310-6	埋土 口縁部 1/2	須恵器 甕	器高(5.1) 口径(21.0)		還元焰 灰白	口縁部は強く外反するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤変形。	7	
	310-7	埋土 口縁部 1/4	須恵器 甕	器高(6.3) 口径(24.2)		還元焰 灰白	口縁部は外反気味に立ち上がるが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤変形。	8	
	311-8	床面直上 上半部 1/4	須恵器 甕	器高(13.5) 口径(25.8)		還元焰 灰	口縁部は強く外反するが、下半部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤変形。胴部外面は格子叩き、内面は当て具の青海波文叩き整形。	9	

出 道	土 橋	押印番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種 別	度 目 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技法等の特徴	備 考 登録番号
C区 63号 住居跡		312-1 98	床面直上	土師器 完形	器高 3.5 口径 11.3		酸化焰	にぶい 黒	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は丸筒形、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1
		312-2 98	貯蔵穴内 2/3	土師器 坏	器高 4.0 口径 12.8		酸化焰	黒	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は丸筒形、口縁部・器内面は横撫で。	3
		312-3 98	床面直上	土師器 変 1/2	器高(11.3) 口径 21.0		酸化焰	黒	口縁部は強く外反するが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜・縦方向の彫削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	4
		312-4 98	カマド内 完形	須恵器 坏	器高 3.5 口径 10.0		還元焰	灰黒	丸底で口縁部は内湾気味に立ち上がる。轆轤整 轆轤整形(右回転)。底部は回転彫削り。	口縁の歪 みか顕著 2
		312-5	埋土 口縁部 1/4	須恵器 変	器高(5.8) 口径(22.8)		還元焰	灰白	口縁部は外反するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。	自然軸 5
		313-314 -6	埋土 胴部	須恵器 変	器高(5.8) 口径 -		還元焰	灰	口縁部、及び底部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。胴部外面は平行叩き、内面は当て具の青濁或文型整形。	6
C区 64号 住居跡		317-1 98	カマド内 完形	土師器 坏 B	器高 3.7 口径 12.5		酸化焰	黒	丸底で口縁部は「C」字状に強く内湾する。体部は丸筒形、口縁部・器内面は横撫で。	2
		317-2	埋土 1/2	土師器 坏 B	器高 4.8 口径 15.6		酸化焰	黒	丸底で口縁部は「C」字状に内湾する。体部は丸筒形、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 3
		317-3 98	カマド内 1/2	土師器 坏 B	器高 4.7 口径(14.5)		酸化焰	明赤褐色	丸底で口縁部は「C」字状に強く内湾する。体部は丸筒形、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 4
		317-4	埋土 1/2	土師器 坏 C	器高(3.2) 口径(13.2)		酸化焰	黒	丸底で口縁部は強い横撫でで直立する。体部は丸筒形、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 5
		317-5	埋土 1/3	土師器 坏 C	器高(3.2) 口径(11.4)		酸化焰	黒	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は丸筒形、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 8
		317-6	埋土 1/3	土師器 坏 D	器高(3.9) 口径(13.6)		酸化焰	黒	平底で口縁部は外傾する。体部は丸筒形、口縁部・器内面は横撫で、内面に放射状暗文を施す。	7
		317-7	埋土 口縁部 1/6	土師器 変	器高(4.8) 口径(20.0)		酸化焰	黒	「コ」字状口縁を見すが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の彫削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	16
		317-8	埋土 口縁部 1/4	土師器 変	器高(9.2) 口径(20.0)		酸化焰	黒	「コ」字状口縁に近いが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方向の彫削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	15
		317-9	埋土 上半部 1/5	土師器 変	器高(10.0) 口径(21.4)		酸化焰	黒	口縁部は強く外反するが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方向の彫削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	14
		317-10 98	埋土 完形	須恵器 坏	器高 2.7 口径 10.4		還元焰	灰	丸底で口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転彫削り。	1
		317-11	埋土 高台欠損 3/4	須恵器 高台付輪	器高(5.4) 口径(14.6) 底径(8.3)		還元焰	灰	腰の張りは見られず、口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	5
		317-12	埋土 1/4	須恵器 高台付輪	器高 5.9 口径(14.6) 底径(6.8)		還元焰	にぶい 黄褐色	腰は僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	10
		317-13	埋土 下半部 完形	須恵器 高台付輪	器高(4.5) 口径 - 底径 -		還元焰	黒褐色	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	11
		317-14	埋土 底部 3/4	須恵器 高台付輪	器高(2.2) 口径 - 底径 7.5		還元焰	灰白	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。糸切り痕は撫でで消されている。	12



出土 通	棟 号	棟 号	出土位置 遺存状況	種 別	別 種	底目 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考 号
C区 64号 住居跡	317-15	埋土	須恵器 高台付椀	須恵器 底 1/3	器高 (2.6) 口径 - 底径 (7.7)	還元焰	灰	灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	13	
											317-16
C区 65号 住居跡	318-1	埋土	土師器 B	器高 (3.5) 口径(10.3)	酸化焰	橙	丸底で口縁部は「C」字状に内湾する。体部は置削り。口縁部・器内面は横撫で。		1		
	318-2	埋土	須恵器 坏	器高 (3.7) 口径(13.6) 底径 (7.0)	還元焰	黄灰	壁の張りは見られず。口縁部は僅かに内湾気味に外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。	高台付椀? 2			
	319-3	埋土	須恵器 高台付椀	器高 (3.8) 口径(13.2) 底径 (6.4)	還元焰	灰黄	壁の張りは見られず。口縁部は内湾気味に立ち上がるが、口唇部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4			
	319-4	埋土	須恵器 高台付椀	器高 (5.8) 口径(15.9) 底径 -	還元焰	灰白	壁がやや張り。口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形。底部は欠損のため不明。	5			
	319-5	埋土	須恵器 羽釜	器高 (7.1) 口径(18.0) 底径 -	還元焰	褐-灰 褐	口縁部はやや内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。柱作り。轆轤整形。露は断面三角形の貼り付け。	6			
	319-6	埋土	灰輪陶器 高台付椀	器高 (3.5) 口径(14.0) 底径 -	還元焰	灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形。底部は欠損のため不明。	3			
C区 66号 住居跡	321-1	床面直上 上半部	土師器 要	器高 (6.3) 口径 20.0	酸化焰	褐	「コ」字状口縁を呈すが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は横・斜方向の置削り。内面は置撫で、口縁部は横撫で。		5		
	321-2	床面直上 口縁部	土師器 要	器高 (6.8) 口径(20.2)	酸化焰	橙-に ぶい赤 褐	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の置削り。内面は置撫で、口縁部は横撫で。		6		
	321-3	床面直上 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.8 口径 12.8 底径 6.4	還元焰	褐-黒 褐	壁は僅かに張り。口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。		1		
	321-4	床面直上 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 (4.0) 口径(12.6)	還元焰	にぶい 黄橙	壁は僅かに張り。口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。		2		
	321-5	埋土 完形	須恵器 高台付椀	器高 6.4 口径 16.4 底径 8.0	還元焰	灰	壁の張りは見られず。口縁部は外傾する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。		3		
	321-6	貯蔵穴内 1/3	須恵器 高台付椀	器高 5.5 口径 15.1 底径 6.1	還元焰	にぶい 黄橙	壁が僅かに張り。口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。		4		
	321-7	床面直上 ほぼ完形	須恵器 高台付皿	器高 3.1 口径 14.4 底径 6.4	還元焰	灰黄	器高は低く、口縁部は外傾するが、口唇部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。		7		
	C区 68号 住居跡	323-1	床面直上 完形	土師器 坏 B	器高 2.9 口径 10.8	酸化焰	灰褐	丸底で口縁部は僅かに「C」字状に内湾する。体部は置削り。口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著	1	
C区 69号 住居跡		324-1	カマド 口縁部	土師器 要	器高 (8.5) 口径(20.8)	酸化焰	橙	口縁部はやや外反するが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の置削り。内面は置撫で、口縁部は横撫で。	器面の摩 減が顕著	7	
	324-2	カマド 上半部	土師器 要	器高(16.3) 口径(17.0)	酸化焰	灰褐	胴の張りは強く、口縁部はやや外反する。胴部外面は縦方向の置削り。内面は置撫で。口縁部は横撫で。		6		
324-3	カマド 下半部	土師器 要	器高(13.5) 口径 -	酸化焰	橙	上半部欠損のため器形は不明。胴部外面は縦方向の置削り。内面は置撫で。	器面の摩 減が顕著	8			
324-4	カマド際 ほぼ完形	須恵器 高台付椀	器高 4.9 口径 13.5 底径 6.8	還元焰	にぶい 褐	壁は僅かに張り。口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。		1			

出土 遺物	拝固番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	別種 目録 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 69号 住居跡	324-5 99	カマド 1/2	須恵器 高台付焼	器高 5.6 口径(13.0) 底径 6.9		還元焰 にぶい 赤褐	腰は僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2
	324-6	カマド 1/4	須恵器 高台付焼	器高 4.3 口径(13.6) 底径 (6.4)		還元焰 にぶい 黄橙一 黒期	腰は僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	3
	324-7	貯蔵穴内 下半部 1/2	須恵器 高台付焼	器高 (4.3) 口径 - 底径 (6.1)		還元焰 にぶい 橙	上半部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
	324-8	床面直上 下半部 2/3	須恵器 高台付焼	器高 (3.8) 口径 - 底径 (6.9)		還元焰 灰褐	上半部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	5
	324-9	床面直上 下半部 2/3	須恵器 器高 (16.3) 口径 -			還元焰 灰	口縁部、及び胴部欠損のための器形は不明。継作り。轆轤整形。胴部外面は平行叩き、内面は当て具の青海波文の叩き整形後轆轤再整形。	9
C区 70号 住居跡	327-1 99	カマド内 底部欠損	土師器 要	器高(22.7) 口径 20.4	白色灰物粘土	酸化焰 褐	「コ」字状口縁の痕跡をとどめる。胴部外面は斜方向の蔑削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	12
	327-2 99	床面直上 底部欠損	土師器 要	器高(22.3) 口径 19.6		酸化焰 褐	「コ」字状口縁を呈し、胴部外面は斜方向の蔑削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	13
	328-3	床面直上 上半部	土師器 要	器高(12.5) 口径 19.4		酸化焰 褐	「コ」字状口縁を呈すが、下半部欠損のための器形は不明。胴部外面は斜方向の蔑削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	6
	328-4 99	床面直上 口縁部 1/4	土師器 要	器高 (8.9) 口径(21.2)		酸化焰 赤褐	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のための器形は不明。胴部外面は斜方向の蔑削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	7
	328-5	埴土 口縁部 1/3	土師器 要	器高 (8.6) 口径(20.0)		酸化焰 褐	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のための器形は不明。胴部外面は横・斜方向の蔑削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	8
	328-6	埴土 口縁部	土師器 要	器高 (4.7) 口径(17.6)		酸化焰 にぶい 赤褐	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のための器形は不明。胴部外面は横方向の蔑削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	9
	328-7	埴土 口縁部 1/4	土師器 要	器高 (7.2) 口径(18.0)		酸化焰 橙	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のための器形は不明。胴部外面は横方向の蔑削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。	10
	328-8 99	床面直上 ほぼ定形	須恵器 坯	器高 4.0 口径 13.3 底径 7.0		還元焰 灰白一 灰	腰が僅かに張り、口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	328-9 99	床面直上 1/2	須恵器 坯	器高 (3.7) 口径(13.9) 底径 (7.4)		還元焰 褐灰	腰の張りは有せず、口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	328-10 99	床面直上 ほぼ定形 高台付焼	須恵器 高台付焼	器高 5.7 口径 14.7 底径 7.1		還元焰 灰	腰は僅かに張り、口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	3
	328-11	床面直上 底部 1/2	須恵器 高台付焼	器高 (3.3) 口径 - 底径 7.2		還元焰 灰	口縁部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
	328-12	埴土 底部 2/3	須恵器 高台付焼	器高 (1.6) 口径 - 底径 8.1		還元焰 にぶい 黄橙	坏部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	5
	C区 71号 住居跡	329-1	貯蔵穴内 口縁部 1/4	土師器 要	器高 (4.5) 口径(19.0)		酸化焰 にぶい 褐	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のための器形は不明。胴部外面は横方向の蔑削り、内面は艶撫で、口縁部は横撫で。
329-2 100		貯蔵穴内 1/2	須恵器 高台付焼	器高 (6.7) 口径(15.7) 底径 7.5		還元焰 明オリ 一ブ灰	腰の張りを有せず、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	3
330-3		貯蔵穴内 胴部破片	須恵器 要	口径 - 底径 -		還元焰 褐灰	継作り。轆轤整形。胴部外面は平行叩き、内面は当て具の青海波文の叩き整形。	器形復元 不可能 2

出土遺構	採回番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種類 別種	寸法目 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 72号 住居跡	332-1	貯蔵穴内 1/4	土師器 坏 D	器高 3.1 口径(12.0)		酸化焙 橙	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 6
	332-2	埋土 1/5	土師器 坏 D	器高 3.2 口径(14.0) 底径 (9.9)	黒色鉱物粒子	酸化焙 橙	平底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。	器面の摩 減が顕著 7
	332-3	床面直上 上半部	土師器 甕	器高(18.2) 口径(20.0)		酸化焙 明褐	「コ」字状口縁を呈し、胴部外面は横・斜方向 の篋削り、内面は篋撫で、口縁部は横撫で。	9
	332-4	床面直上 口縁部	土師器 甕	器高 (5.9) 口径(20.6)		酸化焙 明赤褐	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形 は不明。胴部内面は横方向の篋削り、内面は篋 撫で、口縁部は横撫で。	11
	332-5	床面直上 ほぼ定形 100	須恵器 坏	器高 3.4 口径 12.7 底径 5.3		還元焙 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	332-6	ほぼ定形 100	須恵器 坏	器高 3.3 口径 13.7 底径 7.1		還元焙 暗灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形 (右 回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	332-7	貯蔵穴内 ほぼ定形 100	須恵器 坏	器高 3.1 口径 13.2 底径 8.2		還元焙 灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整 形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	3
	332-8	貯蔵穴内 1/3	須恵器 坏	器高 3.4 口径(12.7) 底径 (7.2)	褐色鉱物粒子	還元焙 灰	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに内湾気味に立 ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸 切り後未調整。	4
	332-9	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 (4.1) 口径(12.3) 底径 (3.2)		還元焙 灰白	腰が僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆 轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	5
	332-10	貯蔵穴内 底部 1/2	須恵器 高台付轆	器高 (1.7) 口径 - 底径 (7.0)		還元焙 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回 転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	8
C区 73号 住居跡	335-1	埋土 底部 ほぼ定形	土師器 台付甕	器高 (5.6) 口径 - 底径 9.8		酸化焙 暗赤褐	胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は斜方向 の篋削り、内面は篋撫で、台部は横撫で。	器面の摩 減が顕著 3
	335-2	ほぼ定形 100	土師器 坏	器高 3.6 口径 12.3		酸化焙 橙	丸底で口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。 体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1
	335-3	カマド 1/2	土師器 甕	器高 3.1 口径(12.4)		酸化焙 赤褐	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。 体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 2
	335-4	床面直上 1/2	須恵器 坏	器高 4.0 口径(13.8) 底径 (7.8)		還元焙 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾するが、口唇部は外 反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切 り後未調整。	7
	335-5	カマド ほぼ定形 100	須恵器 甕	器高 4.6 口径 18.0		還元焙 灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)。 上半部は回転篋削り。底部は貼り付け。	4
	335-6	埋土 竪部欠損 1/4	須恵器 甕	器高 (2.7) 口径(19.4)		還元焙 灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 (右回転)。 底部は貼り付け。	5
C区 74号 住居跡	338-1	ほぼ定形 100	土師器 坏 C	器高 4.0 口径 11.7		酸化焙 橙	丸底で口縁部は強い横撫でで直立する。体部は 篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 2
	338-2	床面直上 ほぼ定形 100	土師器 坏 D	器高 4.1 口径 13.3		酸化焙 明赤褐	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。 体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	3
	338-3	床面直上 ほぼ定形 100	土師器 坏 C	器高 3.5 口径 10.1		酸化焙 橙	丸底で口縁部は強い横撫でではば直立する。体 部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 4
	338-4	床面直上 1/5	土師器 坏 C	器高 (5.2) 口径(16.0)		酸化焙 橙	丸底で器高が高く、口縁部は強い横撫でで直立す る。体部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 5

出土 遺構	神田番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別	別称	径目 (cm)	胎土	構成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 74号 住居跡	338-5 100	床面直上 胴部欠損	土師器	壺	器高(38.6) 口径 2.0 底径 3.0	白色灰物粒子	酸化焰	褐	口縁部は外反する。胴部外面は斜方向の彫削り、内面は凹溝で、口縁部は横溝で。	器面の摩減が顕著 7
	338-6 100	カマド内 底部欠損	土師器	壺	器高(31.4) 口径 19.0	白色灰物粒子	酸化焰	褐	口縁部は外反する。胴部外面は斜方向の彫削り、内面は凹溝で、口縁部は横溝で。	器面の摩減が顕著 8
	338-7	カマド内 ほぼ定形	須恵器	坏	器高 3.1 口径 13.0	白色灰物粒子	還元焰	灰	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は手持ち彫削り。	1
	338-8	埋土 底部	須恵器	高台付輪	器高(2.1) 口径 - 底径(9.0)		還元焰	灰白	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	6
C区 75号 住居跡	339-1 100	床面直上 2/3	土師器	坏	器高 4.7 口径(13.0)		酸化焰	黄-灰 褐	平底気味で、口縁部は外傾するが、口唇部は外反する。体部は彫削り、口縁部・器内面は横溝で。	器面の摩減が顕著 2
	340-2 101	床面直上 口縁部一 部1/2	土師器	壺	器高(18.6) 口径(18.8)		酸化焰	黄-黒 褐	「コ」字状口縁の痕跡をとどめる。胴部外面は縦・斜方向の彫削り、内面は凹溝で、口縁部は横溝で。	器面の摩減が顕著 12
	340-3 100	床面直上 2/3	須恵器	坏	器高(4.0) 口径(12.7) 底径(6.0)		還元焰	灰-黒	腰の張りは弱く、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	340-4	カマド内 1/3	須恵器	坏	器高 3.9 口径(12.2) 底径(6.2)		還元焰	灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	4
	341-5	埋土 1/4	須恵器	坏	器高(3.2) 口径(13.0) 底径(5.6)		還元焰	灰	腰が僅かに張り、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	3
	341-6	カマド内 下半部 1/2	須恵器	高台付輪	器高(5.0) 口径 - 底径(9.6)	白色灰物粒子	還元焰	にぶい 橙	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	5
	341-7	カマド内 底部欠損 1/4	須恵器	高台付輪	器高(5.0) 口径(12.9) 底径 -		還元焰	灰	腰の張りはやせず、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形。底部は欠損のため不明。	7
	341-8	カマド内 1/4 底部定形	須恵器	高台付輪	器高 5.5 口径(13.5) 底径 7.1		還元焰	灰	腰の張りはやせず、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	6
	341-9	カマド内 1/3	須恵器	高台付輪	器高(5.2) 口径(14.0) 底径(6.8)		還元焰	黒褐	腰は僅かに張り、口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	8
	341-10	カマド内 1/5	須恵器	高台付輪	器高 6.0 口径(12.0) 底径(6.2)		還元焰	灰	腰の張りはやせず、口縁部はやや外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	9
	341-11	貯蔵穴 底部定形	須恵器	高台付輪	器高(2.8) 口径 - 底径 6.7		還元焰	灰白	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	器面の摩減が顕著 10
	341-12	貯蔵穴内 底部定形	須恵器	高台付輪	器高(1.8) 口径 - 底径 6.5		還元焰	にぶい 橙	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	11
	341-13 101	カマド埋 土・底部 欠損 1/2	須恵器	羽釜	器高(23.3) 口径(18.5) 底径 -		還元焰	褐	口縁部は強く内湾する。紐作り。轆轤整形。胴部下半部は縦方向の彫削り。踵は貼り付け。	25
	341-14 100	カマド内 上半部 1/4	須恵器	羽釜	器高(9.8) 口径(19.0) 底径 -		還元焰	淡橙- 灰白	口縁部は強く内湾するが、下半部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。踵は水平方向に貼り付け。	13
	341-15 100	床面直上 口縁部 1/3	須恵器	羽釜	器高(8.1) 口径(19.2) 底径 -		還元焰	にぶい 赤褐	口縁部は強く内湾するが、胴部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。踵は貼り付け。	14
C区 76号 住居跡	343-1	埋土 1/2	須恵器	坏	器高 3.8 口径(12.6) 底径(8.1)		還元焰	灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転彫削り。	2

出土遺構	採回番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	目録 目録	口径(φ)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 76号 住居跡	343-2	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 4.2 口径(12.0) 底径(7.9)		還元焰	灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転削り。	3
	344-3	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 2.4 口径(11.8) 底径(6.2)		還元焰	灰	口縁部はほぼ直線的で外反する。轆轤整形(右回転)。回転糸切り後未調整。	外面に自然釉付着 1
	344-4	埋土 紐部 完形	須恵器 蓋	器高(1.8) 口径 -		還元焰	灰	下半部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。縁部は貼り付け。	4
C区 77号 住居跡	345-1	埋土 1/2	土師器 坏 C	器高 3.6 口径(10.5)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 1
	345-2	埋土 1/2	土師器 坏 C	器高 3.0 口径(10.3)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	2
	345-3	埋土 1/3	土師器 坏 C	器高(2.8) 口径(10.2)		酸化焰	橙	丸底で口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩 減が顕著 3
	345-4	カマド内 上半部	土師器 妻	器高(23.9) 口径(19.5)		酸化焰	橙	口縁部は強く外反する。胴部外面は縦・斜方向の寛削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	4
	345-5	埋土 上半部 1/2	土師器 妻	器高(8.0) 口径(14.6)		酸化焰	橙	口縁部は強く外反するが、下半部欠損のための器形は不明。胴部外面は縦方向の寛削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	5
	345-6	埋土 上半部 1/3	土師器 妻	器高(8.4) 口径(10.8)		酸化焰	橙	口縁部は強く外反するが、下半部欠損のための器形は不明。胴部外面は縦・斜方向の寛削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	器面の摩 減が顕著 6
C区 3号 溝	346-1	埋土 底部 1/3	須恵器 高台付輪	器高(3.3) 口径 - 底径(7.4)		還元焰	灰白	上半部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	1
	346-2	埋土 底部	須恵器 高台付輪	器高(3.0) 口径 - 底径 7.6	黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	上半部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	3
C区 4号 溝	347-1	埋土 口縁部	土師器 坏	器高(7.8) 口径(19.6)		酸化焰	橙	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のための器形は不明。胴部外面は寛削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	器面の摩 減が顕著 8
	347-2	埋土 底部 1/2	須恵器 高台付輪	器高(2.0) 口径 - 底径(9.0)		還元焰	灰白	上半部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
	347-3	埋土 底部 1/3	須恵器 高台付輪	器高(1.9) 口径 - 底径(8.9)		還元焰	灰白	上半部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	6
	347-4	埋土 紐部完形	須恵器 蓋	器高(1.6) 口径 -		還元焰	灰	下半部欠損のための器形は不明。轆轤整形。紐部は貼り付け。	9
C区 6号 溝	349-1	埋土 口縁部 1/3	土師器 妻	器高(8.6) 口径(19.0)		酸化焰	橙	「コ」字状口縁を呈すが、下半部欠損のための器形は不明。胴部外面は寛削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	2
	349-2	埋土 口縁部 1/4	土師器 妻	器高(6.0) 口径(18.8)		酸化焰	橙	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のための器形は不明。胴部外面は寛削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	8
	349-3	埋土 1/4	須恵器 坏	器高(2.3) 口径(13.4) 底径(6.6)		還元焰	灰白	腰がやや張り、口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	底面に貫 通して痕 4
	349-4	埋土 底部完形	須恵器 坏	器高(2.3) 口径 - 底径 6.5		還元焰	灰黄	上半部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	底面に粘 土塊付着 1
	349-5	埋土 坏部 1/4	須恵器 高台付輪	器高(4.7) 口径(14.4) 底径(7.2)		還元焰	黒褐	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形。底部は欠損のため不明。	5

出 遣 土 橋	挿入番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種 別 器 種	底 目 (cm)	胎 土	焼 成 色 調	器 形・技法等の特徴	備 考 登録番号
C区 6号 溝	349-6	埋土 下半部	須恵器 高台付筒	器高(3.2) 口径 - 底径 6.8	-	還元焰 褐色	口縁部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	6
	349-7	埋土 底部	須恵器 高台付筒	器高(2.2) 口径 - 底径(7.0)	-	還元焰 灰	口縁部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	7
	349-8	埋土	須恵器 取手	器高 - 口径(2.2) 底径 -	-	還元焰 赤黒- 赤灰	取手のみの残存のため、器種が不明だが、水注か。	自然融付 着 9
C区 7号 溝	350-1	埋土 下半部 1/2	土師器 壺	器高(15.0) 口径 - 底径 6.0	-	酸化焰 黒褐色	上半部欠損のための器形は不明。胴部外面は斜方向の幾何り、内面は幾何的。	4
	350-2	埋土 1/3	須恵器 環	器高 3.6 口径(11.5) 底径(7.2)	-	還元焰 灰	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	9
	350-3	埋土 底部 1/3	須恵器 環	器高(2.1) 口径 - 底径(7.8)	-	還元焰 褐色	口縁部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	6
	350-4	埋土 底部 1/4	須恵器 高台付筒	器高(4.1) 口径 - 底径(9.0)	-	還元焰 にぶい 赤黒	口縁部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	底面の摩 滅が顕著 7
	350-5	埋土 1/2	須恵器 高台付筒	器高 3.1 口径(13.0) 底径(7.1)	-	還元焰 灰白	器高は低く、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	貼り付け 痕が明瞭 1
	350-6	埋土 1/4	須恵器 蓋	器高(3.3) 口径 -	-	還元焰 灰	下半部欠損のための器形は不明。轆轤整形。紐部は貼り付け。	2
	350-7	埋土 胴上半部 1/3	須恵器 長頸壺?	器高(8.6) 口径 - 底径 -	-	還元焰 灰	頸部、及び底部欠損のための器形は不明。轆轤整形。胴部に筋書き点列紋を施す。	3
C区 8号 溝	351-1	埋土 底部 1/2	須恵器 高台付筒	器高(2.4) 口径 - 底径(6.0)	-	還元焰 灰	上半部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	高台欠損 1
	351-2	埋土 底部	灰釉陶器 高台付筒	器高(2.1) 口径 - 底径(8.4)	-	灰白	上半部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2
C区 11号 溝	350-11	埋土 底部	須恵器 環	器高(11.8) 口径 -	-	還元焰 灰	口縁部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は幾何調整。	2
	350-12	埋土 口縁部	須恵器 壺	器高(6.2) 口径(23.8)	-	還元焰 灰	壺部欠損のための器形は不明。経り付。轆轤整形。外面に「1」の捺記号。	1
C区 1号 土坑	352-1 102	埋土 1/4	須恵器 高台付筒	器高 6.1 口径(14.3) 底径(6.9)	-	還元焰 灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	7
	352-2 102	埋土 1/2	須恵器 高台付筒	器高 5.6 口径(15.8) 底径(8.1)	-	還元焰 灰白	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2
	352-3 102	埋土 1/2	須恵器 高台付筒	器高 3.3 口径(14.6) 底径 8.0	-	還元焰 灰白	器高は低く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	内面に重 ね焼き痕 3
	352-4	埋土 1/3	須恵器 高台付筒	器高 5.3 口径(14.5) 底径 8.4	-	還元焰 灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	6
	352-5	埋土 底部定形	須恵器 高台付筒	器高(4.3) 口径 - 底径(8.4)	-	還元焰 灰白- 灰	上半部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	1
	352-6	埋土 底部	須恵器 高台付筒	器高(3.7) 口径 - 底径 9.1	-	還元焰 灰白	上半部欠損のための器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4

出土遺構	検出番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	度量 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 1号 土坑	352-7	埋土 底部	須恵器 高台付椀	器高 (3.4) 口径 - 底径 8.4		還元焰 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	5
	353-9	埋土 底部	須恵器 高台付椀	器高 (1.7) 口径 - 底径 7.6		還元焰 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	1
C区 2号 土坑	353-10	埋土 底部	須恵器 高台付椀	器高 (5.3) 口径 - 底径 9.2		還元焰 灰白	口縁部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2
	354-1	埋土 1/3	土師器 A	器高 3.5 口径(11.0)		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩減が顕著 4
C区 3号 土坑	354-2	埋土 1/2	土師器 D	器高 3.8 口径(11.0)		酸化焰 橙	口縁部はほぼ直線的に立ち上がる。体部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩減が顕著 2
	354-3	埋土 1/3	土師器 D	器高 (3.4) 口径(12.4)		酸化焰 ぶい 橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩減が顕著 3
	358-1	埋土 底部 1/4	灰輪陶器 高台付椀	器高 (3.1) 口径 - 底径 (6.5)		灰白	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後調整。	1
C区 11号 土坑	358-2	埋土 底部	須恵器 椀	器高 (1.1) 口径 - 底径 6.5		還元焰 ぶい 赤褐	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	358-3	埋土 底部	須恵器 椀	器高 (1.8) 口径 - 底径 6.0		還元焰 灰白	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	358-4	埋土 1/4	須恵器 高台付椀	器高 4.8 口径(16.9) 底径 (7.9)		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	6
	358-5	埋土 口縁部片	灰輪陶器 高台付皿	器高 (1.9) 口径(16.0) 底径 -		灰白	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がるが、口唇部は外反する。轆轤整形。底部は欠損のため不明。	5
	358-6	埋土 1/2	土師器 D	器高 (2.9) 口径(12.2)		酸化焰 橙	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。体部は斲削り、口縁部・器内面は横撫で。	4
C区 12号 土坑	358-7 105	埋土 ほぼ定形	須恵器 椀	器高 4.7 口径 14.3 底径 6.3		還元焰 灰黄	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	内面 1
	358-8 105	埋土 ほぼ定形	須恵器 椀	器高 3.9 口径 14.2 底径 5.4		還元焰 ぶい 黄橙	口縁部は僅かに張り、口縁部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	358-9 105	埋土 1/3	須恵器 椀	器高 3.9 口径(12.8) 底径 (4.7)		還元焰 褐灰- 灰白	口縁部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	3
	358-10 105	埋土・高 台部欠損 1/2	須恵器 高台付椀	器高 (5.3) 口径(15.2) 底径 -		還元焰 灰白	口縁部は僅かに張り、口縁部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	5
	358-11	埋土 底部	須恵器 高台付椀	器高 (3.5) 口径 - 底径 7.0		還元焰 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	7
	358-12	埋土 底部	須恵器 高台付椀	器高 (3.5) 口径 - 底径 (8.4)		還元焰 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	8
	358-13 105	埋土 1/3	灰輪陶器 高台付椀	器高 6.8 口径(18.8) 底径 (8.0)		灰白	口縁部は内湾気味に立ち上がるが、口唇部は外反する。轆轤整形。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	6
	358-14	埋土 1/4	須恵器 蓋	器高 (2.6) 口径 -		還元焰 灰白	下半部欠損のため器形は不明。轆轤整形。上半部は回転斲削り。縁部は貼り付け。	9

出土遺構	押印番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	別種 度目 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 12号 土坑	358-15 105	埋土 口縁部片	緑釉陶器 高台付段 皿	器高 (2.0) 口径(15.0) 底径 -			段を有し、口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形。底部は欠損のため不明だが、高台は貼り付け。	10
	359-1	埋土 口縁部 1/4	土師器 壺	器高 (4.5) 口径(18.9)		酸化焰 にぶい 赤褐色	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の筋削り、内面は筋削り、口縁部は横撫で。	14
C区 13号 土坑	359-2	埋土 台部 完整	土師器 高台付 壺	器高 (3.5) 口径 - 底径 8.5		酸化焰 にぶい 褐色	胴部欠損のため器形は不明。台部は横撫で。	15
	359-3 105	埋土 完整	須恵器 坏	器高 3.4 口径 11.9 底径 6.2		還元焰 黄灰	腰は僅かに張り、口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部は筋調整。	口縁部の 歪み顕著 1
	359-4 105	埋土 ほぼ完整	須恵器 坏	器高 4.0 口径 13.2 底径 6.1		還元焰 灰白～ 黒褐色	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	359-5 105	埋土 ほぼ完整	須恵器 坏	器高 3.6 口径 12.6 底径 6.0		還元焰 灰黄	腰は僅かに張り、口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	3
	359-6	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 4.2 口径(13.9) 底径 (5.5)		還元焰 灰白	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	4
	359-7	埋土 底部	須恵器 坏	器高 (1.5) 口径 - 底径 6.2		還元焰 黒褐色	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	6
	359-8 105	埋土 ほぼ完整	須恵器 高台付 壺	器高 5.6 口径 14.4 底径 6.4		還元焰 にぶい 黄褐色	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	7
	359-9 105	埋土 高台欠損 1/2	須恵器 高台付 壺	器高 (4.3) 口径(14.0) 底径 -		還元焰 黒褐色	口縁部はほぼ直線的に外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	8
	359-10	埋土 1/3	須恵器 高台付 壺	器高 5.0 口径(14.0) 底径 (5.0)		還元焰 灰白	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	9
	359-11	埋土 1/5	須恵器 高台付 壺	器高 (5.1) 口径(14.6) 底径 (6.5)		還元焰 灰黄～ 黒褐色	腰は僅かに張り、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	10
	359-12	埋土 底部	須恵器 高台付 壺	器高 (3.1) 口径 - 底径 (6.5)		還元焰 にぶい 黄褐色	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	5
	359-13	埋土 底部	須恵器 高台付 壺	器高 (2.1) 口径 - 底径 7.0		還元焰 黄灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	11
	359-14	埋土 底部	須恵器 高台付 壺	器高 (2.4) 口径 - 底径 (7.6)		還元焰 灰	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	12
	359-15	埋土 底部	須恵器 高台付 壺	器高 (1.3) 口径 - 底径 (6.4)		還元焰 橙	坏部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	13
	C区 1号 井戸	365-1	埋土 1/2	土師器 坏 D	器高 3.2 口径(12.8)		酸化焰 橙 軟質	平底気味で、口縁部はほぼ直線的に外傾する。体部は筋削り、口縁部・器内面は横撫で。
365-2 105		埋土 上半部 2/3	土師器 壺	器高(15.6) 口径 20.2 底径 -		酸化焰 橙	「コ」字状口縁を呈し、胴部外面は横・斜方向の筋削り、内面は筋削り、口縁部は横撫で。	内面の 減少顕著 6
365-3 105		埋土 上半部 1/2	土師器 壺	器高(19.8) 口径 20.0 底径 -		酸化焰 黒褐色	「コ」字状口縁を呈し、胴部外面は斜方向の筋削り、内面は筋削り、口縁部は横撫で。	17
365-4		埋土 口縁部 1/2	土師器 壺	器高 (7.8) 口径(20.0) 底径 -		酸化焰 にぶい 橙	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の筋削り、内面は筋削り、口縁部は横撫で。	器面の 減少顕著 18



出土遺構	押込番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種類 別種	径目 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備 考 登録番号
C区 1号 井戸	365-5	埋土 口縁部 1/2	土師器 甕	器高 (6.5) 口径(21.0) 底径 -		酸化焰 にぶい 橙	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の発削り、内面は発削で、口縁部は横溝で。	19
	365-6	埋土 口縁部 1/2	土師器 甕	器高 (8.3) 口径(20.0) 底径 -		酸化焰 にぶい 橙	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の発削り、内面は発削り、口縁部は横溝で。	20
	365-7	埋土 口縁部 1/4	土師器 甕	器高 (9.7) 口径(20.0) 底径 -		酸化焰 にぶい 橙	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の発削り、内面は発削り、口縁部は横溝で。	21
	365-8	埋土 口縁部 1/3	土師器 甕	器高 (8.0) 口径(20.4) 底径 -		酸化焰 赤褐色	「コ」字状口縁をとどめるが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の発削り、内面は発削で、口縁部は横溝で。	22
	365-9	埋土 口縁部 1/5	土師器 甕	器高 (6.9) 口径(18.4) 底径 -		酸化焰 橙	「コ」字状口縁をとどめるが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の発削り、内面は発削で、口縁部は横溝で。	23
	365-10	埋土 上半部 1/2	土師器 小型甕	器高 (7.0) 口径(13.0) 底径 -		酸化焰 赤褐色	「コ」字状口縁を呈すが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の発削り、内面は発削で、口縁部は横溝で。	24
	365-11	埋土 上半部 1/2	土師器 甕	器高(12.0) 口径(13.4) 底径 -		酸化焰 暗赤褐色	「コ」字状口縁を呈すが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の発削り、内面は発削り、口縁部は横溝で。	25
	365-12	埋土 底部 1/2	土師器 台付甕	器高 (4.5) 口径 - 底径 (9.3)		酸化焰 にぶい 赤褐色	胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は縦方向の発削り、内面は発削で、台部は横溝で。	26
	365-13	埋土 底部 ほぼ完形	土師器 台付甕	器高 (4.7) 口径 - 底径 10.0		酸化焰 褐色	胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は縦方向の発削り、内面は発削で、台部は横溝で。	台部の胎付痕明瞭 27
	366-14	埋土 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.5 口径 13.4 底径 6.5		還元焰 灰白	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。輪軸整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	7
	366-15	埋土 1/2	須恵器 坏	器高 3.3 口径(13.0) 底径 7.4		還元焰 灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。輪軸整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	8
	366-16	埋土 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 4.9 口径 13.8 底径 5.9		還元焰 灰白~ 軟質	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。輪軸整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	9
	366-17	埋土 ほぼ完形	須恵器 高台付輪	器高 5.8 口径 15.6 底径 8.2		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。輪軸整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	口縁の歪み が顕著 4
	366-18	埋土 完形	須恵器 高台付輪	器高 5.8 口径 15.1 底径 7.7		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反する。輪軸整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	内面に自然胎付着 5
	366-19	埋土 ほぼ完形	須恵器 高台付輪	器高 5.6 口径 14.7 底径 6.7		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反する。輪軸整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	10
	366-20	埋土 1/2	須恵器 高台付輪	器高 5.4 口径(15.4) 底径 7.0		還元焰 灰白 軟質	口縁部は僅かに外反する。輪軸整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	11
	366-21	埋土 1/2	須恵器 高台付輪	器高 5.1 口径(14.3) 底径 6.7		還元焰 灰白	口縁部は僅かに外反する。輪軸整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	12
	366-22	埋土 1/4	須恵器 高台付輪	器高 7.0 口径 15.5 底径 7.6		還元焰 灰	腰の張りは強く、口縁部は僅かに外反する。輪軸整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	13
	366-23	埋土 1/3	須恵器 高台付輪	器高 5.8 口径 15.1 底径 6.6		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反する。輪軸整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	14
	366-24	埋土 底部 1/2	須恵器 高台付輪	器高 (3.9) 口径 - 底径 7.6		還元焰 灰	上半部欠損のため器形は不明。輪軸整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	2

出土 遺物	検出番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 形状	寸目 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区 1号 井戸	366-25	埋土 底部	須恵器 高台付碗	器高(1.7) 口径 - 底径 7.0		還元焰	灰	坏部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回転)。 底部は回転糸切り、高台は貼り付け。	1
	366-26	埋土 頸部欠損 1/3	須恵器 長頸壺?	器高(13.6) 口径 - 底径(16.7)		還元焰	灰白	頸部欠損のため器形は不明。継作り。轆轤整形。	16
	367-27	埋土 1/3	須恵器 鉢	器高 - 口径(27.8) 底径(16.2)		還元焰	灰白	口縁部は外反する。継作り。轆轤整形。	15
	367-28 105	埋土 頸部欠損	灰輪陶器 壺	器高(14.7) 口径 - 底径 7.2			灰白	轆轤整形。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	3
C区 一居	402-1	埋土 1/3	土師器 坏 D	器高(2.7) 口径(11.2)	黒色鉱物粒子	酸化焰	明赤黒	丸底で口縁部はほぼ直線的に外傾する。体部は 篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の塗 減が顕著 1
	402-2	埋土 台部 1/2	土師器 台付甕	器高(3.6) 口径 - 底径 9.0		酸化焰	橙	胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は縦方向 の篋削り、内面は横撫で、台部は横撫で。	10
	402-3	埋土 口縁部 1/4	土師器 甕	器高(8.2) 口径(19.4) 底径 -		酸化焰	にぶい 濁	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形 は不明。胴部外面は横方向の篋削り、内面は横 撫で、口縁部は横撫で。内面に篋当て痕。	2
	402-4	埋土 底部 1/2	須恵器 坏 髹土	器高 6.0 口径(5.8) 底径(4.6)		還元焰	灰	口縁部はほぼ直立する。轆轤整形(右回転)。 底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	7
	402-5	埋土 1/4	須恵器 坏	器高 2.9 口径(13.6) 底径(8.4)		還元焰	灰	口縁部は僅かに外反気味に立ち上る。轆轤整 形(右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	402-6	埋土 底部 1/2	須恵器 坏	器高(2.5) 口径 - 底径 5.8		還元焰	灰オリーブ	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り後未調整。	2
	402-7	埋土 底部完形	須恵器 高台付皿	器高 2.3 口径(12.2) 底径 8.1		還元焰	灰	器高は低く、口縁部はほぼ直立する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付 け。	内面に重 ね焼き痕 2
	402-8	埋土 1/2	須恵器 高台付碗	器高 8.0 口径 18.0 底径 6.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	體は僅かに張り、口縁部は外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付 け。	高台内面 黒色 3
	402-9	埋土 底部完形	須恵器 高台付碗	器高(2.0) 口径 - 底径 5.6		還元焰	にぶい 黄橙	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	4
	402-10	埋土 底部 完形	須恵器 高台付碗	器高(1.4) 口径 - 底径 8.0		還元焰	灰	坏部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	5
	402-11	埋土 底部	須恵器 高台付碗	器高(3.6) 口径 - 底径 7.8		還元焰	灰白	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	6
	402-12	埋土 底部破片	須恵器 高台付碗	器高(2.2) 口径 - 底径(7.5)		還元焰	明赤黒 -にぶい 赤橙	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け後撫 で調整。	1
	402-13	埋土 底部 1/4	須恵器 鉢	器高(9.2) 口径 - 底径(20.0)		還元焰	灰白	上半部欠損のため器形は不明。継作り。轆轤整 形。胴部内面は格子叩き。底部は横調整。	底部貼付 痕明瞭 8
	402-14	埋土 1/4	灰輪陶器 高台付皿	器高 2.5 口径(15.7) 底径(8.4)		還元焰	灰白	器高が低く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整 形(右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り 付け。	内面に重 ね焼き痕 9
	403-15	埋土 口縁部 1/4	土師器 甕	器高(7.0) 口径(12.1) 底径 -		酸化焰	赤黒	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形 は不明。胴部外面は横方向の篋削り、内面は横 撫で、口縁部は横撫で。	C 6 7 住 1
	403-16	埋土 ほぼ完形	須恵器 坏	器高 3.7 口径 11.0 底径 5.6		還元焰	にぶい 橙	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形(右回 転)。底部は回転糸切り後未調整。	C 2 井戸 1

出土遺物	採掘番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	径目 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考 登録番号
C区一括	403-17	埋土 底部 1/2	須恵器 高台付椀	器高 (2.5) 口径 - 底径 (6.2)		還元焰 にぶい 橙一褐	上半部欠損のため器形は不明。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	C 2 井戸 2
表探一括	405-1	埋土 1/3	土師器 杯 A	器高 3.5 口径(12.0)		酸化焰 橙	丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	器面の摩滅が顕著 4
	405-2 73	埋土 1/2	土師器 杯 A	器高 6.6 口径 9.4		酸化焰 褐	器高が高く、丸底で外縁を有し、口縁部は僅かに外反気味に内傾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	16
	405-3	埋土 口縁部 1/4	土師器 壺	器高 (7.3) 口径(20.4) 底径 -		酸化焰 橙	「コ」字状口縁を呈すが、胴部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の寛削り、内面は横撫で、口縁部は横撫で。	器面の摩滅が顕著 14
	405-4	埋土 口縁部 1/5	土師器 壺	器高 (9.0) 口径(18.4) 底径 -		酸化焰 にぶい 赤褐	「コ」字状口縁を呈すが、下半部欠損のため器形は不明。胴部外面は横方向の寛削り、内面は横方向の寛撫で、口縁部は横撫で。	器面の摩滅が顕著 15
	405-5	埋土 1/2	須恵器 杯	器高 4.2 口径 (8.6) 底径 (6.1)		還元焰 灰	平底気味で、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形(右回転)。底部は回転造削り。	3
	405-6	埋土 1/5	須恵器 杯	器高 3.6 口径(11.3)		還元焰 灰	丸底で口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転造削り。	6
	405-7 73	埋土 1/4	須恵器 杯	器高 3.8 口径(13.3) 底径 (6.0)		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。底部に糸切り時の粘土の痕跡。	口縁部の 歪み顕著 2
	405-8	埋土 1/4	須恵器 杯	器高 3.4 口径(13.8) 底径 (7.3)		還元焰 灰白	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り後未調整。	1
	405-9 73	埋土 1/3	須恵器 高台付椀	器高 4.2 口径 (9.4) 底径 (4.2)		還元焰 灰	口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	12
	405-10 73	埋土 1/2	須恵器 高台付椀	器高 5.2 口径 13.6 底径 6.5		還元焰 灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	器面の摩滅が顕著 7
	405-11	埋土 1/3	須恵器 高台付椀	器高 5.3 口径(13.9) 底径 (6.0)		還元焰 褐灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	8
	405-12	埋土 1/2	須恵器 高台付椀	器高 3.6 口径(13.3) 底径 6.7		還元焰 にぶい 黄橙	器高が低く、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	9
	406-13	埋土 2/3	須恵器 高台付椀	器高 5.5 口径 14.8 底径 8.1	黒色鉱物粒子	還元焰 灰	口縁部は僅かに外反する。轆轤整形 (右回転)。底部は回転糸切り。高台は貼り付け。	口縁部の歪み が顕著 23
	406-14	埋土 上半部 1/4	須恵器 羽釜	器高(11.3) 口径(21.2) 底径 -		還元焰 灰白一 橙一褐 灰	口縁部は僅かに内湾するが、下半部欠損のため、器形は不明。紐作り。轆轤整形。罫は水平方向に貼り付け。	20
	406-15 73	埋土 1/4	須恵器 壺	器高(13.9) 口径(19.2)		還元焰 灰	口縁部は外反するが、下半部欠損のため器形は不明。胴部内面は当て具の青海波文の叩き整形後再整形。口縁部に磨掻き状文。	13
	406-16	埋土 胴部 1/3	須恵器 長楕圓? 口径 - 底径 -	器高 (8.2) 口径 - 底径 -		還元焰 灰黄褐	頸部、及び底部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。胴部に磨掻き点列文を施す。	17
	406-17 73	埋土 臀部	須恵器 高杯 口径 - 底径 14.6	器高 (8.8) 口径 - 底径 14.6		還元焰 灰	上半部欠損のため器形は不明。紐作り。轆轤整形。臀部は緩やかに開き、3箇所に潰かしを有する。先端部に返しを有する。	19
	406-18	埋土 1/2	灰陶陶器 高台付椀	器高 4.4 口径(13.6) 底径 (6.4)		灰	腰が張り、口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がるが、口唇部は外反する。轆轤整形。底部は回転糸切り後調整。高台は貼り付け。	10
	406-19	埋土 1/2	灰陶陶器 高台付椀	器高 3.3 口径(17.8) 底径 8.6		灰白	段を有し、口縁部は僅かに外反気味に立ち上がる。轆轤整形。底部は回転糸切り後調整。高台は貼り付け。	18

第13表 石製品観察表

陣岡番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	特徴	備考 登録番号
46-318 72	A区旧河 道・埋土	砥石	5.2・3.7 1.9	砥石 67.2	四面を研ぎ面として使用している。	322
46-320 72	A区洗ひ 場	石製模造 品・白玉	(1.6) 0.5	滑石 2.1	作りは粗く、楕円形を呈している。穴は両側より挿れ込んでいる。	308
69-6 76	B区14住 埋土	砥石	(4.6)・(4.4) (1.3)	砥石 35.8	一端を欠損しているが、四面とも研ぎ面として使用している。特に一面には多数の線状痕が一端側に集中している。	17
78-2 77	B区20住 掘り方	砥石	(5.5)・(2.9) (1.7)	砥石 50.0	一端を欠損し、一面は斜落しているが、四面とも研ぎ面として使用している。表面が黒く、ひび割れもあり、熱を受けたのか。	4
107-8 79	B区43住 埋土	砥石	(7.0)・(3.7) (3.0)	砥石 98.1	四面を研ぎ面として使用しており、一端が尖るほどかなり消耗している。一面に幅1cm程の痕が認められる。	8
109-11 80	B区45住 埋土	竈方	4.1・(1.9) (0.6)	建築資材? 9.5	半分を欠損しているが、透かし穴は2箇所残存しており、4箇所存在したと考えられる。色調は黒色である。	15
149-1 83	B区73住 埋土	砥石	(5.1)・(6.1) (4.2)	砂石 223.9	両端を欠損し、一面は自然面である。断面は五角形であり、四面研ぎ面として使用している。	5
170-4 85	B区88住 埋土	砥石	3.3・2.8 1.9	砥石 26.0	小豆型が完形であり、六面すべてを研ぎ面として使用しているが、消耗は少ない。	5
199-9 88	C区7住 埋土	砥石	(12.9)・(6.0) (6.0)	榎梨安山岩 367.8	一端を欠損し、端面は自然面である。四面を研ぎ面として使用しているが、かなり消耗している。	10
203-21 89	C区10住 床面直上	紡錘車	(4.0) (2.1)	滑石 32.9	気泡が多い石質で、下面側を欠損している。側面に横方向の調整痕が認められる。	26
226-13 13	C区21住 埋土	砥石?	(7.0)・(6.4) (3.5)	榎梨安山岩 199.1	六面すべてに調整の痕跡が認められるが、砥石として使用されたかどうかは不明である。	13
237-17 93	C区25住 埋土	砥石	(6.7)・(4.0) (3.8)	砥石 102.3	四面を研ぎ面としている。かなり消耗している。表面がかなり黒く、熱を受けたものか。	14
240-6 94	C区27住 カマド内	支障	(7.6)・(5.4)	凝灰岩? 147.4	下部側にあたる一端を欠損しているが、九角形状に切り出している。	7
281-16 96	C区46住 カマド際	丸駒	(4.3)・(2.7) (0.6)	結晶片岩? 16.1	表・裏面に僅かな割れ痕が認められる。透かし穴は3箇所である。	15
288-1 96	C区50住 埋土	紡錘車	(3.4) (0.8)	滑石 14.9	側面の一部を欠損し、下面の半分近くが斜落している。作りは粗く、側面も大きく二面に別れており、調整が認められる。	3
300-17 96	C区55住 埋土	四石	9.4・6.4 4.5	二ツ岳軽石 132.2	軽石を楕円形に整形し、一面に直径3cm程の穴を2cm程深く穿孔しているが、その用途は不明である。	17
309-7 98	C区61住 埋土	砥石	4.9・4.4 1.9	砥石 67.5	完形で、六面とも研ぎ面として使用しており、多数の線状痕が認められる。	6
309-6 98	C区61住 埋土	紡錘車	(4.0) (2.0)	蛇紋岩 51.1	下面の一部を欠損しているが、ほぼ完形である。厚みがあり、側面には多数の縦方向の線状痕が認められる。	7
317-17 98	C区64住 埋土	紡錘車	(3.6) (1.8)	蛇紋岩 23.5	下面側はほとんど、側面の一部を欠損している。側面の調整は丁寧である。	18
342-21 101	C区75住 埋土	砥石	(6.0)・(4.8) 3.0	砥石 76.4	一端を欠損しているが、四面を研ぎ面として使用している。	24
342-22 101	C区75住 埋土	砥石	9.8・8.1 3.6	二ツ岳軽石 126.9	二面を研ぎ面として使用している。一定方向に線状痕が多数認められ、ほぼ平らである。寛研ぎに使用されたのか。	15
342-23 101	C区75住 埋土	砥石	10.4・7.9 2.8	二ツ岳軽石 116.9	二面を研ぎ面として使用している。一面には一定方向、もう一面には斜向する形で二方向の線状痕が認められ、へこんでいる。	16
342-24 101	C区75住 埋土	砥石	9.0・7.0 2.5	二ツ岳軽石 91.9	二面を研ぎ面として使用している。一面には一定方向、もう一面には斜向する形で二方向の線状痕が認められる。	17
342-25 101	C区75住 埋土	砥石	6.0・4.5 1.8	二ツ岳軽石 22.8	一面だけを研ぎ面としている。一定方向への線状痕が僅かに認められる。他の資料と同様に寛研ぎに使用されたのか。	22
342-26 101	C区75住 埋土	砥石	9.2・7.3 5.6	二ツ岳軽石 175.7	三面を研ぎ面として使用している。一面には一定方向の線状痕が多数認められ、他の二面には深い線状痕が認められる。	19
342-27 101	C区75住 埋土	砥石	8.6・6.3 3.0	二ツ岳軽石 73.3	一面だけを研ぎ面としている。一定方向に深い線状痕が2本認められる。	18
342-28 101	C区75住 埋土	砥石	6.9・5.6 2.5	二ツ岳軽石 57.8	一面だけを研ぎ面としている。一定方向への線状痕が多数認められ、僅かにへこんでいる。	23
342-29 101	C区75住 埋土	砥石	10.0・7.7 5.9	二ツ岳軽石 233.4	一面だけを研ぎ面としている。一定方向への線状痕が多数認められ、ほぼ平ら全面になっている。	30

標記番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	特 徴	備 考 登録番号
363-29 105	C区1住 井戸埋土	凹石	7.2・6.0 3.9	粗粒安山岩 220.0	両面から直径2cm程の浅い穴を作り出している。用途は不明である。	31
404-10 73	表塚	石板	(5.2)・(5.5) 0.7	頁岩 33.5	一端を欠損しているが、薄い扁平な素材を利用している。	18
406-22 73	B区3ト レンチ	紡錘車	(3.6) (1.3)	滑石 16.6	半分を欠損し、下面が剥落している。側面に横方向の調整痕が多数認められる。	21

第14表 土製品観察表

標記番号 写真番号	出土位置 出土状態	器種 遺存状態	長さ・幅 厚さ (cm)	胎 土	製作・整形上の特徴	備 考 登録番号
46-321 72	A区田河 溝・埋土	羽口	(7.8)・7.7	白色灰物粒子	外面を15角形に整形している。内面は横方向の撫でが認められる。外面に酸化・中性・還元の様子が認められる。	305
102-10 79	B区40住 カマド	土鉢 ほぼ定形	4.5・1.3	白色灰物粒子 黒色灰物粒子	両端の一部を欠損している。	8
148-6 83	B区72住 埋土	紡錘車	(5.5) (2.0)		半分近くを欠損している。調整は丁寧であるが、形状は楕円形に近い。あるいは石製品かもしれない。	7
239-5 93	C区26住 竈治跡	羽口 定形	(11.3)・8.2	白色灰物粒子 黒色灰物粒子	先端部に溶解物が多量に付着している。外面は縦方向の強い凹撫で整形。酸化・中性・還元の様子が認められ、構造が理解できる。	5
239-6 93	C区26住 竈治跡	羽口 定形	(12.0)・8.5		先端部に溶解物が付着している。外面は縦方向の撫で整形。酸化・中性・還元の様子が認められ、構造が理解できる。	6
406-20	出土遺構 不明	泥人形? 足?	(3.8)	白色灰物粒子	表面は摩滅しているために、整形が不明だが、一端がつま先状に張り出しており、何かの人の足の足とみられる。	22

第15表 金属製品観察表

検出番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	量目(cm) 長さ・幅	製作・形状上の特徴	備考 登録番号
55-7	B区7号住 埋土	鉄 鏃	長さ 5.9 幅 1.5	錆化が激しいが、和鉄と考えられる。左右対称で中央部に微かに稜を有する。茎は不明瞭である。断面は薄い。	64
	B区9号住 波埋土	銅・佐 流埋土	器高 — 口徑 —	口縁部の小破片のため器形は不明であり、錆化が激しい。口縁部は「く」字状に内湾する。大型の器形と考えられる。	5
72-9	B区15号住 埋土	鉄 刀子	長さ(14.5) 幅 2.0	和鉄と考えられる。鋒部を欠損しているが、刃部は消耗も少なく、明瞭である。茎の部分に切刃と柄の質が残存している。	(9.8) 61
73-2	B区16号住 埋土	鉄 釘?	長さ (4.3) 幅 0.7	和鉄と考えられる。一端を欠損しており、器種が特定しにくい状態であるが、おそらく釘と考えられる。	5
90-4	B区32号住 掘り方	不明	長さ 6.8 幅 0.9	和鉄と考えられる。ほぼ定形である。厚さは薄く、先端が尖っており、一端が大きく広がっており、断面形は長方形を呈する。釘の可能性が考えられる。	57
98-8	B区38号住 カマド埋土	鉄 刀子	長さ(16.9) 幅 1.3	和鉄と考えられる。鋒部と茎の一部を欠損している。刃部はやや消耗しているが、明瞭である。棟間が認められる。	(9.7) 54
98-9	B区38号住 カマド埋土	鉄 不明	長さ (4.3) 幅 4.4	和鉄と考えられる。「コ」字状を呈し、ほぼ定形であり、なんらかの家具の部分と考えられる。	62
98-10	B区38号住 カマド埋土	鉄 鏃	長さ 8.2 幅 2.1	和鉄と考えられる。先端は尖っており、三角の返しを有する。片側のみ稜を有する有茎平根三角形である。茎の断面形は方形を呈する。	3.4 59
147-5	B区71号住 床面直上	鉄 不明	長さ 13.6 幅 1.2	和鉄と考えられる。錆化が激しく、剥落している部分も認められる。定形であるかどうか不明である。断面形は方形と考えられる。	26
147-6	B区71号住 床面直上	鉄 不明	長さ 12.3 幅 1.9	和鉄と考えられる。錆化が激しく、定形であるかどうか不明である。断面形は長方形を呈する。	26
148-7	B区72号住 カマド	鉄 刀子	長さ(12.6) 幅 1.9	和鉄と考えられる。錆化が激しく、刃身の半分近くと茎部を欠損している。棟間はやや不明瞭である。基部の断面形は長方形を呈する。	(5.1) 24
154-4	B区76号住 埋土	鉄 不明	長さ (6.9) 幅 4.4	和鉄と考えられる。錆化が激しく、剥落している部分も認められる。一端を明らかに欠損している。断面形は方形に近いと考えられる。	34
166-17	B区84号住 カマド内	鉄 釘	長さ (4.9) 幅 0.2	和鉄と考えられる。錆化が激しく、基部、及び尖端部が曲がっているものの、大きな頭部の形状と方形の断面形から釘と考えられる。	20
169-5	B区86号住 床面直上	鉄 釘	長さ (8.4) 幅 0.6	和鉄と考えられる。錆化が激しく、ほぼ中央部で曲がっているものの、方形の断面形から釘と考えられるが、一端が二又状になっている点も特徴である。	25
176-3	B区93号住 埋土	鉄 釘	長さ (2.5) 幅 0.4	和鉄と考えられる。錆化が激しく、さらに曲がっているものの、断面形が方形であることから、おそらく釘と考えられる。	21
181-7	B区9号溝 埋土	鉄 不明	長さ (3.5) 幅 0.5	和・洋鉄のどちらかであるかが不明である。一本の細棒を曲げて、輪状に作り出している。	41
197-8	C区6号住 埋土	鉄 釘?	長さ (2.6) 幅 1.0	和鉄と考えられる。錆化が激しく、剥落している部分も認められる。一端を欠損しているものの、断面形が方形を呈することから、釘と考えられる。	10
197-9	C区6号住 埋土	鉄 不明	長さ (3.5) 幅 0.9	和鉄と考えられる。錆化が激しく、一端を欠損している。断面形が丸形を呈しており、器種が特定できない。	14
203-22	C区10号住 埋土	鉄 不明	長さ (6.3) 幅 0.6	和鉄と考えられる。錆化が激しく、一端を欠損している。断面形が方形を呈することから、あるいは釘と考えられる。	42
208-36	C区11号住 貯蔵穴内	鉄 刀子	長さ 14.2 幅 1.0	和鉄と考えられる。錆化が激しく、刃部は不明瞭で、かなり消耗している。棟間は認められ、茎の断面形はやや下部が細くなっている。	9.1 55
208-37	C区11号住 埋土	鉄 鏃	長さ (8.6) 幅 0.6	和鉄と考えられる。鏃による付着物が認められる。一端を欠損しているが、一端が三又に分かれることや柄跡の存在から、鏃の可能性が考えられる。	47
208-38	C区11号住 埋土	鉄 鏃	長さ (5.6) 幅 4.2	和鉄と考えられる。錆化が激しく、両端を欠損しているが、一方がくびれて細くなっており、折り返し部分の痕跡が認められることから、鏃と考えられる。	56
208-39	C区11号住 埋土	鉄 釘	長さ (3.1) 幅 0.7	和鉄と考えられる。錆化が激しく、剥落している部分も認められる。一端を欠損しているが、先が細くなっていく。断面形は方形と考えられる。	65
211-25	C区12号住 埋土	鉄 刀子	長さ (7.8) 幅 0.8	和鉄と考えられる。錆化が激しく、刃部も不明瞭であるが、かなり消耗しており、棟間は認められない。茎の断面形は長方形を呈する。	番号無し
213-11	C区13号住 埋土	鉄 紡錘車	長さ (9.6) 幅 3.0	和鉄と考えられる。はずみ車部分は定形であるが、軸棒の両端を欠損している。車部分と軸棒がやや直交する状態よりずれた形で結びついている。	58
214-3	C区14号住 埋土	鉄 不明	長さ 3.1 幅 1.7	和鉄と考えられる。錆化が激しく、両端を欠損しており、器種は不明である。	40
222-6	C区18号住 カマド内	鉄 鏃	長さ (8.5) 幅 1.6	和鉄と考えられる。尖端部、及び基部を欠損しているが、三角の鋭い返しを有する有茎平根三角形で、鏃を有する。	(4.1) 44
222-7	C区18号住 埋土	鉄 不明	長さ 4.3 幅 0.6	和鉄と考えられる。錆化が激しく、剥落している部分も認められる。断面形は丸形を呈する。	48
222-8	C区18号住 埋土	鉄 不明	長さ (4.1) 幅 0.4	和鉄と考えられる。錆化が激しく、一端を欠損している。断面形が長方形を呈する。	36

検出番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	量目(cm) 長さ・幅	製作・形状上の特徴	備考 登録番号
229-13 92	C区22号住 埋土	鉄 鏃	長さ 8.6 幅 0.5	和鉄と考えられる。錆化が激しく、境が不明瞭である。両端が尖っているが、最大径が一方に偏り、鏃と考えられる。断面形は方形を呈する。	13
231-16 92	C区23号住 埋土	鉄 鏃	長さ (7.7) 幅 2.0	和鉄と考えられる。刃部部分の一部を欠損しており、刃部と基部の境が不明瞭である。断面は全体に薄い。基穴はほぼ円形。基部に木質が残存している。	9
231-17 92	C区23号住 カマド埋土	鉄 鏃	長さ (4.2) 幅 0.4	和鉄と考えられる。一端を欠損しており、断面形は方形を呈する。一端に木質が残存していることから鏃と考えたが、あるいは釘かもしれない。	39
231-18 92	C区23号住 カマド埋土	鉄 釘	長さ (2.3) 幅 0.4	和鉄と考えられる。錆化が激しく、両端を欠損している。断面形は方形を呈する。	39
231-19 92	C区23号住 カマド埋土	鉄 釘	長さ (2.1) 幅 0.4	和鉄と考えられる。錆化が激しく、一端は欠損している。断面形は方形を呈する。	39
340-5 94	C区27号住 埋土	鉄 不明	長さ 5.3 幅 0.7	和鉄と考えられる。錆化が激しく、剥落している部分も認められる。断面形は丸形を呈する。	18
250-19 94	C区29号住 埋土	鉄 釘	長さ 4.4 幅 0.5	和鉄と考えられる。錆化が激しく、一端があるいは欠損しているかもしれない。一端が頸部状に大きくなっている。断面形は方形を呈する。	45
246-9 94	C区32号住 埋土	鉄 釘	長さ (7.9) 幅 0.7	和鉄と考えられる。一端を欠損している。一端は頸部状に大きくなっている。断面形は方形を呈する。	60
265-7 95	C区38号住 廻り方 礎	鉄 鏃	長さ (6.6) 幅 2.0	和鉄と考えられる。錆化が激しく、刃部が不明瞭であるが、刃は湾曲している。先端部は欠損している。	3
267-7 95	C区39号住 床面直上	鉄 不明	長さ (4.1) 幅 0.6	和鉄と考えられる。錆化が激しく、一端を欠損しているが、一端が頸部状に大きくなっていることから、おそらく釘と考えられる。断面形は不整形である。	4
267-8 95	C区39号住 床面直上	鉄 釘	長さ (3.5) 幅 0.4	和鉄と考えられる。錆化が激しく、一端を欠損している。断面形が円形を呈する。	4
291-7 97	C区51号住 貯蔵穴 不明	鉄 不明	長さ 5.4 幅 1.8	和鉄と考えられる。錆化が激しいが、二つの環状の部品を接合したものであり、なんらかの金具の部分と考えられる。	27
300-16 97	C区55号住 埋土	刀子	長さ(12.8) 幅 1.3	和鉄と考えられる。錆化が激しく、鋒を欠損している。刃部がかなり消耗している。棟間が認められ、切刃が一部残存している。茎の断面形は長方形を呈する。	(6.3) 29
309-8 98	C区61号住 埋土	鉄 鏃	長さ (8.3) 幅 2.6	和鉄と考えられる。錆化が激しく、先端部と基部を欠損しているが、刃は湾曲し、折り返し部分が認められる。刃部と鏃の境は不明瞭である。	22
309-9 98	C区61号住 埋土	鉄 不明	長さ (6.0) 幅 0.8	和鉄と考えられる。一端が欠損しており、断面形は長方形を呈する。	12
322-2 99	C区68号住 埋土	鉄 鏃	長さ(11.1) 幅 0.3	和鉄と考えられる。錆化が激しく、両端を欠損している。僅かに曲がっているが、刃縁を有することから、鏃と考えられる。断面形は方形を呈する。	30
342-16 101	C区75号住 埋土	鉄 鏃	長さ(11.0) 幅 3.4	和鉄と考えられる。錆化が激しく、径の一部を欠損している。返しを有し、有茎平根三角形で、茎の断面形は方形を呈する。	2.3 29
342-17 101	C区75号住 埋土	鉄 鏃	長さ (6.9) 幅 2.4	和鉄と考えられる。錆化が激しく、径と一方の返しの先端部を欠損している。飛出鏃である。	2.9 33
342-18 101	C区75号住 床面直上	鉄 不明	長さ (3.1) 幅 1.8	和鉄と考えられる。破片のために器種は不明である。	35
342-19 101	C区75号住 埋土	鉄 不明	長さ (3.0) 幅 0.4	和鉄と考えられる。錆化が激しく、一端を欠損しているが、頸部部分が曲げて接合する環状を呈することから、なんらかの金具の一部と考えられる。	31
342-20 101	C区75号住 埋土	鉄 不明	長さ 3.9 幅 3.4	和鉄と考えられる。錆化が激しく、不定形で器種は不明である。	番号無し
346-3 102	C区3号溝 埋土	鉄 釘	長さ (5.4) 幅 1.0	和鉄と考えられる。一端を欠損しているが、一端が大きく広がり、頸部と考えられることから、釘と考えられる。	50
358-16 105	C区12号土 坑埋土	鉄 刀子?	長さ (4.9) 幅 1.2	和鉄と考えられる。刃身の一部を欠損しているが、断面の形状などから、刀子と考えられる。	16
404-1	表採	鉄 釘?	長さ (3.4) 幅 0.5	和・洋鉄のどちらであるか不明である。両端を欠損している。断面形は方形である。	1
404-2	表採	鉄 不明	長さ 5.3 幅 0.5	和・洋鉄のどちらであるか不明である。錆化が激しく、表面は剥落している部分と認められる。断面形は丸形で、釘か棒状の製品と考えられる。	2
404-3	表採	鉄 不明	長さ (2.7) 幅 0.5	和・洋鉄のどちらであるか不明である。両端を欠損し、湾曲している。断面形は丸形である。	15
404-4	表採	鉄 不明	長さ (3.7) 幅 2.9	和・洋鉄のどちらであるか不明である。なんらかの金具の環部分と考えられる。欠損している。	28
404-5 73	表採	鉄 鏃	長さ 13.8 幅 2.0	和鉄と考えられる。刃部の境がやや不明瞭であり、形状は「く」字状を呈する。鏃穴は円形。柄の木質が残存している。	7.9 38
404-6 73	表採	鉄 鏃?	長さ (7.5) 幅 3.1	鏃が僅かしか認められないことや、洋鉄と考えられることから、近世以降の時期に属すると考えられる。先端部を含む刃部の一部である。	46
404-7 73	表採	鉄 不明	長さ (4.6) 幅 2.2	和鉄と考えられる。錆化が激しく、断面は薄く、形状から刀子の径の部分とも考えられる。	49
404-8	表採	鉄 釘	長さ 4.8 幅 0.6	和鉄と考えられる。広がる頭部を有し、釘と考えられる。輪に7～8本の棒状の薄い鉄を巻き付けている。	51

第16表 瓦観察表

調査	調査番号	種別	地味地	類型	厚さ	粘土	土質	焼上	色調	成	粘土硬さ	一次	粘土	布目	印	法	縦	断面	断面	土層	補	要
1	183-1	壁	空型	K牌	2.2密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	B区2号土坑埋土		
2	325-4	壁	空型	K牌	1.8密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区3号土坑埋土		背面高。
3	353-8	壁	空型	K牌	1.8密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		瓦当面彫、背面彫。
4	368-29	壁	空型	K牌	欠	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
5	368-30	壁	空型	K牌	1.3密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
6	369-36	字	空型	K76a	2.1密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
7	369-33	字	空型	K76a	2.2密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
8	370-38	字	空型	F76a-b	2.0密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
9	373-49	字	吉・番	F78a-b	2.1密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
10	368-31	字	空型	K78a-b	2.1密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
11	373-43	字	空型	K78a-b	2.7密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		赤色彫。
12	371-43	字	空型	K78a-b	2.5密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
13	370-37	字	空型	K76a-b	2.5密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
14	368-32	字	空型	K76a-b	2.1密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
15	373-50	字	空型	K76a-b	3.0密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		赤色彫。
16	372-47	字	吉・番	F778a-b	3.0密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		赤色彫。
17	372-48	字	吉・番	F778a-b	2.8密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		瓦当面欠。
18	372-45	字	空型	K78a-b	2.5密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		赤色彫。
19	370-39	字	空型	K72a-b	2.0密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		赤色彫。
20	371-40	字	空型	K78a-b	2.2密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		赤色彫。
21	369-34	字	空型	K76a-b	2.2密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		赤色彫。
22	371-42	字	空型	K78a-b	1.9密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		赤色彫。
23	372-46	字	吉・番	F78a-b	2.5密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		瓦当面有。
24	371-41	字	空型	K78a-b	2.5密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
25	369-35	字	空型	K76a-b	2.3密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
26	391-127	欠	吉・番	F77a-b	2.8密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
27	391-125	女	空型	N6a	1.5密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
28	401-180	女	空型	K8a-b	1.5密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
29	401-181	女	空型	K8a-b	2.0密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
30	375-58	男	不詳	X4a	1.3密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
31	382-87	女	空型	K4a-b	1.8密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
32	401-163	女	空型	K8a-b	1.6密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		瓦當共赤目。
33	374-54	男	空型	K78a-b	2.1密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
34	375-56	男	空型	K78a-b	1.8密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
35	374-53	男	空型	K78a-b	1.6密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
36	373-52	男	不詳	X78a-b	1.8密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
37	375-57	男	空型	K78a-b	1.8密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
38	374-55	男	空型	K78a-b	1.5密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		
39	373-51	男	空型	K78a-b	1.3密	含	赤	赤	赤	赤	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	凸	C区1号井戸		柱作側面彫。











通番	国庫番号	焼酎	焼酎地	類型	厚さ	粘土	土色	成	部	法	出	遺	類	
		類別	焼酎地	類型	厚さ	粘土	土色	成	部	法	出	遺	類	
		類別	焼酎地	類型	厚さ	粘土	土色	成	部	法	出	遺	類	
200		男 芝罘	K8a	少	1.8 粗	少	明灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
201		男 芝罘	K8a	少	1.5 粗	少	明灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
203		男 芝罘	K8b	少	1.8 粗	含	黄	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
204		男 芝罘	K8b	少	1.5 粗	含	黄	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
205		男 芝罘	K8b	少	1.5 粗	含	灰	凸	一收	凸	凹	3	C区1号井戸	
206		男 芝罘	K8b	少	1.2 粗	含	灰	凸	一收	凸	凹	3	C区1号井戸	
207		男 芝罘	K8b	少	1.6 粗	含	灰	凸	一收	凸	凹	3	C区1号井戸	
208		男 芝罘	K8b	少	1.7 粗	含	灰	凸	一收	凸	凹	3	C区1号井戸	
209		男 芝罘	K8b	少	1.4 粗	含	灰	凸	一收	凸	凹	3	C区1号井戸	
210		男 芝罘	K8a	少	1.8 粗	含	灰	凸	一收	凸	凹	3	C区1号井戸	
211		男 芝罘	K8a	少	1.6 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	3	C区1号井戸	
212		男 芝罘	K8b	少	1.3 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	3	C区1号井戸	
213		男 芝罘	K8b	少	1.6 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	3	C区1号井戸	
214		男 芝罘	K8b	少	1.6 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
215		男 芝罘	K8b	少	1.3 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
216	391-125	女 秋田	A7b	少	1.8 粗	少	白灰	凸	一收	凸	凹	1	C区1号井戸	
217		男 芝罘	K2a	少	1.4 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	1	C区1号井戸	
218	376-60	男 芝罘	K2a	少	1.8 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
219		女 芝罘	K1a-b	少	1.7 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
220		女 青森	N8a-b	少	1.4 粗	多	硬	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
221	383-92	女 芝罘	K1a-b	少	1.4 粗	含	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
222	383-83	女 芝罘	K1a-b	少	1.4 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
223		女 芝罘	K8a-b	少	1.5 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
224		女 芝罘	K1a-b	少	1.5 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
225		女 芝罘	K1a-b	少	1.6 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
226		女 秋田	A1a-b	少	1.7 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
227		女 芝罘	K2a-b	少	1.8 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
228		女 芝罘	K2a-b	少	1.8 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
229		女 芝罘	K1a-b	少	1.3 粗	少	明灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
230		女 芝罘	K1a-b	少	1.3 粗	少	明灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
231		女 芝罘	K8a-b	少	1.2 粗	少	明灰	凸	一收	凸	凹	1	C区1号井戸	
232		女 秋田	A1a-b	少	1.4 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
233		女 芝罘	K2a-b	少	1.4 粗	少	明灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
234		女 芝罘	K2a-b	少	1.7 粗	少	明灰	凸	一收	凸	凹	2	C区1号井戸	
235		女 芝罘	K2a-b	少	1.7 粗	少	明灰	凸	一收	凸	凹	1	C区1号井戸	
236		女 芝罘	K1a-b	少	1.7 粗	少	明灰	凸	一收	凸	凹	3	C区1号井戸	
237		女 芝罘	K1a-b	少	1.4 粗	少	明灰	凸	一收	凸	凹	3	C区1号井戸	
238		女 芝罘	K1a-b	少	2.1 粗	少	明灰	凸	一收	凸	凹	4	C区1号井戸	
239		女 芝罘	K1a-b	少	1.4 粗	少	灰	凸	一收	凸	凹	部分	部分	C区1号井戸





番番	図面番号	種別	地味地	類型	厚さ	粘土		色	成	成形		技法		變形・高調整	出土遺構	備	票			
						素	焼			粘土面活用	容水	一次	粘土含目					布	印	厚
318		女	笠懸	K1a-b	1.2	粗	少	灰	凸	凸	？	なし	なし	正格	平行	なし	部分	／	C区1号井戸	
319	382-90	女	笠懸	K2a	1.5	密	多	硬	灰	○	○	なし	なし	斜槽	溝	なし	全面	／	C区1号井戸	
320	384-101	女	背二層	F-74c	1.2	密	多	硬	灰	／	／	なし	なし	斜槽	溝	なし	全面	／	C区1号井戸	
321	382-91	女	背二層	F-75c	1.3	密	多	硬	灰	／	／	なし	なし	斜槽	溝	なし	全面	／	C区1号井戸	
322	382-91	女	背二層	F-74c	1.5	密	多	硬	灰	／	／	なし	なし	斜槽	溝	なし	全面	／	C区1号井戸	
323	382-88	女	背二層	F-74c	1.7	密	多	硬	灰	／	／	なし	なし	斜槽	溝	なし	全面	／	C区1号井戸	
324	382-88	女	背二層	F-76a	1.9	密	多	硬	灰	／	／	なし	なし	斜槽	溝	なし	部分	／	C区1号井戸	
326	327	女	背二層	F-76a-b	1.2	密	多	硬	灰	○	なし	なし	なし	斜槽	溝	なし	部分	／	C区1号井戸	
327	328	女	笠懸	K6a-b	1.4	粗	含	軟	暗灰	なし	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
328	329	男	笠懸	K6a	2.0	粗	含	軟	暗灰	なし	なし	○	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
329	330	男	笠懸	K6a	1.9	粗	含	軟	暗灰	なし	なし	○	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
330	382-90	女	笠懸	K6a-b	1.9	粗	含	軟	暗灰	○	なし	なし	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
332		女	笠懸	K6a	1.5	粗	含	軟	暗灰	○	なし	なし	なし	なし	斜槽	溝	なし	部分	／	C区1号井戸
333		女	笠懸	K6a	1.4	粗	含	軟	暗灰	○	なし	なし	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
334		女	笠懸	K6a-b	1.8	粗	含	軟	暗灰	なし	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
335		女	笠懸	K6a-b	1.5	粗	含	軟	暗灰	○	なし	なし	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
336		女	笠懸	K6a-b	1.2	粗	含	軟	暗灰	なし	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
337		女	笠懸	K6a-b	1.7	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
338		女	笠懸	K6a-b	1.2	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
339		女	笠懸	K6a-b	1.7	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
340		女	笠懸	K6a-b	2.1	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
341		女	笠懸	K6a	2.5	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
342		女	笠懸	K7a-b	1.5	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
343		女	笠懸	K6a-b	1.6	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
344		女	笠懸	K6a-b	1.2	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
345		女	笠懸	K6a-b	1.3	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
346		女	笠懸	K6a-b	2.0	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
347		女	笠懸	K6a-b	1.8	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
348		女	笠懸	K6a-b	2.0	粗	含	軟	暗灰	なし	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
349		女	笠懸	K6a-b	1.5	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
350		女	笠懸	K7a-b	1.5	粗	含	軟	暗灰	なし	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
351		女	笠懸	K6a-b	2.0	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
352		女	笠懸	K6a-b	2.0	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
353		女	笠懸	K6a-b	1.5	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
354		女	笠懸	K6a-b	2.4	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
355		女	笠懸	K6a-b	1.5	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
356		女	笠懸	K6a-b	2.0	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
357		女	笠懸	K6a-b	1.7	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸
358		女	笠懸	K6a-b	1.7	粗	含	軟	暗灰	○	なし	？	なし	なし	斜槽	溝	なし	なし	／	C区1号井戸

説明後編。

説明後編。





通番	図面番号	種別	地味地番	類型	専有面積	国土交通省 特種 用途	色調	色調	粘土成分	吸水	一收	粘土成分	有明	成形	成形・用調整	出土地	備	頁		
399	女	笠懸	K1a-b	1.4 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
400	女	笠懸	K2a-b	1.0 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
401	女	笠懸	K1a-b	1.5 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	3	C区1号井戸	
402	女	笠懸	K1a-b	1.6 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
403	女	笠懸	K1a-b	1.9 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	2	C区1号井戸	
404	女	笠懸	K1a-b	2.0 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
406	女	笠懸	K6a-b	1.7 粗	少	軟	明灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	2	C区1号井戸	
407	女	笠懸	K6a-b	1.5 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
408	女	笠懸	K6a-b	2.0 粗	少	硬	明灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
409	女	笠懸	K6a-b	1.6 粗	少	硬	明灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
410	女	笠懸	K7a-b	1.3 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	3	C区1号井戸	
411	女	笠懸	K7a-b	1.7 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	2	C区1号井戸	
412	女	笠懸	K6a-b	1.6 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
413	女	笠懸	K7a-b	1.5 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	2	C区1号井戸	
414	女	笠懸	K6a-b	1.5 粗	少	硬	明灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	2	C区1号井戸	説明後部。
415	女	笠懸	K5a-b	1.6 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	2	C区1号井戸	
416	女	笠懸	K1-6a-b	2.0 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	部分	1	C区1号井戸	編入、正格子。
417	女	笠懸	K7a-b	1.9 粗	少	軟	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	編入後部。
418	女	笠懸	K6a-b	1.6 粗	少	軟	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	2	C区1号井戸	
419	女	笠懸	K6a-b	1.9 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
420	女	笠懸	K6a-b	2.0 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
421	女	笠懸	K6a-b	1.5 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
422	女	笠懸	K6a-b	1.7 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	2	C区1号井戸	
423	女	笠懸	K6a-b	1.4 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
424	女	笠懸	K6a-b	1.9 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
425	女	笠懸	K6a-b	2.0 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	部分	／	C区1号井戸	
426	女	笠懸	K6a-b	1.2 粗	少	軟	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
427	女	笠懸	K6a-b	1.4 粗	少	軟	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	2	C区1号井戸	
428	女	笠懸	K6a-b	1.5 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	2	C区1号井戸	
429	女	笠懸	K6a-b	2.0 粗	少	硬	明灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	／	C区1号井戸	
430	女	笠懸	K6a-b	2.0 粗	少	硬	灰	○	○	なし	?	なし	なし	正格	無	なし	全面	2	C区1号井戸	
431	392-128	女	中之島	NA7a	1.5 粗	多	硬	灰	○	なし	○	なし	なし	正格	なし	なし	部分	2	C区1号井戸	天代正堂跡、C地区分。
432	392-128	女	中之島	NA7a	1.6 粗	多	硬	灰	○	なし	○	なし	なし	正格	なし	なし	部分	2	C区1号井戸	天代正堂跡、C地区分。
433	392-132	女	中之島	NA7a	1.8 粗	多	硬	灰	○	なし	○	なし	なし	正格	なし	なし	部分	2	C区1号井戸	天代正堂跡、C地区分。
434	392-129	女	中之島	NA7a	1.5 粗	多	硬	明灰	○	なし	○	なし	なし	正格	なし	なし	部分	3	C区1号井戸	天代正堂跡、C地区分。
435	392-133	女	中之島	NA7a	1.4 粗	多	硬	明灰	○	なし	○	なし	なし	正格	なし	なし	部分	1	C区1号井戸	天代正堂跡、C地区分。
436	392-131	女	中之島	NA7a	1.4 粗	多	硬	明灰	○	なし	○	なし	なし	正格	なし	なし	部分	1	C区1号井戸	天代正堂跡、C地区分。
437	395-106	女	笠懸	K6a	1.7 粗	少	軟	明灰	○	なし	○	なし	なし	正格	無	なし	全面	2	C区1号井戸	備前丸。





通番	回線番号	機別	機呼	類型	厚さ	粘土 分級	塗 上	色	粘土組成 成分	密水	一枚	粘土 合計	有 目	可 明	層	縦 断	左 側	形・用 途	出 土	遺 情	備 考	要 素
519	395-150	女	佛彫	N7	2.4	粗多	灰	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
520	397-154	女	空彫	K6a	1.5	粗少	刷灰	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
521	397-156	女	空彫	Y6a	2.4	密少	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
522	397-157	女	空彫	Y7a	2.4	密少	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
523	397-155	女	佛彫	N7	1.9	粗多	空	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	1	C区1号井戸		春日は削り取。刷印後施。	
524	397-158	女	空彫	Y7	2.1	粗多	空	重	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	1	C区1号井戸		春日は削り取。刷印後施。	
525	398-160	女	空彫	Y6a	2.1	粗多	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸		春日は削り取。	
526	398-161	女	空彫	Y7a	2.0	粗多	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	3	C区1号井戸		刷印後施。	
527	398-163	女	空彫	Y7a	1.9	粗多	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸		裏面布目。刷印後施。	
528		女	空彫	K6a	2.1	粗少	刷灰	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
530		女	空彫	K6a	1.8	粗少	刷灰	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
531		女	空彫	K6a	2.0	粗少	刷灰	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
532		女	空彫	K6a	1.6	粗少	刷灰	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
533		女	空彫	K6a	2.0	粗少	刷灰	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	3	C区1号井戸			
534		女	空彫	K6a	2.4	粗多	刷灰	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
535		女	空彫	Y6a	1.5	粗多	刷灰	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
536		女	空彫	K6a	1.8	粗少	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	3	C区1号井戸			
537		女	空彫	Y6a	1.7	粗多	刷灰	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	3	C区1号井戸			
538		女	空彫	Y6a	1.7	粗多	刷灰	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
539		女	空彫	K6a	1.3	粗少	空	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
540		女	空彫	K6a	1.5	粗少	空	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
541		女	空彫	K7a	1.8	粗合	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	3	C区1号井戸			
542		女	空彫	K7a	2.0	粗合	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	3	C区1号井戸			
543		女	空彫	K6a	2.0	粗合	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	3	C区1号井戸			
544		女	空彫	Y6a	1.6	粗多	刷灰	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
545	398-165	女	空・吉	K・Y7a	1.9	粗少	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
546		女	空彫	K6a+b	2.0	粗少	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
547		女	空彫	K6a	2.0	粗少	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
548		女	空彫	K6a	2.0	粗少	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
549		女	空彫	K7a	1.5	粗少	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
550		女	空彫	Y6a	1.8	粗少	空	白灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
551		女	空彫	Y7a+b	1.5	粗少	空	白灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
552		女	空彫	Y7a	2.0	粗少	空	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	3	C区1号井戸			
553		女	空・兼	Y・N7a	1.9	粗合	空	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
554		女	空彫	K6a	2.2	粗多	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	3	C区1号井戸			
555		女	空彫	Y6a+b	1.8	粗多	空	白灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
556		女	空彫	Y6a+b	2.0	粗多	空	刷灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			
557		女	空彫	K6a	1.6	粗合	空	灰	なし	なし	?	?	なし	なし	多	なし	なし	2	C区1号井戸			





調査 区画番号	棟別	地名称	類型	厚さ 実測値	助土 高さ	竣工 年月	竣工 色調	成		配 水	一 枚	形		法		出 土	遺 構
								粘土張出し	調			影	技	遺構	遺構		
636	女	吉井	Y6a	1.4	多	壁	灰	凸	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
637	女	笠懸	K6a	1.2	相	少	黄	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
638	女	笠懸	K6a	2.0	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
639	女	笠懸	K6a	1.2	相	多	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
640	女	笠懸	K6a	2.1	相	多	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
641	女	吉井	Y6a	1.5	密	多	灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
642	女	吉井	Y6a	1.3	密	多	灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
643	女	吉井	Y6a	1.5	密	多	灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
644	女	笠懸	K6a	1.8	密	少	黄	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
645	女	笠懸	K6a	1.7	相	多	黄	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
646	女	笠懸	K6a	1.3	相	多	黄	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
647	女	笠懸	K6a	1.2	相	少	白灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
648	女	笠懸	K6a	1.3	相	少	白灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
649	女	笠懸	K6a	1.2	相	多	白灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
650	女	笠懸	K6a	1.6	相	多	白灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
651	女	笠懸	K6a	1.6	相	多	白灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
652	女	笠懸	K6a	1.5	相	多	白灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
653	女	笠懸	K6a	1.7	相	少	灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
654	女	笠懸	K6a	2.0	相	少	灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
655	女	笠懸	K6a-b	1.2	相	少	灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
656	女	笠懸	K6a-b	2.0	相	少	灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
657	女	笠懸	K6a	1.2	相	少	灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
658	女	笠懸	K6a	2.2	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
659	女	笠懸	K6a	1.8	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
660	女	笠懸	K6a	2.2	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
661	女	笠懸	K6a-b	2.1	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
662	女	笠懸	K6a	1.8	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
663	女	笠懸	K6a	2.0	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
664	女	笠懸	K6a	2.4	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
665	女	笠懸	K6a-b	2.0	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
666	女	笠懸	K6a	2.4	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
667	女	笠懸	K6a-b	1.6	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
668	女	笠懸	K6a-b	1.5	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
669	女	笠懸	K6a-b	2.0	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
670	男	笠懸	K6a	1.5	相	多	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
671	女	笠懸	K6a	1.8	相	多	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
672	女	笠懸	K6a-b	2.0	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
673	女	笠懸	K6a-b	1.5	相	少	暗灰	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		
674	女	笠懸	K6a-b	2.5	相	少	黄	なし	なし	なし	なし	なし	凸	なし	C区1号井戸		

















通番	原居番号	性別	施設名	類型	型号	粘土 素焼 物	粘土 風化 物	成 色	硬 度	結土 層	成 形	底 部	形状	法 則	形状	高麗 瓦	土 遺 構	備 考		
956	女	秋田	A3a-b	2.3	粗	少	灰	灰	1.7	粗	少	灰	灰	1.7	粗	少	灰	C区1号井戸		
957	女	秋田	K2a	1.8	密	少	灰	灰	1.7	密	少	灰	灰	1.7	密	少	灰	C区1号井戸		
958	女	岩手	K8a	1.6	密	少	灰	灰	1.6	密	少	灰	灰	1.6	密	少	灰	C区1号井戸		
959	女	岩手	K8b	2.0	密	少	灰	灰	2.0	密	少	灰	灰	2.0	密	少	灰	C区1号井戸		
961	女	岩手	K8a	2.0	密	少	灰	灰	2.0	密	少	灰	灰	2.0	密	少	灰	C区1号井戸		
962	女	岩手	K8a	2.0	密	少	灰	灰	2.0	密	少	灰	灰	2.0	密	少	灰	C区1号井戸		
963	男	秋田	A3a	1.8	密	少	灰	灰	1.8	密	少	灰	灰	1.8	密	少	灰	C区1号井戸		
964	女	岩手	K8b	1.9	密	多	灰	灰	1.9	密	多	灰	灰	1.9	密	多	灰	C区1号井戸	一枚作心。	
965	女	岩手	K8	2.5	密	多	灰	灰	2.5	密	多	灰	灰	2.5	密	多	灰	C区1号井戸	一枚作心。	
966	女	岩手	K8b	2.5	密	多	灰	灰	2.5	密	多	灰	灰	2.5	密	多	灰	C区1号井戸		
967	女	岩手	K8b	2.5	密	多	灰	灰	2.5	密	多	灰	灰	2.5	密	多	灰	C区1号井戸		
968	女	岩手	K8b	1.9	密	多	灰	灰	1.9	密	多	灰	灰	1.9	密	多	灰	C区1号井戸		
969	女	岩手	K8b	1.8	密	多	灰	灰	1.8	密	多	灰	灰	1.8	密	多	灰	C区1号井戸	一枚作心。	
970	女	岩手	K8b	1.8	密	多	灰	灰	1.8	密	多	灰	灰	1.8	密	多	灰	C区1号井戸	一枚作心。	
971	女	岩手	K8b	1.8	密	多	灰	灰	1.8	密	多	灰	灰	1.8	密	多	灰	C区1号井戸	一枚作心。	
972	女	岩手	K8b	2.3	密	多	灰	灰	2.3	密	多	灰	灰	2.3	密	多	灰	C区1号井戸		
974	女	岩手	K8b	1.7	粗	少	灰	灰	1.7	粗	少	灰	灰	1.7	粗	少	灰	C区1号井戸		
975	女	岩手	K8b	2.0	密	多	灰	灰	2.0	密	多	灰	灰	2.0	密	多	灰	C区1号井戸		
977	女	岩手	K8b	2.0	密	多	灰	灰	2.0	密	多	灰	灰	2.0	密	多	灰	C区1号井戸		
978	女	岩手	K8b	1.2	密	多	灰	灰	1.2	密	多	灰	灰	1.2	密	多	灰	C区1号井戸		
979	男	岩手	K8b	1.5	密	多	灰	灰	1.5	密	多	灰	灰	1.5	密	多	灰	C区1号井戸		
981	女	岩手	K8b	2.4	密	多	灰	灰	2.4	密	多	灰	灰	2.4	密	多	灰	C区1号井戸		
982	女	岩手	K8a-b	2.2	密	多	灰	灰	2.2	密	多	灰	灰	2.2	密	多	灰	C区1号井戸		
983	女	岩手	K8a-b	2.2	密	多	灰	灰	2.2	密	多	灰	灰	2.2	密	多	灰	C区1号井戸		
984	女	岩手	K8a-b	2.3	密	多	灰	灰	2.3	密	多	灰	灰	2.3	密	多	灰	C区1号井戸		
985	女	岩手	K8a-b	2.0	密	多	灰	灰	2.0	密	多	灰	灰	2.0	密	多	灰	C区1号井戸		
986	女	岩手	K8a-b	2.5	密	多	灰	灰	2.5	密	多	灰	灰	2.5	密	多	灰	C区1号井戸		
987	女	岩手	K8b	1.7	密	多	灰	灰	1.7	密	多	灰	灰	1.7	密	多	灰	C区1号井戸	一枚作心。	
989	女	岩手	K8b	1.7	密	多	灰	灰	1.7	密	多	灰	灰	1.7	密	多	灰	C区1号井戸		
990	女	岩手	K8b	2.5	密	多	灰	灰	2.5	密	多	灰	灰	2.5	密	多	灰	C区1号井戸		
991	女	岩手	K8b	1.7	密	少	灰	灰	1.7	密	少	灰	灰	1.7	密	少	灰	C区1号井戸		
992	男	岩手	K8a	2.4	密	多	灰	灰	2.4	密	多	灰	灰	2.4	密	多	灰	C区1号井戸		
993	女	岩手	K8a-b	1.3	密	多	灰	灰	1.3	密	多	灰	灰	1.3	密	多	灰	C区1号井戸		
994	男	岩手	K8a	1.0	密	多	灰	灰	1.0	密	多	灰	灰	1.0	密	多	灰	C区1号井戸		
995	女	岩手	K8a	1.8	密	多	灰	灰	1.8	密	多	灰	灰	1.8	密	多	灰	C区1号井戸		
996	女	岩手	K8b	1.5	密	多	灰	灰	1.5	密	多	灰	灰	1.5	密	多	灰	C区1号井戸		
997	399-172	女	岩手	K8a-b	2.2	密	多	灰	灰	2.2	密	多	灰	灰	2.2	密	多	灰	C区1号井戸	文字瓦、編者心。
998	女	岩手	K8b	1.8	密	多	灰	灰	1.8	密	多	灰	灰	1.8	密	多	灰	C区1号井戸		















通番	団屋番号	性別	地地区	集団	厚さ	粘土質	土質	色	調	粘土成分	凸	水	一枚	粘土層目	合目	叩	法	層	組織	變形・可塑性		出土遺構	構	要
																				四	凸			
1272	47-323	男	笠懸	K男55a	1.3	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手			
1273	47-323	男	秋間	A7a	1.8	粗	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1274	47-331	男	吉井	Y8b	2.0	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		構明後補。 文字瓦。
1276	47-325	男	吉井	Y8a	1.7	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1277	47-325	男	吉井	Y8a	1.8	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1278	47-325	男	吉井	Y8a	1.6	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		文字瓦。炭化有機物不明。
1279	47-330	女	吉井	Y8a+b	1.5	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		構明後補。
1280	47-330	女	吉井	Y7a	1.9	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		構明後補。
1281	47-330	女	笠懸	K7a	1.8	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		構明後補。
1282	47-331	女	吉井	Y8b	1.7	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		構明後補。
1283	47-331	女	秋間	A8a	1.7	粗	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1286	47-331	男	笠懸	K8a	2.5	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1287	47-328	男	藤野	N7a	1.5	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1289	47-328	女	笠懸	K7b	2.0	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		構明後補。
1291	47-328	男	秋間	A-N7a	2.4	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		構明後補。
1292	47-328	男	笠懸	K8a	1.4	密	少	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1293	47-328	男	秋間	A7a	1.9	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1294	47-326	女	笠懸	K6b	1.6	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		二次加工片。構明後補。
1295	47-327	女	藤野	N8b	1.6	密	少	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1296	47-327	女	秋間	N7a+b	2.0	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1297	47-329	女	秋間	A7b	1.4	粗	少	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		御座焼出段。構明後補。
1299	47-332	女	笠懸	K-Y8b	2.0	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		敷土跡。
1300	47-332	女	吉井	Y8a	1.7	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		敷土跡。
1301	47-332	女	笠懸	K8b	2.0	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		敷土跡。
1302	47-332	女	秋間	A8a+b	1.6	粗	少	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		敷土跡。
1303	47-332	女	吉井	Y8b	1.0	密	少	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1308	47-333	女	藤野	N8a	2.2	密	少	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		凸面深ハズ。
1310	47-333	女	秋間	A8b	1.6	粗	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		御座焼出段。
1311	47-333	女	秋間	A8a	1.8	粗	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1312	47-333	男	秋間	A8a	1.3	粗	少	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1313	47-333	男	秋間	A8a	2.0	粗	少	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1314	47-333	女	笠懸	K-Y7a+b	2.0	粗	少	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		凸面磨削。構明第一層。
1315	47-333	女	秋間	A8a	2.2	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1317	47-333	男	秋間	A8a+b	1.7	粗	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1320	47-333	女	秋間	N8a+b	1.4	粗	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1321	47-333	女	藤野	N8a+b	1.5	密	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		
1322	47-333	女	秋間	Y8a	2.6	粗	多	赤	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A区土手		





通番	国番号	種別	検取場所	種類	厚さ	粘土素焼	粘土素焼	色	焼成	成	形状	技法	彫形・再調整	出土遺構	調査
1372		男	吉井 Y8c'	2.1 部	多	灰	凸	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1384		女	吉井 Y8b	1.9 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1387		女	吉井 Y8b	1.4 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1392		女	桑畑 N8c	2.0 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1394		女	秋田 A8a	2.4 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1396		女	吉井 Y7c	1.2 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1397		女	立野 K2-b	1.2 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1400		女	立野 K7-7a	2.0 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1401		女	桑・吉 Y-N8c-b	2.0 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1403		女	吉井 Y8a-b	2.7 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1405		男	笠巻 K-N8c	1.7 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1407		女	笠巻 K-N8c	1.6 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1408		女	笠巻 K-N8c	1.7 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1409		男	桑畑 Y-F8c-b	1.7 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1410		男	桑畑 N8c?	1.8 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1411		女	立野 K8a-b	3.4 部	少	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1418		女	立野 K8a-b	2.0 部	少	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1420		女	桑・笠 N-K8a-b	2.9 部	少	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1421		女	吉井 Y8c?	3.0 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1422		女	吉井 Y8a-b	2.4 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1423		女	立野 K5a	1.7 部	少	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1428		女	立野 K5a	1.5 部	少	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1429		女	笠・吉 K-Y8a-b	1.7 部	少	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1430		女	笠・吉 K-Y8b	1.3 部	少	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1431		女	桑畑 A7a-b	2.0 部	多	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1433		女	立野 K8a-b	1.4 部	少	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	
1434		男	桑畑 A8a	1.7 部	少	灰	なし	なし	区	凸	舟	合印	凸	A区土手	

第17表 こも編み石積観察表

図版番号	写真	出土遺構	長さ	幅	厚さ	高さ	石 材	素材形状・調整加工の特徴	備考
407-1	131	A区1住カマド	17.1	9.5	4.9	1097.2	砂岩	積円礫。一端欠損。	1
407-2	131	A区2住埋土	14.7	6.9	4.7	704.9	安質安山岩	積円礫。一個縁に敲打痕?	10
407-3	136	B区5住床直	9.2	7.2	2.9	210.0	角四石安山岩	扁平な積円礫。両端、両側縁に敲打痕。	24
407-4	131	B区5住カマド	16.3	8.1	5.3	1013.3	粗粒安山岩	積円礫。両端に敲打痕。	25
407-5	131	B区7住貯蔵穴	15.7	7.3	4.4	771.6	粗粒安山岩	積円礫。両端に敲打痕。	20
407-6	131	B区7住貯蔵穴	22.7	7.3	7.4	1793.0	粗粒安山岩	棒状の積円礫。両端側縁に敲打痕。	11
417-7	136	B区8住床直	21.1	17.6	5.5	3990.0	安質玄武岩	大型の扁平な積円礫。台石か?	9
407-8	131	B区11住床直	13.6	7.9	3.8	638.5	粗粒安山岩	積円礫。両端、一個縁に敲打痕。	9
407-9	131	B区13住埋土	(12.6)	7.4	4.4	495.1	砂岩	積円礫。一端欠損。割離痕。	16
407-10	131	B区14住埋土	(12.2)	(3.8)	3.3	249.8	安質玄武岩	積円礫。一端欠損。一個縁に割離痕。	8
407-11	131	B区15住床直	13.2	5.7	5.1	527.3	溶結凝灰岩	積円礫。両端に敲打痕。	12
416-12	136	B区15住床直	19.7	11.7	4.3	1195.7	粗粒安山岩	積円礫。	13
407-13	131	B区19住床直	22.6	8.2	6.2	1870.8	安質玄武岩	棒状の積円礫。	6
407-14	131	B区20住埋土	(11.4)	4.1	2.1	156.1	雲母石英片岩	積円礫。両端に敲打痕。	5
407-15	131	B区21住床直	15.7	8.1	5.0	944.1	溶結凝灰岩	積円礫。両端に僅かに敲打痕。	11
408-16	131	B区21住床直	13.2	5.7	4.2	450.6	ひん岩	積円礫。両端、一個縁に敲打痕。	12
408-17	132	B区23住床直	16.4	6.1	5.8	899.6	石英閃緑岩	積円礫。両端、一個縁に敲打痕。	9
408-18	132	B区30住埋土	14.9	7.7	4.6	746.2	石英閃緑岩	積円礫。一個縁に敲打痕。	7
417-19	136	B区30住床直	29.4	22.4	9.2	9600.0	粗粒安山岩	大型の扁平な積円礫。台石か?	5
408-20	131	B区33住床直	11.4	6.9	5.3	516.0	細粒安山岩	積円礫。一端欠損。	4
408-21	132	B区33住床直	12.9	7.1	5.2	688.5	粗粒安山岩	積円礫。両端に敲打痕。	5
408-22	132	B区36住床直	16.8	6.2	3.8	642.7	流紋岩	積円礫。一個縁に割離痕。	8
408-23	132	B区36住埋土	15.2	6.9	4.9	742.9	溶結凝灰岩	積円礫。	9
408-24	132	B区38住床直	16.1	6.7	4.6	744.7	石英閃緑岩	積円礫。両端に敲打痕。	10
408-25	132	B区36住床直	(13.7)	9.5	4.3	885.3	粗粒安山岩	積円礫。一端欠損。	11
408-26	132	B区36住床直	16.7	7.1	5.1	886.2	変はんれい岩	積円礫。両端、一個縁に敲打痕。	12
408-27	132	B区36住床直	18.1	8.6	5.0	986.9	粗粒安山岩	積円礫。両端に敲打痕。	13
408-28	132	B区39住床直	13.3	6.5	6.7	747.6	粗粒安山岩	積円礫。両端に敲打痕。	9
408-29	132	B区40住壁溝部	19.3	9.4	6.0	1692.8	粗粒安山岩	積円礫。両端に敲打痕。	9
409-30	132	B区42住床直	15.0	7.5	4.3	639.0	粗粒安山岩	積円礫。	9
409-31	132	B区43住掘り方	12.2	5.9	3.2	345.2	溶結凝灰岩	積円礫。両端、一個縁に敲打痕。	9
409-32	132	B区46住埋土	14.8	7.7	5.0	819.5	石英閃緑岩	積円礫。一端に敲打痕。	6
409-33	132	B区54住埋土	15.3	6.3	4.9	695.1	粗粒安山岩	積円礫。両端、両側縁に敲打痕。	6
409-34	132	B区54住床直	8.3	4.1	2.5	136.6	粗粒安山岩	積円礫。	7
409-35	132	B区60住床直	14.2	5.8	5.2	677.1	石英閃緑岩	積円礫。被熱?	11
409-36	132	B区60住床直	13.3	6.6	4.7	621.3	粗粒安山岩	積円礫。一個縁に敲打痕。	12
409-37	132	B区60住床直	12.9	6.4	3.6	463.7	粗粒安山岩	積円礫。両側縁に敲打痕。	13
409-38	132	B区87住床直	(9.7)	8.8	3.3	472.8	粗粒安山岩	積円礫。一端欠損。	10
409-39	132	B区88住床直	13.9	7.3	3.7	567.2	粗粒安山岩	積円礫。両端、両側縁に敲打痕。	6
409-40	132	B区89住埋土	12.9	5.5	4.8	563.9	石英閃緑岩	積円礫。両端に敲打痕。	3
409-41	132	B区90住床直	(16.9)	8.5	4.2	954.9	粗粒安山岩	積円礫。一端欠損。一個縁に敲打痕。	7
409-42	132	B区90住床直	12.6	6.6	3.1	402.8	粗粒安山岩	積円礫。一端に割離痕。	8
409-43	132	B区92住床直	18.5	8.1	5.1	683.5	粗粒安山岩	積円礫。	13
410-44	132	B区92住床直	12.5	5.9	4.5	478.6	ひん岩	積円礫。両端、両側縁に敲打痕。	14
410-45	135	B区1溝埋土	12.8	7.0	5.0	665.0	ひん岩	積円礫。	5
410-46	135	B区9溝埋土	(8.8)	(6.4)	(3.3)	284.7	粗粒安山岩	積円礫。一端欠損。一端に割離痕。	2
410-47	135	B区9溝埋土	(8.4)	(5.1)	(2.7)	176.9	安質玄武岩	積円礫。一端欠損。	3
416-48	136	C区2住埋土	10.0	9.0	2.8	380.6	粗粒安山岩	扁平な積円礫。両縁に敲打痕。	5
410-49	132	C区2住埋土	(5.5)	(3.8)	(1.8)	52.7	安質安山岩	積円礫。一端欠損。	8
410-50	133	C区2住埋土	12.3	5.6	5.1	383.2	凝灰岩	積円礫。端側縁に敲打痕?	9
416-51	136	C区3住床直	13.0	12.0	5.1	1224.7	粗粒安山岩	円礫。全周縁に敲打痕。	8
416-52	136	C区4溝埋土	5.0	5.1	4.1	72.2	二ッ舌軽石	円礫。	10
410-53	132	C区7住掘り方	12.4	6.2	3.5	458.3	輝緑岩	積円礫。	11
410-54	133	C区10住掘り方	(19.7)	(7.3)	(5.1)	1070.8	雲母石英片岩	積円礫。両端欠損。	26
410-55	132	C区11住床直	12.7	6.0	4.8	541.7	ホルンフェルス	積円礫。一端に割離痕。	40
410-56	133	C区11住床直	25.3	8.8	6.2	2230.0	粗粒安山岩	棒状の積円礫。両端、両側縁に敲打痕。	41
410-57	133	C区11住埋土	12.8	7.2	4.5	648.6	粗粒安山岩	積円礫。両端に敲打痕。	42

図版番号	写真	出土遺構	長さ	幅	厚さ	高さ	石 材	素材形状・調整加工の特徴	備考
410-58	133	C区11住床直	16.3	5.0	4.3	406.3	榎粒安山岩	楕円形。	43
410-59	135	C区12住床直	13.4	5.4	3.8	361.7	榎粒安山岩	楕円形。	25
410-60	133	C区12住カマド	(12.5)	(8.1)	(5.9)	674.3	榎粒安山岩	楕円形。一端欠損。被熱?	26
410-61	133	C区12住床直	12.2	5.6	4.3	452.1	榎粒安山岩	楕円形。	27
411-62	133	C区14住掘り方	23.4	7.7	7.0	1820.8	砂岩	楕円形。両端に敲打痕。	3
411-63	133	C区15住床直	17.3	6.6	4.9	732.6	溶結凝灰岩	楕円形。両端に敲打痕。	10
411-64	133	C区15住床直	14.3	6.0	4.7	588.8	溶結凝灰岩	楕円形。	11
411-65	133	C区16住床直	12.0	6.9	3.3	419.9	榎粒安山岩	楕円形。	14
416-66	136	C区23住床直	6.6	5.6	1.7	103.9	榎粒安山岩	扁平な楕円形。周縁に敲打痕。	15
411-67	133	C区26住9内	16.3	6.5	5.3	849.3	変質玄武岩	楕円形。両端に敲打痕。	9
418-68	136	C区28住床直	12.7	11.9	4.7	1073.2	石英閃緑岩	大型の扁平な円形。全周縁に敲打痕。	10
411-69	133	C区29住床直	12.3	5.4	5.0	629.9	石英閃緑岩	楕円形。	20
416-70	136	C区29住床直	5.6	7.1	5.7	350.1	榎粒安山岩	方形形。	21
411-71	133	C区29住掘り方	12.6	5.6	5.0	474.3	榎粒安山岩	楕円形。両端に敲打痕。	22
411-72	133	C区29住掘り方	(16.3)	7.1	(5.7)	860.7	榎粒安山岩	楕円形。一側縁に割がれ。一端に敲打痕。	23
411-73	133	C区29住掘り方	11.4	6.0	4.7	532.9	榎粒安山岩	楕円形。	24
411-74	133	C区29住掘り方	15.1	6.1	4.8	667.5	榎粒安山岩	楕円形。両端に敲打痕。側縁に割がれ。	25
411-75	133	C区29住壁溝	13.7	6.0	5.7	682.0	石英閃緑岩	楕円形。側縁に割がれ。	26
411-76	133	C区29住床直	12.7	5.6	4.9	424.6	ひん岩	楕円形。	27
411-77	133	C区29住床直	14.5	5.7	4.4	561.2	変質安山岩	楕円形。両端に敲打痕。	28
412-78	133	C区29住壁溝	12.9	5.3	3.8	355.0	榎粒安山岩	楕円形。両端、一側縁に敲打痕。	29
412-79	133	C区29住貯蔵穴	13.9	6.3	4.2	523.6	榎粒安山岩	楕円形。	30
412-80	133	C区29住埋土	14.3	5.6	5.3	787.5	榎粒安山岩	楕円形。両端に敲打痕。	31
412-81	133	C区29住床直	14.7	6.7	3.3	517.5	変質玄武岩	楕円形。	32
412-82	133	C区29住床直	15.0	7.1	4.3	707.4	流紋岩	楕円形。両端に敲打痕。	33
412-83	133	C区29住床直	12.5	5.2	3.1	337.9	榎粒安山岩	楕円形。両端に敲打痕。	34
417-84	136	C区3住床直	26.0	22.1	8.9	5060.0	榎粒安山岩	大型の扁平な楕円形。合石か?	9
412-85	131	C区33住埋土	12.5	6.8	4.7	565.7	榎粒安山岩	楕円形。	4
412-86	133	C区35住床直	12.9	6.7	4.1	500.7	榎粒安山岩	楕円形。両端、両側縁に敲打痕。	7
416-87	136	C区43住埋土	5.7	5.4	2.5	117.9	榎粒安山岩	扁平な円形。周縁に敲打痕。	15
412-88	136	C区49住埋土	( 8.1)	5.4	2.7	151.3	榎粒安山岩	楕円形。一端欠損。一端に割がれ。被熱。	29
412-89	134	C区49住埋土	(11.9)	4.3	3.8	346.1	ひん岩	楕円形。一端欠損。表面に割がれ。	30
412-90	133	C区51住埋土	9.5	4.1	3.5	185.5	榎粒安山岩	楕円形。両端、両側縁に敲打痕。	7
412-91	134	C区53住埋土	12.6	6.6	4.5	500.5	榎粒安山岩	楕円形。両端、両側縁に敲打痕。	5
412-92	134	C区54住床直	(11.6)	6.5	4.3	459.2	榎粒安山岩	楕円形。一端欠損。一端、両側縁に敲打痕。	11
412-93	134	C区54住床直	(17.1)	8.8	8.0	1212.1	ひん岩	楕円形。一端欠損。一端に敲打痕?被熱?	12
413-94	134	C区54住埋土	15.2	6.0	4.7	628.5	榎粒安山岩	楕円形。両端、両側縁に敲打痕。	13
413-95	134	C区55住埋土	(12.1)	(6.7)	(5.2)	529.4	ひん岩	楕円形。両端欠損。	18
413-96	134	C区55住埋土	( 9.0)	(7.3)	(4.5)	463.8	石英閃緑岩	楕円形。一端欠損。表面に割がれ。被熱?	19
413-97	134	C区55住床直	11.1	(5.7)	3.3	177.5	榎粒安山岩	楕円形。一面面欠損。	20
413-98	134	C区60住埋土	13.7	6.8	4.7	681.8	溶結凝灰岩	楕円形。両端に敲打痕。	12
413-99	134	C区61住床直	9.3	4.1	3.0	181.8	ひん岩	楕円形。両端に敲打痕。	8
413-100	134	C区62住埋土	12.7	6.7	4.3	586.2	榎粒安山岩	楕円形。一側縁に敲打痕。	10
413-101	134	C区62住床直	12.4	8.0	4.5	663.8	ひん岩	楕円形。	11
413-102	134	C区62住床直	( 7.9)	(7.6)	(4.4)	387.9	榎粒安山岩	楕円形。一端欠損。一端に敲打痕。	12
413-103	134	C区62住埋土	15.1	7.9	5.2	1039.6	榎粒安山岩	楕円形。両端に敲打痕。	13
413-104	134	C区64住床直	15.0	7.7	2.8	549.5	榎粒安山岩	楕円形。両端、両側縁に敲打痕。	19
413-105	134	C区64住床直	15.4	6.5	5.4	746.1	閃緑岩	楕円形。一端に敲打痕?	20
413-106	134	C区64住床直	16.4	5.5	5.1	688.3	ひん岩	楕円形。両端に敲打痕。	21
413-107	134	C区64住床直	15.3	5.6	5.2	622.9	黒色片岩	楕円形。一端に敲打痕?	22
414-108	134	C区64住床直	14.7	5.7	4.1	516.7	変質安山岩	楕円形。一端に僅小に敲打痕。	23
414-109	134	C区64住床直	13.6	7.7	4.4	710.4	榎粒安山岩	楕円形。両端、両側縁に敲打痕。	24
414-110	134	C区64住床直	14.7	7.4	4.6	806.8	榎粒安山岩	楕円形。両端、一側縁に敲打痕。	25
414-111	134	C区64住床直	15.6	6.5	4.4	649.9	溶結凝灰岩	楕円形。両端に敲打痕。	26
414-112	134	C区64住床直	16.4	5.3	3.6	451.8	灰色安山岩	楕円形。	27
414-113	134	C区64住床直	14.4	7.7	4.8	763.2	榎粒安山岩	楕円形。	28
414-114	134	C区64住床直	14.7	5.6	4.3	581.3	榎粒安山岩	楕円形。両端、両側縁に敲打痕。	29
414-115	134	C区64住床直	15.9	7.5	4.8	757.4	溶結凝灰岩	楕円形。両端に僅小に敲打痕?	30
414-116	134	C区64住床直	18.0	7.0	5.1	797.6	変質安山岩	楕円形。一端に敲打痕。	31
414-117	134	C区64住埋土	14.0	5.0	5.7	606.6	砂岩	楕円形。	32

図版番号	写真	出土遺構	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	素材形状・調整加工の特徴	備考
418-118	136	C区65住埋土	11.5	12.6	6.5	1457.3	粗粒安山岩	楕円形。両縁に敲打痕。横付者？	7
414-119	134	C区65住埋土	(13.7)	(6.3)	(4.2)	486.3	石英閃緑岩	楕円形。一端欠損。一端に敲打痕。	9
414-120	134	C区65住埋土	11.6	4.0	4.3	252.3	ひん岩	楕円形。	8
414-121	134	C区72住埋土	(13.1)	7.0	6.1	544.6	粗粒安山岩	楕円形。中央部にびくれ作出。	12
414-122	134	C区73住埋土	17.3	6.7	5.2	834.9	ひん岩	楕円形。一端欠損。一側縁に割がれ？	6
415-123	134	C区74住埋土	11.2	6.7	3.3	414.8	砂岩	楕円形。	13
415-124	134	C区74住埋土	(11.1)	(5.5)	(5.0)	462.1	石英閃緑岩	楕円形。一端欠損。表面に割がれ。	11
415-125	134	C区74住埋土	13.3	4.2	5.0	441.4	石英閃緑岩	楕円形。	12
415-126	135	C区75住埋土	13.0	5.4	3.7	347.1	実質安山岩	楕円形。	20
415-127	135	C区75住埋土	( 6.1)	(6.7)	(3.8)	221.0	粗粒安山岩	楕円形。一端欠損。	21
415-128	135	C区77住埋土	13.2	6.4	3.8	560.8	石英閃緑岩	楕円形。	7
415-129	135	表探	15.5	5.3	3.7	452.9	粗粒安山岩	楕円形。	1
415-130	135	表探	(12.2)	5.0	2.9	269.6	雲母石英片岩	楕円形。両端に割がれ。	2
415-131	135	表探	12.1	5.1	3.3	317.4	粗粒安山岩	楕円形。	3
415-132	135	表探	16.7	7.3	5.1	836.3	粗粒安山岩	楕円形。両側縁に敲打痕。	4
415-133	135	表探	(14.0)	(3.6)	(1.3)	76.0	粗粒安山岩	楕円形。半分欠損。	6
416-134	136	表探	4.8	4.2	4.3	112.3	石英質岩	円形。	9
416-135	136	表探	5.1	4.9	2.4	82.5	粗粒安山岩	扁平な円形。	10
415-136	135	表探	16.5	5.1	4.7	609.3	粗粒安山岩	楕円形。両端、一側縁に敲打痕。	19
415-137	135	表探	12.0	6.7	4.4	514.5	石英閃緑岩	楕円形。一端に敲打痕。	20
415-138	135	表探	9.0	5.5	3.0	210.5	粗粒安山岩	扁平な楕円形。両端に敲打痕。	21
416-139	136	C区グリッド	7.3	7.0	2.5	194.8	粗粒安山岩	扁平な円形。両縁に敲打痕。	11
416-140	135	A区旧河道埋土	14.0	6.3	4.4	611.1	粗粒安山岩	楕円形。両縁に敲打痕。	309
416-141	135	A区旧河道埋土	14.9	5.9	3.7	569.5	閃緑岩	楕円形。	310
416-142	135	A区旧河道埋土	14.8	8.2	4.5	755.7	石英閃緑岩	楕円形。両端に敲打痕。	311
416-143	135	A区旧河道埋土	( 6.4)	(4.9)	(3.6)	175.9	粗粒安山岩	楕円形。一端欠損。	312
416-144	135	A区旧河道埋土	10.4	5.9	4.1	408.3	石英閃緑岩	楕円形。両端に敲打痕。	313
416-145	135	A区旧河道埋土	(10.5)	4.5	3.3	218.9	流紋岩	楕円形。一端に割痕。	314
416-146	135	A区旧河道埋土	( 7.8)	(6.2)	(3.0)	210.4	石英閃緑岩	楕円形。一端欠損。	315
416-147	138	A区旧河道埋土	5.5	5.3	4.4	181.7	粗粒安山岩	円形。	316
416-148	136	A区旧河道埋土	6.9	6.1	2.1	126.1	粗粒安山岩	扁平な楕円形。全周縁に敲打痕。	317

第18表 木製品観察表

図版番号 写真番号	種 別 器 種	出土位置 残存状態	長さ・幅 厚さ(cm)	備 考	器種・製作上の特徴	標本番号 登録番号
419-1 137	木簡	A区旧河道 欠損	16.7・2.9 0.4	針葉樹 スギ	ほぼ中央で欠損するが、側面を丁寧に面取りし、磨き仕上げている。文字が2行記載だが、解读できない。定木として再利用している。	GUN- 67・85
419-2 137	漆身具 樂	A区旧河道 欠損	9.1・7.5	針葉樹 イヌガヤ	ほぼ中央で欠損している。面の切り出しや仕上げは丁寧である。	GUN- 13・109
419-3 137	農具	A区旧河道 欠損	22.0・5.6 2.0	広葉樹 ゴナツ部	先端の刃部を欠損しているが、基部の作り出しが顕著である。両端側縁、及び基部は残存している。刃部は薄くなっている。広葉樹。	GUN- 56・68
419-4 137	農具 鏃	A区旧河道 欠損	17.7・8.1 2.0	広葉樹 トチノキ	一側縁が残存し、柄の装着のための差し込み穴の痕跡が認められる。刃部は薄くなっている。横溝か。	GUN- 30・36
419-5 137	農具 二又鏃	A区旧河道 欠損	25.6・4.0 0.2	広葉樹 サクラ属	全体的に薄く、一方の刃部すべてともう一方の刃部の一部を欠損する。	GUN- 46・52
419-6 137	農具 鏃?	A区旧河道 欠損	49.5・6.2 2.5	広葉樹・ア カガシ亜属	楕円。一側縁部分すべて刃部を欠損している。基部の装着部分はしっかり作り出している。刃部は薄くなっている。着痕か。	GUN- 34・24-1
419-7 137	農具 長柄鏃	A区旧河道 欠損	54.2・12.5 4.6	広葉樹 トチノキ	刃部、及び基部を欠損しているが、両側縁は残存している。	GUN- 1・1
420-8 137	農具 鏃	A区旧河道 欠損	35.5・10.1 2.4	広葉樹 サワグルミ	刃部、及び基部の一部を欠損しているが、両側縁は残存している。基部は僅かに作り出している。	GUN- 25・13-2
420-9 137	農具 鏃	A区旧河道 欠損	27.0・12.0 5.0	広葉樹 トチノキ	刃部、及び基部の一部を欠損しているが、両側縁は残存している。基部は作り出しているが、肉厚である。刃部は薄くなっている。	GUN- 6・3
420-10 137	農具 鏃?	A区旧河道 欠損	35.1・12.3 3.0	広葉樹 サワグルミ	楕円。基部の一側縁だけを作り出しているようであり、刃部は肉厚で、一部を欠損している。鏃。あるいは鏃の未製品かもしれない。	GUN- 24・13-1

図版番号 写真番号	種別	出土位置 残存状態	長さ・幅 厚さ(㎝)	樹種	器種・製作上の特徴	標本番号 登録番号
420-11 137	農具 鏝?	A区旧河道 欠損	34.0・7.5 2.0	広葉樹 ヤブグルミ	板目。器形がはっきりしていないが、柄の装着の差し込み穴とみられる穴が存在する。あるいは未製品か。	GUN- 19・17
421-12 137	加工材	A区旧河道 欠損	38.7・9.0 5.2	広葉樹 トナノキ	板目?。かなり欠損しているために、器種が不明であるが、加工の痕跡は認められる。農具の腕、あるいは鋸か。	GUN- 29・18
421-13 137	容器 槽	A区旧河道 欠損	40.3・9.6 7.2	広葉樹 トナノキ	かなり欠損しているために、器形が不明であるが、内面の削り面の顕著な様子と反り方から、容器と考えられる。	GUN- 2・2-2
421-14 137	容器 槽	A区旧河道 欠損	23.4・4.4 3.5	広葉樹 ケヤキ	かなり欠損しているために、器形が不明であるが、内面の削り面や反り方から、13と同様な容器と考えられる。	GUN- 53・61
421-15 137	容器 鉢?	A区旧河道 欠損	15.5・15.0 1.8	広葉樹 ケヤキ	かなり欠損しているために、器形が不明であるが、内面の削り面の顕著な様子と反り方から、容器と考えられる。	GUN- 45・50
421-16 137	容器 鉢?	A区旧河道 欠損	20.2・11.0 1.7	広葉樹 ケヤキ	かなり欠損しているために、器形が不明であるが、内面の削り面の顕著な様子と反り方から、15と同様な容器と考えられる。	GUN- 54・62-1
422-17 137	容器 曲物底板	A区旧河道 欠損			両端の様子から、大形の曲物の底板の一枚であるが、一側縁に切り込みを入れて再利用している。おそらくは蓋のような使い方か。	8
422-18 137	容器 曲物底板	A区旧河道 欠損	35.0・8.4 1.0	針葉樹 スギ	一端の様子から、大形の曲物の底板の一枚であるが、一側縁に切り込みを入れて再利用している。ほぼ中央で欠損している。	GUN- 27・11
422-19 137	容器 曲物	A区旧河道 欠損	8.2・2.5 0.4	樹皮部分	かなり欠損しているが、側面の薄板と縦じわのためのサクツの樹皮の存在から、曲物の一部と考えられる。	GUN- 14・32
422-20 137	容器 曲物底板	A区旧河道 欠損	17.5・6.5 0.9	針葉樹 スギ	細縁の様子から曲物の底板の一枚と考えられるが、一部に切り込みを入れて再利用している。	GUN- 11・71-1
422-21 137	容器 曲物底板	A区旧河道 欠損	13.1・6.3 0.6	広葉樹 ヒノキ	細縁の様子から曲物の底板の一枚と考えられるが、一部に切り込みを入れて再利用している。一部を欠損している。	GUN- 59・71-2
422-22 137	容器 曲物底板	A区旧河道 欠損	17.4・3.8 2.1	針葉樹 モミ属	板目。一端の様子から曲物の底板の一枚を再利用したものと考えられるが、特徴的な器形からなんらかの用途の本製品か。	GUN- 26・16
422-23 137	容器 曲物	A区旧河道 欠損	38.2・3.8 3.1	針葉樹 ヒノキ	板目。一端の様子から曲物の底板の一枚を再利用したものと考えられるが、特徴的な器形からと同様になんらかの用途の本製品か。	GUN- 43・44
423-24 138	加工材	A区旧河道 欠損	20.2・6.0 3.2	針葉樹 スギ	板目。両端を欠損しているが、基部、あるいは柄を作り出したような様子から柄の柄の部分や蓋とも考えられる。	GUN- 31・21
423-25 138	加工材	A区旧河道 欠損	17.1・2.5 2.0	針葉樹 モミ属	外側にはほとんど加工の痕跡は認められないが、内側に細長い穴を打ち込んでおり、あるいは刃子などの柄の差し込み部分か。	GUN- 57・69
423-26 138	加工材	A区旧河道 欠損	34.7・3.2 1.5	針葉樹 ヒノキ	板目。一端を欠損しているが、棒状に仕上げられており、3箇所に貫通する小さい穴が認められる。釘などの装着の痕跡か。	GUN- 66・84
423-27 138	加工材	A区旧河道 欠損	26.0・2.8 1.4	針葉樹 モミ属	板目。両端を欠損しているが、角棒状に仕上げている。用途は不明である。	GUN- 65・83
423-28 138	角棒	A区旧河道 欠損	19.9・1.7 1.6	針葉樹 ヒノキ	両端を欠損しているが、角棒状に仕上げている。用途は不明である。	GUN- 61・72-2
423-29 138	角棒	A区旧河道 欠損	20.9・2.2 1.6	針葉樹 カヤ	一端を欠損しているが、角棒状に仕上げている。残存する一端には削りの痕跡が認められる。	GUN- 60・72-1
423-30 138	薄板	A区旧河道 欠損	24.6・3.3 0.5	針葉樹 モミ属	板目。両端を欠損しているが、薄い板状に仕上げている。用途は不明である。	GUN- 49・55
423-31 138	土本具 丸太枕	A区旧河道 欠損	16.7・4.0 3.9	広葉樹 ヤナギ属	一端を欠損している。外面には樹皮が残存し、先端部は5回の削りで作り出している。	GUN- 58・70
423-32 138	土本具 杖?	A区旧河道 欠損	43.2・3.3 3.6	広葉樹 イヌシヤ節	一端を欠損している。外面は丸く仕上げられており、先端部は4回の削りで作り出している。	GUN- 62・43
423-33 138	板材?	A区旧河道 欠損	29.5・8.1 4.2	広葉樹 ケヤキ	ミカン割。両端は欠損しているが、縁だやや内厚に仕上げている。	GUN- 63・81
424-34 138	板材?	A区旧河道 欠損	21.6・11.7 3.0	広葉樹 サクラ属	板目。両端は欠損しているが、両側縁は残存し、薄くなっているのに対して、中央部は内厚である。	GUN- 62・80
424-35 138	加工材	A区旧河道 欠損	15.2・5.4 4.9	広葉樹 サクラ属	ミカン割。一端を欠損しているが、角状に仕上げられており、挟り込みが存在することから、建築材の継ぎ目の部分か。	GUN- 70・88
424-36 138	板材?	A区旧河道 欠損	31.0・15.2 2.0	広葉樹 ヤナギ属	板目。両端を欠損しているが、両側縁は残存している。	GUN- 69・58
424-37 138	板材?	A区旧河道 欠損	60.7・8.4 2.4	広葉樹 ケヤキ	板目?。一部を欠損しており、器形がはっきりしないが、両側縁が残存している。長鋸か。	GUN- 50・58
424-38 138	加工材	A区旧河道 欠損	56.5・7.1 4.7	広葉樹 サクラ属	板目?。一端は欠損しているが、角状に仕上げている。挟り込みが存在し、建築材の継ぎ目の部分と考えられる。	GUN- 68・54

図版番号 写真番号	種別 器種	出土位置 残存状態	長さ・幅 厚さ(cm)	樹種	器種・製作上の特徴	標本番号 登録番号
425-39 138	加工材	A区旧河道 欠損	17.0・7.0 3.4	針葉樹 モミ属	板目。かなり欠損しており、器形も不明である。	GUN- 35-29
425-40 138	加工材	A区旧河道 欠損	6.0・4.2 2.2	広葉樹 トチノキ	両端は欠損しているようである。器形は不明である。	GUN- 99-9
425-41 138	板材	A区旧河道 欠損	26.7・7.1 1.3	針葉樹 サワグルミ	板目。両端を欠損しているが、一側縁は残存している。薄く仕上げている。	GUN- 28-19
425-42 138	加工材	A区旧河道 欠損	9.0・2.1 1.6	広葉樹 サクラ属	ミカン割。器形ははっきりしないが、角状に仕上げている。	GUN- 64-82
425-43 138	加工材	A区旧河道 欠損	19.3・2.3 2.5	広葉樹 サクラ属	ミカン割。器形ははっきりしないが、角、あるいは三角状に仕上げている。42と同一個体と考えられる。	GUN- 64-82
425-44 138	加工材	A区旧河道 欠損	24.0・4.5 3.9	広葉樹 サクラ属	板目。両端を欠損しているが、角状に仕上げている。	GUN- 47-53
425-45 138	板材	A区旧河道 欠損	45.1・4.5 2.1	広葉樹 サクラ属	板目？。一側縁は残存しているが、器形ははっきりしない。	GUN- 52-60
425-46 138	加工材	A区旧河道 欠損	28.9・4.1 3.1	針葉樹 サクラ属	板目。一端は欠損しているが、角状に仕上げている。	GUN- 44-45
425-47 138	板材	A区旧河道 欠損	44.3・8.1 1.2	針葉樹 スギ	両端は欠損しているが、両側縁は残存している。あるいは曲物の底板か。	GUN- 22-12-1
426-48 138	板材	A区旧河道 欠損	59.0・16.5 2.1	針葉樹 スギ	一端を欠損しているが、両側縁は残存している。薄く仕上げられており、49と同一個体と考えられる。	GUN- 96-37
426-49 138	板材	A区旧河道 欠損	18.8・17.6 3.9	針葉樹 スギ	一端を欠損しているが、両側縁は残存している。薄く仕上げられており、48と同一個体と考えられる。	GUN- 96-37
427-50 138	加工材	A区旧河道 欠損	33.2・12.7 5.2	広葉樹 クリ	ミカン割。一面は平坦に仕上げているが、一面は木の外観を僅かに留めており、肉厚である。	GUN- 33-23-2
427-51 139	杖?	A区旧河道 欠損	36.6・10.6	広葉樹・ナ ナカマド属	一端を欠損しているが、樹皮がほとんど残存している。先端部は大きな斜めの粗い断面の限りで作り出されている。	GUN- 55-64

第19表 木簡・木製品観察表

登録 番号	写真 番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	遺存 状態	備 考	登録 番号	写真 番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	遺存 状態	備 考
	1	141-1 (16.5)	4.2	0.2	欠損	両側縁残存	26	142-26	(10.2)	(2.4)	0.3	欠損	両側縁残存
	2	141-2 (13.7)	(2.3)	0.3	欠損	一側縁残存	27	142-27	(11.8)	(1.3)	0.3	欠損	一側縁残存
	3	141-3 (18.8)	3.4	0.3	欠損	両側縁残存	28	142-28	(10.9)	(2.4)	0.3	欠損	一側縁残存
	4	141-4 (10.2)	3.5	0.3	欠損	両側縁残存	29	142-29	(10.7)	(9.0)	0.3	欠損	一側縁残存
	5	141-5 (12.4)	(1.0)	0.3	欠損	一側縁残存	30	142-30	(7.3)	2.4	0.3	欠損	両側縁残存
	6	141-6 (6.5)	(2.3)	0.3	欠損	一側縁残存	31	142-31	(3.2)	(2.6)	0.3	欠損	一側縁残存
	7	141-7 (11.0)	(1.3)	0.3	欠損	一側縁残存	32	142-32	(6.0)	(1.7)	0.3	欠損	一側縁残存
	8	141-8 (14.3)	(2.6)	0.2	欠損	一側縁残存	33	142-33	(5.5)	(1.1)	0.2	欠損	一側縁残存
	9	141-9 (5.4)	(2.7)	0.3	欠損	両側縁残存	34	142-34	(4.2)	(1.6)	0.3	欠損	一側縁残存
	10	141-10 (11.2)	(2.1)	0.3	欠損	一側縁残存	35		(7.6)	(9.0)	0.2	欠損	一側縁残存
	11	141-11 (13.8)	(1.8)	0.3	欠損	一側縁残存	36		(3.2)	(1.4)	0.3	欠損	一側縁残存
	12	141-12 (8.5)	(1.1)	0.3	欠損	一側縁残存	37		(2.4)	(2.1)	0.3	欠損	一側縁残存
	13	141-13 (15.6)	2.0	0.3	欠損	一側縁残存	38		(4.9)	(5.5)	0.3	欠損	一側縁残存
	14	141-14 (17.5)	(1.5)	0.3	欠損	一側縁残存	39		(4.4)	(1.2)	0.3	欠損	一側縁残存
	15	141-15 (6.2)	1.7	0.2	欠損	一側縁残存	40		(3.2)	(1.1)	0.3	欠損	一側縁残存
	16	141-16 (7.9)	(1.2)	0.3	欠損	一側縁残存	41		(2.4)	(1.3)	0.2	欠損	一側縁残存
	17	141-17 (7.6)	2.3	0.2	欠損	一側縁残存	42		(2.5)	(0.9)	0.3	欠損	
	18	142-18 (10.3)	(1.8)	0.3	欠損	一側縁残存	43		(1.6)	(0.6)	0.2	欠損	
	19	142-19 (8.2)	3.5	0.3	欠損	両側縁残存	44		(2.8)	(0.5)	0.3	欠損	
	20	142-20 (6.2)	(1.7)	0.3	欠損	一側縁残存	45		(4.5)	(0.7)	0.2	欠損	
	21	142-21 (13.6)	(2.7)	0.2	欠損	一側縁残存	46		(4.8)	(0.4)	0.2	欠損	
	22	142-22 (22.0)	(2.6)	0.3	欠損	両側縁残存	47		(2.9)	(0.4)	0.3	欠損	一側縁残存
	23	142-23 (13.1)	(2.8)	0.3	欠損	両側縁残存	48		(2.2)	(0.4)	0.3	欠損	
	24	142-24 (15.2)	(2.5)	0.2	欠損	一側縁残存	49		(1.3)	(0.4)	0.3	欠損	
	25	142-25 (17.4)	(2.9)	0.3	欠損	一側縁残存	50		(5.5)	(0.8)	0.2	欠損	

第20表 縄文土器・弥生土器観察表

标本番号	写真番号	出土位置	分類	色調	文様・形態の特徴	備考
429-1	127-1	C区8溝	黒浜	赤褐色	半竹管による爪形文を横位に施文。縄文はR L。	縦線含む 横線含む
429-2	127-2	C区8溝	黒浜	赤褐色	半載竹の爪形文を横位に二列に施文。縄文はR L、L Rの羽状。	
429-3	127-3	C区10住	深緑	にぶい橙	全体に摩滅が多く文様ははっきりしないが爪形文と思われる。	
429-4	127-4	C60住埋土	深緑b	橙	半載竹管による平行沈線を数本単位で横位、斜位に施文。	
429-5	127-5	C区8溝	深緑b	明赤褐色	半載竹管による平行沈線を二本単位で横位、斜位に施文。	
429-6	127-6	旧河道	深緑b	明赤褐色	半載竹管による平行沈線を数本単位で横位に施文。	
429-7	127-7	C区8溝	深緑b	赤褐色	半載竹管の平行沈線を数本単位で間をあけて横位施文。	
429-8	127-8	B区6住	深緑b	明赤褐色	半載竹管の平行沈線で横位に区画、間を弧状に施文。	
429-9	127-9	C区8溝	深緑b	明赤褐色	半載竹管による平行沈線を数本単位で横位に施文。	
429-10	127-10	C区60住	深緑b	明赤褐色	半載竹管による平行沈線を数本単位で斜位に施文。	
429-11	127-11	C区60住	深緑b	にぶい黄橙	半載竹管による平行沈線で横位、斜位に幾何学文様を施す。	
429-12	127-12	C4土坑	深緑c	にぶい赤褐色	半載竹管による集合沈線による横文後ボタン状の粘土線を貼付。	
429-13	127-13	B区76住	深緑c	にぶい橙	半載竹管による集合沈線を縦位に施文後ボタン状の粘土線を貼付。	
429-14	127-14	旧河道	深緑c	橙	集合沈線を横文後棒状、ボタン状の粘土線を貼付。	
429-15	127-15	A区埋土	黄褐色	浅黄	口縁に縦に沈線、隆線には起みを持つ。口唇内面に沈線が施文。	
429-16	127-16	C区22住	黄褐色	橙	太い隆帯が高く、隆帯上の半分に爪形状の起みと波状の沈線。	
429-17	127-17	C区72住	黄褐色	にぶい褐色	垂下する隆帯に刻みを施し、横に爪形状の起みと波状の沈線。	
429-18	127-18	B区51住	阿玉台	明黄褐色	隆帯が一帯依られるがその他の文様は摩滅が多く確認出来ない。	
429-19	127-19	B区64住	黄褐色	明赤褐色	隆帯が縦位に張り付けられ、両側をキャラクター文が施文される。	
429-20	127-20	A区川	加曾利E	暗赤褐色	垂下する沈線による無文帯を持つ。縄文は単節R L。	
429-21	127-21	A区塚上	加曾利E	にぶい赤褐色	幅広い隆帯による帯内の区画。縄文は単節R L。	
429-22	127-22	A区2住	加曾利E	明赤褐色	幅広い沈線による帯内の区画。縄文は単節R L、摩滅多い。	
429-23	127-23	表塚	加曾利E	明赤褐色	垂下する幅の広い沈線により無文帯を作る。縄文は単節R L。	
429-24	127-24	B59住	後期	にぶい黄褐色	沈線を弧状に施文する。摩滅が多く器表が荒れ地文等不明。	
429-25	127-25	J7トレ	後期	にぶい橙	細い沈線で帯内区画を作りその中にR Lの縄文が充填される。	
429-26	127-26	C区55住	中期	にぶい黄橙	隆起線により無文帯を垂下させる。R Lの縄文を施文。	
429-27	127-27	A区川中	加曾利E	明赤褐色	沈線が2条垂下する。摩滅が多く地文等不明。	
429-28	127-28	B区77住	後期	明黄褐色	沈線が斜位に施文される。摩滅が多く地文等不明。	
429-29	127-29	B区49住	後期	明赤褐色	沈線が斜位に施文される。摩滅が多く器表が荒れ地文等不明。	
429-30	127-30	北部表土	後期	明赤褐色	横位に2条の沈線を施文し、間に斜位の沈線が入る。摩滅多い。	
430-31	127-31	B区51住	佐瀬台	明赤褐色	口唇に平行して太い沈線が施され、橋状把手を持つ。	
430-32	127-32	A区埋土	加曾利E	明黄褐色	把手部。太い粘土線を巻き状に張り付けている。	
430-33	127-33	C区29住	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	把手部。太い粘土線を巻き状に張り付けている。	
430-34	127-34	表塚	加曾利E	明赤褐色	把手部。細い隆線とそれに沿うように丸棒状の文様による刺突。	
430-35	127-35	不明	堀之内	明赤褐色	口縁頂部の把手が欠損したもの。「8」状の文様が垂下する。	
430-36	127-36	A区川	明灰褐色	明灰褐色	口縁部破片。黒文である。	
430-37	127-37	A区川	堀之内	にぶい黄橙	無文。横位の器面調整で粘土の隆起が認められる。口縁部破片。	
430-38	127-38	B区54	堀之内	暗赤褐色	口唇に平行して沈線を持ち口唇内面にくびれを持つ。摩滅多い。	
430-39	127-39	C区4城	有尾	にぶい橙	0段多条の単節R L、L Rによる羽状縄文。	縦線含む 横線含む
430-40	127-40	C区8溝	有尾	にぶい褐色	0段多条の単節R L斜行縄文。	
430-41	127-41	表塚	有尾	にぶい褐色	単節R Lの斜行縄文。	縦線含む
430-42	127-42	表塚	黒浜	赤褐色	0段多条の単節R L斜行縄文。	
430-43	127-43	表塚	深緑	にぶい橙	単節R Lの斜行縄文。	
430-44	127-44	C区8溝	深緑b	暗赤褐色	摩滅が多い。単節R Lの斜行縄文。	
430-45	127-45	表塚	深緑b	明赤褐色	単節R Lの斜行縄文。	
430-46	127-46	C区8溝	前期後半	橙	全体に摩滅が多い。R Lの斜行縄文を施文。	
430-47	127-47	D区	中期	黄	摩滅が多い。単節R Lの斜行縄文。	
430-48	127-48	C区49住	中期	橙	単節R Lの斜行縄文。	
430-49	127-49	A区表塚	中期	にぶい褐色	摩滅が多く筋が不鮮明。細いL Rの斜行縄文を向きをかえて施文。	
430-50	127-50	C区59住	中期	橙	橙赤	
430-51	127-51	旧河道	中期	明赤褐色	単節R Lの斜行縄文。上部に無文帯を持つ。	
430-52	127-52	J5トレ	暗赤褐色	暗赤褐色	底面4分の1残り。平底無文。磨き痕有り。	
430-53	127-53	不明	明赤褐色	明赤褐色	底面6分の1残り。平底無文。全体に摩滅多い。	
430-54	127-54	A区川	橙	橙	底面2分の1残り。平底無文。全体に摩滅多い。	
430-55	127-55	G1トレ	赤褐色	赤褐色	底面。平底無文。磨き痕有り。	
430-56	127-56	北部表土	明赤褐色	明赤褐色	底面3分の2残り。平底無文。全体に摩滅多い。	
430-57	127-57	C区46住	明赤褐色	明赤褐色	底面5分の1残り。平底無文。全体に摩滅多い。	
430-60	127-60		養生	明赤褐色	折り返し口縁部破片。黒文。	
430-61	127-61		養生	にぶい橙	折り返し口縁部破片。黒文。	
430-62	127-62		養生	橙	棒状工具による沈線を横位に施文。長筒形の頸部。	
430-63	127-63		養生	橙	口唇に刻みを持ち、体部に垂線を施文する。	

第21表 縄文石器観察表

図版番号	写真	器種	出土遺構	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	素材形状・調整加工の特徴	備考
432-1	128	石 鏃	B区8住	2.4	1.6	0.4	1.0	チャート	横長薄片素材。先端部欠損。	1
432-2	128	石 鏃	C区9住	2.7	1.7	0.4	1.3	黒色安山岩	先端部欠損。	2
432-3	128	石 鏃	表塚	2.2	1.6	0.4	0.7	黒曜石	両側部欠損。	3
432-4	129	打製石斧	表塚 (10.3)	4.0	1.9	84.3		黒色頁岩	縦長薄片素材。礫面残存。刃部捲れ。	4
432-5	129	打製石斧	C区7溝	11.1	4.2	2.4	120.2	黒色頁岩	縦長薄片素材。礫面残存。	5
432-6	129	打製石斧	D6トレンチ	9.7	4.6	0.7	59.9	黒色頁岩	縦長薄片素材。	6
432-7	129	打製石斧	B区81住	12.2	4.3	2.3	101.1	黒色頁岩	縦長薄片素材。礫面残存。	7
432-8	129	打製石斧	C区	12.7	6.0	2.0	121.2	黒色頁岩	縦長薄片素材。刃部の一部欠損。礫面残存。	8
432-9	129	打製石斧	表塚	9.6	3.3	1.5	53.8	黒色頁岩	長薄片素材。礫面残存。	9
433-10	129	打製石斧	旧河道	10.6	7.2	2.3	237.0	黒色頁岩	横長薄片素材。礫面残存。	10
433-11	129	打製石斧	B区表塚 (16.3)	(7.9)	(3.6)	456.1	黒色頁岩	縦長薄片素材。刃部欠損新しい。	11	
433-12	129	打製石斧	表塚	3.8	3.3	0.9	13.8	黒色頁岩	横長薄片素材。刃部欠損。	12
433-13	129	打製石斧	B区49住	11.6	4.2	1.7	99.8	黒色頁岩	横長薄片素材。頭部礫面残存。刃部捲れ。	13
433-14	129	打製石斧	C区61住	13.2	7.2	2.4	210.9	黒色頁岩	縦長薄片素材。刃部捲れ。	14
433-15	129	打製石斧	D4トレンチ (9.1)	4.1	1.4	65.1	黒色頁岩	縦長薄片素材。頭部礫面残存。	15	
433-16	129	打製石斧	旧河道 (6.4)	(4.1)	(1.8)	69.0	黒色頁岩	横長薄片素材。刃部欠損。頭部礫面欠損。	16	
433-17	129	打製石斧	D1トレンチ (8.6)	7.6	2.4	164.1	黒色頁岩	縦長薄片素材。頭部欠損。礫面残存。	17	
434-18	129	打製石斧	C区60住 (8.5)	6.0	(2.0)	135.0	黒色頁岩	横長薄片素材。刃部欠損。礫面残存。	18	
434-19	129	網器	C区54住	6.1	6.2	2.3	99.0	黒色頁岩	縦長薄片素材。礫面残存。	19
434-20	129	打製石斧	C区6溝 (8.0)	(4.9)	(1.9)	83.8	黒色頁岩	横長薄片素材。刃部欠損。	20	
434-21	129	打製石斧	C区23住 (6.7)	(7.4)	(1.5)	84.0	黒色頁岩	横長薄片素材。刃部欠損。	21	
434-22	129	打製石斧	旧河道	11.1	8.0	1.9	202.9	黒色頁岩	縦長薄片素材。	22
434-23	129	打製石斧	C区1井	11.3	7.2	1.9	153.8	黒色頁岩	縦長薄片素材。刃部・頭部欠損。礫面残存。	23
434-24	129	打製石斧	B区9溝 (16.8)	7.7	2.5	409.9	黒色頁岩	縦長薄片素材。一端欠損。	24	
435-25	129	打製石斧	表塚 (8.2)	7.6	2.0	136.9	黒色頁岩	薄片素材。	25	
435-26	129	石匙?	C区56住	5.0	4.6	0.5	7.8	黒色頁岩	不定形薄片素材。先端縁に加工痕。	26
435-27	129	網器	C区56住	5.4	5.5	1.1	50.1	黒色頁岩	縦長薄片素材。礫面残存。一側縁に加工痕。	27
435-28	129	網器	表塚	5.0	(4.9)	1.3	33.2	黒色頁岩	縦長薄片素材。先端縁に加工痕。	28
435-29	129	網器	C区10住	8.1	4.5	1.1	41.2	黒色頁岩	縦長薄片素材。二側縁に加工痕。	29
435-30	129	網器	B区31住	5.6	2.8	1.2	13.8	黒色頁岩	縦長薄片素材。礫面残存。一側縁に加工痕。	30
435-31	129	網器	表塚	4.9	6.0	1.0	35.6	黒色頁岩	長薄片素材。礫面打面。二側縁に加工痕。	31
435-32	129	網器	C区60住	8.0	4.0		34.0	黒色頁岩	縦長薄片素材。礫面打面。二側縁に加工痕。	32
435-33	129	打製石斧	C区60住	16.5	9.4	1.9	299.5	黒色頁岩	横長薄片素材。礫面残存。	33
436-34	129	打製石斧	表塚 (6.3)	(4.1)	(1.9)	64.8	黒色頁岩	長薄片素材。刃部欠損。礫面残存。	34	
436-35	129	打製石斧	旧河道 (5.9)	(5.9)	1.9	69.0	黒色頁岩	横長薄片素材。刃部欠損。	35	
436-36	128	網器	表塚	8.3	5.8	1.6	63.8	黒色頁岩	縦長薄片素材。礫面残存。一側縁に加工痕。	36
436-37	128	不明	表塚	6.9	6.4	1.8	79.3	黒色頁岩	縦長薄片素材? 礫面残存。	37
436-38	130	多孔石	表塚	22.5	19.1	12.9			2面に孔を有する。	38
437-39	130	多孔石	C区28住	18.0	17.1	14.8		粗粒安山岩	2面に孔を有する。	39
437-40	130	多孔石	旧河道 (12.3)	(19.2)	3.3	1275.9		粗粒安山岩	1面に孔を有する。欠損した石皿転用。	40
438-41	130	多孔石	A E	30.6	15.3	8.4			2面に孔を有する。欠損した石皿転用。	41
-	131	多孔石	表塚	19.0	12.0	11.2			3面に孔を有する。	

☆ 多孔石の石材は全て粗粒安山岩



第22表 中近世陶磁器観察表

标本番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 別称	量目(cm) 残存状態	特	数	備考
1 (10)	表 採	青磁碗 磁器		碗の口縁部断片。外面には顔の不明確な蓮弁文を施す。輪には粗い貫入が入る。		龍泉窯系 14C
2 (155)	表 採	灰釉瓶 磁器		瓶類の体部片。外面のみ灰釉を施す。内面には粘り肌が残る。		古瀬戸? 14-15C
3 (171)	B区9溝 埋土	焼締陶器 鉢 陶器		鉢の口縁部片。内面に自然釉がかかる。焼き締まりは良く、硬質である。胎土は黒灰色を呈し、白色炭粉粒を多く含む。また、発泡した黒色粒子を少量含む。		製作地不詳 中世か?
4 (186)	B区9溝 埋土	焼締陶器 鉢又は壺 陶器		鉢か壺の体部片を円形に打ち欠き、口縁を磨って調整している。胎土・焼成は3と同じである。		製作地不詳 中世か?
5 (113)	A区 川	おろし皿 陶器		おろし皿の底部片。底部外面は、赤切り後緑色の回転発色部。内面には僅かに灰釉が附かるのみであるが、口縁部は施釉されていたと思われる。胎土は緻密で淡黄色を呈する。		瀬戸・美濃系 15-16C
6 (47)	B区9溝 埋土	陶胎染付 碗 陶器		高台端部は欠失する。胎土は灰色でやや粗い。外面には呉須による下絵を施し、内面は無文。全面に透明釉を施す。輪には粗い貫入が入る。		肥前陶器 18C前半
7 (45)	A 区 ガケ下	陶胎染付 碗	底 3.8 1/2	胎土は灰色でやや粗い。外面には呉須による下絵を施す。高台端部を除き透明釉を施す。軸厚にはムラがあり、ピンホールも多く認められる。高台内に瓦状工具で跡を施す。跡は判読不可能。輪には粗い貫入が入る。		肥前陶器 18C
8 (15)	B区9溝 埋土	染付碗 磁器	底 4.1 1/2	胎土は灰白色。底部器壁厚い。呉須の発色は薄い。高台内には、呉須による不明跡がある。高台端部を除き透明釉を施す。		肥前磁器 波佐見系 18C
9 (46)	A 区 ガケ下	染付碗 磁器	底 3.8	胎土は灰白色。底部器壁厚い。外面に呉須による下絵を施す。呉須は黒灰色に発色する。高台端部を除き透明釉を施す。		肥前磁器 波佐見系 18C
10 (18)	不明	染付碗 磁器	底 (5.8) 1/4	胎土は白色。高台端の器壁厚い。高台はやや高く体部は上方に立ち上がる。外面には素焼きに近いタッチで文様を描く。高台端部を除き透明釉を施す。		肥前磁器 波佐見系? 19C
11 (1)	B区9溝 埋土	染付碗 磁器	口 (7.2)	胎土は純白で緻密。直立した口縁部を有し、外面には細線で文様を描いた後に、部分的に「濃み」を施す。呉須の発色は濃い。透明釉を施す。		瀬戸・美濃系 19C 中-後半
12 (3)	B区9溝 埋土	染付小丸 碗 磁器	口 (8.0)	胎土は白色。体部はやや丸味を帯びる。呉須の発色は薄く、部分的に黒味を帯びる。透明釉を施す。		肥前磁器 波佐見系 18C本-19C初
13 (2)	不明	染付碗 磁器	口 (10.8)	胎土は純白で緻密。体部上ははやや丸味を帯びる。器壁は薄く、呉須の発色も良い。透明釉を施す。		肥前磁器 伊万里系 18C 前
14 (14)	A 区 ガケ下	染付碗 磁器	底 (2.8)	高台径は小さい。内外面には「素焼き」で文様を描く。透明釉を薄く施す。		肥前磁器 伊万里系 19C 前半
15 (51)	不明	碗 陶器	底 (4.4)	高台はやや高く外方に張り出す。高台端部を除き、長石軸系の透明釉を施す。輪には貫入が入る。		肥前陶器 唐津系 18C
16 (22)	不明	染付湯呑 磁器	底 2.8	外面にはルリ釉を施し、内面には花弁文を描く。高台内に「文明明化」銘を施す。高台端部を除き透明釉を施す。		瀬戸・美濃系 明治
17 (67)	C 区 表 採	鉛釉碗 陶器	口 (13.0)	胎土は灰色でやや粗い。内外面に鉛釉を施す。口縁部外面には、部分的にワラ灰系の灰釉を施している。いわゆる「尾呂茶碗」である。		瀬戸・美濃系 18C
18 (91)	A区2住 埋土	磨結碗 陶器	底 (6.0)	高台は低く幅は狭い。胎土は灰色でやや粗い。口縁部と体部の境にラセン状の沈線を通らす。口縁部外面から内面に灰釉系の透明釉、体部外面から高台内に鉄釉に近い緑釉を施す。高台端部は無釉。透明釉には粗い貫入が入る。		瀬戸・美濃系 18C 後末
19 (89)	B区9溝 埋土	鉛釉碗 陶器	底 4.8	高台幅はやや広く、外方に張り出す。胎土は灰色-淡黄色。高台端以下を除き鉛釉を施す。体部内面にはワラ灰系の灰釉が付着しており、口縁部に施されていたと考えられる。		瀬戸・美濃系 18C

押出番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	量目(cm) 残存状態	特 徴	備 考
20 (97)	C区4溝 埴土	鉛輪陶 器	底 4.9	碗の底部周縁を打ち欠いたものか？高台脇以下は無縁。	瀬戸・美濃系 18C
21 (98)	B区9溝 埴土	鉄輪陶 器	底 4.6	碗の底部周縁を外側から細かく打ち欠いて印字としている。内面に黒色の鉄輪が厚くかかる。	瀬戸・美濃系 18C
22 (96)	B区9溝 埴土	鉛輪陶 器	底 4.7	碗の底部周縁を外側から粗く打ち欠いて印字としている。	瀬戸・美濃系 18C
23 (49)	表 探	碗 陶 器	底 (3.3)	胎土はクリーム色を呈し、緻密。高台部は細輪状を呈する。細かい貫入の入る透明釉を施す。高台脇以下は無縁。	製作地不詳 19C
24 (50)	B区9溝 埴土	白磁陶 器	底 3.5	胎土は白色。細かい貫入の入る透明釉を施す。高台端部のみ無縁。	製作地不詳 19C中頃-20 C
25 (120)	表 探	灯明皿 陶 器	底 (4.6)	胎土は淡黄色でやや粗い。外面は口縁部下まで回転削り方を施す。全面に錆輪を施した後、底部-体部外面の錆輪を拭い取る。	瀬戸・美濃系 18C後半
26 (119)	B区9溝 埴土	灯明皿 受け皿 陶 器	底 4.8	胎土は灰色で緻密。外面は体部下まで回転削り方を施す。全面に錆輪を施した後、底部-口縁部外面の錆輪を拭い取る。	瀬戸・美濃系 18C後半-19 C前半
27 (121)	C区1井戸 埴土	灯明皿 受け皿 陶 器	高 2.9 口(11.7) 底 (6.5)	胎土はにぶい褐色。外面は体部中位まで回転削り方を施す。外面の削り幅は広い。内面-口縁部外面まで錆輪を施す。	製作地不詳 18C後半-19 C前半
28 (88)	B区9溝 埴土	鉄輪陶 器	高 2.0 口(10.5) 底 (6.5)	胎土は淡黄色でやや粗い。内面には鉄輪を施す。高台端部と内面を除き、長石輪？を施す。	瀬戸・美濃系 17C
29 (35)	A 区 ガケ下	灰輪皿 陶 器	口(22.0)	口縁部は大きく内湾して立ち上がる。外面は口縁部下まで回転削り方を施す。貫入の入る灰輪を施す。体部中位以下は無縁。内面の灰輪下に供須がわずかに認められるが、須須の存在は不明。	瀬戸・美濃系 18C後半
30 (193)	表 探	餅輪おろ し皿 陶 器		型押しで成形し、内面には櫛状工具の削突により、おろし目を入れる。外面には布目が残る。胎土は、赤褐色-灰色を白色鉱物粒を含む。灰色を呈する部分は、黒色鉱物が発色する。内面-口縁部外面には鉄輪を施す。	益子・笠原系 19C中頃-20 C初頃
31 (23)	A 区 ガケ下	染付徳利 磁 器		胎土は白色で緻密。外面に一重網目文を施す。内面無縁。	肥前磁器・伊 万里系 17C 後-18C前半
32 (16)	B区9溝 埴土	染付徳利 磁 器	底 (8.3)	胎土は灰色で緻密。高台外面に圈線を廻らす。内面と高台端部を除き透明釉を施す。	肥前磁器 伊万里系？ 18C？
33 (48)	表 探	染付飯 磁 器	底 (6.4)	胎土は灰白色。高台は厚く高い。高台外面の染付はやや黒味を帯びる。高台端部と内面を除いて透明釉を施す。高台端部は使用により摩滅している。	肥前磁器 波佐見系？ 18C？
34 (66)	C区29住 埴土	灰輪急須 陶 器		胎土は灰色を呈し、妬器質に焼き締まる。透明釉を施す。	製作地不詳 19C
35 (87)	C区1井戸 埴土	鉄輪蓋 陶 器	口 3.2	胎土はやや粗くにぶい褐色を呈する。細かい白色鉱物粒を多く含む。天井部のみ鉄輪を施す。鉄輪には金結晶状の斑点がある。	製作地不詳 19C
36 (8)	B区9溝 埴土	染付火入 れ？ 磁 器	口 (7.3)	胎土は灰白色。外面には圈線を3条廻らす。小片のため主文様は不明。外面-口縁端部に透明釉を施す。	肥前磁器 波佐見系？ 18C-19C
37 (36)	B区9溝 埴土	灰輪片口 鉢 陶 器	口(16.2)	胎土は灰色で妬器質によく焼き締まる。外面は口縁部下まで回転削り方を施す。光沢が強く、透明感のある灰輪を施す。	瀬戸・美濃系 19C前半
38 (37)	B区9溝 埴土	灰輪片口 鉢		胎土は黄褐色-灰色。灰輪は白濁する部分が多い。	瀬戸・美濃系 19C前半
39 (111)	B区9溝 埴土	三島手皿 陶 器		胎土は赤褐色。内面に白土による象嵌を施し、内面のみ長石輪系の透明釉を施す。内面には砂が付着している。	肥前陶器 唐津系 17C-18C

神田番号 写真番号	出土位置 遺存状態	種別 器種	量目(cm) 残存状態	特	数	備考
40 (38)	A区 ガケ下	灰釉鉢 陶器	口(16.4)	胎土は淡黄色で粗い。外面には二条の沈線を廻らす。口縁部外面に刷毛釉を施し磨ける。貫入の入る灰釉を施す。		瀬戸・美濃系 18C後-19C
41 (108)	B区表探	灰釉土瓶 陶器	底 12.5	胎土は灰色で緻密。白色炭物粒少量含む。内面のみ細かい貫入の入る灰釉を施す。		製作地不詳 19C
42 (83)	A区 ガケ下	鉄軸筒 形香炉? 陶器	口(20.0)	細片のため直径は定かではない。内外面共に縦線目が目著。外面から口縁部内面まで鉄軸を施す。		瀬戸・美濃系 17C-18C
43 (81)	A区 ガケ下	鉄軸手刷 葉 陶器		胎土は灰白色で粗い。内外面に鉄軸を施す。外面口縁部下		瀬戸・美濃系 19C前半
44 (93)	C区49住 埋土	瓶 陶器	底(8.7)	胎土は灰色。白色・黒色炭物粒含む。外面と内底に自然釉が掛かる。		製作地不詳 年代不詳
45 (192)	B区19住 No.1 カマド	瓶 陶器		胎土は灰色。白色炭物粒・黒色粒子を含む。外面に自然釉が掛かる。外面に叩き目が残る。		製作地不詳 年代不詳
46 (191)	不明 陶器	瓶		胎土は灰色。白色炭物粒・黒色粒子を含む。外面に自然釉が掛かる。45・47と同一個体か。		製作地不詳 年代不詳
47 (174)	B区10住 埋土	瓶 陶器	底(11.6)	胎土は灰色。白色炭物粒・黒色粒子を含む。底部内面に自然釉が掛かる。45・46と同一個体か。		製作地不詳 年代不詳
48 (170)	A区 ガケ下	錆物刷毛 陶器	口(29.4)	胎土は淡黄色で粗い。口縁部は外方に折り返し、肥厚させる。錆物を施す。		瀬戸・美濃系 18C前半
49 (69)	A区 ガケ下	錆物刷毛 陶器		胎土は淡黄色でやや粗い。口縁部は外方に延び、端部は立ち上がる。12本1単位の掻目を施す。内外面に錆物を施す。		瀬戸・美濃系? 18C中頃
50 (173)	A区 ガケ下	鉄軸刷毛 陶器	底(16.6)	胎土はにぶい棕色。白色・黒色炭物粒少量含む。内面と高台端部を除き鉄軸(特軸にぶい棕色)を施す。		製作地不詳 19C中頃- 20C初
51 (172)	B区9溝 埋土	焼締陶器 揉鉢 陶器	底(15.7)	胎土は灰黒色-赤褐色。粗・白色・黒色炭物粒含む。体部外面中位には泥漿を施す。底部は砂底。底部内面は使用により摩滅する。		製作地不詳 18C後半-19C
52 (180)	A区 ガケ下	火鉢 軟質陶器		胎土は赤褐色。内面に押印1+所あり。		在地製不詳 年代不詳

第23表 住居構造観察表

住居 番号	住居跡の構造		カマドの構造							主軸方向			
	形	型	長辺長	短辺長	全長	室内長	屋外長	燃焼部長	煙道長		袖間幅	燃焼部幅	煙道部幅
A 1	A		3.20	2.13	0.74	0.08	0.66	0.74		0.68	0.36		E 4°S
A 2	C		5.36	5.30	1.72	1.12	0.60	1.34	0.38	1.38	0.84	0.18	N66°E
A 3	不明	(2.52)	(1.02)										
A 4	不明	(4.68)	(2.24)										
B 1	A		3.88	2.50	0.74	0.08	0.66	0.74		(0.68)	0.50		N72°E
B 2	A		3.46	2.77									
B 5	C		4.52	3.98	1.12	0.22	0.90	0.60	0.52	0.76	0.46	0.23	N73°E
B 6	A		4.07	3.27	0.98	0.45	0.53	0.96		(0.89)	0.70		E 1°S
B 7	A		4.78	3.32	0.83	0.32	0.51	0.83		0.72	0.59		N78°E
B 8	C		3.53	2.75	1.32	0.53	0.79	1.32		0.74	0.46		N72°E
B 9	A		5.54		1.29	0.69	0.60	1.29		0.56	0.32		N88°E
B 10	A		3.72	3.02	0.53		0.53	0.53			0.50		N79°E
B 11	C	(3.80)	3.74	1.04	0.30	0.74	1.04			0.86	0.56		N76°E
B 12	C		3.84	3.26	1.12	0.44	0.68	1.12		0.90	0.63		N71°E
B 13	C		3.47	3.04	0.72	0.04	0.68	0.72			0.53		N74°E
B 14	E		2.84	2.32	1.31	0.49	0.82	1.31		0.61	0.20		N65°E
B 15	C		5.40	5.30	1.24	0.65	0.59	1.24		0.70	0.56		N58°E
B 16	A		(1.84)										
B 18	A		3.12	2.60	(1.29)	(0.53)	(0.76)	(1.29)					N80°E
B 19	A		3.07	2.29	0.64	0.24	0.40	0.64		0.66	0.30		N84°E
B 20	A		4.64	(3.23)	1.34	0.38	0.96	0.61	0.73	0.56	0.42	0.18	N72°E
B 21	不明	5.64	(3.80)										
B 22	不明	3.15	(1.20)	1.74	0.65	1.09	1.26	0.48	1.04	0.50	0.14		N78°E
B 23	不明	3.80	(2.14)										
B 25	A		4.00	3.12	0.66	0.09	0.57	0.66		0.92	0.62		N75°E
B 26	A	(4.40)	(2.37)										
B 27	A		4.42	(1.40)									
B 28	A	(4.34)	(1.90)										
B 30	A		5.46	(2.51)	1.08	0.55	0.53	0.39	0.69	0.81	0.60	0.38	N84°E
B 31	D		3.17	2.25	0.72	0.06	0.66	0.72		0.52	0.40		E 2°S
B 32	B		4.64	3.32	0.79	0.06	0.73	0.79		0.68	0.52		N90°E
B 33	不明	(3.18)	(3.05)	1.48	0.74	0.74	1.10	0.38	0.80	0.48	0.17		N45°E
B 34	C		3.51	2.98	0.94	0.40	0.54	0.94		1.03	0.73		N53°E
B 35	不明	2.55		0.73	0.22	0.51	0.73		0.72	0.42			N83°E
B 36	C		4.33	4.13	2.13	0.83	1.30	0.83	1.26	1.34	(0.85)	(0.50)	N86°E
B 38	A		4.28	3.14	1.62	0.86	0.76	1.62		0.78	0.32		N80°E
B 39	C		3.50	3.41									
B 40	B		4.92	4.71	1.36	0.45	0.91	0.85	0.51	0.74	0.58	0.22	N77°E
B 41	不明	4.49	(2.27)	1.02	0.36	0.66	1.02		0.78	0.50			N83°E
B 42	A		2.78	2.30	0.62	0.36	0.26	0.62		0.68	0.38		N90°E
B 43	不明	(3.50)	(2.70)										
B 44	不明	(3.52)	(1.90)										
B 45	C		3.16	2.88	1.54	0.94	0.60	1.54		0.72	0.49		E 1°S
B 46	C		6.23	5.41	1.75	0.97	0.78	1.13	0.62	1.00	0.53	0.22	N51°E
B 47	A		4.27	3.88	0.68	0.23	0.45	0.68		0.90	0.72		N88°E
B 48	A		3.31	2.80	0.86	0.16	0.70	0.60	0.26	0.68	0.45	0.23	N75°E
B 49	A		3.30	2.89	0.61	0.03	0.58	0.61		0.54	0.48		E 3°S
B 50	不明	4.15	3.42										
B 51	C		2.32	2.22	0.62	0.18	0.44	0.62		0.60	0.36		E 10°S
B 52	B		3.08	2.85	1.30	0.40	0.91	0.87	0.43	0.64	0.37	0.11	E 9°S
B 53	A		3.94	2.97	0.61	0.09	0.52	0.61		0.82	0.59		N83°E
B 54	B		4.43	3.40	0.94	0.26	0.68	0.52	0.42	0.57	0.39	0.30	N78°E
B 55	A												
B 56	A		3.84	3.08	0.89	0.53	0.36	0.89		0.80	0.65		N80°E
B 57	A		3.70	2.74	0.44	0.10	0.34	0.44		0.52	0.22		E 17°S
B 58	B		3.96	3.78	0.82	0.39	0.43	0.82		0.82	0.60		N74°E
B 59	C		3.03	2.93	1.12	0.42	0.70	1.12		1.00	0.58		N83°E
B 60	A		4.09	3.30	0.68	0.28	0.40	0.68		0.44	0.27		N73°E
B 61	A		4.24	3.33	1.02	0.52	0.50	1.02		1.10	0.68		N82°E
B 62	C		3.27	3.01	0.64	0.08	0.56	0.64		0.64	0.42		N70°E

住居 番号	住居跡の構造			カマドの構造										
	形	壁	長辺長	短辺長	全長	屋内長	屋外長	燃焼部長	煙道長	袖間幅	燃焼部幅	煙道部幅	主軸方向	
B64	C		3.27	2.93	0.69	0.35	0.34	0.60		0.40	0.18		N56°E	
B65	不明		3.45											
B66	不明		3.78		0.46		0.46	0.64		0.76	0.60		N66°E	
B67	A		3.80	3.75	1.13	0.47	0.66	1.13		0.61	0.42		N77°E	
B68	C		2.81	2.70										
B69	A		4.32	3.45	0.70	0.15	0.55	0.70		0.73	0.50		N82°E	
B70	A		3.86	2.84										
B71	不明		5.82	(3.30)	0.98	0.44	0.54	0.98		0.90	0.60		E 1°S	
B72	D		3.95	3.6	0.40	0.12	0.28	0.98		0.70	0.52		E 5°S	
B73	A		4.04	3.71	0.40	0.14	0.26	0.40		0.75	0.54		E12°S	
B74	A		4.00	3.10										
B75	B		3.94	(3.04)	1.08	0.38	0.71	0.84	0.24	1.04	0.74	0.30	N84°E	
B76	A		5.52	3.53	0.75	0.09	0.66	0.75		1.08	0.78		N83°E	
B77	B		(4.05)	(3.59)	0.60	0.10	0.50	0.60		0.83	0.44		N69°E	
B78	不明		3.96		0.97	0.09	0.88	0.78	0.19	0.70	0.39	0.21	N84°E	
B80	A		4.96	3.10	(1.38)	(0.50)	(0.88)	(1.38)		1.10	0.78		E 15°S	
B81	C		3.97	3.25	1.01	0.44	0.57	1.01		0.85	0.58		N83°E	
B82	A		3.95	3.12	0.85	0.33	0.52	0.85		1.18	0.48		N82°E	
B83	D		4.64	3.58	0.78	0.30	0.48	0.78		1.17	0.74		N66°E	
B84	A		6.04	3.68	1.70	0.46	1.24	0.78	0.92	0.70	0.32	0.12	E 1°S	
					0.76	0.11	0.65	0.46	0.30	0.68	0.40	0.20	N75°E	
B85	A		(3.70)		3.34	0.90	0.20	0.70	0.68	0.22	0.46	0.38	0.20	N68°E
B86	C		3.53	3.41	0.72	0.18	0.54	0.72		0.78	0.68		N57°E	
B87	A		5.02	4.35	0.90	0.04	0.86	0.96		0.84	0.66		N76°E	
B88	A		4.00	3.18	0.64	0.17	0.47	0.64		0.87	0.47		N67°E	
B89	B		3.58	2.85	0.82	0.24	0.58	0.82		0.62	0.40		N70°E	
B90	A		4.71	3.65	1.39	0.51	0.88	1.01	0.38	1.05	0.73	0.33	N100°E	
B91	C		2.46	2.38										
B92	C		3.88	3.62	0.98	0.36	0.62	0.98		0.70	0.42		W10°E	
B93	A		3.26	2.32										
C 1	B		3.90	3.45	0.86	0.36	0.50	0.64	0.22	0.70	0.44	0.14	N35°E	
C 2	B		4.50	4.00	0.97	0.48	0.49	0.97		1.00	0.48		N85°E	
C 3	B													
C 6	不明		(4.50)											
C 7	B		4.30	4.20	0.80	0.10	0.70	0.80		1.08	0.60		N83°E	
C 9	不明		4.13	(3.80)										
C10	E		5.18	(3.84)										
C11	C		6.34	6.34	1.32	0.62	0.70	1.20	0.12	1.16	0.73	0.12	E 8°S	
C12	B		4.88	4.27	1.14	0.41	0.73	1.14		0.96	0.70		N79°E	
C13	A		3.38	2.60						0.86				
C14	不明		(4.32)	(2.75)										
C15	A		(3.65)		3.00	0.57	0.15	0.42	0.57	0.78	0.50		N85°E	
C16	A		4.11	3.06	0.77	0.16	0.61	0.77		0.96	0.47		N75°E	
C17	B		3.45	2.50	0.72	0.25	0.47	0.72		0.58	0.50		E 5°S	
C18	A		3.26	2.56	0.54	0.08	0.46	0.54		0.78	0.38		N65°E	
C19	B		3.58	3.16						0.58	0.38		N86°E	
C20	不明				0.69	0.15	0.54	0.69		0.66	0.47		E17°S	
C21	不明		(3.43)	(2.30)	1.20	0.57	0.36	1.20		0.91	0.60		E 39°S	
C22	A		6.02	4.50	1.57	0.27	1.30	0.85	0.72	1.12	0.69	0.22	E 9°S	
					(0.55)	0.05	0.50	(0.55)					E12°S	
C23	A		3.68	2.77	1.16	0.48	0.68	1.16		0.70	0.54		E 3°S	
C24	A		4.11	3.20	1.24	0.68	0.56	1.24		0.93	0.62		E 2°S	
C25	C		4.65	4.49	1.35	0.87	0.48	1.04	0.31	0.82	0.53	0.21	N81°E	
C26	不明													
C27	不明		3.75		0.94	0.44	0.50	0.94		0.78	0.64		E 7°S	
C28	C		3.35	3.22	0.60	0.05	0.55	0.60		0.77	0.53		N86°E	
C29	C													
C30	不明				0.82	0.31	0.51	0.82		0.76	0.45		E16°S	
C31	不明				0.94	0.36	0.58	0.94					E26°S	
C32	A		4.24	(2.92)	1.51	0.77	0.74	1.29	0.22	0.77	0.51	0.10	E 2°S	
C33	不明		(2.69)											
C34	不明		(2.95)	(2.06)	0.74	0.09	0.65	0.74		0.62	0.30		E 9°S	

住居番号	住居部の構造			カマドの構造							主軸方向	
	形態	長辺長	短辺長	全長	屋内長	屋外長	燃焼部長	煙道長	抽気幅	燃焼部幅		煙道部幅
C35	A											
C36A	不明											
C36B	C											
C37	不明											
C38	A	3.38	2.61	0.60	0.11	0.49	0.60		0.93	0.64		N79°E
C39	C	3.17	2.90	0.55	0.07	0.48	0.55		0.94	0.62		N86°E
C40	不明	3.28	(2.53)	1.30	0.50	1.00	0.45	1.04	0.48	0.21	0.11	N52°E
C41	A	3.35	3.11	0.34	0.04	0.50	0.54		0.73	0.50		E 6°S
C42	A	4.89	4.10	1.36	0.17	1.19	0.79	0.57	0.40	0.32	0.24	N60°E
C43	A	4.85	3.40	0.64	0.10	0.54	0.64		0.70	0.58		E 4°S
				0.56	0.11	0.45	0.56		0.88	0.68		N81°E
C44	A	3.15	3.24	0.82	0.16	0.66	0.70	0.12	0.86	0.58	0.15	N77°E
C45	不明	(2.45)	(1.90)									
C46	A	3.76	3.04	1.00	0.10	0.90	1.00		0.90	0.71		E 2°S
C47		(1.60)		0.79	0.21	0.58	0.79		1.10	0.74		N80°E
C48	不明	(2.48)	(1.32)									
C49A	不明	(4.03)	(2.40)									
C49B	不明	(4.96)	(4.16)									
C49C	不明	(4.33)										
C49D	不明	(4.30)										
C50	不明	(3.15)	(1.96)									
C51	A	4.33	3.26	1.22	0.65	0.57	1.22		0.83	0.70		N83°E
C52	不明	(2.39)	(1.80)									
C53	A	4.38	3.52	(1.50)	0.84	(0.66)	1.35	(0.15)	1.00	0.60	0.10	N84°E
C54	B	3.91	2.91	1.12	0.66	0.46	0.86	0.26	0.66	0.34	0.24	N70°E
C55	C	3.53	3.51	1.00	0.51	0.49	0.83	0.17	0.75	0.26	0.34	N74°E
C56	A											
C57	A	3.19	2.17									
C58	C	3.97	3.89									N62°E
C59	C	2.98	2.88	0.62	0.12	0.50	0.62		0.50	0.43		E 2°S
C60	A	3.77	3.32									W13°S
C61	A	3.50	3.04	1.00	0.45	0.55	1.00		1.03	0.74		N72°E
C62	B	3.76	3.59	1.17	0.97	0.20	1.17		0.90	0.44		E12°S
C63	B	3.65	3.16	1.53	0.84	0.69	1.21	0.32	0.64	0.25	0.27	N83°E
C64	B	4.47	4.15	0.72	0.06	0.66	0.72		0.80	0.52		E13°S
C65	A	3.54	2.81	0.73	0.14	0.59	0.73		0.60	0.48		N72°E
C66	B	4.40	3.36	0.73	0.05	0.68	0.73		0.75	0.38		N85°E
C68	C	2.60	2.59									
C69	A	3.90	3.43	0.56	0.16	0.50	0.56		0.80	0.48		N87°E
C70	A	2.95	2.53	0.75	0.25	0.50	0.75		0.64	0.40		E 5°S
				0.48	0.07	0.41	0.48		0.62	0.33		N 4°E
C71	A	3.78	3.04									
C72	A	4.58	3.67	1.08	0.60	0.48	1.08		0.80	0.55		N85°E
C73	A	5.56	4.04	1.27	0.41	0.86	1.27		1.06	0.56		N83°E
C74	C	4.03	3.68	1.76	0.69	1.07	0.73	1.03	0.82	0.47	0.22	N85°E
C75	A	3.37	2.85	1.14	0.58	0.56	0.89	0.25	0.74	0.43	0.15	N81°E
C76	B	3.14	2.86	1.10	0.54	0.56	0.82	0.28	0.60	0.48	0.24	N82°E
C77	A	3.56	3.00	(0.96)	(0.06)	(0.90)	(0.62)	0.34		0.44	0.32	E11°S

# 写 真 图 版











遺跡全景

(航空写真合成)





航空写真

(山王庵寺)



遺跡近景

(北から)





1. A区 全景



2. C区 全景

第5図版



1. A区 1号住 全景



2. A区 1号住 カマド



3. A区 2号住 全景



4. A区 2号住 掘り方全景



5. A区 2号住 カマド



6. A区 1号洗い場



7. A区 1号洗い場



8. A区 1号基石





1. A区 1号集石



2. A区 1号集石



3. A区 1号集石



4. A区 1号集石



5. A区 2号集石



6. A区 2号・3号集石



7. A区 2号・3号集石



8. A区 Hi-FA上端 全景

## 第7图版



1. A区 旧河道部分遗物出土状态



2. A区 旧河道部分遗物出土状态



3. A区 旧河道部分遗物出土状态



4. A区 旧河道部分遗物出土状态



5. A区 旧河道部分遗物出土状态



6. A区 旧河道部分遗物出土状态



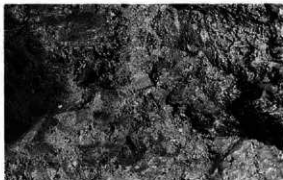
7. A区 旧河道部分瓦出土状态



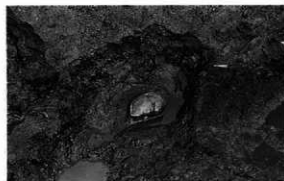
8. A区 旧河道部分木器出土状态



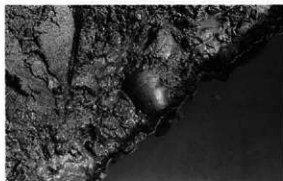
1. A区 旧河道部分木器出土状态



2. A区 旧河道部分甗出土状态



3. A区 旧河道部分勺出土状态



4. A区 旧河道部分钵出土状态



5. A区 旧河道部分勺出土状态



6. A区 旧河道部分板皮出土状态



7. A区 旧河道部分曲物出土状态



8. A区 旧河道部分曲物出土状态

## 第9图版



1. A区 旧河道部分木器出土状态



2. A区 旧河道部分木器出土状态



3. A区 旧河道部分木器出土状态



4. A区 旧河道部分木器出土状态



5. A区 旧河道部分木器出土状态



6. A区 旧河道部分木器出土状态



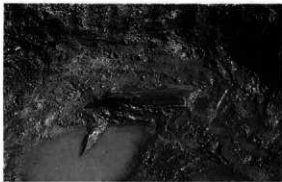
7. A区 旧河道部分木器出土状态



8. A区 旧河道部分木器出土状态



1. A区 旧河道部分木器出土状态



2. A区 旧河道部分木器出土状态



3. A区 旧河道部分木器出土状态



4. A区 旧河道部分木器出土状态



5. A区 旧河道部分木器出土状态



6. A区 旧河道部分木器出土状态



7. A区 旧河道部分木器出土状态



8. A区 旧河道部分木器出土状态

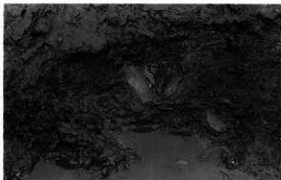
第11图版



1. A区 旧河道部分木器出土状态



2. A区 旧河道部分木器出土状态



3. A区 旧河道部分木器出土状态



4. A区 旧河道部分木器出土状态



5. A区 旧河道部分木器出土状态



6. A区 旧河道部分木器出土状态



7. A区 旧河道部分木器出土状态



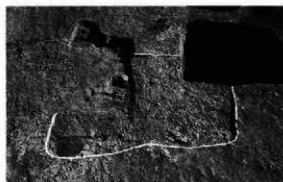
8. A区 旧河道部分木器出土状态



1. B区 1号住 全景



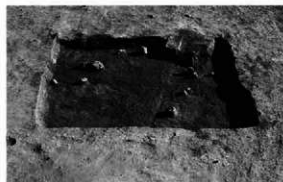
2. B区 1号住 カマド



3. B区 2号住 全景



4. B区 2号住 掘り方全景



5. B区 5号住 全景



6. B区 5号住 掘り方全景



7. B区 5号住 カマド掘り方



8. B区 6号住 全景

第13図版



1. B区 6号住 掘り方全景



2. B区 6号住 カマド



3. B区 6号住 カマド掘り方



4. B区 7号住 全景



5. B区 7号住・8号住 掘り方全景



6. B区 7号住 カマド



7. B区 7号住 カマド掘り方



8. B区 7号住 貯蔵穴





1. B区 8号住 全景



2. B区 8号住 カマド



3. B区 8号住 カマド掘り方



4. B区 9号住 全景



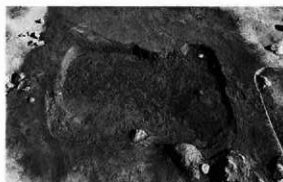
5. B区 9号住 掘り方全景



6. B区 9号住 カマド



7. B区 9号住 カマド掘り方



8. B区 10号住 全景

第15図版



1. B区 10号住 掘り方全景



2. B区 10号住, B区 カマド



3. B区 10号住 カマド掘り方



4. B区 11号住 全景



5. B区 11号住 掘り方全景



6. B区 11号住 カマド



7. B区 11号住 カマド掘り方



8. B区 12号住 掘り方全景



1. B区 12号住 カマド



2. B区 12号住 カマド掘り方



3. B区 13号住 全景



4. B区 13号住 掘り方全景



5. B区 13号住 カマド



6. B区 13号住 カマド掘り方



7. B区 14号住 全景



8. B区 14号住 掘り方全景

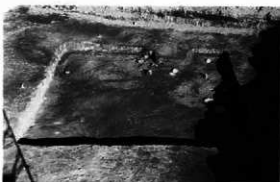
第17図版



1. B区 14号住 カマド



2. B区 14号住 カマド掘り方



3. B区 15号住 全景



4. B区 15号住 掘り方全景



5. B区 15号住 カマド



6. B区 15号住 カマド掘り方



7. B区 16号住 全景



8. B区 16号住 掘り方全景



1. B区 18号住 全景



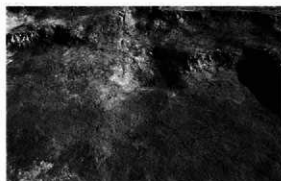
2. B区 18号住 掘り方全景



3. B区 19号住 全景



4. B区 19号住 掘り方全景



5. B区 19号住 カマド



6. B区 19号住カマド掘り方

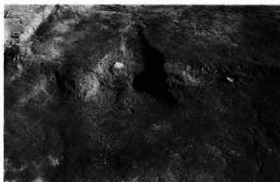


7. B区 20号住 全景



8. B区 20号住 掘り方全景

第19図版



1. B区 20号住 カマド



2. B区 20号住 カマド掘り方



3. B区 21号住 全景



4. B区 21号住 掘り方全景



5. B区 21号住 遺物出土状態



6. B区 22号住 掘り方全景



7. B区 22号住 カマド



8. B区 22号住 カマド掘り方



1. B区 23号住 全景



2. B区 23号住 掘り方全景



3. B区 24号住 全景



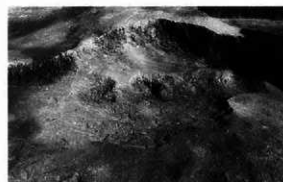
4. B区 25号住 全景



5. B区 25号住 掘り方全景



6. B区 25号住 カマド



7. B区 25号住 カマド掘り方

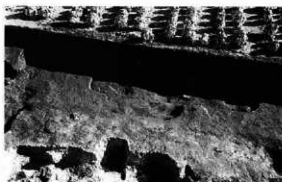


8. B区 27号住 全景

第21図版



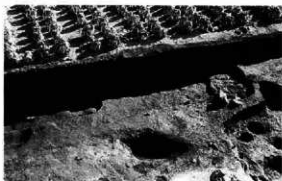
1. B区 26号住・27号住 全景



2. B区 26号住・27号住 掘り方全景



3. B区 28号住 全景



4. B区 28号住 掘り方全景



5. B区 30号住 全景



6. B区 30号住 掘り方全景



7. B区 30号住 カマド



8. B区 30号住 カマド掘り方





1. B区 31号住 全景



2. B区 31号住 カマド



3. B区 31号住 カマド掘り方



4. B区 32号住 全景



5. B区 32号住 掘り方全景



6. B区 32号住 カマド



7. B区 32号住 カマド掘り方



8. B区 33号住 全景

第23図版



1. B区 33号住 掘り方全景



2. B区 33号住 カマド



3. B区 34号住 全景



4. B区 34号住 掘り方全景



5. B区 34号住 カマド



6. B区 34号住 カマド掘り方



7. B区 36号住 全景



8. B区 36号住 掘り方全景



1. B区 36号住 カマド



2. B区 38号住 全景



3. B区 38号住 掘り方全景



4. B区 38号住 カマド



5. B区 38号住 カマド掘り方



6. B区 39号住 全景



7. B区 39号住 掘り方全景



8. B区 40号住・42号住 全景

第25図版



1. B区 40号住 掘り方全景



2. B区 40号住 カマド



3. B区 40号住 カマド掘り方



4. B区 42号住 掘り方全景



5. B区 41号住 全景



6. B区 41号住 掘り方全景



7. B区 41号住 カマド



8. B区 41号住 カマド掘り方



1. B区 43号住・44号住 全景



2. B区 43号住・44号住 掘り方全景



3. B区 45号住・56号住・57号住 全景



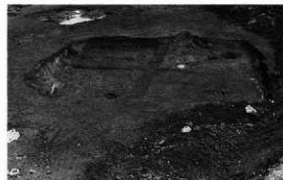
4. B区 45号住 全景



5. B区 45号住 掘り方全景



6. B区 46号住 全景



7. B区 46号住 掘り方全景



8. B区 46号住 カマド

第27図版



1. B区 46号住 カマド



2. B区 47号住 全景



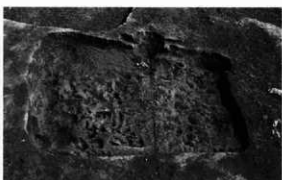
3. B区 47号住 カマド



4. B区 47号住 カマド掘り方



5. B区 48号住 全景



6. B区 48号住 掘り方全景



7. B区 48号住 カマド



8. B区 48号住 カマド掘り方



1. B区 48号住 遺物出土状態



2. B区 48号住 貯蔵穴



3. B区 49号住 全景



4. B区 49号住 カマド



5. B区 50号住 全景



6. B区 51号住 全景



7. B区 51号住 カマド



8. B区 51号住 カマド振り方

第29図版



1. B区 52号住 全景



2. B区 52号住 カマド



3. B区 52号住 遺物出土状態



4. B区 53号住 全景



5. B区 53号住 掘り方全景



6. B区 53号住 カマド



7. B区 53号住 カマド掘り方



8. B区 53号住 遺物出土状態

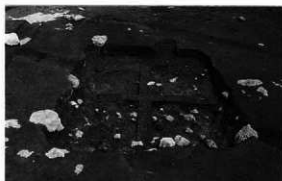




1. B区 53号住 遺物出土状態



2. B区 54号住 全景



3. B区 54号住 掘り方全景



4. B区 54号住 カマド



5. B区 54号住 遺物出土状態



6. B区 55号住 全景



7. B区 55号住 カマド



8. B区 55号住 遺物出土状態

第31図版



1. B区 55号住 遺物出土状態



2. B区 45号住・56号住・57号住 全景



3. B区 56号住 全景



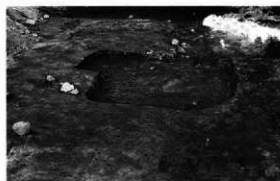
4. B区 56号住 カマド



5. B区 57号住 全景



6. B区 58号住 全景



7. B区 58号住 掘り方全景



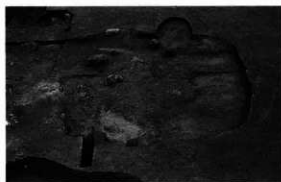
8. B区 58号住 カマド



1. B区 58号住 カマド掘り方



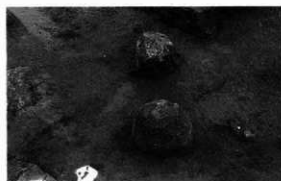
2. B区 58号住 掘り方張り出し部



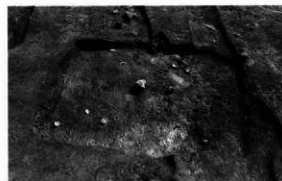
3. B区 59号住 全景



4. B区 59号住 カマド



5. B区 59号住 カマド



6. B区 60号住 全景



7. B区 60号住 全景



8. B区 60号住 カマド

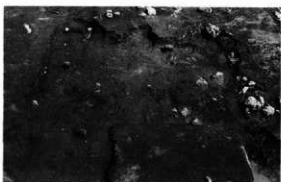
第33図版



1. B区 60号住 遺物出土状態



2. B区 60号住 遺物出土状態



3. B区 61号住 全景



4. B区 61号住 掘り方全景



5. B区 61号住 カマド



6. B区 61号住 カマド掘り方



7. B区 61号住 遺物出土状態



8. B区 61号住 遺物出土状態



1. B区 62号住 全景



2. B区 62号住 掘り方全景



3. B区 62号住 カマド



4. B区 62号住 カマド掘り方



5. B区 64号住 全景



6. B区 64号住 カマド



7. B区 66号住 全景



8. B区 67号住 全景

第35図版



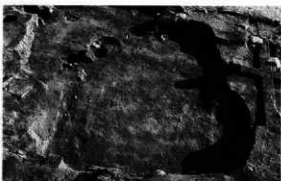
1. B区 67号住 カマド



2. B区 68号住 全景



3. B区 68号住 遺物出土状態



4. B区 69号住 全景



5. B区 69号住 カマド



6. B区 71号住 全景



7. B区 72号住 全景



8. B区 73号住 全景



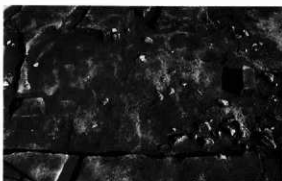
1. B区 75号住 全景



2. B区 75号住 カマド



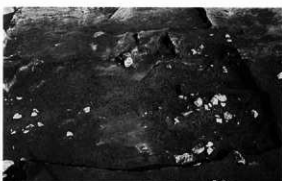
3. B区 75号住 遺物出土状態



4. B区 76号住 全景



5. B区 77号住 全景



6. B区 78号住 全景

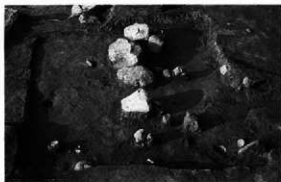


7. B区 80号住 全景



8. B区 81号住 全景

第37図版



1. B区 81号住 カマダ掘り方



2. B区 81号住 遺物出土状態



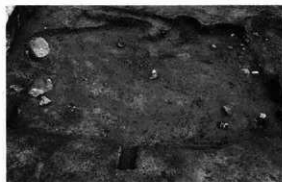
3. B区 81号住 遺物出土状態



4. B区 81号住 遺物出土状態



5. B区 82号住 全景



6. B区 83号住 全景



7. B区 84号住 全景



8. B区 84号住 掘り方全景





1. B区 84号住 カマド



2. B区 84号住 遺物出土状態



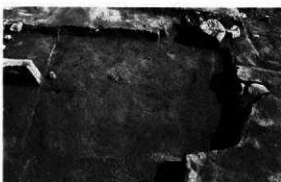
3. B区 84号住 遺物出土状態



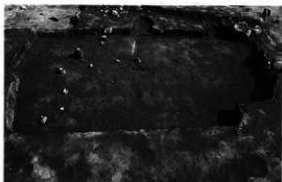
4. B区 84号住 遺物出土状態



5. B区 85号住 全景



6. B区 86号住 全景



7. B区 87号住 全景



8. B区 88号住 全景

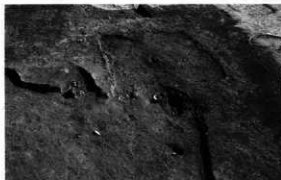
第39図版



1. B区 89号住 全景



2. B区 90号住 全景



3. B区 91号住 全景



4. B区 92号住 全景



5. B区 92号住 カマド



6. B区 92号住 遺物出土状態



7. B区 93号住 全景



8. B区 93号住 遺物出土状態



1. B区 1号溝



2. B区 3号溝



3. B区 6号溝



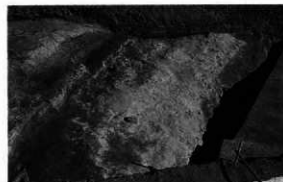
4. B区 7号溝



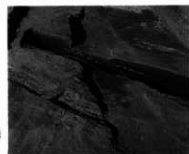
5. B区 9号溝



6. B区 9号溝



7. B区 9号溝



8. B区 9号溝

第41図版



1. B区 9号溝 セクション



2. B区 9号溝 セクション



3. B区 10号溝・11号溝・12号溝



4. B区 11号溝 遺物出土状態



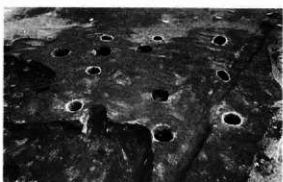
5. B区 13号溝



6. B区 地下式土坑 全景



7. B区 地下式土坑 掘り方全景



8. B区 2号掘立 全景



1. B区 1号井戸 全景



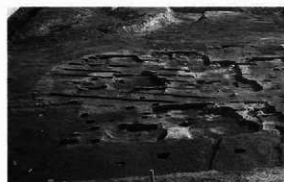
2. B区 ピット群



3. B区 中世竈



4. B区 中世竈



5. B区 中世竈

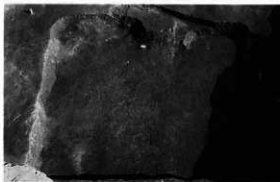


6. B区 中世竈



7. B区 1号獨立柱建物跡

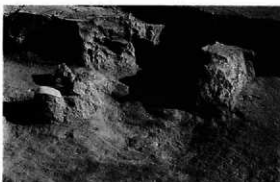
第43図版



1. C区 1号住 全景



2. C区 1号住 掘り方全景



3. C区 1号住 カマド



4. C区 1号住 カマド掘り方



5. C区 2号住 全景



6. C区 2号住・3号住 掘り方



7. C区 2号住 カマド



8. C区 2号住 カマド掘り方



1. C区 3号住 全景



2. C区 3号住 掘り方全景



3. C区 3号住 カマド



4. C区 3号住 カマド掘り方



5. C区 6号住 全景



6. C区 7号住 全景



7. C区 7号住 掘り方全景



8. C区 7号住 カマド

第45図版



1. C区 7号住 カマド掘り方



2. C区 9号住 全景



3. C区 9号住・11号住 掘り方全景



4. C区 10号住 全景



5. C区 10号住 掘り方全景



6. C区 11号住 全景



7. C区 11号住 カマド



8. C区 11号住 カマド掘り方





1. C区 11号住 遺物出土状態



2. C区 11号住 遺物出土状態



3. C区 12号住 全景



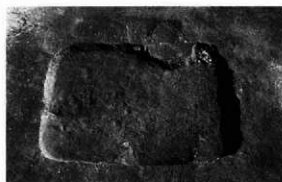
4. C区 12号住 掘り方全景



5. C区 12号住 カマド



6. C区 12号住 カマド掘り方



7. C区 13号住 全景



8. C区 13号住 掘り方全景

第47図版



1. C区 13号住 カマド



2. C区 13号住 カマド掘り方



3. C区 14号住 掘り方全景



4. C区 15号住 全景



5. C区 15号住 掘り方全景



6. C区 15号住 カマド



7. C区 15号住 カマド掘り方



8. C区 15号住 遺物出土状態



1. C区 16号住 全景



2. C区 16号住 掘り方全景



3. C区 16号住 カマド



4. C区 16号住 カマド掘り方



5. C区 17号住 全景



6. C区 17号住 掘り方全景

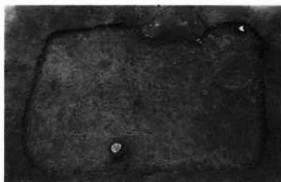


7. C区 17号住 カマド



8. C区 17号住 カマド掘り方

第49図版



1. C区 18号住 全景



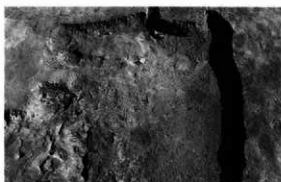
2. C区 18号住 掘り方全景



3. C区 18号住 カマド



4. C区 18号住 カマド掘り方



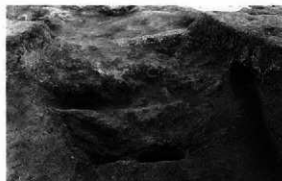
5. C区 19号住 全景



6. C区 19号住 掘り方全景



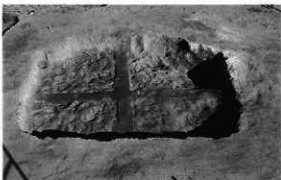
7. C区 19号住 カマド



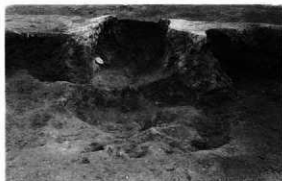
8. C区 19号住 カマド掘り方



1. C区 20号住 全景



2. C区 20号住 掘り方全景



3. C区 20号住 カマド



4. C区 20号住 カマド掘り方



5. C区 21号住 全景



6. C区 21号住 カマド

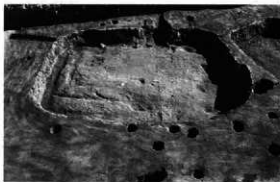


7. C区 21号住 カマド掘り方



8. C区 22号住 全景

第51図版



1. C区 22号住 掘り方全景



2. C区 22号住 第1カマド



3. C区 22号住 第1カマド掘り方



4. C区 22号住 第2カマド掘り方



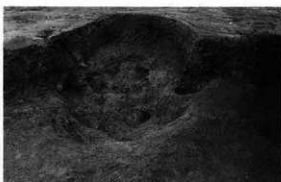
5. C区 23号住 全景



6. C区 23号住 掘り方全景



7. C区 23号住 カマド



8. C区 23号住 カマド掘り方



1. C区 24号住 全景



2. C区 24号住 掘り方全景



3. C区 24号住 カマド



4. C区 24号住 カマド掘り方



5. C区 25号住 全景



6. C区 25号住 カマド



7. C区 25号住 カマド掘り方



8. C区 25号住 遺物出土状況

第53図版



1. C区 26号住 全景



2. C区 26号住 小鍛冶跡



3. C区 26号住 小鍛冶跡



4. C区 27号住 全景



5. C区 27号住 カマド



6. C区 28号住 全景



7. C区 28号住 掘り方全景



8. C区 28号住 カマド





1. C区 29号住 全景



2. C区 29号住 掘り方全景



3. C区 30号住 全景



4. C区 31号住 全景



5. C区 32号住 全景



6. C区 32号住 掘り方全景



7. C区 32号住 カマド



8. C区 34号住 全景

第55図版



1. C区 34号住 掘り方全景



2. C区 34号住 カマド掘り方



3. C区 35号住 全景



4. C区 35号住 掘り方全景



5. C区 35号住 カマド



6. C区 35号住 カマド掘り方



7. C区 36号住 全景



8. C区 36号住 カマド



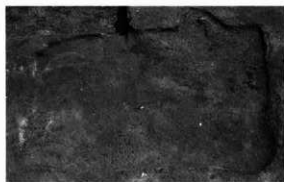
1. C区 36号住 カマド掘り方



2. C区 36号住 貯蔵穴



3. C区 37号住 全景



4. C区 38号住 全景



5. C区 39号住 全景



6. C区 40号住 全景



7. C区 40号住 遺物出土状態



8. C区 40号住 遺物出土状態

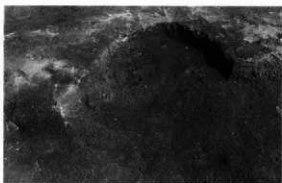
第57図版



1. C区 40号住 遺物出土状態



2. C区 41号住 全景



3. C区 41号住 カマド



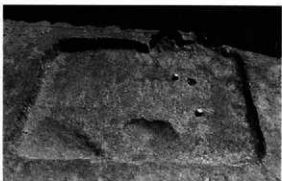
4. C区 42号住 全景



5. C区 42号住 掘り方全景



6. C区 42号住 カマド



7. C区 43号住 全景



8. C区 43号住 掘り方全景



1. C区 44号住 全景



2. C区 44号住 掘り方全景



3. C区 44号住 カマド



4. C区 44号住 カマド



5. C区 44号住 カマド掘り方



6. C区 46号住 掘り方全景



7. C区 46号住 カマド



8. C区 47号住 全景

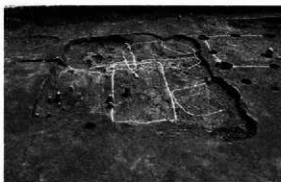
第59図版



1. C区 47号住 掘り方全景



2. C区 47号住 カマド



3. C区 49号住 全景



4. C区 50号住 全景



5. C区 50号住 掘り方全景



6. C区 51号住 全景



7. C区 51号住 掘り方全景



8. C区 51号住 カマド



1. C区 52号住 全景



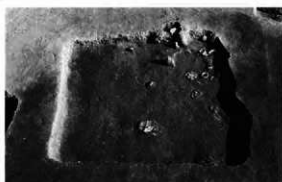
2. C区 53号住 全景



3. C区 54号住 全景



4. C区 54号住 カマド



5. C区 55号住 全景



6. C区 55号住 掘り方全景



7. C区 55号住 カマド



8. C区 55号住 カマド掘り方

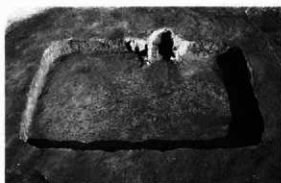
第61図版



1. C区 55号住 遺物出土状態



2. C区 55号住 遺物出土状態



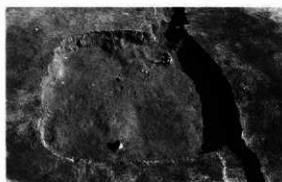
3. C区 56号住 全景



4. C区 56号住 カマド



5. C区 57号住 全景



6. C区 58号住 全景

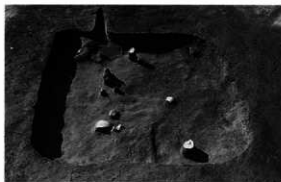


7. C区 59号住 全景



8. C区 59号住 カマド

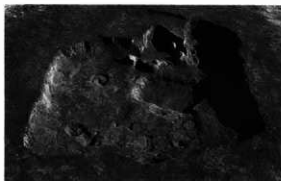




1. C区 60号住 全景



2. C区 60号住 カマド



3. C区 61号住 全景



4. C区 61号住 カマド



5. C区 62号住 全景



6. C区 63号住 全景



7. C区 63号住 カマド



8. C区 64号住 全景

第63図版



1. C区 64号住 カマド



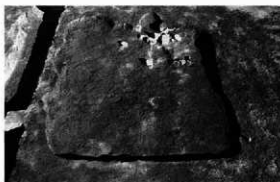
2. C区 64号住 遺物出土状態



3. C区 65号住 全景



4. C区 65号住 カマド



5. C区 66号住 全景



6. C区 66号住 カマド



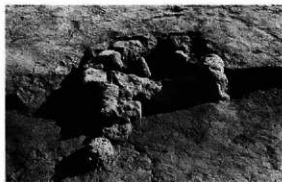
7. C区 68号住 全景



8. C区 69号住 全景



1. C区 69号住 カマド



2. C区 69号住 カマド



3. C区 69号住 遺物出土状態



4. C区 70号住 全景



5. C区 70号住 掘り方全景



6. C区 70号住 第1カマド



7. C区 70号住 第2カマド



8. C区 70号住 貯蔵穴

第65図版



1. C区 70号住 貯蔵穴



2. C区 71号住 全景



3. C区 72号住 全景



4. C区 72号住 掘り方全景



5. C区 72号住 カマド



6. C区 72号住 カマド掘り方



7. C区 73号住 全景



8. C区 73号住 カマド



1. C区 74号住 全景



2. C区 74号住 カマド



3. C区 74号住 カマド掘り方



4. C区 74号住 遺物出土状態



5. C区 75号住 遺物出土状態



6. C区 75号住 全景



7. C区 75号住 掘り方全景



8. C区 75号住 カマド

第67図版



1. C区 75号住 カマド



2. C区 76号住 全景



3. C区 77号住 カマド



4. C区 1号溝



5. C区 2号溝



6. C区 4号溝



7. C区 6号溝・7号溝



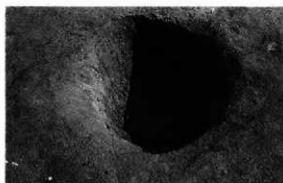
8. C区 1号土坑・2号土坑 全景



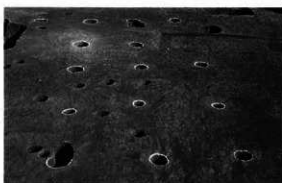
1. C区 3号土坑 遗物出土状态



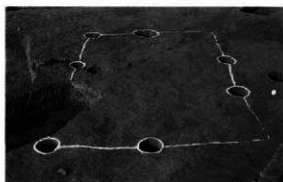
2. C区 4号土坑·5号土坑 全景



3. C区 14号土坑 全景



4. C区 1号掘立 全景



5. C区 2号掘立 全景



6. C区 1号井尸 全景



7. C区 1号井尸 遗物出土状态



8. C区 井尸遗物出土状态

第69图版



1. C区 1号井尸 遗物出土状态



2. C区 1号井尸 遗物出土状态



3. C区 1号井尸 遗物出土状态



4. C区 1号井尸 遗物出土状态



5. C区 1号井尸 遗物出土状态



6. C区 1号井尸 遗物出土状态



7. C区 1号井尸 遗物出土状态



8. C区 1号井尸 全景



## A区 旧河道



第71图版

A区 旧河道

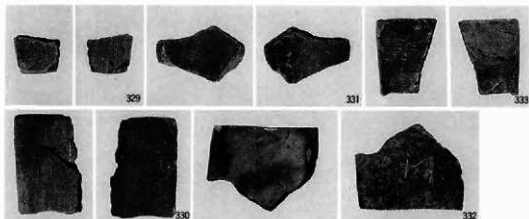


## A区 旧河道

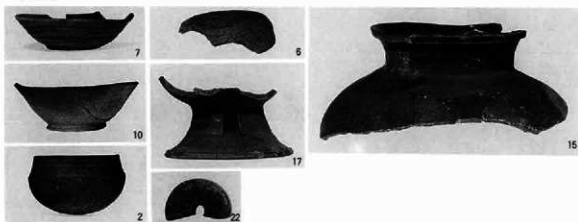


第73图版

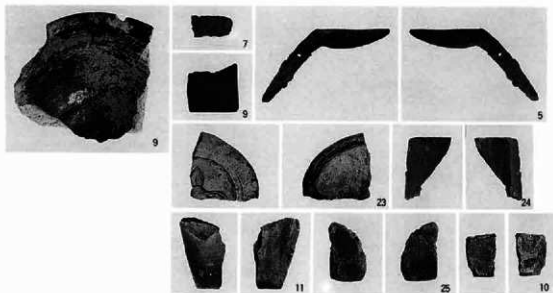
A区 旧河道



一括出土



表探



A区 1号住居跡



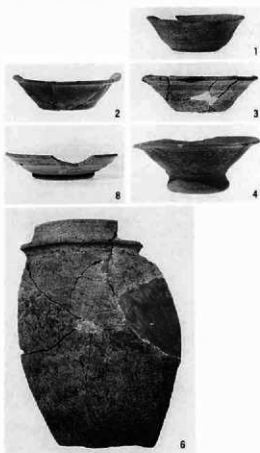
A区 2号住居跡



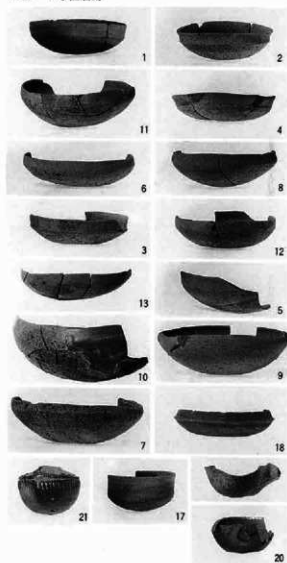
A区 3号住居跡



B区 6号住居跡

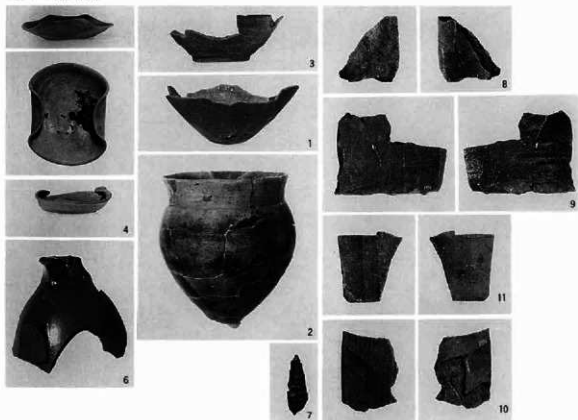


B区 5号住居跡

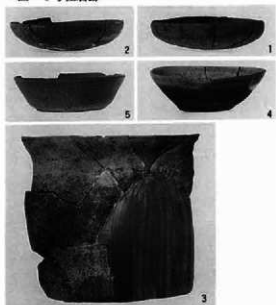


第75图版

B区 7号住居跡



B区 8号住居跡



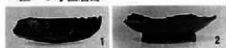
B区 10号住居跡



B区 11号住居跡



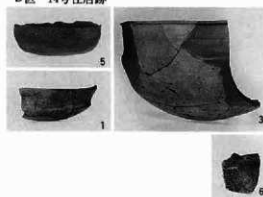
B区 9号住居跡



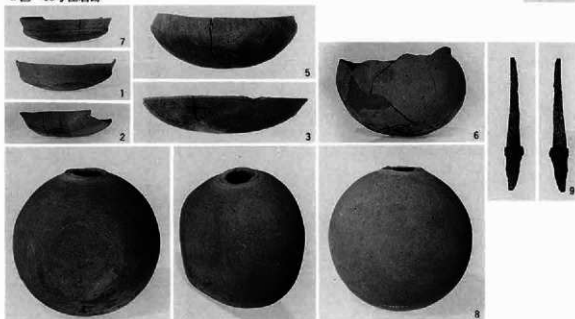
B区 12号住居跡



B区 14号住居跡



B区 15号住居跡



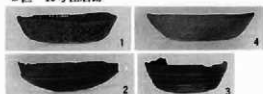
B区 16号住居跡



B区 18号住居跡



B区 19号住居跡

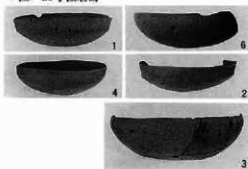


第77图版

B区 20号住居跡



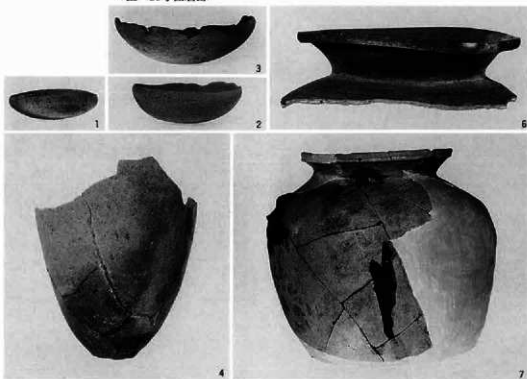
B区 21号住居跡



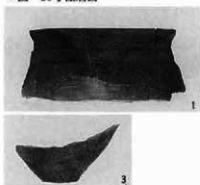
B区 22号住居跡



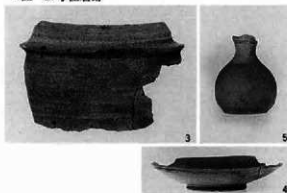
B区 23号住居跡



B区 25号住居跡



B区 27号住居跡





B区 31号住居跡



B区 32号住居跡



B区 34号住居跡



B区 36号住居跡

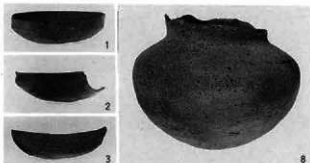


B区 38号住居跡



第79图版

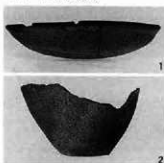
B区 39号住居跡



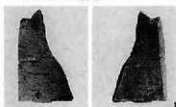
B区 40号住居跡



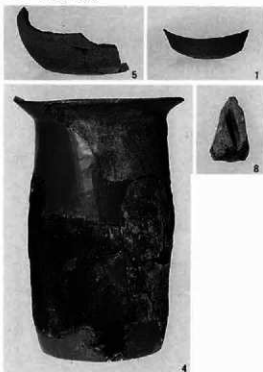
B区 41号住居跡



B区 42号住居跡



B区 43号住居跡



B区 44号住居跡



B区 45号住居跡



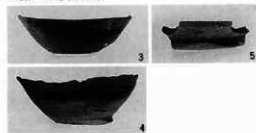
B区 45号住居跡



B区 47号住居跡



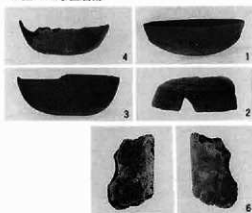
B区 48号住居跡



B区 51号住居跡



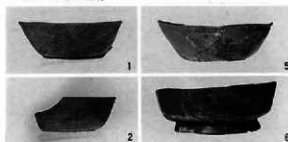
B区 46号住居跡



B区 52号住居跡

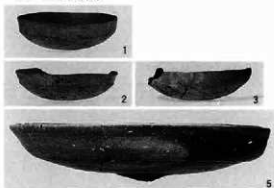


B区 53号住居跡



第81图版

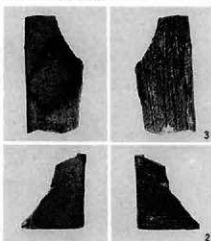
B区 54号住居跡



B区 55号住居跡



B区 56号住居跡



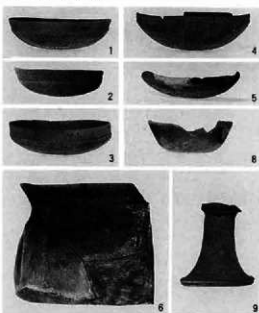
B区 58号住居跡



B区 59号住居跡



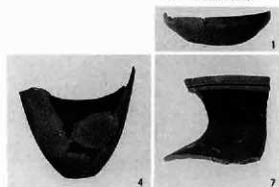
B区 60号住居跡



B区 61号住居跡



B区 62号住居跡



B区 62号住居跡



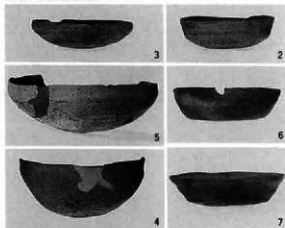
B区 64号住居跡



B区 66号住居跡



B区 65号住居跡



B区 67号住居跡

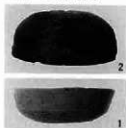


B区 68号住居跡

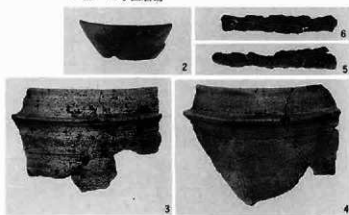


第83图版

B区 69号住居跡



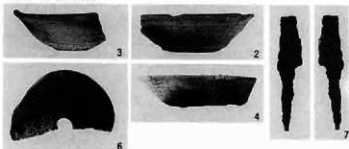
B区 71号住居跡



B区 70号住居跡



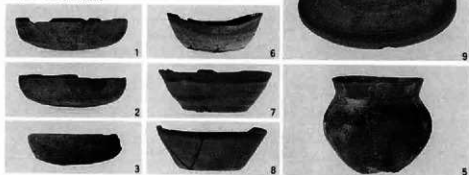
B区 72号住居跡



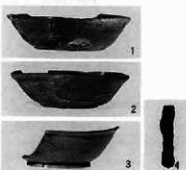
B区 73号住居跡



B区 75号住居跡



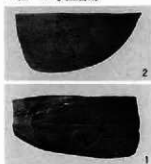
B区 76号住居跡



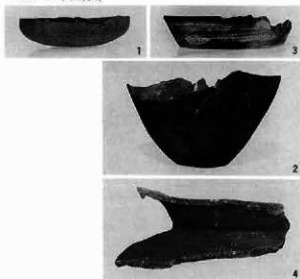
B区 77号住居跡



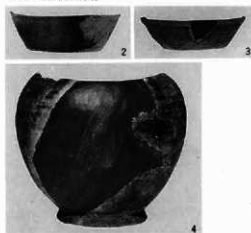
B区 78号住居跡



B区 81号住居跡



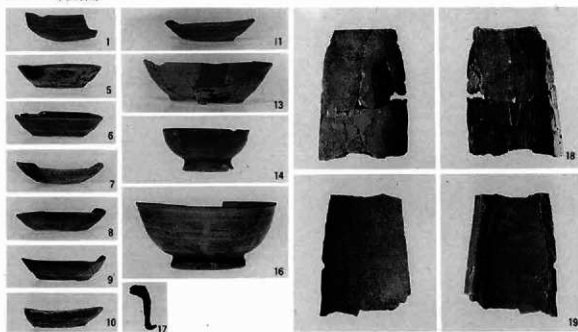
B区 82号住居跡



B区 83号住居跡

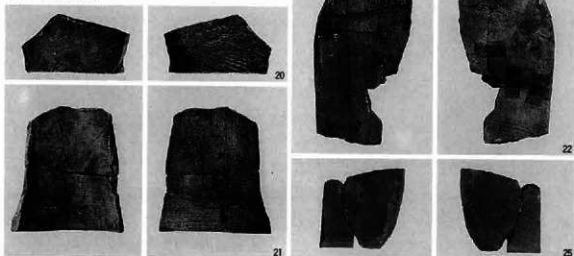


B区 84号住居跡

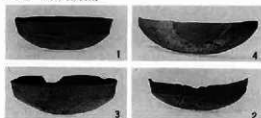


第85图版

B区 84号住居跡



B区 85号住居跡



B区 86号住居跡



B区 87号住居跡



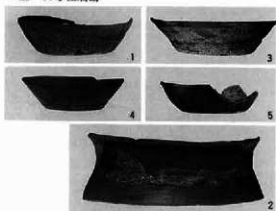
B区 88号住居跡



B区 89号住居跡

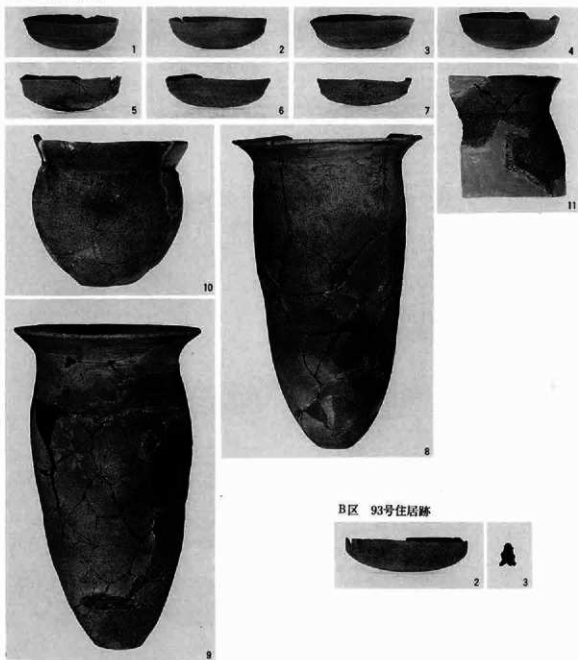


B区 90号住居跡





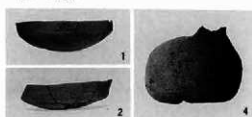
B区 92号住居跡



B区 93号住居跡



B区 1号溝

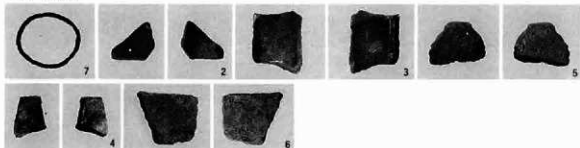


B区 6号溝



第87図版

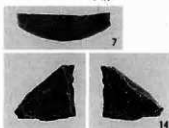
B区 9号溝



B区 11号溝



B区 11号・12号溝



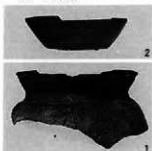
B区 地下式土坑



B区 2号土坑



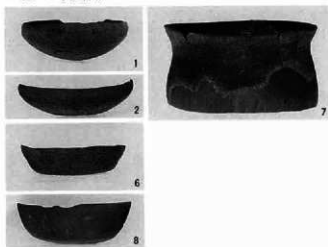
B区 1号井戸



B区 グリット



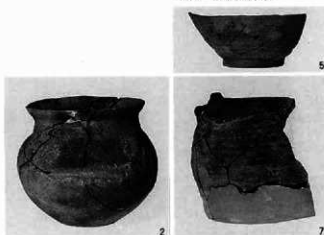
C区 1号住居跡



C区 2号住居跡



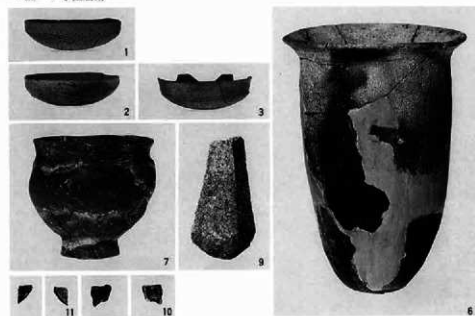
C区 3号住居跡



C区 6号住居跡

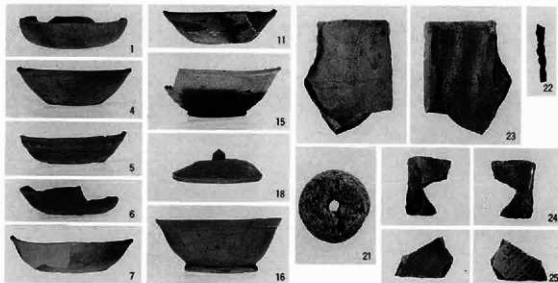


C区 7号住居跡

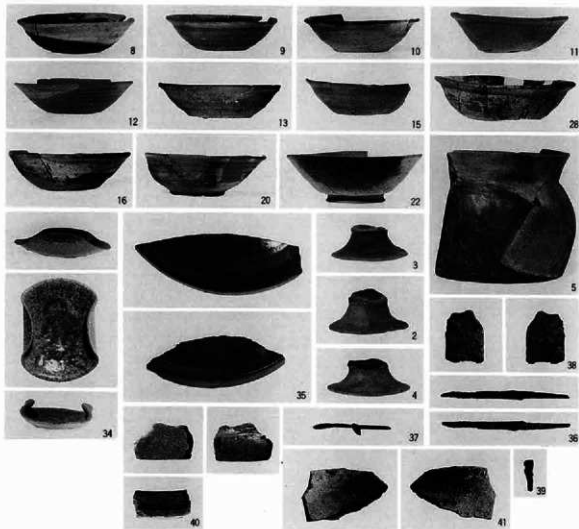


第89图版

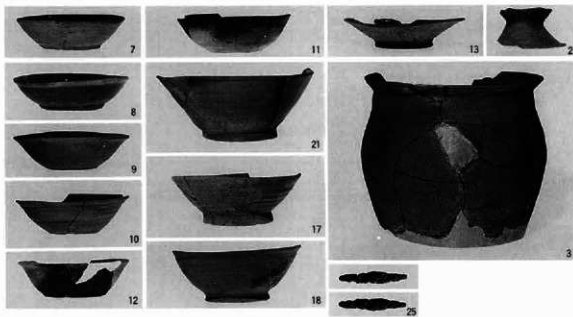
C区 10号住居跡



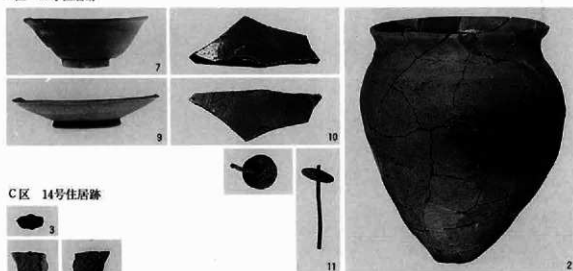
C区 11号住居跡



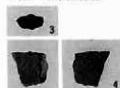
C区 12号住居跡



C区 13号住居跡



C区 14号住居跡

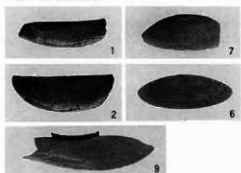


C区 15号住居跡



第91图版

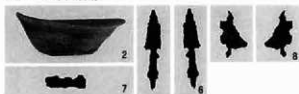
C区 16号住居跡



C区 17号住居跡



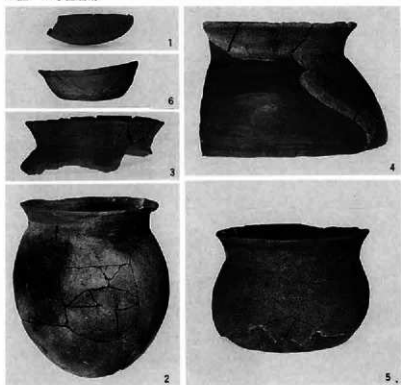
C区 18号住居跡



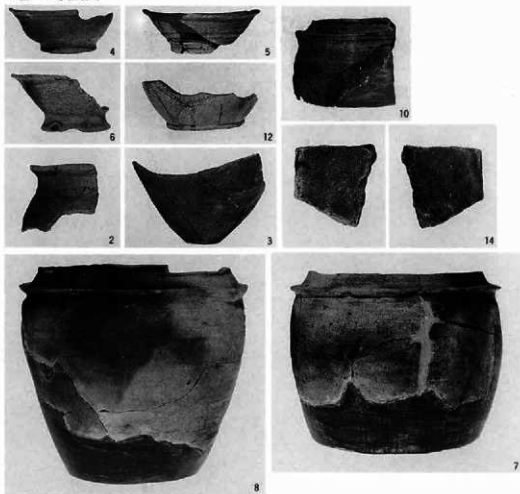
C区 20号住居跡



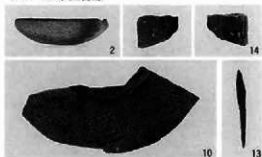
C区 19号住居跡



C区 21号住居跡



C区 22号住居跡



C区 23号住居跡

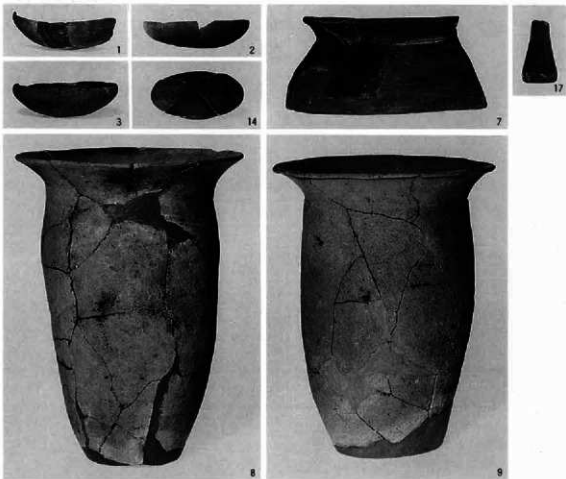


C区 24号住居跡

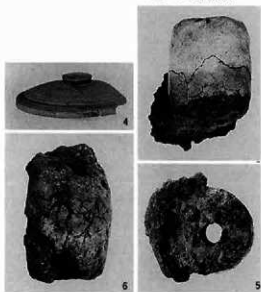


第93图版

C区 25号住居跡



C区 26号住居跡





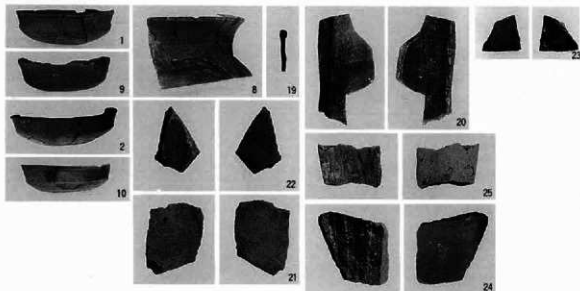
C区 27号住居跡



C区 28号住居跡



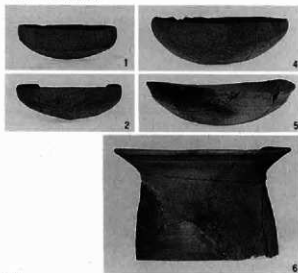
C区 29号住居跡



C区 32号住居跡



C区 35号住居跡



C区 34号住居跡



C区 36号B住居跡



C区 36号A住居跡



第95图版

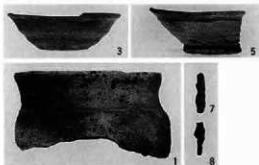
C区 37号住居跡



C区 38号住居跡



C区 39号住居跡



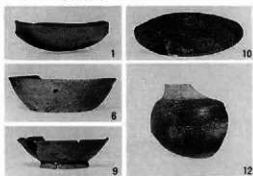
C区 40号住居跡



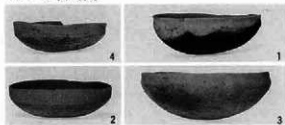
C区 41号住居跡



C区 43号住居跡



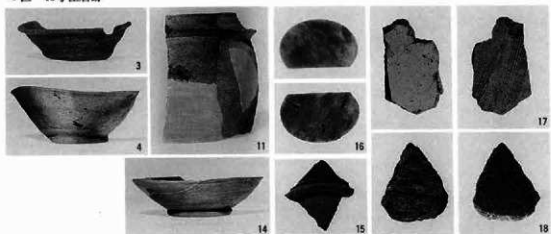
C区 44号住居跡



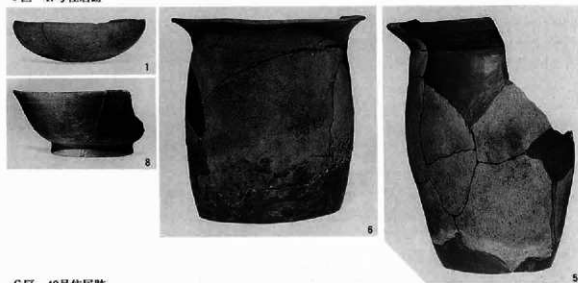
C区 46号住居跡



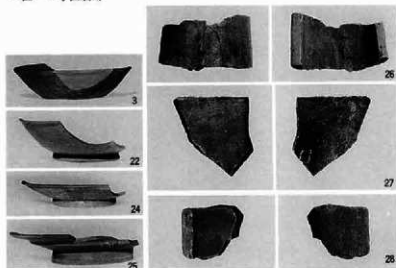
C区 46号住居跡



C区 47号住居跡



C区 49号住居跡



C区 50号住居跡

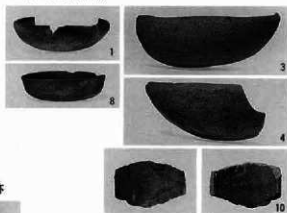


第97图版

C区 51号住居跡



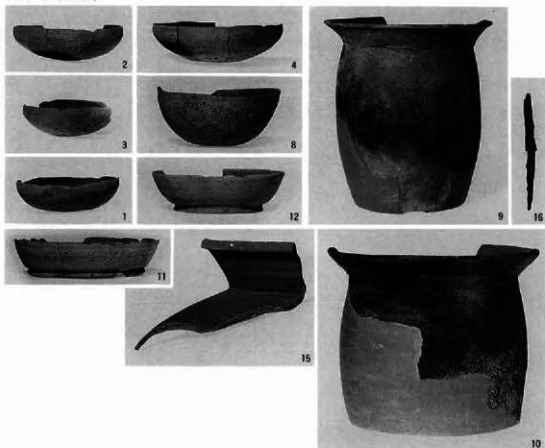
C区 54号住居跡



C区 52号住居跡



C区 55号住居跡



C区 56号住居跡



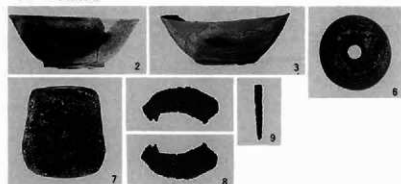
C区 58号住居跡



C区 60号住居跡



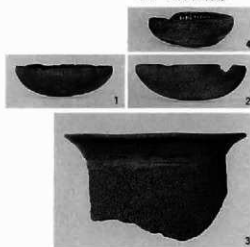
C区 61号住居跡



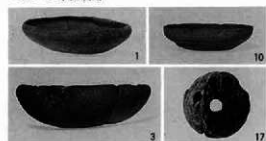
C区 62号住居跡



C区 63号住居跡

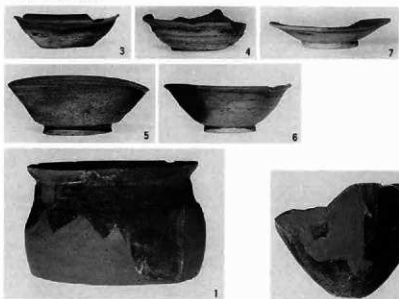


C区 64号住居跡



第99图版

C区 66号住居跡



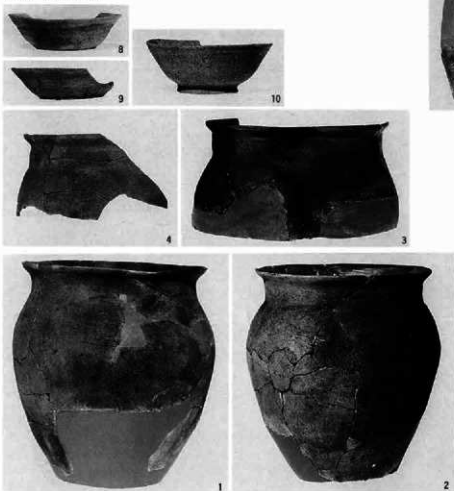
C区 68号住居跡



C区 69号住居跡



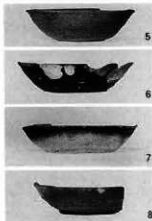
C区 70号住居跡



C区 71号住居跡



C区 72号住居跡



C区 73号住居跡



C区 74号住居跡

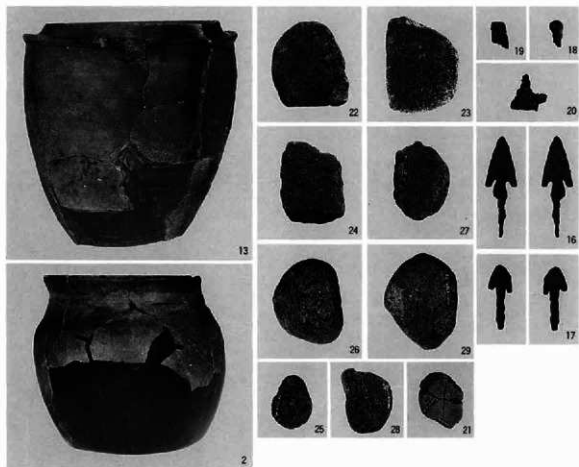


C区 75号住居跡

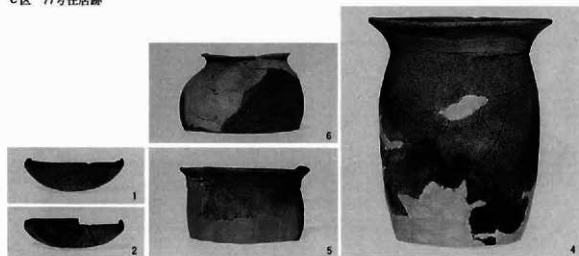


第101图版

C区 75号住居跡



C区 77号住居跡





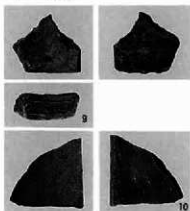
C区 3号溝



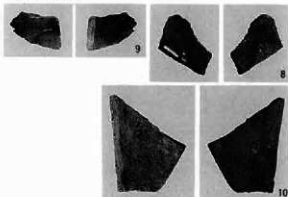
C区 4号溝



C区 6号溝



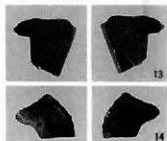
C区 7号溝



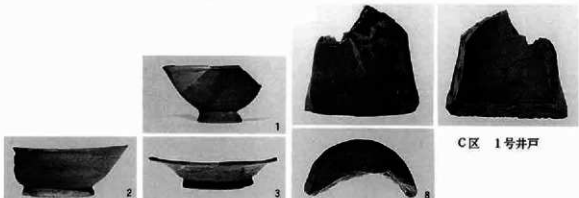
C区 11号溝



C区 14号溝



C区 1号土坑

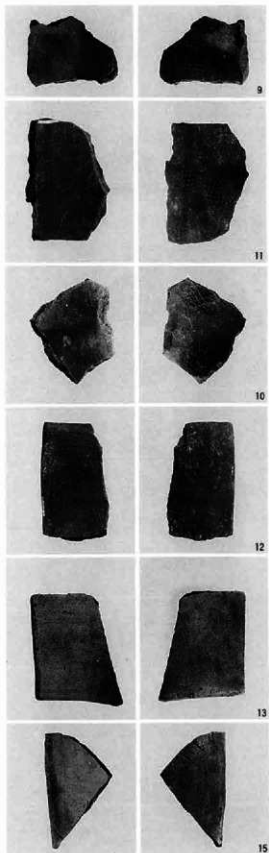
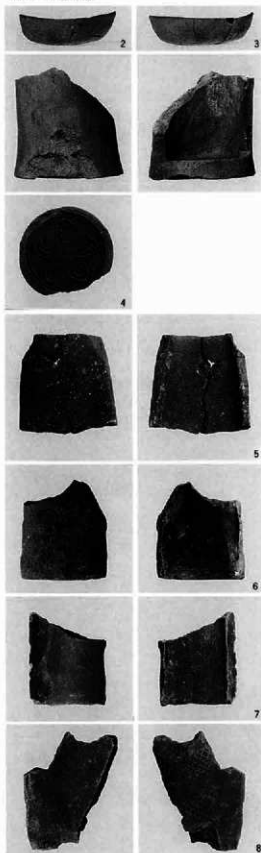


C区 1号井戸

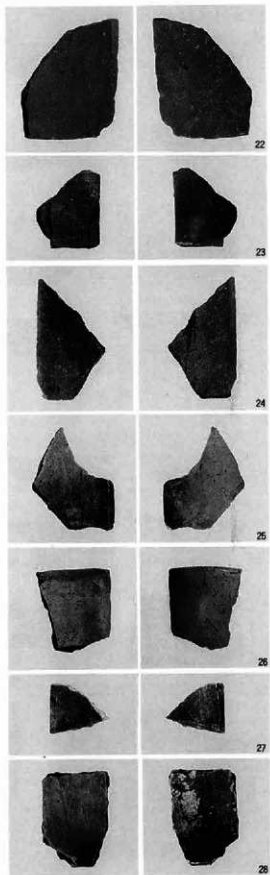
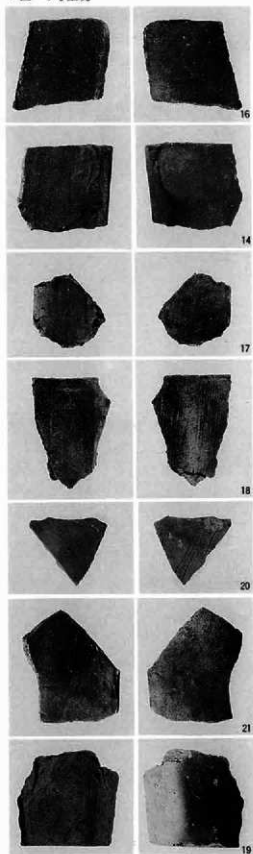


第103图版

C区 3号土坑

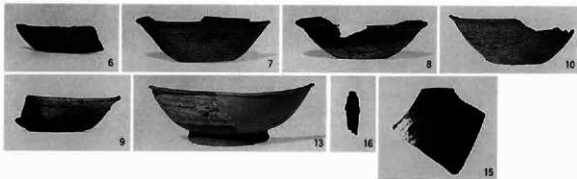


C区 3号土坑

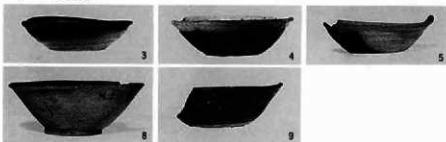


第105图版

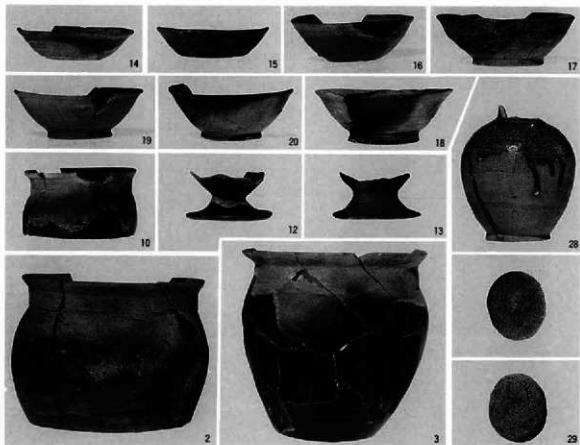
C区 12号土坑



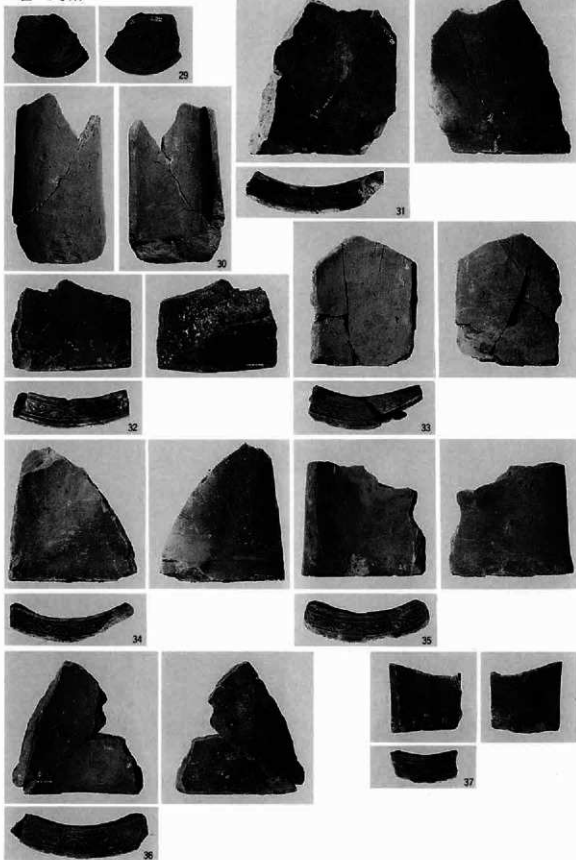
C区 13号土坑



C区 1号土坑



## C区 1号井戸



第107图版

C区 1号井戸



41



38



39



40

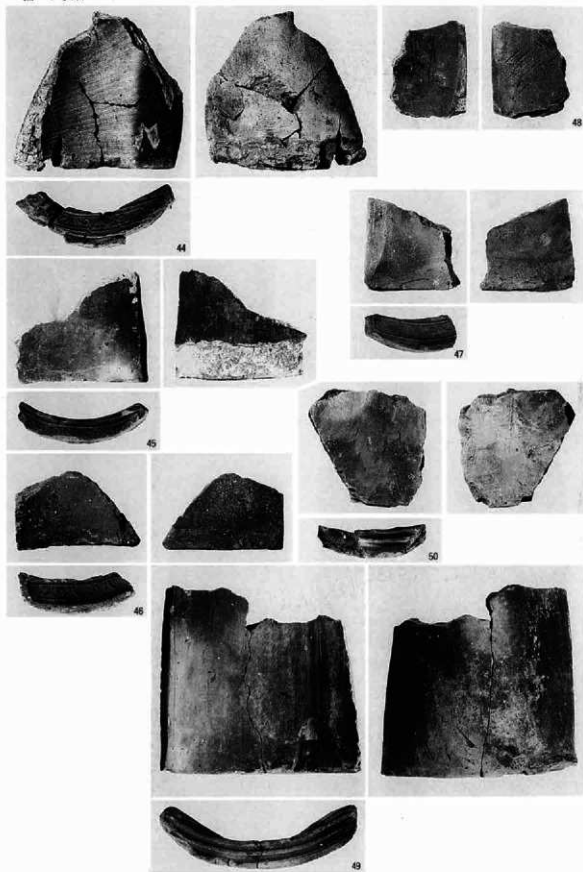


42



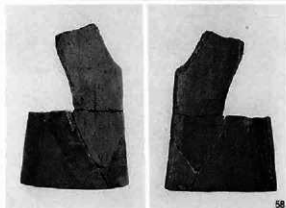
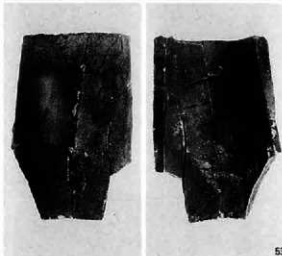
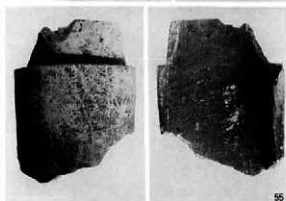
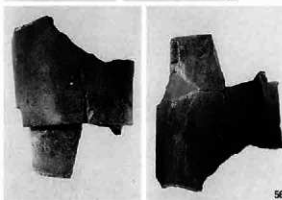
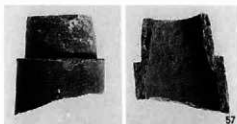
43

C区 1号井戸



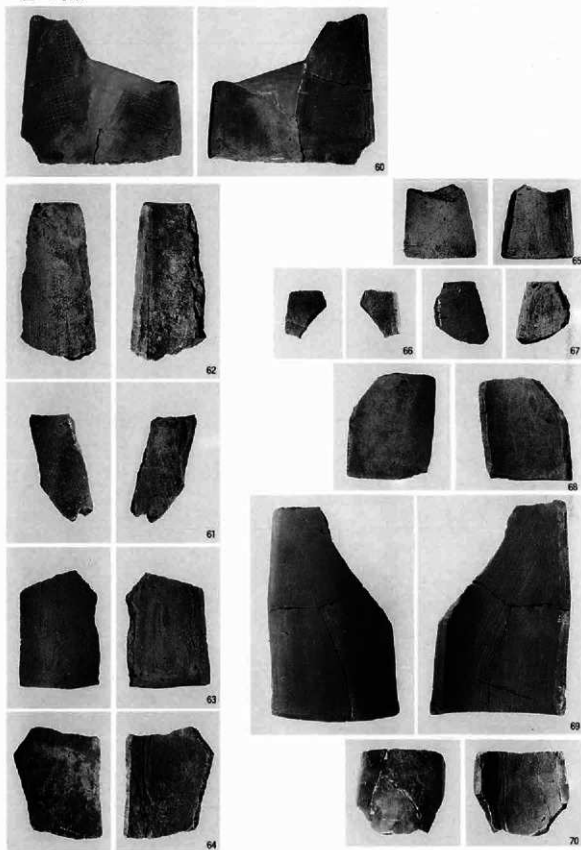
第109图版

C区 1号井戸



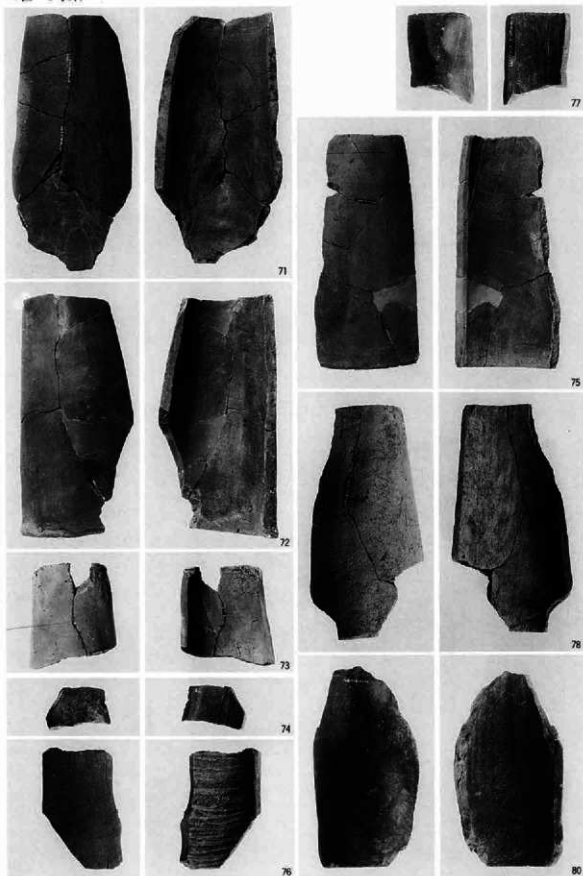


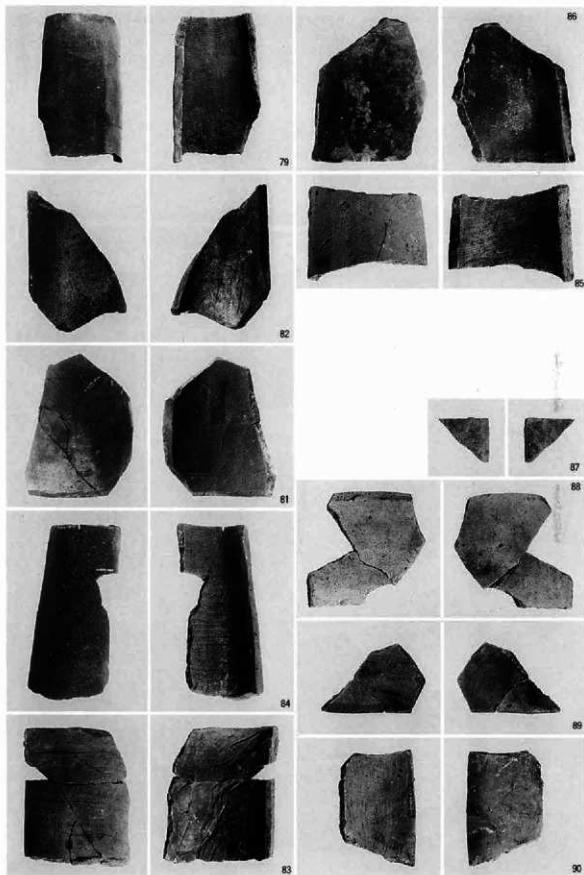
C区 1号井戸



第111图版

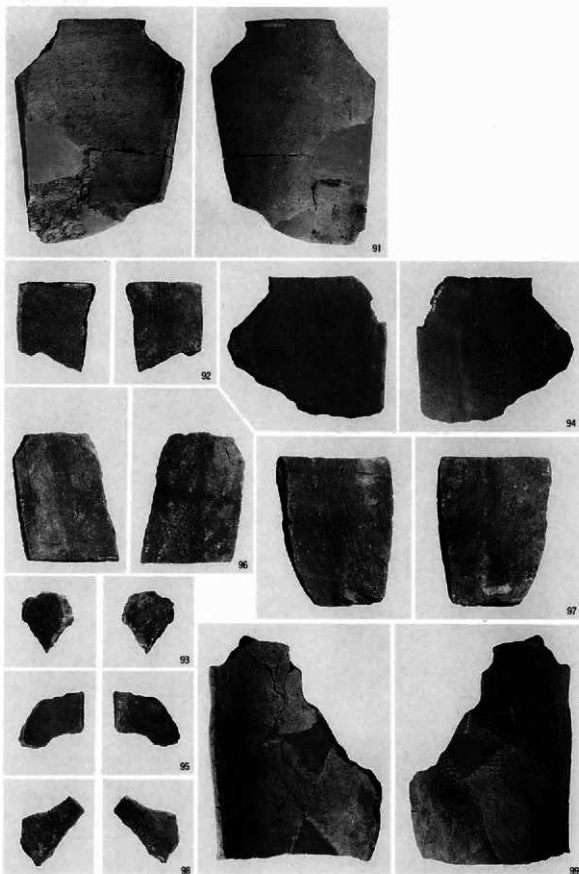
C区 1号井戸



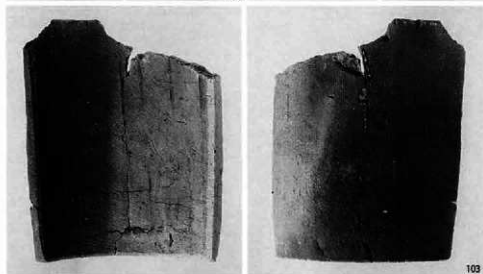
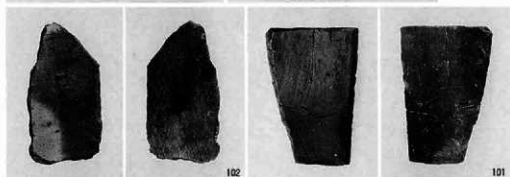
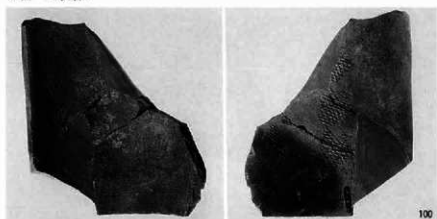


第113图版

C区 1号井戸



C区 1号井戸



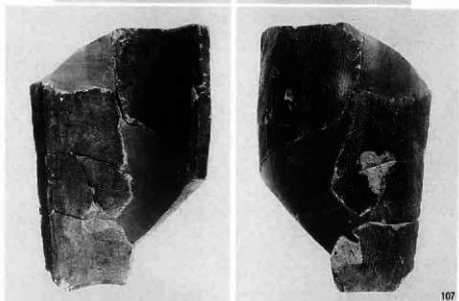
105

第115图版

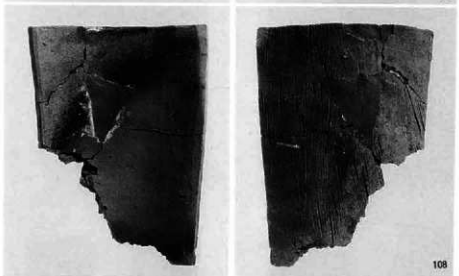
C区 1号井戸



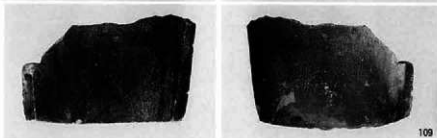
106



107

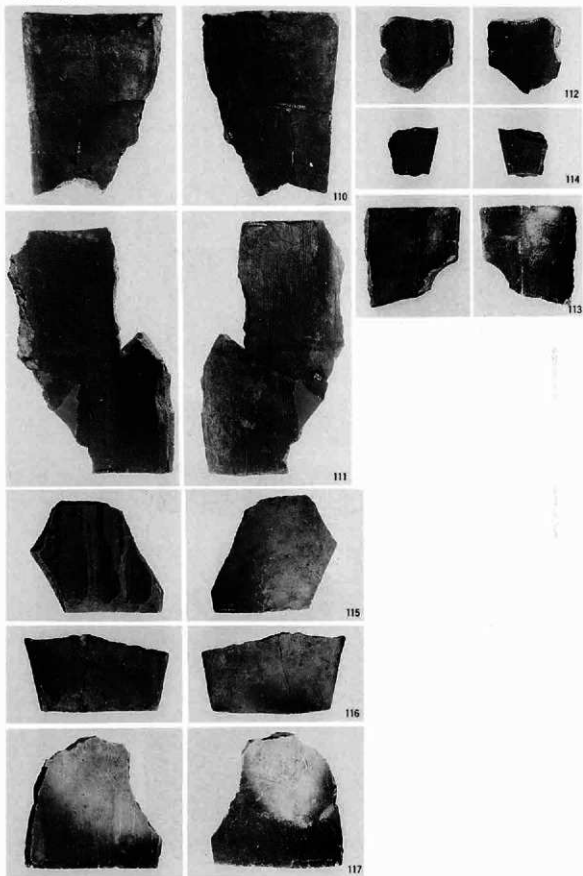


108



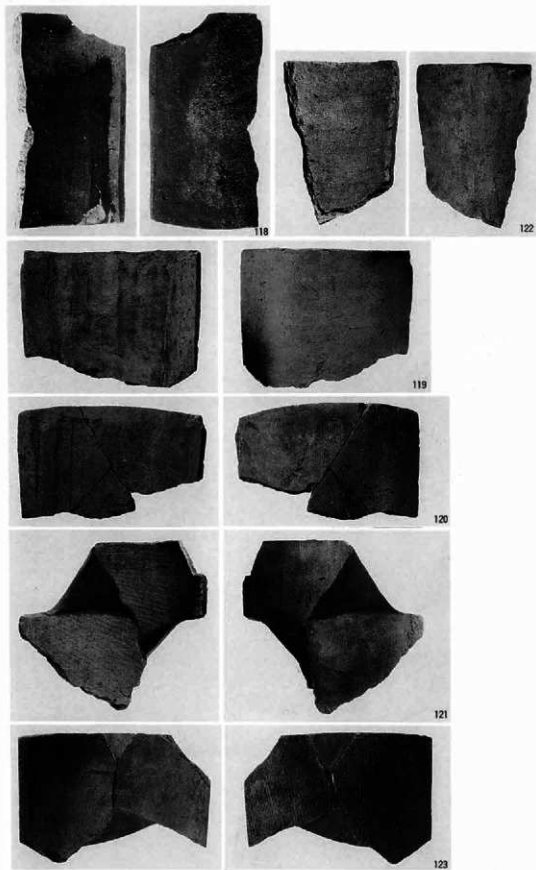
109

C区 1号井戸



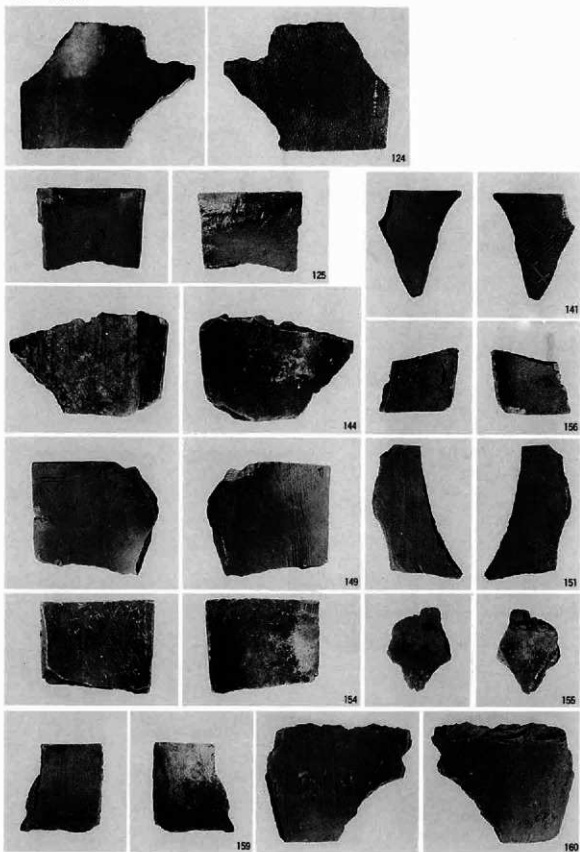
第117图版

C区 1号井戸



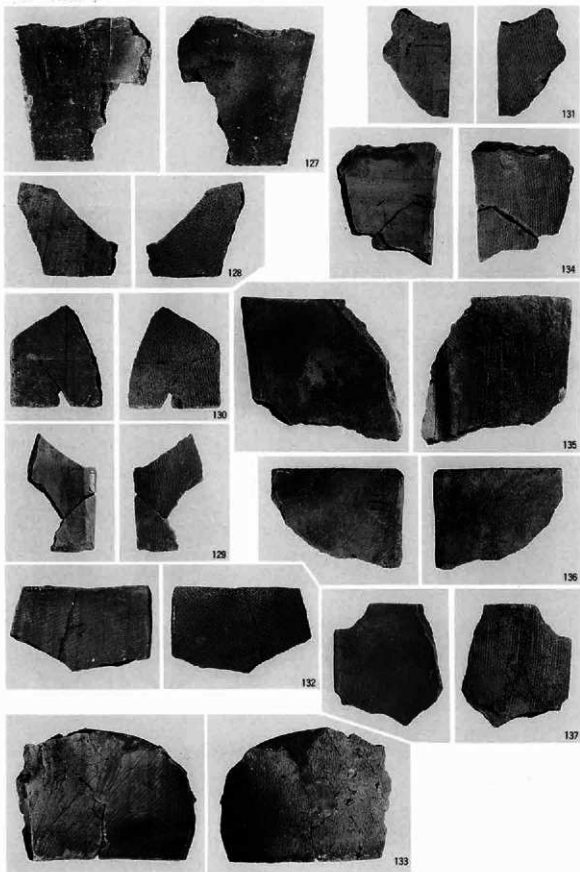


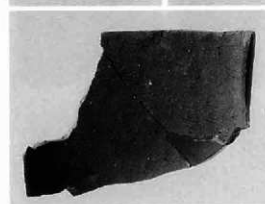
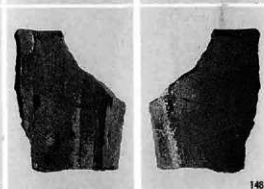
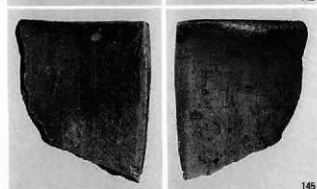
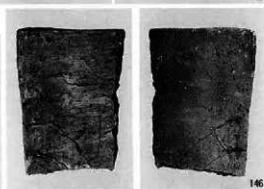
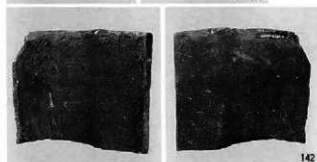
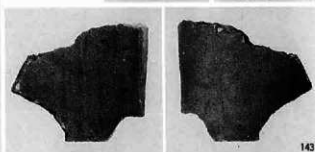
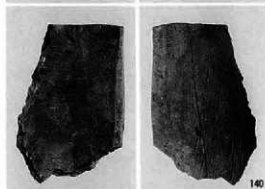
C区 1号井戸



第119图版

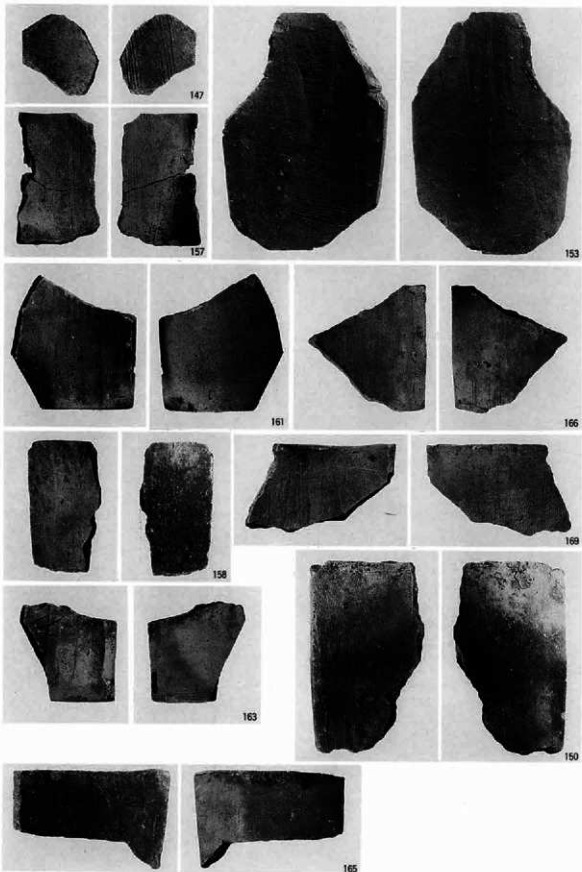
C区 1号井戸



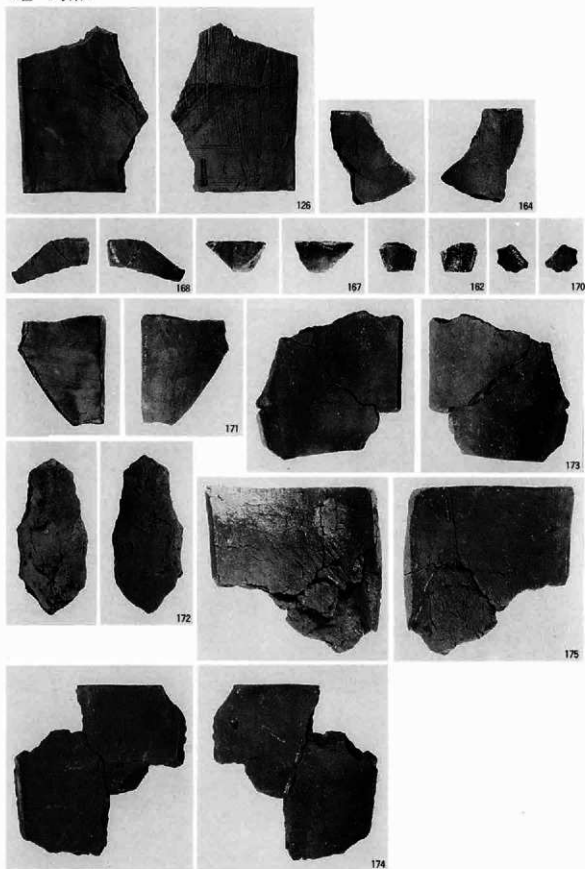


第121图版

C区 1号井戸

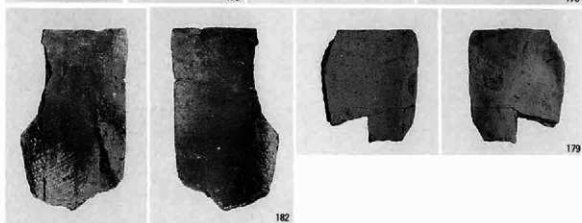
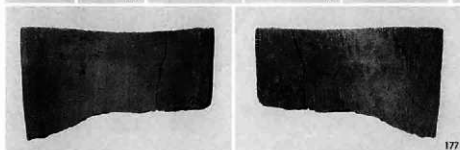
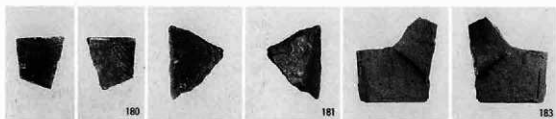


C区 1号井戸



第123图版

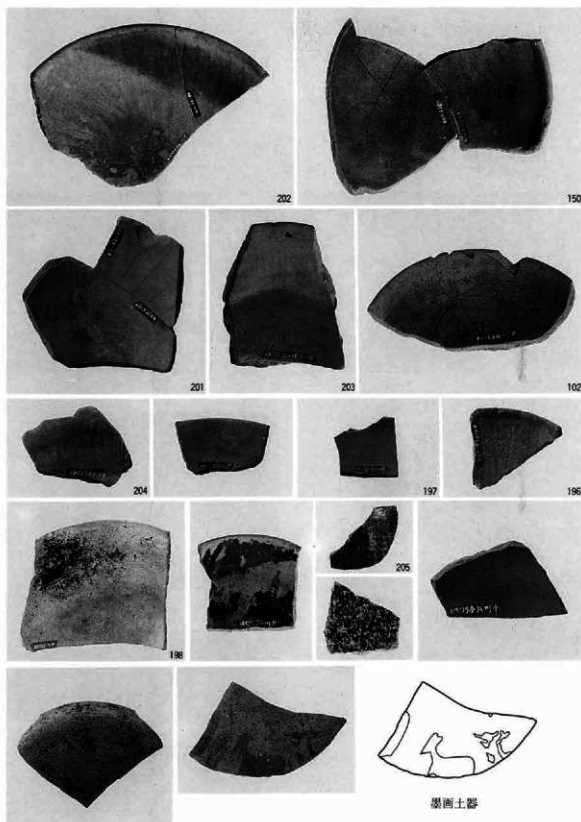
C区 1号井戸



C区 一括



暗文・窠書き・漆附着・墨画土器





籠書文字瓦 27



籠書文字瓦 29



籠書文字瓦「大」 216



籠書文字瓦「大」 739



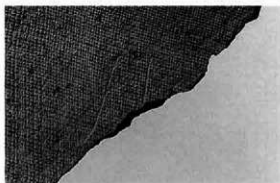
籠書瓦記号か 28



籠書瓦記号か 460



籠書瓦記号か 416



籠書瓦 610





兎書瓦 1274



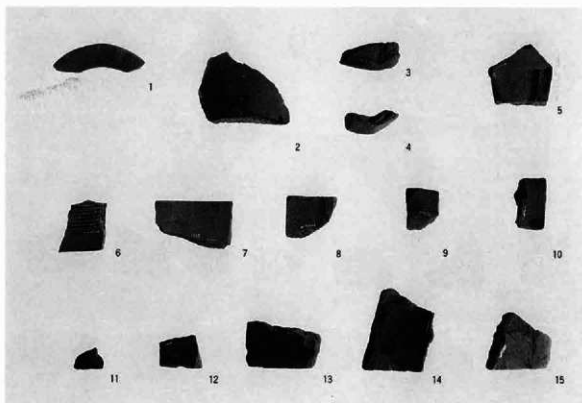
兎書瓦 1247



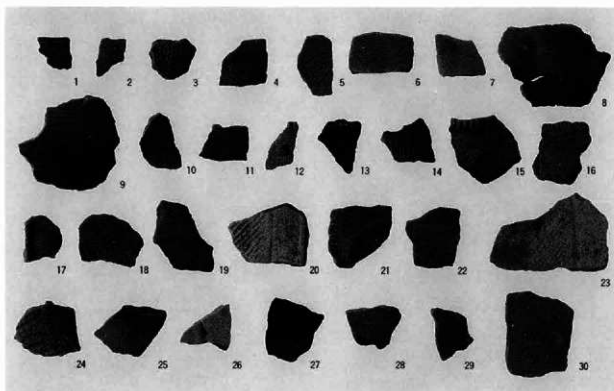
記号格子叩 444



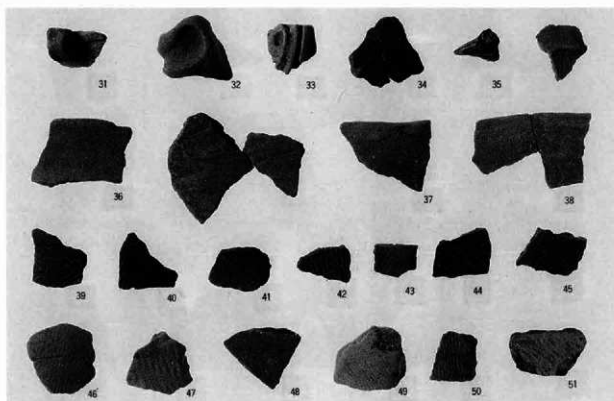
女瓦の粘土ブロック作痕 1143



近世棧瓦



縄文土器



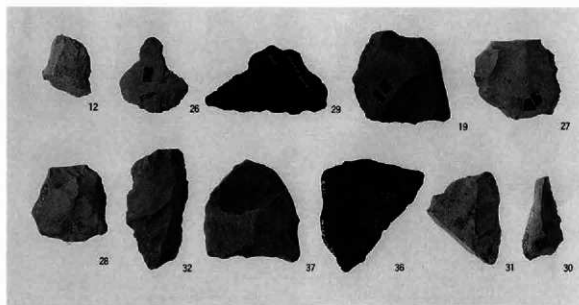
縄文土器



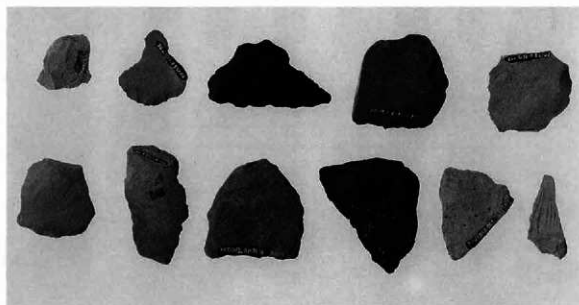
(表)

繩文石器

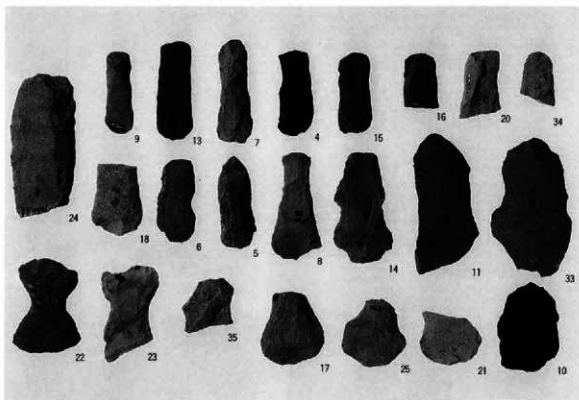
(裏)



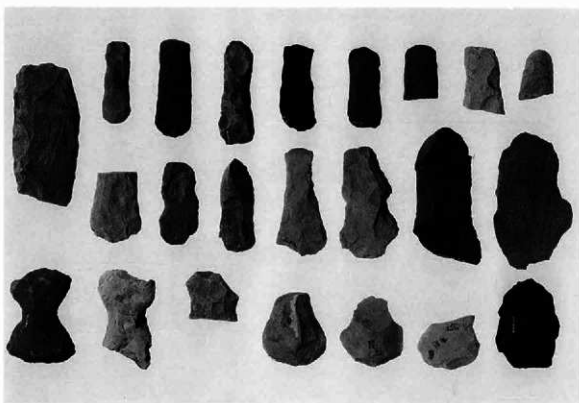
繩文石器(表)



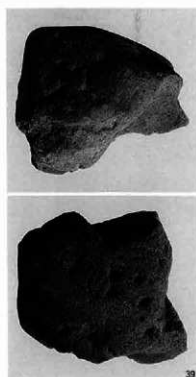
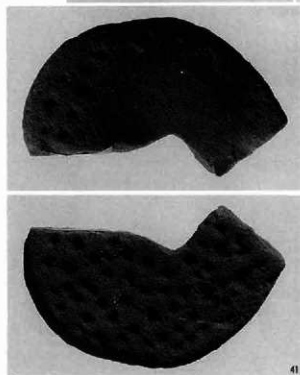
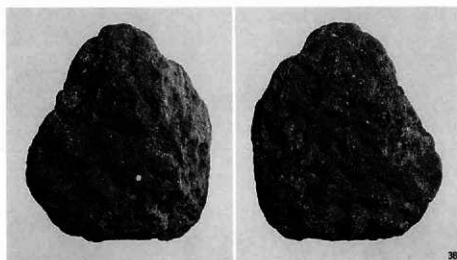
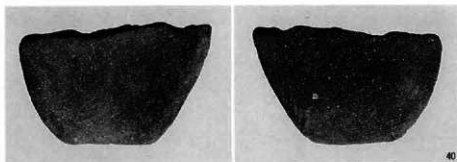
繩文石器(裏)



繩文石器(表)



繩文石器(裏)



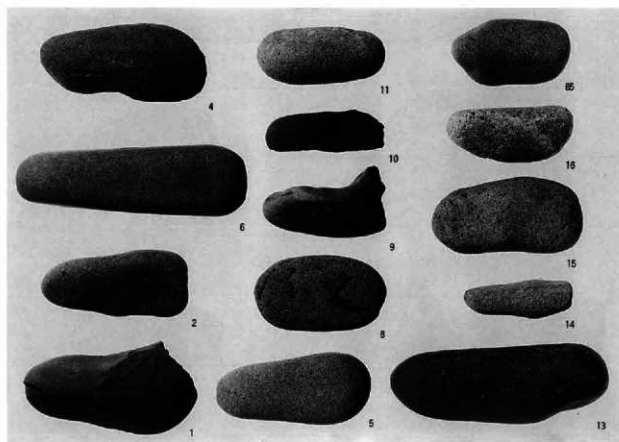
縄文石器



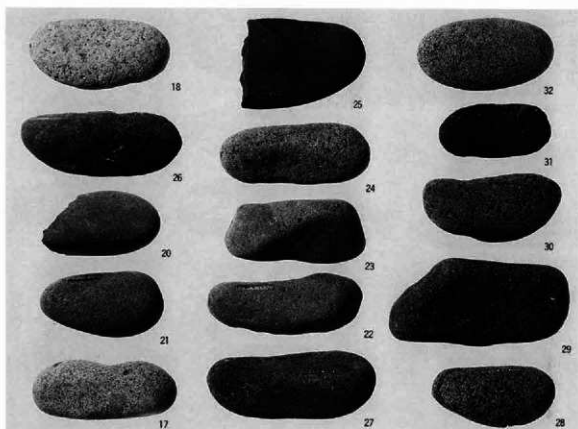
縄文石器



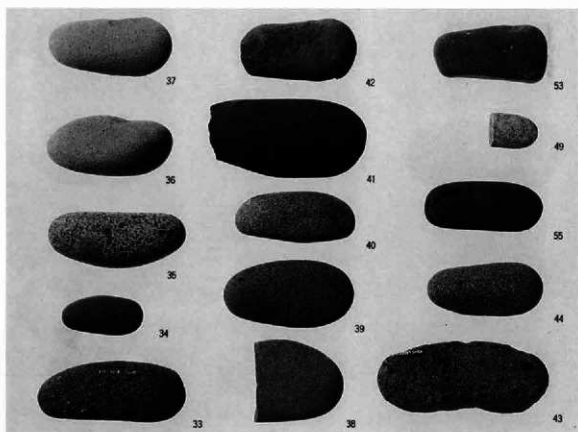
弥生土器



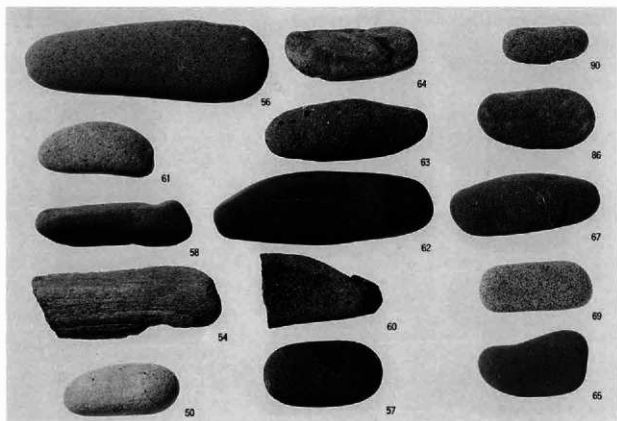
こも福み石



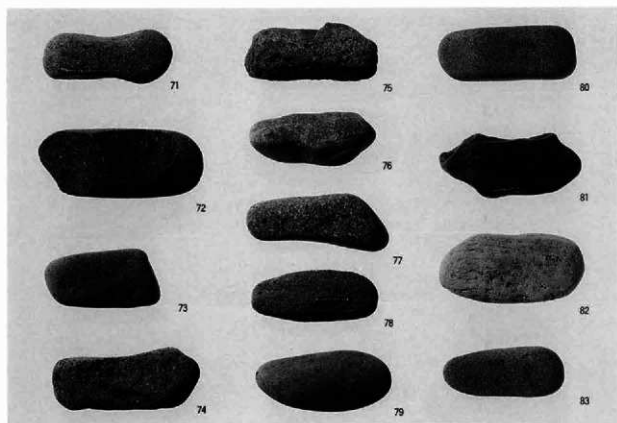
こも編み石



こも編み石

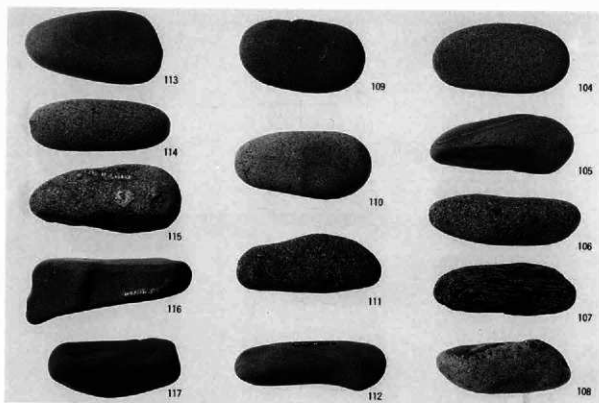


こも羅み石

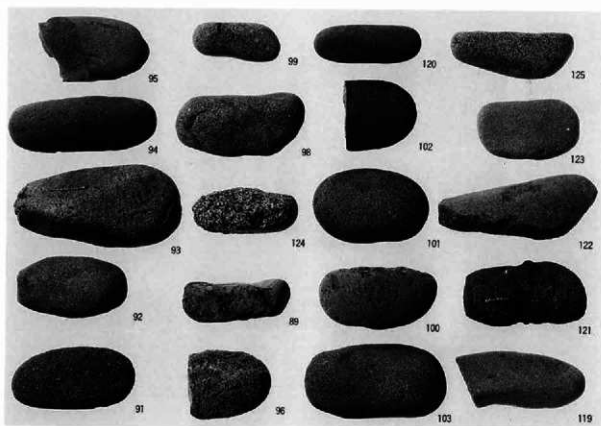


こも羅み石

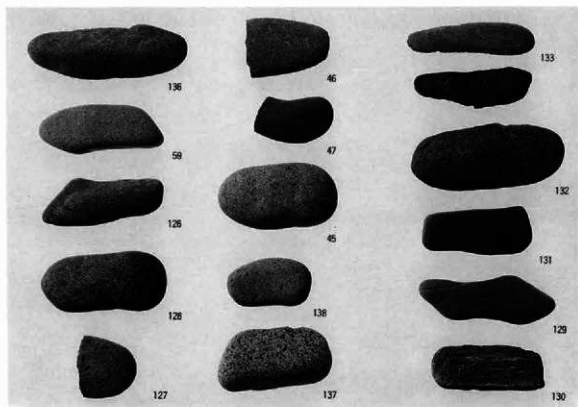




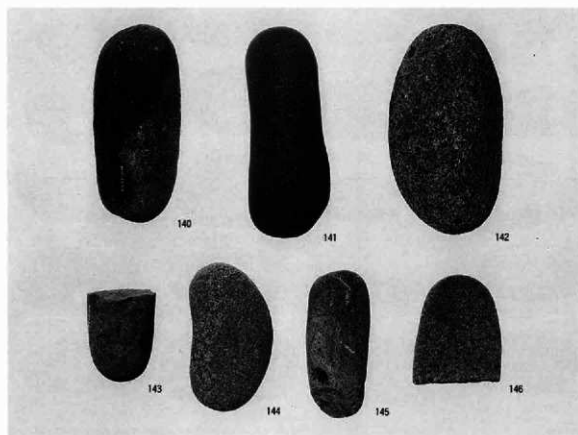
こも編み石



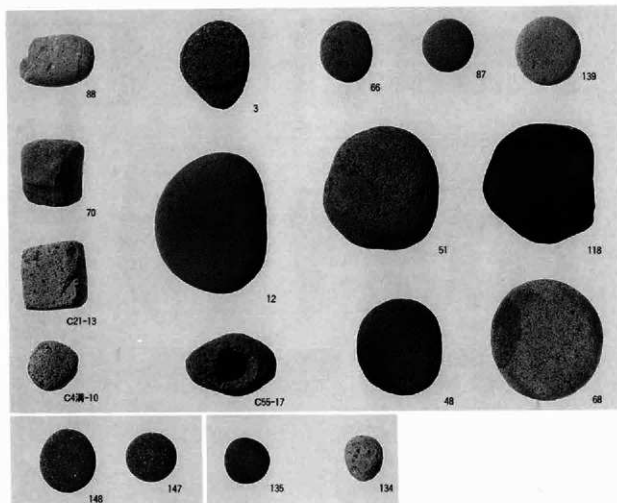
こも編み石



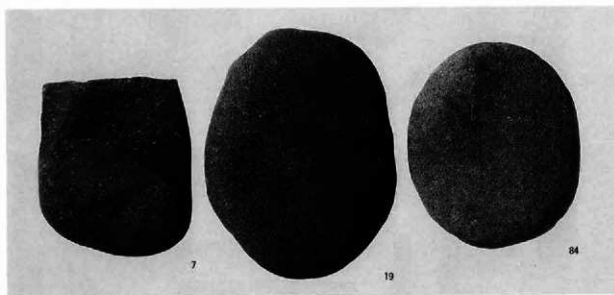
こも編み石



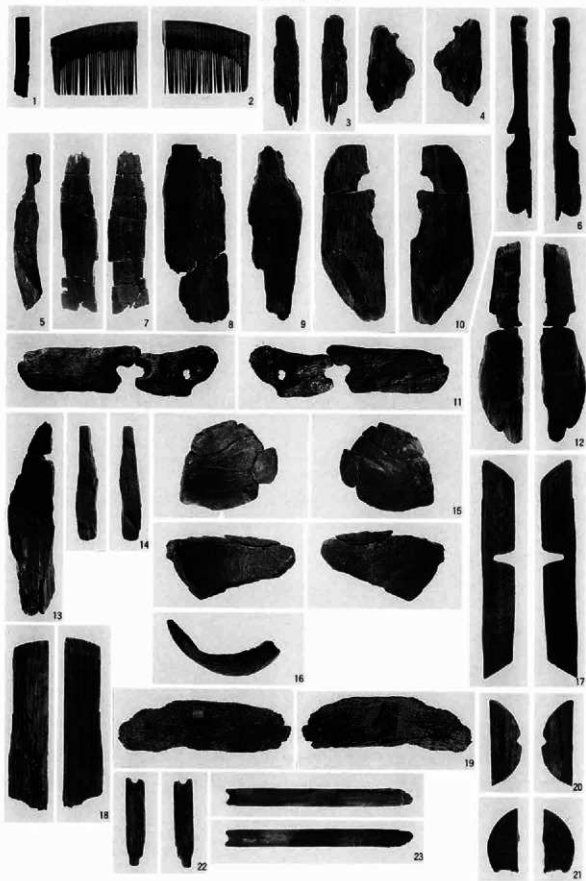
こも編み石



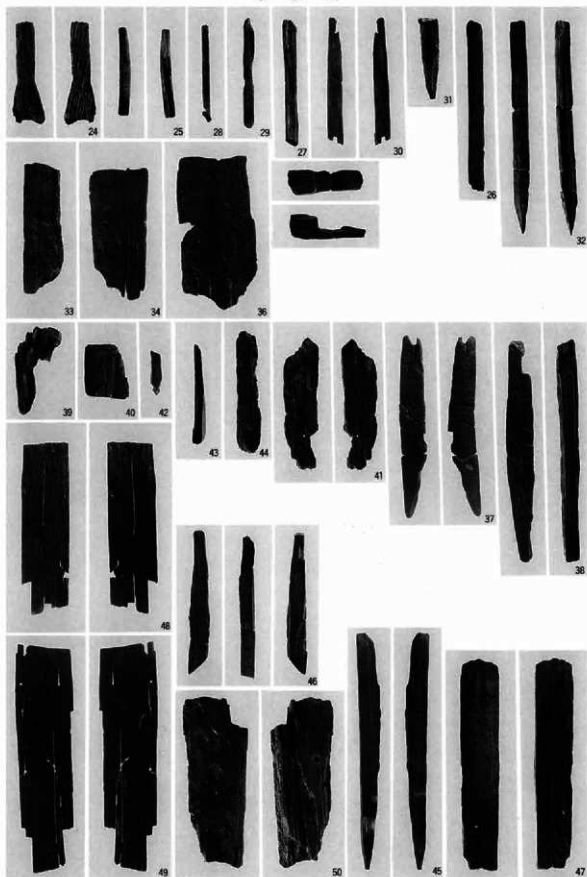
こも編み石類

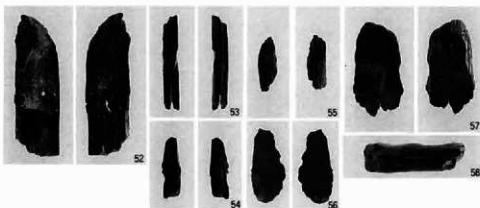
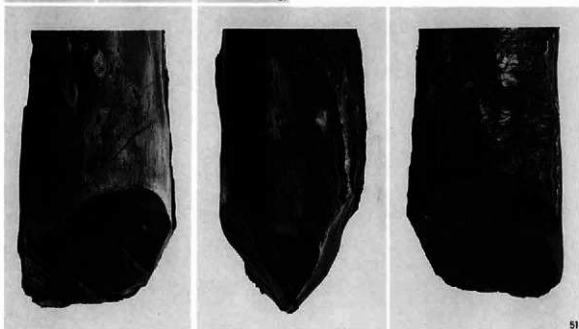
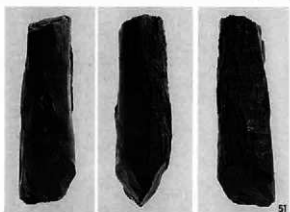


こも編み石類



木製品

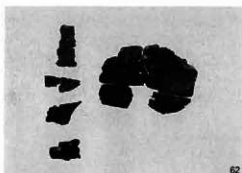




## 木製品



59



62



60



63



64



65



61



66



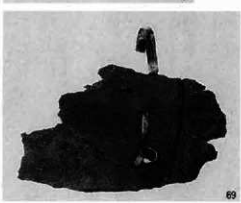
67



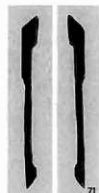
68



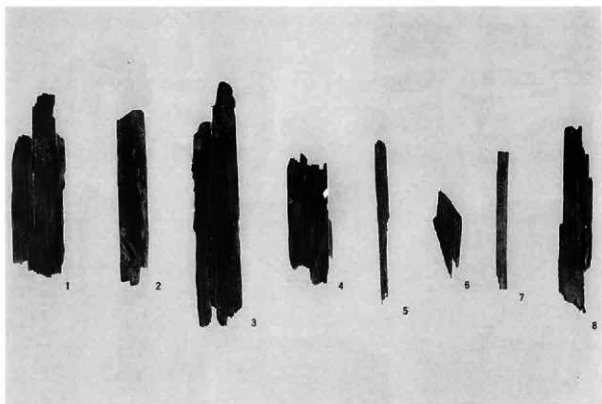
70



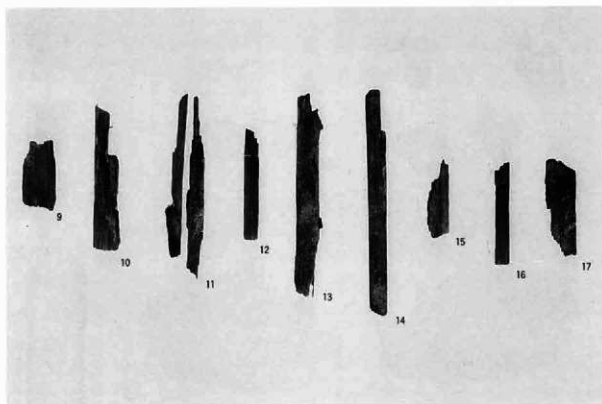
69



71

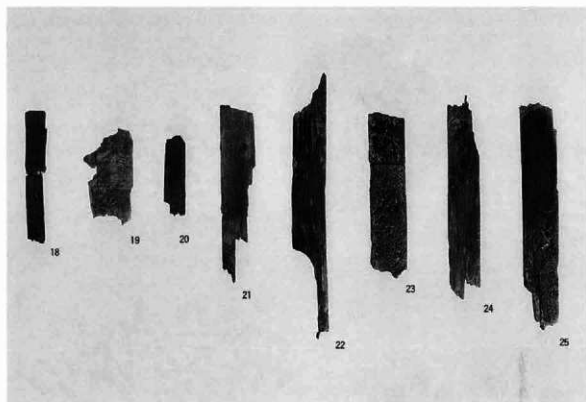


木筒状木製品

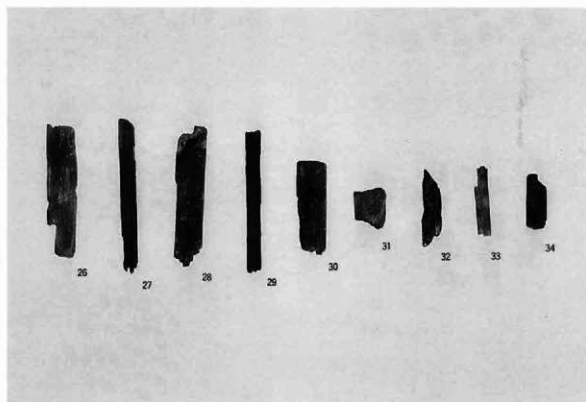


木筒状木製品

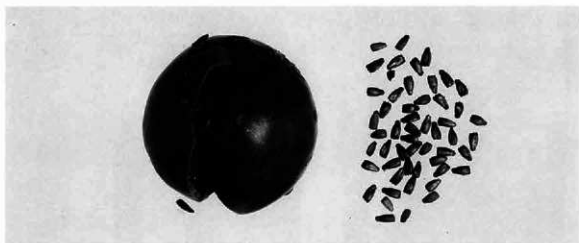




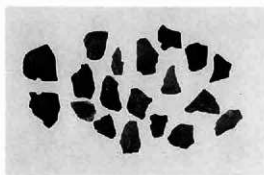
木筒状木製品



木筒状木製品



(果皮) 夕 顔 (種子)



夕 顔 (果皮)



夕 顔 (種子)



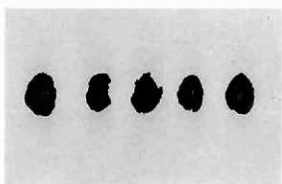
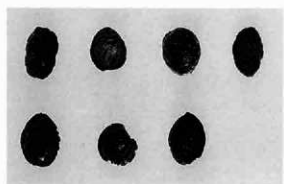
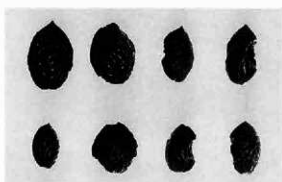
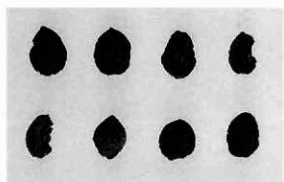
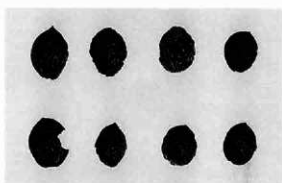
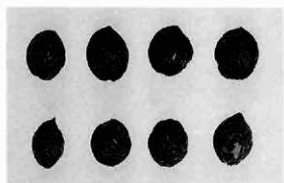
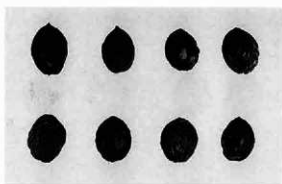
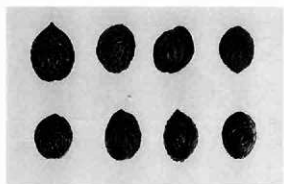
夕 顔 (果皮)



夕 顔 (種子)

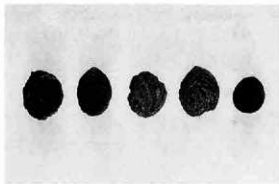


ウリ類 (種子)

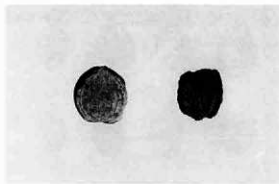


モモの種子

第145図版



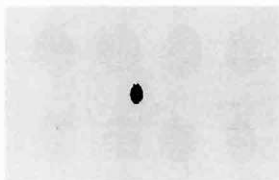
モモの種子



モモの種子



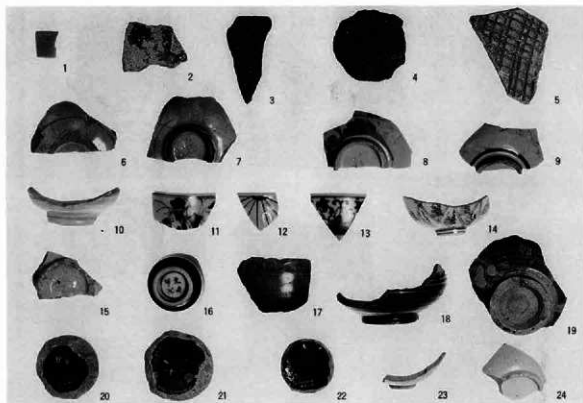
牛の骨



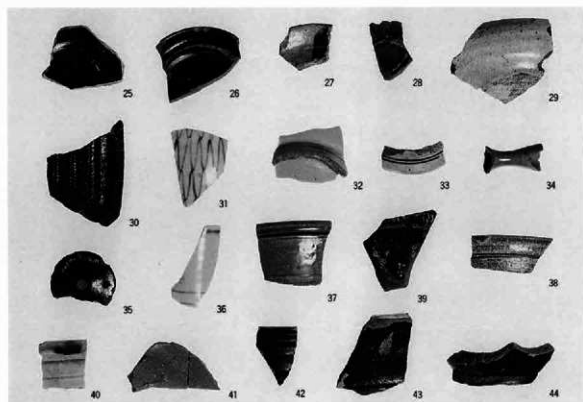
オナモミ



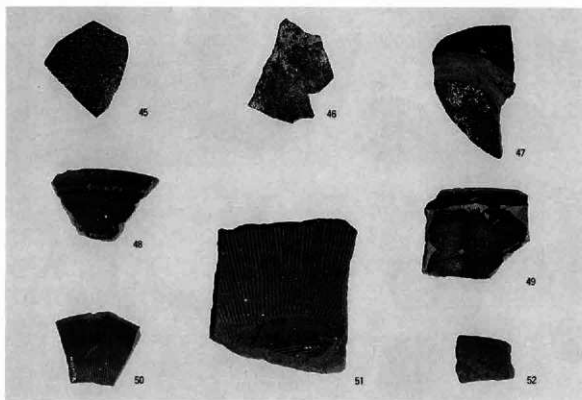
桜



陶 磁 器



陶 磁 器



陶 磁 器

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第104集

## 国分境遺跡

—岡越自動車道(新沼鏡)地埋蔵  
文化財発掘調査報告書第34集—

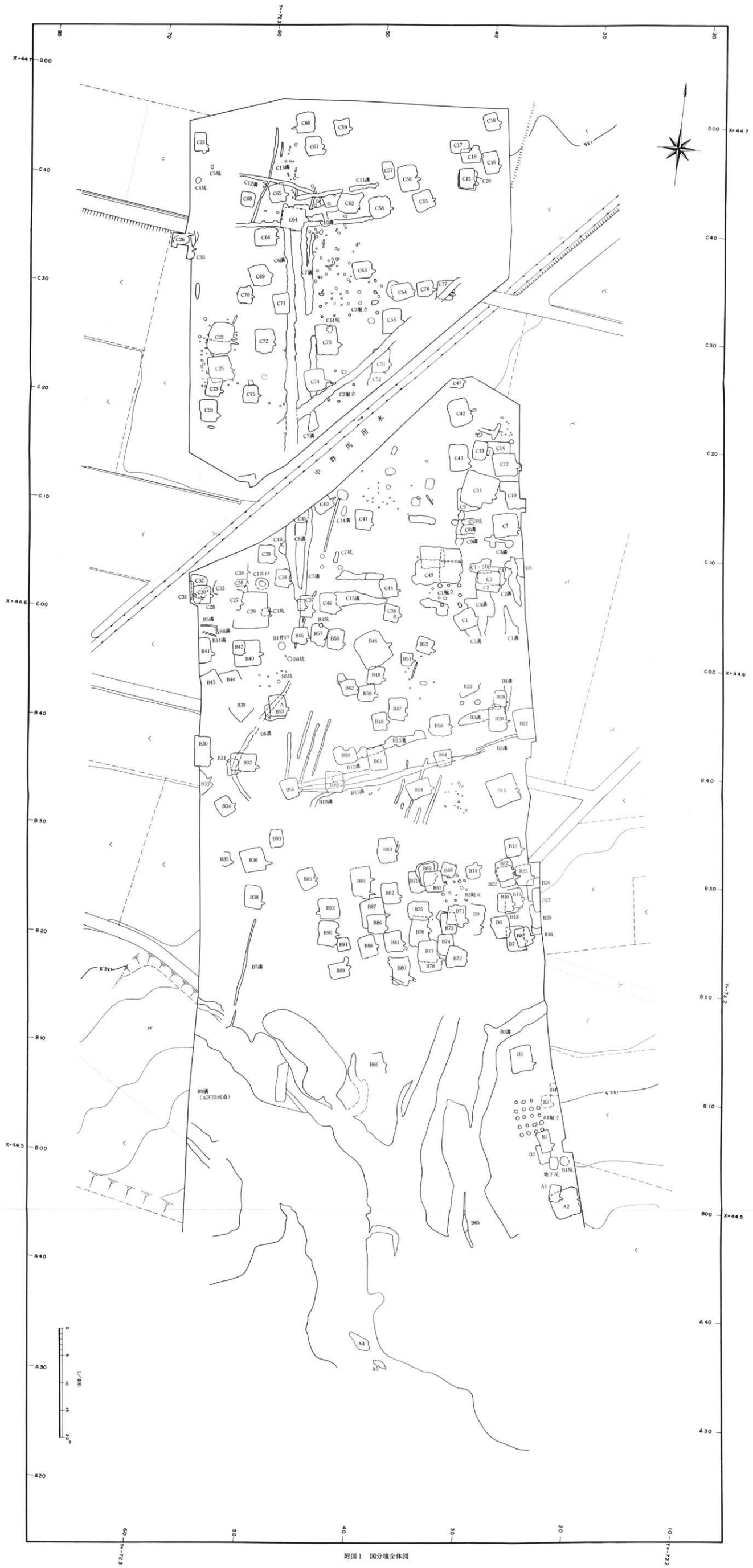
平成2年3月15日 印刷

平成2年3月20日 発行

編集・発行／群馬県教育委員会  
前橋市大手町1丁目1番1号  
電話(0272)23-1111

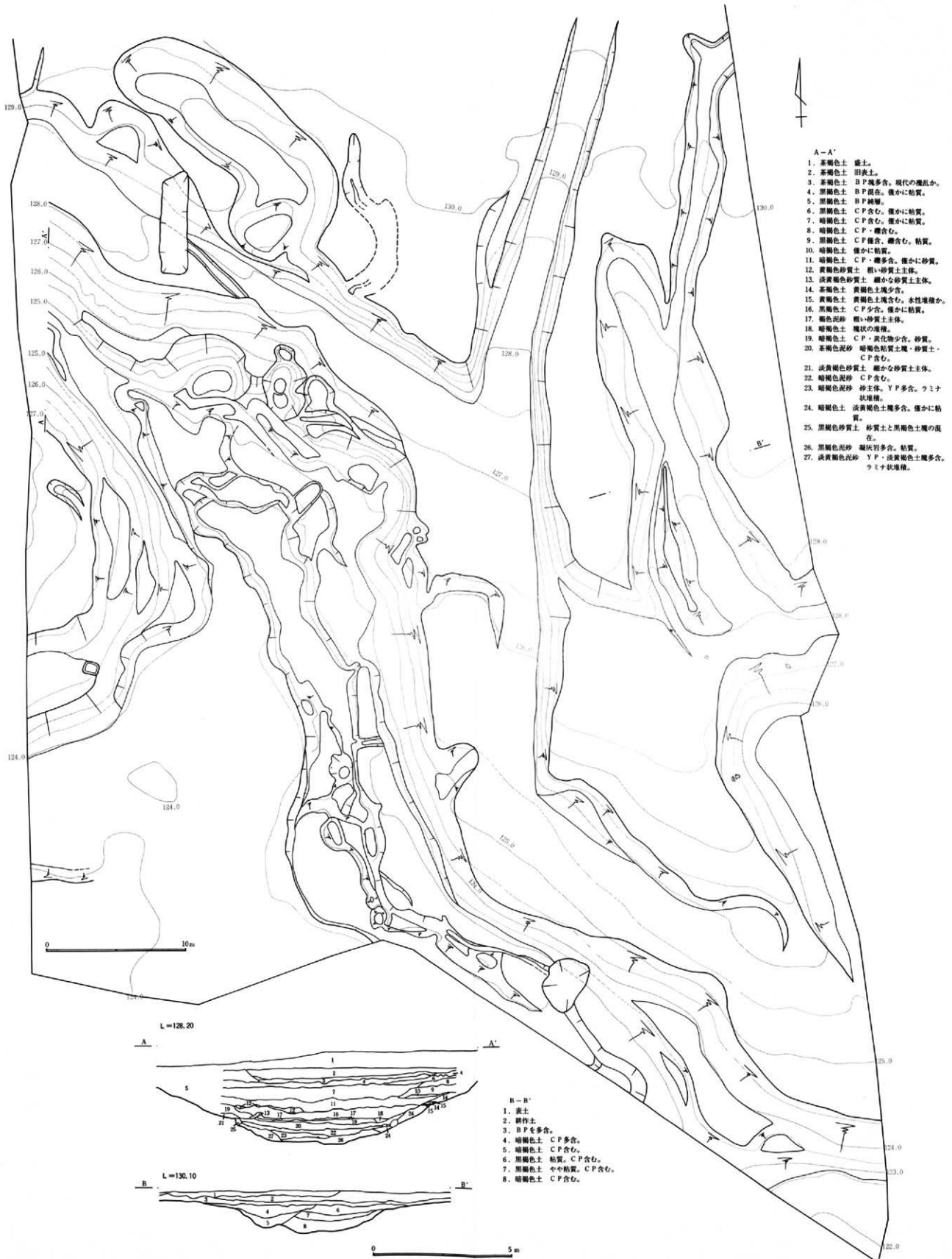
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村下箱田784番地の2  
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／上毛新聞社出版局

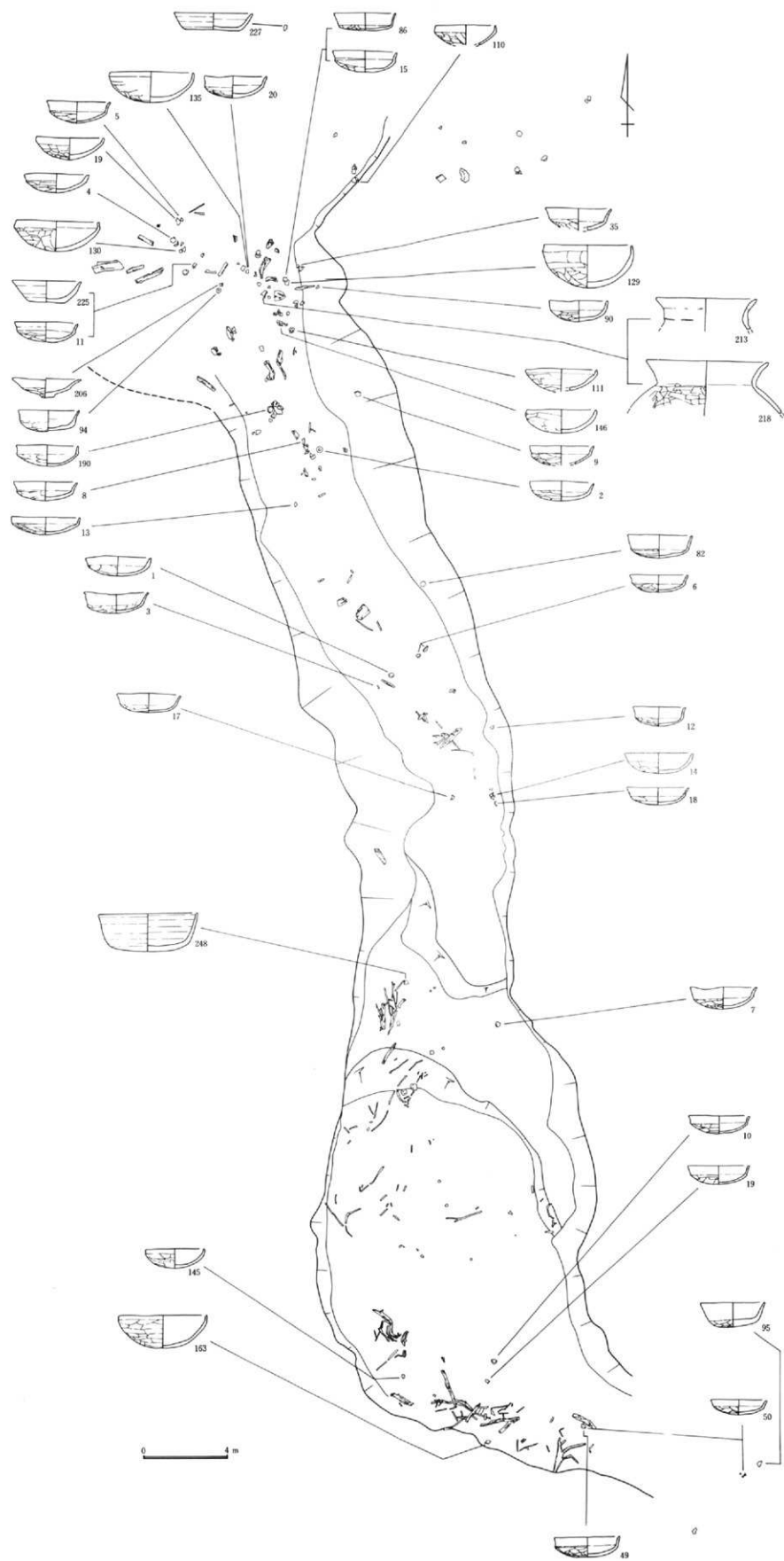


附図1 国分境全体図

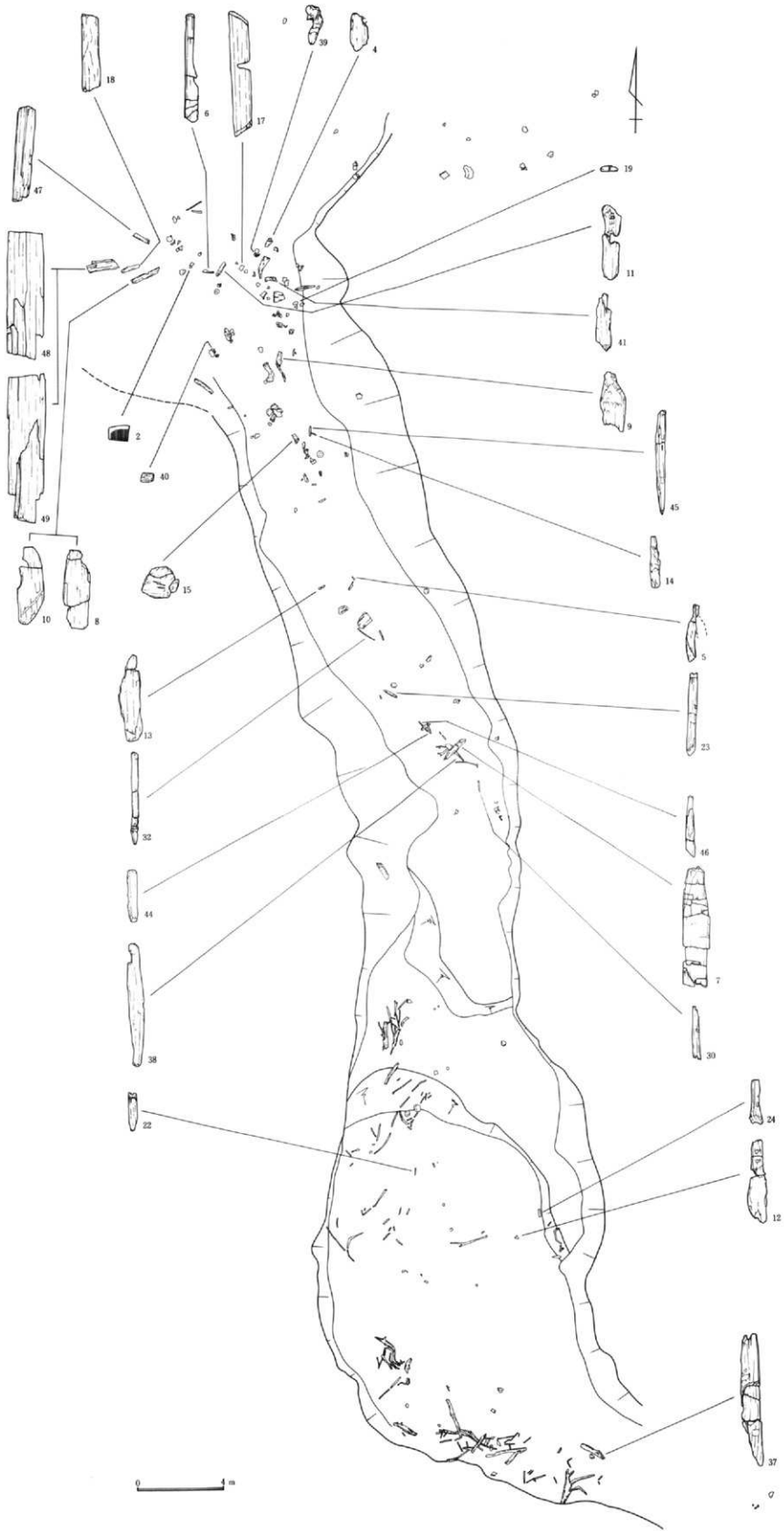




附図2 国分境A区旧河道全体図



附圖 3 閩分境A區旧河道土器出土狀態圖



附图4 图分境A区旧河道木器出土状况图